

Adabas

メッセージおよびコード

バージョン 8.1.3

June 2008

This document applies to Adabas Version 8.1.3 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © Software AG 1971-2008. All rights reserved.

The name Software AG™, webMethods™, Adabas™, Natural™, ApplinX™, EntireX™ and/or all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

目次

1 メッセージおよびコード	1
2 略語のリスト	3
3 ADARUN ステートメント/パラメータメッセージ	5
4 Adabas コンソールメッセージ	11
5 一般的なシステムメッセージ	87
6 ADAD* アベンドコードメッセージ	89
7 ADAE* Adabas SAF Security (ADASAF) メッセージ	91
8 ADAH* ダンプフォーマットステータスメッセージ	95
9 ADAI* - ADAIOR システムメッセージ	97
10 ADAJ* システムメッセージ	111
11 ADAK* システムメッセージ	115
12 ADAL* - コマンドログ (CLOG) システムメッセージ	129
13 ADAM* -- ADAMPM システムメッセージ	133
14 ADAQ* システムメッセージ	153
15 ADAR* システムメッセージ	157
16 ADAS* (Adabas SVC) システムメッセージ	165
17 ADASIP* (Adabas VSE SVC) システムメッセージ	173
18 ADAU* ユーティリティステータスメッセージ	185
19 ADAX* - Adabas クラスタニュークリアスメッセージ	205
20 AITM* - z/VM トランザクションモニタインターフェイスメッセージ	253
21 APSPSX* - ADAECS または ADATCP メッセージ	259
22 CWARN* - Caching Facility エラーメッセージ	261
23 DSF* - Delta Save Facility メッセージ	265
24 DSP* - クラスタデータスペース (ADADSP) メッセージ	297
25 PLI* - ADACOM 初期化メッセージ	303
26 PLX* - ADACLU メッセージ	323
27 PL6* - PRILOG6 出力プログラムメッセージ	337
28 SAGE* - VSE バッチジョブ出口ユーティリティメッセージ	339
29 SAGI* - バッチ初期化メッセージ (VSE のみ)	341
30 SEFM* - ADASAF SAF インターフェイスメッセージ	345
31 SM-PIN* - PIN ルーチンメッセージ	349
32 ニュークリアスエラーメッセージおよびレスポンスコード	351
33 ニュークリアス開始時のエラーメッセージ	353
34 ニュークリアスレスポンスコード	377
35 ユーティリティメッセージおよびコード	441
ユーティリティエラーメッセージ	442
ユーティリティリターンコード	442
36 全ユーティリティに共通するエラー	453
37 ADAACK エラーメッセージ	477
38 ADACDC エラーメッセージおよび警告メッセージ	483
39 ADACMP エラーメッセージ	489
40 ADACNV エラーメッセージ	499
41 ADADBS エラーメッセージ	507

42 ADADCK エラーメッセージ	517
43 ADADEF エラーメッセージ	523
44 ADAFRM エラーメッセージ	529
45 ADAICK エラーメッセージ	531
46 ADAINV エラーメッセージ	543
47 ADALOD エラーメッセージ	547
48 ADAMER エラーメッセージ	563
49 ADAORD エラーメッセージ	565
50 ADAPLP エラーメッセージ	575
51 ADAPRI エラーメッセージ	577
52 ADARAI エラーメッセージ	579
53 ADAREP エラーメッセージ	589
54 ADARES エラーおよび警告メッセージ	593
55 ADASAV エラーメッセージ	609
56 ADASEL エラーメッセージ	625
57 ADAULD エラーメッセージ	641
58 ADAVAL エラーメッセージ	649
59 ADAWRK エラーメッセージ	651
60 ADAZAP エラーメッセージ	663
61 ユーザーアベンドコード	665
目次	675

1 メッセージおよびコード

このドキュメントでは、基本Adabasデータベース管理システムおよび次のオプションまたはアドオン製品に関する、エラーメッセージ、およびレスポンスコードについて説明します。

- Adabas トリガとストアードプロシージャ機能
- Adabas Delta Save Facility
- Adabas Caching Facility
- Adabas Cluster Services
- Adabas Parallel Services
- Adabas External Security Interface (ADAESI) Trace facility
- Adabas Recovery Aid (ADARAI)
- Adabas Transaction Manager
- Adabas VSE Job Exit Utility



Notes:

1. Adabas マニュアルでは、DD で始まるデータセット名は、DD 接頭辞を含まない VSE データセット名と区別できるように、DD と残りのデータセット名の間にはスラッシュを入れて記載されます。スラッシュはデータセット名の一部ではありません。
2. メッセージまたはコードに応答するために頻繁に発行される Adabas オペレータコマンドの詳細は、『Adabas オペレーションマニュアル』を参照してください。

メッセージおよびコード

メッセージおよびコードの説明は、次の部分で構成されています。

● ADARUN ステートメント/パラメータメッセージ	ADARUN ステートメントが原因で発生する可能性のあるエラーメッセージ、およびニュークリアスオペレーティング環境を定義するパラメータ。
● Adabas コンソールメッセージ	Adabas セッション時にオペレータコンソールに表示される可能性のあるメッセージ。
● 一般的なシステムメッセージ	Adabas 機能およびモジュールによって発行されるメッセージ（一部のメッセージはシステムコンソールに表示されることがあります）。
● ニュークリアスエラーメッセージおよびレスポンスコード	ニュークリアスコマンドの起動時または処理時に Adabas ニュークリアスによって発行されるエラーメッセージおよびレスポンスコード。
● ユーティリティメッセージおよびコード	Adabas ユーティリティによって発行されるエラーメッセージおよびゼロ以外のリターンコード。
● ユーザーアベンドコード	ユーザー異常終了（アベンド）コード

 **Note:** Adabas 専有の機能によって、このマニュアルで説明していないレスポンスコードやサブコードが返されることもあります。このような Adabas 機能を使用しているときに、このマニュアルで説明していないメッセージまたはコードが発生した場合、詳細はそれらの機能のドキュメントを参照してください。

2 略語のリスト

省略形	説明
AB	アタッチドバッファ
AC	アドレスコンバータ
ADACB	Adabas コントロールブロック
ASSO	アソシエータ
BP	バッファプール
CID	コマンド ID
CLOG	コマンドログ
CQ	コマンドキュー
CQE	コマンドキューエレメント
DATA	データストレージ
DBID	データベース ID
DIB	データ保全ブロック
DSST	データストレージスペーステーブル
DVT	ディスクリプタバリュートーブル
FB	フォーマットバッファ
FCB	ファイルコントロールブロック
FDT	フィールド定義テーブル
FID	フォーマット ID
FNR	ファイル番号
FST	フリースペーステーブル
GCB	ジェネラルコントロールブロック
GFID	グローバルフォーマット ID
HQ	ホールドキュー
HQE	ホールドキューエレメント

略語のリスト

省略形	説明
IB	ISN バッファ
ISN	内部シーケンス番号
MU	マルチプルバリュースフィールド
NI	ノーマルインデックス
PE	ピリオディックグループ
PLOG	プロテクションログ
PPT	Parallel Participant Table (ニュークリアスクラスタ環境)
RABN	Adabas 相対ブロック番号
RB	レコードバッファ
SB	サーチバッファ
SIBA	シーケンシャルデータプロテクションデータセット
TBI	ISN テーブル
TBQ	
TBS	シーケンシャル ISN テーブル
UI	アッパーインデックス
UQ	ユーザーキュー
UQE	ユーザーキューエレメント
URL	ユニバーサルリソースロケータ
VB	バリュースバッファ
WORK	WORK データセット
WP	ワークプール

3 ADARUN ステートメント／パラメータメッセージ

Adabas ADARUN ステートメントおよびパラメータによって、ニュークリアスオペレーティング環境が定義されます。ここでは、ADARUN ステートメントおよびパラメータが原因となって発生する可能性のあるエラーメッセージについて説明します。メッセージの形式は次のとおりです。

```
ADARUN ERROR nn message-text
```

ここで、*nn* はメッセージ番号を示し、*message-text* はエラー内容を説明します。すべての ADARUN エラーメッセージには、ユーザーアベンド 35（ダンプなしの異常終了）コードが付加されます。

ERROR 1

I/O-error DDCARD

説明：

ジョブコントロール (JCL/JCS) エラーが発生しました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 2

Unknown module

説明：

ADARUN PROG パラメータまたはライブラリ割り当て JCL のどちらかが正しくありません。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 3

Invalid parmcards

説明：

ADARUN パラメータステートメントで、1～6 桁目に文字列 ADARUN が指定されていないか、または 7 桁目が空白 () ではありません。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 5

Invalid parm

説明：

次のいずれかが発生しました。

- キーワードの開始位置に A～Z の範囲外の文字があります。
- 1～72 桁目に、有効なパラメータがありません。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 6

Syntax error

説明：

ADARUN で無効なパラメータ構文が検出されました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 7

Unknown keyword

説明：

ADARUN で無効なキーワードパラメータが検出されました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 8

Error from load

対処：

ADARUN で、オペレーティングシステムのロード機能から 0 以外のリターンコードが検出されました。

対処：

特定のリターンコード値について関連する ADAInn または他のメッセージを参照した後、適切なオペレーティングシステム情報を参照して対処方法を確認してください。

ERROR 9

No user program

説明：

ADARUN がユーザープログラムから呼び出されなかったか、または必須の ADARUN パラメータが指定されていません。

対処：

JCL またはコントロールステートメントを修正し、ジョブを再実行します。

ERROR 10

Module = non-XS

説明：

BS2000 のみ。ADARUN が XS ライブラリからロードされました。ロード処理中に、指定された非 XS モジュールが削除されました。

対処：

XS ライブラリと非 XS ライブラリが混在しないようにしてください。

ERROR 12

Invalid CMDQMODE = operand (above, below)

説明：

BS2000 のみ。CMDQMODE パラメータで誤った構文オプションが指定されました。

対処：

ジョブは終了します。正しいパラメータ値を設定してください。

ERROR 13

Invalid TAPEREL = operand (NO, RELEASE, KEEP, UNLOAD, KEEPUNL)

説明：

BS2000 のみ。TAPEREL パラメータに誤った構文オプションが指定されました。

対処：

ジョブは終了します。正しいパラメータ値を設定してください。

ERROR 20

RMODE error

説明：

AMODE=24 での実行時に、ADARUN で RMODE={ANY | 31} でリンクされた 1 つ以上のロードされたモジュールが検出されました。

対処：

ロードライブラリをチェックし、AMODE=24 でリンクされたモジュールを AMODE={ANY | 31} でリンクし直すか、または RMODE=ANY でリンクされたモジュールを RMODE=24 でリンクし直します。

ERROR 21

CLU parm error

説明：

ADARUN で、次のような矛盾した CLUSTER パラメータが検出されました。

- CLUSTER=SYSPLEX または CLUSTER=LOCAL で NUCID=0 であるか、または
- CLUSTER=NO (デフォルト) で NUCID がゼロ以外。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 22

NXLOG error

説明：

ADARUN で、次のような矛盾した矛盾したパラメータが検出されました。

- NPLOG/NCLOG および DUALPLD/DUALCLD の両方が指定されているか、または
- PPLOGDEV/CLOGDEV および PLOGSIZE/CLOGSIZE は指定されていても、NPLOG/NCLOG が指定されていない、あるいは
- UEX12 の代わりに NPLOG/NCLOG を伴う UEX2 が ADARUN パラメータに存在します。
- CLOGMAX または CLOGBMAX パラメータの設定が 368 バイト未満です。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 98

Adabas v.v cannot run on NXS hardware

説明：

BS2000 のみ。Adabas 6.2 以上では 31 ビットのプロセッサが必要です。

ERROR 99**Adabas v.v cannot run under BS2000 version lower than (<) 10**

説明：

BS2000 のみ。 Adabas 6.2 以上ではバージョン 10 以上の BS2000 が必要です。

ERROR 140**PPT-Area allocation failed**

説明：

PPT エリアを割り当てられませんでした。 32 ASSO ブロックの割り当てを行おうとしました。

対処：

データベースの ASSO サイズを増やしてジョブを再実行します。

WARNING 26**Parameter AMODE out of service**

説明：

BS2000 のみ。 ADARUN ステートメントで AMODE=31 が検出されました。 このパラメータは Adabas から削除されます。 SSF を使用するターゲットは、AMODE 31 で実行する必要があります。

対処：

ジョブは継続します。 ADARUN ステートメントから AMODE= を削除します。

WARNING 27**Parameter IDTMODE out of service**

説明：

BS2000 のみ。 IDTMODE=ABOVE ステートメントが検出されました。 このパラメータは Adabas から削除されます。 SSF で作成された IDT は、16MB 境界より上に割り当てられません。

対処：

ジョブは継続します。 ADARUN ステートメントから IDTMODE= を削除します。

WARNING 28**Parameter NECB out of service**

説明：

BS2000 のみ。 NECB= ステートメントが検出されました。 このパラメータは Adabas から削除されます。 ポストされた ECB キューはオーバーフローできなくなりました。

対処：

ジョブは継続します。 ADARUN ステートメントから NECB= を削除します。

4 Adabas コンソールメッセージ

次のメッセージは、Adabas セッション中にオペレータコンソールに表示される場合があります。各メッセージ番号の直後には、次のいずれかが表示されます。

- Adabas SVC モジュールメッセージの場合は "ADAB"
- メッセージが適用される物理データベースのデータベース ID (DBID)

次に、エラーの日時が表示され、最後にメッセージテキストが表示されます。コンソールメッセージの一般形式は、次のとおりです。

```
ADANnn database ID yyyy-mm-dd hh:mm:ss message text
```

スペースの制限上、ここで説明するメッセージでは、データベース ID およびメッセージの日時を省略しています。

 **Note:** 一部のメッセージ番号は、複数のメッセージテキストに割り当てられています。

ADANnn メッセージ

ADAN01

A D A B A S (v v . r . s) is active

ADAN01

MODE = { single | multi }

ADAN01

Running { with | without } recovery-log

説明：

Adabas ニュークリアスは、リリースレベル v.r.s で正常に開始されました。マルチユーザーモードまたはシングルユーザーモードのどちらであるかが示され、ニュークリアスの実行に Adabas Recovery Aid (ADARAI) ログを使用しているかどうかを示されます。

ADAN02

Nucleus-run { with | without } protection log

説明：

Adabas ニュークリアスセッションが開始されましたが、データベースプロテクションロギングは指定済みまたは未指定です。セッション中に適用された更新に対する ADARES ユーティリティの REGENERATE および BACKOUT 機能は、プロテクションロギングを指定した場合にのみ実行できます。ただし、ET ロジックユーザーのトランザクションリカバリは、PLOG 指定の影響を受けません。これは、ET ロジックユーザーのデータプロテクション情報が、Adabas ワークファイルに保持されるためです。

ADAN03

ADABAS coming up

説明：

Adabas セッションの初期化が進行中です。

ADAN03

Initializing NUCID=nnnnn INTNUCID=xx

説明：

指定の内部ニュークリアス ID (xx) を持つ指定の外部ニュークリアス ID (nnnnn) に対して、初期化が進行中です。このメッセージは、システムで割り当てられた内部ニュークリアス ID を、ユーザーが割り当てた外部 NUCID に関連付けるのに役立ちます。

ADAN04

Abnormal end due to work overflow

説明：

通常の Adabas バックアウト処理では回復できない、WORK データセットのオーバーフロー状態が Adabas ニュークリアスによって検出されました。このため、Adabas セッションは異常終了しました。

対処：

DBA に直ちに連絡してください。

ADAN05

Warning. Now it is too late to copy DDPLOGRn

説明：

Adabas は、DD/PLOGRn によって識別されたデータセットにデータプロテクションログデータを書き始めました。これは、データセットが ADARES ユーティリティの REGENERATE や BACKOUT 機能の入力として後で使用するためにテープにコピーすることができなくなったことを意味します。ユーザー出口 2 (デュアルログ処理) またはユーザー出口 12 (マルチログ処理) が呼び出されなかったか、または ADARES ユーティリティを使用して DD/PLOGRn データセットが正常にコピーされませんでした。

ADAN05**I/O error on PLOGRN**

説明：

デュアルプロテクションログまたはマルチプロテクションログのデータセットで I/O エラーが発生しました。プロテクションログなしで処理が続行します。

ADAN06**Number of HQES = nnn**

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DNH に対して表示されます。Adabas ホールドキューに現在含まれている ISN の数は nnn で表されます。

ADAN06**I/O error on SIBA**

説明：

シーケンシャルプロテクションログ SIBA で I/O エラーが発生しました。PLOGRQ=YES を指定してニュークリアスが行われている場合は、ユーザーアベンド 22 でニュークリアスが終了します。それ以外の場合は、SIBA がダミーにセットされ、プロテクションログなしで処理が続行します。

ADAN07**Current HQ is empty**

説明：

このメッセージは、ホールドキューが空の場合に、オペレータコマンド DHQ または DHQA に対して表示されます。

ADAN07**SIBA is set to DUMMY**

説明：

このメッセージは ADAN06 メッセージに続けて表示される場合があります。

ADAN08**FILE=file-number, ISN=isn, USER=user-id**

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DHQ または DHQA に対して表示されます。ホールドキューの ISN ごとに、ファイル番号、ISN、Adabas で割り当てられたユーザー ID（そのユーザーの ISN が保持されている）が表示されます。

ADAN08

Rerun ADARES with larger LP-SIZE

説明：

LP パラメータは、データプロテクションエリア（WORK データセットのパート 1）に割り当てるブロック数を指定します。このエリアには、すべての ET ロジックユーザーの現在のトランザクションに関するデータプロテクション情報を格納するのに十分な大きさが必要です。

ADAN09

Number of UQES = nnn

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DNU に対して表示されます。nnn は、現在アクティブになっているユーザーキューエレメントの数を示します。

ADAN10

Current UQ is empty

説明：

このメッセージは、アクティブなユーザーが現時点で存在しない場合や、現在の UQ にユーティリティの UQE（DUUQE に対する応答）が含まれていない場合に、オペレータコマンド DUQ に対して表示されます。

ADAN11

USER=user-id, JN=job-name, TY=t, LA=ns, TID=aaaaaaaa (xxxxxxx)

説明：

このメッセージはオペレータコマンド DUQ、DUQA、または DUUQE に対して表示され、ユーザーごとに次の情報を示します。

user-id	Adabas で割り当てられたユーザー ID	
job-name	関連するジョブ名	
t	ユーザータイプ	
	A :	アクセスオンリーユーザー
	E :	ET ロジックユーザー
	U :	ユーティリティまたは Adabas Online System ユーザー
	X :	排他的な更新ユーザー
n	最後のアクティビティからの時間（秒）	
aaaaaaaa	端末 ID（英数値）	
xxxxxxx	端末 ID（16 進数）	

端末 ID は UQE の内容です。

ADAN12

USER=user-id, JN=job-name

ADAN12

TY=t, LA=ns

ADAN12

USERID=opuser-id, ST=status, TRST=m, NF=count

ADAN12

FILE=n(s),...n(s)

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DUQE に対して表示されます。ユーザーキューエレメントごとに、次の情報を示します。

user-id	Adabas で割り当てられたユーザー ID、または WITHOUT USER-ID	
job-name	関連するジョブ名	
t	ユーザータイプ	
	A :	アクセスオンリーユーザー
	E :	ET ロジックユーザー
	U :	ユーティリティまたは Adabas Online System ユーザー
	X :	排他的な更新ユーザー
n	最後のアクティビティからの時間 (秒)	
opusr-id	OP コマンドを使用してユーザーが割り当てたユーザー ID	
status	ユーザーステータス	
	E :	ET 状態にある ET ユーザー
	-. :	ET 状態にない ET ユーザー
	T :	タイムアウトしたユーザー
m	トランザクション開始からの経過時間 (秒)	
count	ファイルリスト内のファイル数	
n(s)...	n はファイル番号、s はファイルステータス	
	A :	ユーザーがアクセスしています
	F :	EXF ユーザー用にオープンされています
	P :	Adabas ユーティリティ用にオープンされています
	U :	ユーザーが更新中です
	X :	排他的更新用にオープンされています

ADAN13

Number of posted CQES = nnn

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DNC に対して表示されます。nnn はポストされたコマンドキューエレメントの数を示します。

ADAN14

Current CQ is empty

ADAN14

USER=user-id, JOBNAME=job-name

ADAN14

CMD=cmd-code, FILE=fnr, STCK=timestamp, IUBL=buf-length

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DCQ に対して表示されます。コマンドキュー (CQ) が空でなければ、コマンドキューエレメント (CQE) ごとに次の情報を示します。

user-id	ユーザーの 28 バイトのコミュニケーション ID の最後の 8 バイト (読み込み可能な場合は文字で表示され、文字以外のデータが含まれている場合は 16 進で表示される)
job-name	ユーザーのジョブ名
cmd-code	2 文字の Adabas コマンドコード
fnr	コマンドで指定された Adabas ファイル番号
timestamp	コマンドがコマンドキューに入った時点のマシントimestamp (STCK フォーマット)
buf-length	コマンドに属するバッファの合計長

ADAN15

LBP-size too small for the number of threads

説明：

指定されたバッファプールスペースまたは使用可能なバッファプールスペースが、ADARUN NT パラメータで指定されたスレッド数に対して十分ではありません。このメッセージは警告です。Adabas によってスレッドごとに 50KB が割り当てられ、処理が続行します。

対処：

(ADARUN LBP パラメータを指定して) バッファプールサイズを増やすか、または (ADARUN NT パラメータを使用して) スレッド数を減らします。Adabas を再スタートします。エラーが再発する場合は、Adabas ニュークリアスに割り当ててるアドレススペースを増やし、セッション I/O 統計からバッファ効率を調べてください。

ADAN16**{ADARUN-parameter-settings}**

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DPARM に対してコンソールに表示されます。
Adabas ニュークリアスに指定された各 ADARUN パラメータの現在の設定が、このメッセージ番号を使用して表示されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAN17**[special nucleus status indicators, if applicable]****ADAN17****READ I/Os A=nnn, D=nnn, W=nnn****ADAN17****WRITE I/O A=nnn, D=nnn, W=nnn****ADAN17****Nr. of commands=nnn , buffer efficiency=nn.n****ADAN17****Nr. of fmt-tran.=nnn , nr. of fmt-ovwr.=nnn****ADAN17****THREADnnn = nnn commands**

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DSTAT に対して表示されます。

最初のオプションメッセージ行を除き、次の情報が表示されます。

READ I/Os A=nnn	アソシエータへの物理読み込み I/O
READ I/Os D=nnn	データストレージへの物理読み込み I/O
READ I/Os W=nnn	WORK への物理読み込み I/O
WRITE I/Os A=nnn	アソシエータへの物理書き込み I/O
WRITE I/Os D=nnn	データストレージへの物理書き込み I/O
WRITE I/Os W=nnn	WORK への物理書き込み I/O
NUMBER OF COMMANDS=nnn	処理済みのコマンド数
BUFFER EFFICIENCY=nn.n	論理 I/O 数を物理 I/O 数で除算した値
FORMAT TRANSLATIONS=nnn	内部フォーマットバッファへの変換数
FORMAT OVERWRITES=nnn	既存の内部フォーマットのエン트리フォーマットが上書きされた回数
THREADnnn=nnn COMMANDS	指定スレッドで処理されたコマンド数。コマンドが実行されないスレッドはニュークリアスによって省略されます。

最初のメッセージで発生する可能性のある特殊なニュークリアスステータスインジケータを以下に示します。

メッセージテキスト	説明
ADAEND IN PROGRESS	Adabas ニュークリアスがシャットダウン中です。
ET-SYNCHRONIZATION IN PROGRESS	オープンされているトランザクションがすべて終了するまで、新しいトランザクションは遅延します。
ONLINE DATABASE SAVE RUNNING	更新ユーティリティ機能は拒否されます。
ONLINE FILE SAVE RUNNING	保存中のファイルでの更新ユーティリティは拒否されます。
EXCLUSIVE-DB-CONTROL UTILITY RUNNING	他のユーザーはログオンできません。
{ READ UTI }-ONLY TRANSITION	読み取り専用またはユーティリティ専用ステータスへの移行。
READ-ONLY STATUS	更新コマンドは拒否されます。
UTI-ONLY STATUS	Adabas ユーティリティおよび AOS などの特権ユーザーのみがログオンできます。
UPDATE PROCESSING SUSPENDED	通常の処理が再開するまで、更新コマンドは遅延します。

ADAN18

THN=nnn, ST=status, USE=ccc

説明：

オペレータコマンド DTH に対して、スレッドごとに次の情報が表示されます。

nnn	スレッド番号	
status	スレッドステータス	
	AA	アクティブ
	RR	実行準備完了
	UU	未使用
	WAP	非同期ポスト待ち
	WE	イベント待ち
	WHQ	ホールドキュースペース待ち
	WI	I/O 待ち
	WSP	ワークプールスペース待ち
	WLF	論理バッファフラッシュ待ち

	WPF	物理バッファフラッシュ待ち
	WP2	PLOG の書き込み I/O 待ち
	WQE	キューイベント待ち
	WRB	RABN 待ち
	WSE	シンプルイベント待ち
	WTI	時間経過待ち
	WW2	WORK の書き込み I/O 待ち
	W*	他のイベント待ち
ccc	スレッドで処理されたコマンド数	

ADAN19**Buffer flush is asynchronous**

説明：

このメッセージおよび非同期バッファフラッシュは、ADARUN LFIOP パラメータでゼロ以外の値が指定された場合に発生します。

ADAN20**ONLINE-DB-SAVE started****ADAN20****PLOG-NR=session-number, BLK-NR=block-number****ADAN20****VOLSER-NR=volume**

説明：

ADASAV ユーティリティの SAVE データベース機能のオンライン実行が開始しました。上記のメッセージは、データベースおよびファイルに対して SAVE を行った場合に表示され、次の情報を示します。

session-number	SAVE が開始されたセッション番号
block-number	SAVE の SYN1 開始点を指定する RABN ブロック
volume	現在の SIBA のボリューム／シリアル番号

対処：

ADASAV RESTORE 機能を後で実行できるようにするため、このセッションおよび RABN の情報、関連する PLOG、および他の SAVE 出力を保存しておきます。

ADAN21

Protection log DD/PLOGRN started

説明：

Adabas はデータプロテクション情報を DD/PLOGRN によって識別されるデュアルまたはマルチデータプロテクションログに書き始める準備をしています。

対処：

この時点で、ADARES ユーティリティの PLCOPY 機能を実行してください。

ADAN22

File dump online started

ADAN22

DATASET-NR=session-number, BLK-NR=block-number

ADAN22

VOLSER_NR=volser

説明：

ADASAV SAVE FILE のオンライン実行が開始しました。SAVE 操作は、RABN の block-number で示される SYN4 開始点を使用して、session-number のセッションで開始します。

対処：

ADASAV RESTORE 機能を後で実行できるようにするため、このセッションおよび RABN の情報、関連する PLOG、および他の SAVE 出力を保存しておきます。

ADAN23

date time online process { started | partially done | done | stopped | terminated with error }

ADAN23

process-type, FNR=fnr, DE=aa

説明：

オンライン処理が、開始しました／実行中または完了しました／エラーにより終了しました／または停止しました。処理タイプ、ファイル番号、処理詳細が適宜表示されます。

ADAN24

date time DISPLAY PPT RABNs nnnn TO mmmm

説明：

オペレータコマンド DPPT (Display PPT) に対して、Participating Plex-ID Table (PPT) の内容がこのメッセージおよび後続のメッセージに表示されます。

ADAN25**DIB block is currently empty****ADAN25****JOBNAME=job-name, STARTTIME=hh:mm:ss , LID=user-id**

説明：

このメッセージはオペレータコマンド DDIB (DIB ブロックの表示) に対して表示され、空の DIB ブロックまたは次の DIB 情報を示します。

job-name	ジョブ名
hh:mm:ss	ジョブ開始時間
user-id	OP コマンドで割り当てられたユーザー ID

ADAN26**Files locked=file-number, ...**

説明：

このメッセージは DDIB オペレータコマンドに対して表示され、Adabas ユーティリティで使用中のためロックされているファイルの file-number を示します。

ADAN27**date time RELEASE DE****ADAN27****RELEASE DONE, FNR=fnr DE=de**

説明：

中止されたオンラインインバート処理の終わりに、表示されたファイルに示されるディスクリプタが、ディスクリプタ解除機能によって解除されました。

ADAN27**date time RELEASE DE****ADAN27****RELEASE DE TERMINATED DUE TO ERROR****ADAN27****FILE WILL BE LOCKED COMPLETELY****ADAN27****FNR=fnr DE=de RESPONSE=rsp**

説明：

中止されたオンラインインバート処理の終わりに、表示されたレスポンスコードでディスクリプタ解除機能が失敗しました。ファイルはロックされています。

ADAN27

date time RELEASE DE

ADAN27

FUNCTION TERMINATED

説明：

中止されたオンラインインバート処理の終わりに、ディスクリプタ解除機能が終了しました。オンラインインバートで拡張ファイル処理していた場合は、ディスクリプタ解除機能が拡張ファイルのすべてのコンポーネントファイルで実行されました。

ADAN28

High water marks

ADAN28

name-pool value cur-value hw-value

説明：

このメッセージは DRES オペレータコマンドに対して表示され、現在のセッションのプール／キューに割り当てられたレコード件数、現在の値、および到達した最高値（ハイウォーターマーク）を示します。メッセージの2行目は、次のプールまたはキュー項目ごとに1回だけ表示されます。

name	プールまたはキュー項目	
	AB:	アタッチドバッファテーブル（現在の割り当てはサポートされていません）
	CQ:	コマンドキュー
	FI:	内部フォーマットバッファプール
	HQ:	ホールドキュー
	TBI:	ISN テーブル
	TBS:	シーケンシャル ISN リスト
	UQ:	ユーザーキュー
	WORK	ワークプール
value	関連する name の最大プール値	
cur-value	プール／キュー内の現在のレコード件数	
hw-value	現在のセッションで現時点までに使用された最大プール値の最高件数	

ADAN29**(No) users stopped**

説明：

このメッセージはオペレータコマンド STOPI に対して表示され、STOPI コマンドの実行結果によって、users stopped または no users stopped のいずれかが示されます。

ADAN2A**Overwriting PPT entry for NUCID=nnnnn**

説明：

Parallel Participant Table にエントリがすでに 32 個存在します。指定されたニュークリアス ID エントリは非アクティブになり、上書きされています。

ADAN2B**Different work dataset was detected**

説明：

指定された WORK データセットは前のセッションで使用されたものと異なります。このメッセージは、前に使用された WORK データセットに、保留中の自動再スタートが含まれている場合にのみ表示されます。

ADAN2C**Unable to open or read previous work dataset**

説明：

指定された WORK データセットは前のセッションで使用されたものと異なります。保留中の自動再スタートを検索するため、前のセッションで使用された WORK データセットを読み込もうとしましたが、失敗しました。

ADAN2D**Caution - pending autorestart detected**

説明：

指定された WORK データセットは前のセッションで使用されたものと異なります。前に使用された WORK データセットが読み込まれました。このデータセットには保留中の自動再スタートが含まれています。前の WORK データセットは、ADAI63 メッセージで識別されます。

ADAN2E

Warning - PLOG datasets have changed. PPT overwritten.

ADAN2E

Use ADARES PLCOPY NOPPT to copy previous PLOG datasets.

説明：

プロテクションログ (PLOG) データセットが前のセッションで変更されましたが、前の PLOG データセットがコピーされていません。FORCE=YES が指定されていなかったため、これらのデータセットの Parallel Participant Table (PPT) エントリは上書きされました。

対処：

ADARES PLCOPY NOPPT 機能を使用して、前のセッションの PLOG をコピーしてください。

ADAN30

FILES=n,n, ...

ADAN30

No files locked

説明：

このメッセージはオペレータコマンド DLOCKF に対して表示され、LOCKF または LOCKU によってロックされているファイルを示します。

ADAN31

FILE=n, ACC=n, UPD=n, EXU=n, UTI=n

説明：

このメッセージはオペレータコマンド DFILES に対して表示され、指定されたファイルで現在アクティブになっているユーザー数を示します。

ADAN33

FILE=n, USAGE=n

ADAN33

FILE=n is not used

説明：

このメッセージはオペレータコマンド DFILUSE に対して表示され、指定されたファイル (FILE=n) で現在アクティブになっているコマンド数 (USAGE=n) を示すか、または指定されたファイルがデータベースに存在しないことを示します。

ADAN34**No users stopped**

説明：

このメッセージはオペレータコマンド STOPF に対して表示され、コマンドの発行時にアクティブなユーザーが存在しないことを示します。

ADAN35**date time online processes:**

process-type SORTSEQ=file=fnr, CUR-RABN=rabn-nr, CUR-ISN=isn

ID=x'nnnnnnnn', { active | suspended }

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド DONLSTAT に対して表示されます。ニュークリアスセッションに存在するすべてのオンライン処理、プロセスの種類、ファイル番号、現在の RABN または ISN（機能に応じて）、処理 ID、および処理ステータス（アクティブまたは中断）が列挙されます。

ADAN41**Function completed**

説明：

発行されたコマンドまたは機能は正常に終了しました。

ADAN42**date time function accepted**

説明：

発行されたコマンドは Adabas によって受け付けられました。

ADAN43**Invalid type-in: request**

説明：

要求 request が無効であるか、または正しく入力されませんでした。

対処：

要求／コマンド構文および妥当性をチェックし、要求を再試行してください。

- DUMP を使用するニュークリアスセッションの終了要求は無効であるため、再試行はできません。
- 既存のキャッシュスペースを持つファイル（CFILE）に対して、キャッシュスペースパラメータを変更するオペレータコマンドが無効です。既存のキャッシュスペースを削除してから、異なるパラメータで新しいキャッシュスペースを追加する必要があります。

ADAN44

Function not executed

説明：

次の理由により、Adabas で機能を実行できませんでした。

- スペースの制約
- 要求されたコマンド／機能とシステムステータス間の矛盾

対処：

関連する他のメッセージをチェックし、前に表示されたエラーを修正してから、操作を再試行します。このことができない場合は、DBA、システムサポート担当者、または Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN45

User does not exist

説明：

要求／コマンドで指定されたユーザーがアクティブでないか、またはシステムによって認識されません。

対処：

ユーザー ID の妥当性をチェックするか、または指定されたユーザー ID を入力したときにエラーがなかったかどうか調査します。

ADAN46

Function not executable

説明：

要求された機能／コマンドは有効ですが、実行できませんでした。このメッセージは、単独で表示される場合もありますが、要求された機能を現在のニュークリアスステータスで実行できない理由を示す、次のいずれかの ADAN46 メッセージの後に表示される場合もあります。

ADAN46 メッセージ テキスト	説明	対処
Online process running	オンラインリオーダーまたはオンラインインポート処理が実行中のため、ADAEND 要求は拒否されました。	オンライン処理の終了後に ADAEND を再度要求します。HALT を使用してオンライン処理を停止し、ニュークリアスをシャットダウンすることを考慮してください。
Not yet supported by Cluster Services	稼働中の Adabas Cluster Services のバージョンでは、要求された機能をサポートしていません。非クラスタモードで稼働しているニュークリアスによってのみ、機能がサポートされます。	

ADAN46 メッセージ テキスト	説明	対処
Failed to acquire global parameter lock	グローバル Adabas パラメータを変更するため、Adabas クラスタモードで稼動しているニュークリアスでグローバルパラメータのロックを取得しようとしたが、エラーが発生しました。パラメータは変更されませんでした。	Software AG 技術サポートに連絡してください。

また、ユーザー出口 2 で 1 つのデュアルログから別のデュアルログに切り替えようとした場合、および上書きするデータセットがいっぱいの場合にも、このエラーが発生します。

対処：

1～2 分待ってから、コマンドを再実行します。メッセージが再度表示された場合は、システムサポート担当者に連絡してください。前のエラーに対してコマンドを発行しようとしたときに、メッセージが再度表示された場合は、後で参照できるように、エラーおよび関連情報をメモしておきます。

ADAN47

Online DUMP-DB is running, function not executed

説明：

SYNCC、ADAEND、HALT、または CANCEL オペレータコマンドが発行されましたが、現在のオンラインセーブ処理中には実行できません。

対処：

オンラインセーブが終了するまで待ち、コマンドを再実行します。

ADAN47

Net-work termination target-node due to conflict

説明：

Entire Net-Work では、接続されたすべてのシステムでターゲットノード ID がユニークである必要があります。ユニークでないターゲットノード ID に接続しようとする、システムが異常終了します (ADAEND)。

対処：

矛盾するノード ID を識別し、指定された ID 番号下のどのノード ID をアクティブにするかを決定します。

ADAN48

File currently in use - function not executed

説明：

LOCKF、LOCKU、または LOCKX オペレータコマンドが発行されましたが、指定されたファイルは現在使用中です。

対処：

ファイルの使用が終了するまで待ち、コマンドを再実行します。

ADAN48

File not loaded

説明：

ALOCKF 機能で指定されたファイルがロードされていません。

ADAN49

{ user-id | job-name } backed out { during system OPEN | by ADARES } UID=communication-id

説明：

指定されたユーザー（ユーザーが表示不可の場合はジョブ）の最後の不完全なトランザクションが、Adabasセッションの自動再スタート時またはREGENERATE処理の終わりにバックアウトされました。ユーザーID（またはジョブ名）およびコミュニケーションIDが表示されます。

ユーザーIDはユーザーのET-IDです。ET-IDのないユーザーには、ユーザーIDとしてADAENDと表示されます。

UID=に続くフィールドには、ユーザーの28バイトのコミュニケーションIDの最後の8バイトが16進数形式で表示されます。これは、オンラインユーザーの端末ID、あるいはバッチユーザーまたはTSOユーザーのSTCKタイムスタンプです。

対処：

対処は必要ありません。これは情報メッセージです。指定されたユーザーのトランザクションステータスをチェックしなければならない場合があります。

ADAN4A

TRANS ET-SYNC point

説明：

TRANSACTIONS SUSPEND 処理で ET-SYNC が発生しました。このメッセージの後に ADAN4E メッセージが表示されます。

ADAN4B

TRANS SUSPEND started TT=time-limit

説明：

ニュークリアスのすべての検証が完了し、SUSPEND 処理が開始しました。TT は、トランザクションがタイムアウトされる時期を示します。TT 値は、ADADBS TRANSACTIONS SUSPEND TT SYN=nn ジョブの TT SYN パラメータまたはニュークリアスのデフォルトの ADARUN TT 設定から派生します。

ADAN4C**Transactions TT rejected**

説明：

TPC は有効であり、PET ステータスのトランザクションが存在します。この後に、元の TT 値を示す ADAN4B メッセージが表示されます。

ADAN4D**TRANS TIMER elapsed**

説明：

ADADBS TRANSACTIONS SUSPEND 処理の TRESUME で指定されたタイマを超過しました。データベースは通常の処理に戻ります。このメッセージの後に ADAN4F メッセージが表示されます。

ADAN4E**Updates stopped. TRESUME=time-limit**

説明：

SUSPEND 機能で ET-SYNC が発生したため、RESUME 機能が発行されるか TRESUME で指定されたタイマが期限切れになるまで更新は中断します。

ADAN4F**Normal processing resumes**

説明：

RESUME 機能またはタイムアウトの結果、データベースで更新コマンドが再び受け付けられ、処理されます。

ADAN50**Excluded files: file1 ...**

説明：

このメッセージは、ADARUN AREXCLUDE パラメータによって自動再スタートから除外されたファイルを示します。通常のユーザーはこれらのファイルを使用できず、回復する必要があります（復元および再生成）。

ADAN51**{ oper. | aos-user- } typein: command**

説明：

Adabas では、処理を続行する前にオペレータコマンド `command` が繰り返されます。2 番目のメッセージは、Adabas Online System ユーザーが発行したオペレータコマンドに対して表示されます。

ADAN52

Partially inverted descriptor { present | released } DESCRIPTOR=descriptor, FILE=fnr

説明：

セッションの開始中に、ファイル `fnr` で指定されたディスクリプタが不完全なオンラインインバート操作から残されていることがニュークリアスによって検出されました。前のセッションが異常終了した場合、不完全なディスクリプタはニュークリアスによって自動的に解放されます。

対処：

ニュークリアスによってディスクリプタが解放されず、その後に問題のファイルで再生成が行われない場合は、AOS または ADADBS RELEASE 機能を使用して不完全なディスクリプタを解放します。

ADAN53

DBID waiting to serialize (rrrddddd)

説明：

一度に1つのニュークリアスまたはユーティリティのみが実行できる処理を、このニュークリアスで実行しようとしています。現在、別のニュークリアスまたはユーティリティで同様の処理が実行中のため、このニュークリアスは待機する必要があります。rrrddddd は、シリアライゼーションに使用する論理的なリソースを示します。リソース名は、3文字の後にデータベースIDを表す5桁の数値で構成されます。有効なリソース名は、次のとおりです。

- ニュークリアスセッションの開始および終了をシリアライズする場合は SSEddddd
- DIB 更新をシリアライズする場合は DIBddddd
- FST 更新をシリアライズする場合は FSTddddd

対処：

対処は必要ありません。これは情報メッセージです。

このメッセージが表示された後にニュークリアスがハングする場合、メッセージに示される論理的なリソースは別のニュークリアスまたはユーティリティによってブロックされています。他のジョブを識別して、その処理を続行するか、または終了してください。

ADAN54

DBID global serialization error (rrrrrrrr)

ADAN54

DBID IOR FUNCTION = x'ff', RESPONSE = x'cc'

説明：

論理的なリソースのロックまたはロック解除に失敗しました。ADAIOR 機能番号は ff (16進数)、レスポンスコードは cc (16進数) です。状況に応じて、ニュークリアスが異常終了するか、またはエラーが無視されます。

対処：

これは予期しないエラーです。Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN55**Recovery data found on work dataset(s)**

説明：

セッションの開始時（Adabasニュークリアスクラスタの場合はオンラインリカバリ時）に、Adabas ニュークリアスによって、前のエラーからデータベースを回復するために必要な1つのWORKデータセット（ニュークリアスクラスタの場合は複数のWORKデータセット）でリカバリデータが検出されました。セッションの自動再スタートロジックが、ニュークリアスで実行されます。

ADAN56**Backward repair done****ADAN56****Forward repair done****ADAN56****Autobackout done**

説明：

セッションの自動再スタートが正常に終了すると、これらのメッセージが連続して出力されます。セッションの自動再スタートでは、完了したトランザクションに属する更新をやり直し、不完全なトランザクションに属する更新をバックアウトすることによって、データベースの物理的な不整合を修復します。

ADAN57

{dbid}{ date} {time} WK4 (DTP) GETMAIN FAILED

ADAN57

{dbid}{ date} {time} WK4-AREA (DTP) TOO SMALL

ADAN57

{dbid}{ date} {time}

WORK4-INDEX TOO SMALL

INCREASE THE LDTP-PARM AND RERUN

DTP=RM NUCLEUS: GETMAIN FAILED

INCREASE THE REGION SIZE AND RERUN

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明	対処
<i>dbid date time</i> WK4 (DTP) GETMAIN FAILED	分散トランザクション処理 (DTP=RM) をサポートするニュークリアスが異常終了後のセッション自動再起動を実行していました。予備的な ET (PET) が指定され、最終的な ET (FET) が指定されていないトランザクション処理のために、ニュークリアスで仮想ストレージを割り当てようとしていました。ストレージ割り当て要求に失敗しました。このことは、ニュークリアスアドレススペースに使用可能な仮想ストレージが不足していたことによって発生した可能性があります。	リージョンサイズを増やすか、または (バッファプール (LBP) などの) 大規模なプールサイズを減らして、ニュークリアスを再起動します。
<i>dbid date time</i> WK4-AREA (DTP) TOO SMALL	分散トランザクション処理 (DTP=RM) をサポートするニュークリアスが異常終了後のセッション自動再起動を実行していました。予備的な ET (PET) が指定され最終的な ET (FET) が指定されていない WORK パート 4 へ、ニュークリアスがトランザクションをコピーしようとしていました。これらすべてのトランザクションのプロテクションデータを保持するには、WORK パート 4 が小さすぎました。	LDTP パラメータを増やし、ニュークリアスを再起動します。
<i>dbid date time</i> WORK4-INDEX TOO SMALL INCREASE THE LDTP-PARM AND RERUN DTP=RM NUCLEUS: GETMAIN FAILED INCREASE THE REGION SIZE AND RERUN	ニュークリアスを起動中、DDWORKR4 を解釈するときにエラーが発生しました。 注意: DDWORKR4 は、システム自動再起動が完了する前に解釈する必要があります。	メッセージで指示されたように起動 JCL を調整して、システム自動再起動の前に DDWORKR4 が解釈されるようにし、ジョブを再実行します。

ADAN58

Buffer-flush start record detected during autorestart. The nucleus will terminate after autorestart. In case of power failure, the database might be inconsistent because of partially written blocks. Only in this case, repair the database by restore and regenerate; Otherwise restart the nucleus.

説明：

自動再スタートを引き起こすアクションが発生した時点でバッファフラッシュが実行中であつたことが、自動再スタート操作によって検出されました。このため、バッファフラッシュは未完了です。ニュークリアスは、自動再スタート処理を完了してから終了しします。

- 自動再スタートの原因が電源障害であった場合は、自動再スタートによって修復できない不整合がデータベースに存在する可能性があります。
- 自動再スタートの原因が電源障害でない場合は、データベースにはすでに整合性があるため、行う必要があるのは自動再スタートのみです。

対処：

自動再スタートの原因が電源障害であり、ブロックの書き込みが不完全でないことがストレージサブシステムによって保証されない場合は、次のユーティリティ操作を実行してデータベースの整合性を確保します。

- ADASAV RESTORE (データベース)
- ADARES REGENERATE

電源障害の場合でも、ブロックの書き込みが不完全でないことをストレージサブシステムのテクノロジーで保証できる場合は、このメッセージが表示されても復元/再生成する必要はありません。単に、ニュークリアスを再スタートしてください。

自動再スタートによって修正されたファイル (ADAN5A メッセージを参照) に RESTORE/REGENERATE を限定することはできますが、ADARES パラメータ CONTINUE を指定し、トランザクションロジック (再生成の最後に自動バックアウト) を使用して REGENERATE FILE を必ず実行してください。

自動再スタートの原因が電源障害でない場合は、上記のユーティリティ操作を実行しません。単にニュークリアスを再スタートしてください。

ADAN59

Abend UCODE at address [= module+offset]

ADAN59

register-00 register-01 register-02 register-03 (r0-r3)

ADAN59

register-04 register-05 register-06 register-07 (r4-r7)

ADAN59

register-08 register-09 register-10 register-11 (r8-rb)

ADAN59

register-12 register-13 register-14 register-15 (rc-rf)

説明：

ニュークリアスを異常終了させる内部エラーが発生しました。アベンドコードとアドレス、可能な場合はエラーが検出されたモジュールとオフセット、エラーが発生した位置、およびエラー時の汎用レジスタの内容がメッセージに表示されます。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN5A

Files modified during autorestart: { none | file-list }

説明：

ニュークリアスの起動時に自動再スタートが実行され、メッセージテキストに示されるファイルが変更されました。

ADAN60

ARM ELEMENT element-name SUCCESSFULLY REGISTERED/DEREGISTERED

説明：

ARMELEMENTNAME パラメータが指定され、ニュークリアスで Automatic Restart Manager (ARM) を使用してこのエレメントが正常に登録または登録解除されました。

ADAN61

ARM REGISTERING /DEREGISTERING FAILED

ADAN61

ARM REASON CODE=X"xxxx"

説明：

ARMELEMENTNAME パラメータが指定されましたが、Automatic Restart Manager (ARM) を使用した登録または登録解除に失敗しました。メッセージに示される理由コードが ARM から返されました。可能な理由コードについては、IBM のマニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』を参照してください。一般的な理由コードには、次のものがあります。

- X'002C'：ARMELEMENTNAME パラメータ値が無効です。
- X'013C'：Adabas ニュークリアスで、ARM を使用して登録するための SAF 許可が不適切です。
- X'0150'：ARMELEMENTNAME がシスプレックス間でユニークではありません。
- X'0004'：システムでは ARM がサポートされていません。

ニュークリアスはエラーを無視して処理を続行します。

対処：

理由コードの意味を調べます。エラーの原因が判別できた場合は、修正します。そうでない場合は、システムプログラマまたは Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN62**FNR=fnr A= U= ID= CA= CU=**

説明：

このメッセージは、DNFV オペレータコマンドに対して表示されます。

- FNR はファイル番号を示します。
- A は Y (アクセスオンリーユーザーがファイルを使用している) または空白 (アクセスオンリーユーザーがファイルを使用していない) のどちらかです。
- U は A と同様ですが、更新ユーザーによる使用を示します。
- ID はファイルを排他制御するデータベースの ID です。
- CA はファイルを使用しているアクセスオンリーユーザーの人数です。
- CU はファイルを使用している更新ユーザーの人数です。

ADAN65**TSP subsystem (nn) name has abended**

説明：

現在のセッションに対して、トリガおよびストアドプロシージャ機能がアクティブになりました。ただし、サブシステム番号 nn、バッチ Natural ニュークリアス name は異常終了し、再スタートしません。

対処：

アベンドの原因を調べ、問題を修正してください。

ADAN69**{date} {time} BASE AND LOB FILE ARE OUT-OF-SYNC****BASE FNR={base-fnr}, UPDATE STATUS={upd-status1}****LOB FNR={lob-fnr}, UPDATE STATUS={upd-status2}**

説明：

LB フィールドが存在するファイル (基本ファイル) と関連する LB フィールド値を含むファイル (LOB ファイル) で構成される LOB ファイルグループに不整合が発生しました。ユーティリティ操作の非論理的なシーケンスによってデータベースからファイルがエクスポート (保存、再構築、アンロード) され、その後、データベースに再インポート (復元、格納、ロード、定義) されました。この結果、処理時に 2 つのファイルが同じ時点を反映しなくなりました。

基本ファイルと LOB ファイルが同期しなくなりました。基本ファイルで LB フィールド値を参照していますが、LOB ファイルに格納されるべき LB フィールド値が存在しない可能性があります。また、LOB ファイルに LB フィールド値が含まれていますが、基本ファイルのレコードで参照される必要のある LB フィールド値が参照されていない可能性もあります。

対処：

基本ファイルと LOB ファイルが同期しなくなった原因を調べます。調査結果に応じて、両方のファイルをリロードまたは復元するなどの修正措置を取ります。必要に応じて、次の機能を使用して2つのファイルを同期しているものとしてマークを付けることができます。

```
ADADBS MODFCB FILE=base-fnr, LOBFILE=lob-fnr
```

ADAN70

Retry to switch PLOG/CLOG

説明：

ニュークリアスで PLOG または CLOG の切り替えを再試行しています。FEOFPL/CL が試行され、現時点で空きの PLOG または CLOG が存在しない場合は、再試行されます。

対処：

ADARES PLCOPY または CLCOPY をサブミットして、適切なデータセットをコピーします。

ADAN76

I/O-error { ASSO | DATA | WORK } RABN=*rabn-number*

説明：

Adabas ニュークリアスで内部 I/O エラーが検出されました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN77

Security violation. USER=*user-id* JOBNAME+*=job-name* ETID=*et-id*

説明：

user-id で示されるユーザーが、使用する権限のないファイルを使用しようとしてしました。アクティブなジョブは *job-name* です。

対処：

コマンドログエントリで失敗したコマンドを調べ、修正措置が必要かどうかを判断します。

ADAN78

Function extent

ADAN78

Nucleus terminated after { ASSO | DATA } function

説明：

アソシエータエクステンツまたはデータストレージエクステンツに対して INCREASE または ADD 機能がニュークリアスによって実行されました。ニュークリアスは終了し、アソシ

エラーで新しく追加された部分に対して割り当ておよびフォーマットが可能になります。この処理は、別の Adabas セッションを開始し新しいエクステントを使用する前に行う必要があります。

対処：

割り当て／再フォーマットに必要なユーティリティ処理を実行してから、ニュークリアスを再起動します。

ADAN79

I/O - e r r o r during asynchronous buffer flush ADAIOR-RESP = hex-resp the nucleus terminates with dump

説明：

非同期バッファフラッシュの処理時に I/O エラーが発生しました。ニュークリアスは処理を終了します。

対処：

I/O エラーの原因を修正します。

ADAN7A

ECS error error-number in function ecs-function

説明：

ECS とは Entire Conversion Services の略で、Adabas ユニバーサルエンコーディングサポート (UES) システムのサブシステムです。このメッセージは、サブシステムの機能が失敗した後に書き込まれます。次の ECS 機能がエラーを返す可能性があります。

ECS LOAD	ECS のロードエラー。ECS ロードモジュールが Adabas ロードライブラリに存在することを確認してください。
COX LOAD	ADACOX のロードエラー（データベースが UES 対応の場合にロードされる）。ADACOX は特殊な変換のための Adabas 変換出口です。
APS INIT	APS (POSIX Services) 初期化中にエラーが発生しました。APS ライブラリがロードライブラリ連結内に存在し、APS パラメータが SYSPARM に指定されていることを確認してください。
SLIBLOAD	SAGECS、SAGOVO、または SAGSMP2 のロードエラー。Software AG ベーステクノロジーライブラリにあるこれらのモジュールが、ロードライブラリ連結内で検出できることを確認してください。
DDECSOJ	ECS 標準変換オブジェクトを読み込んでいるとき、初期化中にエラーが発生しました。実行可能でないバイナリ ECS 変換オブジェクトライブラリが JCL の DDECSOJ DD ステートメントに指定されていることを確認してください。
GETHANDLE nnnn	ECS エンコードディスクリプタオブジェクト EDDnnnn の読み込みでエラーが発生しました。実行可能でないバイナリ ECS 変換オブジェクトライブラリが JCL の DDECSOJDD ステートメントに指定されていることを確認してください。EDDnnnn がライブラリに含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、無

	効な番号が指定されたか、オブジェクトが見つからないため追加する必要があります。
GETHANDLE <i>mmmm/nnnn</i>	GETHANDLE <i>nnnn</i> に関する説明を参照してください。この場合は、ECS プレーンテーブルオブジェクト (PTO) に、Txxxxyy がありません。ここで、xxx または yyy は、それぞれ 10 進の <i>mmmm</i> か、または <i>nnnn</i> の 16 進値です。変換の組み合わせによっては、Software AG サポートに追加の PTO を依頼する必要がある場合があります。

対処：

問題を解決し、再試行してください。

ADAN7C

Entire conversion services v.r.s initialized

説明：

指定されたバージョンの Entire Conversion Services が正常に初期化されました。

ADAN7D

Collation exit nn initialized

説明：

指定された照合ディスクリプタユーザー出口が正常に初期化されました。

ADAN80

ADABAS dynamic caching environment established

説明：

Adabas Caching Facility が正常に初期化されました。

ADAN80

ADABAS dynamic caching virtual 64 environment available

説明：

64 ビットの仮想ストレージが使用可能であることが Adabas Caching Facility で確認されました。

ADAN80

ADACSH active for work part 2 and work part 3 only

説明：

バージョン 7.2 より前の Adabas ニュークリアスクラスタ環境では、WORK パート 2 および 3 に対してのみキャッシュが可能です。

ADAN81

Warning: not all blocks of the DB are allocated and formatted - run ADAREP to check the DB's size

説明：

GCB に定義された ASSO または DATA エクステントの最上位 RABN を読み込むことができません。新しいデータベースエリアの割り当ておよびフォーマットを行わずに Adabas Online System または ADADBS INCREASE 機能を実行した可能性があります。ニュークリアスは続行します。割り当てられていないデータベースエリアにアクセスしようとするすると I/O エラーが発生します。

対処：

定義されたエクステントで、割り当ておよびフォーマットが完了していることを確認します。

ADAN81

No statistics available for file file-number file not used

説明：

既存のキャッシュスペースを削除せずに、ファイルへのキャッシュスペースパラメータを変更しようとしてしました。

対処：

ファイルの既存のキャッシュスペースを削除してから、変更したパラメータで新しいキャッシュスペースを追加します。

ADAN81

(see explanation below)

説明：

このメッセージには、Adabas Caching Facility の CSTAT、CFSTAT、および CSUM オペレータコマンドの出力が表示されます。詳細は Adabas Caching Facility のドキュメントを参照してください。

CSTAT コマンドは、現在のキャッシュスペース統計を表示するために使用します。以下にサンプルレポートを示します。

```

+-----+
+ 005 DATA SPACE, DATA, RABNS 81 THRU 135 +
+-----+
+ ALLOCATED, LA=17:04:26 +
+-----+
+          253 CACHE WRITES  +          47 BLKS IN CACHE +
+          47 READ EXCPS    +       172,032 DATA SPC SIZE +
+          408 CACHE READS  +          55 BLKS/DATA SPC +
+          455 TOTAL READS  +       1320 INDXSPCE SIZE +
+          89.6 DSP EFFICIENCY+       167,936 MAX DSP USED  +
+ 0.071810 MAX NIOT (SEC)+ 0.698682 MAX EXCPT(SEC)+

```

```
+ 0.000080 MIN NIOT (SEC)+ 0.009600 MIN EXCPT(SEC)+
+ 0.000245 AVE NIOT (SEC)+ 0.167286 AVE EXCPT(SEC)+
+-----+
```

CFSTAT コマンドは、1つ以上のファイルの現在のキャッシュスペース統計を表示するために、ファイルレベルのキャッシュで使われます。ファイルレベルのキャッシュがアクティブになっている場合は、ファイル要求に関連するRABN範囲ごとにレポートが出力されます。以下にサンプルレポートを示します。

```
+-----+
+ FNR 00001 AC CL1 EXT RABNS 91 THRU 93
+-----+
+ ALLOCATED, LA=09:55:36
+-----+
+ 60 CACHE WRITES + 0 BLKS IN CACHE +
+ 2 READ EXCPS + 32,767,404 EXTM SIZE +
+ 52 CACHE READS + 16,351 BLKS/EXTM +
+ 54 TOTAL READS + 28 RABN TAB SIZE +
+ 96.2 ESP EFFICIENCY+ 4,008 MAX ESP USED +
+ 0.001503 MAX NIOT (SEC)+ 0.092800 MAX EXCPT(SEC)+
+ 0.000018 MIN NIOT (SEC)+ 0.092071 MIN EXCPT(SEC)+
+ 0.000062 AVE NIOT (SEC)+ 0.092435 AVE EXCPT(SEC)+
+-----+
```

CSUMコマンドは、セッションに関して、アクティブおよび非アクティブになっているすべてのキャッシュスペースの累計キャッシュ概要（前に削除されたキャッシュスペースの統計も含む）を表示するために使われます。以下にサンプルレポートを示します。

```
+-----+
+ A D A B A S DYNAMIC CACHING SESSION SUMMARY +
+ 52.5 CURRENT ADABAS BUFFER EFFICIENCY +
+ 7.2 PROJECTED NON-CACHE BUFFER EFFICIENCY +
+ 3 ACTIVE CACHE SPACES +
+ 4 CACHE SPACES DEFINED +
+-----ASSO-----DATA-----WORK-----+
+ CACHE WRITES 27,367 6,674 212 +
+ READ EXCPS 78 444 0 +
+ CACHE READS 27,288 6,203 4,865 +
+ TOTAL READS 27,366 6,647 4,865 +
+ EFFICIENCY 99.7 93.3 100.0 +
+-----+
```

ADAN82**Status s w i t c h****ADAN82****r e a d o n l y = { y e s | n o }**

説明：

ニュークリアスの READONLY ステータスが切り替えられました。このメッセージは、オペレータコマンドまたは Adabas Online System 機能の READONLY に対して表示されます。

ADAN83**s t a t u s s w i t c h****ADAN83****u t i o n l y = { y e s | n o }**

説明：

ニュークリアスの utility use only (UTIONLY) ステータスが切り替えられました。このメッセージは、オペレータコマンドまたは Adabas Online System 機能の UTIONLY に対して表示されます。

ADAN84**LP parameter has been increased, additional****ADAN84****Protection area blocks are being formatted.**

説明：

現在の Adabas セッションで ADARUN LP パラメータが増加されました。このため、追加の WORK パート 1 RABN をフォーマットする必要が発生しました。

対処：

対処は必要ありません。WORK パート 3 に十分なスペースを確保するため、WORK データセットを増やすことを考慮してください。

ADAN85**Work part 4 problem detected during start-up****ADAN85****{dbid} {date} {time} D T P = R M
INITIALISATION PROBLEMS:**

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明
Work part 4 problem detected during start-up	システム起動時および DTP=RM で定義されたニュークリアスの WORK パート 4 の解釈時に、WORK パート 4 で問題が検出されました。このメッセージの後に ADAN86 が続きます。
<i>dbid date time</i> D T P = R M INITIALISATION PROBLEMS:	DDWORKR4 の解釈時に問題が検出されました。

対処：

エラーの原因については、ADAN86 を調べてください。

ADAN86

WK4 I/O error was detected
{ rabn=__ ior-resp=__ | resp-code=__ subcode=__ }

ADAN86

{dbid} GETMAIN (TBWK4) FAILED

ADAN86

{dbid} FILE-LIST POOL TOO SMALL

ADAN86

{dbid} USER-QUEUE TOO SMALL

ADAN86

**{dbid} PHYSICAL-WORKR4-NAME UNEQUAL
 IN THE CLUSTER**

ADAN86

**{dbid} NUCLEUS RESPONSE CODE DETECTED:
 RESP-CODE={rc} , SUBCODE={sc}**

ADAN86

**{dbid} WORK4 SIZE IS DIFF. TO LAST SESSION
 BUT/AND IGNDTP NOT DEFINED**

ADAN86

**{dbid} WORK4 I/O-ERROR:
 RABN= {rabn} IOR-RESP= {resp}**

ADAN86

**{dbid}GCB CONTAINS WORK4 DEFINITION
 BUT: DTP=NO, IGNDTP=NO**

ADAN86

{dbid}PARAMETER CONFLICT**- MODE=SINGLE BUT LAST SESSION RUN WITH DTP=RM****- DTP=NO BUT WORKR4 DEFINED**

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明	対処
WK4 I/O error was detected { rabn=__ ior- resp=__ resp-code=__ subcode=__ }	システム起動時およびDTP=RMで定義されたニュークリアスのWORKパート4の解釈時に、WORKパート4でI/Oエラーが検出されました。このメッセージはADAN85の後に表示され、エラーのRABNの場所およびADAIORレスポンスコード、あるいはエラーのニュークリアスレスポンスコードおよびサブコードが示されます。	エラーの原因を確定し修正してから、ジョブを再実行してください。
<i>dbid</i> GETMAIN (TBWK4) FAILED	DTP=RMが指定されている場合は、DTM=RMニュークリアスで使用されるテーブルを割り当てるために、他のGETMAINが必要です。	GETMAINを増やしてから、ジョブを再実行します。
<i>dbid</i> FILE-LIST POOL TOO SMALL	ユーザーキューの拡張であるUQEFLIST_POOLは、DDWORKR4に存在するすべてのファイル定義を受け取るには小さすぎます。	ADARUN NUパラメータを使用するユーザーキューエレメントの数を増やしてから、ジョブを再実行します。
<i>dbid</i> USER-QUEUE TOO SMALL	ユーザーキューは、DDWORKR4に存在するすべてのユーザーキューエレメントを受け取るには小さすぎます。	ADARUN NUパラメータを使用するユーザーキューエレメントの数を増やしてから、ジョブを再実行します。
<i>dbid</i> PHYSICAL-WORKR4-NAME UNEQUAL IN THE CLUSTER	DDWORKR4 データセットはコンテナファイルです。クラスタ内のすべてのニュークリアスでは、同じDDWORKR4データセットを使用する必要があります。後に続けて開始されたニュークリアスで、無効なDDステートメントが使用されています。ニュークリアスは起動されません。	DDステートメントを修正してから、ジョブを再実行します。
<i>dbid</i> NUCLEUS RESPONSE CODE DETECTED: RESP-CODE= <i>rc</i> , SUBCODE= <i>sc</i>	ニュークリアスレスポンスコードが検出されました。ニュークリアスは停止します。	エラーの原因を確定し修正してから、ジョブを再実行してください。

メッセージテキスト	説明	対処
<i>dbid</i> WORK4 SIZE IS DIFF. TO LAST SESSION BUT/AND IGNDTP NOT DEFINED	DDWORKR4 データセットサイズが最後のセッションのサイズと異なりますが、データセットは空ではありません。	DDWORKR4 の DD ステートメントを修正してから、ジョブを再実行します。
<i>dbid</i> WORK4 I/O-ERROR: RABN= <i>rabn</i> IOR-RESP= <i>resp</i>	ニュークリアスは停止します。	エラーの原因を確定し修正してから、ジョブを再実行してください。
<i>dbid</i> GCB CONTAINS WORK4 DEFINITION BUT: DTP=NO, IGNDTP=NO	ニュークリアスは起動されません。	エラーの原因を確定し修正してから、ジョブを再実行してください。
<i>dbid</i> PARAMETER CONFLICT - MODE=SINGLE BUT LAST SESSION RUN WITH DTP=RM - DTP=NO BUT WORKR4 DEFINED	メッセージテキストに示すように、パラメータの矛盾が存在します。	パラメータの矛盾を修正してから、ジョブを再実行します。

対処：
説明に対処が表示されます。

ADAN87

**WK4 area too small
The nucleus will terminate
Increase LDTP parm and rerun**

ADAN87

**{dbid} {date} {time} DDWORK4 TOO SMALL
THE NUCLEUS WILL T E R M I N A T E.
RERUN WITH A BIGGER DATASET-SIZE.**

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明	対処
WK4 area too small The nucleus will terminate Increase LDTP parm and rerun	DTP=RMで定義されたニュークリアスの起動中、部分的に完了したトランザクションをコピーする必要があるとき、またはすべてのファイルに対して ADARES REGENERATE を実行しているとき、WORK パート 4 で使用可能なスペースが不足したため、前の環境を再確立できませんでした。	ADARUN LDTP パラメータを使用して WORK パート 4 エリアのサイズを増やし、ジョブを再実行します。

メッセージテキスト	説明	対処
	ニュークリアスで前の環境を再確立できず、不完全なトランザクションをヒューリスティックに終了できないため、ニュークリアスは終了します。	
<i>dbid date time</i> DDWORK4 TOO SMALL THE NUCLEUS WILL T E R M I N A T E. RERUN WITH A BIGGER DATASET-SIZE.	排他データベース制御を伴ったユーティリティが実行中です。ニュークリアスはこのメッセージで終了し、U019 アベンドダンプが後に続きます。	DDWORKR4 のサイズを増やし、ジョブを再実行します。

対処：

説明に対処が表示されます。

ADAN88

(rm=yes)abend

ADAN88

{dbid} {date} {time} (DTP=RM) ABEND

説明：

DTP=RM で定義されたニュークリアスの初期化で、DTP 機能の実行時に論理エラーが検出されました。

ニュークリアスはアベンド 19 で異常終了します。アベンドへのエントリにおけるレジスタおよび ADANC0~ADANCB のロードアドレスが出力されます。

対処：

担当地域の Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN89

{dbid} {date} {time} DTP SUPPORT
WORKR4 OPEN ERROR
WORKR4 I/O-ERROR: RABN={rabn}
WORKR4 CLOSE-ERROR

ADAN89

{dbid} {date} {time}DTP-DATABASE:
HEURI. TERMINATED USER IS MOVED:
USER-ID

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明	対処
<i>dbid date time</i> DTP SUPPORT WORKR4 OPEN ERROR WORKR4 I/O-ERROR: RABN= <i>rabn</i> WORKR4 CLOSE-ERROR	DDWORKR4 データセットで I/O エラーが発生しました。	DDWORKR4 データセットまたは DDWORKR4 のニュークリアス JCL 定義をチェックして、問題を識別します。問題を修正してから、ジョブを再実行します。
<i>dbid date time</i> DTP-DATABASE: HEURI. TERMINATED USER IS MOVED: USER-ID	LOCAL HALT または LOCAL ADAEND 要求では、次に使用可能な Adabas ニュークリアスに HEURI ユーザーを移動する必要があります。クラスタではこれらのユーザーを常に認識する必要があります。	この情報メッセージに対処は必要ありません。

対処：

説明に対処が表示されます。

ADAN8A

file already being cached

説明：

キャッシュ用に指定されたファイルは、Adabas Caching Facility でキャッシュされています。このエラーは、同一ファイルのアソシエータおよびデータストレージの RABN をキャッシュするために、オペレータコマンドまたは Adabas Online System コマンドで異なるメモリタイプを定義しようとした場合に発生することがあります。

対処：

異なるメモリタイプを指定する ADARUNCFILE パラメータを起動時に使用して、同一ファイルのアソシエータおよびデータストレージの RABN をキャッシュすることは可能です。ただし、ファイルの RABN のキャッシュ用にメモリタイプを設定した後、Adabas Online System およびオペレータコマンドで、同一ファイルに他のメモリタイプを指定することはできません。ファイルのメモリタイプを変更するには、既存のキャッシュスペースを削除してから、異なるパラメータで新しいキャッシュスペースを追加する必要があります。

ADAN8C**Memory allocation failure or insufficient space available**

説明：

ADACSH でワークエリア用にスペースを確保できませんでした。 Adabas Caching Facility は開始されず、関連メッセージ ADAN8H が表示されます。

対処：

リージョン、パーティション、またはアドレススペースのサイズを大きくします。

ADAN8D**{zzz} ({aaaa}) cache active**

説明：

RABN 範囲がアクティブになりました。これは、一般的に、Adabas が、そのバッファプールからキャッシュストレージに RABN を書き込むときに表示されます。

メッセージ変数	説明
zzz	RABN 範囲のタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合は "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64"、ファイル関連の場合 "FNR")
aaaa	RABN 範囲のストレージタイプ ("ASSO"、"DATA" または "WORK")

ADAN8E**{ track | hyperspace } I/O buffer allocation failure****ADAN8E****CSP (ASSO) RABNINDEX allocation failure**

説明：

Adabas Caching Facility で、トラック I/O バッファ、ハイパースペース入力/出力バッファ、または RABNINDEX ブロック用のストレージを割り当てることができませんでした。トラック入力/出力バッファが使用できない場合、先読み込みキャッシュ用の RABN I/O 要求は正常に発行されます。ハイパースペース入力/出力バッファが使用できない場合、ハイパースペースを使用するキャッシュを行うことはできません。キャッシュスペースエリア用の RABNINDEX が使用できない場合、関連するキャッシュスペースエリアの割り当ては失敗し、少なくとも CRETRY 秒が経過するまで割り当ては再試行されません。

対処：

リージョン、パーティション、またはアドレススペースのサイズを大きくします。

ADAN8H

ADABAS dynamic caching is -not- in service

説明：

前のパラメータ指定またはエラーが原因で、Adabas Caching Facility がアクティブになりませんでした。

ADAN8J

CSP {nnn} ({aaaa}) released due to parallel utility operation

{xxx} BLKS released due to parallel utility on FNR {y}

説明：

Adabas Caching Facility は、ユーティリティに応じて、キャッシュスペース全体またはキャッシュブロックのいくつか（ユーティリティによって異なる）を解放することによって、データベースの整合性を保持する処理を行いました。

メッセージ変数	説明
nnn	キャッシュスペース番号
aaaa	RABN ストレージのタイプ："ASSO"、"DATA" または "WORK"
xxx	解放済みのブロック数
y	解放済みブロックを所有していたファイル

ADAN8K

{zzz} ({aaaa}) released after exceeding non-activity time limit

説明：

キャッシュストレージは、非アクティブになってから CCTIMEOUT 秒経過した後で解放されました。

メッセージ変数	説明
zzz	キャッシュスペースエリアのタイプ（データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合 "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64"）
aaaa	RABN ストレージのタイプ："ASSO"、"DATA" または "WORK"

ADAN8L**{zzz} {nnnnn} ({aaaa}) active, RABNS {xxx} thru {yyy}**

説明：

このメッセージは、RABN 範囲がアクティブになるたびに表示されます。これは、一般的に、Adabas が、そのバッファプールからキャッシュストレージに RABN を書き込むときに表示されます。

メッセージ変数	説明
zzz	RABN 範囲のタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合は "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64"、ファイル関連の場合 "FNR")
nnnnn	zzz が "FNR" の場合はファイル番号、それ以外の場合は RABN 範囲の ID
aaaa	RABN 範囲のストレージタイプ ("ASSO"、"DATA" または "WORK")
xxx,yyy	RABN 範囲。xxx は開始値を表し、yyy は終了値を表します。

ADAN8M**{zzz} ({aaaa}) size extended to {yyy} bytes****ADAN8M****zzz (aaaa) extension failed**

説明：

キャッシュスペース用に他のキャッシュストレージエリアを追加しようとした。

メッセージ変数	説明
zzz	キャッシュスペースエリアのタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合 "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64")
aaaa	キャッシュスペースエリアのストレージタイプ ("ASSO"、"DATA" または "WORK")
yyy	新しいエリアのサイズ (バイト単位)

要求が正常に実行されると、キャッシュスペースで追加ストレージが有効になります。yyy には、現在の CASSOMAXS または CDATAMAXS 設定と同じ値を持つ新しいエリアのサイズが反映されます。

要求が正常に実行されない場合は、CRETRY 秒が経過するまで、キャッシュスペースに割り当て済みのストレージエリアが使用されます。その後、必要に応じて、キャッシュスペースに新しいストレージエリアを追加します。

対処：

システムプログラマに連絡してください。ESA 機能 (メモリまたはページデータセットの不足) が不十分であったため、またはデータスペースまたはハイパースペースを同時に割り当てすぎたために拡張が失敗した可能性があります。

ADAN8O

AOS operator command: {xxxxx}

説明：

Adabas Online System (AOS) オペレータが、いずれかの Adabas Caching Facility システムパラメータを変更するコマンドを発行しました。

メッセージ変数	説明
xxxxxx	次のように変更します。CASSOMAXS=新しいサイズ CDATAMAXS=新しいサイズ CCTIMEOUT=新しい値 CDISPSTAT=YES/NO CRETRY=新しい値 CBUFNO=新しい値 CEXCLUDE=除外するリスト CINCLUDE=組み込むリスト

ADAN8P

{zzz} {nnnnn} ({aaaa}) disabled after exceeding non-activity time limit

説明：

デマンドキャッシュが有効であり、RABN 範囲またはファイルがアクティブでない期間が CCTIMEOUT の指定を超えました。

メッセージ変数	説明
zzz	RABN 範囲のタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合は "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64"、ファイル関連の場合 "FNR")
nnnnn	zzz が "FNR" の場合はファイル番号、それ以外の場合は RABN 範囲の ID
aaaa	RABN 範囲ストレージのタイプ ("ASSO"、"DATA"、"WORK"、または ASSO と DATA の両方がファイルにキャッシュされる場合は "BOTH")

ADAN8Q

Hiperspace READ/WRITE error. RETCODE = {nn}

説明：

ハイパースペースキャッシュ要求の処理時にエラーが発生しました。要求 (nn) のリターンコードがメッセージに表示されます。

通常、このエラーが発生すると、要求でハイパースペースキャッシュへの書き込みまたはハイパースペースキャッシュからの読み込みに失敗します。ほとんどの場合、ニュークリアスからの要求を無視して、ディスクからの RABN の読み込み/書き込みを続行できます。

ただし、WORK パート 1 または 2 のキャッシュが 100% になると、キャッシュされた RABN を返す処理に失敗し、さらに深刻な結果になることがあります。これは、RABN のコピーがディスクに存在しないことによって、I/O を行うことができないためです。

対処：

Adabas Caching Facility で使用するハイパースペースに影響を与える、システム内のイベントまたは問題によってエラーが発生したかどうか調査します。明らかな原因がない場合は、エラーおよびその発生状況を Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN8R

Insufficient storage for {xxxx}

説明：

拡張メモリで動的ストレージを割り当てようとしたが、拡張メモリのスペース不足のため失敗しました。

メッセージ変数	説明	
xxxxx	次のいずれかの用途のストレージ	
	ファイルテーブル	ファイルコントロールブロックエントリのテーブル
	ファイルコントロールブロック	ファイルキャッシュに必要なブロック
	RABN エクステントブロック	1 つの RABN エクステントの定義に必要な
	RABN テーブル	キャッシュされた RABN の記述に必要な
	RABN テーブル拡張	ファイルが拡張したときに必要

対処：

ストレージの見積もりを見直し、指定されたパラメータに対して十分なストレージが使用できることを確認します。

ADAN8R

Hiperspace WRITE error. RETCODE = nn

説明：

ハイパースペースへの書き込み操作から、ゼロ以外のコンディションコードが返されました。要求された RABN はハイパースペースに書き込まれず、未使用としてフラグが設定されます。

対処：

オペレータの介入は必要ありません。

ADAN8S

{zzz} ({aaaa}) allocate failed. RETCODE = {nn}

説明：

キャッシュエリアの最初のストレージブロックの割り当てに失敗しました。

メッセージ変数	説明
zzz	キャッシュスペースエリアのタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合 "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64")
aaaa	キャッシュスペースエリアのストレージタイプ ("ASSO"、"DATA" または "WORK")
nn	ストレージの割り当てに使用されたシステム機能からのリターンコード

キャッシュストレージを割り当てようとした RABN のキャッシュに使用可能なストレージがありません。最低でも CRETRY 秒が経過し、必要に応じてストレージを割り当てる別の試みが行われるまで、この状態が続きます。

対処：

システムプログラマに連絡してください。メモリまたはページデータセットが不足していること、またはデータスペースやハイパースペースを同時に割り当てすぎたことによって、割り当てが失敗した可能性があります。

ADAN8T

{zzz} {nnnnn} ({aaaa}) {xxxx} by {yyyy} command

ADAN8T

{zzz} {nnnnn} ({aaaa}) not {xxxx} due to conflicts

説明：

オペレータコマンドが受け取られ、正常に完了したか失敗しました。

メッセージ変数	説明	
zzz	RABN 範囲のタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合は "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64"、ファイル関連の場合 "FNR")	
nnnnn	zzz が "FNR" の場合はファイル番号、それ以外の場合は RABN 範囲の ID	
aaaa	RABN 範囲ストレージのタイプ ("ASSO"、"DATA"、"WORK"、または ASSO と DATA の両方がファイルにキャッシュされる場合は "BOTH")	
xxxxx	コマンドで要求される処理。正しい値は次のとおりです。	
	ADDED	CASSOxxx、ADATAxxx、または CFILE コマンド
	CHANGED	CCHANGE コマンド
	DELETED	CDELETE コマンド
	DISABLED	CDISABLE コマンド

メッセージ変数	説明
	ENABLED CENABLE コマンド
yyyy	処理 xxxxx を要求するコマンドが次のいずれかで発行されました。
	AOS OPER Adabas Online System ユーザーまたは
	OPERATOR オペレータ

対処：

コマンドが正常に実行されなかった場合は、DDPRINT の警告メッセージをチェックし、コマンドが失敗した原因を調べます。または、コマンドの構文が正しいことを確認します。

ADAN8U

{zzz} {nnnnn} ({aaaa}) enabled on demand

説明：

このメッセージは、Adabas バッファ効率が指定の CDEMAND しきい値レベルを下回ったときに、使用可能になった非アクティブな RABN 範囲やファイルごとに表示されます。

メッセージ変数	説明
zzz	RABN 範囲のタイプ (データスペースの場合 "DSP"、拡張メモリの場合 "ESP"、ハイパースペースの場合は "HSP"、バーチャル 64 の場合 "V64"、ファイル関連の場合 "FNR")
nnnnn	zzz が "FNR" の場合はファイル番号、それ以外の場合は RABN 範囲の ID
aaaa	RABN 範囲ストレージのタイプ ("ASSO"、"DATA"、"WORK"、または ASSO と DATA の両方がファイルにキャッシュされる場合は "BOTH")

ADAN8V

{parameter list}

説明：

このメッセージは、CPARM オペレータコマンドに対して表示されます。次のパラメータが表示されます。

パラメータ	説明
CASSOMAXS	最大 ASSO キャッシュスペースサイズ
CDATAMAXS	最大 DATA キャッシュスペースサイズ
CDISPSTAT	コンソール表示オプション
CDEMAND	Adabas バッファ効率のしきい値
CMAXCSPS	最大キャッシュスペース数
CRETRY	再試行の時間間隔

パラメータ	説明
CCTIMEOUT	非アクティビティタイムリミット
CWORKSTORAGE	WORK パート 2 および 3 のキャッシュタイプ
CWORK2FAC	WORK パート 2 のキャッシュスペースファクタ
CWORK3FAC	WORK パート 3 のキャッシュスペースファクタ

ADAN8W

FNR nnnnn (aaaa) synchronized

説明：

キャッシュするファイルに属する RABN に Adabas Caching Facility から初めてアクセスするとき、ファイルに関連するエクステントと RABN が認識され、そのファイルのビューとファイルの FCB が同期化されます。

ファイル構造が変更された（新しいエクステントが追加されたなど）ことが ADASCR で検出されると、次の可能な機会に ADASCR でファイルのビューが再び同期化され、このメッセージが表示されます。

nnnnn	ファイル番号
aaaa	ファイルにキャッシュされる対象 (ASSO、DATA、または ASSO と DATA の両方がキャッシュされる場合 BOTH)

ADAN8Y

File-level caching initialized

説明：

ファイルレベルのキャッシュが、現在のニュークリアスに対してアクティブになっています。

ADAN8Z

Logic error in ADACSH+xxxxxxxx

説明：

Adabas Caching Facility 処理時に論理エラーが発生しました。

対処：

エラーおよび 16 進のオフセットを Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAN90**TSP GETMAIN failed**

説明：

Adabas トリガドライバは、自身の I/O バッファを設定するための、リージョンまたはアドレススペース内に十分なストレージを取得できませんでした。

対処：

問題の原因を調べて、修正します。MPM のリージョンサイズを増やします。

ADAN91**TSP GETMAIN failed. Increase REG. size**

説明：

Adabas トリガドライバは、自身の I/O バッファを設定するための、リージョンまたはアドレススペース内に十分なストレージを取得できませんでした。

対処：

MPM のリージョンサイズを増やします。

ADAN92**TSP initialization completed**

説明：

トリガおよびストアードプロシージャ機能が正常に初期化されました。トリガの検出コマンドを処理中です。

ADAN92**TSP trigger refresh in progress**

説明：

トリガテーブルバッファの更新要求が行われ、この機能を実行するために Adabas システムは静止しています。

ADAN93**TSP has been deactivated via AOS (SYSTRG)**

説明：

ADARUN パラメータ SPT=YES が指定されましたが、データベース管理者が Adabas トリガサブシステムを使用してこの内容を上書きしたため、トリガはアクティブになりません。

対処：

トリガを再度アクティブにするには、Adabas トリガサブシステム機能 modify profile information (Miscellaneous Functions Menu にある) にアクセスし、プロファイルのトリガステータスフィールドを active に変更します。

ADAN93

TSP cannot be run in single user mode

説明：

Adabas ニュークリアスは、SPT=YES および MODE=SINGLE を指定して開始されました。これは許可されません。

対処：

ADARUN パラメータ (DDCARD) の MODE=MULTI を指定してニュークリアスを開始するか、または SPT=NO を指定します。

ADAN93

TSP incurred an internal error with cluster

説明：

Adabas トリガドライバの起動中、Adabas Parallel Services (アクティブになっている場合) とのコミュニケーションが必要です。Adabas トリガドライバで、コミュニケーションを完了できませんでした。

対処：

ダンプを取得してから、Software AG 技術サポートに連絡しエラーを通知してください。

ADAN93

TSP trigger refresh completed

説明：

トリガテーブルバッファが更新されました。トリガが再ロードされ、Adabas ニュークリアスは正常に処理を続行します。

ADAN93

TSP trigger refresh incurred an error

説明：

トリガテーブルバッファの更新中に、エラーが発生しました。このエラーは直前のコンソールメッセージで識別されました。このエラーによってトリガサブシステムの状態に不整合が発生するため、プロファイルのエラーアクションオプション設定で示されるように、シャットダウンする必要があります。

対処：

エラーを判断するために、直前のコンソールメッセージを確認してください。エラーを修正してから、必要に応じて、ニュークリアスを再スタートし、トリガサブシステムを再スタートします。

ADAN94**TSP unable to read the trigger file FDT**

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイル FDT を読み込む必要がありますが、FDT が見つかりませんでした。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

FDT が見つからなかった理由を調べ、問題を修正します。ファイルがシステムファイルとして正しくロードされたことを確認してください。

ADAN95**TSP unable to read the trigger file FCB**

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイル FCB を読み込む必要がありますが、FCB が見つかりませんでした。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

FCB が見つからなかった理由を調べ、問題を修正します。ファイルがシステムファイルとして正しくロードされたことを確認してください。

ADAN96**TSP incurred resp xxx reading triggers**

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイルのエントリを読み込む必要がありますが、ゼロ以外のレスポンスコードを受け取りました。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

問題の原因を調べてください。つまり、レスポンスコードを分析し、問題の解決に必要な措置を取ります。

ADAN97**nucleus will terminate with U021 dump due to internal autorestart failure; CMD=command, FILE-NR=file-number, RSP=rsrcode**

説明：

内部自動再スタートの障害により、ダンプが出力されてニュークリアスが終了します。

ADAN98

TSP unable to find any trigger entries

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイルのエントリを読み込む必要がありますが、ファイル内に有効なトリガエントリが見つかりませんでした。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

トリガファイルにトリガが定義され、トリガファイルが正しく設定されている（エラーが発生したデータベースにファイルがロードされている）ことを確認します。

ADAN99

TSP unable to load all trigger entries

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイルのエントリをバッファにロードする必要がありますが、計算されたバッファサイズに誤りがあります。考えられる理由は次のとおりです。

- Adabas トリガサブシステム以外の手段で、トリガが追加されました。
- バッファサイズが計算されなかったか、または指定に誤りがあります。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

バッファに必要なサイズを再計算します。 [Modify Profile] 画面から NUMBER または CHECK コマンドを発行し、Adabas Online System によって番号が正しく記録されていることを確認します。また、Adabas トリガおよびストアードプロシージャプロファイルの trigger table size フィールドで指定されたバッファサイズもチェックしてください。

ADAN99

TSP has ignored triggers gt file nnnnn

説明：

有効な最大ファイル番号（最高ロード済みファイル+10）を超えるファイル番号に割り当てられたトリガを処理しようとしてしました。

対処：

このメッセージは警告です。有効な最大ファイル番号を超えたファイル番号には、トリガを割り当てません。

ADAN9A**TSP CNTL data missing on TRIG file (nnnnn)**

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイルからプロファイル定義を読み込む必要がありますが、プロファイル定義が見つかりませんでした。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

Adabas トリガサブシステムを使用して、サブシステムのプロファイルを追加します。

ADAN9B**TSP unable to read trigger control data**

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas でトリガファイルからプロファイル定義を読み込む必要があります。しかし、読み込み中に内部エラーが発生しました。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

エラーの原因を調べ、Adabas トリガサブシステムを使用して修正します。または、プロファイルを再度修正し、それが正しいことを確認します。

ADAN9C**TSP could not get work area. Check LWP**

説明：

トリガの初期化処理時に、Adabas のバッファ用にスペースを取得する必要がありますが、スペース不足でした。これは、LWP ADARUN パラメータに指定された値が小さすぎる場合に発生します。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

LWP ADARUN パラメータに指定された値をチェックし、必要に応じて増やします。

ADAN9D**TSP no trigger file defined**

説明：

SPT=YES を指定して Adabas ニュークリアスが開始されましたが、このデータベースにトリガファイルが存在しません。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

SPT=NO を設定するか、または少なくとも1つのトリガ定義を含むトリガファイルをデータベースにロードします。

ADAN9E

TSP missing module for subsystem

説明：

トリガの初期化処理時に、プロシージャの実行のために Adabas でサブシステムを開始する必要がありますが、指定された名前は無効です。結果として、トリガはアクティブになりません。

対処：

Adabas トリガおよびストアドプロシージャプロファイルで、バッチ Natural 名の設定をチェックします。また、Natural ニュークリアスモジュールが JCS/JCL 起動に連結され、ロード可能なモジュールであることも確認します。

ADAN9F

TSP terminated the nucleus due to errors

説明：

システムを不整合な状態にする、重大または致命的なエラーが発生しました。ニュークリアスはシャットダウンしました。

対処：

エラーを判断するために、直前のコンソールメッセージを確認してください。エラーを修正してから、必要に応じて、ニュークリアスを再スタートし、トリガサブシステムを再スタートします。

ADAN9F

TSP has been deactivated due to errors

説明：

トリガで1つ以上のエラーが発生したため、非アクティブになりました。Adabas トリガおよびストアドプロシージャプロファイルのエラーアクション設定によって、必要なエラーアクションが異なります。

対処：

直前のコンソールメッセージを調べ、エラーの原因を突き止めて問題を修正してください。

ADAN9I

TSP subsystem (nn) name has abended / SSF error return code code

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。指定されたサブシステムでエラーが発生し、異常終了しました。Adabas トリガドライバは、再スタートを3回試行します。アベンドのタイプは後続のメッセージに表示されます。

対処：

原因を特定し、問題を解決してください。リターンコード code は追加情報を示します。

ADAN9J**TSP subsystem (nn) name shut down**

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。指定されたサブシステムをシャットダウンする要求が行われたか、またはアベンドが3回連続して発生したため、Adabas トリガドライバによってサブシステムを非アクティブにすることが決定されました。

対処：

原因を特定し、問題を解決してください。リターンコードは追加情報を示します。

ADAN9K**TSP subsystem (nn) name CQE timed out**

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。トリガの処理中に、元のコマンドでタイムアウトが発生しました。トリガは正常に処理されません。

対処：

コマンドを再実行してください。

ADAN9K**TSP subsystem (nn) name cancelled**

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。指定されたサブシステムで実行中のプロシージャでタイムアウトが発生した時点で、サブシステムがキャンセルされました。サブシステムは再スタートされます。直前のメッセージは、キャンセルに関する詳細を示します。

対処：

原因を特定し、問題を解決してください。理由コードは追加情報を示します。

ADAN9K**TSP subsystem (nn) name initialized**

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。トリガの初期化処理中、プロシージャを実行するために、指定された個数の NATURAL サブシステムが開始されます。このメッセージは、各サブシステムの正常な初期化処理をユーザーに示します。

対処：

対処は必要ありません。サブシステムは動作を待ちます。

ADAN9K

TSP requested: halt

説明：

Adabas トリガおよびストアドプロシージャプロファイルの Error Action フィールドが halt に設定されており、致命的なエラーが発生したか、または Adabas Online System で Adabas トリガサブシステムのシャットダウンが要求されました。

対処：

直前のメッセージから問題が発生したかどうか判断し、発生した場合は、問題を修正します。

ADAN9L

**TSP timeout on PROC proc-name JOB job-name CMD yy FNR nnnnn FIELD-UID
xxxxxxxxxxxxxxxxxx**

説明：

Adabas トリガドライバで、トリガされたプロシージャが指定の制限時間を超えたと判断されました。別のプロシージャで処理を続行し、キューイングを防止できるようにするために、プロシージャはキャンセルされました。UID は、UQE に指定されるように、ユーザー ID の末尾 8 バイトを 16 進数で表します。

対処：

プロシージャをチェックしてください。ループがなかったか、作業が多すぎないか、またはタイムアウトのパラメータが低すぎないか判断してください。次回のために問題を修正してください。

ADAN9L

TSP subsystem (nn) name shut down

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。トリガのシャットダウンが正常に終了しました。このメッセージはサブシステムごとに表示されません。

ADAN9L

***stored procedure req ** UID xxxxxxxxxxxxxxxxxxx**

説明：

Adabas トリガドライバで、特定のストアドプロシージャが指定の制限時間を超えたと判断されました。別のプロシージャで処理を続行し、キューイングを防止できるようにするために、プロシージャはキャンセルされました。UID は、UQE に指定されるように、ユーザー ID の末尾 8 バイトを 16 進数で表します。

対処：

プロシージャをチェックしてください。ループがなかったか、作業が多すぎないか、またはタイムアウトのパラメータが低すぎないか判断してください。次回のために問題を修正してください。

ADAN9M**TSP waiting on UID user-id**

説明：

トリガのシャットダウン中のためサブシステムをキューイングする必要があります。ただし、プロシージャはまだ稼動しています。データベース管理者が潜在的な問題を調査するのを支援するため、ユーザー ID (UID) が表示されます。

対処：

対処は必要ありません。ただし、Adabas トリガドライバを待機させないとデータベース管理者が判断した場合は、ユーザーのプロシージャを停止する可能性があります。

ADAN9N**TSP subsystem (nn) name cancelled**

説明：

nn は Natural ニュークリアスサブシステムのユニークな番号で、name は名前です。ADAN9N に続き、指定されたサブシステムで処理が完了するまで待機しないと Adabas トリガドライバで判断されたため、サブシステムはキャンセルされました。

対処：

これは情報メッセージです。対処は必要ありません。

ADAN9O**TSP subsystem shutdown in progress**

説明：

ニュークリアスが終了している (ADAEND または HALT) か、またはトリガおよびストアードプロシージャ機能で停止が要求され (原因はエラーの可能性がある)、Adabas トリガドライバもシャットダウンするよう要求されました。

対処：

対処は必要ありません。処理が進行中であることがユーザーに通知されます。

ADANA1**SMGT display active DUMP={ on | off }**

説明：

フォーマットされたダンプ付き (ON)、またはダンプなし (OFF) で表示コマンドがまもなく処理されます。

ADANA2

SMGT { active | not active }

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能が、ニュークリアス内でアクティブになっているかどうかを示します。

ADANA3

Abnormal termination handler { active | not active }

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能の異常終了ハンドラが、アクティブになっているかどうかを示します。

ADANA5

No error conditions handled

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能で、エラーがまったく検出されませんでした。

ADANA6

Last error occurred at: date time

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能によって、最後に処理されたエラーの日付 (yyyy-mm-dd) および時刻 (hh:mm:ss) を示します。

ADANA7

Condition: { mvs-abend-code | rsp: rsp-code } location: location

説明：

発生した異常終了または受け取ったレスポンスコードを表示し、エラー操作およびメッセージバッファリング機能で最後に処理されたエラーの位置 (存在する場合) を示します。z/OS 異常終了コードの説明は、IBM の『*System Codes Manual*』を参照してください。

ADANA8

Count executions of abnormal termination handler

説明：

エラーまたは ABEND コードがトラップされ、エラー操作およびメッセージバッファリング機能によって実際に処理された回数を示します。

ADANA8**Count executions of response code handler**

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能によって、レスポンスコードが実際に処理された（つまり、PIN ルーチンが起動された）回数を示します。

ADANA8**Count executions of total error recovery calls**

説明：

状況（レスポンスコードまたはアベンドコード）に対応するため、エラー操作およびメッセージバッファリング機能が起動された合計回数を示します。

ADANA9**Last error handled by pin pin-number**

説明：

最後に検出されたエラーを処理するため、エラー操作およびメッセージバッファリング機能によって起動された PIN ルーチンを示します。

ADANAA**xxx condition PIN routines recovered yyy errors**

説明：

起動された状況処理 PIN ルーチンの数、および回復されたエラー数を示します。

ADANAB**xxx location PIN routines recovered yyy errors**

説明：

起動された位置のみの PIN ルーチンの数、および回復されたエラー数を示します。

ADANAC**xxx response PIN routines recovered yyy errors**

説明：

起動されたレスポンスコード PIN ルーチンの数、および回復されたエラー数を示します。

ADANAD

xxx total PIN routines recovered yyy errors

説明：

起動された PIN ルーチンの合計数、および回復されたエラー数を示します。

ADANAE

Message buffering is { active | not active }

説明：

メッセージバッファリングが、エラー操作およびメッセージバッファリング機能でアクティブになっているかどうかを示します。

ADANAF

nnn messages in buffer from date time

説明：

メッセージバッファに現在あるメッセージの数と、最も古いメッセージの日付 (yyyy-mm-dd) および時刻 (hh:mm:ss) を示します。

ADANAG

PIN nnnn uses: nnnn condition: { mvs-abend-code | rsp: rsp-code } { this pin valid for all locations routine-name | location: hexno hexno (routine-name) }

説明：

アクティブ (PIN) または非アクティブ (*PIN) ルーチンに関して、使用回数、処理する状況 (発生した異常終了または戻されたレスポンスコード)、有効な位置などの情報を示します。z/OS 異常終了コードに関する説明は、IBM の『*System Codes Manual*』を参照してください。

ADANAL

There are currently no exits in use

説明：

DISPLAY=EXITS コマンドが発行されましたが、現在使用中の出口は存在しません。

ADANAX

Exit: exit-code modname: exit-module-name status: { active | active crt | enact }

説明：

指定された出口が、アクティブ、アクティブでクリティカル、または非アクティブのいずれであるかを示します。

ADANI2**SMGT abend handler active**

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能の異常終了ハンドラが、アクティブになっていることを示します。

ADANI4**GETMAIN failed for exit table**

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能を実行するためのメモリが不足しています。Adabasはこの機能なしで実行します。

対処：

Adabas ニュークリアスに使用できるリージョンサイズを増やしてください。

ADANI5**GETMAIN failed for initial PIN area**

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能を実行するためのメモリが不足しています。Adabasはこの機能なしで実行します。

対処：

Adabas ニュークリアスに使用できるリージョンサイズを増やしてください。

ADANL0**Error opening license file (DDLIC)**

説明：

DDLIC ステートメントで指定されたライセンスファイルのオープン時にエラーが発生しました。

対処：

DDLIC ステートメントを省略し、代わりにライセンスのロードモジュールメソッドを使用します。

ADANL2**Error reading license file**

説明：

空のファイルまたは無効なレコード構造が検出されました。

対処：

ライセンスファイルが、ライセンスデータセットに正しくコピーされていることを確認します。空のファイルは無効で、データセットはEBCDICに変換しません（ASCII形式でなければなりません）。

ADANL6

License check failed

説明：

ライセンスファイルは物理的には正しい状態です。ただし、Adabas ニュークリアスの実行環境と一致しないライセンスプロパティが検出されました。これは最終的なメッセージであり、障害の詳細を示す別のメッセージが付加されます。Adabas ニュークリアスは開始しました。

対処：

ライセンスファイルと実行環境の不整合を解決するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANL7

License check completed

説明：

ライセンスチェックが正常に完了し、Adabas ニュークリアスが開始しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADANL8

License file invalid format

説明：

ライセンスファイルが物理的に破損されているか無効であるため、ライセンスファイルをチェックできませんでした。ニュークリアス PARM ERROR 109 が発生しました。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。お使いの操作環境に固有の Adabas データベースのインストール手順に従って、ライセンスファイルが ASCII で正しく格納されていることを確認します。

ADANL9

ADALIC license could not be loaded

説明：

ADALIC ライセンスモジュールをロードできませんでした。

対処：

ライセンスファイルのインストールが正しく行われたことを確認します。詳細は、使用している操作環境に固有の Adabas データベースのインストール手順を参照してください。問題が解決しない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADANLA**Expected value {xxxx} not found for element {yyyy}**

説明：

メッセージで識別されるライセンスファイルエレメント (*yyyy*) に、実行環境で検出された値 (*xxxx*) が含まれていませんでした。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルを入手したり、不整合を解決するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLC**CPU-ID {cpu} is not defined in your product license file**

説明：

メッセージ (*cpu*) に表示される CPU ID を持つ CPU は、Adabas 製品のライセンスでは取り扱っていません。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルまたは更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLF**The product license will expire at {date}**

説明：

Adabas 製品のライセンスはまもなく期限切れになります。有効期限はメッセージ (*date*) に示されます。このメッセージは、ライセンスの有効期限が1 ヶ月以内になると表示されます。

対処：

Adabas ニュークリアスの更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLL**License data for LPARName invalid or missing**

説明：

Adabas 製品のライセンスで論理パーティション (LPAR) がサポートされていないか、またはライセンスが無効です。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルまたは更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLM

Machine capacity is higher than MSUs in the product license

説明：

Adabas 製品のライセンスでは、CPU でサポートしている MSU（ミリオンサービスユニット）数を取り扱っていません。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルまたは更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLP

License data for PriceUnit invalid or missing

説明：

Adabas 製品のライセンスに無効なデータが含まれているか、またはデータが欠落しています。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルまたは更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLU

Unidentified operating system

説明：

使用しているオペレーティングシステムが Adabas 製品のライセンスでサポートされていないか、またはライセンスファイルが無効です。

対処：

Adabas ニュークリアスの有効なライセンスファイルまたは更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANLX

License ExpirationDate invalid or expired

説明：

Adabas 製品のライセンスが期限切れになりました。ライセンスキーの有効期限が、現在の日付より前になっています。

対処：

Adabas ニュークリアスの更新ライセンスファイルを入手するには、Software AG 営業部門に連絡してください。

ADANO1**Invalid SMGT cmd: command**

説明：

SMGT コマンドのオペランドが無効でした。

対処：

オペランドを修正し、コマンドを再発行してください。

ADANO2**SMGT command processed**

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能で、コマンドの処理が完了しました。

ADANO5**SMGT not currently active**

説明：

コマンドを発行する前に、エラー操作機能がアクティブ (SMGT=ON) になっている必要があります。発行されたコマンドは、ADANO5 メッセージの直後にある ADANO1 メッセージに表示されます。

対処：

エラー操作機能をアクティブにし、コマンドを再発行してください。

ADANR1**SMGT handling condition: { mvs-abend-code | rsp: rsp-code }**

説明：

指定された状況のために、エラー操作機能が起動されました。z/OS 異常終了コードに関する説明は、IBM の『*System Codes Manual*』を参照してください。**ADANR2****Error is in { user | hyper } exit xx, exit disabled**

説明：

指定された、非クリティカルな出口でエラーが発生しました。エラーが修正されるまで、出口は起動されません。

対処：

診断メッセージを調べ、出口を修正し、SMGT,XLOAD コマンドを使用して出口を再ロードした後、SMGT,XACT コマンドを使用して出口を再びアクティブにしてください。

ADANRP

PSW: hexno hexno hexno hexno

説明：

エラーが発生すると、PSW が表示されます。

ADANRR

ry-ry hexno hexno hexno hexno

説明：

エラーが発生すると、レジスタが表示されます。

ADANRT

Condition is a error-type error

説明：

エラー操作機能で、指定タイプのエラーを処理しています。

ADANS1

SNAP file unavailable

説明：

メモリ内のエリア（アドレススペースまたはデータスペース）のフォーマットされた 16 進ダンプを保持するデータセットが、ニュークリアス起動 JCL に定義されていませんでした。

エラー操作およびメッセージバッファリング機能の `SMGT,DUMP={ON|OFF}` または `SMGT,SNAP[=(start,end)]` コマンドを正常に使用するには、データセット `ADASNAP` を Adabas 起動 JCL に定義する必要があります。

対処：

Adabas セッションを停止し、必要なステートメントを起動 JCL に追加して、新しいセッションを開始します。

ADANT1

SMGT { activated | deactivated }

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能のステータス変更を示します。

ADANT2**Message buffering { activated | deactivated }**

説明：

メッセージバッファリングのステータス変更を示します。

ADANT4**Abnormal termination handler { activated | deactivated }**

説明：

異常終了処理、またはエラー操作およびメッセージバッファリング機能のステータス変更を示します。

ADANT5**GETMAIN failed for PIN descriptors**

説明：

新しいPINの追加に必要なメモリが不足しています。AdabasはPINモジュールなしで実行します。

対処：

Adabas ニュークリアスに使用できるリージョンサイズを増加してください。

ADANT6**Module module-name load failed**

説明：

指定されたモジュールをロードできません。エラー操作およびメッセージバッファリング機能は、モジュールなしで実行します。

対処：

エラー操作機能を Adabas プログラムライブラリにモジュールを配置して、エラー操作機能にモジュールが使用できることを確認してください。

ADANT7**Invalid exit exit-code**

説明：

メッセージに表示された出口コードが、有効なコードではないか、または要求コマンドに対して正しい状態ではありません。Adabasはコマンドを拒否します。

対処：

出口コードが正しいことを確認してください。正しい場合、出口が要求コマンドを許可する状態であることを確認してください。

ADANT8

Exit exit-code in use module(module-name)

説明：

メッセージに表示された出口コードが、アクティブな出口であることを示します。Adabas はコマンドを拒否します。

対処：

出口コードが正しいことを確認してください。正しい場合、出口が要求コマンドを許可する状態であることを確認してください。

ADANT9

No module name for exit load

説明：

Adabas では、モジュール名なしで出口をロードすることはできません。Adabas はコマンドを拒否します。

対処：

出口用のメンバ名を含めて SMGT,XLOAD コマンドを再入力してください。

ADANTA

Exit exit-code not loaded

説明：

出口がロードされていないため、出口を必要とするコマンドを処理できません。Adabas はコマンドを拒否します。

対処：

出口コードが正しいことを確認してください。正しい場合、出口をロードしてください。

ADANTB

exit exit-code module exit-module-name status: { active | inact | loaded | crit | notcrt }

説明：

オペレータコマンドの結果、出口のステータス（アクティブ、非アクティブ、ロード済み、クリティカル、または非クリティカル）が変更されました。このメッセージに詳細が表示されます。

ADANTC

Invalid SNAP parameters

説明：

SNAP コマンドに指定されたパラメータが無効です。Adabas はコマンドを拒否します。

対処：

SNAP コマンドに指定されたアドレスが正しいことを確認してください。

ADANTD**PIN routine pin-number disabled**

説明：

指定された PIN ルーチンは、使用不可です。

ADANTE**PIN routine pin-number not found**

説明：

直前のコマンドの PIN ルーチンが見つかりませんでした。Adabas はコマンドを拒否します。

対処：

PIN ルーチンが正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。

ADANTF**PIN routine pin-number enabled**

説明：

指定された PIN ルーチンは、使用可能です。

ADANTG**PIN module module-name loaded**

説明：

指定された PIN モジュールは、ロード済みです。

ADANTH**PIN module module-name deleted**

説明：

指定された PIN モジュールは、メモリから削除されました。

ADANTI**PIN module module-name not { found | valid }**

説明：

直前のコマンドの PIN モジュールは、使用できません。Adabas はコマンドを拒否します。

対処：

PIN モジュール名が正しく、PIN モジュールが Adabas ライブラリにあることを確認した後、コマンドを再発行してください。

ADANTJ

{ FULL | SNAP } dumps taken for events

説明：

フルダンプまたはスナップダンプのどちらを取得するかを示します。

ADANTM

Message buffering unable to activate

説明：

メッセージバッファリングをアクティブにできません。

対処：

MSGBUF=パラメータを、最初の ADARUN パラメータに追加してください。

ADANX1

**COMMAND cmd COMMAND-ID hex-cid FNR file-number RESPONSE rsp-code SUBCODE
rsp-subcode FLD field-name TID hex-internal-userid UID open-userid JOB job-name**

説明：

Adabas PINRSP または PINUES ルーチンによって作成される、診断情報のフォーマットです。PINRSP ルーチンでは、cmd、hex-cid、rsp-code、および rsp-subcode 情報のみが作成されます。

ADANY1

ADABAS must be run from an authorized environment

説明：

PIN ADAMXY で S047 アベンドが検出されました。

対処：

権限を持つロードライブラリから Adabas を実行してください。

ADANY4

Error occurred in routine: routine-name

説明：

PIN ADAMXY で、認識されたルーチンに特定のエラーが存在すると判断されました。

対処：

発生したシステムアベンドの詳細は、適切なオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

ADANZ1**ADABAS SMGT terminated**

説明：

Adabasは終了処理中で、エラー操作およびメッセージバッファリング機能は終了しました。

ADEN1**Invalid control string: string**

説明：

Adabas Online System内部エラーです。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADONIS1**Load failed on SMGT module module-name**

説明：

エラー操作およびメッセージバッファリング機能用のロードモジュールをロードできませんでした。Adabasはこの機能なしで実行します。

対処：

Adabas でインストールされたエラー操作およびメッセージバッファリング機能のすべてのモジュールが、配布ライブラリにまだ存在していることを確認します。モジュールがない場合は、バックアップからモジュールのコピーを復元し、必要に応じてメンテナンスを行ってください。

ADATCP メッセージ（接頭辞 ADACM）

ADATCP コンポーネントでは、情報およびエラーメッセージがシステムコンソールに表示されます。

ADACM006E**Unable to load PABNKERN**

説明：

内部製品 APS（移植プラットフォーム）で検出された基本モジュール PABNKERN は、Adabas に使用できません。

対処：

APSVrsLOAD ライブラリをジョブの STEPLIB に追加してください。

ADACM007E

Parm error

説明：

URL 内で渡されたいずれかのパラメータに誤りがありました。

対処：

URL に API 名（プロトコル）、スタック ID、ポート番号など、必要な要素のすべての値が含まれていることを確認してください。URL を修正し、再試行してください。

ADACM008E

Invalid value in PORT= parameter

説明：

URL で指定されたポートは無効です。

対処：

ポート番号は 1~5 バイトで指定できますが、ゼロ (0) または 65535 を超えることはできません。

ADACM009E

URL=url already { active | closed }

説明：

URL がすでにオープン (ACTIVE) されているか、またはクローズ (CLOSED) されています。

対処：

URL に API 名（プロトコル）、スタック ID、ポート番号など、必要な要素のすべての値が含まれていることを確認してください。URL を修正し、再試行してください。

ADACM010E

URL=url not found

説明：

URL 自体が見つかりません。

対処：

URL に API 名（プロトコル）、スタック ID、ポート番号など、必要な要素のすべての値が含まれていることを確認してください。URL を修正し、再試行してください。

ADACM011I**URL=url has been { closed | opened }**

説明：

URL は正常にクローズまたはオープンされました。

ADACM012E**The network is down**

説明：

ネットワークがアクティブでないため、ADATCP を開始できませんでした。

対処：

URL で指定されたスタックがアクティブになっていることをチェックしてください。アクティブな場合は、システム管理者に連絡してください。

ADACM013E**No buffer space is available**

説明：

ADATCP に対してバッファスペースを使用できないため、コントロールブロックの割り当てができません。

対処：

システムで十分なストレージが利用可能であることを確認してください。

ADACM014E**The link has been severed**

説明：

エラーが発生したため、TCP/IP または ADATCP が終了しました。

対処：

このメッセージは、終了理由を示す別のメッセージとともに表示されます。他のメッセージを参照してください。

ADACM015E**TCP/IP is not installed or active**

説明：

URL で指定された TCP/IP スタックがインストールされていないか、またはアクティブになっていません。

対処：

指定された URL が目的のものであることをチェックしてください。その場合は、指定のスタックをインストールまたは開始します。

ADACM016E

The socket descriptor table is full

説明：

ソケットディスクリプタが最大数に達したため、ソケットを作成できません。

対処：

作成可能なソケット数を増やしてください。

ADACM017I

TCP/IP has terminated

説明：

このメッセージにエラーメッセージが付加されていない場合は、TCP/IP は正常に終了しました。

対処：

このメッセージにエラーメッセージが付加されている場合は、そのメッセージを参照してください。それ以外の場合、これは情報メッセージです。

ADACM018E

The API cannot locate the TCP/IP specified

説明：

URL で指定されたスタックが有効でないため、TCP/IP を初期化できません。

対処：

スタックがシステム上で利用可能であることおよびアクティブになっていることを確認してください。

ADACM019E

The TCP/IP name specified is not valid

説明：

URL で指定された TCP/IP 名は無効です。

対処：

URL に正しいスタック名が含まれていることをチェックしてください。その場合、スタックがシステム上で利用可能であることおよびアクティブになっていることを確認してください。

ADACM020E**TCP/IP failed to load**

説明：

URL で指定された TCP/IP スタックを初期化できません。

対処：

指定された TCP/IP スタックが正しく、アクティブになっていることを確認してください。
正しく、アクティブな場合は、システム管理者に連絡してください。

ADACM021E**Unable to allocate storage for SOCKETCB**

説明：

必要なストレージを ADATCP で割り当てることができません。

対処：

システムで十分なストレージが利用可能であることを確認してください。

ADACM022E**Invalid operating system for api=opsys**

説明：

URL で指定されたオペレーティングシステムに誤りがあります。

対処：

現在サポートされているオペレーティングシステムは、OE、Interlink、および HPS のみです。

ADACM023E**Unable to initialize TCP/IP interface**

説明：

URL または使用されたプロトコルで指定された TCP/IP スタックは無効です。

対処：

URL またはプロトコルに正しいスタック名が含まれていることをチェックします。その場合、スタックがシステム上で利用可能であることおよびアクティブになっていることを確認してください。

ADACM024E**Unable to get a socket**

説明：

システムで新しいソケットを作成できません。誤りのあるスタックが原因となっている可能性があります。このメッセージにエラー番号が付いている場合は、システムリソース不足（ENOBUFS）またはアクセス拒否（EACCES）のどちらかに問題があるかが示されます。

対処：

正しいスタックが使用されていることを確認します。問題がシステムリソース不足の場合は、システム管理者に連絡してください。システムアクセスの問題の場合は、セキュリティ管理者に連絡してください。

ADACM025E

Unable to bind socket to local system

説明：

ADATCP でソケットをローカルシステムにバインドできませんでした。URL で指定されたポートを別のアプリケーションで使用している可能性があります。

対処：

Tso netstat コマンドを使用して、指定ポートの現在の使用状況をチェックしてください。ポートが他で使用されている場合は、ADATCP を終了し URL のポートを変更します。

ADACM026E

Unable to accept connections

説明：

クライアントアプリケーションからの接続を ADATCP で受け付けることができません。バッファスペースが不足しているか、または作成またはオープンされたソケットディスクリプタが最大数に達した可能性があります。

対処：

十分なバッファスペースをシステムで使用できることを確認してください。必要に応じて、システムで使用できるソケットの最大数を増やします。

ADACM027E

Unable to listen for new connections

説明：

新しい接続を ADATCP で聴取できません。通常、呼び出しの完了に必要なシステムリソースが不足していることを示しています。このメッセージにエラー番号が表示されている場合は、問題の解決に役立ちます。

対処：

システムリソースが不足している場合は、システム管理者に連絡してください。

ADACM028E

Unable to set SOCKOPT REUSEADDR option

説明：

現在使用中のローカルアドレスのバインドを可能にしようとしたますが、操作に失敗しました。システムリソースが不足している可能性があります。このメッセージにエラー番号が表示されている場合は、問題の解決に役立ちます。

対処：

システムリソースが不足している場合は、システム管理者に連絡してください。

ADACM029E

Unable to give socket to new thread

説明：

ADATCPで、ソケット制御を別のプロセスに渡すことができませんでした。このエラーは、ソケット自体に問題がある場合にのみ発生します。このメッセージにエラー番号が表示されている場合は、問題の解決に役立ちます。

ADACM030E

Unable to create a new thread

説明：

システムで新しいスレッドを作成できませんでした。スレッドの作成に必要なシステムリソースまたはメモリが不足していることを示しています。

対処：

システム管理者に連絡してください。

ADACM031E

Unable to close the requested socket

説明：

同じプロセスの別のスレッドで使用中のソケットをADATCPでクローズしようとした。このエラーは、システムが他のエラーにより終了している場合にのみ発生します。

対処：

コンソールで他のメッセージをチェックしてください。

ADACM032E

Unable to MALLOCstorage

説明：

ADATCPでストレージの割り当てができませんでした。システムでストレージが不足している可能性があります。

対処：

システム管理者に連絡してください。

ADACM034E

Unable to receive data

説明：

ADATCP でクライアントからデータを受け取ることができません。ADATCP とクライアント間の接続がトランザクション中に切断されたか、または呼び出しを完了するために必要なシステムリソースが不足している可能性があります。このメッセージに表示されるエラー番号によって、問題を識別できます。

対処：

システム管理者に連絡してください。

ADACM035E

Unable to take the socket

説明：

Adabas との間で要求のやり取りをするプロセスで、聴取タスクから渡されたソケットを制御できませんでした。

対処：

このメッセージに表示されているエラー番号とリターンコードを確認してください。

ADACM036E

Unable to set the cancel type

説明：

主な要求タスクで、現在稼働中のスレッドのキャンセルタイプを設定できません。

対処：

このメッセージに表示されているエラー番号とリターンコードを確認してください。

ADACM037E

Unable to send data

説明：

ADATCP でクライアントからデータを送信できません。このメッセージに表示されるエラー番号によって、ADATCP とクライアント間の接続が切断されたか、または呼び出しの完了に必要なシステムリソースが不足しているかのどちらが問題であるかが示されます。

対処：

このメッセージに表示されるエラー番号をチェックしてください。

ADACM038E**Unable to close the socket**

説明：

ADATCP では、同じプロセスの別のスレッドで使用中のソケットをクローズしようとした。このエラーは、別のエラーが発生したためにシステムが終了しようとした場合に発生します。

対処：

コンソールに表示された他のメッセージをチェックしてください。

ADACM039E**Context table full**

説明：

接続数が定義済みの限度に達したため、ユーザーコンテキストテーブルにエントリを追加できません。

対処：

ADARUN NU パラメータ値を必要なエントリ数に増やして、ADATCP を再スタートします。

ADACM040E**Bad Message Length - > 1M**

説明：

長さが 1,048,576 バイトを超えたメッセージを受け取りました。

対処：

詳細は、Software AG サポートにお問い合わせください。

ADACM041E**Bad Message Identifier (SAG)**

説明：

メッセージヘッダーに無効な ID が含まれているメッセージを受け取りました。

対処：

詳細は、Software AG サポートにお問い合わせください。

ADACM042E**ACBX call with more than 250 ABDXs received**

説明：

250 個を超える ABD が含まれる ACBX インタフェースの Adabas コールを受け取りました。ABD の有効最大数は 250 です。レスポンスコード 253 で呼び出しが拒否されます。

対処：

250 個未満の ABD で ACBX 呼び出しを行うようにアプリケーションを変更します。詳細は、Software AG サポートにお問い合わせください。

5 一般的なシステムメッセージ

このchapterで説明する非コンソールメッセージは、ADALNKおよびADAIORのようなAdabas機能およびモジュールから発行されます。コンソールメッセージとしては扱っていませんが、アスタリスク (*) が付いているものはシステムコンソールにも表示されます。

メッセージ内に引用されている記号は次のとおりです。

<i>ddddddd</i> またはデータセット	DD データセット名
<i>iii</i>	I/O デバイス
<i>dbid</i>	データベース ID
<i>n...n</i> または <i>count</i>	番号またはカウント
<i>rabn</i>	RABN
A/D/P/W	ASSO、DATA、PLOG1、PLOG2、WORK
<i>code</i>	アベンドコード

6 ADAD* アベンドコードメッセージ

ADAD01

version job-name ABEND CODE code

説明：

このメッセージは、ADALNK 内でアベンド条件が発生した場合に、SYSLOG 上に出力されます。

対処：

ADALNK は次の情報を出力します。

version	Adabas バージョン
job-name	VSE ジョブ名
code	アベンドコード (コード情報については第 4 章を参照)

7

ADAE* Adabas SAF Security (ADASAF) メッセージ



Note: このセクションの各メッセージは、関連するデータベース ID で始まります。

ADAE01

UNABLE TO LOAD REQUIRED MODULES

説明:

必要なモジュールをロードできませんでした。オペレーションはアベンド U0042 で終了します。

対処:

モジュール NA2PMAC および ESICFG が利用可能であることをチェックしてください。

ADAE02

UNABLE TO ALLOCATE REQUIRED STORAGE

説明:

ADASAF を操作するために有効なストレージが不足しています。オペレーションはアベンド U0042 で終了します。

対処:

失敗したジョブに有効なストレージ (16 MB 境界の上) の大きさを増やしてください。

ADAE03

UNABLE TO ALLOCATE NRS STORAGE

説明:

ADASAF は 16 MB 境界の下のストレージのおよそ 2KB を必要とします。ストレージが初期化時 (または newcopy オペレータコマンドの後) に有効でなければ、ADASAF はこのメッセージを発行して、オペレーションを終了します。

対処:

十分なストレージが利用可能であることを確認してください。

ADAE04

MODULE **module-name** NOT LOADED

説明：

示されたモジュールは、初期化中または newcopy オペレータコマンド実行中にロードすることができませんでした。モジュールが任意でなく必須である場合は、オペレーションは終了します。

対処：

モジュールが有効であることを確認してください。

ADAE05

INVALID PARAMETERS DETECTED

説明：

1 つ以上の無効なパラメータが DDSAF で指定されました。オペレーションは終了します。

対処：

無効なパラメータを修正してください。

ADAE06

ALLOCATION OF USER FILE CACHE FAILED

説明：

ADASAF は 16 MB 境界の上にユーザーファイルキャッシュを配分します。ストレージが初期化時（または newcopy オペレータコマンドの後）に有効でなければ、ADASAF はこのメッセージを発行して、オペレーションを終了します。

対処：

十分なストレージが有効であることを確認するか、あるいは MAXFILES パラメータを減らしてください。ただし、MAXFILES パラメータを減らすと、パフォーマンスが低下する可能性があります。

ADAE07

input-parameter

説明：

ADASAF は情報と監査の目的で DDSAF から読まれたパラメータを再利用します。

ADAE08

INVALID PARAMETER: **input-parameter**

説明：

ADASAF は DDSAF に正しくない入力を検出しました。ADAE08 は、検出された無効なパラメータごとに発行され、ADAE05 が続きます。

対処：

無効なパラメータを修正してください。

ADAE12**ADASAF IS ACTIVE IN {FAIL | WARN} MODE**

説明：

ADASAF は示されたモードで正常に初期化しました。

ADAE15**NEWCOPY OF PARAMETER MODULE FAILED**

説明：

newcopy オペレータコマンドの後に、ADASAF は ESICFG を再ロードすることができませんでした。オペレーションは終了します。

対処：

このエラーは、ストレージ不足があるか、または初期化後にロードライブラリからモジュール ESICFG が削除された場合にのみ生じます。これらのどのケースに当てはまるか判断してから、修正してください。

ADAE16**NEWCOPY REINITIALIZATION FAILED**

説明：

このメッセージは newcopy 処理中に失敗した後、表示されます。このメッセージには、エラーの根源的な原因を表すより詳細なエラーメッセージが付加されます。

対処：

付加されるメッセージに従って対処を行ってください。

ADAE17**NOT APF-AUTHORIZED**

説明：

ADASAF は APF 認可を実行しなければなりません。オペレーションは終了します。

対処：

すべての STEPLIB が APF リスト内にあり、ADARUN が AC(1) とリンクされていることをチェックしてください。

ADAE18**NO SECURITY DETAILS FOR JOB job-name**

説明：

指定されたジョブから受け取った Adabas コマンドは、セキュリティ証明書をそれに付けられませんでした。コマンドはレスポンスコード 200、サブコード 3 で拒否されます。

対処：

セキュリティ出口が正しく AdabasSVC にインストールされて、ソースジョブが SAF Security システムをサポートするために正しく構成されていることを確認してください。

8

ADAH* ダンプフォーマットステータスメッセージ

ダンプフォーマット機能の現在のオペレーティングステータスを表す、一般的なステータスメッセージがあります。

ADAH50

dbid DUMP FORMAT CALLED

説明：

ダンプのフォーマットが開始する時点で、Adabas 拡張エラーリカバリ機能によって発行されます。コンソール上に表示され、DD/PRINT に書き込まれます。

ADAH51

dbid DUMP FORMAT COMPLETED

説明：

ダンプのフォーマットが終了する時点で、Adabas 拡張エラーリカバリ機能によって発行されます。コンソール上に表示され、DD/PRINT に書き込まれます。

9

ADAI* - ADAIOR システムメッセージ



Note: コンソールメッセージとしては扱っていませんが、アスタリスク (*) が付いているものはシステムコンソールにも表示されます。

ADAI01

{data set} count READS ADAI01 {data set} count WRITES

説明：

前者の形式のメッセージは、シーケンシャル入力データセットがクローズされる時に書き込まれ、後者は、シーケンシャル出力データセットがクローズされる時点で書き込まれます。

ADAI02

GETMAIN stor-req (source) ADAI02 GETMAIN stor-req stor-avail (source)

説明：

第1形式のメッセージは、メモリが動的に取得され、必要メモリが確保できたときに出力されます。

第2形式のメッセージは、メモリが動的に取得されたが、必要メモリが十分確保できなかったときに出力されます。

メッセージ中の stor-req は要求メモリ量を、stor-avail は使用可能なメモリ量を、(z/VSEでのみ出力される) source はメモリソース (GETVIS、COMREG、ADABUF) を表します。

ADAI03

{ {data set} | physical-file-name } countr READS countw WRITES

説明：

ダイレクトアクセスデータセットがクローズされます。 physical-file-name は、ファイルがダイナミックアロケーションを使ってオープンされたことを示します。

ADAI04

count ERRS count ERRS

説明：

読み込みエラーまたは書き込みエラーが発生したダイレクトアクセスデータセットがクローズされたときに、メッセージ ADAI03 の直後にこのメッセージが書き込まれます。

ADAI20

dbid DATASET physical-file-name DD: link-name

説明：

I/Oエラーがダイナミックアロケーションを使ってオープンされたファイルで発生しました。このメッセージはメッセージ **ADAI21** のすぐ後に続きます。

ADAI21

{dbid} IO ERROR RABN {bad-rabn}({start-rabn}) OP {oper} CC {ccbs} CSW {csw} SNS {dlu}

説明：

IBM プラットフォームのみ。 ADAIOR がディスク I/O エラーを検出すると、このメッセージが SYSLOG に出力されます。 メッセージ中の変数とその意味は次のとおりです。

変数	説明	
dbid	データベース ID (z/VSE 環境では提供されない)	
bad-rabn	実際にエラーが発生した RABN	
start-rabn	エラーが発生した I/O オペレーションの開始 RABN	
oper	エラーが発生したとき、実行されていたオペレーションタイプ (16 進表示)	
	x'80'	読み込み
	x'40'	書き込み
	x'20'	フォーマット
	x'10'	トラック単位の読み込み/書き込み
	x'08'	読み取り専用のニュークリアスの場合、書き込みなし
ccbs	コミュニケーションコントロールブロックからのコミュニケーションバイト	
csw	チャンネル状況ワード (CSW) のチャンネル状況 0 の場合、エラーは物理的なチェックでした。	

変数	説明
dlu	障害が発生した z/VSE 論理ユニット

z/OS システムでは、VSAM データセットで I/O エラーが発生すると、CSW および SNS データが RPL フィードバック情報に置き換えられます。

このメッセージの直後に、**ADAI20** メッセージが続きます。

対処：

メッセージ中の情報を用いて、ハードウェアに故障の可能性があるかどうかを確認します。また、将来、再び発生した場合に備えて、情報やダンプリスト等は保管しておきます。

ADAI22

ADAIOR TRACE TABLE: --> IS CURRENT ENTRY

説明：

ADAIOR トレーステーブルがアクティブになって出力されました。

ADAI23

dbid job-name ABEND CODE code

説明：

z/VSE および BS2000 システムのみ ジョブをアベンドさせるために、ADAIOR が呼び出されます。通常ダンプが出力されます。メッセージの値の内容は次のとおりです。

dbid	データベース ID
code	アベンドコード (第 4 章のアベンドコードの説明を参照)
job-name	z/VSE ジョブ名または BS2000 プログラム名

ADAI24

dbid READY FOR OPERATOR COMMUNICATION

説明：

z/VSE の MSG コマンドを使用してオペレータがオペレータコミュニケーションを要求すると、SYSLOG でこのメッセージが表示されます。値 dbid はデータベース ID です。

対処：

適切な Adabas コマンドを投入します。

ADAI26**dbid job-name COMPLETION CODE code**

説明：

BS2000 システム：このメッセージには通常の終了リターンコードが表示されます。ゼロ以外のアベンドコードが表示される場合は、BS2000 プログラムタスクスイッチ 10 がセットされます。

z/VSE システム：EOJ（ジョブの終わり）"RC=(RX)"によって、オペレーティングシステムに対してリターンコードが設定されます。このメッセージの情報としては、データベース ID (dbid)、ジョブ名、リターンコードがあります。

対処：

BS2000 システム：ジョブ変数がインストールされている場合は、アベンドコードが制御用のジョブ変数に渡されます。*ADA リンクと一緒に割り当てられたジョブ変数は、次の情報とともにセットされます。

プログラム名 (8 バイト) 終了コード (4 バイト) エラー番号 (5 バイト) Adabas レスポンスコード (5 バイト)

z/VSE システム：ゼロ以外のアベンドコードについては、第 4 章の説明を参照してください。DUMP オプションを指定してある場合、必要であれば、ダンプを検査しアベンドの原因を突き止めます。ジョブステップは終了します。

ADAI27**dbid TIMER INTERVAL EXCEEDS MAXIMUM ALLOWED****ADAI27****dbid RESET TO MAXIMUM**

説明：

オペレーティングシステムによって許された最大を超えるタイマ要求が発行されました。

対処：

オペレーティングシステムによって許された最大に間隔をリセットしてください。

ADAI29**OPER CMD: command**

説明：

z/OS、z/VSE、および BS2000 システムのみ：このメッセージは、Adabas セッション終了処理中に、セッション統計の一部として SYSLST で発生します。値 command は SYSLOG に記録されている、一番最後に発行されたオペレータコマンドです。

ADAI30**file-name number TRACKS FORMATTED**

説明：

ADAIORが、ダイレクトアクセスファイルのフォーマットを完了したことを示しています。

ADAI31**dbid OPENING TAPE FILE file-name SYSnnn=cuu**

説明：

この SYSLOG メッセージは、テープファイルがオープンされたことを示しています。メッセージ中の各項目の意味は次のとおりです。

dbid	Adabas データベース
file-name	オープンされた入力/出力ファイルのファイル名
nnn	z/VSE 論理ユニット ID
cuu	選択されたドライブの物理アドレス

ADAI32**dbid INTERNAL ERROR - FUNCTION func-name ERROR error**

説明：

内部エラーが発生しました。

対処：

最新のメッセージをすべて書き留めてから、Adabas サポートに連絡してください。

ADAI40**dbid CP-OPERATOR WAS REQUESTED TO MOUNT VOLUME vol-number ON VIRT. UNIT unit-number**

説明：

z/VMシステム：Adabas データベース dbid を実行している仮想マシンが、テープ vol-number を仮想マシンのユニット unit-number にマウントするよう、要求を発行しました。

ADAI41**dbid MOUNT REQUIRED FOR VOLUME vol-number ON UNIT cuu AND ATTACH TO VADDR address**

説明：

z/VM システム：Adabas データベースあるいはユーティリティを実行している仮想マシンが、テープ vol-number を、物理ユニット unit-number にマウントするよう、また、そのユ

ニットをアドレス address で ATTACH するよう要求を発行しました。このメッセージは、CP オペレータに送られます。

対処：

必要であればテープユニットを ATTACH し、要求されたテープボリュームをマウントします。

ADAI42

**dbid VOLUME vol-number FOR FILE file-name MOUNTED ON VIRT. UNIT addr
compression**

説明：

z/VM システム：要求された vol-number およびファイル file-name が仮想テープユニット addr にテープマウントされました。compression のかわりに (IDRC) が、メッセージの終わりに表示された場合、ファイルはテープカセット上にあり、IDRC 機能がアクティブなことを示します。

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。メッセージの終わりに IDRC が表示されましたが、IDRC 機能がカセットユニットによってサポートされていない場合には、後に I/O エラー発生可能性があります。

ADAI43

dbid REQUESTED DSN FOR FILE file-name NOT ON VOLUME vol-number

説明：

z/VM システム：ファイル file-name に対応するデータセット名 (DSN) がテープボリューム vol-number 上に見つかりません。この DSN は、DATADEF ステートメントで指定されたものです。

対処：

DATADEF ステートメントを確認し、修正したうえで、正しいテープボリュームがマウントされたことを確認します。

ADAI44

dbid BLOCK COUNT ON EOVS OR EOF FOR FILE file-name NOT EQUAL TO I/O COUNT

説明：

z/VM システム：テープから読み込まれたブロック数がエンドオブファイルレコード中のブロックカウントと一致しないことを示しています。これは内部エラーです。

対処：

関係するエラー情報（メッセージ番号と内容、および関連情報など）をすべて記録し、システムサポート担当者に問い合わせます。必要な場合は、Software AG サポートに連絡してください。

ADAI45**dbid I/O ERROR DURING TAPE HANDLING FOR FILE file-name VOLUME vol-number**

説明：

z/VM システム：ボリューム vol-number 上のテープファイル file-name のマウント処理中あるいはラベル処理中に I/O エラーが再発しました。

対処：

関係するエラー情報（メッセージ番号と内容、および関連情報など）をすべて記録し、システムサポート担当者に問い合わせます。必要な場合は、Software AG サポートに連絡してください。

ADAI46**dbid NO VIRTUAL CONSOLE**

説明：

z/VM システム：DATADEF ステートメントで、UNIT に仮想コンソールを指定してありますが、仮想コンソールが存在しません。

対処：

DATADEF ステートメントを修正した後、ジョブを再実行します。

ADAI47**dbid OUTPUT TAPE FILE PROTECTED FOR FILE file-name VOLUME vol-number**

説明：

z/VM システム：出力用にマウントされたテープにファイル保護／書き込みリングが付いていません。

対処：

マウントされたテープを一旦はずし、ファイル保護リングを付けて再マウントします。

ADAI48**dbid NO VALID VOLUME RECORD FOUND ON TAPE FOR FILE file-name**

説明：

z/VM システム：ファイル file-name 用にマウントするよう要求されたテープは、正しく初期化されていません。テープ上にレコードが 1 件もなかったか、最初のレコードが VOL1 レコードではありませんでした。テープはアンロードされ、オペレータは別のテープのマウントを要求しました。

対処：

CMS TAPE WVOL1 コマンドを使用してテープを初期化します。

ADAI49

dbid io-count DIAGNOSE I/OS PERFORMED FOR FILE file-name

説明：

z/VM システム：直接アクセスファイル file-name の一時的 I/O エラーが発生しました。値 io-count は、正常に行われた再試行の回数を示します。

ADAI50

dbid SEQUENTIAL BUFFER ALLOCATION FAILED FOR FILE file-name

説明：

z/VM システム：仮想マシンの仮想ストレージ不足のため、シーケンシャルファイル file-name に対して I/O バッファを割り当てることができませんでした。ユーティリティはオペレーションを中止し、シーケンシャルファイルのオープンエラーを発行します。

対処：

CP ディレクトリの仮想マシンのストレージを増やしてから、再び、マシンをログオンします。DATADEF ステートメントに BUFNO パラメータを指定した場合は、パラメータ値を大きくします。

ADAI51

dbid ADABAS PAM BS2000 I/O ERROR err-num IN FILE file-name

ADAI51

RABN=error-rabn (start-rabn) OP=op-code ST=fecb

説明：

BS2000 システムのみ：PAM I/O エラーが DASD ファイル file-name で発生しました。err-num は BS2000 FCB からの ID1ECB コンテンツです。error-rabn は、エラーが発生した RABN です。また、start-rabn は処理が開始された RABN です。op-code は次の 1 つ以上の操作コード値から構成されています。

X'80'	READ 読み込み操作
X'40'	WRITE 書き込み操作
X'20'	FORMAT フォーマット操作
X'10'	ENDOFTRK 終了トラックまでの読み込み／書き込み
X'08'	RENOWRT 読み取り専用ニュークリアスの場合、書き込みなし

fecb は I/O エラーに使用される FECB ブロックステータスで、SENSE、GERAETE（デバイス）、ABM および NPA の各フィールドから構成されます。詳細については、「BS2000 DVS ディスクの準備」を参照してください。

ADAI53**dbid ADABAS BS2000 I/O ERROR err-num IN FILE file-name**

説明：

BS2000 システムのみ：これは I/O エラーメッセージの最初の部分です。このメッセージの後に、ADAI54 メッセージが続きます。err-num は BS2000 エラーコードです。file-name は失敗したデータセットの LINK NAME を示します。

対処：

err-num を HELP コマンドの引数として使用して、失敗した機能に関する情報を取得します。

ADAI54**dbid EXIT=ID1XITB, STATUS=fcb-status**

説明：

BS2000 システムのみ：EXIT= の値は BS2000 FCB のエラー出口のバイトです。

fcb-status は、次を含む 6 バイトのステータスです。

バイト 0：	デバイスを表すバイト
バイト 1～3：	意味を表すバイト
バイト 4：	実行ステータスを表すバイト
バイト 5：	処理された PAM ページ数

ADAI55**dbid SOLSIG ERROR R15=ret-code, POST-CODE=post-code**

説明：

BS2000 システムのみ：SOLSIG WAIT スーパーバイザーコール (SVC) を発行したときに無効なりターン ret-code または post-code が返されました。dbid はデータベース ID です。

ADAI56**dbid UNEXPECTED RC ret-code FROM macro**

説明：

BS2000 システムのみ：SYSDTA に割り当てられたデータセットは SAM/V 以外のデータセットか 80 バイトを超えるレコードを含んでいます。macro の値は RDATA です。

ADAI57

dbid UNABLE TO LOAD ADAIOS

説明：

ADAIOS のロードに失敗しました。LOADLIB とパーティションサイズを確認してください。パーティションが小さすぎたり LOADLIB の ADAIOS メンバが欠けているのかを確認してください。

ADAI59

dbid TERMINATED WITH CONDITION CODE code

説明：

これはコントロールの最後に達したときに ADAIOR により発行された終了メッセージです。コードは、終了状態の重要性を表します。リターンコード 0 は正常終了を示します。他のアベンドコードについては、第 4 章を参照してください。

ADAI60

dbid PLOGMIR PARAMETER IGNORED - ADAI60 dbid PLOG MIRRORING NO LONGER SUPPORTED

説明：

ADARUN パラメータ PLOGMIR が YES または RAP に設定されています。PLOG ミラーリングがサポートされないため、このパラメータ設定は無視されます。

ADAI62

dbid ALLOCATION ERROR - TYPE x RETCODE ret-code ADAI62 dbid SUBCODE subcode DATASET physical-file-name

説明：

ファイルをダイナミックに割り当てようとして失敗しました。x は、A (割り当て)、D (割り当て解除)、または I (情報検索) の要求タイプを示します。RETCODE および SUBCODE はオペレーティングシステムから返されたエラーコードを表示します。

対処：

システムに対するエラーコードを解釈して、適切に対処してください。

ADAI63

dbid DATASET physical-file-name IS BEING OPENED ADAI63 dbid IN mode MODE - RABN SIZE rabn-size

説明：

指定されたデータセットは次の mode のダイナミックアロケーションを使ってオープンされています。

CKD ECKD	ファイルは、カウントキーデータ (CKD) または拡張カウントキーデータ (ECKD) チャンネルコマンドをサポートする、ストレージ制御デバイス上に存在します。ADAIOR は、適宜にチャンネルプログラムを生成します。
VSAM PAGE	z/OS システム。ファイルは、VSAM 相対レコードデータセット (RRDS) またはリニアデータセット (PAGE) です。

ADAI64

dbid FILE file-name IS BEING OPENED IN mode MODE - RABN SIZE rabn-size

説明：

指定されたファイルは mode でオープンされました。

CKD ECKD	ファイルは、カウントキーデータ (CKD) または拡張カウントキーデータ (ECKD) チャンネルコマンドをサポートする、ストレージ制御デバイス上に存在します。ADAIOR は、適宜にチャンネルプログラムを生成します。
VSAM PAGE	z/OS システム。ファイルは、VSAM 相対レコードデータセット (RRDS) またはリニアデータセット (PAGE) です。

ADAI65

dbid EXCPVR IS { BEING | NOT BEING } USED FOR THIS RUN [IN ESA64 MODE]

説明：

z/OS および z/VM システムのみ：ADAIOR が APF 認可ライブラリの連結からロードされ、ADARUN が SETCODE AC(1) ステートメントとリンクされている場合、ADAIOR はチャンネルプログラムの変換/ページ固定を実行します。メッセージ内に NOT が表示される場合、ADAIOR は、I/O オペレーションのパフォーマンスを向上するためのチャンネルプログラムの変換およびページ固定を実行しません。

EXCPVR が使用中で、オペレーティングシステムおよびプロセッサが 2 ギガバイトラインの上の実ストレージの割り当てをサポートする場合、IN ESA64 MODE がメッセージに表示されます。

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。EXCPVR を使用するために、APF 認可ライブラリに ADAIOR を設定し、ADARUN を SETCODE AC(1) でリンクした場合に、EXCPVR が使用されていないことをメッセージが示す場合は、『Adabas インストールマニュアル』で詳細を参照してください。

ADAI66**dbid ADAIO2 error-code message**

説明：

error-code は Siemens マクロリターンコードです。message は、サブタスクを開始する間に、データベースメインタスクによって生成される次のどれかに該当します。

```
ENABLING SUBTASK COM MEMORY
ENABLING CONTINGENCY
ENABLING WAIT
ENTERING JOB
GET PARAMETER MEMORY
GET SUBMIT FILE
OPENING SUBMIT FILE
SET FILE LINK
STXIT CALL ERROR
```

すべてのエラーは、システムリソースの問題が原因です。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAI67**dbid ADAI2S error-code message**

説明：

error-code は Siemens マクロリターンコードです。message は、次のいずれかになります。これらのメッセージは、サブタスク起動モジュールでサブタスクを開始するときに生成されます。

```
NO MOTHER TASK COMMON MEMORY
```

親タスクからの、データを含むメモリプールをアクセスすることはできません。親タスクはタイムアウトになったか、終了しました。

```
NO ENABLE TO MOTHER'S EVENT
```

親タスクからサブタスクへの通信を確立することができません。親タスクが終了した可能性があります。

```
CANNOT SHARE MOTHER'S LOW MEMORY
```

サブタスクパラメータアドレスエリアにアクセスすることができません。

```
CANNOT LOAD SUBTASK subtask-name
```

サブタスクのロード中にエラーが発生しました。subtask-name を含むライブラリの DDLIB および BLSLIBnn リンク名をチェックしてください。

```
CANNOT POST MOTHER PROGRAM
```

親タスクとのコミュニケーションが不可能になりました。親タスクが終了した可能性があります。

```
STXIT DEFINITION ERROR
```

サブタスク用の ESTAE (STXIT) 出口を確立中に、システムエラーが発生しました。システムリソースをチェックしてください。

ADAI68

dbid ADAIO2 message

説明：

BS2000 サブタスクに関する情報を表示するメッセージは、次のいずれかです。

```
DISABLING SUBROUTINE subtask-number subtask-startname
```

数値および起動名が指定されたサブタスクが無効になっています。

```
SUBTASK POSTED RC: return-code
```

サブタスクが指定されたリターンコードでポストしました。

ADAI68

dbid file-number VSAM FILE ERROR - reason

説明：

z/OS のみ：file-number によって識別される VSAM ファイルのオープンに失敗しました。

対処：

次の原因がある場合、どのジョブもユーザーアベンド 619 で終了します。

```
UNABLE TO LOAD INFO ROUTINE
ERROR RETURNED FROM INFO ROUTINE
INVALID INPUT TO SUBROUTINE
```

Software AG 技術サポートに連絡してください。

```
INVALID FILE TYPE (NOT RRDS OR LINEAR)
```

VSAM ファイルを、相対レコードまたはリニアデータセットとして再定義してください。

```
EXTENTS NOT ON SAME DEVICE TYPE
```

同一のデバイスタイプ上にファイル拡張をすべて再定義してください。

ADAI69

ADALNK IS RUNNING IN type MODE

説明：

BS2000のみ：ADALNKはこのメッセージを書き込んで、実行されていると推測されるモードを通知します。このときのタイプは次のいずれかです。

BATCH/TIAM	キャリアとしてのバッチまたは TIAM
UTM/3GL/AMS	アセンブラまたは COBOL、C、FORTRAN などの第3世代言語を使用する UTM
UTM/NATURAL	Natural を実行している UTM



Note: このメッセージを出力しないようにするには、SSFB2C の B2CONFIG パラメータを LNKMSG=NO に設定します。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありませんが、エラーの診断に使用できます。

10 ADAJ* システムメッセージ

ADAJ00

**READING INPUT FOR FILE file-name FROM LIBRARY lib-name SUBLIB sublibrary
MEMBER mem-name . mem-type count CARDS**

説明：

VSE システムのみ：正当な SAGUSER ステートメントが見つかり、ADARUN/Adabas ユーティリティ入力に使用されています。ADARUN 入力のファイル名は CARD であり、ユーティリティ入力のファイル名は KARTE です。ライブラリおよびサブライブラリが、*SAGUSER ステートメントに指定されていない場合、メッセージは現在の LIBDEF SOURCE ライブラリのうちのどれが、カード入力に使用されるかを示します。

このメッセージは、次に示すように、Adabas オプションテーブルの JBXIMSG パラメータによって制御されます。

JBXIMSG=YES	コンソールに表示し、メッセージを出力します。
JBXIMSG=PRT	メッセージの出力のみ行います（デフォルト）。
JBXIMSG=NO	メッセージの表示も出力も行いません。

ADAJ99

**FILE file-name req-type ERROR ON LIBRARY lib-name . sublibrary MEMBER mem-name
. memt-type - error-type**

説明：

VSE システムのみ：ファイルおよびメンバ情報を含んだ *SAGUSER ステートメントを読み込みましたが、エラーが発生しました。ADARUN 入力のファイル名は CARD であり、ユーティリティ入力のファイル名は KARTE です。ライブラリアン要求タイプ req-type は、次のうちの 1 つです。

CLOSE	LIBDEF
GET	OPEN

lib-name および sublibrary は、*SAGUSER ステートメントに指定されたライブラリおよびサブライブラリを示します。これらが両方とも指定されていない場合は、現在の LIBDEF SOURCE 連結にエラーが発生したことを示します。

error-type は次のうちのどれかです。

SUBLIBRARY NOT FOUND

正しくないサブライブラリが指定されました。

LIBRARY NOT FOUND

正しくないライブラリが指定されました。ライブラリに対して DLBL および EXTENT 情報が供給されているかを確認します。

MEMBER NOT FOUND

指定されたメンバは、指定された lib-name.sublibrary と、現在の LIBDEF SOURCE 連結のライブラリのいずれにも存在しません。

NO SUBLIB SPECIFIED

サブライブラリ名を持たないライブラリ名が *SAGUSER カードに指定されました。

INVALID MEMBER TYPE

誤ったメンバタイプ (PROC、OBJ、PHASE、または DUMP) が指定されました。

RETCODE ret-code REASON reason-code

内部ライブラリアンエラーが発生しました。詳細は、ライブラリアンフィードバックコードを参照してください。ret-code および reason-code は 16 進値です。

このメッセージは、次に示すように、Adabas オプションテーブルの JBXEMSG パラメータによって制御されます。

JBXIMSG=YES	コンソールに表示し、メッセージを出力します。
JBXIMSG=PRT	メッセージの出力のみ行います（デフォルト）。
JBXIMSG=NO	メッセージの表示も出力も行いません。

対処：

上記に提供された情報に従ってジョブセットアップを修正し、ジョブを再実行します。

11 ADAK* システムメッセージ

Adabas CICS および BS2000 TP モニタインターフェイスの操作でエラーが発生すると、次のメッセージが表示されることがあります。

CICS が起動されると、Adabas TP モニタコンポーネントにより、システムコンソール上にいくつかの情報またはエラーメッセージが表示されます。このメッセージの情報には、問題を確定するときに便利な主要な Adabas および CICS コントロールブロックのアドレスが含まれます。

- コンソールメッセージに、Adabas TRUE 環境が適切に設定されているという通知があるかどうかを確認してください。
- エラーメッセージが作成されたら、表示される CICS EIBRESP、EIBRESP2、および EIBRCODE に注意してください。
- CICS 起動時に TP モニタプログラムにより表示されるすべての Adabas レスポンスコード (ACBRSP) に注意してください。

ADAK01

{dbid} UNEXPECTED RETURN CODE {ret-code} IN {function}

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの操作中、次のいずれかの機能および理由により、メッセージにリターンコード (*ret-code*) が表示されました。

機能	理由
TRGENAMP	ターゲットに対するメモリプール (ENAMP) の有効化に失敗しました。
IDTENAMP	IDT のメモリプール (ENAMP) の有効化に失敗しました。
DSOFEI	DSOFEI マクロに失敗しました。
UENAEI	ENAEI はユーザー名で失敗しました。
SOLSIG	SOLSIG マクロに失敗しました。

機能	理由
LNKLEVEL	ADALNK レベルと ADARER レベルが合いません（リターンコードの最初のバイトと最後のバイトを参照してください）。

対処：

リターンコードの説明については、BS2000 高機能マクロのドキュメントを参照してください。

ADAK02

TYPES OF LOADLIB FOR ADALNK ({adalink}) AND ADARER MISMATCH

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、XS ライブラリから 1 つのモジュールが、NXS ライブラリから他のモジュールがロードされました。NXS コンポーネントと XS コンポーネントを組み合わせることはできません。

このメッセージは ADAK01 メッセージを伴います。

このメッセージの *adalink* フィールドのフォーマットは *xx0000yy* です。ここでは、*xx* は ADALNK のレベルを、*yy* は ADARER（ルーター）のレベルを示します。*yy* の値は *xx* の値以上である必要があります。

yy が *xx* 未満の場合、旧バージョンの Adabas によって、ADARER がロードされる IDT 共通メモリが作成されロードされます。例えば、*xx*=83 で *yy*=81 の場合、Adabas 61x ADALNK は Adabas 53x ADARER を使用しています。

対処：

ADALNK の IDTNAME を使用しているデータベース（デフォルトは ADABAS5F）の Adabas ライブラリバージョンを確認します。

以前の Adabas ライブラリを使用してデータベースを新しいバージョンにアップグレードするか、別の Adabas バージョンの異なる IDTNAME を使用します。

ADAK03

PARAMETER ERROR

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、ADALINK パラメータサービスは構文エラーを検出しました。

対処：

構文を修正して、再実行してください。

ADAK04**THE FOLLOWING ADALNK ({adalink}) ARE USED FOR THIS RUN**

説明：

これは BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に使用された ADALINK パラメータリストのヘッダーです。

対処：

対処は必要ありません。

ADAK040**ENABLING ADABAS TASK RELATED USER EXIT**

説明：

CICS PLTPI の処理中に、Adabas タスク関連ユーザー出口が使用可能になりました。

ADAK041**EXTRACTING GLOBAL WORK AREA (GWA)**

説明：

CICS PLTPI の処理中に、CICS はコマンドレベルリンクコンポーネントのグローバルワークエリア (GWA) の場所を決定します。

ADAK042**INITIALIZING ADABAS LINK ROUTINE**

説明：

CICS PLTPI の処理中に、コマンドレベルリンクルーチンに対して初期化のコールが行われています。

ADAK043**INITIALIZING ADABAS SVC COMMUNICATION**

説明：

CICS PLTPI の処理中に、Adabas SVC 環境が設定されています。

ADAK044**ADABAS Vvrs CICS ENVIRONMENT ESTABLISHED**

説明：

CICS PLTPI の処理中に、コマンドレベルリンクコンポーネントに必要な CICS 環境が構築されました。

ADAK045

T.R.U.E. {true-name} IS IN USE BY ADABAS LINK ROUTINE {link-name}

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、タスク関連ユーザー出口名とこれに関連付けられた Adabas リンクルーチンが表示されます。

ADAK046

SVC NUMBER: {svc} DEFAULT DBID: {dbid}

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、デフォルトの SVC 番号と DBID が表示されます。

ADAK047

UB POOL ADDRESS: {aaaaaaaa} NUBS: {nnnnn}

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、UB プールアドレスと NUBS 値が表示されます。

ADAK048

USER EXIT AFTER (A) ADDRESS: { {aaaaaaaa} | NOT IN USE }

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、Adabas ユーザー出口 1 (Adabas 7 のユーザー出口 A) のアドレスが表示されるか、ユーザー出口が使用されていない場合は "使用中でない" ことが表示されます。

ADAK049

USER EXIT BEFORE (B) ADDRESS: { {aaaaaaaa} | NOT IN USE }

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、Adabas ユーザー出口 B のアドレスが表示されるか、ユーザー出口 B が使用されていない場合は使用中でないことが表示されます。

ADAK05

DDLNKPAR OPEN ERROR: {ret-code}

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、ADALINK はパラメータファイルをオープンできませんでした。メッセージに示されている値 *ret-code* は DMS リターンコードです。

対処：

このファイルには SAM/V フォーマットを使用します。

ADAK050**REVIEW EXIT ADDRESS: { {aaaaaaaa} | NOT IN USE }**

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、Adabas Review 出口のアドレスが表示されるか、Adabas Review 出口が使用されていない場合は使用中でないことが表示されます。

ADAK051**ADABAS SAF SECURITY (ADASAF) IN USE**

説明：

CICSPLTPIの処理中に、Adabas外部セキュリティインターフェイス（ADASAF）が使用されています。このメッセージは、ADASAFが使用されていない場合は表示されません。

ADAK052**ADABAS TRANSACTION MANAGER (ATM) IN USE**

説明：

CICS PLTPI の処理中に、Adabas Transaction Manager（ATM）を使用して CICS リソースマネージャインターフェイス（RMI）を介して Adabas トランザクションが調整されます。このメッセージは、RMI が使用されていない場合は表示されません。

ADAK053**ADABAS BRIDGE FOR VSAM (AVB) IN USE**

説明：

CICS PLTPI の処理中に Adabas Bridge for VSAM（AVB）が使用されています。このメッセージは、AVB が使用されていない場合は表示されません。

ADAK054**T.R.U.E. GLOBAL WORK AREA (GWA) ADDRESS: {aaaaaaaa}**

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、グローバルワークエリアに割り当てられたアドレスが表示されます。

ADAK055**ADABAS LINK ROUTINE EPA: {aaaaaaaa}**

説明：

このメッセージは CICSPLTPI の処理中に表示され、Adabas リンクルーチンのエントリポイントアドレス（EPA）が表示されます。

ADAK056

ADABAS LINK ROUTINE D.C.I. EPA: {aaaaaaaa}

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、Adabas リンクルーチンダイレクトコールインターフェイス (DCI) のエントリポイントアドレス (EPA) が表示されます。

ADAK057

ADABAS SVC IDTH ADDRESS: {aaaaaaaa}

説明：

このメッセージは CICS PLTPI の処理中に表示され、Adabas SVC IDT ヘッダーのアドレスが表示されます。

ADAK058

RESYNC COMMAND ISSUED

説明：

CICS PLTPI の処理中に、Adabas の CICS RMI が使用されており、Adabas データベースに関連する未完了トランザクションの再同期が行われます。

ADAK059

ATM INACTIVE; RESYNC DEFERRED

説明：

CICS PLTPI の処理中に、Adabas の CICS RMI が使用されており、Adabas データベースに関連する未完了トランザクションを再同期する必要がある可能性があります。ただし、Adabas Transaction Manager (ATM) は現在アクティブではありません。ATM が再スタートされると再同期が行われます。

ADAK06

ADALINK STATEMENTS IGNORED, BECAUSE ADARUN STATEMENTS PRESENT

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、ADALINK はニュークリアス、ユーティリティコンテキスト、または ADARUN を伴ったユーザーコンテキストで実行されています。いずれの場合も、ADALINK ステートメントは無視されます。処理は続きます。

対処：

ADALINK ステートメントを有効にするには、これをニュークリアスやユーティリティ以外のコンテキストに ADARUN ステートメントを指定せずに指定します。

ADAK061**ADATRUE - ENABLE STAGE FAILED EIBRESP: {xxxxxxxx1} EIBRESP2: {xxxxxxxx2}**

説明：

EIB レスポンスコード `xxxxxxxx1` および EIB レスポンスコード 2 `xxxxxxxx2` のため、タスク関連ユーザー出口を有効にできませんでした。

対処：

該当する CICS ドキュメントを参照して、EXEC インターフェイスブロック (EIB) のエラーの原因を特定してください。

ADAK062**ADATRUE EXTRACT GWA FAILED EIBRESP: {xxxxxxxx1} EIBRESP2: xxxxxxxx2**

説明：

EIB レスポンスコードとレスポンス 2 コードがそれぞれ `xxxxxxxx1` と `xxxxxxxx2` であるため、要求されたタスク関連のユーザー出口グローバルストレージを抽出できませんでした。

対処：

該当する CICS ドキュメントを参照して、グローバルワークエリアの取り出しで生じたエラーの原因を特定してください。

ADAK063**INITIALIZATION CALL TO LINK ROUTINE FAILED EIBRCODE: {xxxxxxx} ADARSP: {nnnn}**

説明：

EIB レスポンスコード `xxxxxxx` または Adabas レスポンスコード `nnnn` のため、リンク初期化コマンド (IL) を実行できませんでした。

対処：

EIBRCODE フィールドがゼロ以外の値を返す場合、該当する CICS ドキュメントを参照してエラーの原因を特定してください。ADARSP がゼロ以外の値を返す場合、第 2 章のレスポンスコードを参照してください。

ADAK064**ADABAS CALL TO ESTABLISH IDTH FAILED**

説明：

レスポンス 148 以外のレスポンスコードが返されたため、Adabas に対するクローズコマンド (CL) に失敗しました。

対処：

多くの場合、この問題は ADAGSET マクロに無効な Adabas SVC 番号があることにより発生します。それ以外の場合は、Adabas SVC がインストールされているかどうか、また正しいバージョンがインストールされているかどうかを確認してください。

ADAK065

INVALID D.C.I ADDRESS - CANNOT CONTINUE

説明：

CL コマンドの実行中にコマンドレベルリンクルーチンによる IDTH アドレスの設定が行われませんでした。

対処：

正しいバージョンの Adabas コマンドレベルリンクルーチンがインストールされていること、および ADAGSET のエントリポイント名 ENTPT= が正しいことを確認してください。

ADAK066

ADACIC0 VERSION: {version} DOES NOT MATCH ADABAS LINK

説明：

ADACIC0 バージョンが、インストール中の ADATRUE または Adabas リンクルーチンのバージョンと一致しません。正常にインストールするため、3つのすべてのモジュールは同じバージョンにする必要があります。

対処：

インストールされた3つのモジュールがすべて正しいバージョンであることを確認してください。

ADAK067

LINK TO ADACIRQ FAILED EIBRESP: {rc}

説明：

このエラーは、ADACIRQ プログラム（CICS 配下のグローバルテーブル名を含む DDLINK カードを読み込むために使用）が見つからないときに発生します。次のいずれかの場合に、このエラーが発生する可能性があります。

- プログラムが DFHRPL ライブラリ連結（または VSE の CICS LIBDEF 検索順）に見つかりません。
- ADACIRQ プログラムが CICS に適切に定義されなかったか、定義されているグループがインストールされていませんでした。

対処：

ADACIRQ ロードモジュールまたはフェーズが CICS を実行できること、およびそれが CICS で適切に定義されておりその定義がインストールされていることを確認してください。エラーが解決しない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAK068

RMI INITIALIZATION ERROR: CMD: {cmd} RESP: {resp} RC: {rc}

説明：

指示されたエラーにより RMI 初期化ルーチンで処理を完了できませんでした。失敗した CICS コマンド (*cmd*) とレスポンスコマンド (*resp*)、または ATM エラーコード (*rc*) と (関連する場合は) Adabas レスポンスコード (*resp*) がメッセージに表示されることがあります。

対処：

表示されたレスポンスコードとエラーコードのいずれか、またはその両方の意味を調べます。可能であれば、エラーを修正します。エラーを解決できない場合は、詳細を Software AG 技術サポートに報告してください。

ADAK069

{message-text}

説明：

このメッセージ番号には、さまざまなメッセージテキストが表示されます。次の表を参照して、エラーの原因と対処法を確認してください。

メッセージテキスト	説明	対処
LOAD OF ACI LINK ROUTINE FAILED EIBRCODE: <i>eibrcode</i>	Adabas コマンドレベルリンクルーチンモジュールのロードに失敗しました。失敗した EXEC CICS LOAD コマンドから返された 16 進表記の CICS EIBRCODE (<i>eibrcode</i>) がメッセージに表示されます。	失敗の原因を特定します。失敗の原因は、ADAENAB インストールプログラムにより作成された前のメッセージを調査することで確認できます。これらのメッセージは、z/OS の JES ジョブログと VSE の SYSLOG に書き込まれます。詳細については、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。
LOAD OF DBID/SVC TABLE <i>tbl-name</i> FAILED EIBRESP <i>eibrbc</i>	メッセージ (<i>tbl-name</i>) に示された DBID/SVC ルーティングテーブルのロードに失敗しました。CICS EIB レスポンスコード (<i>eibrbc</i>) がメッセージに表示されます。	LGBLSET DBSVCTN パラメータに正しい DBID/SVC ロードモジュール名が指定されていることを確認してください。指定されていない場合は、名前を修正して再試行してください。正しい名前が指定されている場合は、CICS EIB レスポンスコードを確認して、問題の原因を確認してください。問題が解決しない場合は、Software AG サポートに連絡してください。

対処：

取るべき対処方法は、このメッセージ番号と一緒に発行されるメッセージテキストによって異なります。適切な対処法については、上記の表を参照してください。

ADAK07

LRVINFO>0 AND MODULE REVEXITB NOT FOUND, PROCESSING CONTINUES

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、ADALINK パラメータにゼロ以外のLRVINFO パラメータ値が指定されていますが、Adabas Review ユーザー出口B (REVEXITB) モジュールが見つかりませんでした。プログラムの処理は REVEXITB なしで続行されます。

対処：

LRVINFO=0 を指定するか、LRVINFO パラメータステートメントを削除するか、REVEXITB モジュールをプログラムに組み込みます。

ADAK070

ADABAS T.R.U.E. DISABLED {module-name}

説明：

拡張インストールプログラムの実行中にエラーが発生しました。Adabas TRUE (タスク関連ユーザー出口) が無効です。インストール中の Adabas TRUE モジュールの名前がメッセージ (*module-name*) に表示されます。

対処：

失敗の原因を特定します。失敗の原因は、ADAENAB インストールプログラムにより作成された前のメッセージを調査することで確認できます。これらのメッセージは、z/OS の JES ジョブログと VSE の SYSLOG に書き込まれます。詳細については、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

ADAK071

ADABAS LINK ROUTINE RELEASED {module-name}

説明：

拡張インストールプログラムの実行中にエラーが発生しました。CICS コマンドレベルリンクルーチンは解放されました。インストール中の Adabas CICS コマンドレベルリンクルーチンの名前がメッセージ (*module-name*) に表示されます。

対処：

失敗の原因を特定します。失敗の原因は、ADAENAB インストールプログラムにより作成された前のメッセージを調査することで確認できます。これらのメッセージは、z/OS の JES ジョブログと VSE の SYSLOG に書き込まれます。詳細については、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

ADAK072**GETMAIN FOR UB-POOL FAILED EIBRESP: {0000nnnn}**

説明：

Adabas ユーザーバッファプールの共通ストレージの CICS GETMAIN に失敗しました。CICS 要求から返された EIBRESP の値は、メッセージの最後に 16 進数で出力されます。

対処：

返された EIBRESP の値の意味については、該当する IBM CICS ドキュメントを参照してください。

ADAK073**FREEMAIN FOR UB-POOL FAILED EIBRESP: {0000nnnn}**

説明：

Adabas ユーザーバッファプールのストレージが開放されませんでした。CICS FREEMAIN 要求から返される EIBRESP の値は、メッセージの最後に返されます。

対処：

返された EIBRESP の値の意味については、該当する IBM CICS ドキュメントを参照してください。

ADAK074**ADABAS DBID/SVC TABLE IN USE IS: {table-name}**

説明：

LGBLSET パラメータである DYNDBSVC=YES および DBSVCTN=*dbid-svc-tbl-name* パラメータが CICS リンクグローバルテーブルでコーディングされており、名前付き DBID/SVC ルーティングテーブルが見つかり、ロードされます。DBID/SVC ルーティングテーブルの名前がメッセージ (*table-name*) に表示されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAK08**REVIEW EXIT B DEACTIVATED. PROCESSING CONTINUES**

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、ADALINK パラメータで LRVINFO=0 が指定または省略されている場合や ADALINK パラメータサービス全体がアクティブでない場合は、Adabas Review ユーザー出口 B (REVEXITB) がユーザープログラムに表示されます。

対処：

REVEXITB を有効にするには、LRVINFO=256 を指定します。有効にしない場合は、変更する必要はありません。

ADAK09

INCOMPATIBLE VERSIONS OF ADALNK AND ADAL2P, PROCESSING ABORTED

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、ADALNK と ADAL2P のバージョンが一致しないことが確認されました。

対処：

ライブラリ割り当てをチェックしてください。また、TSOSLNK/BINDER プロトコルもチェックしてください。

ADAK10

ADAUSER {type} FOR ENTRY {module} RC {rc}

説明：

BS2000 TP モニタインターフェイスの実行中に、Adabas リンクモジュールにアクセスしようとしてエラーが発生しました。ここで、*type* はメモリを要求する REQM またはロードを試行する BIND、*module* はアクセスするモジュール名、*rc* は Siemens マクロのリターンコードです。

対処：

type が

- BIND の場合、Adabas ライブラリを示すファイルリンクステートメントを確認します。
- REQM の場合、アプリケーションプログラムのアドレススペースのメモリが不足しています。

ADAK73

{syntax-error-message-text}

説明：

Adabas 8.1.3 CICS リンクルーチンおよびタスク関連ユーザー出口 (TRUE) の初期化および開始中に、Adabas の一時的なデータキューから読み込まれた DDLINK 入力データを処理している間に、ADACIRQ プログラムで構文エラーが発生したときにエラーが発生しました。フォーマットと適切なキーワードの値については、「CICS 用の DDLINK 入力の準備」で説明します。

このメッセージ番号と一緒に表示されることがある、エラーの可能性を示すメッセージテキストと、各問題を解決するために取るべき対処法を次の表に示します。

メッセージテキスト	説明	対処
ADACIRQ CARD ID NOT ADALNK	列 1~6 には適切な DDLINK キーワード "ADALNK" が含まれていません。	DDLINK DD ステートメントにより参照される入力データを確認し、列 1~6 に文字列 "ADALNK" が含まれていることを確認します。
ADACIRQ CCARD ID NOT FOLLOWED BY A BLANK	ADALNK キーワードのあと DDLINK 入力で指定されたキーワードの値の前は空白にする必要があります。	DDLINK DD ステートメントにより参照される入力データを確認し、DDLINK 入力が適切にフォーマットされていることを確認します。
ADACIRQ CCARD DID NOT CONTAIN DELIMITERS	ADACIRQ により DDLINK 入力データが処理されたときにキーワードデリミタ（コンマや等号記号など）が検出されませんでした。	DDLINK DD ステートメントにより参照される入力データを確認し、DDLINK 入力が適切にフォーマットされていることを確認します。
ADACIRQ KEYWORD/VALUE DELIMITER NOT FOUND	ADACIRQ により、DDLINK 入力データを処理しているときに不明なキーワードデリミタが検出されました。	DDLINK DD ステートメントにより参照される入力データを確認し、DDLINK 入力が適切にフォーマットされていることを確認します。
ADACIRQ CKEYWORD SCANNED IS UNKNOWN	ADACIRQ が DDLINK 入力データを処理しているときに不明なキーワードデリミタが検出されました。	DDLINK DD ステートメントにより参照される入力データを確認し、DDLINK 入力が適切にフォーマットされていることを確認します。
ADACIRQ KEYWORD VALUE IS TOO LONG	キーワードに指定した値が長すぎます。無効であるか、予期された空白またはコンマがありません。	DDLINK DD ステートメントにより参照される入力データを確認し、DDLINK 入力が適切にフォーマットされていることを確認します。

対処：

適切な対処については、上記の表を参照してください。

12 ADAL* - コマンドログ (CLOG) システムメッセージ

 **Note:** このセクションの各メッセージは、関連するデータベース ID で始まります。

ADAL01 CLOG NOT ACTIVE

説明：
コマンドログはシーケンシャルで、DDLOG データセットが DUMMY にセットされたか、オープンできませんでした。コマンドログ処理が無効になります。

ADAL02 CLOGRn IS ACTIVE

説明：
デュアルまたはマルチコマンドログ用に指定されたコマンドログはアクティブな状態です。

ADAL03 COMMAND LOG DDCLOGRn HAS STARTED

説明：
コマンドログは、データセット DDCLOGRn に切り換えられました。

ADAL04

WARNING : NOW IT IS TOO LATE TO COPY DDCLOGRn

説明：

指定されたデュアルまたはマルチコマンドログデータセットが新しいログデータで上書きされ、無効になりました。

ADAL05

I/O ERROR ON DDCLOGRn. COMMAND LOGGING TERMINATED

説明：

データセット DDCLOGRn に対するコマンドログで I/O エラーが発生し、コマンドログ処理を終了しました。

ADAL06

COMMAND LOG IS NOT AVAILABLE

説明：

利用可能なデュアルまたはマルチコマンドログデータセットがありません (ADARES でコピー中)。コマンドログ処理が無効になります。

ADAL07

COMMAND LOG COULD NOT BE OPENED

説明：

無効なコマンドログデバイスやサイズが指定されたか、ログデータセットの先頭/最終ブロックに I/O エラーが検出されました。コマンドログ処理が無効になります。

ADAL10

PPT ERROR nn PROCESSING CLOG

説明：

Parallel Participant Table (PPT) を処理しているときにエラーが発生しました。ニュークリアスは起動されていますが、コマンドログは無効にされます。

対処：

ADAICKPPTPRINT 機能によって提供されるような診断情報を集めてください。Software AG 技術サポートにエラー番号 nn と PPTPRINT を提供してください。PPT をフォーマットして、PPT を再構築するためにニュークリアスの再スタートが必要な可能性があります。

ADAL11

WARNING - CLOG DATASETS HAVE CHANGED. PPT OVERWRITTEN.

ADAL11

USE ADARES MERGE CLOG TO COPY PREVIOUS CLOG DATASETS.

説明：

CLOG データセットは、最後のセッションに指定されたものと異なるか、あるいは CLOG は指定されませんが、前の CLOG はコピーされませんでした。これらのデータセットについての PPT 情報は上書きされています。

対処：

CLOG の内容がまだ必要であれば、それらは CLCOPY 機能でコピーして手動でマージしなければなりません。内容が必要なければ、対処は必要ありません。

ADAL12

date time CLOGMRG=YES NOT VALID. CLOGMRG NOT IN EFFECT.

説明：

このメッセージは、CLOGMRG=YES が指定されている非 Plex/ASM ニュークリアス (NUCID=0) を初期化しようとするときに生成されます。これは通知のみが目的のメッセージで、ニュークリアスは起動されます。CLOGMRG=YES は NUCID が 0 より大きい場合にのみ指定します。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

13 ADAM* -- ADAMPM システムメッセージ

ADAM001

VM/SYSTEM PRODUCT RELEASE LEVEL UNDER 3 - NOT SUPPORTED

説明：

使用中の z/VM バージョンは、Entire Net-Work IUCV ドライバによってサポートされません。

IUCV ラインドライバをオープンできません。

対処：

システムを必要な z/VM レベルにアップグレードします。

ADAM002

LINE DRIVER MAXIMUM NUMBER OF CONNECTIONS EXCEEDED ON type MACHINE

説明：

z/VM システムのみ：能動型仮想マシン（ソース）または受動型仮想マシン（ターゲット）が、マシンの CP ディレクトリの MAXCON 値を超過したため、2 台の仮想マシン間の IUCV 接続を確立できませんでした。type は MAXCON 値を超過したマシン（ソースまたはターゲット）を示します。

対処：

当該 MAXCON 値を大きくし、マシンの CP ディレクトリを更新します。

ADAM003

NO IUCV AUTHORIZATION FOUND

説明：

仮想マシンが CP ディレクトリで IUCV 認可されていなかったため、Entire Net-Work は IUCV にサインオンできませんでした。

IUCV ラインドライバをオープンできません。

対処：

仮想マシンに対して必要な IUCV ステートメントを CP ディレクトリに追加します。

ADAM004

NO IUCV MESSAGE FOUND ON LINK link-name

説明：

Entire Net-Work IUCV ラインドライバが受信または応答を試行したメッセージが、IUCV メッセージキューに見つかりませんでした。

IUCV ラインは Entire Net-Work を異常終了します。

対処：

リンク link-name、すべての関連メッセージ、およびダンプリストを取得して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM005

IUCV function FUNCTION ERROR err-num ON LINK link-name ON PATH-ID path

説明：

指定された機能は、指定されたリンクおよびパス上で、エラー err-num を検出しました。

このメッセージの後に、ADAM007 メッセージが続きます。IUCV ラインは Entire Net-Work を異常終了します。

対処：

エラー番号 (err-num)、リンク (link-name)、およびすべての関連メッセージを取得して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM006

IUCV SEND COMPLETION ERROR err-num ON LINK link-name PATH-ID path

説明：

IUCV SEND 機能は、指定されたリンクおよびパス上で、エラー err-num を検出しました。

IUCV ラインは Entire Net-Work を異常終了します。

対処：

エラー番号 (err-num)、リンク (link-name)、およびすべての関連メッセージを取得して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM007**IUCV PARAMETER BLOCK AT LOCATION location**

説明：

このメッセージは ADAM005 エラーの後に発生し、エラーが発生した IUCV パラメータブロックの 16 進表示がこの後に続きます。

IUCV ラインは Entire Net-Work を異常終了します。

対処：

表示された情報、その他の関連エラー情報、およびダンプ情報を取得して、Entire Net-Work 技術サポートに連絡してください。

ADAM008**INCOMING TRAFFIC IMPAIRED ON LINK link-name DUE TO BUFFER SHORTAGE**

説明：

バッファスペース不足のため、リンク link-name 上のメッセージの受信が遅れています。

Entire Net-Work は、バッファ不足が解決されるまで、受信データトラフィックを中断します。

対処：

非ページングゲストオペレーティングシステムを実行している仮想マシンに対して、短期バッファサイズを増加します。または、ページングゲストシステム仮想マシンに対して、ページ固定化バッファサイズを増加します。これらのバッファは、両方とも link-name のノードに対する NODE ステートメントのパラメータによって制御されます。

ADAM009**COMMUNICATIONS IMPAIRED TO LINK link-name**

説明：

指定されたリンクとの通信は、ノードのバッファスペース不足のため、正常に機能していません。ノード上で、ADAM008 メッセージが発生し、問題を通知します。

隣接した Entire Net-Work ノードは、バッファ不足が解決されるまで、受信データトラフィックを中断します。

対処：

指定されたノード上の、非ページングゲストオペレーティングシステムを実行している仮想マシンに対して、短期バッファサイズを増加します。または、ページングゲストシステム仮想マシンに対して、ページ固定化バッファサイズを増加します。これらのバッファは、両方とも link-name のノードに対する NODE ステートメントのパラメータによって制御されます。

ADAM01**version job-name ABEND CODE code**

説明：

z/VSE システムのみ：ADAMAF アベンドが発生しました。変数メッセージ情報は次のとおりです。

version	Adabas バージョン
job-name	z/VSE ジョブ名
code	アベンドコード

ADAM010**PENDING CONNECTION REJECTED DUE TO BUFFER SHORTAGE**

説明：

このノードは、バッファスペース不足のため、接続を受け入れられませんでした。

IUCV パスは開始されましたが、接続されませんでした。

対処：

非ページングゲストオペレーティングシステムを実行している仮想マシンに対して、短期バッファサイズを増加します。または、ページングゲストシステム仮想マシンに対して、ページ固定化バッファサイズを増加します。これら2つのバッファは、指定されたノードに対する NODE ステートメントのパラメータによって制御されます。

ADAM011**NORMAL COMMUNICATIONS RESUMED TO LINK link-name**

説明：

これは、前に通信機能の低下を引き起こした状態が修正されたことを示す情報メッセージです。

メッセージ ADAM008 または ADAM009 によって示されたバッファ不足が解決されました。

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。

ADAM012**BUFFER PROGRAM CHECK ON LINK link-name**

説明：

IUCV バッファエリアへのアクセス中に、プログラムチェックが発生しました。

Entire Net-Work はダンプを伴って正常終了します。

対処：

リンク link-name、すべての関連エラー情報、ダンプリスト情報を取得して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM013

number NUMBER OF SENDS 2WAY count-a 1WAY count-b

説明：

この正常終了メッセージは、SEND/PEPLY (SEND 2WAY) と SEND 1WAY メッセージの総数および各タイプの SEND の総数を示します。

Entire Net-Work は正常終了します。

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。SEND 1WAY の数が著しく多い場合は、MSGLIM パラメータ値が不足していることを示している可能性があります。

ADAM014

number NUMBER OF REPLIES NON-NULL count-a NULL count-b

説明：

この正常終了メッセージは、IUCV リプライの総数、データを含むリプライ (NON-NULL) とデータを含まないリプライ (NULL) のカウントの総数を示します。

Entire Net-Work は正常終了します。

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。NULL リプライの数が著しく多い場合は、SEND 1WAY プロトコルが使用されるべきであることを示します。

ADAM015

INCOMING MESSAGE EXCEEDS BUFFER LENGTH ON LINK link-name

説明：

リンク link-name からの受信 IUCV メッセージが、使用可能なバッファに対して長すぎました。

Entire Net-Work はダンプを伴って正常終了します。

対処：

短期バッファプールサイズ (指定ノード ID に対して、NODE ステートメントで指定) を増加します。

ADAM016

OUTGOING MESSAGE EXCEEDS BUFFER LENGTH ON LINK link-name

説明：

送信 IUCV メッセージが、割り当てられたバッファスペースに対して大きすぎました。

Entire Net-Work は、ダンプを伴ってこのノード上の操作を終了します。

対処：

短期バッファプールサイズ（このノード ID に対して、NODE ステートメントで指定）を増加します。

ADAM017

CONNECTION TO USER user-id DENIED DUE TO BLOCK LENGTH CONFLICT

説明：

このノードの user-id LINK ステートメントの MAXBLK パラメータで指定された値が、パートナーノードで指定された値と異なります。

開始済みの IUCV パスは接続されません。

対処：

一方の LINK ステートメントの MAXBLK 値を修正し、もう一方と合わせてください。

ADAM018

MESSAGE LIMIT ON PATH TO VMID vm-id INSUFFICIENT

説明：

未解決の IUCV メッセージの最大数が許容値を超えました。

IUCV ラインは異常終了します。

対処：

IUCV LINK ステートメントの MSGLIM パラメータ値か CP ディレクトリの MSGLIMIT の値を変更します。

ADAM019

MAXIMUM BLOCK LENGTH SET TO length

説明：

最大ブロックサイズが必要なページングシステムで IUCV LINK ステートメント上に MAXBLK 値が検出されませんでした。

Entire Net-Work は、ブロック長をページサイズ length にセットします。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAM020**INITIALIZATION ERROR err-num FOR GUEST SYSTEM IUCV SUPPORT**

説明：

Entire Net-Work は、ゲストオペレーティングシステムの IUCV ラインドライバを初期化できませんでした。ドライバはオープンされません。

IUCV ドライバが唯一の指定ドライバである場合、Entire Net-Work はこのノード上のオペレーションを終了します。

対処：

エラー番号 (err-num) およびゲストオペレーティングシステムレベルを記録し、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM021**LINK link-name NOT CONNECTED ERROR err-code IUCV-CODE code**

説明：

別の仮想マシンに接続できませんでした。エラーコード err-code はオペレーティングシステムの IUCV インターフェイスから返されます。IUCV コード code は IUCV パラメータブロックの IPRCODE フィールドに返されます。値 code は、次の IUCV CONNECT エラーコードのいずれかである可能性があります。

11	ターゲットコミュニケータがログオンしていません。
12	ターゲットコミュニケータが DECLARE BUFFER 機能呼び出しませんでした。
13	この仮想マシンの最大接続数を超過しました。
14	ターゲット仮想マシンの最大接続数を超過しました。

IUCV コード 11 と 12 は、最も一般的に発生するコードです。

対処：

リンク先にある仮想マシンが、ログオンされていること、アクティブな状態にあること、および IUCV の使用を許可されていることを確認してください。err-code の意味および修正処置について、適切なオペレーティングシステム情報を参照してください。IUCV および関連するコード情報の詳細については、IBM の『z/VM System Programmer's Guide』および『z/VM System Facilities for Programming』マニュアルを参照してください。

ADAM022**PATH TO VMID vm-id DISCONNECTEDDUE TO INTERRUPT QUEUE SHORTAGE**

説明：

Entire Net-Work IUCV サポートルーチンは、割り込みキューエレメントの不足により、受信 IUCV 割り込みのステータスを保存できませんでした。

IUCV リンクが切断されました。

対処：

NETSIR の QSIZE パラメータ値を大きくし、REPLACE パラメータを指定して NETSIP を再実行します。

ADAM025I

IUCV DRIVER MANUALLY CLOSED

説明：

オペレータコマンドまたは SHUTDOWN 処理によって IUCV ドライバがクローズされました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAM13

number NUMBER OF SENDS 2WAY count-a 1WAY count-b

説明：

この正常終了メッセージは、SEND/PEPLY (SEND2WAY) と SEND1WAY メッセージの総数および各タイプの SEND の総数を示します。

ADAM14

number NUMBER OF REPLIES NON-NULL count-a NULL count-b

説明：

この正常終了メッセージは、IUCV リプライの総数、データを含むリプライ (NON-NULL) とデータを含まないリプライ (NULL) のカウントの総数を示します。

ADAM15

INCOMING MESSAGE EXCEEDS BUFFER LENGTH ON LINK link-id

説明：

指定リンクからの受信 IUCV メッセージが、使用可能なバッファ長を超過しました。

Entire Net-Work はダンプを伴って正常終了します。

対処：

リンク (IUCV LINK ステートメントで指定) に対して、メッセージブロックと圧縮オプションのいずれか、または両方を使用してください。または、短期バッファプールサイズ (指定ノード ID に対して NODE ステートメントで指定) を増加します。

ADAM16**OUTGOING MESSAGE EXCEEDS BUFFER LENGTH ON LINK link-id**

説明：

送信 IUCV メッセージが、割り当てられたバッファスペースに対して大きすぎました。

Entire Net-Work は、ダンプを伴ってこのノード上の操作を終了します。

対処：

指定リンク (IUCV LINK ステートメントで指定) に対して、メッセージブロックと圧縮オプションのいずれか、または両方を使用してください。または、短期バッファプールサイズ (このノード ID に対して NODE ステートメントで指定) を増加します。

ADAM17**CONNECTION TO USER user-id DENIED DUE TO BLOCK LENGTH CONFLICT**

説明：

このノードの user-id LINK ステートメントの MAXBLK パラメータで指定された値が、パートナーノードで指定された値と異なります。

対処：

一方の LINK ステートメントの MAXBLK 値を修正し、もう一方と合わせてください。

ADAM18**MESSAGE LIMIT ON PATH TO VMID vm-id INSUFFICIENT**

説明：

未解決の IUCV メッセージの最大数が許容値を超えました。

対処：

IUCV LINK ステートメントの MSGLIM パラメータ値、または CP ディレクトリの OPTION MAXCONN 値を修正してください。

ADAM19**MAXIMUM BLOCK LENGTH SET TO length**

説明：

Entire Net-Work は、IUCV LINK ステートメント上に MAXBLK 値を検出しなかったため、ブロック長をページサイズ length に設定しました。

ADAM20**INITIALIZATION ERROR err-num FOR GUEST SYSTEM IUCV SUPPORT**

説明：

Entire Net-Work は、ゲストオペレーティングシステムの IUCV ラインドライバを初期化できませんでした。ドライバはオープンされません。

IUCV ドライバが唯一の指定ドライバである場合、Entire Net-Work はこのノード上のオペレーションを終了します。

対処：

エラー番号 (err-num) およびゲストオペレーティングシステムレベルを記録し、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM81

dbid UNEXPECTED RETURN CODE ret-code information IN function

説明：

BS2000 システムのみ：BS2000 のマクロまたは機能 function が予期しないリターンコード ret-code を発行しました。指定されたマクロまたは機能によっては、information にエラー固有の詳細情報が含まれます。

機能	情報
ENAEI	タスクシーケンス番号
DISEI	タスクシーケンス番号
POSSIG	タスクシーケンス番号
ENAMP	プール名。ret-code が 08...00 の場合、共通メモリプールはすでに存在しますが、新しいプールが必要です。
REQMP	プール名
MP2LEVEL	ADAMP2 レベル (1 バイト目)、ADARER レベル (4 バイト目)

対処：

ENAMP 機能で ret-code が 08...00 の場合、共通メモリプールはすでに存在しますが、新しいプールが必要です。アクティブなニュークリアスを再度起動しようとした可能性があります。ENAMP 機能が表示された場合は、同じニュークリアスを同一のタスクで 2 回起動しないでください。

別の Adabas ニュークリアスによって互換性のないリエントラントルーターがロードされると、MP2LEVEL が表示されます。リターンコードの意味および対処については、関連する BS2000 の情報を参照してください。

ADAM82

dbid ADABAS CANCELLED IN BOURSE WAIT

説明：

BS2000 システムのみ：イベントの待機中に Adabas ニュークリアスがキャンセルされました。

ニュークリアスは、終了リカバリに制御を付与せずに終了し、DIB ブロックがリセットされます。ユーザーアベンドコードは 233 です。

ADAM83**dbid text**

説明：

BS2000 システムのみ：メッセージ text について次の説明を参照してください。

```
NEW IDT CREATED,NAME=idt-name,GROUPS={YES | NO}
```

レポートタスクが、16 MB 境界より上に新しい ID テーブル `idt-name` を作成します。属性は `GROUPS=NO` (マシン全体) または `GROUPS=YES` (ユーザーログオンの範囲内) です。

```
CONNECTED TO IDT idt-name,GROUPS={YES | NO}
```

レポートタスクが、16 MB 境界より上にある既存の ID テーブル `idt-name` に参加します。属性は `GROUPS=NO` (マシン全体) または `GROUPS=YES` (ユーザーログオンの範囲内) です。

```
CMDQ/AB POOL ENABLED, LOC=loc
```

コマンドキュー (CMDQ) プールが位置 `loc` (above または below) にあります。

```
DISCONNECTED FROM IDT idt-name
```

ニュークリアスが ID テーブル `idt-name` の使用を終了しました。別のニュークリアスまたはユーザータスクが ID テーブルをホールドしています。

```
DISCONNECTED FROM CMDQ/AB POOL
```

ニュークリアスは処理を停止しましたが、コマンドキュー (CMDQ) プールは、ユーザータスクによるホールド状態のままです。

```
IDT DISABLED, NAME=idt-name
```

```
CMDQ/AB POOL DISABLED
```

ニュークリアスが処理を停止しました。コマンドキューを使用しているユーザータスクはありません。コマンドキューはシステムから削除されます。

ADAM85**dbid IDT INIT ERROR : text**

説明：

BS2000 システムのみ：IDT の初期化中にエラーが発生しました。メッセージに応じて次の説明を参照してください。

```
ADARER IS NO BS2000 ROUTER
```

ロードライブラリに整合性のあるルーターモジュール（ADARER）がありません。

```
WRONG ADARER VERSION vv EXPECTED: ee
```

ロードライブラリに以前の Adabas バージョンのルーターモジュール（ADARER）があります。vv は、検出されたバージョンレベル、ee は要求されたバージョンレベルです。

```
RERPROG NE "RERBS2"  
NOT AN XS ROUTER  
NOT AN SMP ROUTER  
ROUTER NOT AT OFFSET 0
```

Adabas ルーター（ADARER）を含むモジュールがロードされましたが、これは要求されたバージョンの SSF ルーターではありません。

対処：

ロードライブラリの内容を確認してください。ロードライブラリの割り当てを確認してください。

ADAM86

dbid IDT CONN ERROR : text

説明：

BS2000 システムのみ：既存の IDT への接続中にエラーが発生しました。メッセージに応じて次の説明を参照してください。

```
ADARER IS NO BS2000 ROUTER
```

IDT に整合性のあるルーターモジュール（ADARER）がありません。IDTNAME= に、Adabas IDT 以外のメモリプールが指定されています。

```
WRONG ADARER VERSION
```

IDT に以前の Adabas バージョンのルーターモジュール（ADARER）があります。

対処：

IDTNAME= パラメータを確認してください。最初に呼び出して IDT を初期化するターゲットには、最新の Adabas バージョンが使用されている必要があります。

ADAM86

**dbid IDT CONN ERROR : text 1) SMP SVC (ROUTER EXTENSION) NOT LOADED 1)
DBID ALREADY IN USE BY SMP CLUSTER 2)**

説明：

BS2000 システムのみ：IDT に接続しようとしたときにエラーが発生しました。IDTNAME で指定されたメモリプールは見つかりましたが、予期された構造が含まれていませんでした。メッセージ text について次の説明を参照してください。

```
RERPROG NE "RERBS2"
```

検出された ADARER プログラムは、要求された RERBS2 ではありませんでした。

```
ROUTER ID WAS xxxx, EXPECTED yyyy
```

検出されたルーター ID (xxxx) は、要求されたルーター ID (yyyy) ではありませんでした。

```
RERAIDT = ZERO  
IDIDTID = WRONG VALUE  
NOT AN SMP ROUTER
```

このメッセージは、バージョン 6.1.3 以上の Adabas ニュークリアスが SMP 以外のルーターに接続しようとしたときに発生します。これは、ニュークリアスに Adabas バージョン 6.1.2 以下のモジュールが含まれていることを示します。

対処：

次の点について確認します。

- IDTNAME で適切なバージョンレベルの IDT が指定されているかどうか
- 内部 SMP 用に予約された DBID が別のターゲットで使用されていないかどうか

ADAM88

dddd Processor(s) = n

説明：

BS2000 のみ。これはデータベース ddddd が起動されたコンピュータで利用可能なプロセッサ数 (n) を知らせる情報メッセージです。

対処：

対処は必要ありません。

ADAM89

dbid UNEXPECTED RETURN CODE ret-code FROM SSF FUNCTION (function)

説明：

BS2000 システムのみ：指定された SSF 機能で回復不能な状況が発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAM90

**dbid ADABAS SUBTASK ABEND CODE code PSW password reg0 reg1 reg2 reg3 (R0-R3)
reg4 reg5 reg6 reg7 (R4-R7) reg8 reg9 reg10 reg11 (R8-RB) reg12 reg13 reg14 reg15 (RC-RF)**

説明：

Adabas サブタスクのアベンドが発生しました。アベンドコード、パスワード、およびレジスタ情報は、ADAM99 メッセージと同じ形式で示されます。

サブタスクは、Adabas ユーザーアベンド 252 で終了します。

ADAM90

dbid POST MODULE ADAAPSPE LOADED

説明：

BS2000 のみ。

これは情報メッセージではありません。Smarts (APS) ポスティングモジュール ADAAPSPE がルーターにロードされたことを通知します。Smarts アプリケーションへのアクセスが有効になったことの確認です。

ADAM91

dbid target USER GONE JOB job-name USER ID hex-user-id

説明：

Adabas はユーザーコールを処理しようとしたが、データエリアをアドレスすることができなかったか、認識できるデータが存在しませんでした。このメッセージは Adabas でのコマンド（ルーター 08 コール処理）の受信中に発生します。

通信の遅延やタイムアウトなどが原因で、Adabas コマンド（ルーター 04 コール）発行後にプログラムがキャンセルされた可能性があります。

対処：

可能な場合は、プログラムの終了、アベンド、キャンセルは実行しないことをお勧めします。

ADAM92**dbid target USER GONE JOB job-name USER ID hex-user-id**

説明：

Adabas はユーザーコールを処理しようとしたが、データエリアをアドレスすることができなかったか、認識できるデータが存在しませんでした。このメッセージは Adabas がコマンド処理（ルーター 12 コール処理）完了後、ユーザーに通知を行っている間に発生します。

通信の遅延やタイムアウトなどが原因で、Adabas コマンド（ルーター 04 コール）発行後にプログラムがキャンセルされた可能性があります。

対処：

可能な場合は、プログラムの終了、アベンド、キャンセルは実行しないことをお勧めします。

ADAM92**dddd Post Module ADAAPSPE loaded**

説明：

BS2000 のみ。これは情報メッセージです。Smarts (APS) ポスティングモジュール ADAAPSPE がルーターにロードされたことを通知します。Smarts アプリケーションへのアクセスが有効になったことの確認です。

対処：

可能な場合は、プログラムの終了、アベンド、キャンセルは実行しないことをお勧めします。

ADAM93**dbid target USER GONE JOB job-name USER ID hex-user-id**

説明：

ユーザープログラムが Adabas コール（ルーター 16 コール処理）の結果を受け取らずに、ADARUN CT の許容時間を超過しました。この現象はシステムまたはネットワークの過重負荷、低いプライオリティ、TP モニタ処理の遅延などによって引き起こされます。

Adabas は、ユーザープログラムがキャンセルされたものとみなし、該当のコマンドキューエレメント（CQE）と代替バッファを解放します。ユーザープログラムが後でルーター 16 コールを発行すると、レスポンスコード 254 が返されます。

対処：

ADARUNCT の時間値を増やす必要があるかを確認します。その必要がなければ、ユーザープログラムのリソースを増やします。この場合、ユーザープログラムのキャンセルや終了は実行しないでください。

ADAM94**dddd Post Module ADAASPE loaded**

説明：

BS2000 のみ。Smarts (APS) ポスティングモジュール ADAAPSPE がルーターにロードされたことを通知する情報メッセージです。Smarts アプリケーションへのアクセスが有効になったことの確認です。

対処

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAM96**dbid MPM RUNNING IN XAE-mode-type MODE UNDER Vv****ADAM96****dbid MPM RUNNING IN ops - mode-type MODE UNDER level**

説明：

このメッセージは、Adabas が起動しているモードを示します。

ops	z/VSE オペレーティングシステムタイプ (370 または ESA)
v	z/VSE バージョン
mode-type	SHARED NON-SHARED NON-SPECIFIED
level	オペレーティングシステムレベル

ADAM97**dbid MVS HAS SET THIS SERVICE'S ASCB/ASID UNUSABLE UNTIL THE NEXT IPL INITIATOR MUST BE RESTARTED**

説明：

ASID 群はクロスメモリサービスによって定義されます。Adabas による ASCB/ASID の使用に関する詳細は、「クロスメモリサービスの要件」セクションを参照してください。

対処：

イニシエータを開始するようにシステムオペレータに要請します。

ADAM97**dbid THIS ASCB/INITIATOR WILL BE TERMINATED BY MVS AT EOJ**

説明：

アクティブなクロスメモリ環境を持つニュークリアスが終了すると、正常終了かどうかに関わらず、アドレススペース全体も、すべてのイニシエータを含めて、終了します。『Adabas インストールマニュアル』の「クロスメモリサービスの要件」セクションを参照してください。

対処：

対処は必要ありません。この情報はユーザー用の情報です。

ADAM98

dbid TARGET INITIALIZATION ERROR: {cause}

説明：

メッセージ (*cause*) に示された次のいずれかの原因により、ADAMPM ではリージョン間コミュニケーションを確立できませんでした。

原因	対処
COMMUNICATOR RSP= <i>resp-code</i>	Entire Net-Work のコミュニケーターへのサインオンコールの結果、予期しないレスポンスコードが返されました。このメッセージは、何らかの原因で Entire Net-Work のインストールが完了していなかった場合も発行されます。 レスポンスコード <i>resp-code</i> の説明については、Entire Net-Work のドキュメントを参照してください。
CQ/AB INCORRECT KEY	サービスの CQ および AB プールが正しい属性で取得されませんでした。実行ライブラリが正しいことを確認します。エラーを解決できない場合は、Software AG サポートに連絡してください。
DUP ID ON NODE <i>node-id</i>	Entire Net-Work では、接続システムすべてに対してターゲット（データベース）ID が固有である必要があります。重複したターゲット ID は Entire Net-Work に接続したシステムでは使用できません。 指定したノード ID を持つ競合ターゲットを探し、指定した ID の下でアクティブにするものをどれか選びます。
DUPL. COMMUNIC./TRANSL.	アクティブにできるコミュニケーター/トランスレータは常時1つだけです。 問題を修正し、ジョブを再実行してください。
DUPLICATE ID (LOCAL)	指定されたターゲット ID（データベース ID）に対してアクティブなエントリが、すでに ID テーブルに存在しています。同じ ID をもつ複数のターゲットが存在することは許されていません。 2つのターゲットのうち、アクティブにするものを選択し、必要な場合は現在アクティブなターゲットを終了させ、もう一方のターゲットに対してジョブを再実行します。 無効になったターゲットによって、ID テーブルエントリがアクティブな状態で放置されていることが明らかな場合以外は、ADARUN パラメータ FORCE=YES を指定しないでください。この問題が解決しない場合は、Software AG サポートに連絡してください。
ID TABLE FULL	システムはすでに、同時にアクティブにできる ID テーブルエントリの最大数をホールドしています。これには、データベース、Entire Net-Work ノード、Entire System Server（Natural Process）ニュークリアスなどが含まれ

原因	対処
	<p>ます。この最大数は、ID テーブルを初期化するときの設定され、デフォルトは 10 です。</p> <p>アクティブなターゲットのいずれか1つを終了してジョブを再実行するか、アクティブなターゲットをすべて終了してからIDテーブルのサイズを大きくして再度初期化します（ADASIP またはシステムの再 IPL を実行）。</p>
INCOMPATIBLE SVC VERSION	ADASVC のリリースは、ADAMPM と同じかそれ以降である必要があります。SVC および実行ライブラリが正しいことを確認します。
INTERNAL ERROR	すべてのダンプ、メッセージ、その他の関連情報を取得し、Software AG サポートに連絡してください。
INVALID ID (DA PARM)	TARGETID または DATABASE パラメータの値を 1~65535 の範囲で指定します。
LENGTH IUB (LU PARM)	LU パラメータの値を 1~65535 の範囲で指定します。
NO COMMON MEMORY CQ/AB	<p>コマンドキュー (CQ) /アタッチドバッファプールに必要な共通ストレージスペースが確保できません。</p> <p>可能な場合は、バッファの使用量を少なくするか、使用できなくなっていた共通ストレージを解放するためにシステムの再 IPL を実行します。</p>
NO ID TABLE	<p>ADASIP または ADASIR によって、ID テーブルが正しく初期化されていないことを示します。VM/CMS では、ID テーブルマネージャ仮想マシンが、アクティブでないことを意味します。</p> <p>ID テーブルを正しく初期化するために、ADASIP および ADASIR、またはいずれか一方を再実行します。</p>
NUMBER ATTBUFS (NA-PARM)	<p>アタッチドバッファアカウント (ADARUN の NA パラメータ) が指定されていないか、ゼロが指定されているか、または要求スペースを確保できませんでした。</p> <p>パラメータを修正するか、リージョンサイズを大きくして、ジョブを再実行します。</p>
NUMBER CQES (NC PARM)	NC パラメータの値を 1~32767 の範囲で指定します。

ADAM99

dbid ADABAS ABEND CODE code PSW psw op-sys reg0 reg1 reg2 reg3 reg4 reg5 reg6 reg7 (R0-R7) reg8 reg9 reg10 reg11 reg11 reg13 reg14 reg15 (R9-RF) ANC0 addr ANC1 addr . . . ANC4 addr ANC5 addr ANC6 addr . . . ANC9 addr ANET addr ASMP... ASMQ... ADSE... ACSH addr AREV addr EX1 ... EX2 ... EX3 ... EX4 add r EX7 addr EX8 addr AIOR addr AIOI ... ALNK .. AMPM .. ARUN addr

説明：

システムまたはニュークリアスのアベンドにより、STAE アベンドルーチンがアクティブになりました。z/VSE システムでは、アベンドコードの右端 3 桁はゼロです。システムアベ

ンドコードは、左側の次3桁 (00ccc000) によって形成される値で引用されます。右端3桁に表示されるアベンドコード (00000ccc) は、Adabas ニュークリアスアベンドコードです。

(z/VSE システムのみ) システムアベンドコードは z/VSE/AF キャンセルコードです (コードの意味については、IBM の z/VSE/AF メッセージおよびコードマニュアルを参照してください)。

その他に、アクティブなプログラム状況ワード (psw)、ワークレジスタの内容、およびアベンド時の Adabas ニュークリアスモジュールのエントリポイントがメッセージに表示されます。psw は 16 桁のプログラム状況ワードで、次の形式で出力されます。

```
nnnnnnnnn nnnnnnnn
```

右側の 6 桁または 8 桁 (ESA システム) には、アベンド時の命令アドレスが含まれています。

(BS2000 システムのみ) code フィールドの最初の語の右端2バイトは、STXIT 割り込みコードを表します (コードの意味については、マニュアル『Executive Supervisor Calls』を参照)。

16 個のレジスタ値 reg0~reg15 は、障害が起きた時点のワークレジスタの内容を示します。ADANC セクションは、Adabas ニュークリアスモジュールのアドレス...(addr) を表します。アドレス値の前の文字はモジュール名の省略形です。

ロードされていないモジュールのアドレスは 0 になっています。アベンドコード、レジスタ、およびアドレスはすべて 16 進表示です。

このメッセージの後に、Adabas ユーザーアベンド 253 が発生します。

対処:

ニュークリアスアベンドの詳細については Adabas のドキュメントを参照してください。システムアベンドが発生した場合は、該当のオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

14 ADAQ* システムメッセージ

ADAQnn メッセージは Adabas Review ハブから受け取ります。

 **Note:** このセクションの各メッセージは、関連するデータベース ID で始まります。

ADAQ89

POSSIBLE CONFLICT BETWEEN REVIEW HUB AND UEX4. RAOSEXIT DISABLED.

説明：

UEX4 パラメータに加えて、ハブ ID 値を持つ REVIEW パラメータを指定することによって、Adabas Review ハブが使用可能に設定されました。しかし、ユーザー出口 4 モジュールは RAOSEXIT (Adabas Review ハブと互換性を持たない Review ユーザー出口) として認識されました。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、ADALOG によるユーザー出口 4 のコールは実行されません。

対処：

直前の変換で使用した UEX4 パラメータが残っている場合は削除します。それ以外の場合は、正しいユーザー出口 4 モジュール名を指定してください。

ADAQ90

REVIEW HUB INACCESSIBLE BECAUSE REVIEW HUBID WAS NOT SPECIFIED.

説明：

REVIEW ハブ ID 値がゼロでした。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、Adabas Review ハブのコールは実行されません。

対処：

正しい REVIEW ハブ ID 値を指定し、ニュークリアスを再スタートします。

ADAQ91

module-name MONITORING SYSTEM INITIALIZATION FAILED. SEE ERROR MESSAGES.

説明：

指定されたモニタシステムコンポーネントが、ゼロ以外のステータスを返しました。このような障害では、エラーメッセージが返され、モニタシステムに表示されます。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

モニタシステムのエラーメッセージを確認し、エラーの原因を修正して、ニュークリアスを再スタートします。

ADAQ92

module-name MONITORING SYSTEM WAS NOT LOADED. CONTACT YOUR VENDOR.

説明：

指定されたモニタシステムコンポーネントをロードできませんでした。予期されたモジュールを含むロードライブラリが、ニュークリアスのジョブストリームに指定されなかった可能性があります。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

エラーの原因を修正し、ニュークリアスを再スタートします。

ADAQ93

module-name MONITORING MAY BE INCOMPLETE BECAUSE ADALOG IS NOT LOADED.

説明：

コマンドロギングモジュール ADALOG がロードされませんでした。モニタシステムは、コマンドログレコードを処理できません。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

エラーの原因を修正し、ニュークリアスを再スタートします。

ADAQ94

module-name IS AN INCORRECT VERSION LEVEL. CONTACT YOUR VENDOR.

説明：

指定されたモジュールは無効なバージョンレベルであり、このバージョン/SM レベルの Adabas で使用することはできません。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

モニタシステムの販売元に連絡して、正しいモジュールが使用または提供されているかどうか確認してください。

ADAQ95

module-name DOES NOT HAVE THE CORRECT PIM. CONTACT YOUR VENDOR.

説明：

指定されたモジュールは、このバージョン/SMレベルの Adabas と互換性がありません。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

モニタシステムの販売元に連絡して、正しいモジュールが使用または提供されているかどうか確認してください。

ADAQ96

module-name CANNOT MONITOR IOR CALLS AT THIS TIME. UNUSUAL ERROR.

説明：

Adabasは、I/Oアクティビティをモニタするために、指定されたモニタシステムモジュールに制御を付与することができません。Adabas システム依存のインターフェイスモジュールが正しくロードされませんでした。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

エラーメッセージ番号およびモジュール名を記録し、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAQ97

system-name IS NOT A RECOGNIZED MONITOR SYSTEM. CHECK YOUR PARAMETER.

説明：

パラメータ MONITOR=system-name は、有効なモニタシステム名を指定していません。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、モニタシステムのコールは実行されません。

対処：

パラメータを修正し、ニュークリアスを再スタートします。

ADAQ98

system-name CONFLICTS WITH REVIEW HUBID PARAMETER. ADABAS REVIEW HUB ASSUMED.

説明：

ハブ ID 値を持つ REVIEW パラメータが、MONITOR パラメータとともに指定されましたが、指定されたモニタシステム名は Adabas Review ではありませんでした。Adabas は、Adabas Review をモニタシステムとみなし、そのハブにコールを送信します。

対処：

Adabas Review が適切なモニタシステムであれば、対処は必要ありません。Adabas Review ハブがモニタシステムではない場合、REVIEW パラメータを削除し、ニュークリアスを再スタートします。

ADAQ99

REVIEW HUBID = ADABAS DBID IS NOT PERMITTED. REVIEW HUB INACCESSIBLE.

説明：

指定された REVIEW ハブ ID 値が、DBID パラメータに指定された値と同一です。Adabas Review ハブは、Adabas ニュークリアスで使用されるものと同じターゲット ID を持つことはできません。Adabas ニュークリアスは初期化を完了しますが、Adabas Review のコールは実行されません。

対処：

REVIEW パラメータを修正し、ニュークリアスを再スタートします。

15 ADAR* システムメッセージ

すべての ADARnn メッセージは、オペレータコンソールに出力されます。

ADAR01

version job-name load-name RC=ret-code

説明：

LOAD マクロまたは CDLOAD マクロが失敗し、ADARUN は ADAIOR をロードできませんでした。ADARUN はメッセージを発行し、異常終了（アベンド）します。load-name は、LOAD (SVC 4) の場合には LOAD、CDLOAD (SVC65) の場合には CDLO になります。ret-code は CDLOAD マクロまたは LOAD マクロのリターンコードです。リターンコードの意味は次のとおりです。

CDLOAD マクロのリターンコードの意味

0	正常終了しました。
4	GETVIS エリアサイズに問題はありません。
8	GETVIS エリアを超える長さを指定しました。
12	GETVIS ストレージの空きスペースが不足しています。
16	CDLOAD ディレクトリに空きスペースがありません。
20	フェーズが存在しません (RETPNF=YES の場合)。
24	要求されたモードフェーズに移行します。

LOAD マクロのリターンコードの意味

0	LOAD が正常に終了しました。
4	フェーズが見つからないか、削除されたか、または再カタログされています。
8	回復不可能な I/O エラー。
12	無効なライブラリ/サブライブラリ構造が検出されました。
16	アドレス範囲に違反があります。ディレクトリエントリがパーティションよりも大きいか、またはフェーズがパーティションに合っていない。
20	セキュリティ違反
24	ライブラリのディレクトリエントリに不整合があります。フェーズの長さ、再配置の状態、ロードポイント/パーティションの開始アドレスまたはロードポイント/エントリポイントアドレスが異なります。ライブラリのディレクトリエントリがローカルエントリを上書きします。
28	パーティション/一時的論理エリアが小さすぎます。

ADAR10

**LOGIC ERROR AT module+offset R0=reg0 R1=reg1 R2=reg2 R3=reg3 R4=reg4 R5=reg5
R6=reg6 R7=reg7 R8=reg8 R9=reg9 RA=regA RB=regB RC=regC RD=regD RE=regE RF=regF**

説明：

ユーティリティまたはニュークリアスを実行して情報を収集しているか、または ADARAI ユーティリティ自体を実行しているときに、ADARAI の処理で論理エラーが発生しました。論理エラーの発生場所は、モジュールとオフセットで示されます。また、エラー発生時のレジスタの状態は、メッセージの次の行以降に示されます。

対処：

技術サポートに連絡してください。エラーの再現に必要な操作と、エラーメッセージの内容をお知らせください。

ADAR12

action ERROR 'error' ON file DATASET

説明：

処理中に I/O エラーが発生しました。Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントまたはユーティリティコンポーネントからデータセットに発行された処理は、action 値で示されます。データセットは file 値、エラーは error 値でそれぞれ示されます。

action	OPEN	- データセットがオープンされている
	CLOSE	- データセットがクローズされている
	READ	- データセットが読み込まれている
	WRITE	- データセットが書き込まれている
error	発生したエラーの内容	
file	RLOG	- RLOG データセットでエラーが発生
	PLOG	- PLOG データセットでエラーが発生
	ASSO	- ASSO データセットでエラーが発生

対処：

error 値は、特定のデータセットにアクセスしているときに発生したエラーを表します。

ADAR13

INCONSISTENT DBID {asso-dbid}, RLOG DBID {rlog-dbid}

説明：

GCB 内のデータベース ID (*asso-dbid*) が、RLOG の初期化に使用されたデータベース ID (*rlog-dbid*) と一致しません。このメッセージは Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントから発行され、ユーティリティ操作またはニュークリアス初期化の要求が失敗したことを示します。

対処：

このユーティリティの実行に使用された RLOG が、使用中のデータベースと連動するように初期化できなかったか、またはデータベースのデータベース ID が変更されています。この場合、ADARAI PREPARE 機能を使用して、RLOG を再初期化する必要があります。

ADAR14

GENERATION gen-num STARTED

説明：

新しい世代を開始するユーティリティ操作を実行しました。新しい世代の番号は *gen-num* です。この世代が現行世代になります。このメッセージは、新しい世代の開始時に Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントから発行されます。

ADAR15

ADARAI REQUEST request RETURNED RC=rc REASON=reason

説明：

要求 (request) を受けて ADARAI データ収集コンポーネントがコールされましたが、この要求はリターンコード (rc) と理由コード (reason) で終了しました。rc が 8 よりも小さい場合は、要求は正常終了していますが、コードによってはメッセージが発行されることもあります。rc が 8 以上の場合は、要求は失敗しています。

対処：

ほとんどの場合、このエラーが発行された原因は、Adabas またはシステムから以前に発行されたメッセージで確認することができます。以前のメッセージを見てもこのメッセージが発行された原因がはっきりとしない場合は、技術サポートに連絡してメッセージの内容を伝えてください。

ADAR16

INSUFFICIENT STORAGE FOR ADARAI PROCESSING REQUESTED reqsize BYTES OBTAINED stgsize BYTES

説明：

Adabas Recovery Aid ユーティリティコンポーネントが処理に使用するために、reqsize バイトのストレージを確保しようとしたのですが、実際に確保できたストレージは stgsize バイトです。ADARAI は処理できませんでした。

対処：

ADARAI が使用可能なストレージの量を reqsize～stgsize になるまで増やしてください。

ADAR17

RLOG OPEN ERROR DD/RLOGR1 NOT FOUND

説明：

Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントまたはユーティリティコンポーネントは、DDRLOGR1 という RLOG データセットをオープンしようとしたのですが、そのファイルはこのジョブでは使用することができません。

対処：

ジョブに DDRLOGR1 ファイルを指定してからジョブを再実行してください。

ADAR18

RLOG OPEN ERROR error

説明：

Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントまたはユーティリティコンポーネントが RLOG データセットをオープンしようとしたのですが、オープンエラーが発生しました。エラーの内容は error 値で表されます。このエラーは、DDRLOGR1 ファイルが存在していても、他にエラーがあることを示します。

対処：

error 値で表されるエラーを修正し、ジョブを再実行してください。

ADAR19

SERIOUS ADARAI ERROR FAILURE COULD NOT BE SET IN THE RLOG DATASET

説明：

Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントは、特定の種類の問題が発生すると、世代の記録中に問題が発生したことを示すように、現行世代のステータスを設定しようとします。このメッセージが発行された場合は、RLOG データセットにエラーを設定することはできません。現行世代のステータスが正常に見えても、データは損失するため、このエラーは特に重大です。この世代を使ってデータベースを回復しようとする、データが損失するか無効になる可能性があります。

Adabas Recovery Aid データ収集インターフェイスは、アベンドコード 33 で異常終了します。このコードは、ユーティリティまたはニュークリアスの実行が異常終了したことも意味します。

対処：

問題が発生しているデータベースで、新しい世代をすぐに開始する必要があります。また、このエラーが発生した世代が無効になっていることを記録しておいてください。次に、このエラーメッセージの前に発行された別のエラーメッセージを確認して、問題の内容を特定してください。必要な場合は、技術サポートに連絡してください。

ADAR20

THE CURRENT GENERATION IS status

説明：

このメッセージは、現行世代が normal 以外のステータスになったときに、Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントから発行されます。現行世代を自動的に回復できなくなった可能性があることをユーザーに通知するために、ADARAI データ収集インターフェイスがコールされると、このメッセージが発行されます。

対処：

このメッセージは情報の通知のみが目的であるため、RLOG のステータスがインストール上、問題がなければ無視しても構いません。問題がある場合は、新しい世代をできるだけ早く開始し、世代が異常なステータスになった原因を究明する必要があります。

ADAR21

PLOG INFORMATION NOT FOUND FOR ALL OR SOME OF THE FOLLOWING BLOCKS:

PLOG NUMBER plog

LOW PLOG BLOCK NUMBER lowblk [NUCID nucid]

HIGH PLOG BLOCK NUMBER highblk [NUCID nucid]

説明：

Adabas Recovery Aid ユーティリティ (ADARAI) は、特定の世代を構築しているとき、その世代に必要な PLOG がすべて有効かをどうかをチェックします。このチェックは、PLOG エントリの順序に従って、世代の開始から終了まで行われます。PLOG ブロックの特定の範囲に有効な PLOG が存在しなければならないときに、そのデータの中に関連する PLOG を検出できない場合、このメッセージが発行されます。表示されるデータ値は次のとおりです。

plog	情報が不足しているブロックが検出された PLOG の番号です。
lowblk	検出できなかった PLOG ブロックの最小番号。この値がゼロ以外の場合には、クラスタニュークリアス ID がその次に表示されます。
highblk	検出できなかった PLOG ブロックの最大番号。この値がゼロ以外の場合には、クラスタニュークリアス ID がその次に表示されます。
nucid	この値がゼロ以外の場合には、クラスタニュークリアス ID が PLOG ブロックの最大番号または最小番号の次に表示されます。

対処：

このエラーの原因としては、現行世代が操作の対象であるときに、その時点でニュークリアスが終了していなかったか、または直近の PLOG のコピージョブが完了していなかったことが考えられます。これに該当しない場合は、1 つ以上の PLCOPY ジョブが RLOG に情報を記録できなかったことを意味します。このエラーの発生時期と原因を確認するには、問題のあるブロックをコピーした PLOG ジョブを探して、データが RLOG データセットに書き込まれなかった原因を調べます。

ADAR31

GENERATION RESTRICTED DUE TO reason

説明：

データベースで特定のイベントが発生すると、ADARAI は、データベースまたはデータベースのファイルを変更せずに回復するためのリカバリジョブを生成できなくなります。このエラーが発生すると、Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントは、その世代を restricted ステータスとしてデータが記録されるように設定します。この状態になったときにメッセージが発行され、世代が restricted に設定された原因が reason に示されます。

対処：

このメッセージは情報の通知のみが目的ですが、このメッセージが発行されたら、できるだけ早く新しい世代を開始して、世代を normal ステータスに戻すことをお勧めします。

ADAR76**RLOG: count-a BLOCKS OUT OF count-b USED (nn%)**

説明：

RLOG データセット内の世代のうち最も数の少ないものが、そのデータセットに記録可能な RABN の半分以上を使用しています。Adabas Recovery Aid 収集コンポーネントが RLOG データセットに情報を書き込む際に、このチェックが行われます。このメッセージが表示されても、現在のニュークリアスまたはユーティリティセッションの正常な終了には影響しません。変数の値の意味は次のとおりです。

count-a	RLOG に記録可能なブロックの総数
count-b	RLOG で現在使用されているブロックの数
nn	RLOG ブロックの現在の使用率

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。

ADAR77**RECOVERY LOG FILE OVERFLOW**

説明：

Adabas Recovery Aid データ収集コンポーネントは、現行世代に関する情報を書き込もうとしましたが、現行世代を RLOG に格納できないため、RLOG の他の世代を削除できませんでした。RLOG のログ記録を停止します。現在のセッションに関する情報は完全には記録されておらず、またこれ以降の情報も記録されません。このエラーが発生しても、現在のニュークリアスまたはユーティリティセッションの正常な終了には影響しません。

対処：

ADARAI LIST ユーティリティ機能を実行して、既存の RLOG 情報の保管と、RLOG データセットのバックアップのいずれか、または両方を行ってください。RLOG のサイズを増やしてください。ADARAI PREPARE と ADASAV SAVE (データベース) を続けて実行して、RLOG ログ記録処理を再開します。

ADAR78**UNKNOWN FILE ELEMENT CREATED**

説明：

Adabas Recovery Aid データ収集コンポーネントは、ユーティリティの実行中に使用されるシーケンシャルファイルに関する情報を ADARAI ユーティリティに通知できませんでした。file element ではなく unknown file element が RLOG に書き込まれました。このエラーが発生しても、現在のニュークリアスまたはユーティリティセッションの正常な終了には影響しません。

対処：

このシーケンシャルファイルに関する情報は、後で使用できるように手動で ADARAI RECOVER 機能に記録することもできます。この世代／ファイルを使用して ADARAI RECOVER を実行している場合は、このファイルに必要なジョブ制御ステートメントを作成できません。[unknown file element] が表示され、ADARAI RECOVER 機能がリターンコード 04 で終了します。生成されたジョブ制御ステートメントは、編集して手動で記録したファイル情報を追加する必要があります。

16 ADAS* (Adabas SVC) システムメッセージ

ADAS00

SIRMVS (yy yy - mm - dd, SM=level, ZAP=zap-number)

説明：

ADASIR が実行されました。

yyyy-mm-dd	ADASIR アセンブリ日付
level	システムメンテナンス (SM) レベル
zap-number	適用されている最大 ZAP 番号

ADAS01

ADAB ENTER NUMBER OF ADABAS V_v ID TABLE ENTRIES (1-nn**)**

説明：

ADASIR が無効な ID テーブルエントリを検出しました。

対処：

10 進の ID テーブル値を入力します。ADASIR オペレーションは続行します。

ADAS03

ADAB ADABAS V_v ID TABLE FOR SVC svc INITIALIZED

説明：

ADASIR が Adabas SVC をインストールし、必要なストレージを獲得することができました。

ADAS04

ADAB ADABAS V_v ID TABLE INITIALIZATION ERROR

説明：

ADASIR が次のエラーのうちの 1 つを検出しました。

- IDT GETMAIN に失敗しました
- 56 コールで、ADASVC から 0 以外のリターンコードが返されました
- ADASIR が SSCTSUSE を設定しませんでした
- オペレータが ADASIR を終了させました
- ADASIR が非 VS1 環境を検出しました

対処：

ADASIR は終了し、獲得したリソースをすべて解放します。

ADAS05

ADAB ADABAS V_v ID TABLE PARAMETER(S) ERROR

説明：

ADASIRが無効な入力パラメータを検出しました。このメッセージの後に、入力パラメータの再入力を促すメッセージが表示されることがあります。

対処：

正しいパラメータ（群）を入力し、ADASIR を再実行するか、または、「no」を入力して ADASIR オペレーションを終了させます。

ADAS06

ADAB ENTER ADABAS V_v ID TABLE SUBPOOL (228 OR 241) OR "NO" TO ABORT ID TABLE INITIALIZATION

説明：

このメッセージは、エラー ADAS05 の後に出力され、ADABAS V_v ID TABLE SUBPOOL の確認を促しています。v は Adabas のバージョンです。

対処：

228 (subpool228/固定 CSA) か 241 (subpool241/ページング可能 CSA) を入力します。または NO を入力し、ADASIR オペレーションを終了させます。

ADAS07

ADAB ENTER NUMBER OF ADABAS V_v ID TABLE ENTRIES OR "NO" TO ABORT ID TABLE INITIALIZATION

説明：

このメッセージは、エラー ADAS05 の後に表示され、IDT エントリ数の確認を促します。

対処：

IDT エントリカウントを表す値を 1~4 桁で入力するか、「no」を入力して ADASIR オペレーションを終了させます。

ADAS08

ADAB ENTER ADABAS Vv SVC NUMBER (200-255) OR "NO" TO ABORT ID TABLE INITIALIZATION

説明：

このメッセージはエラー ADAS05 の後に表示され、指定された Adabas SVC 番号の確認を促します。

対処：

200~255 の範囲で 3 桁の SVC 値を入力するか、「no」を入力して ADASIR オペレーションを終了させます。

ADAS09

ADAB ADABAS Vv SVC svc TABLE ENTRY AT svc-addr INVALID IS bad-entry bad-entry SHOULD BE good-entry good-entry

説明：

このメッセージおよび ADASnn で始まるメッセージは、ADASIR が無効な SVC テーブルエントリを検出したとき、または、ADAS14 メッセージに P (プロンプトオプション) が返されたときに表示されます。メッセージ中の変数の意味は、次のとおりです。

v	Adabas のバージョン
svc	SVC 番号
svc-addr	SVC テーブルエントリのアドレス
bad-entry	エラーとなった現在の SVC テーブルエントリ
good-entry	必要な SVC テーブルエントリ値

対処：

このメッセージの後に ADAS10 メッセージが表示されます。この ADAS10 メッセージは、エラーのある SVC エントリを適切な値に変更するよう促すものです。

ADAS10

ADAB SHOULD SVC TABLE ENTRY BE CHANGED ('Y') OR SHOULD ADABAS ID TABLE INITIALIZATION BE ABORTED ('N')

説明：

このメッセージは、メッセージ ADAS09 の後に表示され、エラーのある SVC テーブルエントリを、ADASIR で指定された適切な値に変更することを促します。

対処：

「"Y"」 (yes) を入力して SVC エントリを更新してください。その他の値を入力すると、SVC エントリは変更されません。

ADAS11

**ADAB ADABAS V{v} ID TABLE FOR SVC {svc} INITIALIZED WITH {cccc} ENTRIES
IDT:{address} IDTEExt:{address} FIIBS:{address} SVC:{address} VRS:{vrs} DATE:{date}**

説明：

番号 *svc* の SVC がインストールされ、*cccc* エントリ分の ID テーブルストレージが正常に割り当てられました。このメッセージには、SVC のアドレス、主要な CSA データ構造、SVC のリリースおよびアセンブリの日付も表示されています。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAS12

ADAB ADABAS Vv ID TABLE INITIALIZATION ERROR n

説明：

ADASIR がエラー *n* を検出しました。*n* は次のいずれかを示します。

1	ID テーブルの GETMAIN が失敗しました。
2	Adabas SVC が、ID テーブルの初期化を要求しましたが、ゼロ以外のリターンコードが返された原因として、SYS1.PARMLIB の IEFSSNxx メンバ内のサブシステム名が、ADASVC+X'28' の内容と一致しなかったことが考えられます。
3	Adabas SVC が、ID テーブルの初期化を要求しましたが、SSCT 中に正しい値が設定されなかった原因として、SVC 番号が無効であることが考えられます。
4	オペレータが初期化を終了させました。
5	オペレーティングシステムが z/OS ではありません。
6	Adabas SVC の RMODE が 24 ではありません。
7	SVC テーブルエントリが使用されていません。
8	RMODE、AMODE のいずれかが 24 ではありません。
9	要求された SVC が見つかりませんでした。システムメッセージ IEA826I を確認してください。

Adabas SVC のテーブルエントリに、指定された Adabas バージョンに対する SVC のアドレスが含まれていません。指定されたバージョンの ADASIR を使用して、以前のバージョンの SVC をインストールしようとして失敗しました。

10	SVCUPDTE マクロに失敗しました。
----	----------------------

対処：

エラー状態を解消し、（必要であれば）再 IPL または ADASIP を再実行します。

ADAS13

ADAB LEAVE MESSAGE ADAS11 OR ADAS12 (N OR Y)

説明：

「Y」を入力すると、画面上に前の ADAS11 または ADAS12 のメッセージが引き続き表示されます。それ以外の場合、メッセージは消去されます。

対処：

「Y」を入力するとメッセージが引き続き表示され、それ以外の場合は消去されます。

ADAS14

ADAB PROMPT OPERATOR TO UPDATE SVC TABLE ENTRY N OR P

説明：

このメッセージは、オペレータに SVC テーブルエントリの更新を促すか (P)、促さないか (N) を確認するものです。

対処：

「P」を入力すると、オペレータは SVC テーブルエントリの入力を促されます。この場合、メッセージ ADAS09 および ADAS10 が表示されます。「N」（促さない）を入力すると、ADASIR で SVC 値が選択されます。この場合、メッセージ ADAS15 が表示されます。

ADAS15

ADAB SVC svc TABLE ENTRY CHANGED WITHOUT PROMPTING OPERATOR

説明：

オペレータに確認せずに SVC "svc" が変更されました。

ADAS20

AT address, length BYTES action area-description

説明：

ADASIP が既存の Adabas SVC をリフレッシュするとき、古い SVC ロードモジュールとそれに関係する IDT 関連構造に関連付けされた共通ストレージエリア (CSA) が解放されます。PLXCB が見つかり、同様に、そのコンポーネントは解放されます。このメッセージは、ストレージを解放しようとするたびに表示されます。

address	CSA エリアアドレス、16 進数
length	CSA エリア長、16 進数
action	次のいずれかが該当します。 CSA RELEASED RELEASE FAILED
area-description	次のいずれかが該当します。 REPLACED SVC IDTH / IDT / IIBS CLUSTER SEGMENT PLXCB BASE PLXCUSER SEGMENT SMP SEGMENT IDTEES IDTHE IDT Extension

ADAS21

REPLACED SVC CSA NOT RELEASED, nn PENDING RESOURCE MANAGERS

説明：

ADABAS SVC のコピーを再インストールし、CSA にインストールされた既存のインスタンスを ADASIP で置き換えるために、ADASIP が使用されます。1 つ以上の z/OS Resource Manager ルーチンが保留になっている可能性があるため、ADASIP は、既存のインスタンスが使用している CSA ストレージを解放できません。

対処：

ADASIP は新しい SVC インスタンスをインストールし、既存のインスタンスが使用している CSA を解放しません。

ADAS30

nn SVC WORKAREAS RELEASED

説明：

終了時に、サーバーはユーザーコマンドを処理するために、SVC によってサーバーのアドレススペース内に確保されたワークエリアを解放します。ワークエリアの数は、同時プロセスの最大数です。

対処：

このメッセージは情報の通知のみを目的としているため、対処は必要ありません。

ADAS31**SERVICE ABTERM RESOURCE MANAGER { ADDRSPC TERM | TASK TERM }****ADAS31****SERVICE ABTERM RESOURCE MANAGER RELEASED IDTE**

説明：

サーバーのアドレススペースのアベンド後に、IDTEを解放するため、z/OS Resource Manager のリカバリルーチンが起動されました。

対処：

解放が正常に実行された場合は、再起動時に ADARUN FORCE=YES を指定する必要はありません。

ADAS32**S64 scope AFFINITY RESOURCE MANAGER event****ADAS32****S64 OBJECT AT address****ADAS32****S64 OBJECT USER TOKEN IS token****ADAS32****S64 scope AFFINITY RELEASED****ADAS32****S64 scope AFFINITY RELEASED return-code/reason-code**

説明：

アベンドの発生後に、z/OSの64ビットアドレス可能な共有メモリオブジェクトに対するローカルアフィニティまたはシステムアフィニティを解放するため、z/OS Resource Manager のリカバリルーチンが起動されました。z/OSIARV64からゼロ以外のリターンコードが返されました。

対処：

処理に失敗した場合は、IBM社のマニュアルを参照して、IARV64のリターンコードと理由コードの説明を確認してください。原因が不明の場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAS33**APF Authorization is required**

説明：

APF 認可が必要な ADASVC 機能を使用しようとしてしました。

対処：

JOBLIB 連結または STEPLIB 連結内のすべてのロードライブラリに対して APF 認可を実行してください。

17 ADASIP* (Adabas VSE SVC) システムメッセージ

ADASIP00

ADABAS V_v VSE SIP STARTED SIP IS RUNNING UNDER VSE sys-type - mode

ADASIP00

(yy yy - mm - dd. SM=sm-level , ZAP=zap-level)

ADASIP00

SIP IS RUNNING UNDER OSYS LEVEL V_{nnn}

ADASIP00

SIP IS LOADING ADABAS SVC LEVEL V_{nnn}

ADASIP00

ADASIP IS LOADING ADABAS SVC AMODE=a-mode

説明：

ADASIP プログラムが開始されました。sys-type はオペレーティングシステムタイプです。mode は ECPS (EMODE)、VM、または 370 オペレーティングモードです。

v	Adabas のバージョン
sys-type	VSE オペレーティングシステムタイプ
mode	ECPS (EMODE)、VM、または S/370 オペレーティングモード
yyyy-mm-dd	モジュールアセンブリの日付
sm-level	モジュールのシステムメンテナンス (SM) レベル
zap-level	モジュールの ZAP レベル
V _{nnn}	IBM SUBSYD マクロからのバージョン/リリース/改版レベル
a-mode	Adabas SVC の AMODE 設定

ADASIP01

SUBSID MACRO ERROR

説明：

ADASIPが、オペレーティングシステムからゼロ以外のリターンコードを受け取りました。

対処：

Adabasを導入するには、VSE オペレーティングシステムのリリースレベルが低すぎます。許容可能な最小 VSE レベルについては、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

ADASIP02

UNSUPPORTED VSE RELEASE BASED UPON SUBSID

説明：

ADASIPの整合性チェックが、サポートされていないオペレーティングシステムレベルを示します。

対処：

Adabasを導入するには、VSE オペレーティングシステムのリリースレベルが低すぎます。許容可能な最小 VSE レベルについては、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

ADASIP03

NO SYSPARM VALUE SPECIFIED FOR SVC

説明：

ADASIPがSYSPARM入力を検出できませんでした。また、指定されたSVCにZAPが適用されていません。

対処：

SVCにSYSPARMを入力するか、ADASIPに指定されたSVCにZAPを適用します。

ADASIP04

DEFAULT VALUE USED FOR THE SVC

説明：

SYSPARM SVCが使用されませんでした。ADASIPはZAPが適用されたSVCをデフォルトで使用します。

ADASIP05**NON-NUMERIC DATA FOUND IN SYSPARM FIELD**

説明：

SYSPARM またはデフォルトの ADASIP SVC に数値以外の値が含まれています。

対処：

指定した SYSPARM の値を修正するか、デフォルトの SVC 値を 30 に設定します。

ADASIP06**INVALID RANGE SPECIFIED FOR THE SVC 31-120**

説明：

ADASIP によって、SVC が SYSPARM または ADASIP のデフォルト SVC の許容範囲外であることが検出されました。

対処：

許可された範囲内で未使用の SVC 値を設定します。SVC 範囲および推奨値については、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

ADASIP07**SVC SPECIFIED NOT WITH VALID RANGE - NO UPSI**

説明：

UPSI オプション付きの VSE SYSPARM 内に指定された SVC 値に誤りがあります。

対処：

UPSI または SVC の値を適切に修正します。SVC 範囲および推奨値については、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

ADASIP08**ADASVCvv WAS NOT FOUND IN THE SVA**

説明：

ADASIP によって、VSE ロード実行中に指定レベルの ADASVC が SVA 内がないことが検出されました。

対処：

ADASVCvv に対して SET SDL を発行します。Adabas ライブラリで Adabas SVC が検出されない場合、PHASE ステートメントを使用して Adabas SVC と SVA を再リンクする必要があります。

ADASIP09

NO MATCH ON ID - INCORRECT ADASVC LOADED

説明：

ロードオペレーションの試行中に、ADASIP によって無効な SVC バージョンが検出されました。

対処：

ADASVC_{vv} を正しいバージョンの SVC モジュールにリンクし直します。

ADASIP10

NO KEYWORD SPECIFIED FOR NRIDTES

説明：

ADASIP が無効な NRIDTES キーワードを検出しました。

対処：

NRIDTES=*nn* の形式で、キーワードパラメータを再指定します。*nn* には、ID テーブル内でサポートされるデータベースの数を指定します。

ADASIP11

NON-NUMERIC DATA SPECIFIED FOR NRIDTES

説明：

ADASIP NRIDTES= キーワードパラメータに数字以外のデータが指定されました。

対処：

NRIDTES= データを修正し、ADASIP を再サブミットします。

ADASIP12

NO OVERRIDING NRIDTES SPECIFIED

説明：

デフォルトの NRIDTES が使用されています。エラーは発生していません。

ADASIP13

SVC TABLE ENTRY WAS FOUND TO BE INVALID

説明：

SYSPARM に指定された SVC 番号が正しくないか、VSE Adabas SVC の旧バージョンまたは新バージョンを示していません。このエラーは、UPSI ステートメントの C パラメータに 0 が指定された場合に起こることがあります。

対処：

UPSI ステートメントを再指定するか、未使用の他の SVC 値を指定します。ADASIP を再実行します。

ADASIP14**GETVIS FAILURE FOR IDT IN SVA**

説明：

IDT の GETVIS が ADASIP にゼロ以外のリターンコードを返しました。これは、GETVIS サイズが不足していることを示します。

対処：

SVA GETVIS サイズを増やし、オペレーティングシステムを再 IPL したうえで、ADASIP を再実行します。

ADASIP15**ROUTER UNABLE TO INITIALIZE IDT**

説明：

ADASIP が、SVC に対する 56 コールからゼロ以外のリターンコードを受け取りました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADASIP17**INCORRECT SVC SUFFIX AFTER COMMA IN SYSPARM**

説明：

現在の IPL に対して、このプログラムの実行が 2 回以上試行されました。このプログラムには、2 つめの IDT は必要ありません。

対処：

SYSPARM 内の 2 バイトの SVC SUFFIX を正しく修正して、ジョブを再実行します。

ADASIP18**NON-NUMERIC DATA SPECIFIED FOR DMPDBID**

説明：

ADASIP DMPDBID キーワードパラメータは数字以外のデータを含んでいます。

対処：

DMPDBID 指定を修正してジョブを再実行します。

ADASIP19**DBID CANNOT BE FOUND IN IDTE**

説明：

ADASIP プログラムは IDT エリアの DMPDBID データベースのエントリを検出できませんでした。

対処：

DMPDBID 指定を修正するか、指定のデータベースを起動します。次にコマンドキューのスナップダンプを行うために ADASIP を実行します。

ADASIP20

THE IDT AND SVC HAVE BEEN DUMPED TO SYSLST

説明：

IDT をダンプした後、UPSI 80 を介して SVC をダンプする要求が ADASIP に対して発行されました。エラーは発生していません。

ADASIP21

NO IDT TABLE WAS FOUND FOR SPECIFIED SVC

説明：

ADASIP が、SVC に IDT のアドレスがないことを検出しました。

対処：

正しい SVC を指定するか、ADASIP を使用して最初に初期化してください。

ADASIP22

THE SVC HAS ALREADY BEEN INSTALLED

説明：

同一プログラムが再度実行されようとしていることが検出されました。

対処：

SVC がインストールされていないため、IDT テーブルは必要ではありません。同じ SVC を再インストールするには、まず、SET SDL を実行しなければなりません。

ADASIP23

THE SVC TABLE CANNOT BE LISTED UNDER DOS/MVT

説明：

SVC テーブルを表示するオプションが VSE に指定されています。

ADASIP24

THE IDT HAS BEEN PAGEFIXED BY USER OPTION

説明：

システム GETVIS エリアで IDT をページ固定にするために、UPSI (X'20') が選択されました。

ADASIP27

ADASVC IS RMODE=ANY

説明：

ADASIP は、Adabas SVC が RMODE=ANY リンクされていることを検出しました。

対処：

Adabas SVC RMODE=24 を再リンクします。

ADASIP28

ADASIP IS AMODE=31

説明：

ADASIP は AMODE=31 を検出しました。

対処：

ADASIP AMODE=24 を再リンクします。

ADASIP29

PRODID MACRO FAILURE

説明：

ADASIP は PRODID DEFINE マクロからゼロ以外のレスポンスコードを受け取りました。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。

ADASIP30

ADASVCvv svc INSTALLED

説明：

ADASIP が SVC 番号 svc を正常にインストールしました。

ADASIP31

address=SVC ADDRESS

説明：

SVC は、示されたアドレスにロードされました。

ADASIP32

address=IDT ADDRESS

説明：

ID テーブルは、示されたアドレスに割り当てられました。

ADASIP33

address=ALET TABLE ADDRESS

説明：

ALET テーブルは、示されたアドレスにロードされました。

ADASIP34

count=MAXIMUM USER/TARGET COMBINATIONS

説明：

VSE システム内のクライアント／サーバーの組み合わせの合計を示します。

ADASIP36

address=EXTENDED IIBS ADDRESS

説明：

拡張 IIB は、示されたアドレスにロードされました。

ADASIP40

**VSE SVC svc IS status AM=a-mode RM=r-mode AR=reg-mode SVCT=svc-tab-addr
MODT=svc-mod-addr**

説明：

このメッセージは SVC テーブルをリストするオプションが選択された場合に表示され、次の値を指定します。

svc	VSE SVC 番号
ステータス	USED または UNUSED
a-mode	この SVC の AMODE 値 (24 または ANY)
r-mode	この SVC の RMODE 値 (24 または ANY)
reg-mode	この SVC のアクセスレジスタのモード (Y=yes、N=no)
svc-tab-addr	この SVC の SVC テーブルエントリのアドレス
svc-mod-addr	この SVC の SVC モードテーブルエントリのアドレス (存在する場合)

対処：

対処は必要ありません。情報メッセージです。UNUSED が示された場合でも、SVC50 は使用しないでください。

ADASIP41

VSE SVC TABLE AUDIT COMPLETED

説明：

ADASIP は VSE SVC テーブルのリストを完了しました。

ADASIP50

THE COMMAND QUEUE HAS BEEN DUMPED TO SYSLST

説明：

ADASIP は、指定されたデータベースのコマンドキューのリストを完了しました。

ADASIP60

ONLY 1 CPU CAN BE ACTIVE DURING ADASIP

対処：

SYSDEF,STOP=ALL を使用して、ADASIP を実行するための 1 つの CPU を除いたすべてを停止します。その後、他の CPU を再スタートしてください。

ADASIP61

RERUN ADASIP AFTER USING TDSERV TO STOP CPUS

説明：

ADASIP60 とともに発行されます。

ADASIP62

GETVIS FAILED FOR ADASTUB MODULE

説明：

ADASTUB をロードするには、SVA ストレージが足りません。

対処：

システムプログラマに連絡してください。

ADASIP63

ADASTUB MODULE LOADED AT address

説明：

モジュールのロードアドレスを示す情報メッセージです。

ADASIP64

NO MATCH ON ID - INCORRECT ADASTUB LOADED

説明：

ADASTUB フェーズが正しくありません。

対処：

システムプログラマに問い合わせるか、Software AG に連絡してください。

ADASIP65

ADASTUB SVC TABLE NOT FOUND

説明：

ADASTUB フェーズが正しくありません。

対処：

システムプログラマに問い合わせるか、Software AG に連絡してください。

ADASIP66

ADASTUB SVC TABLE IS FULL

説明：

この VSE マシン上で 10 個を超える SVC を起動しました。

対処：

テーブルサイズの拡張について Software AG に連絡してください。

ADASIP67

PAGEFIX FOR ADASIP FAILED

対処：

SETPFIX の値を拡張して再実行します。

ADASIP68

PAGEFREE FOR ADASIP FAILED

対処：

システムプログラマに連絡してください。

ADASIP69

TURBO DISPATCHER STUB ACTIVE

説明：

この VSE マシン上で Adabas Turbo のサポートが有効になりました。

ADASIP70

VSE SUPERVISOR HOOK INSTALL FAILED

説明：

このバージョンの VSE 2 スーパーバイザがサポートされていないか、または第 1 レベルの割り込みハンドラに対するベンダインストールロジックが正しくありません。

対処：

Software AG に連絡してください。ADASIP72 も参照してください。

ADASIP71

LOAD OF MODULE ADASTUB FAILED

説明：

ADASTUB モジュールが LIBDEF SEARCH チェーンにありませんでした。

ADASIP72

CODE IS : xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

説明：

メッセージ ADASIP70 の後に発行されます。

ADASIP73

ADANCHOR INCORRECT OR NOT FOUND IN SVA

説明：

ADANCHOR モジュールが SVA にありませんでした。SET SDL は行われていません。

ADASIP74

INFO : STUB ACTIVATED BY PREVIOUS ADASIP

説明：

Adabas Turbo STUB は、以前の ADASIP によってインストールされています。

ADASIP75

ADANCHOR AND ADASTUB NOT DUMPED - NOT ACTIVE

説明：

ADASIP で Adabas コントロールブロックをダンプしようとしたのですが、Adabas Turbo サポートが有効でなかったため、モジュールをダンプできませんでした。

ADASIP76

ADABAS TURBO STUB NOT ACTIVATED DUE TO ERROR

説明：

Adabas Turbo STUB のインストール中にエラーが発生しました。

ADASIP77

THIS ADABAS SVC WILL RUN IN NON-TURBO MODE

説明：

Adabas Turbo STUB のインストール中にエラーが発生しました。今後この SVC は非 Turbo モードで実行されます。

ADASIP78

VSE TURBO DISPATCHER VERSION nn

説明：

VSE バージョン 2 の Turbo Dispatcher のバージョン。00 になっている場合、Turbo Dispatcher のバージョンは、旧版である 4 を表します。

18 ADAU* ユーティリティステータスメッセージ

これらのステータスメッセージは、一般的に現在のユーティリティオペレーティングステータスについてのメッセージです。多くの場合、メッセージは DSTAT オペレータコマンドへの応答となります。



Note: このセクションの各メッセージは、関連するデータベース ID で始まります。

ADAU01

version job-name name RC ret-code

説明：

VSE システムのみ：ADAUSER が CDLOAD または LOAD ADARUN を実行できません。
ADAUSER は次の情報を提供します。

version	Adabas バージョン
job-name	VSE ジョブ名
name	SVC4 では LOAD、SVC65 では CDLO
ret-code	CDLOAD または LOAD スーパーバイザコール (SVC) から返された LOAD リターンコード

ADAUSER は、JDUMP を使用してダンプを出力した後、終了します。このとき、ロード時の問題点を解消するために必要となる情報も出力します。

ADAU02

version job-name pgm INCORRECT RMODE

説明：

ADAUSER は RMODE エラーを検出しました。 ADAUSER は次の情報を提供します。

version	Adabas バージョン
job-name	VSE ジョブの名前
pgm	誤った RMODE を伴ったプログラムの名前

対処：

RMODE=24 でプログラムを再リンクします。

ADAU08

OPERATOR TYPE-IN : command

説明：

このメッセージは、オペレータコマンド `command` の入力に対する応答です。

ADAU09

INVALID REQUEST -- ONLY DSTAT ALLOWED

説明：

このメッセージは、ユーティリティオペレータコマンド DSTAT 以外のコマンドに対する応答です。この時点では DSTAT だけが有効です。

対処：

オペレータコマンド DSTAT を入力します。

ADAU10

count BLOCKS OF total SAVED

説明：

このメッセージは、ADASAV オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。 `count` はすでに処理したブロックの数、 `total` は保存する必要があるブロックの総数です。

ADAU11

count BLOCKS OUT OF total RESTORED

説明：

このメッセージは、ADASAV オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。 `count` はすでにリストアしたブロックの数、 `total` はリストアする必要があるブロックの総数です。

ADAU12**RESTORING PROTECTION LOG TAPE**

説明：

このメッセージは、ADASAV ユーティリティのオペレータコマンド DSTAT に対する応答です。これは RESTONL 機能の第2パスの開始を示します。ファイルまたはデータベースはリストアされ、ADASAV がプロテクションログを現在処理中です。

ADAU13**VOLSER FOR dd-name = volser**

説明：

このメッセージは、新規テープからの読み込みまたは新規テープへの書き込みを行う際に表示されます。

ADAU14**ADASAV - RUN WITH SAVE TAPE session-id**

説明：

このメッセージは、セーブオペレーションによって作成されたセーブテープに割り当てられたセッション番号を示します。

ADAU15**FILE file { ADDED TO | REMOVED FROM } FILELIST (reason)**

説明：

指定されたファイルはファイルリストに追加またはファイルリストから削除されました。理由は次のとおりです。

- ファイル追加の理由：ファイルがカップリングまたは拡張されました。
- ファイル削除の理由：
 - ファイルがロードされていない
 - 拡張ファイルまたはカップリングされたファイルに矛盾がある
 - ファイルが矛盾した状態にある
 - "修正済み (modified) " フラグがない

ファイルをファイルリストに追加した場合はセーブされますが、ファイルリストから削除された場合は何もセーブされません。

対処：

対処は必要ありません。このメッセージは、通知のみが目的のメッセージです。ファイルリストから削除されたファイルをリストアするには、該当する直前の SAVE データセットを使用しなければなりません。

ADAU16

NO FILE HAS BEEN MODIFIED SINCE LAST SAVE; NO OUTPUT DATASET WAS CREATED

説明：

変更がなかったので、出力データセットは作成されません。

対処：

以前のSAVEテープを使って、ファイルをリストアする必要があります。削除されたファイルをリストアするには、該当するセーブデータセットを使用する必要があります。

ADAU17

MERGING DELTA SAVE TAPES

説明：

このメッセージは、ADASAV オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADASAV は現在マージによってデルタセーブデータセットを作成中です。

ADAU18

count BLOCKS OUT OF total MERGED

説明：

このメッセージは ADASAV オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。現在 ADASAV はマージによってフルセーブデータセットを作成しています。count はすでに書き込まれたブロックの数を示します。total は書き込まれるブロックの総数を示します。

ADAU19

DURING RESTORE DELTA PHASE

説明：

このメッセージは ADASAV オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。現在 ADASAV はデルタリストアオペレーションの第2フェーズを行っています。フルセーブデータセットはすでにリストアされています。

ADAU20

ADADBS OPERCOM command

説明：

ADADBS OPERCOM ユーティリティが、指定されたオペレータコマンド command を発行しました。

対処：

対処は必要ありません。このメッセージは、ADADBS OPERCOM 処理の結果発生するファイルアクセスの変更などを知らせるものです。

ADAU21**SORTING/LOADING DESCRIPTOR descriptor**

説明：

このメッセージは、ADALOD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADALOD が指定ディスクリプタのインバーテッドリストをソートし、ロード中であることを示します。

ADAU22**LOADING DATA STORAGE. RECNO=count**

説明：

このメッセージは、ADALOD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADALOD がレコードをデータストレージにロード中であることを示します。指定の数は、現在までにロードされたレコード数です。

ADAU23**SORTING ADAM RECORDS. RECNO=count**

説明：

このメッセージは、ADALOD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADALOD がレコードを ADAM キー順にデータストレージ (DS) レコードをソート中であることを示します。指定の数は、現在までにソートされたレコード数です。

ADAU24**COMPUTING INDEX SPACE FOR descriptor**

説明：

このメッセージは、ADALOD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADALOD が descriptor のインデックススペースを計算中であることを示します。

ADAU25**UNLOADING DATA STORAGE, FILE=file-number, RECNO=record-count**

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのデータストレージを DD/FILEA にアンロード中であることを示します。record-count で示されたレコード数が現在までにアンロードされました。

ADAU26**UNLOADING INDEX, FILE=file-number**

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのインバーテッドリストを file-number で示されたファイルの DD/FILEA にアンロード中であることを示します。

ADAU27

UNLOADING DSST, FILE = file-number

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのデータストレージスペーステーブル (DSST) を DD/FILEA にアンロード中であることを示します。

ADAU28

UNLOADING AC, FILE=file-number

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのアドレスコンバータ (AC) を DD/FILEA にアンロード中であることを示します。

ADAU29

LOADING DATASTORAGE, FILE=file-number, RECNO=record-count

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのデータストレージを DD/FILEA からロード中であることを示します。現在までに record-count で示された数のレコードがロードされました。

ADAU30

LOADING INDEX, FILE=file-number

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのインバーテッドリストを DD/FILEA からロード中であることを示します。

ADAU31

LOADING DSST, FILE = file-number

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD が指定ファイルのデータストレージスペーステーブル (DSST) を DD/FILEA からロード中であることを示します。

ADAU32**LOADING AC, FILE=file-number**

説明：

このメッセージは、ADAORD オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAORD がアドレスコンバータ (AC) を DD/FILEA からロード中であることを示します。

ADAU33**CLIENT OPTION IN EFFECT FOR FILE file-number**

説明：

ADAULD ユーティリティは、ロード中のファイルの CLIENT オプションが有効かどうかを通知するために、このメッセージを表示します。

ADAU35**USERISN-OPTION IN EFFECT FOR FILE file-number**

説明：

ADAULD ユーティリティがこのメッセージを表示する場合は、ロード対象のファイルに有効な USERISN オプションが指定されていることを示します。

ADAU36**MISSING SECOND OUTPUT DATASET**

説明：

ユーザー出口 9 は DDOUT2 にレコードを書き込もうとしましたが DDOUT2 が定義されていないことを示すメッセージを返しました。全レコードは DDOUT1 に書かれます。

対処：

ユーザー出口 9 の制御下でレコードを 2 つの出力データセットにアンロードする場合、DDOUT2 を指定してジョブを再実行します。

ADAU37**BLOCKS block-a - block-n COULD NOT BE FORMATTED**

説明：

フォーマットされるブロック数は、最低でも 1 トラック当たりのブロック数でなければなりません。

フォーマットされるブロック数が 1 トラック当たりのブロック数を超える場合、block-n はトラックの最後のブロックでなければなりません。

ブロック block-n がトラックの最後のブロックでないか、または ADAFRM SIZE パラメータがトラック当たりのブロック数より小さくなっています。トラックの一部はフォーマットされませんでした。

対処：

残りのトラックのブロックをフォーマットするには、そのトラック全体に相当するブロック範囲を指定します。

ADAU38

FILE NOT LINKED INTO FILE CHAIN

説明：

ファイルはロードされましたが、いくつかの理由により拡張ファイルチェーンにリンクできませんでした。考えられる理由は次のとおりです。

- チェーン内の他のファイルがロックされている
- ロードオペレーション中にチェーンが変更された

対処：

原因を究明後、Adabas Online System (AOS) を使用して、このファイルを拡張ファイルチェーンにリンクします。

ADAU39

NO CHECKPOINT WRITTEN

説明：

ニュークリアスは読み取り専用です。チェックポイントは書き込まれません。

ADAU40

POINT OF NO RETURN REACHED

説明：

ADAORD ユーティリティの第2パスを開始したことを示します。この時点以降に異常終了となった場合は、使用前にファイル、またはデータベースをリストアしなければなりません。

ADAU41

ADAORD INVOKED FROM JOB job-name

説明：

ADAORD が指定ジョブで開始されました。このメッセージは ADAU40 の次に表示されます。

ADAU42**ADAVAL FILE=file-number, DESCRIPTOR=descriptor**

説明：

このメッセージは、ADAVAL オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。ADAVAL が file-number で示されるファイルの descriptor で示されるディスクリプタ整合性チェック中であることを示します。

ADAU43**MORE RECORDS ON ADALOD INPUT THAN REQUESTED BY NUMREC**

説明：

ADALODNUMRECパラメータは、ロードされるレコードの件数を制限します。この場合、要求された件数よりも入力データセットのレコードが多かったことを示します。

対処：

対処は必要ありません。処理は正常に継続しますが、レスポンスコード4がオペレーティングシステムに返されます。

ADAU44**MORE RECORDS ON ADALOD INPUT THAN ISNS AVAILABLE**

説明：

アドレスコンバータ (AC) 内の有効な全 ISN はすでに入力ファイルのレコードに割り当てられましたが、NOACEXTENSIONがアクティブなために新規ISNを割り当てることができません。

対処：

処理は正常に継続しますが、レスポンスコード4がオペレーティングシステムに返されます。ファイルが拡張ファイルの一部である場合、残りのレコードは拡張ファイルの別の部分にロードすることができます。

ADAU45**ABEND DURING CHAIN PROCESSING**

説明：

警告：ADALODが拡張ファイルのチェーン情報を更新している間に異常終了 (ABEND) が発生しました。情報が不整合である可能性があります。ファイルの処理を続行しても正しい結果は得られません。

対処：

拡張ファイルレポートを作成するために ADAREP を実行し、拡張ファイルリンケージをチェックします。問題が解決するまで、以降の処理は行わないでください。

ADAU46

ABEND DURING FILE PROCESSING

説明：

ADALOD でファイル処理中にエラーが発生しました。ファイルの現在のステータスはロード中になり、アクセスできなくなります。

対処：

エラーの原因を修正し、次のいずれかの処理を行います。

- ADALOD ジョブを再スタートします。
- 該当ファイルを削除して ADALOD ジョブを再実行します。
- SAVE ファイルコピーをリストアして、ADALOD ジョブを再実行します。

ADAU47

ABEND DURING FINISHING PROCESSING

説明：

ファイル処理は完了しましたが、次の処理中に問題が発生しました。

- リカバリログ情報の書き込み中
- チェックポイント書き込み中

対処：

必要であれば、RESTORE/REGENERATE の完了時に ADALOD ジョブをやり直せることを確認してください。

ADAU48

LOADING RECORDS WITH USERISN-OPTION SUPPRESSED

説明：

ADACMP または ADAULD によってファイルが作成されたときに、USERISN オプションが有効でした。USERISN オプションは USERISN=NO が指定されていたため、無効になっています。全 ISN は ADALOD が割り当てます。

ADAU49

LOADING RECORDS WITH USERISN-OPTION IN EFFECT

説明：

ファイルは有効な USERISN オプションが指定された状態でロードされます。全 ISN は入力ファイルから取得されます。

ADAU50

function INPUT VOLUME = volume, PLOGNUM = session-number
FROMBLK = block-number-a, FROMTIME = date time
TOBLK = block-number-b, TOTIME = date time

説明：

このメッセージは、ADARES オペレータコマンド DSTAT に対する応答であり、内容は次のとおりです。

function	REGENERATE または BACKOUT です。
volume	現入力ボリュームです。
session-number	現在処理中のプロテクションログ番号です。
block-number-a block-number-b	入力ボリュームは block-number-a から block-number-b まで処理されました。
FROMTIME TOTIME	対応するブロックのタイムスタンプから引き出される日付および時刻です。

ADAU51

REPAIR count BLOCKS / record-count RECORDS PROCESSED

説明：

このメッセージは、ADARES オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。メッセージが表示されたとき、REPAIR 機能は、プロテクションログ入力データセットのうち、count で示されるブロック数と record-count で示されるレコード数だけ処理しました。

ADAU53

function COPY count BLOCKS COPIED FROM log-dataset TO DDSIAUS1/2 CURRENT
BLOCK = block-number , TIME = date / time

説明：

このメッセージは、ADARES オペレータコマンド DSTAT に対する応答です。function は PLCOPY または CLCOPY のいずれかです。count で示されるブロック数だけ DDPLOGR1/2 または DDCLOGR1/2 から出力データセットにコピーされました。

ADAU54

COPY count BLOCKS COPIED FROM DDSIIN TO DDSIAUS1/2

説明：

このメッセージは ADARES オペレーション中のオペレータコマンド DSTAT に対する応答です。count は COPY 機能でコピーされたブロック数です。

ADAU55

LOADING RECORDS WITH CLIENT OPTION IN EFFECT

説明：

ロードするファイルはマルチクライアントファイルとして定義されます。

ADAU56

LOADING RECORDS WITH CLIENT OPTION SUPPRESSED

説明：

ロードするファイルはマルチクライアントファイルですが、通常のファイルとして、つまり、非マルチクライアントファイルとして定義されます。

ADAU57

LWP HIGH-WATER MARK: {xxxx} OUT OF {yyyyy} BYTES ({zz}%)

説明：

このメッセージの内容は、LWP ワークプールの使用率です。この情報は、インストール時の LWP パラメータ調整の参考にすることができます。

ADAU60

utility PASSWORD EXISTS AND HAS BEEN OVERWRITTEN

説明：

ADASCR INSERT 機能に対して指定されたパスワードは、すでに存在しています。関連情報（ファイル番号、アクセスレベル、および更新レベル）が上書きされました。

ADAU61

PARAMETER TEST SUCCESSFUL

説明：

TEST パラメータの指定によって要求されたユーティリティパラメータテストは、正常に完了しました。

ADAU62

**UNABLE TO WRITE CHECKPOINTS -
THE NUCLEUS IS NOT ACTIVE OR CANNOT BE REACHED, AND THE ASSOCIATOR
JCL HAS NOT BEEN SPECIFIED**

説明：

Adabas ニュークリアスが使用可能でなかったか、アソシエータのジョブ制御が指定されていないため、MERGE 機能のチェックポイントを書き込むことができませんでした。

ありません。MERGE 処理を続行します。

対処：

チェックポイントが必要な場合、ニュークリアスを開始するか、MERGE 機能のアソシエータジョブ制御を指定します。

ADAU63

STARTING POINT FOR ADARES REGENERATE: FROMPLOG >= log-number (NEXT NUCLEUS SESSION)

説明：

このメッセージは、ADASAV RESTORE 実行の終わりに ADASAV ジョブプロトコル上に表示されます。後続の ADARES REGENERATE ジョブの入力として使用すべきプロテクションログを示します。

log-number はプロテクションログ番号を示します。同セッションがデータベースセーブ操作であった場合は、セーブ操作の次のニュークリアスセッションのセッション番号を使用しなければなりません。

対処：

ADASAV RESTORE の実行後に ADARES REGENERATE 操作を引き続き行う場合は、指示されたニュークリアスセッション番号を持ったプロテクションログを REGENERATE 機能に入力します。

ADAU64

**STARTING POINT FOR ADARES REGENERATE:
FROMPLOG >= log-n, FROMCP= chk-pnt, FROMBLK= blk-num [NUCID=nucid]**

説明：

このメッセージは、ADASAV RESTORE 実行の終わりに ADASAV ジョブプロトコル上に表示されます。後続の ADARES REGENERATE ジョブに入力するプロテクションログ (log-n)、および REGENERATE 機能を開始すべきチェックポイント (chk-pnt) を示します。blknum は、チェックポイントの (マージ前の) プロテクションログブロック番号を示します。nucid は、チェックポイントが最初に (PLOG マージ前に) 存在していた特定のクラスタニュークリアスを示します。

対処：

ADASAV RESTORE の実行後に ADARES REGENERATE 操作を行う場合は、表示されたニュークリアスセッション番号を持ったプロテクションログを REGENERATE 機能の入力値として使用し、chkpnt チェックポイントおよび blknum をパラメータとして指定します。

ADAU65

LOADING RECORDS FROM VERSION v UNLOAD TAPE

説明：

入力値として指定されたアンロードデータセットは、Adabas バージョン v によって作成されています。

ADAU66

RESTORING FILE(S) FROM VERSION v SAVE TAPE

説明：

入力値として指定された保存データセットは、Adabas バージョン v によって作成されています。

ADAU67

UNLOADING FILE=file-number, RECNO=rec-count

説明：

ADAULD オペレータコマンド DSTAT に対する応答で、ADAULD は現在ファイル file-number をアンロードしています。この時点で、rec-count レコードがアンロードされました。

ADAU68

INDEX OF FILE file-number IS {COMPRESSED | UNCOMPRESSED}

説明：

ユーティリティは、圧縮または圧縮解除されたインデックス（メッセージ内に表示）でファイルを処理しています。

ADAU69

DDWORKnn NOT RESET. DBID IS dbid1 EXPECTED DBID IS dbid2

説明：

空でない WORK データセットがもう1つのデータベースに属している ADASAV RESTOREDB ジョブに割り当てられました。

WORK データセットはリセットされません。

ADAU70

WAITING FOR PLOG/CLOG SWITCH

説明：

ADADBS ユーティリティが FEOFPL または FEOFCL のいずれかを発行しました。空き PLOG または CLOG が存在しない場合、PLOG/CLOG が開放されることをニュークリアスが待機することがあります。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAU71

LOCKING RLOG DATASET FOR NUCLEUS GOT RSP=rc, SUBC=sc

説明：

ユーティリティの要求である、Adabas ニュークリアスの RLOG データセットのロックに失敗しました。ニュークリアスは、ユーティリティと同時に RLOG データセットへのアクセスを試みると、待機状態が長くなる可能性があります。

ADAU72

UNLOCKING RLOG DATASET FOR NUCLEUS GOT RSP=rc, SUBC=sc

説明：

ユーティリティの要求である、Adabas ニュークリアスの RLOG データセットのロック解除に失敗しました。ADADBS または Adabas Online System 機能は、RLOG データセットに記録される場合、標準的な待機状態になる可能性があります。

ADAU73

**RECOVERY AID DEACTIVATED- RE-PREPARE THE RECOVERY LOG DATASETS.
PROCESSING CONTINUES.**

説明：

データベースのリストアに対して、RLOG データセットアクセスの初期化に失敗しました（ユーティリティエラー 058）。ADASAV は Recovery Aid を非アクティブにし、リストアを続行します。ADASAV はリターンコード 4 で終了します。

対処：

ADARAIPREPARE 機能を再度実行して、Recovery Aid を再びアクティブにしてください。

ADAU74

**THIS FUNCTION EXECUTION WILL NOT BE LOGGED IN THE RECOVERY LOG.
PROCESSING CONTINUES.**

説明：

データベースまたはファイルを変更しないユーティリティ機能に対して、RLOG データセットアクセスの初期化に失敗しました（ユーティリティエラー 058）。ユーティリティは、リカバリログに実行記録を残さずに、リターンコード 4 で終了します。

対処：

ユーティリティエラー 058 が発生した原因を判断し、エラーを修正してください。

ADAU75

PLOGR n FOR NUCID= nucid IS NOT EMPTY, DSNAME= plog-name

説明：

Parallel Participant Table (PPT) 構造を使用する Adabas のバージョンから Adabas の上位バージョンへの変換時、指定の下位バージョンニュークリアス (非クラスタニュークリアスに対する NUCID=0) に、指定のプロテクションログ (PLOG) がコピーまたはマージされませんでした。変換は失敗します。

対処：

必要な場合は、ADACNV CONVERT IGNPPT パラメータを使用して、このチェックを回避することができます。

ADAU7A

ECS ERROR error-number IN FUNCTION ecs-function

説明：

ECS とは Entire Conversion Services の略で、Adabas ユニバーサルエンコーディングサポート (UES) システムのサブシステムです。このメッセージは、サブシステムの機能が失敗した後に書き込まれます。次の ECS 機能がエラーを返す可能性があります。

ECS LOAD	ECS のロードエラー。ECS ロードモジュールが Adabas ロードライブラリに存在することを確認してください。
COX LOAD	ADACOX のロードエラー。データベースが UES 対応の場合は、ADACOX がロードされます。ADACOX は特殊な変換のための Adabas 変換出口です。
APS INIT	APS (POSIX Services) 初期化中にエラーが発生しました。APS ライブラリがロードライブラリ連結内に存在し、APS パラメータが SYSPARM に指定されていることを確認してください。
SLIBLOAD	SAGECS、SAGOVO、または SAGSMP2 のロードエラー。Software AG ベーステクノロジーライブラリにあるこれらのモジュールが、ロードライブラリ連結内で検出できることを確認してください。
DDECSOJ	ECS 標準変換オブジェクトを読み込んでいるとき、初期化中にエラーが発生しました。実行可能でないバイナリ ECS 変換オブジェクトライブラリが JCL の DDECSOJ DD ステートメントに指定されていることを確認してください。
GETHANDLE nnnn	ECS エンコードディスクリプタオブジェクト EDDnnnn の読み込みでエラーが発生しました。実行可能でないバイナリ ECS 変換オブジェクトライブラリが JCL の DDECSOJDD ステートメントに指定されていることを確認してください。EDDnnnn がライブラリに含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、無効な番号が指定されたか、オブジェクトが見つからないため追加する必要があります。
GETHANDLE mmmm/nnnn	GETHANDLE nnnn の説明を参照してください。この場合は、ECS プレーンテーブルオブジェクト (PTO) に、xxx または yyy が、それぞれ 10 進数の mmmm または nnnn の 16 進値である Txxx2yyy がありません。変換の組み合わせによっては、Software AG サポートに追加の PTO を依頼する必要がある場合もあります。

対処：

問題を解決し、再試行してください。

ADAU7C

ENTIRE CONVERSION SERVICES v.r.s INITIALIZED

説明：

指定されたバージョン／改訂／システムメンテナンスレベルの Entire Conversion Services が初期化されました。

ADAU7D

COLLATION EXIT exit-number INITIALIZED

説明：

照合ディスクリプタフィールドをサポートする、指定された照合ディスクリプタ出口が初期化されました。

ADAU84

{message-text}

説明：

このメッセージは、ユーティリティの処理中に発行されます。次の表に示すように、実際のメッセージテキストは、ユーティリティに応じて異なります。

メッセージテキスト	ユーティリティ	説明
CHECKING ADABAS SYSTEM FILE WITH NOOPEN IN EFFECT	ADAACK または ADAICK	Adabas ユーティリティに NOOPEN が指定されていません。したがって、ADAACK または ADAICK は OP コマンドを発行して、ファイルをチェックします。チェック対象がチェックポイントファイルまたはセキュリティファイルの場合は、OP コマンドによって問題が発生する可能性があるため、OP コマンドは発行されず、このメッセージが表示されます。
RETAINED FIELD DEFINITION TABLE CLEARED FOR NOT LOADED FILE <i>number</i>	ADACNV	データベースをバージョン 8 に変換しているときに、ADACNV は、データベースにロードされていないファイルの FDT ブロック内に FDT が存在していることを検出しました。この FDT は削除されました。

Adabas ユーティリティに NOOPEN が指定されていません。したがって、ADAACK または ADAICK は OP コマンドを発行して、ファイルをチェックします。チェック対象がチェックポイントファイルまたはセキュリティファイルの場合は、OP コマンドによって問題が発生する可能性があるため、OP コマンドは発行されず、このメッセージが表示されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAU86

**POSSIBLE LOB INCONSISTENCY ENCOUNTERED PROCESSING FILE {fnr}
OUT-OF-SYNC FLAG IS SET
BASE FILE={base-fnr}, LOB FILE={lob-fnr}**

説明：

メッセージに表示された、LOB ファイルグループの一部であるファイル (*fnr*) の処理中に、そのグループ内の1つのファイルが他のファイルと同期していないことが検出されました。メッセージには基本ファイル番号 (*base-fnr*) およびLOB ファイル番号 (*lob-fnr*) も表示されます。この状態が検出されると、ユーティリティはリターンコード4または8で終了します。

この問題は、ユーティリティ操作の順序が論理的に適正でなかったために発生した可能性があります。ファイルのいずれかまたは両方をデータベースからいったんエクスポートしてから再度インポートした際に、エクスポート前の状態に戻していないと、この問題が発生します。つまり、いずれかのファイルの中に、同期対象の他のファイルには含まれていないLOBフィールドの更新内容が含まれている可能性があります。

対処：

関係するファイルに対するユーティリティ操作の順序を調べて、ファイルが同期されなかった原因を確認してください。ファイルが同期状態に戻るよう操作します。必要に応じて、次の機能を実行すると、2つのファイルを同期しているものとして扱うことができます。

```
ADADBS MODFCB FILE=base-fnr,LOBFILE=lob-fnr
```

ADAU87

**POSSIBLE LOB INCONSISTENCY ENCOUNTERED PROCESSING FILE {fnr}
UNABLE-TO-TRACK FLAG IS SET
BASE FILE={base-fnr}, LOB FILE={lob-fnr}**

説明：

メッセージに表示されたLOB ファイルグループの一部であるファイル (*fnr*) の処理中に、このファイルグループに対してユーティリティ操作が実行されたため、AdabasによるLOB更新ステータスの追跡が不可能になったことがユーティリティによって検出されました。メッセージには、基本ファイル番号 (*base-fnr*) とLOB ファイル番号 (*lob-fnr*) も表示されます。この状態が検出されると、ユーティリティはリターンコード4で終了します。

LOB ファイルグループに属しているファイルのLOB更新ステータス値は、基本ファイルまたはLOB ファイルをいったんデータベースからエクスポートした後にインポートすると、そのファイルのLOB値に反映されます。ほとんどのユーティリティ操作を行うと、ファイルのLOB更新ステータスはそのまま維持されるか、定義済みの新しい値に変更されますが、このどちらにもならない操作もあります。この場合には、メッセージに追跡不可能フラグが設定されます。このフラグは、ユーティリティ操作を行ってもLOBファイルグループが同期されるかどうかは保証されないことを表します。

対処：

LOB ファイルグループのファイルが同期しなくなるような、論理的に誤ったユーティリティ操作を行っていない場合には、次の機能を使用して、2つのファイルが同期しているものとして扱うことができます。

```
ADADBS MODFCB FILE=base-fnr, LOBFILE=lob-fnr
```

ADAU88

POSSIBLE LOB INCONSISTENCY ENCOUNTERED PROCESSING FILE {fnr}

LOB-UPDATE-STATUS MISMATCH

BASE FILE={base-fnr}, UPDATE-STATUS={stat-val1}

LOB FILE={lob-fnr}, UPDATE-STATUS={stat-val2}

説明：

メッセージに表示されたLOB ファイルグループの一部であるファイル (*fnr*) の処理中に、基本ファイルとLOB ファイルが同期していないことがユーティリティによって検出されました。メッセージには、基本ファイル番号 (*base-fnr*) とLOB ファイル番号 (*lob-fnr*)、およびそれぞれのLOB 更新ステータス値 (*stat-val1* および *stat-val2*) も表示されます。ユーティリティはリターンコード 4 または 8 で終了します。

LOB ファイルグループに属しているファイルのLOB 更新ステータス値は、基本ファイルまたはLOB ファイルをいったんデータベースからエクスポートした後にインポートすると、そのファイルのLOB 値に反映されます。LOB ファイルグループのLOB を操作すると、両方のファイルのLOB 更新ステータス値が同時に変更されます。したがって、これらのファイルのいずれかまたは両方をエクスポートまたは再インポートする場合とは異なるステータス値になります。

ユーティリティ操作の順序が論理的に適切でないため、LOB の更新内容がそれぞれのファイルで異なっている場合には、状態が一致しなくなる可能性があります。

対処：

関係するファイルに対するユーティリティ操作の順序を調べて、ファイルが同期されなかった原因を確認してください。ファイルが同期状態に戻るよう操作します。必要に応じて、次の機能を実行すると、2つのファイルを同期しているものとして扱うことができます。

```
ADADBS MODFCB FILE=base-fnr, LOBFILE=lob-fnr
```

ADAU89

UNABLE TO ESTABLISH OR VALIDATE THE BASEFILE-LOB FILE LINKAGE BECAUSE ONE OF THE FILES WAS LOCKED OR NOT LOADED

説明：

BASEFILE パラメータまたは LOBFILE パラメータに指定したファイルがロックされているか、またはロードされていないため、基本ファイルと LOB ファイルのリンクージュが不完全になっています。

ADALOD は、ロードされたファイルにのみファイルリンクージュの一部を設定し、リターンコード 4 で終了します。

対処：

一方のファイルが存在しない場合は、ファイルをロードする際に、正しい BASEFILE パラメータまたは LOBFILE パラメータを指定してください。この操作により、基本ファイルと LOB ファイル間のリンクージュは完全になります。

一方のファイルがロックされている場合は、ファイルをロックしているユーティリティ機能が終了するまで待ちます。次に、ADAREP を使用するなどの方法で、基本ファイルと LOB ファイル間のリンクージュが完全になっているかどうかを確認します。必要に応じて、次の機能を実行して、基本ファイルと LOB ファイル間のリンクージュを再設定します。

```
ADADBS MODFCB FILE=base-fnr,LOBFILE=lob-fnr
```

ADAU92

utility STILL INITIALIZING

説明：

対応するユーティリティがまだ初期化フェーズにある場合、このメッセージはユーティリティ DSTAT オペレータコマンドに対する応答を示します。

19 ADAX* - Adabas クラスタニュークリアスメッセージ

ADAX_{nn} メッセージの範囲は次のように予約されています。

範囲	予約されているメッセージの内容
ADAX01～09	クラスタニュークリアステータスに関連します。
ADAX11～16	ADANCX の非依存レベルの Adabas クラスタメッセージングサービス API ルーチンからのメッセージです。
ADAX20～29	依存レベルの z/OS シスプレックスの XCF メッセージトランスポートサービスからのメッセージです。
ADAX2A～2I	Adabas Parallel Services メッセージングモジュール ADASMM からのメッセージです。
ADAX31～33	ニュークリアスリカバリに関連します。
ADAX40～5C	キャッシュサービスに関連します。
ADAX60～73	ロックサービスに関連します。
ADAX74～9L	クラスタニュークリアス処理のその他の部分に関連します。

次のメッセージグループについて説明します。

クラスタニュークリアステータスメッセージ (ADAX01～ADAX09)

ADAX01

{dbid} NUCID {nucid} ON SYSTEM {system} {status}

説明：

ニュークリアスが Adabas クラスタに入ったか、または終了しました。

初期化時にアクティブであると確認された Adabas ニュークリアスクラスタメンバは is present (存在している) ステータスで示されます。Adabas クラスタ構成メンバに対する初期化以後の変更は、has joined (参加した)、has withdrawn (離脱した)、または has failed (失敗した) ステータスで示されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX02

{dbid} SYSTEM {sysn} STATUS MONITOR UPDATE MISSING

説明：

指定されたシステム (*sysn*) からの応答がないことが XCF によって報告されました。このことは、Adabas だけでなく、すべての XCF ユーザーに影響を及ぼします。コミュニケーションがリストアされるまでは、システム上のすべてのニュークリアスが、メッセージのタイムアウトまでにクリティカルなクラスタ内同期メッセージに応答できなくなる場合があります。

対処：

指定されたシステムとの XCF コミュニケーションをリストアします。

ADAX03

{dbid} SYSTEM {sysn} STATUS MONITOR UPDATE RESUMED

説明：

1つ以上のステータス監視間隔が失われた後で、指定されたシステム (*sysn*) が XCF コミュニケーションに応答するようになりました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX04

{dbid} NUCID {nucid} ON SYSTEM {sysn} STATUS MONITOR UPDATE MISSING

説明：

特定のニュークリアス (*nucid*) (特定のシステム (*sysn*) 上のニュークリアス) で、ハートビートモニタが更新されていないことが XCF によって報告されました。ニュークリアスでは、クリティカルなクラスタ内同期メッセージを含むコマンドを処理できない可能性があります。

対処：

ニュークリアスによってハートビートモニタを更新できない原因を特定します。ニュークリアスがハングアップまたはループしているか、システム内の他のプロセスが CPU を占有しているため、ニュークリアスに対する CPU の割り当てが不十分になっている可能性があります。

ADAX05**{dbid} NUCID {nucid} ON SYSTEM {sysn} STATUS MONITOR UPDATE RESUMED**

説明：

特定のニュークリアス (*nucid*) (特定のシステム (*sysn*) 上のニュークリアス) によって、ハートビートモニタの更新が再開されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX09**{dbid} POST NUC {nucid} FAILED - RET {return-code} RSN {reason-code}**

説明：

別のニュークリアスが終了するとき、このメッセージは表示されることがあります。

対処：

他のニュークリアスが異常終了した場合、対処は必要ありません。メッセージがそれ以外に正常なニュークリアスセッションで発生した場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADANCX API メッセージングサービスメッセージ (ADAX11~ADAX16)**ADAX11****{dbid} ADABAS CLUSTER MESSAGING INITIALIZATION FAILED**

説明：

先行するメッセージに記述されたエラーが原因で、Adabas クラスタメッセージングサービスの初期化が失敗しました。ニュークリアス初期化は PARM-ERROR 092 で失敗します。

対処：

先行するメッセージで示された問題を修正してください。

ADAX12**{dbid} UNABLE TO OBTAIN { AXMVT | ADAMCB } STORAGE**

説明：

Adabas クラスタメッセージングサービス制御構造のワークプールからストレージを取得する要求が失敗しました。ニュークリアス初期化は PARM-ERROR 092 で失敗します。

対処：

仮想ストレージの大きさを増やしてください。あるいは、より大きなワークプールを可能にするように ADARUN パラメータを調整するか、より少ない AXMCB を必要とするように ADARUN パラメータ NT と NU を小さくしてください。

ADAX14**{dbid} STATISTICS FOR type-TYPE MESSAGES****ADAX14****{dbid} MESSAGES SENT nn REPLIES SENT nn****ADAX14****{dbid} MESSAGES ARRIVED nn MESSAGES ACCEPTED nn**

説明：

ニュークリアスの正常終了中に出力されます。このメッセージによって、Adabas Cluster Services メッセージングサービスの統計が提供されます。

送信メッセージ数	このニュークリアスから開始されるニュークリアス間メッセージの数を反映します。
着信メッセージ数	ニュークリアスにキューイングされた非同期着信メッセージの件数です（通常は処理メッセージ数と同じ）。
処理メッセージ数	ニュークリアスが処理したメッセージの件数です（通常は着信メッセージ数と同じ）。
送信リプライ数	レスポンスと必要とした、処理メッセージへのニュークリアスレスポンスの件数です。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX15**{dbid} AXMCB ALLOCATED nn USED nn TOTAL REQUESTS nn**

説明：

正常なニュークリアス終了中に出力されます。このメッセージは Adabas クラスタメッセージングサービス統計値を提供します。

割り当て済みの AXMCB	割り当てられたニュークリアス間メッセージコントロールブロックの数。
使用中の AXMCB	使用されたニュークリアス間メッセージコントロールブロックの数。
リクエスト数	割り当てられたニュークリアス間メッセージコントロールブロックを使用するためのリクエストの総数。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX16**{dbid date time statistic}**

説明：

このメッセージは、コンソールでの DXMSG オペレータコマンドからの出力を表示するために使用されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

z/OS シスプレックスの XCF メッセージトランスポートサービスメッセージ (ADAX20 - ADAX29)

ADAX20**{dbid} XCF TRANSPORT INITIALIZATION COMPLETE**

説明：

z/OS XCF トランスポートサービスは正常に初期化されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX21**{dbid} {error-text}**

説明：

次のエラーテキストのいずれかによって指定されるエラーが、z/OS XCF トランスポートサービスの初期化チェック中に発生しました。

エラーテキスト	説明	対処
EXISTING XCF GROUP MEMBER <i>xcf-member</i> USES DIFFERENT AXMCB VERSION	<p>メッセージに表示されるクラスタメンバでは、クラスタ内の他のニュークリアスと同じバージョンの Adabas を使用していません。すべての Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスによって、<i>xcf-member</i> 名が生成されます。形式：</p> <p>DBddddpppppNnn</p> <p>ここで、<i>dddd</i> はデータベース ID、<i>ppppp</i> はゼロ以外のニュークリアス ID、<i>nn</i> は内部的な順序を示す ID です。</p>	クラスタ内のすべてのニュークリアスによって、同じ Adabas バージョンと同じ Adabas クラスタバージョンが使用されていることをチェックします。
EXISTING XCF GROUP MEMBER <i>xcf-member</i> USES DIFFERENT DBID	同じ XCF グループですでにアクティブな Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスが異なる DBID を使用しています。すべての Adabas シスプレックスクラスタニューク	シスプレックスクラスタに参加しているすべてのニュークリアスで ADARUN パラメータ DBID と CLUGROUPNAME が正しいことを確認してください。問題を解決

エラーテキスト	説明	対処
	<p>リアスによって、<i>xcf-member</i> 名が生成されます。形式：</p> <p>DBddddpppppNnn</p> <p>ここで、<i>dddd</i> はデータベース ID、<i>ppppp</i> はゼロ以外のニュークリアス ID、<i>nn</i> は内部的な順序を示す ID です。</p>	<p>できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。</p>
INCOMPATIBLE AXMCB VERSION	<p>使用している Adabas Cluster Services モジュールは実行中の Adabas とバージョンが一致しません。</p>	<p>Software AG 技術サポートに連絡してください。</p>
INCOMPATIBLE AXMVT VERSION	<p>使用している Adabas Cluster Services モジュールは実行中の Adabas とバージョンが一致しません。</p>	<p>Software AG 技術サポートに連絡してください。</p>
INVALID GROUP NAME	<p>ADARUN パラメータ CLUGROUPNAME は省略されているか、または無効です。</p>	<p>ADARUN パラメータを修正してください。CLUGROUPNAME は英字で始める必要があります。SYS および UNDESIG で始めてはなりません。</p>
INVALID USERSTATE DATA FROM EXISTING MEMBER <i>xcf-member</i>	<p>すでに XCF グループに接続されたメンバに示された制御情報は、適切な Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスとしてフォーマットされなかったか、または異なる DBID を持っていました。前から存在しているメンバは異なる DBID に関連している Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスである可能性があります。あるいは同じ XCF グループ名を使っている別のプロセスである可能性があります。すべての Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスによって、<i>xcf-member</i> 名が生成されます。形式：</p> <p>DBddddpppppNnn</p> <p>ここで、<i>dddd</i> はデータベース ID、<i>ppppp</i> はゼロ以外のニュークリアス ID、<i>nn</i> は内部的な順序を示す ID です。</p>	<p><i>xcf-member</i> のソースを特定します。Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスであれば、パラメータ NUCID、CLUGROUPNAME、および DBID が正しいことを確認してください。追加の情報が他のニュークリアスによって生成されたメッセージの中に存在する可能性があります。Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスでなければ、システムプログラマまたはサポート担当に連絡してください。問題が解決されない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。</p>
IXCJOIN FAILED, DUPLICATE NUCID AND XCF MEMBER NAME	<p>XCF サービス IXCJOIN は、このニュークリアスによって要求されているメンバ名が XCF グループですすでにアクティブであることを報告しました。メンバ名は ADARUN パラメータ DBID と NUCID およびニュークリアス初期化中に割り当てられた内部番号から派生します。このメッセージとともに含まれるすべてのリターンコードおよび理由コードは、IBM のドキュメント『MVS プログラミング：シスプ</p>	<p>ADARUN パラメータ DBID が正しく、NUCID が Adabas シスプレックスクラスタに参加している全ニュークリアス間でユニークであることを確認してください。問題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。</p>

エラーテキスト	説明	対処
	レックス・サービス解説書』で解説されています。	
IXCJOIN FAILED OR RETRY COUNT EXHAUSTED	エラーが XCF サービス IXCJOIN によって報告されました。メッセージ ADAX28 は IXCJOIN からのリターンコードおよび理由コードを提供します。これらのリターンコードおよび理由コードは、IBM のドキュメント『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』で解説されています。エラーは、システムプログラマがインストールに指定した XCF オプションが原因になっている可能性があります。	問題を解決できない場合は Adabas 技術サポートに連絡してください。
IXCQUERY FAILED	エラーが IBM XCF サービス IXCQUERY によって報告されました。メッセージ ADAX28 は IXCQUERY からのリターンコードおよび理由コードを提供します。これらは IBM ドキュメンテーションに定義されています。	Adabas 技術サポートに連絡してください。
NUCID ALREADY ACTIVE	XCF 初期化は、同じ NUCID を持つアクティブな Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスを見つけました。	ADARUN パラメータ NUCID が Adabas シスプレックスクラスタに参加している全ニュークリアス間でユニークであることを確認してください。
TOO MANY MEMBERS EXIST IN XCF GROUP	IXCQUERY は XCF グループに予期しない数の既存メンバを確認しました。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
XCF LATCH SET CREATION FAILED	IBM ラッチセット作成ルーチン ISGLCRT によってエラーが報告されました。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
XCF TRANSPORT INITIALIZATION FAILED	Adabas シスプレックスクラスタのメッセージングサービスの初期化が失敗し、ニュークリアス初期化は PARM エラー 092 で失敗しました。失敗の理由は前のメッセージで示されます。	前のメッセージを参照してエラーを解決してください。Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX22**{dbid} STATUS MONITOR UPDATE MISSED****説明：**

このニュークリアスには、ADARUN パラメータ MXSTATUS で指定された間隔内でのハートビートモニタの更新に失敗したことが XCF によって通知されました。このことは、同じ XCF グループに登録された他のすべてのニュークリアスにも XCF によって通知されます。これらの各ニュークリアスからメッセージ ADAX04 が出力される場合があります。

対処：

このニュークリアスによってハートビートモニタを更新できない原因を特定します。ニュークリアスがハンガアップまたはループしているか、システム内の他のプロセスが CPU を占有しているため、ニュークリアスに対する CPU の割り当てが不十分になっている可能性があります。

ADAX23**{dbid} STATUS MONITOR UPDATE RESUMED AFTER {nn} SECONDS****説明：**

1 つ以上のステータス監視間隔が失われた後で、このニュークリアスによるハートビートモニタの更新が再開されました。このことは、同じ XCF グループに登録された他のすべてのニュークリアスにも XCF によって通知されます。これらの各ニュークリアスからメッセージ ADAX05 が出力される場合があります。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX24**{dbid} {error-text}****説明：**

エラーは、着信する非同期メッセージを処理しているときに発生しました。このメッセージは z/OS の Adabas ニュークリアス JESLOG リスト、SYSLOG、またはオペレータコンソールにのみ表示されます。このメッセージには次のエラーテキストのいずれかが示されます。

エラーテキスト	説明	対処
AXMCB ALLOCATION FAILED IN XCF MESSAGE EXIT	着信メッセージを記述するためにメッセージコントロールブロックをプールから取得することができませんでした。	初期化時に作成される AXMCB の数が大きくなるように、ADARUN パラメータ NT と NU を調節してください。問題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。
BUFFER ALLOCATION	着信メッセージのためのバッファを取得することができませんでした。	REGION JCL パラメータを増やすことによってより多くのストレージを提供してください。問

エラーテキスト	説明	対処
FAILED IN XCF MESSAGE EXIT		題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。
INVALID INCOMING MSGCNTL HEADER IN XCF MESSAGE EXIT	着信メッセージのために提供された制御情報は適切な Adabas クラスタニュークリアスとしてフォーマットされなかったか、または異なる DBID を持っていました。前にメッセージ ADAX27 で述べられた XCF グループメンバからメッセージが送られている場合は、このエラーが発生する可能性があります。	メッセージ ADAX27 を参照してください。問題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。
OUT OF SEQUENCE OR MISSING SEGMENTS IN XCF MESSAGE EXIT	特定の長さに従って複数のセグメントに分割されて送られたメッセージのセグメントが、予想した順番で到着しませんでした。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
SEGMENTED MESSAGE TIMED OUT IN XCF MESSAGE EXIT	特定の長さに従って複数のセグメントに分割されて送られたメッセージは、タイムアウト間隔の期限切れで完了しませんでした。これは、送信ニュークリアスのエラー、XCF エラー、またはシステムリソースの競合が原因で発生した可能性があります。	問題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。
UNABLE TO RECEIVE MESSAGE SEGMENT IN XCF MESSAGE EXIT	メッセージを受け取ろうとしているときに、XCF IXCMSGI サービスからエラーが報告されました。メッセージ ADAX28 は、IXCMSGI リターンコードと理由コードを提供します。これらのリターンコードおよび理由コードは、IBM のドキュメント『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』で解説されています。	問題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。
UNABLE TO SAVE MESSAGE SEGMENT IN XCF MESSAGE EXIT	メッセージを保存しようとしているときに、XCF IXCMSGC サービスからエラーが報告されました。メッセージ ADAX28 は、IXCMSGC リターンコードと理由コードを提供します。これらのリターンコードおよび理由コードは、IBM のドキュメント『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』で解説されています。メッセージを保存するためのインスタレーションに割り当てられたリソースが十分ではない可能性があります。	XCF のリソースが不足しているかどうかを判断するために、システムプログラマまたは技術担当者に連絡してください。問題を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX26**{dbid} INVALID USERSTATE DATA FROM {xcf-member}**

説明：

z/OS XCF メッセージングトランスポートサービスによって生成されたメンバ状態の変更イベントを処理しているとき、メンバが XCF グループに参加しようとしたためにエラーが発生しました。接続を試行している XCF グループメンバに提供された制御情報は、適切な Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスとしてフォーマットされなかったか、または異なる DBID を持っていました。参加メンバは、異なる DBID に関係している Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスカ、または同じ XCF グループ名を使っている別のプロセスである可能性があります。すべての Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスで、次の形式の *xcf-member* 名が生成されます。

DBddddpppppNnn

ここでは次の内容を表しています。

dddd	データベース ID です。
ppppp	ゼロ以外の NUCID です。
nn	内部的な順序を示す ID です。

メンバ状態の変更イベントは破棄されます。

対処：

xcf-member のソースを特定します。Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスであれば、パラメータ NUCID、CLUGROUPNAME、および DBID が正しいことを確認し、この問題を解決できない場合は Adabas 技術サポートに連絡してください。その他にも情報が、参加しようとしたニュークリアスのメッセージの中にある可能性があります。Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスでなければ、システムプログラマまたはサポート担当者に連絡してください。

ADAX27**{dbid} NO ROOM IN AXCFVT TABLE FOR {xcf-member}**

説明：

z/OS XCF メッセージングトランスポートサービスによって生成されたメンバ状態の変更イベントを処理しているときにエラーが発生しました。

対処：

Adabas 技術サポートに連絡してください。メンバ状態の変更イベントは破棄されます。

ADAX28**{dbid} xcf-service-routine RET return-code RSN reason-code**

説明：

このメッセージは、z/OS Adabas ニュークリアス JESLOG リスト、SYSLOG、またはオペレータコンソールにのみ表示されます。初期化と終了中、および要求が失敗するとき、特定の XCF メッセージトランスポートサービス要求に対して発行されます。各 XCF サービスに対する各種のリターンコードおよび理由コードの説明については、IBM のドキュメント『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』を参照してください。

対処：

このメッセージは、他のメッセージに反映されたエラー条件に関係するか、または失敗するような Adabas クラスタメッセージ要求が原因になって発行された可能性があります。関連エラーが確認された場合、Software AG 技術サポートに連絡を取るときは、このメッセージの内容もお知らせください。

ADAX29
**{dbid} ADABAS ABEND IN XCF EXIT DBID dbid NUCID nucid ABEND routine Snnn
Unnnn REASON reason PSW psw REG 0-3 reg 0 reg 1 reg 2 reg 3 REG 4-7 reg 4 reg 5 reg 6
reg 7 REG 8-B reg 8 reg 8 reg 10 reg 11 REG C-F reg 12 reg 13 reg 14 reg 15**

説明：

プログラムチェックまたはシステムアベンドが、z/OS XCF メッセージングトランスポートサービス FRR または ESTAE ルーチンによってインターセプトされました。エラーは SRB の下で発生した可能性があります。

ニュークリアスは終了します。ダンプが SDUMP フォーマットで、ニュークリアス割り当てファイル SYSUDUMP、SYSMDUMP、または SYSABEND の 1 つに出力されます。あるいは、SYS1.DUMPn のようなシステム割り当てファイルに出力されます。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

SMM Facility (ADASMM) メッセージ (ADAX2A~ADAX2I)

このセクションのメッセージは Adabas Parallel Services メッセージングモジュール ADASMM (SMM 機能とも呼ばれている) によって返されます。

各メッセージの先頭には "hh:mm:ss" 形式のタイムスタンプ、ジョブ名、および Adabas Parallel Services クラスタのデータベース ID (先行ゼロを含む 5 桁の数字) が表示されます。

ADAX2A

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
INCOMPATIBLE AXMVT VERSION	使用している Adabas Parallel Services モジュールは実行中の Adabas と互換性がありません。	Adabas Parallel Services ライブラリには Adabas ライブラリとの互換性があることをチェックしてください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。
TI-0, INITIALIZED, RC <i>return-code</i>	ADASMM は正常に初期化しました。	この情報メッセージに対処は必要ありません。
TI-1, CANNOT GET WORK MEMORY	ADASMM ワークエリアのメモリを取得する試行は失敗しました。ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
TI-2, CANNOT GET PLXCB	Adabas Parallel Services コントロールブロック (MPM76 コール) の取得に失敗しました。ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
TI-3, CANNOT LOAD PLXDEP	オペレーティングシステムインターフェイスモジュール PLXDEP をロードする試行は失敗しました。ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
TI-4, MEMSTATE CALL NUCID: <i>nucid</i> , RC <i>return-code</i>	指定されたニュークリアス ID へのメンバ状態テーブルのインターフェイスコールから指定された16進数のリターンコードを受け取りました。	リターンコードを分析して、エラーを修正してください。
TI-5, ERROR IN POST NUCID: <i>nucid</i> , RC <i>return-code</i>	指定されたニュークリアス ID へのクロスメモリポスト (MPM 80) ルーチンから指定された16進数のリターンコードを受け取りました。	リターンコードを分析して、エラーを修正してください。
TI-6, NUCID: <i>nucid</i> REPORTED ACTIVE - INCONSISTENT PLXCB	致命的なエラーが初期化中に発生しました。クラスタコントロールブロック PLXCB は、ニュークリアス (NUCID) がアクティブであったことを誤って報告しました。従って PLXCB は矛盾しており、初期化はレスポンスコード 8 で失敗します。	クラスタをクリーンに再スタートしてください。
<i>dbid</i> TI-9, ERROR SET PROCESS TOKEN: <i>xx</i>	プロセストークン値 <i>xx</i> の取得で、Adabas オペレーティングシステムのインターフェイス ADAIOR から値が返されるときに致命的なエラーが発生しました。 <i>dbid</i> が SMP クラスタのデータベース ID です。	表示されたレスポンスコードを記録してから、Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX2B

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
TT-0, SMM NOT YET INITIALIZED	終了コールは、前の成功した初期化コールなしで行われました。SMM 機能は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
TT-1, SMM TERMINATING	SMM 機能は終了しています。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
TT-2, MEMSTATE CALL, NUCID: <i>nucid</i> , RC <i>return-code</i>	指定された 16 進数のリターンコードは、指定されたニュークリアス ID へのメンバ状態テーブルのインターフェイスコールから受け取りました。	リターンコードを分析して、エラーを修正してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX2C

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
SM-0, SMM NOT INITIALIZED YET	送信コールは前の正常な初期化なしで行われました。ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
SM-1, TIMER CALL, RC <i>response-code</i>	指定された 16 進数のレスポンスコードは、タイムアウト間隔を設定するコールから返されました。	レスポンスコードを分析して、エラーを修正してください。
SM-2, NO UB AVAILABLE, RC <i>response-code</i>	指定された 16 進数のレスポンスコードは、ユーザーバッファを取得するためのコールによって返されました。	レスポンスコードを分析して、エラーを修正してください。
SM-3, CANNOT FIND ECB ELEMENT	イベントコントロールブロックはメッセージを送るために必要です。テーブルがいつ	テーブルのサイズは ADARUNNC パラメータが基準になります。

メッセージテキスト	説明	対処
	ばいであるために、このコントロールブロックは取得することができません。	テーブルサイズを増やすには ADARUNNC パラメータの値を増やしてください。
SM-4, REPLY ERROR, NUCID: <i>nucid</i> , RC <i>response-code</i>	指定された16進数のレスポンスコードは、指定された（外部）NUCID によって返されました。	レスポンスコードを分析して、エラーを修正してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX2D

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
RM-0, SMM NOT YET INITIALIZED	受信コールは、前の成功した初期化なしで行われました。ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
RM-1, REPLY ECB NOT FOUND, RC <i>response-code</i>	すべての ADASMM メッセージがイベントコントロールブロックを必要とします。このブロックはテーブルに保持されます。要求された受信メッセージは、送信によって設定された同等のイベントコントロールブロックエントリを持っていません。	レスポンスコードを分析して、エラーを修正してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX2E

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
QU-0, SMM NOT YET INITIALIZED	クエリメンバコールは、前の成功した初期化なしで行われました。 ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
QU-1, BAD FUNCTION CODE <i>code</i>	ADASMMQU へのコールには機能コードがありません。 機能コード <i>code</i> は範囲外にあります。 これは内部エラーです。 ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。 問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX2F

{dbid} TM-0, SMM NOT INITIALIZED YET

説明：

前の成功した初期化コールなしで、クラスタセッションを終了するためのコールが行われました。

対処：

ADASMM は終了します。

ADAX2G

{dbid} CM-0, SMM NOT YET INITIALIZED

説明：

前の成功した初期化なしでキャンセルコールが行われました。

対処：

ADASMM は終了します。

ADAX2H

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
CME-0, SMM NOT YET INITIALIZED	前の成功した初期化なしで受信出口がコールされました。 ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
CME-1, CANNOT FIND ECB ELEMENT	イベントコントロールブロックが ADASMM のためのデータベースで受信されました。送信されたメッセージのための同等のイベントコントロールブロックは検出できません。	送信されたメッセージのための ECB が有効であることを確認してください。
TIMEX-0, SMM NOT YET INITIALIZED	前の成功した初期化なしでタイマ出口コールが行われました。 ADASMM は終了します。	Software AG 技術サポートに連絡してください。
<i>dbid</i> TIME-1, MSG TO <i>cccc</i> TIMED OUT	クラスタ <i>cccc</i> へのメッセージ送信に応答がなくタイムアウトになりました。	これは警告です。 Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX2I

{*dbid*} {message-text}

説明：

このメッセージでは次のメッセージテキストのいずれかが表示されます。

メッセージテキスト	説明	対処
SS-1, TARGET GONE, ID <i>nucid</i>	指定された (外部) NUCID を持つクラスタニュークリアスはクラスタを終了しました。	この情報メッセージに対処は必要ありません。
SS-2, MEMSTATE, ID <i>int-nucid</i> IND <i>idx-num</i> EXT <i>nucid</i> STATE <i>nn</i>	このメッセージは、SMM 機能からメンバ状態テーブルマネージャへのコールについての情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>int-nucid</i> は、メンバ状態テーブル (内部) のクラスタニュークリアスのためのニュークリアスインジケータエントリです。 ■ <i>idx-num</i> は、内部ニュークリアスインジケータエントリのインデックス番号です。 ■ <i>nucid</i> は、ユーザー指定 (外部) NUCID 番号ですが、非クラスタニュークリアスの場合はゼロ (0) になります。 	この情報メッセージに対処は必要ありません。

メッセージテキスト	説明	対処
	■ <i>nn</i> は、ニュークリアスのステータスです (00 はアクティブ化、03 は解放)。	
SS-3, ACB TO ID <i>nucid</i> , RC <i>rsp-code</i> , AD2 <i>value</i>	エラーがクラスタコミュニケーションで発生しました。メッセージを返したクラスタニュークリアスは (外部) NUCID によって識別されます。コマンド ACB または ACBX のアディション2フィールドの内容とレスポンスコードが提供されます。	これは警告です。Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

対処については上記の表を参照してください。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

クラスタニュークリアスリカバリメッセージ (ADAX31~ADAX33)

ADAX31

OPENING WORK DATASET FOR NUCID={nucid}

説明：

1つ以上の Adabas クラスタニュークリアスの障害からリカバリしているとき、このニュークリアスは指定された (外部) NUCID を持つニュークリアスの WORK データセットをオープンしようとして異常終了しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX32

OPEN FAILED. IOR CODE=X'{cc}', SYSTEM CODE=X'{ssss}'

説明：

1つ以上の Adabas クラスタニュークリアスの障害からリカバリしているとき、このニュークリアスは NUCID *nucid* (メッセージ ADAX31) を持つニュークリアスの WORK データセットをオープンしようとしたましたが、オープンは失敗しました。ADAIOR はレスポンスコード *cc* (16 進数) を発行しました。システムのリターンコードは *ssss* (16 進数) です。ニュークリアスジョブプロトコル (DD/PRINT) には、オープンできなかった WORK データセット名を詳述している ADAI63 メッセージが含まれます。

対処：

WORK データセットのオープンが失敗した理由を特定してください。次のような原因が考えられます。

- WORK データセットまたはそのカタログエントリが、アクセスできない、または壊れていました。
- WORK データセットの名前を含んでいる PPT ブロックが壊れていました。

- 可能であれば、エラーを修正して、ニュークリアスを再スタートしてください。そうでなければ、データベースをリストアし、再生成する必要があります。

確かでない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX33

BAD WORK BLOCK FOR NUCID={nucid} TIMESTAMP MISMATCH -- RABN={rrrr}

説明：

1つ以上の Adabas クラスタニュークリアスの障害からリカバリしているとき、このニュークリアスは、ブロックの初めのタイムスタンプがブロックの終わりのコントロールタイムスタンプと一致しなかったブロックを検出しました。ブロックの最後の書き込みが不完全であった、または別の理由のためにブロックが壊されました。一致していないため、リカバリに使用することはできません。ブロックは、NUCIDnucidのニュークリアスのWORKデータセットから読み込まれました。RABNはrrrrです。

対処：

データベースをリストアし再生成してください。確かでない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

キャッシュサービスメッセージ (ADAX40～ADAX5C)

ADAX40

{dbid} ADABAS ABEND IN CACHE EXIT DBID dbid NUCID nucid ABEND routine Snnn Unnnn REASON reason PSW psw REG 0-3 reg 0 reg 1 reg 2 reg 3 REG 4-7 reg 4 reg 5 reg 6 reg 7 REG 8-B reg 8 reg 8 reg 10 reg 11 REG C-F reg 12 reg 13 reg 14 reg 15

説明：

プログラムチェックまたはシステムアベンドが、z/OS XES 並列シスプレックスキャッシュサービス FRR ルーチンによってインターセプトされました。エラーはSRBの下で発生しました。

ニュークリアスは終了します。ダンプがSDUMPフォーマットで、ニュークリアス割り当てファイルSYSUDUMP、SYSMDUMP、またはSYSABENDの1つに出力されます。あるいは、SYS1.DUMPnのようなシステム割り当てファイルに出力されます。

対処：

Adabas 技術サポートに連絡してください。

ADAX41

{dbid} ADANCX GETMAIN FAILED

説明：

ADANCXはAdabasクラスタ環境のためのニュークリアス拡張モジュールです。このモジュールのためのスペース割り当てに失敗しました。

対処：

メモリ要件を減らすか、または利用可能なメモリの大きさを拡張してください。

ADAX42**{dbid} GETMAIN FAILED**

説明：

スペース割り当てが失敗しました。

対処：

メモリ要件を減らすか、または利用可能なメモリの大きさを拡張してください。

ADAX43**{dbid} { ADAXEC | ADASMC } INITIALIZATION ERROR - xxx**

説明：

内部エラーです。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX44**{dbid} ADANCX CACHE-RELATED GETMAIN FAILED**

説明：

ADANCX は Adabas クラスタ環境のためのニュークリアス拡張モジュールです。このモジュールのための 2 番目のスペース割り当てに失敗しました。

対処：

メモリ要件を減らすか、または利用可能なメモリの大きさを拡張してください。

ADAX45**{dbid} UNEXPECTED CACHE CONNECTION ERROR - xxx**

説明：

シスプレックスキャッシュ構造に接続しているときにエラーが発生しました。理由については次のメッセージを参照してください。

対処：

問題を修正してください。対処が明らかでなければ、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX46**{dbid} GETMAIN FAILED AFTER CONNECT TO CACHE**

説明：

Adabas が外部キャッシュ構造に接続された後、スペース割り当てに失敗しました。

対処：

メモリ要件を減らすか、または利用可能なメモリの大きさを拡張してください。

ADAX47

{dbid} CACHE CONNECT PROBLEM RC X'xxxxxxxx' REASON X'yyyyyyyy'

説明：

シスプレックスキャッシュ構造に接続しているときにエラーが発生しました。xはキャッシュ関連のリターンコードを示し、yはエラーを説明するための理由コードを示します。

対処：

Adabas Parallel Services を使用している場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Adabas Cluster Services を使用している場合は、IBM マニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』のコードの説明を参照してください。関連情報は、マクロ IXLCONN のリターンコードおよび理由コードのセクションで見つけることができます。コンフィグレーションエラーのために発生する共通の理由コードには以下が含まれます。

RC	理由	説明
X'08'	X'xxxx084C'	不適切な SAF 認可。 Adabas は構造に接続する権限がありません。
X'0C'	X'xxxx0C05'	構造は CFRM policy には定義されません。無効な構造名パラメータが原因になっている可能性があります。
X'0C'	X'xxxx0C08'	構造割り当てのために検出された適切なカップリング機能はありません。
X'0C'	X'xxxx0C29'	CFRM 機能は、アクティブでないか、または利用できません。

ADAX48

{dbid} CACHE DISCONNECT RC rrr CRC X'xxxxxxxx'X REASON X'yyyyyyyy'

説明：

このメッセージのメッセージテキストには複数の種類があります。次のテーブルでは、異なるメッセージテキストの結果として発生するユーザーの対処について説明します。

メッセージテキスト	説明	対処
CACHE DISCONNECT RC rrr CRC X'xxxxxxxx'X REASON X'yyyyyyyy'	シスプレックスキャッシュ構造から切断しているときにエラーが発生しました。メッセージには、エラーの内容を説明するために、ADAXEC からのリターンコード (rrr)、キャッシュ構造からのリターンコード (xxxxxxxx)、および理由コード (yyyyyyyy) が表示されます。	Adabas Parallel Services を使用している場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。 Adabas Cluster Services を使用している場合は、IBM マニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』のコードの説明を参照してください。関連情報は、マクロ IXLDISC のリターンコードおよび理由コードのセクションで見つけることができます。

メッセージテキスト	説明	対処
BLOCK <i>blk-name</i> CAST-OUT LOCKED AT DISCONNECT <i>nnnn</i> CAST-OUT LOCKS RELEASED AT DISCONNECT	グローバルキャッシュからの切断時に、Parallel Services ニュークリアスでは1つ以上のキャッシュブロックでキャストアウトロックが保持されました。キャストアウトロックは解除されました。この処理はオンラインリカバリ処理中に実行される場合があります。 影響を受けるエントリブロックに対して最初のメッセージが繰り返され、2番目のメッセージでは影響を受けるブロックの数が集約されます。	オンラインリカバリ中にこれらのメッセージが表示される場合、対処の必要はありません。ただし、これらのメッセージがセッションの正常終了中に表示される場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

対処：

上記の表で説明されている対処を実行します。

ADAX49

{dbid} UNEXPECTED CACHE RETURN CODE ENCOUNTERED

ADAX49

{dbid} FUNCTION X'ff' xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

ADAX49

{dbid} CRC X'yyyyyyyy' REASON X'zzzzzzz'

説明：

予期しないリターンコードがキャッシュ構造に関連付けられたマクロの実行中に返されました。

対処：

Adabas Parallel Services を使用している場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Adabas Cluster Services を使用している場合は、IBM マニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』のコードの説明を参照してください。関連情報は、メッセージに表示された機能と一致している章のマクロ IXLCACHE のリターンコードおよび理由コードのセクションで見つけることができます。

ADAX50

{dbid} GETMAIN FAILED FOR CAST-OUT DIRECTORY BUFFER

ADAX50

{dbid} SIZE REQUESTED xxxxxxxxxxx

説明：

キャストアウトディレクトリバッファのためのスペース割り当てに失敗しました。

対処：

メモリ要件を減らすか、または利用可能なメモリの大きさを拡張してください。

ADAX51

{dbid} CACHE STRUCTURE ALLOCATION UNACCEPTABLE

ADAX51

{dbid} REQUESTED CACHE ALLOCATION VALUES

ADAX51

{dbid} STORAGE CLASSES X'{ee}'

ADAX51

{dbid} CAST-OUT CLASSES X'{fff}'

ADAX51

{dbid} ADJUNCT=YES

ADAX51

{dbid} MAXIMUM DATA ELEMENTS PER ENTRY X'{gg}'

ADAX51

{dbid} DATA ELEMENT CHARACTERISTIC X'{hh}'

ADAX51

{dbid} ACTUAL CACHE ALLOCATION VALUES

ADAX51

{dbid} STORAGE CLASSES X'{ii}'

ADAX51

{dbid} CAST-OUT CLASSES X'{jjj}'

ADAX51

{dbid} ADJUNCT={YES | NO}

ADAX51

{dbid} MAXIMUM DATA ELEMENTS PER ENTRY X'{kk}'

ADAX51

{dbid} DATA ELEMENT CHARACTERISTIC X'{mm}'

説明：

キャッシュ構造は正常に接続されましたが、キャッシュ構造の属性が Adabas シスプレックスクラスタに対して不適切です。

対処：

シスプレックス CFRM policy にキャッシュ構造を正しく定義してください。

ADAX52**{dbid} NCOMPATIBLE EXISTING USER(S) OF THE****ADAX52****{dbid} CACHE STRUCTURE {cache-structure-name}****説明：**

指定された名前を持つキャッシュ構造はすでに別の Adabas クラスタによって使われています。キャッシュ構造名は Adabas クラスタニュークリアスのためだけに使用できます。

対処：

特定のクラスタで使用されるように、指定されたキャッシュ構造名を使ってください。

ADAX53**{dbid} INTERNAL ERROR - NO AVAILABLE XQRB****説明：**

内部エラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX54**{dbid} INSUFFICIENT CACHE DATA ELEMENTS****説明：**

キャッシュ構造は正常に接続されましたが、外部キャッシュ構造（またはグローバルキャッシュエリア）のキャッシュデータ要素の数が足りません。80,000バイト以上の情報を保持するために十分なデータ要素が必要です。割り当てられたデータ要素の数は前のメッセージ ADAX57 に示されています。

対処：

外部キャッシュ構造（またはグローバルキャッシュエリア）のサイズを増やしてください。あるいは、十分なキャッシュデータ要素が割り当てられるように、ADARUN パラメータ DIRRATIO と ELEMENTRATIO のいずれかまたは両方を修正してください。

ADAX55**{dbid} THIS JOB WILL NOW TERMINATE****説明：**

ニュークリアスを異常終了させる内部エラーが発生しました。このメッセージより前に発行されたメッセージに、エラーに関連する詳細情報が出力されています。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX57

{dbid} CONNECTED TO CACHE STRUCTURE {cache-structure-name}

ADAX57

{dbid} DIRECTORY ELEMENTS {xxxxxxx}

ADAX57

{dbid} DATA ELEMENTS {yyyyyyy}

ADAX57

{dbid} DATA ELEMENT SIZE {zzzzzz}

説明：

クラスタ環境で、Adabas クラスタニュークリアスは指定されたキャッシュ構造（またはグローバルキャッシュエリア）に正常に接続しました。このメッセージには、キャッシュのディレクトリエントリとデータ要素の数とデータ要素のサイズが出力されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX58

{dbid} TIME EXPIRED WAITING FOR NOTIFICATION OF

ADAX58

{dbid} EXISTING CONNECTORS TO THE CACHE STRUCTURE

説明：

シスプレックス環境で、Adabas クラスタニュークリアスをクラスタキャッシュ構造に接続しようとしたが、キャッシュ構造に対してすでに確立している接続についての情報を待っている間に、タイムアウトしました。

対処：

再度 Adabas シスプレックスクラスタニュークリアスを開始してください。エラー発生が続く場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX59

{dbid} UNEXPECTED RETURN CODE FROM { ADAXEC | ADASMC }

ADAX59

{dbid} FUNCTION X'ff' xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

ADAX59

{dbid} RC rrr

説明：

参照されたモジュールへのコール中に予期しないリターンコードを受け取りました。メッセージは機能コードおよびリターンコードを含んでいます。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX5B**{dbid} CONNECTING TO S64 CACHE AT address****ADAX5B****{dbid} CONNECT TO S64 CACHE RETURN CODE ADAIOR-return-code/zOS-return-code/zOS-reason-code****ADAX5B****{dbid} DISCONNECTING FROM S64 CACHE****ADAX5B****{dbid} DISCONNECT FROM S64 CACHE RETURN CODE ADAIOR-return-code/zOS-return-code/zOS-reason-code****説明：**

Adabas Parallel Services は z/OS 共有 64 ビットアドレス可能ストレージをキャッシュコンフィギュレーションの一部として使用しています。S64 オブジェクトへの接続はローカルアフィニティを確立し、オブジェクトをアドレス可能にします。切断するとアフィニティが削除され、以降そのオブジェクトはアドレス可能でなくなります。z/OSIARV64から受け取るゼロ以外のリターンコードはフォーマットされています。

対処：

処理に失敗した場合は、IBM ドキュメンテーション『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』第2巻 (EDTINFO-IXGWRITE)を参照して、IARV64 リターンコードおよび理由コードの説明を確認してください。原因が不明の場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX5C**{dbid} UNCHANGED BLOCKS WILL [NOT] BE WRITTEN TO CACHE****説明：**

このメッセージでは、この Adabas Parallel Services ニュークリアスに関する ADARUN CLUCACHEUNCHANGED パラメータの設定が報告されます。変更されていないブロックがグローバルに書き込まれるか、または書き込まれないかのいずれかです。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ロックサービスメッセージ (ADAX60～ADAX73)**ADAX60****{ PEER NUCLEUS | UNKNOWN CONNECTOR } {connection-name }****ADAX60****{ IS ALREADY | HAS } CONNECTED TO****ADAX60****{ CACHE | LOCK } STRUCTURE {structure-name}**

説明：

キャッシュ構造またはロック構造の別のコネクタに関連するイベントが発生しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX60

{ PEER NUCLEUS | UNKNOWN CONNECTOR } connection-name

ADAX60

HAS DISCONNECTED { NORMALLY | ABNORMALLY } FROM

ADAX60

{ CACHE | LOCK } STRUCTURE structure-name

説明：

キャッシュ構造またはロック構造の別のコネクタに関連するイベントが発生しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX61

{date time statistic-text statistic-value}

説明：

ニュークリアスがキャッシュから切断されるたびに、キャッシュのアクティビティに関する統計値を含む、このメッセージが発行されます。これらの情報は、問題の診断と適切なキャッシュコンフィギュレーションの選択に役立ちます。統計に表示されるのは1つのニュークリアスのアクティビティのみである点に注意してください。全般的なニュークリアスの状態を確認するには、他のニュークリアスの統計情報も調べる必要があります。

このメッセージはコンソールでの DMEMTB オペレータコマンドからの出力表示にも使用されます。

次にこのメッセージに表示される統計の例を示します。

```
ADAX61 Statistics at disconnect for cache C00C7231
  Cache Directory Management Activity
    32,565 Read located active
    5,230 Read obtained from free pool
      0 Read reclaimed, first choice criteria
      0 Read reclaimed, second choice criteria
      0 Read reclaimed, third choice criteria
      0 Read reclaimed, fourth choice criteria
      0 Read unable to obtain (cache full)
      0 Total number of directory reclaim attempts
      0 Number of directories examined for reclaim
    0.000 Average number of directories examined per attempt
    680 Write obtained from free pool
```

```

    496 Directory high-water mark (this nucleus)
    1,134 Directory high-water mark (cluster-wide)

Cache Write Requests
    306,706 Sufficient preallocated space
    235 Free space allocated
        5 Space reclaimed, first choice criteria
    6,322 Space reclaimed, second choice criteria
    885 Unable to obtain space (cache full)
    4,292 Space search examined part of space chain
    3,155 Space search examined entire space chain
    7,447 Total number of space allocation attempts
    462,840 Number of space chain descriptors examined
    62.151 Average number of descriptors examined per attempt

Cache Space Element Reclamation
    48 Elements reclaimed, first choice criteria
    28,431 Elements reclaimed, second choice criteria

Latch Attempts

```

	Exclusive	Shared
Cache Space Chain		
Get	7,455	
WaitFor	8	
Release	7,447	
Cache Directory Index		
Get	5,351	249,009
WaitFor	0	0
Release	10,579	243,781
Cache Directory		
Get	454,179	398,747
WaitFor	205	53
Release	459,297	393,339
Cache Cast-Out Class		
Get	44,865	3,510
WaitFor	0	0

次の表は統計の説明です。

メッセージ統計タイプ	説明
Cache Directory Management Activity	<p>キャッシュディレクトリ要素は、参照先の ASSO ブロックと DATA ブロックを示します。また、ディレクトリ要素は、キャッシュデータストレージプール内の未割り当てスペースも示します。キャッシュ初期化中に作成されたディレクトリ要素の数はメッセージ ADAX57 に表示されます。</p> <p>ASSO ブロックまたは DATA ブロックを最初に参照するときに、キャッシュ読み込み要求が発生します。ブロックがキャッシュ内で既知であれば、既存のディレクトリ要素が使用されます。それ以外の場合は、ディレクトリ要素の割り当てが必要になります。空きプールに何も存在しない場合、ニュークリアスは再利用可能なディレクトリ要素が存在するかどうか探します。ブロックが変更されていて、外部ストレージへの書き込み（書き戻し）が行われていないブロック（ダーティブロック）のディレクトリ要素は再利用されません。残りのディレクトリ要素の中から、近いうちに必要となる可能性が最も低いブロックを示すディレクトリ要素が選択されます。望ましさの高さに応じて、4段階の選択条件が存在します。最も望ましいケースでは、キャッシュミスによる余分な入出力が発生する可能性が低くなります。逆に最も望ましくないケースでは、再び使用される可能性があるブロックを示す要素を再利用することになるため、余分な入出力が発生する可能性が高くなります。選択条件の要因としては、ブロックを参照したニュークリアスの数、ブロックが最近参照されたかどうか、ブロックの内容のステータスなどがあります。</p> <p>すべてのディレクトリ要素がダーティブロックを示す場合、キャッシュが一杯であると見なされ、ディレクトリ割り当ては失敗します。次にニュークリアスは、バッファフラッシュを実行して、ダーティブロックを書き戻してから、要求を再試行します。</p> <p>書き込みが要求されると、フラグメントの発生したスペースを示すディレクトリ要素の割り当てが試行されることもあります。これは頻繁に発生することではありません。</p> <p>再利用されるディレクトリ要素が全体的なアクティビティ（特に基準が高いために発生する再利用）の重要な部分を占める場合、パフォーマンスを最適化するため、ディレクトリ要素を増やすことを検討してください。</p> <p>キャッシュ制御構造は、ニュークリアスが失敗した後、オンラインリカバリの一部として再構築されます。これによりクラスタ全体に対する一番高い基準は再設定されますが、個々のメンバに対する一番高い基準には影響しません。</p>
Cache Write Requests	<p>現在のディレクトリ要素ではブロックを格納するだけのスペースがない場合には、最初に空きプールから追加スペースが取得されます。適切なブロックが見つからない場合、1つ以上の既存ブロックのスペースを再利用して、連続するエリアを構成する必要があります。ダーティブロックを含むスペースなしには適切なエリアを構成できない場合、キャッシュが一杯であると見なされます。ニュークリアスはバッファフラッシュを実行し、要求を再試行します。ディレクトリ要素と同様、アクティブなブロックが削除されているために余分な入出力が必要になる可能性を減らす場合にも、選択条件が適用されます。</p>

メッセージ統計タイプ	説明
Cache Space Element Reclamation	キャッシュデータ要素はメッセージ ADAX57 に示されます。キャッシュされた ASSO または DATA ブロックには、1 つ以上のデータ要素が必要です。
Latch Attempts	<p>複数のニュークリアス間で共有されているデータ構造へのアクセスは、高パフォーマンスラッチによってシリアルライズされます。これらのラッチは全面的にニュークリアスによって管理されます。z/OSが管理するラッチではありません。ラッチは排他的または共有的に取得され、共有ラッチが排他ラッチにアップグレードすることがあります。ラッチを即座に取得できない場合、ニュークリアスが待機を選択することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スペース割り当てをシリアルライズするためのキャッシュスペースチェーンラッチが 1 つ存在します。 ■ 各インデックス要素に対してディレクトリ要素インデックスラッチが 1 つずつ存在します。このラッチは既存のディレクトリ要素を検索するときに保持されます。また、ディレクトリ要素の割り当てや解放を行う際にも保持されます。 ■ 各ディレクトリ要素の更新をシリアルライズするためのラッチがそれぞれ 1 つずつあります。 ■ バッファフラッシュ中にディレクトリ要素へのアクセスをシリアルライズするため、各キャストアウトクラスに 1 つの独立したラッチがあります。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX62

UNEXPECTED LOCK RETURN CODE ENCOUNTERED

ADAX62

FUNCTION X'xx'

ADAX62

LRC X'ccccccc' REASON X'rrrrrrrr'

説明：

論理的なリソースのロックまたはロック解除に失敗しました。ロックマネージャ機能番号は xx、レスポンスコードは ccccccc、理由コードは rrrrrrrr です。すべての変数は 16 進数です。

ニュークリアスは異常終了します。

対処：

これは予期しないエラーです。Software AG 技術サポートに連絡してください。

Adabas Cluster Services を使用している場合は、IBM マニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』のコードの説明を参照してください。関連情報は、マクロ IXLLOCK のリターンコードおよび理由コードのセクションに記載されています。

ADAX63**LOCK CONNECT PROBLEM RC X'ccccccc' REASON X'rrrrrrrr'**

説明：

ロック構造に接続しているときにエラーが発生しました。ロックマネージャのレスポンスコードは ccccccc、理由コードは rrrrrrrr です。どちらの変数も 16 進数です。

ニュークリアスは異常終了します。

対処：

これは予期しないエラーです。Software AG 技術サポートに連絡してください。

Adabas Cluster Services を使用している場合は、IBM マニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』のコードの説明を参照してください。関連情報は、マクロ IXCQUERY および IXLCONN のリターンコードおよび理由コードのセクションに記載されています。コンフィグレーションエラーのために発生する共通の理由コードには以下が含まれます。

RC	REASON	説明
X'08'	X'00000024'	CFRM policy で定義されていない構造。
X'08'	X'xxxx084C'	不適切な SAF 認可。Adabas は構造に接続する権限がありません。
X'0C'	X'00000154'	CFRM policy はアクティブではありません。
X'0C'	X'xxxx0C05'	構造は CFRM policy には定義されません。無効な構造名パラメータが原因になっている可能性があります。
X'0C'	X'xxxx0C08'	構造割り当てのために検出された適切なカップリング機能はありません。
X'0C'	X'xxxx0C29'	CFRM 機能は、アクティブでないか、または利用できません。

ADAX64**ADANCX LOCK-RELATED GETMAIN FAILED**

説明：

ロックマネージャはメインストレージを取得することに失敗しました。

対処：

REGION パラメータを大きくしてニュークリアスを再スタートさせるか、あるいはニュークリアスパラメータ NH、NU、または LDEUQP を小さくしてください。

ADAX65**PARAMETER TAKEN OVER: parameter-name****ADAX65****OLD: old-value NEW: new-value**

説明：

グローバルパラメータがクラスタの1つのニュークリアスで変更されました。このパラメータは他のすべてのニュークリアスに伝播されて、それらに引き継がれました。

ADAX66**INCOMPATIBLE GLOBAL PARAMETER parameter-name****ADAX66****SPECIFIED: value-specified IN EFFECT: value-in-effect**

説明：

変更できないグローバルパラメータを変更しようとしてしまいました。この変更は無効になります。

ADAX67**INCOMPATIBLE EXISTING USER(S) OF THE ADAX67****ADAX67****LOCK STRUCTURE lock-structure-name**

説明：

メッセージに指定された名前を持つロック構造は、すでに別の Adabas シスプレックスクラスタまたは他のソフトウェアによって使われています。ロック構造名は、シスプレックス環境でユニークであり、また各 Adabas ニュークリアスクラスタに対してユニークでなければなりません。

対処：

特別な Adabas シスプレックスクラスタが使用できるように、示されたロック構造の名前を使ってください。

ADAX68**TIME EXPIRED WAITING FOR NOTIFICATION OF****ADAX68****EXISTING CONNECTORS TO THE LOCK STRUCTURE**

説明：

Adabas シスプレックスクラスタのニュークリアスをロック構造に接続しようとして、ロック構造への既存の接続についての情報を待つてタイムアウトしました。

対処：

情報の流れを中断または流れを非常に遅くする可能性があるカップリング機能またはシステム自体に、どのような条件が存在するのかわ確認してください。

ADAX69**LOCK STRUCTURE TOO SMALL****ADAX69****EXPECTED MIN NUMBER OF RECORDS nnn,nnn,nnn**

説明：

CFRM policy で定義されたロック構造は ADARUN パラメータの現在の設定を扱うには小さすぎます。プロセスが予測する最小限レコード数が示されます。

対処：

ADARUN パラメータ NU、NH、または LDEUQP の値を減らすか、あるいはロック構造のサイズを増やしてください。

ADAX6B

IXLEERSP REQUEST GOT RSP {rsp-code} RSN {reason-code}

説明：

ピアニュークリアスがロック構造から異常な状態で切断されると、このニュークリアスから XES に対してピア障害を承認するための IXLEERSP 要求が発行されますが、IXLEERSP 要求にはレスポンスコードと理由コードが表示されます。これらの内容については、IBM マニュアル『MVS プログラミング：シスプレックス・サービス解説書』の IXLEERSP マクロのリターンコードおよび理由コードに関するセクションを参照してください。

ピア障害後もこのニュークリアスによるオンラインリカバリ処理は続行されます。リカバリ処理の一部として、ニュークリアスはロック構造から切断されます。このことは、XES にピア障害を認識させるためのもう 1 つの方法です。ただし、可能性はわずかですが、IXLEERSP 要求が失敗すると、XES に関わるクラスタ間のデッドロックが発生することがあります。

対処：

オンラインリカバリ処理がハングアップした場合は、ADAX89 をまだ出力していないニュークリアスをキャンセルします。これにより、デッドロックが解除される場合があります。そのようなニュークリアスがない場合は、ADAX89 メッセージのようにセッションの自動再スタートを実行するニュークリアスをキャンセルします。すべてのニュークリアスが終了した後、クラスタを再開します。

どちらの場合も、ADAX6B メッセージが発生したことを Software AG 技術サポートに報告してください。

ADAX70

CONNECTED TO LOCK STRUCTURE lock-structure-name

ADAX70

NUMBER OF LOCK ENTRIES nnn,nnn

ADAX70

MAX NUMBER OF RECORD ELEMENTS nn,nnn

説明：

z/OS 並列シスプレックス環境で Adabas クラスタニュークリアスは指定されたロック構造に正常に接続しました。このメッセージの内容は次のとおりです。

- ロックエントリのカウント。
- レコード要素の最大数。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX71**RETRYING CACHE WRITE FOR RABN X'rrrrrrrr'**

説明：

このメッセージは、キャッシュ書き込みが再試行されているRABN値を16進数で示します。書き込み再試行の原因となるエラーは、前のメッセージに示されます。

ADAX72**GETMAIN FAILED FOR LOCK ELEMENT TABLE****ADAX72****SIZE REQUESTED Xnnnnnn**

説明：

ロック要素テーブルのためのスペース割り当て試行が失敗しました。

対処：

テーブルのためのメモリ要件を減らすか、または利用可能なメモリの大きさを拡張してください。

ADAX73**LOCK STRUCTURE SIZE ERROR**

説明：

ロック構造ポリシーでエラーが検出されました。SIZE と INITSIZE の値がゼロです。

対処：

ロック構造ポリシーを確認して、必要な変更を行ってください。

クラスタ処理メッセージ (ADAX74～ADAX9L)

ADAX74**{dbid} WARNING: NOW IT IS TOO LATE TO COPY DDPLOGRn**

説明：

起動時の ADAN05 メッセージに対応しますが、オンラインリカバリ中に発生します。

Adabasは、DD/PLOGRnによって識別されたデータセットにデータプロテクションログデータを書き始めました。これは、データセットが ADARES ユーティリティの REGENERATE や BACKOUT 機能の入力として後で使用するためにテープにコピーすることができなくなったことを意味します。ユーザー出口2 (デュアルログ処理) またはユーザー出口12 (マルチログ処理) コールは、行われなかったか、または ADARES ユーティリティで DD/PLOGRn データセットを正常にコピーしませんでした。

対処：

データベースがユーザー出口2なしで実行している場合、PLOG データの上書きは正常で、このメッセージは無視することができます。

データベースがユーザー出口2付きで実行している場合、たとえ PLOG がコピーされていないとしてもユーザー出口がニュークリアスを要求するときだけに、このメッセージが発行されます。これがエラーかどうかはユーザーがユーザー出口に実装したロジックに依存します。

ADAX75

{dbid} PROTECTION LOG PLOGRn STARTED

説明：

起動時の ADAN21 メッセージに対応しますが、オンラインリカバリ中に発生します。

Adabas はデータプロテクション情報を DD/PLOGRn によって識別されるデュアルまたはマルチデータプロテクションログに書き始める準備をしています。

対処：

今回 PLOG を再初期化するために ADARES ユーティリティの PLCOPY 機能を実行してください。

ADAX76

{dbid} NUCLEUS RUN WITH PROTECTION LOG mnnnn

説明：

起動時の ADAN02 メッセージに対応しますが、オンラインリカバリ中に発生します。

Adabas ニュークリアスセッションは開始されて、データベースプロテクションログが指定されていました。セッション中に適用されたすべての更新のために ADARES ユーティリティの REGENERATE および BACKOUT 機能の後続の実行が可能です。

ADAX77

{dbid} IDTH PREFIX PROBLEM

説明：

IDTH のアドレスを取得するための ADAMPM へのクエリ要求は失敗しました。ニュークリアスは異常終了します。

対処：

これは予期しないエラーです。Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX78

{dbid} ADACOM IS NOT RUNNING OR CLULOCKSIZE IS NOT SPECIFIED

説明：

グローバルロックエリアへの接続試行中、ADASML は、ADACOM が実行されていないか、CLULOCKSIZE パラメータが指定されていないことを検出しました。ニュークリアスは異常終了します。

対処：

Adabas Parallel Services クラスタニュークリアスを開始する前に ADACOM を開始し、CLULOCKSIZE パラメータにゼロ以外の値を指定します。

ADAX79

**{dbid} GLOBAL RESOURCE LOCK ON THIS SYSTEM IS INVISIBLE TO NUCID nucid
ON THE SYSTEM sysname**

説明：

Global Resource Serialization (GRS) を介したリソースロックを使って、同じデータベースに作用しているクラスタサービスニュークリアスがそれらの動作の一部と同期を取ります。

セッション開始中、1つのニュークリアスは、取得したリソースロックが示された NUCID を持つピアニュークリアス（示されたシステムでアクティブだったニュークリアス）に対して有効でなかったことを検出しました。

開始しているニュークリアスは parm-error 105 で終了します。

対処：

Cluster Services ニュークリアス実行を意図するすべてのシステムで GRS リソースロックが相互に有効であるように GRS が構成されているかどうかをシステムプログラマに問い合わせてください。

ADAX80

{dbid} ONLINE RECOVERY INITIATED

説明：

Adabas クラスタニュークリアスは、同じクラスタのピアニュークリアスが異常終了したことを検出した後に、オンラインリカバリプロセスを開始しました。存続している各ニュークリアスは独自のオンラインリカバリプロセスを開始します。オンラインリカバリプロセスは、ニュークリアスで進行中のすべての動作を停止するか、またはセッション自動再スタートを実行（オープンしたすべてのトランザクションのバックアウトを含む）します。あるいはピアニュークリアスがセッション自動再スタートを実行するまで待つから通常の処理を再開します。

ADAX80

{dbid} ONLINE RECOVERY IN PROGRESS

説明：

同じクラスタですでにアクティブだった他のニュークリアスがニュークリアス障害に回答してオンラインリカバリを実行している間に、ニュークリアスは開始しました。オンラインリカバリ処理が完了し、その起動シーケンスを続行するまで、開始ニュークリアスは待機します。

ADAX80

{dbid} { ONLINE SAVE | TRANS SUSPEND | ADAEND/HALT } PROCESS CANCELED

説明：

ピアニュークリアスの障害から回復するため（オンラインリカバリ）、ニュークリアスは次のいずれかをキャンセルしました。

- 実行中のオンラインセーブオペレーション。この場合、保存オペレーションは失敗します。
- 実行中のトランザクション中断オペレーション。
- ADAENDまたはHALTシャットダウン要求。この場合、ニュークリアスはリカバリ処理の完了後シャットダウンしません。

対処：

オンラインリカバリプロセスが正常終了した後にセーブオペレーションを再スタートするか、あるいはまだニュークリアスをシャットダウンしたい場合は別のADAENDまたはHALT要求を発行してください。

ADAX81

{dbid} WAITING FOR ACTIVE TRANSACTIONS TO FINISH

説明：

オンラインリカバリプロセスが開始したとき、1つ以上のトランザクションがアクティブでした。リカバリ処理により、しばらくの間それらを正常終了させるために継続できます。

ADAX82

{dbid} ALL TRANSACTIONS FINISHED

説明：

オンラインリカバリが開始したときにアクティブだったすべてのトランザクションは正常終了しました。

ADAX82

{dbid} {count} ACTIVE TRANSACTION(S) INTERRUPTED

説明：

メッセージに示されたトランザクション数はオンラインリカバリが開始したときにはアクティブでしたが、割り当てられた時間内に終了しないで中断されました。それらはオンラインリカバリ中にバックアウトされます。関連するユーザーは次のコマンドに対してレスポンスコード 9、サブコード 18 を受け取ります。

ADAX83**{dbid} WAITING FOR ACTIVE COMMANDS TO FINISH**

説明：

オンラインリカバリプロセスがすべての進行中の動作を中断する準備ができていたとき、1つ以上のコマンドがまだアクティブでした。リカバリ処理により、短い時間それらを正常終了させるために継続できます。

ADAX84**{dbid} ALL COMMANDS FINISHED**

説明：

オンラインリカバリプロセスが待っていたアクティブな全コマンドが正常終了しました。

ADAX84**{dbid} {count} ACTIVE COMMAND(S) INTERRUPTED**

説明：

メッセージに示されたアクティブなコマンド数は割り当てられた時間内に終了しないで中断されました。それらは個々のユーザーにレスポンスコード 9、サブコード 19 を送り返します。それらの関連するコマンド ID は（あれば）削除されます。

ADAX85**{dbid} WAITING FOR ACTIVE I/OS TO FINISH**

説明：

オンラインリカバリプロセスがすべての進行中の動作を中断したとき、1つ以上の I/O がアクティブでした。リカバリ処理はこれらの I/O が終了するのを待ちます。

ADAX86**{dbid} ALL I/OS FINISHED**

説明：

オンラインリカバリプロセスが待っていたすべての I/O が終了しました。

ADAX87**{dbid} WAITING FOR OUTSTANDING MESSAGES TO BE ANSWERED**

説明：

オンラインリカバリプロセスがすべての進行中の動作を中断したとき、1つ以上のニュークリアス間コマンドがまだ応答する予定でした。リカバリ処理は応答が到着するのを待ちます。

ADAX88

{dbid} ALL OUTSTANDING MESSAGES ANSWERED

説明：

オンラインリカバリプロセスが待っていたニュークリアス間コマンドに対する未到着の応答がすべて到着しました。

ADAX89

{dbid} SESSION AUTORESTART WILL BE DONE BY { THIS | PEER } NUCLEUS

説明：

メッセージに示されるように、オンラインリカバリプロセスの一部であるセッション自動再スタートは、このニュークリアスまたはピアニュークリアスによって実行されます。

ADAX90

{dbid} RECOVERY SYNCPOINT syncpoint INITIATED

説明：

ピアニュークリアスが異常終了するときに1つ以上のニュークリアスがアクティブなままであれば、存続するニュークリアスは、複数の同期地点（リカバリ処理が継続する前にニュークリアスはすべての同期地点に達している必要があります）を使って、それらのオンラインリカバリプロセスの同期を取ります。

このメッセージは、他のすべてのニュークリアスがそれぞれの同期地点に達したときに、セッション自動再スタートを実行するニュークリアスは進行する準備ができていることを示します。

ADAX91

{dbid} WAITING ON RECOVERY SYNCPOINT syncpoint

説明：

オンラインリカバリプロセスは、セッション自動再スタートを実行するニュークリアスは、同期地点（syncpoint）が示すリカバリを開始するのを待っています。

ADAX92

{dbid} RECOVERY SYNCPOINT syncpoint REACHED

説明：

協調オンラインリカバリに関係している全ニュークリアスは、示されたりカバリ同期地点（syncpoint）に達しました。リカバリ処理は続行します。

ADAX93**{dbid} BEGINNING SESSION AUTORESTART****ADAX93****{dbid} BEGINNING WORK4 INTERPRETATION****ADAX93****{dbid} WORK4 HANDLING FAILED**

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明
BEGINNING SESSION AUTORESTART	ピア障害を切り抜けたニュークリアスの1つ（このニュークリアス）がオンラインリカバリの主要なステップ（セッション自動再スタート）を開始します。
BEGINNING WORK4 INTERPRETATION	ピアニュークリアスのいずれかが失敗したため、残りのニュークリアスのいずれかが自動再スタート処理を開始しています（DTP=RMの場合）。WORK4の解釈は自動再スタートが実行される前に開始している必要があります。
WORK4 HANDLING FAILED	WORK4の解釈は成功しませんでした。詳細については、メッセージADAN85とADAN86を参照してください。すべてのニュークリアスがダウンしました。

ADAX94**{dbid} SESSION AUTORESTART EXECUTED SUCCESSFULLY****ADAX94****{dbid} DTP=RM-USERS ARE COPIED****ADAX94****{dbid} DTM=RM-USER-COPY FAILED****ADAX94****{dbid} DTM=RM-USER-LOCKS NOT GOTTEN**

説明：

このメッセージ番号では、さまざまなメッセージテキストが表示されます。各メッセージテキストの説明と対処については、次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明
SESSION AUTORESTART EXECUTED SUCCESSFULLY	オンラインリカバリ中に実行されたセッション自動再スタートは成功しました。この情報メッセージに対処は必要ありません。
DTP=RM-USERS ARE COPIED	他のニュークリアスの PET/HEURI ユーザーがリカバリニュークリアスのユーザーキューにコピーされました（トランザクションIDとファイルリストを含む）。この情報メッセージに対処は必要ありません。
DTM=RM-USER-COPY FAILED	ユーザーコピーが失敗しました。論理エラーが原因である可能性があります。すべてのニュークリアスがダウンしました。
DTM=RM-USER-LOCKS NOT GOTTEN	DTP=RM の場合、ニュークリアスは、DDWORKR4 にコピーされるすべての PET ステータスのユーザーに対して、ホールドキューと UQDE ロックを取得する必要があります。すべてのニュークリアスがダウンしました。

ADAX95

{dbid} SESSION AUTORESTART FAILED

ADAX95

{dbid} RESPONSE CODE = {response-code}

ADAX95

{dbid} FILE NUMBER = {file-number}

ADAX95

{dbid} ALL ACTIVE NUCLEI WILL GO DOWN

説明：

オンラインリカバリ中に実行されたセッション自動再スタートは成功しませんでした。示されたレスポンスコードを受け取りました。レスポンスコードが特定のファイルに関連する場合、ファイル番号も示されます。

このニュークリアスと、オンラインリカバリプロセスに参加しているすべてのピアニュークリアスは停止します。

対処：

この状況は、ニュークリアスセッション開始中のセッション自動再スタート失敗後の状況に相当します。セッション自動再スタートが失敗した理由を確認してください。Software AG 技術サポートに連絡する必要があるか検討してください。

ADAX96**{dbid} PEER NUCLEUS FAILED DURING ONLINE RECOVERY****ADAX96****{dbid} THIS NUCLEUS GOES DOWN TOO**

説明：

オンラインリカバリプロセスがピアニュークリアスの異常終了を処理している間に、2番目のニュークリアス障害が発生しました。Adabas クラスタでアクティブなすべてのニュークリアスが停止します。

対処：

Adabas クラスタを再スタートしてください。最初と2番目の障害の原因を確認してください。Software AG 技術サポートに連絡する必要があるか検討してください。

ADAX96**{dbid} UTILITY WITH EXCLUSIVE DATABASE CONTROL IS ACTIVE****ADAX96****{dbid} THIS NUCLEUS GOES DOWN TOO**

説明：

データベース制御が排他的なユーティリティの実行中に、ニュークリアス障害が発生しました。Adabas クラスタでアクティブなすべてのニュークリアスが停止します。

対処：

Adabas クラスタを再スタートして、データベース制御が排他的なユーティリティに合ったリカバリ処理を実行してください。

ADAX97**{dbid} ONLINE RECOVERY COMPLETED SUCCESSFULLY****ADAX97****{dbid} RESUMING NORMAL OPERATION**

説明：

ピアニュークリアスの異常終了を処理するように設定されたオンラインプロセスは正常終了しました。ニュークリアスは通常のオペレーションを再開します。

ADAX98**{dbid} RECEIVED RESPONSE CODE {rsp-code} FROM PEER NUCLEUS**

説明：

1つのニュークリアスの障害からリカバリするために開始されたオンラインリカバリプロセスが、まだアクティブな別のニュークリアスとコミュニケーションしている間にレスポンスコードを受け取りました。その他のすべてのアクティブなニュークリアスは終了します。

対処：

ニュークリアスを再起動してください。最初に開始したニュークリアスはオフラインリカバリ（セッション自動再起動）を実行します。

ADAX98

{dbid} V2/xxx COMMAND RECEIVED rsp-rr/ss FROM NUCID nnn

説明：

ニュークリアス間コミュニケーションのために使われた内部コマンドでメッセージング障害が発生しました。示されたピアニュークリアスから示されたレスポンスコード/サブコードを取得しました。

ADAX99

{dbid} UNCORRECTABLE INTRACLUSTER COMMUNICATION FAILURE

説明：

このメッセージは、メッセージ ADAX9E または ADAX9H に続いて表示される場合があります。クラスタ内コミュニケーション中のメッセージング障害が発生し、修正不能なコミュニケーション障害により、ニュークリアスを終了することが決定されました。

ニュークリアスはユーザーアベンドコード 79 で異常終了します。

対処：

クラスタ内コミュニケーション障害の原因を調査します。調査は、前の ADAX9E メッセージで報告されたレスポンスコードとサブコードの調査から開始します。

障害にタイムアウトの一部（MXMSGWARN、MXMSG、MXCANCELWARN、または MXCANCEL パラメータなど）が関係していた場合は、すべてのクラスタニュークリアスが、クラスタ間ビジネス参加するために必要なリソースを取得するために十分高いプライオリティで実行されていることを確認してください。

Software AG 技術サポートに連絡する必要があるか検討してください。

ADAX9A

**{dbid} COULD NOT DETERMINE MESSAGE STATUS FOR V2/{xxx} COMMAND
RETURN CODE = {nn}**

説明：

クラスタニュークリアスが内部的なクラスタ内コマンドのステータス（メッセージに含まれるもの）を設定しようとしたとき、エラーが発生しました。内部リターンコードが表示されます。このメッセージより前に発行されたメッセージに、エラーについての詳細が示されている場合があります。

ニュークリアスでは、エラーを無視して通常の処理を続行します。指定されたクラスタ内コマンドへの応答のステータスが決定できなかったため、未解決の応答に関する警告は早期に発行されません（ADAX9B および ADAX9C メッセージ）。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX9B

{dbid} CAUTION: WAITING FOR V2/{xxx} CMD BEING SENT TO {nucid} ({nn})

説明：

クラスタニュークリアスにより、ピアニュークリアス（表示）に対するクラスタ内コマンド（表示）の XCF 送信要求が発行されましたが、コマンドは MXMSGWARN パラメータで設定された時間内に送信されていません。数値 nn は同時に進行中のその他の内部的なクラスタ内コマンドを区別します。

直接的なシステム対処は実行されません。ただし、コマンドが送信されないか、または MXMSG パラメータで設定された時間内にピアニュークリアスの応答がない場合は、ニュークリアスのいずれかが異常終了します。

対処：

このメッセージは通知のみが目的のメッセージです。エラーが後で発生した場合に、このメッセージが分析に役立つ場合があります。

ADAX9C

{dbid} CAUTION: NUCID {nucid} ({jobname}) ON SYSTEM {sysn} IS SLOW TO RESPOND TO INTERNAL V2/{xxx} COMMAND ({nn})

説明：

クラスタニュークリアスによって、クラスタ内のピアニュークリアス（表示）に内部的なクラスタ内コマンド（表示）が送信されました。ピアニュークリアスは、MXMSGWARN パラメータで設定された時間内にコマンドに応答していません。数値 nn は同時に進行中のその他の内部的なクラスタ内コマンドを区別します。

直接的なシステム対処は実行されません。ただし、MXMSG パラメータで設定された時間内に応答しない場合、ピアニュークリアスはキャンセルされます。

対処：

このメッセージは通知のみが目的のメッセージです。指定されたピアニュークリアスがクラスタ間ビジネスに参加するために十分なリソース（CPU、ストレージ、プライオリティ）を取得していることを確認するには、供給された情報（NUCID、ジョブ名、システム名）を使用します。

ADAX9D

{dbid} CLEAR: RECEIVED RESPONSE TO V2/{xxx} FROM NUCID {nucid} ({nn})

説明：

メッセージ (*nucid*) には、内部的なクラスタ内コマンド (*xxx*) への応答が遅延したピアニュークリアスが表示されていますが、このピアニュークリアスが応答しました。このメッセージにより、先に発行された ADAX9B または ADAX9C メッセージ（一致する *nn* 番号で表示）の警告は撤回されます。

(この特定のクラスタ内コマンドに関しては) ピアニュークリアスがキャンセルされる危険はなくなりました。

対処:

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX9E

{dbid} ERROR: V2/{xxx} {cmd} RECEIVED RSP {rsp/sub} FROM NUCID {nucid}

説明:

メッセージ (xxx) に表示され、クラスタ内コミュニケーションに使用された内部コマンドでメッセージ障害が発生しました。メッセージには、レスポンスコード、サブコード、およびピアニュークリアスが含まれています。

このエラーに対するニュークリアスの反応は、内部コマンドのタイプおよび受け取ったレスポンスコードのタイプによって異なります。ニュークリアスでは、エラーを発生させてピアニュークリアスをキャンセルするか、エラーが発生したピアニュークリアスが終了するのを待機するか、エラー状態を処理できないためニュークリアス自体が終了するか、またはコールチェーンにレスポンスコードを受け渡します。

対処:

エラーを解決するには、レスポンスコードおよびサブコードの原因を調査してください。

エラーにタイムアウトの一部 (MXMSGWARN または MXMSG パラメータ設定) が関係している場合は、すべてのクラスタニュークリアスが、クラスタ間ビジネス参加するために必要なリソースを取得するために十分高いプライオリティで実行されていることを確認してください。

問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX9F

{dbid} CANCELING PEER NUCLEUS {nucid} ({jobname}) ON SYSTEM {sysn}

説明:

このメッセージはメッセージ ADAX9E に続いて表示される場合があります。ターゲットニュークリアスが時間内にコマンドに応答しないため、ニュークリアスから (メッセージにリストされた) ターゲットピアニュークリアスにクラスタ内コマンドが発行されたときに障害が発生しました。この結果、送信ニュークリアスによってターゲットピアニュークリアスがキャンセルされます。

ニュークリアスでは、キャンセルされたピアニュークリアスが終了するのを待機し、オンラインリカバリ処理を実行します。

対処:

クラスタ内コミュニケーション障害の原因を調査します。調査は、前の ADAX9E メッセージで報告されたレスポンスコードとサブコードの調査から開始します。

障害にタイムアウトの一部 (MXMSGWARN または MXMSG パラメータ設定) が関係していた場合は、すべてのクラスタニュークリアスが、クラスタ間ビジネス参加するために必要なリソースを取得するために十分高いプライオリティで実行されていることを確認してください。

問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX9G

**{dbid} CAUTION: NUCID {nucid} ({jobname}) ON SYSTEM {sysn} WAS CANCELED;
{dbid} FAILURE NOTIFICATIONS STILL OUTSTANDING**

説明:

ニュークリアス ID (*nucid*)、ジョブ名 (*jobname*)、およびシステム名 (*sysn*) によってメッセージ内で特定されたニュークリアスがキャンセルされましたが、このメッセージを出力しているニュークリアスでは、キャンセルされたニュークリアスが終了したことを確認するために ADAX60 で報告される障害通知を (MXCANCELWARN パラメータで設定された時間内に) 受信しませんでした。キャンセルされたニュークリアスがアクティブな間は、Adabas クラスタはこの障害から回復できません。

また、このメッセージは、指定されたニュークリアスがキャンセルされていないが、別の原因によって障害が発生したために終了が遅れている場合にも、表示されることがあります。

ピアニュークリアスが MXCANCEL パラメータで指定された時間内に終了しない場合は、ニュークリアスがこのニュークリアス自体を終了する許可を要求する (MXWTOR パラメータが設定されている場合) か、または要求なしで終了します (MXWTOR パラメータが未設定の場合)。

対処:

表示された情報 (ニュークリアス ID、ジョブ名、およびシステム名) を使用して、キャンセルされたピアニュークリアスが終了のために必要十分なりソース (CPU、ストレージ、プライオリティ) を取得していることを確認します。

ADAX9H

**{dbid} ERROR: CANCELED NUCID {nucid} ({jobname}) ON SYSTEM {sysn} HAS
{dbid} NOT TERMINATED; UNABLE TO PERFORM CLUSTER RECOVERY**

説明:

ニュークリアスがキャンセルされました。メッセージには、このニュークリアスのニュークリアス ID (*nucid*)、ジョブ名 (*jobname*)、およびシステム名 (*sysn*) が示されています。ただし、このメッセージを出力しているニュークリアスでは、キャンセルされたニュークリアスが終了したことを確認する障害通知が (MXCANCEL パラメータで設定された時間内に) 受信されませんでした。キャンセルされたニュークリアスがアクティブな間は、Adabas クラスタはこの障害から回復できません。

また、このメッセージは、指定されたニュークリアスがキャンセルされていないが、別の原因によって障害が発生したために終了されていない場合にも、表示されることがあります。

このメッセージを出力しているニュークリアシ自体が、メッセージ ADAX99 およびユーザーアベンド 79 で終了します。

対処：

このメッセージに指定されているクラスタニュークリアシをチェックしてください。キャンセル後に終了していない理由、またはこのメッセージを出力したニュークリアシによって該当する障害通知（ADAX60 メッセージで報告される）が受信されなかった理由を調査します。

応答しないピアニュークリアシをキャンセルすることに失敗した後、クラスタニュークリアシがクラスタニュークリアシ自体を終了させる前に、許可を要求するようにするために、MXWTOR パラメータを使用することを検討してください。

すべてのクラスタニュークリアシが、クラスタ間ビジネス参加するために必要なリソースを取得するために十分高いプライオリティで実行されていることを確認してください。

問題が解決しない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ADAX9J

```
{dbid} ERROR: CANCELED NUCID {nucid} ({jobname}) ON SYSTEM {sysn}  
{dbid} HAS NOT ENDED YET. ENSURE THAT THIS NUCLEUS ENDS  
{dbid} TO ALLOW ADABAS CLUSTER RECOVERY.  
{dbid} WILL TERMINATE AT {hh:mm:ss} (AFTER {nnn} SECONDS).  
{dbid} REPLY 'W'AIT, 'T'ERMINATE, OR 'R'ESHOW MESSAGE
```

説明：

このメッセージではオペレータレスポンスが要求されます。ニュークリアシID (*nucid*)、ジョブ名 (*jobname*)、およびシステム名 (*sysn*) によってメッセージ内で特定されたニュークリアシがキャンセルされましたが、このメッセージを出力しているニュークリアシでは、キャンセルされたニュークリアシが終了したことを確認するために ADAX60 で報告される障害通知を（MXCANCEL パラメータで設定された時間内に）受信しませんでした。キャンセルされたニュークリアシがアクティブな間は、Adabas クラスタはこの障害から回復できません。

また、このメッセージは、指定されたニュークリアシがキャンセルされていないが、別の原因によって障害が発生したために終了されていない場合にも、表示されることがあります。

ニュークリアシでは、キャンセルされたピアニュークリアシの障害通知またはオペレータからのレスポンスのいずれかを MXWTOR ADARUN パラメータで設定された時間、待機します。ニュークリアシによってキャンセルされたピアニュークリアシの障害通知が受信されると、ADAX9J メッセージは撤回され、障害からの回復のためにオンラインリカバリ処理が起動されます。

対処：

メッセージに示されている他のクラスタニュークリアシのステータスをチェックしてください。終了すると、この ADAX9J メッセージは撤回されます。

次のレスポンスの1つを使用して、このメッセージに応答します。

レスポンス	ニュークリアスの動作：
R	ADAX9J メッセージ全体を再び出力し、この問題が解決されることを待機しますが、新しい時間は設定しません。
T	ニュークリアス自体が ADAX99 およびユーザーアベンド 79 で終了します。
W	この問題が解決されることを MXWTOR で設定された時間待機します。

応答せずにキャンセルされたピアニュークリアスの障害通知がMXCANCEL時間内に受信されない場合、ニュークリアス自体がメッセージ ADAX9H および ADAX99、ユーザーアベンド 79 で終了します。

ADAX9K

{dbid} CLEAR: RECEIVED FAILURE NOTIFICATIONS FROM NUCID {nucid}

説明：

キャンセルされてから終了までに時間がかかっていたピアニュークリアス（メッセージ {nucid} で特定されたピアニュークリアス）が終了しました。このメッセージにより、未解決の障害通知に関して先に発行された ADAX9G または ADAX9J メッセージの警告が撤回されます。（この特定の障害に関して）ニュークリアス自体が終了する危険性はなくなりました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ADAX9L

{dbid} ALL OPERATOR QUERIES RETRACTED

説明：

オペレータによってキャンセルされたが終了していないピアニュークリアスのステータスチェックが ADAX9J メッセージによって要求されましたが、この後、ピアニュークリアスが終了しました。このメッセージを出力しているニュークリアスによってすべての未解決 ADAX9J オペレータ要求が撤回されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

20 AITM*-z/VM トランザクションモニタインターフェイスメッセージ

AITM01

ADAITM ABNORMALLY TERMINATED

説明

バックグラウンド Adabas コミュニケーション管理プログラム ADAITM のオペレーションが続行不可能です。理由としてはプログラムエラーが考えられます。

AITM02

I/O ERROR err-num WRITING ADAITM RESTART FILE

説明

z/VM がエラーリカバリプログラム ADAITM を A ディスク上に書き込んでいる間にエラー (err-num) が発生し、自動再スタートの続行を妨げています。このメッセージは通常、ADAM80 のメッセージの後に出力されますが、err-num で示されるエラーは、根本的な原因ではありません。

AITM03

I/O ERROR err-num READING ADAITM RESTART FILE

説明

z/VM が、ADAITM RESTART プログラムを用いてシステムを再スタートさせている間にエラー (err-num) が発生しました。このメッセージは通常、ADAM80 のメッセージの後に出力されますが、err-num は、必ずしもこの根本的な原因ではありません。

AITM04

IUCV CONNECT ERROR err-num DURING ADAITM RESTART

説明

CP 内部コミュニケーション (IUCV) エラー err-num が原因で、ADAITM はアクティブなニュークリアスまたはユーザーと再コネクトすることができません。このメッセージは通常、エラーメッセージ ADAM80 の後に出力されますが、err-num で示されるエラーは必ずしも ADAM80 メッセージの原因ではありません。

AITM05

HX COMMAND ENTERED DURING ADAITM EXECUTION

説明

z/VM コンソールオペレータが実行停止 (HX) コマンドを入力し、ADAITM が異常終了しました。

AITM06

RECURSIVE ERROR CONDITION ENCOUNTERED

説明

再スタート中に、ADAITM を異常終了させる原因となるようなエラーが再発しました。

AITM07

TARGET-ID dbid action IN VMID vm-id CQH-FLAGS flags AT time

説明：

データベース ID dbid をもつターゲットに関連するイベントが、仮想マシン vm-id の中で発生しました。action は STARTed、ENDED、または ABENDED のうちのどれかです。このメッセージは ADAITM イベントトレース中にのみ表示されます。

AITM08

COMMUNICATOR dbid action IN VMID vm-id AT time

説明

データベース ID dbid を持つコミュニケータに関連するイベントが、仮想マシン vm-id 内で発生しました。action は STARTed、ENDED、または ABENDED のうちのどれかです。このメッセージは ADAITM イベントトレース中にのみ表示されます。

AITM09

USER vm-id action AT time

説明

データベース ID dbid をもつユーザーに関連するイベントが、仮想マシン vm-id の中で発生しました。action は STARTed、ENDED、または ABENDED のうちのどれかです。このメッセージは ADAITM イベントトレース中にのみ表示されます。

AITM10**USER vm-id REQUESTED type TARGET-ID dbid IN vm-id AT time**

説明

ADALNK が、dbid で示される物理または論理ターゲット ID に対し、仮想マシン ID の要求を発行しました。ターゲットがアクティブな場合は、仮想マシン ID vm-id が表示されます。このメッセージは ADAITM イベントトレース中にのみ表示されます。

AITM11**COMMAND NOT RECOGNIZED**

説明

z/VM コンソール上に入力されたオペレータコマンドを、ADAITM が解釈できません。

AITM12**NO ACTIVE entity FOUND**

説明

z/VM コンソールオペレータが LISTxxxx コマンドを入力して、アクティブな全エンティティをリストさせようとしたましたが、見つかりませんでした。

AITM13**type TARGET dbid (target) ACTIVE IN VMID vm-id CQH-FLAGS flags IN VMID ON NODE node-name ON LINK link-name**

説明

Adabas ニュークリアスまたは他のローカルまたはリモートターゲットがアクティブです。コミュニケーションは、ローカル z/VM ターゲットの仮想マシン vm-id を通して、またはリモートターゲットの Entire Net-Work コミュニケータへのリンクを通して行われます。z/VM コンソールから ADAITM LISTTARG オペレータコマンドを入力すると、このメッセージが返されます。target とは次のとおりです。

AITM14**USER PROGRAM ACTIVE IN VMID vm-id**

説明

ユーザープログラムが仮想マシン vm-id から Adabas コミュニケーション情報を要求しています。ただし、このプログラムは、必ずしも、アクティブなままである必要はありません。z/VM コンソールから ADAITMLISTUSER オペレータコマンドを入力すると、このメッセージが出力されます。

AITM15

NODE node-name (target-id) TARGETS: target-ids

説明

Entire Net-Work ノード node-name およびターゲット ID (target-id) が ID テーブルマネージャとコミュニケーションをとっています。ノード target-ids 上でアクティブなターゲットのリストが続きます。z/VM コンソールから、ADAITM LISTNODE オペレータコマンドを入力すると、このメッセージとメッセージ AITM21 が出力されます。

AITM16

LOGGING NOT ACTIVE

説明

LISTLOG または RESET z/VM オペレータコマンドのどちらかが入力されましたが、イベントロギングがアクティブではありませんでした。

AITM17

COMMAND command ACCEPTED

説明

DISPON、DISPOFF、LOGON、LOGOFF z/VM オペレータコンソールコマンドのいずれかが入力されました。

AITM18

LOG IS CURRENTLY EMPTY

説明

z/VM コンソールから、オペレータが LISTLOG コマンドを入力しましたが、ロギングエリアが空でした。

AITM19

LOG AREA HAS BEEN RESET

説明

z/VM コンソールで RESET オペレータコマンドが発行されたため、ロギングエリアのポインタはリセットされました。

AITM20

LINK link-name TO NODE node-name STAT=status

説明

ID テーブルマネージャに対して LINKLIST オペレータコマンドを入力すると、このメッセージが返されます。ノード node-name に接続されている Entire Net-Work リンク link-name の現在のステータスは status です。Entire Net-Work ノードを実行している仮想マシンの VMID に対して、ID テーブルマネージャによってリンクの名前が設定されます。status 値とその意味は次のとおりです。

AITM21**NODE node-name DIST distance VIA LINK link-name**

説明

このメッセージは、ADAITM LISTNODE オペレータコマンドに対して返されます。Entire Net-Work ノードは現在アクティブであり、リンク link-name を介してアクセス可能です。リンクの距離は distance で示され、パス沿いに指定された重みパラメータの合計です。

AITM22**NODE vm-id action AT time**

説明

仮想マシン vm-id 内であるノードに関連するイベントが発生しました。action には、CONNECTed、ABORTed、REJECTed のうちいずれかが該当します。このメッセージは ADAITM イベントトレース中にのみ表示されます。

AITM23**REMOTE TARGET dbid (target) function ON NODE node-name AT time**

説明

ID テーブルマネージャは、指定された時間 (time) にノード (node-name) 上で、ターゲットデータベース (dbid) およびタイプターゲット (target) が、開始または終了したという Entire Net-Work メッセージを受け取りました。

AITM24**PROBE type dbid RECEIVED ON LINK link-name FROM NODE node-id AT time**

説明

ID テーブルマネージャが Entire Net-Work プロブメッセージを受け取りました。このメッセージはノード node-id から発行されたもので、ターゲットのプロブか、dbid 上のノード type のプロブです。

AITM25**NODE ADDRESS CONSTANTS COULD NOT BE RESOLVED, INCOMPATIBLE VERSIONS**

説明

ID テーブルマネージャ (ADAITM) と、Entire Net-Work コンポーネントの z/VM (NETITM) バージョンが一致しません。ID テーブルマネージャが異常終了 (ABEND) しました。

AITM26

NODE NO RESTART OPTION SPECIFIED, ID-TABLE MACHINE LOGGED OFF

説明

ID テーブルマネージャでプログラムチェックが発生し、再スタートオプションが指定されませんでした。ID テーブルマネージャが異常終了 (ABEND) し、自身をログオフすることで、自動的にすべての z/VM ニュークリアスも終了しました。

AITM27

LINK link-name SEVERED DUE TO MESSAGE LIMIT OVERFLOW

説明

IUCV パスに対するペンディング中のメッセージの数が最大数を超過したため、リンク link-name を介した隣接ノードへの Entire Net-Work メッセージが転送できませんでした。システムはリンクを破壊します。

AITM28

NO ERROR MESSAGES AVAILABLE

説明

表示できる Entire Net-Work メッセージが 1 つもありません。NETITM MSGS ファイルは空です。

AITM29

FSREAD ERROR fs-code READING ERROR MESSAGE FILE

説明

NETITM MSGS ファイルの読み取り試行中に、z/VM ファイルサービスからエラーコード fs-code が返されました。LISTMSG オペレータコマンドは終了しました。

AITM30

NODE node-name IN VMID vm-id DEACTIVATED PATH, TID target-id AT time

説明

ID テーブルマネージャによって選択された元のパスは、要求されたターゲット target-id に現在つながれていません。そのため、リモートノード node-name への Adabas コマンドはリルートされました。

21 APSPSX* - ADAECS または ADATCP メッセージ

APSPSXから始まる情報メッセージは、ニュークリアスの実行中に発生した、ISE/POSIXサブシステムからの ADAECS (Conversion Services) または ADATCP (TCP/IP インターフェイス) メッセージです。ADACMPなどのプログラムでも、モジュール ADAECS または ADATCP をコールする場合には、同じメッセージが表示されます。

APSPSX0008

{ ADAECS | ADATCP } ISE/POSIX Vvrs SYSTEM INITIALIZED NUCLEUS SIZE bytesK BYTES

説明：

ISE/POSIX サブシステムが正常に初期化されました。

APSPSX0012

{ ADAECS | ADATCP } ISE/POSIX { CDI PH FILE | Vvrs } SYSTEM TERMINATED

説明：

ISE/POSIX サブシステムサーバーが終了しました。

APSPSX0015

{ ADAECS | ADATCP } ISE/POSIX Vvrs INITIALIZATION IN PROGRESS

説明：

ISE/POSIX サブシステムサーバーが初期化処理を開始しています。

APSPSX0027

{ ADAECS | ADATCP } INITIALIZING WITH CONFIGURATION 'PAANCONF'

説明：

ISE/POSIX サブシステムのコンフィグレーションモジュールが使用されています。

APSPSX0036

**{ ADAECS | ADATCP } GLOBAL ENVIRONMENT VARIABLES PROCESSED
SUCCESSFULLY**

説明：

ISE/POSIX サブシステムのグローバル環境変数ファイルが正常に処理され、ファイルに指定されたグローバル環境変数が正常に定義されました。

APSPSX0049

REQUIRED CONFIGURATION PARAMETER parameter MISSING OR INVALID

説明：

CDI プロトコルドライバの初期化中に、必要なコンフィグレーションパラメータが欠落しているか無効でした。この初期化を続行できません。

対処：

メッセージに示されたパラメータを追加または修正してニュークリアスを再スタートします。詳細は『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

APSPSX0050

{ ADAECS | ADATCP } ISE/POSIX CDI file PROTOCOL INITIALIZED

説明：

file プロトコルを実装している ISE/POSIX サブシステム CDI プロトコルドライバが正常に初期化されました。

22 CWARN* - Caching Facility エラーメッセージ

入力ステートメントの処理中にエラーが検出されると、エラーの原因を示す警告メッセージが表示されます。そのステートメントの残りの部分は無視され、次のステートメントに処理が継続されます。すべての入力ステートメントおよび警告メッセージは、DD/PRINT にのみ表示されます。



Note: Adabas Caching Facility 操作中に生成されるメッセージは、「*Adabas* コンソール (*ADANm*) メッセージ」の ADAN80 以降を参照してください。

CWARN-126

ILLEGAL RABN RANGE, OVERLAPPING EXTENTS

説明：

CASSOxxx または CDATExxx パラメータによって指定された RABN 範囲は、以前に指定された RABN 範囲と重複しています。Adabas Caching Facility は後者の RABN 範囲を無視します。

CWARN-127

ILLEGAL STARTING/ENDING RABNS

説明：

CASSOxxx または CDATExxx パラメータに無効な RABN が指定されています。つまり、RABN がゼロであるか、制限された ASSO RABN 1~30 内に該当する ASSO RABN 範囲を指定しています。

CWARN-128

RETRY < 60, SETTING TO 60

説明：

CRETRY パラメータは 60～2,147,483,647 の間に設定しなければなりません。指定された値は 60 未満です。デフォルトは 60 です。

CWARN-129

RABN(S) OUTSIDE OF GCB, RABN(S) IGNORED

説明：

CASSOxxx または CDATAxxx パラメータによって指定された RABN 範囲は、GCB の最大 RABN を超過しています。Adabas Caching Facility は、RABN 範囲を指定した残りのパラメータを無視します。

CWARN-130

A/D DSS < 81,920, USING DEFAULT SIZE

説明：

CASSOMAXS または CDATAMAXS パラメータによって指定された値は、81,920 よりも小さくなります。CASSOMAXS または CDATAMAXS のデフォルト値が使用されます。

CWARN-131

CRETRY > 2,147,483,647, SETTING TO MAXIMUM

説明：

CRETRY パラメータは 60～2,147,483,647 の間に設定しなければなりません。指定された値は最大値を超えています。デフォルトは最大の 2,147,483,647 です。

CWARN-132

CWORK2FAC/CWORK3FAC CANNOT EXCEED 100

説明：

100 パーセントを超えたパーセント指定はできません。無効なファクタは無視され、デフォルトの 0 が採用されます。

CWARN-133

CMAXCSPS > 16, SETTING TO 16

説明：

CMAXCSPS パラメータは 1～16 の間に設定しなければなりません。指定された値は 16 を超えています。デフォルトは 16 です。

CWARN-134

INCORRECT CSTO OR CWORKSTO STORAGE TYPE

説明：

CSTORAGE または CWORKSTORAGE パラメータには、拡張メモリ、データスペース、ハイパースペース、または 64 ビット仮想ストレージが指定されていません。CSTORAGE のエラーが発生した場合、ストレージタイプはいっさい設定されません。CWORKSTORAGE のエラーが発生した場合、デフォルトタイプの DATASPACE が設定されます。

CWARN-135

CBUFNO INVALID IN SMP OR SYSPLEX

説明：

CBUFNO パラメータは、Adabas Parallel Services または Adabas Cluster Services 環境ではサポートされません。Adabas Caching Facility はパラメータを無視します。

CWARN-136

CEXCLUDE INVALID IN SMP OR SYSPLEX

説明：

CEXCLUDE パラメータは、Adabas Parallel Services または Adabas Cluster Services 環境ではサポートされません。Adabas Caching Facility はパラメータを無視します。

CWARN-140

FILE CACHING PARAMETER ERROR; INVALID xxxx

説明：

ファイルに対するキャッシングを開始するための要求を処理しているとき、要求に指定したデータでエラーになりました。原因としては、CFILE パラメータ、CFILE オペレータコマンド、またはオペレータ要求にエラーがある可能性があります。要求は拒否され、ファイルはキャッシュされません。

xxxxx	エラーの説明です。	
	ファイル番号	ファイル番号が存在しません。
	範囲	範囲が ASSO、DATA、またはどちらでもありません。
	サービスクラス	クラスが 1~5 ではありません。
	キャッシュタイプ	タイプが拡張メモリ、データスペース、ハイパースペース、または 64 ビット仮想ストレージではありません。

 **Note:** Virtual 64 およびハイパースペースはすべての環境で利用できるわけではないので、要求された場合、上記のエラーが出力されることがあります。

対処：

無効な CFILE パラメータを修正し、CFILE オペレータコマンドを修正して再発行します。または正しい Adabas Online System 要求を実行してください。

23

DSF* - Delta Save Facility メッセージ

Adabas Delta Save Facility を処理しているときに発生するすべてのメッセージについて説明します。

オペレータコンソールに表示されるメッセージは、メッセージ番号に続けてデータベース ID が表示されます。ジョブプロトコルに返されるメッセージの場合、メッセージ番号は1回だけで、データベース ID は表示されません。

次のメッセージグループについて説明します。

ニュークリアス関連のコンソールメッセージ (DSF001～DSF029、DSF02A～D)

このセクションでは、Adabas ニュークリアスセッション中に Delta Save Facility により表示されるすべてのメッセージについて説明します。これらのメッセージはすべてオペレータコンソール上に表示されます。

DSF001

RUNNING WITH DELTA SAVE FACILITY

説明：

ADARUN パラメータ DSF=YES を伴ってニュークリアスが始動しました。このニュークリアスセッションでは、DSF 機能を実行できます。

DSF002

THE DSF LOGGING AREA IS NOT INSTALLED

説明：

このメッセージは、Delta Save Facility ステータスを示すメッセージです。DSF ロギング (DLOG) エリアが作成されていなければ、デルタセーブオペレーションをいっさい実行できません。

対処：

DSF を使う場合は、Adabas Online System の "INSTALL DSF (DSF のインストール) " 機能を使ってロギングエリアを定義します。

DSF003

DSF LOGGING IS DISABLED

説明：

このメッセージは、Delta Save Facility ステータスを示すメッセージです。デルタセーブ操作が使用不可能になっています。

DSF004

DSF LOGGING IS ENABLED

説明：

このメッセージは、Delta Save Facility ステータスを示すメッセージです。デルタセーブ操作が使用可能な状態にあることを示しています。

DSF005

count DLOG AREA BLOCKS OUT OF total USED (nn%)

DSF005

PENDING DLOG AREA OVERFLOW; PERFORM DELTA SAVE OPERATION

説明：

このメッセージは、DSF ロギング (DLOG) エリアの使用率を示します。2つ目のメッセージは、DLOG エリアの使用が 90 % 以上の場合にのみ出力され、DLOG エリアがもう少しで一杯になることを示します。エリアがオーバーフローすると、デルタセーブ操作は不可能になります。

対処：

DLOG エリアのオーバーフローが発生しそうな場合は、エリアがオーバーフローする前にデルタセーブ操作を実行します。

DSF006

DSF LOGGING AREA NOT INITIALIZED

DSF006

REINSTALL THE DLOG AREA

説明：

このメッセージは、DSF ロギング (DLOG) エリアの初期化が中断されたことを示します。DLOG エリアを最初からインストールしなければなりません。

対処：

DLOG エリアを削除し、再インストールします。

DSF007**DSF LOGGING AREA NOT INITIALIZED****DSF007****DSF LOGGING NOT ENABLED AT END OF SAVE**

説明：

このメッセージは、DSF ロギング (DLOG) エリアの初期化が中断されたことを示します。オンラインフルセーブ操作は完了しましたが、セーブの最後でDSF ロギングが使用可能になりませんでした。デルタセーブ操作を実行できません。

対処：

DLOG エリアを削除し、再インストールします。もう一度フルセーブ操作を実行します。

DSF008**I/O INITIATED BY DELTA SAVE FACILITY:****DSF008****read-count READS, write-count WRITES**

説明：

このメッセージは、Adabas ニュークリアスの遮断時に出力されます。現在のニュークリアスセッション中に Delta Save Facility によって開始されたI/O 操作の回数を示します。

DSF011**ONLINE FULL SAVE OPERATION COMPLETED**

説明：

このメッセージが表示されなければ、すでに出力セーブデータセットが ADASAV によってクローズされていても、Delta Save Facility でのオンラインフルセーブ操作は正常に終了されません。

対処：

DSF ロギングエリアがリセットされます。DSF ロギングが使用不能であれば、DSF ロギングが使用可能にされます。

DSF012**ONLINE DELTA SAVE OPERATION COMPLETED**

説明：

このメッセージが表示されなければ、すでに出力セーブデータセットが ADASAV によってクローズされていても、オンラインデルタセーブ操作は正常に終了されません。

対処：

DSF ロギングエリアがリセットされます。

DSF013

DELTA SAVE ID = fsnum / dsnum / date-time

説明：

このメッセージは、DSF005、DSF011 または DSF012 メッセージに続けて表示されます。たった今完了したフルセーブまたはデルタセーブ操作のデルタセーブ ID を示します。fsnum はフルセーブ番号を示し、dsnum はデルタセーブ操作の番号を示します。

DSF014

DSF LOGGING HAS BEEN ENABLED

説明：

以前に DSF ロギングが使用不能になっていた場合、DSF011 および DSF013 メッセージに続けて表示されます。DSF ロギングは操作の終わりに使用可能にされました。デルタセーブ操作を実行できます。

DSF015

DISABLE DSF REQUESTED BY AOS COMMAND

説明：

Adabas Online System によって DISABLE DSF (DSF 使用不可) コマンドが発行されました。

対処：

DSF ロギングが使用不能になります。

DSF016

DSF LOGGING HAS BEEN DISABLED

説明：

このエラーの原因は、前のメッセージのエラーを継承しています。デルタセーブ操作を実行できません。

対処：

デルタセーブ操作を再試行する前に、フルセーブ操作を実行します。

DSF017

INITIALIZING THE DSF LOGGING AREA

説明：

Adabas Online System を介して INSTALL DSF (DSF のインストール) または CHANGE DLOG AREA (DLOG エリアの変更) コマンドが発行されました。

対処：

DSF ロギングエリアが初期化されました。初期化の完了は、メッセージ DSF018 によって示されます。

DSF018**THE DSF LOGGING AREA HAS BEEN { INSTALLED | CHANGED }**

説明：

INSTALL DSF (DSF のインストール) または CHANGE DLOG AREA (DLOG エリアの変更) コマンドが完了しました。

DSF019**THE DSF LOGGING AREA HAS BEEN REMOVED**

説明：

REMOVE DSF (DSF の削除) コマンドが実行されたか、DSF=NO でニュークリアスが起動されて DSF ロギングエリアが削除されました。

DSF020**DSF LOGGING AREA OVERFLOW**

説明：

データベースの変更回数が多すぎたため、DSF ロギング (DLOG) エリアに収容できません。DLOG エリアは一杯です。デルタセーブ操作を実行できません。

DSF ロギングが使用不能になります。

対処：

デルタセーブ操作を再試行する前に、フルセーブ操作を実行します。今後の DLOG エリアのオーバーフローを防止するために、DLOG エリアを大きくするか、デルタセーブ操作の回数を増やします。

DSF021**I/O ERROR { READING | WRITING } DLOG RABN rabn**

説明：

示されたアソシエータ RABN 上で DSF ロギング (DLOG) エリア内の I/O エラーが発生しました。

DSF ロギングが使用可能になっている場合は、使用不能になります。

対処：

I/O エラーの原因を探して排除します。DLOG エリアを削除し、再インストールします。

DSF022

FATAL I/O ERROR { READING | WRITING } DLOG HEADER RABN rabn

説明：

示された RABN、DSF ロギング (DLOG) エリアの第 1 ブロック上で I/O エラーが発生しました。



Caution: 警告：このエラーが発生したら、デルタセーブ操作を行わないようにしてください。デルタセーブが正常に終了しても、出力が誤っている可能性があります。

Delta Save Facility はニュークリアスを異常終了します。

対処：

I/O エラーの原因を探して排除します。DLOG エリアを削除し、再インストールします。

DSF023

DLOG AREA HEADER RABN rabn BAD (# rr)

DSF023

REINSTALL DLOG AREA or

DSF023

DLOG AREA DETAIL RABN rabn BAD (# rr AT +xxxx

DSF023

REINSTALL DLOG AREA

説明：

示された DSF ロギング (DLOG) エリアのブロックに矛盾が検出されました。rabn はアソシエータブロック番号を示し、rr は内部理由コード、xxxx はエラーが検出されたブロック内のオフセットを示します。

DSF ロギングが使用可能になっている場合は、使用不能になります。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡して問題の原因を探します。DLOG エリアを削除し、再インストールします。

DSF024

INCONSISTENT DELTA SAVE ID IN DLOG RABN rabn

説明：

示された DSF ロギング (DLOG) エリアのブロックに矛盾が検出されました。rabn はアソシエータブロック番号を示します。

DSF ロギングが使用可能になっている場合は、使用不能になります。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡して問題の原因を探します。DLOG エリアを削除し、再インストールします。

DSF025**DSF LOGGING NOT DISABLED BECAUSE READONLY=YES**

説明：

DSF ロギングを使用不能にしようとしたますが、READONLY=YES でニュークリアスが起動されているため、使用不能にできませんでした。

DSF ロギングが使用不能にする試みは、次のニュークリアスセッションで再試行されます。

対処：

DSF ロギングを使用不能にするには、ニュークリアスを遮断して READONLY=NO でニュークリアスを再起動します。

DSF026**UNLOGGED RABN(S) DETECTED: type start-rabn end-rabn**

説明：

DSF によってログされていないデータベースブロックが書き込まれていることを内部チェックで検出しました。書き込まれた RABN のタイプ (ASSO/DATA) および範囲が表示されます。

DSF ロギングが使用不能になります。

対処：

これは重大な問題です。Software AG 技術サポートに連絡してください。デルタセーブ操作を再試行する前に、フルセーブ操作を実行します。

DSF027**INSUFFICIENT MEMORY (TRYING TO ALLOCATE count BYTES)**

説明：

Delta Save Facility は操作の実行に十分なメモリを得られませんでした。count は、要求されたメモリのバイト数を示します。

ニュークリアスセッションの開始が中止されます。

対処：

ニュークリアスジョブ/タスクのリージョン/パーティションを大きくするか、ニュークリアスパラメータからのメモリ要求を減らします。

DSF028**DSF VERSION MISMATCH; REINSTALL DLOG AREA**

説明：

Delta Save Facility ソフトウェアのバージョンと、DSF ロギング (DLOG) エリアのバージョンが異なり、互換性がありません。

DSF ロギングが使用可能になっている場合は、使用不能になります。

対処：

DLOG エリアを削除し、再インストールします。

DSF028

CONVERTING FROM DSF xx TO DSF yy

説明：

DSF ロギング (DLOG) エリアのフォーマットをバージョン xx からバージョン yy に変換しています。これは、Adabas を旧バージョンから新規バージョンに変換するときに発生します。

Delta Save Facility のバージョン (xx および yy) に依存して、DSF ロギングが使用可能になっている場合は、使用不能になります。

対処：

DSF ロギングを無効にした場合、デルタセーブ操作を再試行する前に、フルセーブ操作を実行します。

DSF029

DSF INTERNAL ERROR AT ADADSFN + offset (reason-code)

DSF029

R0-R3 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

DSF029

R4-R7 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

DSF029

R8-R11 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

DSF029

R12-R15 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

説明：

モジュール ADADSFN のオフセット offset で内部エラーが発生しました。reason-code は内部理由コードを示します。エラー発生時のレジスタ設定が表示されます。

DSF ロギングが使用可能になっている場合は、使用不能になります。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡して問題の原因を探します。デルタセーブ操作を再試行する前に、フルセーブ操作を実行します。

DSF02A**PERCENTAGE ERROR IN DSF USER EXIT; nn% IS USED**

説明：

DSF ユーザー出口が無効な限界値を返しました（Adabas が出口をコールする DLOG エリア使用のパーセンテージ）。

Adabas は、DLOG エリアが nn %以上使用されると DSF ユーザー出口をコールします。

DSF02C**CURRENT DLOG BLOCK NOT FOUND IN CACHE, READ FROM DISK**

説明：

現在参照されている DLOG ブロックはカップリング機能キャッシュ構造の中にないので、改めてディスクデータセットから読み込まなければなりません。

DSF02C**CURRENT DLOG BLOCK WRITTEN TO CACHE**

説明：

現在参照されている DLOG ブロックはすでにカップリング機能キャッシュ構造に保持されています。

DSF02D**WRITE OF CURRENT DLOG BLOCK TO CACHE FAILED**

説明：

現在ディスクデータセットから参照されている DLOG ブロックをカップリング機能キャッシュ構造に書き込もうとして失敗しました。キャッシュ構造に空きがない可能性があります。

対処：

キャッシュのサイズを大きくしてください。

ADARES および ADASAV のユーティリティ関連のジョブプロトコルメッセージ (DSF030 ~DSF099)

このセクションで説明するメッセージは、ADARES または ADASAV ユーティリティの実行中に Delta Save Facility によって表示されます。メッセージは、直接ユーティリティメッセージ、あるいは、ユーティリティ関連のニュークリアス操作の結果として、Adabas ユーティリティ操作で発生します。

多くのメッセージは、ユーティリティジョブプロトコル (DD/DRUCK または SYSLST) に表示されますが、ADARUN プロトコル (DD/PRINT、SYS009 または SYSOUT) に表示されるものもあります。稀にメッセージがユーティリティジョブプロトコルとオペレータコンソールの両方に表示される場合がありますが、これはこれらのメッセージの説明で明示します。



Note: メッセージは、オペレータコンソールに書き込まれる際、該当するデータベースIDで開始します。

DSF030

DSIM DATASET OMITTED FROM PLCOPY PROCESSING

説明：

PLCOPY の実行に ADARUN パラメータ DSF=YES が指定されていましたが、デルタセーブイメージ (DSIM) データセットがジョブコントロールに提供されていませんでした。

システム対処は発生しません。また、プロテクションログからのオンラインセーブ情報の取り出しは行われません。

対処：

DSF オンラインセーブおよびマージ操作を実行する場合は、PLCOPY の実行に DSIM データセットを指定します。

DSF031

SYN1 CHECKPOINT ENCOUNTERED ON PROTECTION LOG PLOGNUM=plog-number BLOCKNUM=rabn

説明：

プロテクションログ上に SYN1 チェックポイント (オンラインセーブ開始) が検出されました。プロテクションログ番号は plog-number であり、SYN1 ブロック番号は rabn です。

Delta Save Facility はプロテクションログからオンラインセーブ情報を取り出してデルタセーブイメージ (DSIM) データセットへの書き込みを始めます。

DSF032

SYN2 CHECKPOINT ENCOUNTERED ON PROTECTION LOG PLOGNUM=plog-number BLOCKNUM=rabn

説明：

プロテクションログ上に SYN2 チェックポイント (オンラインセーブの終わり) が検出されました。プロテクションログ番号は plog-number であり、SYN2 ブロック番号は rabn です。

Delta Save Facility はプロテクションログからのオンラインセーブ情報の取り出しを中止します。デルタセーブイメージ (DSIM) データセットは、マージの準備ができたとしてマークされます。

DSF033

SYN1 CHECKPOINT IGNORED ON PROTECTION LOG. PLOG AND BLOCK NUMBERS DIFFERENT FROM PARAMETERS CHECKPOINT FOUND HAS PLOGNUM=plog-number, SYN1=block-number

説明：

プロテクションログ上に SYN1 チェックポイント（オンラインセーブ開始）が検出されました。プロテクションログ番号は plog-number であり、SYN1 ブロック番号は block-number です。これらの値は、COPY 機能に指定された PLOGNUM および SYN1 パラメータの値と異なります。

Delta Save Facility はプロテクションログからのオンラインセーブ情報の取り出しを開始しません。SYN1 チェックポイントは無視されます。

DSF033

SYN1 CHECKPOINT IGNORED ON PROTECTION LOG DSIM DATASET ALREADY COMPLETED

説明：

プロテクションログ上に SYN1 チェックポイント（オンラインセーブ開始）が検出されましたが、デルタセーブイメージ（DSIM）データセットは、すでにマージの用意ができていました。

SYN1 チェックポイントは無視されます。

DSF033

SYN1 CHECKPOINT IGNORED ON PROTECTION LOG DSIM DATASET STATUS INCORRECT: status-code

説明：

プロテクションログ上に SYN1 チェックポイント（オンラインセーブ開始）が検出されましたが、デルタセーブイメージ（DSIM）データセットのステータスが正しくありません。現在の DSIM ステータス（status-code）が表示されます。

SYN1 チェックポイントは無視されます。

対処：

ADARES COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。

DSF033

SYN1 CHECKPOINT IGNORED ON PROTECTION LOG ONLINE SAVE OPERATION STARTED AFTERWARDS

説明：

プロテクションログ上に SYN1 チェックポイント（オンラインセーブ開始）が検出されましたが、DSIM データセットに関連したオンラインセーブ操作が開始する前に書き込まれまし

た。したがって、このチェックポイントは、プロテクションログから情報を取り出すオンラインセーブ操作の開始点にはなりません。

SYN1 チェックポイントは無視されます。

対処：

ありません。コピーする SYN1 チェックポイントがプロテクションログ上に1つしかなく、それ以外にはメッセージに説明がない場合は、オンラインセーブ操作を実行している Adabas ニュークリアスおよび ADASAV ユーティリティが異なるマシンまたは同一のマシンの異なる区域で実行されたかどうかをチェックします。実行されていた場合、これらの2つのマシンまたは区域のローカルタイムが正確に同期していることを確認します。

DSF036

DSIM DATASET OPENED WITH STATUS: status

説明：

このメッセージは ADARUN プロトコルに出力されます。デルタセーブイメージ (DSIM) データセットがオープンしています。現在のステータスが表示されます。

DSF037

DSIM DATASET STATUS CHANGED TO: status

説明：

このメッセージは ADARUN プロトコルに出力されます。デルタセーブイメージ (DSIM) データセットのステータスが、メッセージに表示された新しいステータスに変更されました。

DSF038

DSIM DATASET CLOSED WITH STATUS: status

説明：

このメッセージは ADARUN プロトコルに出力されます。デルタセーブイメージ (DSIM) データセットがクローズしました。現在のステータスが表示されます。

DSF039

**DSIM DATASET COMPLETED DSIM DATASET STATISTICS: nn% FULL asso-count
ASSO BLOCK IMAGES WRITTEN data-count DATA BLOCK IMAGES WRITTEN ac-count
NEW AC BLOCKS RECORDED**

説明：

デルタセーブイメージ (DSIM) データセットが完了したので、マージの準備ができているものとしてマークされます。表示される統計は、以下を含みます。

- 使用パーセンテージ
- DSIM データセットに含まれる ASSO および DATA ブロックイメージ数 (ブロックカウントは、同一ブロックの複数イメージを区別しません)

- 関連オンラインセーブ操作の間に割り当てられ、DSIM データセットに記録されたアドレスコンバータブロックの数

DSF040**[dbid] WAITING FOR DSIM DATASET**

説明：

このメッセージはオペレータコンソール (dbid 付き) および ADARUN プロトコル (dbid なし) に出力されます。デルタセーブイメージ (DSIM) データセットは、マージの用意ができていません。DSIM データセットの完了を待機するために、DSIMWAIT パラメータが指定されました。

Delta Save Facility は DSIM データセットのマージの用意ができるまで、または最大待機時間 (DSIMWAIT) を超過するまで待機します。

DSF041**DSF LOGGING AREA nn% FULL AT BEGIN OF SAVE**

説明：

デルタセーブ操作の開始時における DSF ロギング (DLOG) エリアの使用率を示します。

DSF042**[dbid]{ OFFLINE | ONLINE }{ FULL | DELTA } SAVE OPERATION COMPLETED DSID=fsnum dsnum date-time**

説明：

示されたタイプのセーブ操作が正常に完了しました。デルタセーブ操作の ID (DSID) が表示されます。fsnum および dsnum は、フルセーブ操作およびデルタセーブ操作の数です。

オフラインセーブ操作の場合、このメッセージは dbid 付きでオペレータコンソールにも表示されます。オンラインセーブについては、Adabas ニュークリアスは DSF011～DSF013 メッセージと同等の情報を出力します。

オフラインセーブ操作の場合、DSF ロギング (DLOG) エリアがリセットされます。フルセーブ操作の場合、DSF ロギングが使用不能になっていれば、以下によって使用可能にします。

- オフラインセーブ操作の場合は ADASAV
- オンラインセーブ操作の場合はニュークリアス

DSF043**[dbid] DSF LOGGING ENABLED BY OFFLINE FULL SAVE**

説明：

このメッセージは、DSF042 メッセージに続けて発生します。デルタセーブ操作を実行できません。このメッセージが表示されていないければ、すでに ADASAV によって出力セーブデータセットがクローズされていても、Delta Save Facility を伴ったオフラインフルセーブ操作は正常に実行されません。

このメッセージは dbid 付きでオペレータコンソールにも出力されます。

DSF044**DELTA SAVE STATISTICS: asso-count ASSO BLOCKS TO BE SAVED data-count DATA BLOCKS TO BE SAVED**

説明：

このメッセージは、デルタセーブ操作の開始時に出力されます。セーブされるアソシエータおよびデータストレージのブロック数を表示します。

DSF045**INPUT { OFFLINE | ONLINE } { FULL | DATA } SAVE TAPE OPENED DSID= fsnum
lowdsnum-hidsnum date-time**

説明：

MERGE または RESTORE DELTA 処理において、明示されたデルタセーブ ID を持つ入力セーブデータセットがオープンされました。fsnum はフルセーブ番号、lowdsnum と hidsnum はそれぞれ、セーブデータセットの下位のデルタセーブ番号と上位のデルタセーブ番号です。

DSF045**INPUT { OFFLINE | ONLINE } DELTA SAVE TAPE OPENED (CONCATENATED) DSID=
fsnum lowdsnum-hidsnum date-time**

説明：

MERGE または RESTORE DELTA 処理で、明示されたデルタセーブ ID 付きで入力セーブデータセットはオープンされました。デルタセーブデータセットは別のデルタセーブデータセットに連結されます。fsnum はフルセーブ番号、lowdsnum と hidsnum はそれぞれ、セーブデータセットの下位のデルタセーブ番号と上位のデルタセーブ番号です。

DSF045

**INPUT ONLINE DELTA SAVE TAPE OPENED (UNLOADED DSIM) DSID= fsnum /
dsnum / date-time**

説明：

MERGE または RESTORE DELTA 処理において、明示されたデルタセーブ ID を持つ入力オンラインデルタセーブデータセットがオープンされました。デルタセーブデータセットは、アンロードされた DSIM データセットです。fsnum はフルセーブ番号、dsnum はセーブデータセットのデルタセーブ番号です。ADARESCOPY 機能を使用して、元の DSIM データセットが PLOG から（再）構築された場合、DSID は不明で、ゼロと表示されます。

DSF046

**RESTORE DELTA WITHOUT FULL SAVE INPUT DSID OF DATABASE = fsnum hidsnum
date-time**

説明：

フルセーブ入力なしのデルタリストア操作において、データベースのデルタセーブ ID は、メッセージに示されたとおりです。関連したフルおよびデルタセーブデータセットは過去にリストアされています。fsnum はフルセーブ番号を示し、hidsnum はすでにリストアされたセーブデータセットの最大デルタセーブ番号を示します。

DSF047

**[dbid] OUTPUT OFFLINE { FULL | DELTA } SAVE TAPE COMPLETED DSID= fsnum
lowdsnum-hidsnum date-time**

説明：

MERGE 操作において、指示された出力セーブデータセットが完了しました。デルタセーブ ID が表示されます。fsnum はフルセーブ番号を示します。lowdsnum は下位デルタセーブ番号を示し、hidsnum は上位デルタセーブ番号を示します。

このメッセージは dbid 付きでオペレータコンソールにも出力されます。

DSF047

**[dbid] OUTPUT ONLINE DELTA SAVE TAPE COMPLETED (UNLOADED DSIM) DSID=
fsnum dsnum date-time**

説明：

MERGE 操作において、表示されたデルタセーブ ID を持つ、アンロードされた DSIM デルタセーブデータセットが書き込まれました。fsnum はフルセーブ番号を示します。dsnum はデルタセーブ番号です。ADARESCOPY 機能を使用して、元の DSIM データセットが PLOG から（再）構築された場合、DSID は不明で、ゼロと表示されます。

このメッセージは dbid 付きでオペレータコンソールにも出力されます。

DSF048

[dbid] RESTORE OF { (MERGED) FULL | (CONCATENATED) DELTA } SAVE TAPE [(S)] COMPLETED RESTORED DELTA SAVE ID= fsnum lowdsnum-hidsnum / date-time

説明：

デルタリストア操作の1フェーズが完了しました。1つ以上のセーブテープがリストアされました。デルタセーブIDの組み合わせが表示されます。次に高いデルタセーブIDを持ったデルタセーブデータセットとともに、フルセーブ入力なしで後続のデルタリストア操作を開始できます。fsnumはフルセーブ番号を示します。lowdsnumは下位デルタセーブ番号を示し、hidsnumは上位デルタセーブ番号を示します。

このメッセージはdbid付きでオペレータコンソールにも出力されます。

DSF049

DSIM DATASET STATISTICS: asso-count ASSO BLOCKS PRESENT data-count DATA BLOCKS PRESENT

説明：

デルタセーブイメージ (DSIM) データセットが検査され、オンラインセーブ入力データセットの1つと一致した場合、このメッセージが出力されます。また、DSIMデータセットがアンロードされる場合にもこのメッセージが出力されます。DSIMデータセットには、asso-count個の異なるアソシエータブロック、およびdata-count個の異なるDATAブロックが含まれています。

DSF050

DSF LOGGING AREA NOT INSTALLED

説明：

DSF ロギング (DLOG) エリアがインストールされて、DSF ロギングが使用可能になっていなければ、デルタセーブ操作を実行できません。

デルタセーブ操作は、異常終了します。

対処：

Adabas Online System を使用して DSF ロギングエリアをインストールし、フルセーブ操作を実行して DSF ロギングを使用可能にします。

DSF051

DSF LOGGING NOT ENABLED

説明：

DSF ロギングが使用可能になっていなければ、デルタセーブ操作を実行できません。

実行しようとしたデルタセーブ操作は異常終了します。

対処：

フルセーブ操作を実行して DSF ロギングを使用可能にします。

DSF052**DSIM DATASET OMITTED FROM ONLINE SAVE OPERATION**

説明：

DSF（ADARUNパラメータDSF=YES）を伴って実行する場合、オンラインフルまたはデルタセーブ操作用にデルタセーブイメージ（DSIM）データセットを提供しなければなりません。

オンラインセーブ操作は異常終了します。

対処：

オンラインセーブ操作にDSIMデータセットを提供するか、セーブ操作をオフラインで実行します。

DSF053**DSIM DATASET NOT READY FOR SAVE**

説明：

Delta Save Facility オンラインセーブ操作を実行するとき、デルタセーブイメージ（DSIM）データセットは"使用されていない"状態でなければなりません。DSIMデータセットの現在のステータスは表示されたとおりであり、セーブ操作を実行できません。

オンラインセーブ操作は異常終了します。

対処：

以前に作成されたオンラインセーブテープのマージのために、DSIMデータセットが必要かどうかチェックします。必要であれば、DSIMデータセットを（ADAFRM DSIMRESET機能を使って）リセットし、セーブ操作を再実行します。

DSF054**ONLINE SAVE FAILED AT ET SYNCHRONIZATION**

説明：

オンラインセーブ操作の終わりに実行されたET同期化は、正常に終了しませんでした。DSFロギング（DLOG）エリアはリセットされていません。DSFロギングは、以前に使用不能になっていた場合は使用不能の状態が継続し、以前に使用可能になっていた場合は使用可能の状態が継続します。ET同期化の失敗に関するニュークリアスレスポンスコードが後続のADASAVエラーメッセージに表示されます。

すでにクローズされていますが、作成されたセーブデータセットをマージやリストア操作に使用してはなりません。

オンラインセーブ操作は異常終了します。

対処：

エラーの原因を除いてオンラインセーブ操作を再実行します。

DSF055**ONLINE SAVE SUCCESSFUL IN SPITE OF NUCLEUS RESPONSE**

説明：

オンラインセーブ操作の終わりに実行された ET 同期化は、正常に終了しました。DSF ロギング (DLOG) エリアはリセットされました。その後、エラーが発生してニュークリアスレスポンスコードが ADASAV に返されました。ニュークリアスのレスポンスコードは、後続の ADASAV エラーメッセージに表示されます。以前に DSF ロギングが使用不能になっていた場合は、使用可能になります。

ADASAV はエラーメッセージを出力しますが、処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。

対処：

作成されたセーブテープは有効であり、データが欠落している可能性は低いため、後からデルタセーブ操作を行う場合に必要です。そうしないと、後続のデルタセーブデータセットをマージおよび（または）リストアできません。

DSF057**UNLOADING DSIM DATASET**

説明：

DSIM データセットだけが処理に指定されました。フルまたはデルタセーブ入力データセットが提供されませんでした。

対処：

ADASAV は DSIM データセットをシーケンシャル出力セーブデータセットにアンロードし、次のオンラインセーブ操作のために DSIM データセットを解放します。

DSF058**[dbid] FULL SAVE TAPE RESTORED-DSF LOGGING ENABLED RESTORED DELTA
SAVE ID = fsnum / lowdsnum - hidsnum / date-time**

説明：

Delta Save Facility で作成したフルセーブテープがリストアされました。リストアされたデータベースのデルタセーブ ID が表示されます。リストアされたデータセットにおいて、fsnum はフルセーブ番号、lowdsnum は下位のデルタセーブ番号、hidsnum は上位のデルタセーブ番号です。

このメッセージは dbid 付きでオペレータコンソールにも出力されます。

リストアされたデータベースにおいて DSF ロギングは使用可能になりました。

対処：

次のセーブ操作はデルタセーブであってもかまいません。その実行結果は、リストア操作に入力したフルセーブとマージできます。

DSF059**REMOVING DSF LOGGING AREA (DSF=NO SPECIFIED)**

説明：

Delta Save Facility によって作成されたフルセーブがリストア対象ですが、ADARUN パラメータ DSF=NO が指定されています。

DSF ロギング (DLOG) エリアは削除されます。リストア操作は正常に継続されます。

対処：

対処は必要ありません。リストアしたデータベースを Delta Save Facility で実行する場合は、再度 DSF ロギング (DLOG) エリアをインストールします。

DSF060**INSUFFICIENT INPUTS FOR MERGE OR RESTORE DELTA**

説明：

入力データセット要件は次のとおりです。

- MERGE、および RESTORE DALTA 機能では、最小限1つのフルまたはデルタセーブデータセットが必要です。
- DSIM データセット (MERGE 機能) のアンロードでは、DSIM データセットだけが必要です。フルまたはデルタセーブ入力は許可されません。

MERGE または RESTORE DELTA 操作は異常終了します。

対処：

適切な入力データセットを指定します。RESTORE DELTA 機能の場合、RESTORE DELTA の代わりに RESTORE でジョブを再実行します。

DSF061**INPUT SAVE TAPE COMING FROM WRONG DATABASE**

説明：

マージまたはデルタリストア操作の入力セーブデータセットのデータベースIDが、ADARUN DBID パラメータに指定されたデータベースIDと異なります。両方のデータベースIDが表示されます。

マージまたはデルタリストア操作は異常終了します。

対処：

正しいセーブテープを提供するか、ADARUN DBID パラメータを修正します。

DSF062**INVALID SPECIFICATION OF INPUT DATASETS IN JCL/JCS**

説明：

マージまたはデルタリストア操作の入力セーブデータセットが正しく指定されていません。次のいずれかの誤りがあります。

- フルセーブデータセットの代わりにデルタセーブデータセットを提供しました。
- デルタセーブデータセットの代わりにフルセーブデータセットを提供しました。
- デルタセーブデータセットの DD 名／リンク名が連続していません。
- Delta Save Facility を伴ったセーブ操作によってセーブデータセットが作成されていません。
- Adabas バージョン 5.3 以上でセーブデータセットが作成されていません。
- 入力データセットにセーブデータセットヘッダーレコードが含まれていません。
- ADASAV によって入力データセットが作成されていません。

マージまたはデルタリストア操作は異常終了します。障害のある入力データセットの DD 名／リンク名が表示されます。

対処：

正しい入力セーブテープを提供してジョブを再実行します。

DSF063**DSIM DATASET MISSING OR IN WRONG STATUS**

説明：

MERGE または RESTORE DELTA 操作では、オンラインセーブデータセットの処理にデルタセーブイメージ (DSIM) データセットが必要ですが、次の可能性があります。

- DSIM が指定されていない。
- DSIM のステータスが正しくない。
- DSIM が間違っただ論理順に指定された。

MERGE または RESTORE DELTA 操作は異常終了します。

対処：

正しい DSIM データセットを提供します。必要であれば、再作成します。ジョブを再実行します。

DSF065**INPUT FULL AND DELTA SAVE TAPES NOT FITTING TOGETHER**

説明：

指定された入力フルセーブおよびデルタセーブデータセットは、一連のセーブ操作に適合しません。次のうちの1つ以上に当てはまるため、デルタセーブ ID (DSID) が一致しません。

- フルセーブ番号が同一ではありません。
- デルタセーブ番号の順番が、重複や番号抜けの昇順になっていません。
- フルおよびデルタセーブ入力の順番において、アンロードされた DSIM データセットが関連オンラインセーブの直後に指定されていません。
- 日付と時刻が昇順になっていません。

フルセーブ入力なしの RESTORE DELTA 操作では、データベースの DSID は、この DSID の照合の対象になります。一致した DSID は、以前のメッセージに表示されています。

MERGE または RESTORE DELTA 操作は異常終了します。

対処：

正しい入力セーブデータセットを正しい配列で提供します。ジョブを再実行します。

DSF066**DSIM DATASET DOES NOT MATCH ONLINE SAVE TAPE**

説明：

提供された元のデルタセーブイメージ (DSIM) データセット、またはアンロードされたデルタセーブイメージ (DSIM) データセットは、指定された入力オンラインセーブデータセットに付属するものではありません。セーブデータセットを作成したオンラインセーブ操作中に書き込まれたブロックイメージが含まれていません。

DSIM データセットのフルセーブ番号、デルタセーブ番号、およびデータベース ID が表示されます。さらに、DSIM データセットとオンラインセーブデータセットの両方について、セーブ操作の SYN1 チェックポイントのプロテクションログ番号とプロテクションログブロック番号が表示されます。付属するオンラインセーブおよび DSIM データセットでは、これらの SYN1 関連の番号が等しくなければなりません。

MERGE または RESTORE 操作は異常終了します。

対処：

正しい DSIM データセットと入力セーブデータセットのいずれか、または両方を提供します。ジョブを再実行します。

DSF067**MISMATCHING MERGE/RESTORE PATTERN**

説明：

PATTERN パラメータに指定されたデルタマージ/リストアパターンが、提供された入力フルセーブおよびデルタセーブデータセットと一致しません。

デルタマージまたはリストア操作は異常終了します。

対処：

PATTERN パラメータおよびジョブ制御ステートメントをチェックおよび修正します。ジョブを再実行します。

DSF068**INVALID SAVE DATASET CONCATENATION**

説明：

別のデータセットが入力データセットのいずれか1つに連結されました。入力データセットのDD名/リンク名が表示されます。入力セーブデータセットの連結は、次の場合にのみ許可されます。

- 機能が RESTORE DELTA (MERGE ではない) の場合。
- セーブデータセットが、最後の入力セーブに論理順に連結されている場合。

MERGE または RESTORE DELTA 操作は異常終了します。

対処：

入力データセットの指定を修正し、ジョブを再実行します。

DSF070**DSIM DATASET SMALLER THAN SPECIFIED**

説明：

Delta Save Facility がデルタセーブイメージ (DSIM) データセットの最後のブロックを読もうとしたとき、I/O エラーが発生しました。DSIM が指定されたサイズよりも小さい可能性があります。

DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を続けます。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

DSIMSIZE パラメータを修正するか、正しい DSIM データセットを提供します。PLCOPY の場合は、COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。それ以外では、COPY 機能を再実行します。

DSF071**PROTECTION LOG AND DSIM DATASET DO NOT MATCH**

説明：

プロテクションログとデルタセーブイメージ (DSIM) データセットは、それぞれ異なるデータベースに所属します。2つのデータベース ID が表示されます。

この ADARES 実行中には、プロテクションログからオンラインセーブ情報はいっさい取り出されません。DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

正しいプロテクションログを提供するか、DSIM データセットを再作成します。PLCOPY の場合は、COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。それ以外では、COPY 機能を再実行します。

DSF072**CANNOT LOCATE SYN1 CHECKPOINT ON PROTECTION LOG**

説明：

指定されたプロテクションログの SYN1 チェックポイントが見つかりませんでした。指定された SYN1 の位置と、プロテクションログ上の現在位置が示されます。

この ADARES 実行中には、プロテクションログからオンラインセーブ情報はいっさい取り出されません。DSIM データセットの作成が中断されます。COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって機能が異常終了します。

対処：

プロテクションログとパラメータ入力を一致させ、ジョブを再実行します。

DSF074**DISCONTINUITY IN PROTECTION LOG PROCESSING**

説明：

処理するプロテクションログの第 1 ブロックが、直前に処理された最後のブロックと連続していません。デルタセーブイメージ (DSIM) データセット作成のためのブロックイメージの取り出しは、最後に取り出されたブロック位置から継続していかなければなりません。プロテクションログの現在位置と、直前の PLCOPY 実行時の位置が示されます。

この ADARES 実行中には、プロテクションログからオンラインセーブ情報はいっさい取り出されません。DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。

対処：

COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。

DSF075**DSIM DATASET OVERFLOW**

説明：

デルタセーブイメージ（DSIM）データセットの大きさが十分でないため、付属するオンラインセーブ操作中に書き込まれた全ブロックイメージを保持できません。このDSIMデータセットはマージに使えません。

DSIM データセットがエラー状態に設定されます。PLCOPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード4がセットされます。

対処：

マージ操作を実行する前に、DSIM データセットを大きくし、COPY 機能を使って再作成します。

DSF076**DSIM DATASET OVERFLOW**

説明：

デルタセーブイメージ（DSIM）データセットの大きさが十分でないため、付属するオンラインセーブ操作中に書き込まれた全ブロックイメージを保持できません。このDSIMデータセットはマージに使えません。

DSIM データセットがエラー状態に設定されます。COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード4がセットされます。出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって機能は異常終了します。

対処：

マージ操作を実行する前に、DSIM データセットを大きくし、COPY 機能を使って再作成します。

DSF079**ILLEGAL MULTIPLE USE OF DSIM DATASET DETECTED**

説明：

次のいずれかの処理を行っているときに別のユーティリティによってデルタセーブイメージ（DSIM）データセットが変更されました。

- PLCOPY または COPY 機能がプロテクションログから取り出されたオンラインセーブ情報を DSIM に書き込んでいるとき
- ADASAV MERGE 機能が DSIM からセーブ情報を読み込んでいるとき

DSIM データセットに矛盾があります。

ADASAV では MERGE 機能が異常終了します。ADARES では、DSIM データセットはエラーステータスがセットされます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード4がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

今後はDSIMデータセットの同時使用を防止します。PLCOPYの場合は、COPY機能を使ってDSIMデータセットを再作成します。COPYの場合は、COPY機能を再実行します。MERGEの場合は、COPY機能を使用してDSIMデータセットを再作成し、MERGE機能を再実行します。

DSF080

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ DLOG ior-error-text ASSO RABN: dec-rabn (hex-rabn)

説明：

Delta Save FacilityがDSFロギング（DLOG）エリアからブロックを読み込もうとしたとき、I/Oエラーが発生しました。ADAIORエラーテキストが表示されます。影響を受けたアソシエータRABNが10進（dec-rabn）および16進（hex-rabn）形式で示されます。

セーブ機能は異常終了します。

対処：

I/Oエラーの原因を探して排除します。DLOGエリアを削除し、再インストールします。フルセーブ操作を実行します。

DSF081

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE DLOG ior-error-text ASSO RABN: dec-rabn (hex-rabn)

説明：

Delta Save FacilityがDSFロギング（DLOG）エリアにブロックを書き込もうとしたとき、I/Oエラーが発生しました。ADAIORエラーテキストが表示されます。影響を受けたアソシエータRABNが10進（dec-rabn）および16進（hex-rabn）形式で示されます。

セーブ機能は異常終了します。

対処：

I/Oエラーの原因を探して排除します。DLOGエリアを削除し、再インストールします。フルセーブ操作を実行します。

DSF082

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN DSIM ior-error-text

説明：

Delta Save Facilityがデルタセーブイメージ（DSIM）データセットのオープンを試みたとき、エラーが発生しました。ADAIORエラーテキストが表示されます。ジョブ制御が正しくないか、DSIMDEVパラメータが欠如または誤っている可能性があります。

ADASAVの機能は異常終了します。ADARESでは、このADARES実行中にプロテクションログからオンラインセーブ情報はいっさい取り出されません。DSIMデータセットの作成が中断されます。PLCOPYまたはCOPY機能は処理を継続します。正常に終了すると、コ

ンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていない場合は、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

ジョブ制御と DSIMDEV パラメータのいずれか、または両方をチェックして修正します。ADARES PLCOPY 機能の場合は、ADARES COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。それ以外では、ジョブを再実行します。

DSF083

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ DSIM ior-error-text RABN: dec-rabn (hex-rabn)

説明：

Delta Save Facility がデルタセーブイメージ (DSIM) データセットからブロックを読み込もうとしたとき、I/O エラーが発生しました。ADAIOR エラーテキストが表示されます。影響を受けた DSIM RABN が 10 進 (dec-rabn) および 16 進 (hex-rabn) 形式で示されます。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES では、この ADARES 実行中にプロテクションログからオンラインセーブ情報はいっさい取り出されません。DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていない場合は、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

I/O エラーの原因を探して排除します。DSIM データセットを再作成します。

DSF084

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE DSIM ior-error-text RABN: dec-rabn (hex-rabn)

説明：

Delta Save Facility がデルタセーブイメージ (DSIM) データセットにブロックを書き込もうとしたとき、I/O エラーが発生しました。ADAIOR エラーテキストが表示されます。影響を受けた DSIM RABN が 10 進 (dec-rabn) および 16 進 (hex-rabn) 形式で示されます。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES では、この ADARES 実行中にプロテクションログからオンラインセーブ情報はいっさい取り出されません。DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていない場合は、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

I/O エラーの原因を探して排除します。DSIM データセットを再作成します。

DSF085**ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE DSIM ior-error-text**

説明：

Delta Save Facility がデルタセーブイメージ (DSIM) データセットのクローズを試みたとき、エラーが発生しました。ADAIOR エラーテキストが表示されます。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES の PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

エラーの原因を探して除去します。

DSF086**ERROR OCCURRED WHILE EXECUTING OPEN INPUT SAVE dd-name ior-error-text**

説明：

Delta Save Facility が入力セーブデータセットのオープンを試みたとき、エラーが発生しました。データセットの DD/リンク名および ADAIOR エラーテキストがメッセージに表示されます。ジョブ制御ステートメントが正しくない可能性があります。

機能は異常終了します。

対処：

エラーの原因を探して除去します。ジョブを再実行します。

DSF087**ERROR OCCURRED WHILE EXECUTING READ INPUT SAVE dd-name ior-error-text**

説明：

Delta Save Facility が入力セーブデータセットから読み込もうとしたとき、エラーが発生しました。データセットの DD 名/リンク名および ADAIOR エラーテキストがメッセージに表示されます。

機能は異常終了します。

対処：

エラーの原因を探して除去します。データセットの読み込みが可能になったら、ジョブを再実行します。

DSF088

ERROR OCCURRED WHILE EXECUTING CLOSE INPUT SAVE dd-name ior-error-text

説明：

Delta Save Facility が入力セーブデータセットのクローズを試みたとき、エラーが発生しました。データセットの DD/リンク名および ADAIOR エラーテキストがメッセージに表示されます。

機能は異常終了します。

対処：

エラーの原因を探して除去します。

DSF089

GETMAIN ERROR - NOT ENOUGH VIRTUAL MEMORY

説明：

Delta Save Facility 処理用に十分な仮想メモリを得ることができませんでした。要求したバイト数と取得したバイト数が 10 進と 16 進形式で示されます。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES では、DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

ジョブのパーティション/リージョンを増やします。ADARES PLCOPY 機能の場合は、ADARES COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。それ以外では、ジョブを再実行します。

DSF090

INCORRECT DATABASE VERSION

説明：

Delta Save Facility は、Adabas バージョン 5.3.3 以上のデータベースを必要とします。要求された機能は実行されません。GCB の内部バージョンインジケータが 16 進形式で示されます。

機能は異常終了します。

対処：

Delta Save Facility を使用するには、Adabas バージョン 5.3.3 以上にデータベースを変換します。

DSF091**INCORRECT VERSION OF DLOG AREA**

説明：

DSF ログイン (DLOG) エリアは、Delta Save Facility の互換性のない別のバージョンでインストールされました。内部バージョンインジケータおよび Delta Save Facility ソフトウェアのバージョンが 16 進形式で示されます。

機能は異常終了します。

対処：

互換性のあるバージョンの Delta Save Facility ソフトウェアを使用するか、DLOG エリアを削除して再インストールします。

DSF092**INCORRECT VERSION OF DSIM DATASET**

説明：

デルタセーブイメージ (DSIM) データセットは、別の互換性のないバージョンの Delta Save Facility で作成されました。内部バージョンインジケータおよび Delta Save Facility ソフトウェアのバージョンが 16 進形式で示されます。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES では、DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

互換性のあるバージョンの Delta Save Facility ソフトウェアを使用するか、ADARES COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。

DSF093**ERROR DURING INPUT SAVE TAPE PROCESSING**

説明：

入力セーブデータセットのレコードの処理中にエラーが検出されました。セーブデータセットが正しくない可能性があります。セーブデータセットの DD/リンク名、内部理由コード、およびシリアルブロック番号が 10 進と 16 進形式で表示されます。要求された機能は、完了できません。

機能は異常終了します。

対処：

無効なセーブデータセットの連結がないかチェックし、修正します。必要に応じて、Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSF094

ERROR DURING INPUT SAVE TAPE PROCESSING

説明：

入力セーブデータセットの全レコードの重要な制御情報が矛盾している、あるいは、入力セーブデータセット内のシリアルブロック番号が1ずつ増加する昇順になっていません。セーブデータセットが正しくない可能性があります。セーブデータセットのDD/リンク名がメッセージに表示されます。

機能は完了させることができなくなり、異常終了します。

対処：

無効なセーブデータセットの連結がないかチェックし、修正します。必要に応じて、Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSF095

INTERNAL ERROR DURING PROTECTION LOG PROCESSING

説明：

Delta Save Facility によって処理されるプロテクションログブロックにエラーが検出されました。プロテクションログ番号、ブロック番号およびブロック内のオフセット値、内部理由コードが10進形式で表示され、ブロック番号とオフセット値については16進形式でも表示されます。DSIM データセットは、作成できません。

DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を続けます。正常に終了すると、コンディションコード4がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていない場合は、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

プロテクションログデータセットの指定に誤りがないかチェックし、あれば修正します。必要に応じて、Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSF096

DAMAGED DLOG AREA BLOCK DETECTED

説明：

DSF ロギング (DLOG) エリアに一致しないブロックが検出されました。不良 RABN が10進および16進形式で表示される他、内部理由コードが表示されます。デルタセーブ操作は、完了できません。

デルタセーブ操作は、異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してエラーの原因を探します。DSF ロギングを使用不能にし、DLOG エリアを削除してから再インストールします。フルセーブ操作を実行します。

DSF097**DAMAGED DSIM BLOCK DETECTED**

説明：

デルタセーブイメージ (DSIM) データセットに一致しないブロックが検出されました。不良 RABN が 10 進および 16 進形式で表示される他、内部理由コードが表示されます。要求された Delta Save Facility 機能は、完了できません。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES では、DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してエラーの原因を探します。ADARES COPY 機能を使って DSIM データセットを再作成します。

DSF098**DAMAGED DLOG EXTENSION BLOCK DETECTED**

説明：

DSF ロギング (DLOG) エリアのファイル指定拡張に不整合ブロックがありました。ファイル番号、不整合ブロックの RABN、および内部理由コードが表示されます。デルタセーブ操作は行えません。

デルタセーブ操作は、異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してエラーの原因を探します。問題のファイルをセーブし、リストアまたはリオーダします。その後、デルタセーブ操作を再実行します。

DSF099**DSF INTERNAL ERROR AT module + offset TRACE: trace-info**

R0-R3 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

R4-R7 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

R8-R11 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

R12-R15 xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx

説明：

指定されたモジュールの、指定されたオフセットで内部エラーが発生しました。内部トレース情報およびエラー発生時のレジスタ設定が表示されます。要求された Delta Save Facility 機能は、完了できません。

ADASAV の機能は異常終了します。ADARES では、DSIM データセットの作成が中断されます。PLCOPY または COPY 機能は処理を継続します。正常に終了すると、コンディションコード 4 がセットされます。COPY 機能に対して出力データセットが指定されていなければ、後続の ADARES エラーによって異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してエラーの原因を探します。

24 DSP* - クラスタデータスペース (ADADSP) メッセージ

ADADSP メッセージは Adabas Parallel Services のみに適用されます。

次のすべてのメッセージは、最初にシステムログに出力され、その後、クラスタデータスペースのメッセージ出力用に自動作成される `Dssaaaa` データセット (`ss` は SVC 番号の最後の 2 桁、`aaaa` は DBID) に出力されます。

各メッセージの先頭は、`hh:mm:ss` 形式のタイムスタンプであり、その後にメッセージ番号とテキストが付加されます。

DSP001

INITIALIZING DBID={dbid} [SVC={svc}] [IDTNAME={idtname}]

説明：

ADACOM では、続けて開始されることのある Adabas Parallel Services クラスタデータベースの処理に備えて、ADADSP サブタスクを初期化しています。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

DSP002

DATA SPACE ACQUISITION AUTHORITY ACQUIRED

DSP002

DATA SPACE ACQUISITION HANDLED BY JOB jobname

説明：

データスペース取得権限は開始する最初の ADACOM に与えられて、その ADACOM ジョブの名前が表示されます。同じ DBID を管理するために設定された後続の ADACOM は、それらがすでに割り当てられたので、データスペースを割り当てる権限を与えられません。

DSP003

DATA SPACE BEING ALLOCATED IS { CACHE | LOCK | MESSAGE }

DSP003

NAME IS data-space-name

DSP003

{ SIZE IN DECIMAL BYTES: number-of-bytes | NOT ALLOCATED - LENGTH IS ZERO
| NOT ALLOCATED - SIZE IS LESS THAN 4096 BYTES }

DSP003

{ FUNCTION COMPLETED NORMALLY | DATA SPACES ALREADY ALLOCATED }

DSP003

DATASPACE MAY ALREADY EXIST, ATTEMPTING DELETE

説明：

ADACOMは、指定された名前と指定されたサイズで指定されたタイプ（キャッシュ、ロック、またはメッセージ）のデータスペースを割り当てています。データスペースは、有効なサイズが提供された場合のみ割り当てられます。ADARUN CLUCACHESIZE および CLULOCKSIZE パラメータを参照してください。

オペレーティングシステムは 10 進数の 4096 バイト未満のサイズのデータスペースを許可しません（内部エラー）。割り当てパラメータが有効であれば、最初のクラスタニュークリアスが始まる時にデータスペースは割り当てられます。いったんデータスペースがクラスタに割り当てられると、後続のクラスタニュークリアスが始まる時、それらは再割り当てされません。

Adabas Parallel Services クラスタのメンバの最初のニュークリアスがデータスペースを割り当てようとする場合に、データスペースがすでに存在していることがあります。このデータスペースは、以前のabendによりリカバリが失敗した結果生じた可能性があります。削除しようとするときにDSP005メッセージが生成されます。次に、割り当てが再試行されます。

対処：

サイズエラーを受け取った場合、ADARUN パラメータを検討し、エラーを修正してからADACOMを再スタートしてください。他のすべてのメッセージは情報のためのものであって、対処は必要としません。

DSP004

UNABLE TO DELETE/EXIT - NUCS UP

DSP004

CHECKING EVERY 5 SECONDS

DSP004

NEXT MESSAGE IN 5 MINUTES

説明：

このメッセージは、ADACOMのADADSPサブタスクが終了することを要求されているか、または Adabas Parallel Services クラスタの共有データスペースの削除が要求されているもの

の、1つ以上のクラスタニュークリアスがアクティブである場合に出力されます。ADADSP サブタスクは、関連する DBID/SVC (または DBID/IDTNAME) の組み合わせに対して ADAEND コマンドが ADACOM に発行されたときに終了します。

対処:

最後のクラスタニュークリアスが終了するとき、ADACOMは自動的に停止します。そうでなければ、それを終了する CANCEL コマンドを発行してください。

関連するデータベースで Adabas Parallel Services ニュークリアスがアクティブな間に ADACOMがキャンセルされると、これらのニュークリアスによってプログラムチェックが発生し、異常終了することがあります。したがって、ADACOMは、有効な Adabas Parallel Services ニュークリアスに対するデータスペースを含む ADADSP サブタスクがなく、Adabas Parallel Services クラスタを破損させることがない場合にのみキャンセルできます。

DSP005

DATASPACE BEING DELETED IS data-space-name

DSP005

{ FUNCTION COMPLETED NORMALLY | ERROR: ABEND CODE abend-code, REASON CODE reason-code | ERROR: RETURN CODE ret-code, REASON CODE reason-code }

説明:

指定されたクラスタデータスペースは削除されています。削除は正常終了するか、または IBM エラーコードと理由コードが返されます。

対処:

データスペースが正常に削除された場合は対処は必要ありません。IBMエラーコードと理由コードが返された場合、指定されたエラーを確認して、修正するために、IBMマニュアルを参照してください。

DSP006

UNABLE TO SECURE PROCESS TOKEN

説明:

ADACOMのADADSPサブタスクでは、Adabas Parallel Services ニュークリアスとADADSPの通信に必要な独自のプロセストークンの取得に失敗しました。ADADSPサブタスクは異常終了します。関連するデータベースのAdabas Parallel Services ニュークリアスを起動できません。

対処:

Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSP007

LENGTH OF PROCESS TOKEN TOO LONG

説明：

ADACOM の ADADSP サブタスクのプロセストークンは無効です。ADADSP サブタスクは異常終了します。関連するデータベースの Adabas Parallel Services ニュークリアスを起動できません。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSP008

UNABLE TO OPEN OUTPUT DATASET

説明：

ADACOM の ADADSP サブタスクでは、メッセージ出力データセットをオープンすることに失敗しました。データセットの DD 名またはリンク名は、z/OS および z/VSE 環境では *Dssdddd*、BS2000 環境では *Diidddd* です。*ss* は SVC 番号の最後の 2 桁を、*ii* は IDT 名の 4 番目および空白以外の最後の文字を、*dddd* はデータベース ID を表します。

ADADSP で実行は続行されますが、メッセージはコンソールへのみ書き込まれます。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSP010

S64 OBJECT BEING ALLOCATED IS { CACHE | LOCK | MESSAGE}

DSP010

S64 OBJECT MAY ALREADY EXIST AT address

DSP010

ATTEMPTING DELETE

DSP010

ALLOCATION TOKEN IS token

DSP010

REQUESTED SIZE IN MB (ROUNDED) IS size

DSP010

FUNCTION COMPLETED NORMALLY

DSP010

ADDRESS IS address

DSP010

ERROR: RETURN CODE 12, REASON CODE zOS-return-code zOS-reason-code

DSP010

ERROR: ABEND CODE system-code, REASON CODE reason-code

説明：

この一連のメッセージは、指定されたタイプの共有64ビットアドレス可能メモリオブジェクトの割り当ての経過を示しています。割り当てが成功した場合、オブジェクトのアドレスが表示されます。ADAIORがリターンコード12をレポートした場合、z/OSのリターンコードおよび理由コードが表示されます。要求がアベンドした場合、システムコードおよび理由コードが表示されます。

Adabas Parallel Services クラスタのメンバの最初のニュークリアスがS64オブジェクトを割り当てようとする場合に、S64オブジェクトがすでに存在していることがあります。このオブジェクトは、以前のアベンドによりリカバリが失敗した結果生じた可能性があります。削除しようとするときにDSP011メッセージが生成されます。次に、割り当てが再試行されず。

対処：

要求が失敗した場合、IBMのマニュアルで説明されているz/OS IARV64アベンドコード、リターンコード、および理由コードを調べてください。原因が不明の場合は、Software AG技術サポートに連絡してください。

DSP011

S64 OBJECT BEING DELETED IS { CACHE | LOCK | MESSAGE }

DSP011

S64 OBJECT MAY ALREADY EXIST AT address

DSP011

ALLOCATION TOKEN IS token

DSP011

ACTUAL SIZE IN MB IS size

DSP011

ADDRESS IS address

DSP011

FUNCTION COMPLETED NORMALLY

DSP011

ERROR: RETURN CODE 12, REASON CODE zOS-return-code z/OS-reason-code

DSP011

ERROR: ABEND CODE system-code, REASON CODE reason-code

説明：

この一連のメッセージは、指定されたタイプの共有64ビットアドレス可能メモリオブジェクトの削除の経過を示しています。ADAIORがリターンコード12をレポートした場合、z/OSのリターンコードおよび理由コードが表示されます。要求がアベンドした場合、システムコードおよび理由コードが表示されます。

特に、何が削除されるかは、z/OSシステムと密接な関係があります。z/OS S64メモリオブジェクトは、ローカルアフィニティが削除されるまで、実際に削除されません。ローカルア

フィニティは、Parallel Services ニュークリアスがそのアドレススペース内で S64 オブジェクトと接続を確立したときに作成されます。ローカルアフィニティは、ニュークリアスの終了時に削除されます。

対処：

要求が失敗した場合、IBM のマニュアルで説明されている z/OS IARV64 アベンドコード、リターンコード、および理由コードを調べてください。原因が不明の場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

DSP099

SVC=svc, DBID=dbid FUNCTION EXITING

説明：

指定された Adabas Parallel Services クラスタは終了しています。

25 PLI* - ADACOM 初期化メッセージ

ADACOM メッセージは Adabas ニュークリアスクラスタ環境だけに適用されます。

すべての PLInnn メッセージはコンソールに出力されます。0~49 の範囲のメッセージは、特定の SVC/DBID 設定に付加された ADACOT モジュールによって発行され、その特定のモジュールのためにダイナミックに割り当てられる SYSOUT データセットに送られます。50 以上のメッセージは、ADACOM によって発行され、COMPRINT データセットに書き込まれます。各メッセージは、hh:mm:ss 形式のタイムスタンプで始まります。

次のメッセージグループについて説明します。

ADACOT によって発行され、独自データセットに書き込まれるメッセージ (PLI002~PLI049)

PLI002

INITIALIZING DBID={dbid} SVC={svc message(s)}

説明：

このメッセージは、そのデータベース ID と SVC 設定によって初期化している ADACOM を表します。1 つ以上の関連初期化メッセージ (複数可) が続きます。次の PLI002 メッセージをチェックしてください。

メッセージテキスト	説明
ACQUIRING NEW PLXCB	Adabas クラスタコントロールブロック (PLXCB) が現在存在しないことを確認したため、ADACOM は新しいものを取得しようとしています。
CANNOT CHANGE NUMBER OF USERS NOW THERE ARE NUCS/ADACOMS ACTIVE	クラスタがアクティブになる (ニュークリアスまたは ADACOM が開始する) か、またはユーザーがクラスタデータベースにコマンドを発行すると、NU パラメータは設定され、クラスタ全体の停止、パラメータ値の変更、および再スタートしなければ変更することはできません。

メッセージテキスト	説明
	NUパラメータ値を変更する必要がある場合は、すべてのクラスタニュークリアス、ADACOM、およびユーザーを終了して、再スタートしてください。
FREEING OLD PLXCB	NUパラメータ値が変更されています。古い環境は解放されています。
GETMAIN FAILED FOR PLXCB	新しい Adabas クラスタコントロールブロック (PLXCB) のための GETMAIN スペースを取得しようとして失敗しました。クラスタニュークリアスまたは ADACOM タスクのどちらが開始しようとしても、異常終了 (ABEND) します。 PLXCB を開始し、ジョブを再サブミットするために有効なスペースが十分あることを確認してください。
MAX USERS FOR IMAGE <i>number-of-users</i>	オペレーティングシステムイメージに許可された最大ユーザー数 (NU) を表示します。
PLXCB IS LOCATED AT <i>address</i>	PLXCB の位置 (新規または既存) が提供されます。
PROCESSED NU=0 REQUEST	システムは NU=0 パラメータを処理しました。古い環境は解放されました。

PLI003

SVC={svc} DBID={dbid} OPERATOR COMMAND: {command}

説明：

発行されたばかりのオペレータコマンドと発行される SVC/DBID 結合を確認します。

PLI004

{imagename} NUCID={nucid} UP={x} LO={y} RO={z} #USERS={n} #CMNDS={n} LURA={n} RULA={n}

PLI004

{jobname}{ nucid x y z n..... n.....}

説明：

このメッセージは、指定されたイメージ (ローカルイメージ) にあるクラスタニュークリアスのステータスを表示します。次の表はこのメッセージの構成要素です。

メッセージの構成要素	説明
<i>imagename</i>	ローカルイメージの名前です。
NUCID= <i>nucid</i>	ユニークなクラスタニュークリアス ID です。
UP= <i>x</i>	指定されたニュークリアスが通常な処理に利用可能かどうか (Y または N) を示します。
LO= <i>y</i>	指定されたニュークリアスがローカルイメージでオープンされている (Y) か、またはローカルイメージでクローズされている (N) かを示します。

メッセージの構成要素	説明
RO=z	指定されたニュークリアスがリモートイメージにない (N) ことを示します。
#USERS=n	指定されたニュークリアスに対して割り当てられて現在アクティブなユーザー数です。
#CMNDS=n	現在完了していないコマンドの数です。
LURA=n	ローカルイメージにリモートに割り当てられたユーザーの数です。
RULA=n	リモートイメージにローカルに割り当てられたユーザーの数です。
jobname	ADACOM ジョブまたは開始されたタスクの名前です。

PLI005

**** IMAGE HAS NO ACTIVE NUCS ****

説明：

ローカルイメージで表示するアクティブなクラスタニュークリアスがないとき、このメッセージは DIM または DN コマンドに対する PLI004 に続きます。

PLI006

*** LOCAL NETWORK DOWN - NO REMOTE INFORMATION ***

説明：

ローカルの Entire Net-Work がアクティブでないためにリモートイメージに関する情報を使用できない場合は、このメッセージが DIM コマンドに対する PLI004 の後に表示されます。

対処：

リモートイメージでクラスタニュークリアスに関する情報を取得するには、ローカルの Entire Net-Work を再度アクティブにする必要があります。

PLI007

**{imagename} NUCID={nucid} UP={x} LO={y} RO={z} #USERS={n} #CMNDS={n} LURA={n}
RULA={n}**

PLI007

{jobname nucid x y z n..... n.....}

説明：

このメッセージは、指定されたイメージ（リモートイメージ）にあるクラスタニュークリアスのステータスを表示します。次の表はこのメッセージの構成要素です。

メッセージの構成要素	説明
<i>imagename</i>	リモートイメージの名前です。
NUCID= <i>nucid</i>	ユニークなクラスタニュークリアス ID です。
UP= <i>x</i>	指定されたニュークリアスを新規ユーザーが利用できるかどうか（Y または N）を示します。
LO= <i>y</i>	指定されたニュークリアスがローカルイメージにないことを示します（**）。
RO= <i>z</i>	リモートイメージの指定されたニュークリアスが、ローカル使用のためだけにローカルにオープンされている（LN）、グローバル使用のためにリモートにオープンされている（NG）、LN と NG の両方、またはローカル使用のためにはオープンされていない（NN）ことを示します。
#USERS= <i>n</i>	指定されたニュークリアスに対して割り当てられて現在アクティブなユーザー数です。
#CMNDS= <i>n</i>	現在完了していないコマンドの数です。
LURA= <i>n</i>	ローカルイメージにリモートに割り当てられたユーザーの数です。
RULA= <i>n</i>	リモートイメージにローカルに割り当てられたユーザーの数です。
<i>jobname</i>	ADACOM ジョブまたは開始されたタスクの名前です。

PLI008

NO NUCS UP OR REMOTE NETWORK DOWN

説明：

リモートイメージから情報が入手可能でないときに、このメッセージは DIM コマンドに対する PLI007 に続きます。リモートイメージにアクティブなニュークリアスがないか、またはリモートの Entire Net-Work がアクティブではありません。

PLI009

INVALID COMMAND : *

説明：

入力されたコマンドは有効な ADACOM コマンドではありません。このメッセージは、無効なコマンドが入力されたときに表示される PLI060 に続きます。

対処：

使用されたコマンドをチェックし、有効な ADACOM コマンドを再入力してください。

PLI010**COMMAND EXECUTED**

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続いて表示され、PLI060 で指定されたパラメータでの SN コマンドが正常に実行されたことを示します。

PLI012**{module} LOAD FAILED - EXITING**

説明：

メッセージに表示されるモジュール (*module*) をロードできませんでした。影響を受けるタスクは異常終了します。

対処：

メッセージに示されたモジュールがロードライブラリ連結で利用可能であることを確認します。エラーを解決できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI013**UNABLE TO SET TIMER - EXITING**

説明：

STIMERMを実行している間に内部エラーが発生しました。影響を受ける ADACOT モジュールは異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI015**WORK AREA GETMAIN FAILED**

説明：

ADACOT ワークエリアのためのスペース割り当てに失敗しました。影響を受ける SVC/DBID 結合は異常終了します。

対処：

リージョンサイズを増やしてください。

PLI016**IDTH PREFIX IS NOT VALID**

説明：

内部エラーが発生しました。IDTHPRFX が無効です。影響を受ける ADACOT モジュールは異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI017

NUMBER OF IDTE ENTRIES IS ZERO

説明：

内部エラーが発生しました。IDTHが無効です。影響を受ける ADACOT モジュールは異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI018

ADACOT INITIALIZATION FAILED

説明：

初期化中に PLXINIT モジュールにエラーが発生しました。影響を受ける ADACOT モジュールは異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI019

GET IDTH FAILED

説明：

ADACOT は IDTH のアドレスを取得できませんでした。影響を受ける ADACOT モジュールは異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI020

SVC=svc DBID=dbid FUNCTION EXITING

説明：

SVC/DBID 結合が何らかの理由で終了するときに、このメッセージが表示されます。

PLI021

NETWORK DETECTED DOWN

説明：

ADACOM によって、ローカルの Entire Net-Work がアクティブではないことが検出されました。

PLI022**NETWORK DETECTED UP**

説明：

ADACOMによって、ローカルの Entire Net-Work がアクティブであることが検出されました。

PLI023**NO PARMS ALLOWED FOR "DN"**

説明：

ADACOM コマンド DN を発行するときにパラメータが指定されました。DN コマンドにパラメータは許可されていません。このメッセージは、発行されたコマンドとパラメータを示す PLI060 に続きます。

対処：

パラメータ（複数可）を削除して、再度 DN を発行してください。

PLI024**INVALID SYSTEM NAME**

説明：

DIM コマンドにより、パラメータとしてオプションでイメージ名を供給することが可能です。DIM コマンドはパラメータ値付きで発行されましたが、供給された値は有効なイメージ名ではありません。このメッセージは、発行されたコマンドとパラメータを示す PLI060 に続きます。

対処：

有効なイメージ名を供給して、再度 DIM を発行してください。

PLI025*** REMOTE IMAGES NOT DETECTED ***

説明：

このメッセージは、パラメータのない DIM コマンドに対する PLI060 と PLI004 に続き、ADACOM がリモートイメージの存在を検出しないことを示します。

PLI026**REMOTE IMAGE(S) NOT DETECTED**

説明：

このメッセージは、有効なイメージ名パラメータ付きの DIM コマンドに対する PLI060 に続き、指定されたイメージがローカルではなく、ADACOM が指定された名前のリモートイメージの存在を検出しないことを示します。

PLI027

CMDMGR=NO SPECIFIED

説明：

CMDMGR=NO が ADACOM で指定されました。環境設定後に ADACOM は静止します。

PLI030

INVALID NUC SPECIFICATION

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続き、指定されたニュークリアス ID が有効でないことを示します。

対処：

有効なニュークリアス ID を指定して、再度コマンドを発行してください。

PLI031

COMMAND MUST SPECIFY "OP/CL"

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続き、必要なパラメータ OP/CL が指定されなかったことを示します。

対処：

必要なパラメータを指定して、再度コマンドを発行してください。

PLI032

TOO MANY PARAMETERS

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続き、1つ以上のリモートニュークリアスをオープンまたはクローズするとき指定されたパラメータが多すぎたことを示します。リモートニュークリアスは常にローカルユーザーにだけオープンされます。

対処：

誤ったパラメータ（複数可）を削除して、再度コマンドを発行してください。

PLI034

LOCAL NUC(S) NOT FOUND

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続き、指定されたローカルニュークリアスがローカルイメージで見つからなかったことを示します。LCLALL がコマンドで使われた場合、クラスタニュークリアスはローカルイメージで見つかりませんでした。

PLI035**"ALL" NOT VALID FOR "OP/CL"**

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続きます。 ALL は有効なパラメータではありません。すべてのローカルニュークリアス (LCLALL) またはすべてのリモートニュークリアス (RMTALL) をオープンまたはクローズするかどうかを指定しなければなりません。同時にすべてのイメージのすべてのクラスタニュークリアスをオープンまたはクローズすることはできません。ただし、指定されたリモートイメージの指定されたニュークリアスまたは全ニュークリアスをオープンすることはできます。

対処：

必要なパラメータを指定して、再度コマンドを発行してください。

PLI036**TOO FEW PARAMETERS - NEED "LCL/GBL"**

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続きます。ローカルイメージのニュークリアスをオープンまたはクローズするとき、それらをローカルユーザーにだけオープンするか (LCL)、またはすべてのクラスタユーザー (GBL) にオープンするかを指定する必要があります。

対処：

必要な情報を指定して、再度コマンドを発行してください。

PLI038**ONLY "LCL" OR "GBL" AFTER "OP/CL"**

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続きます。ローカルイメージのニュークリアスをオープンまたはクローズするときの選択肢は、ローカルユーザーにだけオープンするか (LCL)、またはすべてのクラスタユーザーにオープンするか (GBL) の 2 つだけです。他のオプションは許されません。

対処：

LCL または GBL を指定して、再度コマンドを発行してください。

PLI039**REMOTE NUC(S) NOT FOUND**

説明：

このメッセージは SN コマンドに対する PLI060 に続き、指定されたリモートニュークリアスがどのリモートイメージでも見つからなかったことを示します。リモートイメージが指定されている場合、クラスタニュークリアスはそのイメージで見つかりませんでした。コマンドで RMTALL が使用された場合、クラスタニュークリアスはどのリモートイメージでも見つかりませんでした。

PLI040

CANNOT EXIT NOW - DATASPACE ARE ALLOCATED

説明：

アクティブデータスペースを持つアクティブな Adabas Parallel Services ニュークリアスが存在します。

対処：

すべての Adabas Parallel Services ニュークリアスを終了してから再試行してください。

PLI041

VALID PARMS: PLXCP, PLXNUC, PLXMAP, IDTE, FIIBS, PLXUSER, CLUDSP, IDTH, IDTHPREFIX

説明：

DUMP オペレータコマンドが、メッセージに示された有効なオペランド以外のオペランドとともに入力されました。

対処：

正しいオペランドを使用してコマンドを再発行してください。

PLI042

{message-text}

説明：

さまざまなメッセージテキストがこのメッセージ番号に関連付けられています。それぞれについては次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明
ONLY N=X, WHERE X IS PREFIX, IS VALID	DUMP PLXUSER コマンドが無効なオペランドとともに入力されました。 対処：正しいオペランドを指定してコマンドを再発行してください。
THE PREFIX IS MISSING OR NOW "=" SPECIFIED	DUMP PLXUSER コマンドが無効な構文で、または無効なオペランドとともに入力されました。 対処：正しいオペランドを指定してコマンドを再発行してください。
THERE ARE NO ACTIVE USERS AT THIS TIME	DUMP PLXUSER コマンドが入力されましたリストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。
THERE ARE NO ACTIVE IDTES AT THIS TIME	DUMP IDTE コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。

メッセージテキスト	説明
EXTENDED STORAGE IIBS ARE NOT IN USE	DUMP FIIBS コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。
EXTENDED STORAGE BUT FAT IIBS NOT IN USE	DUMP FIIBS コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。
NO FIIBS IN USE AT THIS TIME	DUMP FIIBS コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。
THERE ARE NO VALID MAPS AT THIS TIME	DUMPPLXMAP コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。
THERE ARE NO ACTIVE ENTRIES	DUMP IDTHPRFX コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。
THERE ARE NO ACTIVE NUCS AT THIS TIME	DUMPPLXNUC コマンドが入力されました。リストの対象となるデータがありません。 対処：このメッセージは情報の通知のみが目的であり、対処は必要ありません。

PLI048**UNABLE TO DEQ {resource}**

説明：

内部エラーが発生しました。ADACOT はメッセージに示されたリソースのシリアライゼーションを解放できませんでした。影響を受ける ADACOT モジュールは異常終了します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI049

RSP {rsp/node-subcode} FROM {target} {system}

説明：

Adabas Cluster Services (ALS) に参加している他のオペレーティングシステムイメージ上の PLXCB 構造を更新する試みが実行されました。メッセージに表示されるレスポンスコード (*rsp*) およびサブコード (*subcode*) は、予期しない状態が発生したことを示しています。Entire Net-Work がリモートシステムに接続されていない場合、またはリモートシステムの PLXCB 構造に問題がある場合は、Entire Net-Work ノード ID (*node*) もメッセージに表示されることがあります。

対処：

レスポンスコードの理由が明らかでなく、その分析によってエラーを解決できない場合は、Software AG の技術サポートに連絡してください。

ADACOMによって発行され、COMPRINT データセットに書き込まれるメッセージ (PLI050 ~PLI079)

PLI050

INITIALIZING ADACOM

説明：

これは ADACOM が開始するときに出力される最初のメッセージです。

PLI052

COMMANDS WILL GO TO SVC=svc,DBID=dbid

説明：

SVC/DBID 結合を変更するために MODIFY コマンドが発行されました。この SVC/DBID 結合は MODIFY コマンドに続くすべてを受け取ります。

PLI053

REMAINDER OF INPUT LINE IGNORED

説明：

SVC/DBID 結合にコンマが続かないとき、SVC=svc,DBID=dbid の終わりに文字が検出されました。SVC=svc と DBID=dbid は任意の順番でよいことに注意してください。

PLI054

DUPLICATE SVC= OR DBID=

説明：

コマンドの SVC/DBID 結合を変更するために、MODIFY コマンドが複数の SVC= または DBID= を指定して発行されました。

対処：

1つの SVC/DBID パラメータだけを設定してコマンドを再発行してください。

PLI055**INVALID SVC OR DBID NUMBER**

説明：

コマンドの SVC/DBID 結合を変更するために、MODIFY コマンドが非数字、無効、または SVC や DBID 番号の範囲外で発行されました。

対処：

有効な SVC/DBID パラメータを設定してコマンドを再発行してください。

PLI056**INVALID CHARACTER IN COMMAND**

説明：

コマンドの SVC/DBID 結合を変更するために、MODIFY コマンドが発行されましたが、SVC=svc と DBID=dbid の間にコンマがありません。

対処：

フォーマットを修正して、コマンドを再発行してください。

PLI057**DBID= OR SVC= MISSING**

説明：

コマンドの SVC/DBID 結合を変更するために、MODIFY コマンドが発行されましたが、SVC= または DBID= がありません。

対処：

必要なパラメータを加えて、コマンドを再発行してください。

PLI058**SVC/DBID PAIR NOT ACTIVE IN THIS ADACOM**

説明：

コマンドの SVC/DBID 結合を変更するために、MODIFY コマンドが発行されましたが、入力ストリームに SVC/DBID ペアが指定されませんでした。

対処：

必要なパラメータを指定して、コマンドを再発行してください。

PLI059**SVC/DBID PAIR PROCESSING HAS ENDED**

説明：

コマンドの SVC/DBID 結合を変更するために、MODIFY コマンドが発行されましたが、SVC/DBID ペア処理は NU=0 またはアベンドで終了しました。

対処：

問題を確定して、修正することができない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI060

SVC=svc DBID=dbid OPERATOR COMMAND : command

説明：

このメッセージは、SVC と DBID で識別される、指定されたコマンドが ADACOM から発行されたことを示します。

PLI062

COMMAND QUEUED

説明：

コマンドは実行のためにキューイングされます。コマンドの結果は、コマンドの発行先の SVC/DBID 結合の出力データセットに出力されます。

PLI063

PROCESSING: ADACOM SVC=svc,DBID=dbid,NU=users text

説明：

DDKARTE から各入力行の初期化中に発行されました。行のテキストはコロンの右に表示されます。

テキスト	説明
INITIALIZATION COMPLETE	NU が 0 ではなくて、SVC/DBID ペアの起動が成功した場合、PLI063 のテキストとして発行されます。
PROCESSING ENDED NORMALLY	NU=0 が指定されて、PLXCB が正常に処理された場合、PLI063 のテキストとして発行されます。
PROCESSING ENDED WITH ERRORS	初期化プロセスが SVC/DBID ペアのエラーに遭遇すると、PLI063 のテキストとして発行されます。エラーには、対応する SYSOUT データセットの割り当てに関する問題が示される場合があります。他のペアの初期化は続行します。

対処：

SVC/DBID パラメータ設定の問題を確定して、修正することができない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI064**ADACOM EXITING**

説明：

これは、ADAEND コマンドまたはエラー状況の結果として ADACOM ジョブが終了するときに出力された最後のメッセージです。

PLI065**INITIALIZATION COMPLETE FOR ALL DBID/SVC PAIRS**

説明：

ADACOM は、指定されたすべての DBID/SVC ペアを初期化しました。各ペアの初期化のステータスは、先行する PLI063 メッセージを参照してください。

対処：

この情報メッセージには対処は必要ありません。

PLI068**UNRECOGNIZED PARAMETER**

説明：

初期化中、DDKARTE からの入力を処理しているとき、認識されていないパラメータがカードにありました。ADACOM はアベンドします。

対処：

DDKARTE パラメータをチェックしてください。問題を確定して、修正することができない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI069**DUPLICATE PARAMETER**

説明：

DDKARTE からの入力を処理して、重複パラメータエントリが確認されると、初期化で発行されます。ADACOM はアベンドします。

対処：

パラメータエントリを修正して、ジョブを再実行してください。

PLI070**INVALID NUMERIC**

説明：

SVC または DBID 番号が無効と認識されるときに初期化で発行されます。ADACOM はアベンドします。

対処：

パラメータエントリを修正して、ジョブを再実行してください。

PLI071

SVC OR DBID NOT SPECIFIED

説明：

SVC または DBID 番号が無効と認識されるときに初期化で発行されます。ADACOM はアベンドします。

対処：

パラメータエントリを修正して、ジョブを再実行してください。

PLI072

IDTH NOT FOUND

説明：

初期化中、必要な IDTH コントロールブロックを見つけることができないときに発行されます。ADACOM はアベンドします。

対処：

問題を確定して、修正することができない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI073

NUMBER OF IDTES IS ZERO

説明：

初期化中、IDTH に指定された IDTE の数が 0 の場合に発行されます。ADACOM はアベンドします。

対処：

問題を確定して、修正することができない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI074

DUPLICATE SVC/DBID COMBO

説明：

初期化中、DDKARTE からの 2 つの入力カードが同じ SVC/DBID 結合を指定した場合に発行されます。ADACOM はアベンドします。

対処：

パラメータエントリを修正して、ジョブを再実行してください。

PLI076**INPUT MUST BEGIN WITH "ADACOM"**

説明：

初期化中、DDKARTE からの入力カードが少なくとも 1 つのスペースが続く ADACOM で始まっていません。ADACOM はアベンドします。

対処：

パラメータエントリのフォーマットを修正して、ジョブを再実行してください。

PLI077**ADACOM IS SHUTTING DOWN [SVC=svc,DBID=dbid ADACOM PROCESSING COMPLETE]**

説明：

ADAEND コマンドまたは順序正しいシャットダウンを引き起こす内部エラーの結果として発行されます。角カッコ内のメッセージの一部は、SVC/DBID 結合が処理を終了したときに発行されます。

対処：

問題を確定して、修正することができない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI078**PREVIOUS TASK HAS NOT ENDED**

説明：

起動 JCL に SVC/DBID 結合が重複しています。ADACOM はアベンドします。

対処：

JCL を修正して、再実行してください。

PLI079**ERROR OBTAINING { CLUCONB | CLUDSPB }**

説明：

このメッセージは、起動時（ADACOM のアベンド）または SVC/DBID 結合をダイナミックに追加する間（システムは実行を継続する）の GETMAIN 障害を示します。

対処：

起動時、リージョンサイズを増やして再実行してください。SVC/DBID 結合をダイナミックに追加するときは ADACOM を終了し、リージョンサイズを増やして再実行するか、2 番目の ADACOM を開始してください。

PLI080

UID MISMATCH FREEING PLXUSER/UTE {address} UID {uid1} UTE {uid2}

説明：

ADACOMは、PLXUSER (UTE) を解放しようとしたときに、予期するユーザー ID 文字列を見つけませんでした。

対処：

UTE 値がすべてゼロの場合、UTE はすでに解放されています。この状況は、CL コマンドの発行により、z/OS ESTAE などのエラーリカバリルーチンがクリーンアップを試みたときに発生することがあります。Natural のエラーリカバリで、この処理が行われる可能性があり、特に Natural プログラムがキャンセルされたときに、この可能性が高くなります。これが当てはまらない場合、または UTE がゼロ以外の場合は内部論理エラーです。Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLI090

NOT APF AUTHORIZED - EXITING

説明：

ADACOM の実行には、z/OS の APF 認可が必要です。

対処：

すべてのロードライブラリが APF 認可済みであることを確認してから再実行してください。

PLI910

UNABLE TO DETERMINE NET-WORK DBID TARGET HOLDER

説明：

ネットワーク内に、ネットワークターゲットとして DBID を保持しているイメージがなく、このニュークリアスはイメージの作成に失敗しました。これはエラー状態を表します。イメージにアクティブなニュークリアスおよびアクティブな ADACOM1 がない場合、ユーザーがコマンドを発行すると、レスポンス 148 が返されます。

対処：

ネットワーク上の別のノードを起動するか、既存のノードをシャットダウンして再起動して、問題が解決するか確認してください。問題が継続して発生する場合は、Software AG 顧客サポートに連絡してください。

PLI920

NET-WORK DBID TARGET HELD BY {image-system-name}

説明：

システム名によりメッセージ内で識別されるリモートイメージは、DBID をネットワークターゲットとして保持しています。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLI930

NET-WORK DBID TARGET OWNED ON THIS IMAGE

説明：

このニュークリアスがアクティブなイメージは、DBID をネットワークターゲットとして保持しています。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

26 PLX* - ADACLU メッセージ

ADACLU メッセージは Adabas ニュークリアスクラスタ環境だけに適用されます。

次のすべてのメッセージはコンソールに出力されて、DD/PRINT データセットに書かれます。

各メッセージは、hh:mm:ss 形式のタイムスタンプおよびジョブ名で始まります。

dbid および nucid は先行ゼロの 5 桁の数字として示されます。

PLX001

{dbid} ACQUIRING NEW PLXCB

説明：

Adabas クラスタコントロールブロック (PLXCB) が現在存在しないものと判断し、システムは新しいものを取得しようとしています。

PLX002

{dbid} GETMAIN FAILED FOR PLXCB

説明：

新しい Adabas クラスタコントロールブロック (PLXCB) のための GETMAIN スペースを取得しようとして失敗しました。クラスタニュークリアスまたは ADACOM タスクのどちらが開始しようとしても、異常終了 (ABEND) します。

対処：

PLXCB を開始し、ジョブを再サブミットするために有効なスペースが十分あることを確認してください。

PLX003

{dbid} CANNOT CHANGE NUMBER OF USERS NOW

PLX003

{dbid} CANNOT FREE PLXCB AT THIS TIME

PLX003

{dbid} THERE ARE ACTIVE NUCS/ADACOMS

説明：

クラスタがアクティブになる（ニュークリアスまたは ADACOM が開始する）か、またはユーザーがクラスタデータベースにコマンドを発行すると、NU パラメータは設定され、クラスタ全体の停止、パラメータ値の変更、および再スタートしなければ変更することはできません。

対処：

NU パラメータ値を変更する必要がある場合は、すべてのクラスタニュークリアス、ADACOM、およびユーザーを終了して、再スタートしてください。

PLX004

{dbid} FREEING OLD PLXCB

説明：

NU パラメータ値が変更されています。古い環境は解放されています。

PLX005

{dbid} PROCESSED NU=0 REQUEST

説明：

システムは NU=0 パラメータを処理しました。古い環境は解放されました。

PLX006

{dbid} PLXCB VERSION IS {vrs}

PLX006

{dbid} {program} PROGRAM LEVEL IS {vrs}

PLX006

{dbid} FORCE=YES DETECTED - INITIALIZATION CONTINUES

PLX006

{dbid} THIS SVC/DBID COMBINATION WILL TERMINATE

説明：

これらのメッセージは、PLXCB のフォーマットが、その PLXCB を使用しようとしたプログラムとは異なる場合に出力されます。プログラムレベルと、ニュークリアスか ADACOM がアクティブでないときに存在し続ける永続的に割り当てられた PLXCB との間の整合性を確認します。

PLX007**{dbid} MAX USERS FOR IMAGE {number-of-users}****PLX007****{dbid} PLXCB LOCATED AT {address}**

説明：

Adabas クラスタコントロールブロック (PLXCB) はメッセージに示されたアドレスに存在し、ユーザー数に対して十分なエントリを含んでいます。

PLX043**{dbid} NET-WORK DETECTED {UP|DOWN}**

説明：

このメッセージは、初期化中、またはニュークリアスによって Entire Net-Work のステータス変更が検出される时表示されます。通常、このメッセージはシステム上にある1つのニュークリアスによってのみ発行され、状態の変更イベントが処理されます。新しい状態が生成されると、この状態に続いてメッセージ PLX044、PLX048、および PLX088 が表示されます。PLX087 は他のメンバニュークリアス上で発行されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX044**{dbid} SYSTEM IMAGE TARGET {target} ESTABLISHED**

説明：

初期化中、または Entire Net-Work がアクティブになったとき、システムターゲットが定義されます。システムターゲットは、リモートシステムへのコマンドルーティングをサポートするため、およびニュークリアスがないシステムで PLXCB 構造を更新するために必要です。このメッセージは、PLX043 を発行したニュークリアスが Entire Net-Work の開始を検出したときに発行します。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX045**{dbid} UNABLE TO ALLOCATE PLXMAP FOR {system-target} ON {system-name}**

説明：

PLXMAP 更新が、既存の PLXMAP がないリモートシステムから受け取られました。フリー PLXMAP スロットを特定できませんでした。更新は破棄されます。

このことは、クラスタニュークリアスを含むシステムがシスプレックスから削除され、ニュークリアスを含む他のシステムが追加された場合に発生することがあります。

対処：

ADACOM が実行中の場合は、DUMP PLXMAP コマンドを発行して、各 PLXMAP の割り当てを確認してください。問題が解決しない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX046

{dbid} FEED {ACQUIRE|RELEASE} TARGET {target} FAILd RSP {rsp/node-subcode nucid}

説明：

Entire Net-Work ターゲットを取得または解放しようとしたときに、ニュークリアスで処理が失敗しました。このターゲットは DBID ターゲットまたはシステムイメージターゲットのいずれかです。

このエラーは、Entire Net-Work が利用できなくなったとき、またはターゲットがアクションの実行に適した状態にないときに発生する場合があります。

対処：

Entire Net-Work コマンド DT を発行してターゲットを確認してください。矛盾点を解決できない場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX047

{dbid} NO SUITABLE SYSTEM FOUND FOR DBID TARGET

説明：

システムで DBID ターゲットを保持する場合は、Entire Net-Work がアクティブで、アクティブなニュークリアスが少なくとも 1 つ存在する必要があります。アクティブなニュークリアスを含む全システムのポーリングで、そのような適切なシステムは見つかりませんでした。

対処：

DBID ターゲットを割り当てることができるシステムでニュークリアスまたは Entire Net-Work を開始してください。

PLX048

{dbid} SYSTEM {system-name} SELECTED FOR DBID TARGET

説明：

アクティブなニュークリアスを含むシステムのポーリング後、メッセージ (*system-name*) で指定されたシステムが、DBID ターゲットのホールドに最も適切なシステムとして選択されます。このメッセージは、PLX043 を発行したニュークリアスが Entire Net-Work の開始を検出したときに発行します。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX049**{dbid}PLXMAP {cmd} RSP {rsp/node-subcode} FROM {target} ON {system-name}**

説明：

メッセージ (*system-name*) で指定されたシステムに対して、アクティブなニュークリアスに関する情報およびロードバランシング情報を含む PLXMAP 更新が試行されました。更新は失敗し、レスポンスおよびサブコードがメッセージに表示されました。コマンドは、Adabas メッセージング (Cluster Services の場合は XCF) を使用して更新が送信されたことを暗示する V2 か、または Entire Net-Work を使用して更新が送信されたことを暗示する X3 の場合があります。指定されたシステムに PLXMAP が存在する場合、ロードバランシングカウンタおよびニュークリアス情報はクリアされる場合があります。

対処：

エラーの原因を特定できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX050**{dbid} ADACLU INIT DBID={dbid} NUCID={nucid}**

説明：

クラスタ dbid のための nucid によって識別されるクラスタニュークリアスは初期化されました。

PLX051**{dbid} IDTH PREFIX IS NOT VALID**

説明：

IDT テーブルヘッダーは破壊されました。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

IDT を再構築するには Adabas SVC を再インストールしてください。

PLX052**{dbid} NUMBER OF IDTE ENTRIES IS ZERO**

説明：

ID テーブルヘッダーは破壊されました。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

IDT を再構築するには Adabas SVC を再インストールしてください。

PLX053

{dbid} GETMAIN FOR CLUPLXB FAILED

説明：

CLUPLXB のための GETMAIN は ECSA で 16MB 境界より上に取得されます。CLUPLXB のためのスペースが不足しています。

対処：

ECSA で CLUPLXB が利用可能なスペースを増やしてください。

PLX054

{dbid} MPM INITIALIZATION FAILED

説明：

これは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX055

dbid GETMAIN for CQXE FAILED

説明：

CQXE 構造を割り当てるには仮想ストレージが足りませんでした。

対処：

利用可能な仮想ストレージを増やし、ニュークリアスを再スタートしてください。

PLX056

{dbid} DATASPACE/S64 ACQUISITION FAILED

説明：

Adabas Parallel Services ニュークリアスでは、ストレージオブジェクトに接続できませんでした。詳細については、関連する ADACOM ジョブのメッセージを参照してください。

対処：

関連する ADACOM のメッセージを調べても原因が不明な場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX057

{dbid} DATASPACE/S64 DELETE FAILED

説明：

Adabas Parallel Services ニュークリアスでは、ストレージオブジェクトを削除できませんでした。詳細については、関連する ADACOM ジョブのメッセージを参照してください。

対処：

関連する ADACOM のメッセージを調べても原因が不明な場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX058**{dbid} ALSERV FAILED**

説明：

共有データスペースにアクセスするための ALET の定義中にエラーが発生しました。

対処：

関連する ADACOM のメッセージを調べても原因が不明な場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX059**{dbid} POINTER TO IDTH IS ZERO**

説明：

これは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX060**{dbid} INVALID FUNCTION CODE FOR ADACLU**

説明：

これは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX061**{dbid} NO USEABLE PLXNUC FOUND**

説明：

これは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX062**{dbid} JOB IS NOT AUTHORIZED**

説明：

Adabas Cluster Services および Adabas Parallel Services ニュークリアスの実行には z/OS APF 認可が必要です。

対処：

すべてのロードライブラリを APF 認可します。

PLX064

{dbid} MAXIMUM NUCID IS 65000

説明：

有効な NUCID の範囲は 1～65000 です。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

クラスタニュークリアスに有効な NUCID を指定して再スタートしてください。

PLX066

{dbid} DUPLICATE NUCID IN ACTIVE PLXNUC

説明：

PLXCB 構造で、開始するニュークリアスと NUCID が同じアクティブな PLXNUC エントリが見つかりました。

対処：

ニュークリアス ID はユニークである必要があります。前のニュークリアスが停止できないような形で失敗したために、PLXNUC エントリが発生した場合は、ADARUN FORCE=YES パラメータを使用して PLXNUC を上書きできます。NUCID がまだアクティブなときなど、FORCE=YES を不適切な方法で使用すると、クラスタ内のすべてのニュークリアスが失敗し、データベースが破損する可能性があります。

PLX067

{dbid} INITIALIZATION OF ADACLU COMPLETE

説明：

Adabas クラスタは正常に初期化されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX068

{dbid} TERMINATION OF ADACLU BEGINNING

説明：

このメッセージは、通知のみが目的のメッセージです。ADACLU のシャットダウン処理が始まったかどうかを示します。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX069**{dbid} TERMINATION OF ADACLU COMPLETE**

説明：

このメッセージは、通知のみが目的のメッセージです。ADACLU のシャットダウン処理が完了したかどうかを示します。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX071**{dbid} ADACLU - INVALID CLUINTER EYECATCHER****PLX071****{dbid} ADACLU - INVALID THREAD NUMBER****PLX071****{dbid} ADACLU - CLUINTER IN USE**

説明：

これらは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX073**{dbid} NUCID IN USE AS A CLUSTER DBID**

説明：

NUCID は同一の IDT を使用する DBID (ADASVC インスタンス) と同じになることはできません。

対処：

他の NUCID を指定してジョブを再サブミットします。

PLX074**{dbid} CLUFREEUSER COMMAND ACCEPTED**

説明：

CLUFREEUSER コマンドの構文とオペランドがチェックされました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX075

{dbid} CLUFREEUSER INVALID SYNTAX STARTING {text}

説明：

CLUFREEUSER オペレータコマンドの構文またはオペランドからエラーが検出されました。

対処：

正しい構文とオペランドを使用して、CLUFREEUSER オペレータコマンドを再発行します。

PLX076

{dbid} {message-text}

説明：

このメッセージ番号には、さまざまなメッセージテキスト (*message-text*) が関連付けられています。それぞれについては次の表を参照してください。

メッセージテキスト	説明
NO USERS WERE DELETED	CLUFREEUSER オペレータコマンドは発行されましたが、削除対象のユーザーは検出されませんでした。
NOT DELETED PENDING RSP 9/20 IS <i>number-of users</i>	CLUFREEUSER オペレータコマンドは発行されましたが、FORCE パラメータが指定されていないため、指定された数のユーザーの削除はレスポンスコード 9、サブコード 20 で保留中です。
NUMBER OF USERS DELETED IS <i>number</i>	CLUFREEUSER オペレータコマンドが発行され、メッセージに示された数のユーザーが削除されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX078

{dbid} A LOCAL SINGLE NUCLEUS IS ALREADY UP (AN IDTE IS ACTIVE FOR THIS DBID)

説明：

An Adabas Cluster Services または Adabas Parallel Services ニュークリアスを開始しようとしていますが、同じ DBID を含むアクティブなシングルニュークリアスがすでに存在します。

対処：

シングルニュークリアスを停止してから再試行してください。

PLX080**UID MISMATCH FREEING PLXUSER/UTE {address} UID {uid1} UTE {uid2}**

説明：

ADACLU は PLXUSER (UTE) を解放しようとしているときに予測されたユーザー ID の文字列を見つけられませんでした。

対処：

UTE 値がすべてゼロの場合、UTE はすでに解放されています。この状況は、CL コマンドの発行により、z/OS ESTAE などのエラーリカバリルーチンがクリーンアップを試みたときに発生することがあります。Natural のエラーリカバリで、この処理が行われる可能性があり、特に Natural プログラムがキャンセルされたときに、この可能性が高くなります。これが当てはまらない場合、または UTE がゼロ以外の場合は内部論理エラーです。Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX081**{dbid} IDTHPRFX NOT FOUND**

説明：

これは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX082**{dbid} DBID IS ZERO**

説明：

これは内部エラーです。Adabas クラスタは異常終了 (ABEND) します。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX083**{dbid} OBTAIN OF IDTHPRFX FAILED**

説明：

IDTH 接頭辞 (データベースに関する情報を含む 8 バイトの ID テーブルヘッダー接頭辞要素) の GETMAIN が ECSA の 16MB 境界より上で取得されましたが、GETMAIN のためのスペースが不足しています。データベースにアクセス中のリモートアプリケーションが影響を受けます。

対処：

この問題を解決するには、リージョンサイズを増やすか、他のパラメータを減らしてください。解決できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX084**{dbid} NET-WORK DBID TARGET NOT HELD**

説明：

初期化中、終了中、または Entire Net-Work の状態変更が検出されたときに、Entire Net-Work DBID ターゲットがどのシステムにも割り当てられていないことが検出されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX085**{dbid} NET-WORK DBID TARGET NOT ACQUIRED**

説明：

Entire Net-Work DBID ターゲットを割り当てまたは取得できませんでした。このメッセージは PLX046、PLX047、PLX048、および PLX089 などの他のメッセージとともに表示されます。

対処：

エラーの原因を特定できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PLX086**{dbid} NET-WORK DBID TARGET ACQUIRED BY {system-name}**

説明：

このメッセージは、DBID ターゲットが解放されているか、または DBID ターゲットが割り当てられていないことがニュークリアスによって検出されたとき、ターゲットを取得するために適切なシステムが選択されたとき、およびメッセージ (*system-name*) で特定されたシステムのニュークリアスによって Entire Net-Work DBID ターゲットが取得されたときに発行されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX087**{dbid} NET-WORK DBID TARGET HELD BY{system-name}**

説明：

初期化中、終了中、または Entire Net-Work の状態変更が検出されたときに、Entire Net-Work DBID ターゲットがメッセージで指定されたシステムに割り当てられていることが検出されました。このメッセージは、DBID ターゲット割り当てが変更されたときには、常に、すべてのメンバニュークリアスによって発行されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX088**{dbid} NET-WORK DBID TARGET ACQUIRED BY THIS IMAGE**

説明：

このニュークリアスによって Entire Net-Work DBID ターゲットが取得されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX089**{dbid} NET-WORK DBID TARGET RELEASED BY T HIS IMAGE**

説明：

Entire Net-Work DBID ターゲットが割り当てられたシステムで、最後のニュークリアスの終了処理が行われています。適切な DBID ターゲットを利用できるようになると、この DBID ターゲットが解放され、別のシステムによって取得される場合があります。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX090**{dbid} ATTEMPTING TO CREATE DATASPACES/S64**

説明：

ニュークリアスは、クラスタデータスペースと共有 64 ビットアドレス可能メモリオブジェクトを割り当てる信号を ADACOM に送信しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX091**{dbid} ATTEMPTING TO DELETE DATASPACES/S64**

説明：

このニュークリアスは終了処理を開始しています。この DBID の最後のニュークリアスです。ADACOM は、クラスタデータスペースと 64 ビットアドレス可能メモリオブジェクトを削除する信号を送信しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX092

{dbid} DATASPACES/S64 DELETED

説明：

クラスタデータスペースと共有 64 ビットアドレス可能メモリオブジェクトは正常に削除されました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PLX097

{dbid} DATASPACES ACQUIRED

説明：

クラスタデータスペースと共有 64 ビットアドレス可能メモリオブジェクトは正常に割り当てられました。

PLX099

{dbid} ADACOM NOT AVAILABLE

説明：

ADACOM が見つかりません。

対処：

ADACOMが利用可能でない原因を調べて、問題を修正してください。終わったら再スタートしてください。

27 PL6* - PRILOG6 出力プログラムメッセージ

次のメッセージグループについて説明します。

独立したコンポーネントからのメッセージ

PL6000I

CARD READ =>{control-card}

説明：

読み取られた PRILOG6 入力コントロールカードがこのメッセージに表示されます。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

PL6001E

UNRECOGNIZED INPUT CARD

説明：

読み取られたコントロールカードの1つが、PRILOG6により認識されませんでした。

対処：

すべてのカードで、コメント行にPRILOG6またはアスタリスク (*) があることを確認してください。

PL6002E

INVALID PARM: parameter

説明：

PRILOG6コントロールカード内で指定された入力パラメータまたは値が正しくありません。

対処：

問題のあるパラメータを修正して、プログラムを再実行してください。

PL6003E

{CLOGLAYOUT MISMATCH}

説明：

ログレコードのフォーマットが、PRILOG CLOGLAYOUT パラメータで指定された値と一致しません。

対処：

問題のあるパラメータを修正して、プログラムを再実行してください。

システム依存コンポーネントからのメッセージ

PL6D01

DDCARD FILE FAILED TO OPEN, USING DEFAULTS

説明：

入力カードファイルが開けません。

対処：

デフォルトが使用されている場合、入力カードは存在せず、このファイルは必要ありません。このメッセージは無視できます。デフォルト値は、CLOGLAYOUT=5 および FIELDS=(LIST) です。

デフォルト以外の値が必要な場合、ファイルが利用可能であることを確認してジョブを再実行します。

PL6D02

DDCLOGIN FILE FAILED TO OPEN - NO REPORTS

説明：

CLOG レコードを含むファイルを開けません。レポートは出力されません。

対処：

ファイルが正しく割り当てられていることを確認して、ジョブを再実行します。

28 SAGE*-VSE バッチジョブ出口ユーティリティメッ セージ

これらのメッセージは、VSE システム用の Software AG ジョブ出口ユーティリティ（バッチ）により、カラム 26 から開始し、再表示された SAGUSER バッチコントロールステートメント上に書き出されます。

SAGE020

- SAGIPT NOT FOUND IN THE SDL

説明：

フェーズ SAGIPT 用のエントリが SDL にありません。

SAGUSER コントロールステートメントを処理できません。

対処：

SET SDL コマンドを使用して、フェーズ SAGIPT が SVA の中にロードされたかを確認します。必要であればフェーズをロードし、プログラム SAGINST を実行し、ジョブを再びサブミットします。

SAGE021

- DD NAME TABLE NOT FOUND

説明：

ジョブ制御出口によって使用される制御テーブルが見つかりません。

SAGUSER コントロールステートメントを処理できません。

対処：

プログラム SAGINST が正しく実行されたかを確認します。正しく実行されていない場合は再実行し、メッセージ SAGI005、SAGI006、SAGI016 のいずれか 1 つが表示されるかを確認します。

SAGE022

- NO ROOM IN DD NAME TABLE

説明：

ジョブ制御出口によって使用される制御テーブルが一杯です。

SAGUSER コントロールステートメントを処理できません。

対処：

現在実行中のいくつかのジョブが完了するのを待ってから、エラーメッセージを受け取ったジョブを再実行します。

SAGE023

- INVALID OR MISSING FILE=

説明：

SAGUSER コントロールステートメントに FILE= パラメータが含まれていません。

SAGUSER コントロールステートメントを処理できません。

対処：

コントロールステートメントに正しいファイル指示を追加した後、ジョブを再実行します。

SAGE024

- INVALID OR MISSING MEMBER=

説明：

SAGUSER コントロールステートメントに MEMBER= パラメータが含まれていません。

SAGUSER コントロールステートメントを処理できません。

対処：

コントロールステートメントに正しいメンバ指示を追加した後、ジョブを再実行します。

SAGE025

- INVALID SAGUSER CONTROL STATEMENT

説明：

SAGUSER コントロールステートメントには、正しいキーワードパラメータが1つも含まれていません。

SAGUSER コントロールステートメントを処理できません。

対処：

コントロールステートメントに正しいパラメータを追加し、ジョブを再実行します。

29 SAGI* - バッチ初期化メッセージ (VSE のみ)

これらのメッセージは任意指定の Adabas ジョブ出口によって、オペレータコンソールおよび SYSLIST に書き出されます。詳細は『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

SAGI001

SOFTWARE AG JOBEXIT V_v INSTALLED

説明：

Software AG ジョブ制御出口が稼働中です。

対処：

SAGUSER コントロールステートメントが処理されます。

SAGI005

TABLE ALLOCATED (LOW) ADDR=addr

説明：

SAGUSER テーブルは示されたアドレスで、16MB 境界より下のシステム GETVIS に割り当てられました。

SAGI006

TABLE ALLOCATED (HIGH) ADDR=addr

説明：

SAGUSER テーブルは、示されたアドレスで 16MB 境界を超えて、システム GETVIS に割り当てられました。

SAGI010

SOFTWARE AG JOBEXIT ALREADY INSTALLED

説明：

Software AG ジョブ制御出口は、1 回だけしか導入できません。

対処：

Software AG ジョブ出口が実際に導入されている場合、対処は必要ありません。導入されていない場合は IPL を実行し、ジョブ制御出口チェーンを再設定します。

SAGI016

TABLE ALREADY ALLOCATED ADDR=addr

説明：

プログラム SAGINST は、すでに DD 名テーブルを割り当て済みです。

対処：

Software AG ジョブ出口が実際に導入されている場合、対処は必要ありません。導入されていない場合は IPL を実行し、ジョブ制御出口チェーンを再設定します。

SAGI091

UNABLE TO LOCATE \$JOBEXIT IN SDL

説明：

フェーズ \$JOBEXIT 用のエントリが SDL にありません。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

オペレーティングシステムのバージョン、リリース、およびシステム修正レベルの情報を取得し、Software AG にお問い合わせください。

SAGI092

UNABLE TO LOCATE SAGJBXT IN SDL

説明：

フェーズ SAGJBXT 用のエントリが SDL にありません。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

フェーズ SAGJBXT が SVA 内にロードされたかを確認します。

SAGI093**PHASE SAGJBXT IN ERROR**

説明：

SVA 内にロードされたフェーズ SAGJBXT は、Software AG から提供したジョブ制御出口ではありません。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

SAGJBXT のリンケージエディット内で、エラーの可能性のあるものを検査します。

SAGI095**UNABLE TO DETERMINE VSE LEVEL**

説明：

VSE に関する情報（バージョンおよびリリース）が、スーパーバイザに見つかりません。

Software AG ジョブ出口を導入できません。ストレージダンプが出力されます。

対処：

VSE のバージョンとリリースレベルを取得して、Software AG にお問い合わせください。

SAGI096**SAGJBXT ID NOT FOUND IN \$JOBEXIT TABLE**

説明：

SAGJBXT 用のエントリが \$JOBEXIT テーブルに見つかりませんでした（VSE 1.2 以上）。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

\$JOBEXIT に SAGJBXT 用のエントリを追加し、プログラム SAGINST を再試行します。

SAGI097**SAGJBXT PHASE phase NOT FOUND**

説明：

SAGJBXT のフェーズは、\$JOBEXIT テーブルに存在していましたが（VSE1.2以上）が、フェーズは SVA にロードされていませんでした。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

フェーズ SAGJBXT が SVA 内にロードされたかを確認します。

SAGI098

SAGJBXT PHASE phase NOT IN SVA

説明：

SAGJBXT のフェーズは \$JOBEXIT テーブルに存在し (VSE 1.2 以上)、ロードされていましたが、SVA 内にはロードされていませんでした。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

フェーズ SAGJBXT が SVA 内にロードされたかを確認します。

SAGI099

SAGJBXT PHASE phase NOT VALID

説明：

SAGJBXT のフェーズは \$JOBEXIT テーブルに存在し (VSE 1.2 以上)、ロードされていましたが、SVA 内にはロードされていませんでした。

Software AG ジョブ出口を導入できません。

対処：

フェーズ SAGJBXT が SVA 内にロードされたかを確認します。

SAGI101

ALLOCATION ERROR (HIGH) RC=ret-code

説明：

31 ビットモードで、DD 名テーブル用のスペースを割り当てようとしたましたが失敗しました。GETVIS マクロからのリターンコードです。

Software AG ジョブ出口は、SAGUSER ステートメントを処理しません。

対処：

DD 名テーブルに対する SVA のストレージが十分であることを確認してから、SAGINST を再実行します。

SAGI102

ALLOCATION ERROR (LOW) RC=ret-code

説明：

24 ビットモードで、DD 名テーブル用のスペースを割り当てようとしたましたが失敗しました。GETVIS マクロからのリターンコードです。

Software AG ジョブ出口は、SAGUSER ステートメントを処理しません。

対処：

DD 名テーブルに対する SVA のストレージが十分であることを確認してから、SAGINST を再実行します。

30

SEFM* - ADASAF SAF インターフェイスメッセージ

SAF リターンコード

ADASAF は、SAF からのさまざまなリターンコードと理由コードを含む 8 バイトのコードを表示します。この情報は、sssssss という形式で表記され、複数のメッセージを含んでいます。

ADASAF リターンコード sssssss は次の構造を含んでいます。

位置	情報	
バイト 1	SAF リターンコード	
バイト 2	機能コード。ADASAF 内部機能コード（16進）には以下が含まれます。	
	04	Adabas アクセスの認可
	44 または 6C	ユーザーの認証
バイト 3	セキュリティシステム（例えば RACF）からのリターンコード	
バイト 4	セキュリティシステム（例えば RACF）からの理由コード	
バイト 5~8	SAF 理由コード	

すべての可能なリターン／理由コードの詳細については、IBM マニュアル『External Security Interface (RACROUTE) Macro Reference manual for z/OS and z/VM』を参照してください。CA-Top Secret および CA-ACF2 は、状況に応じて異なるリターンコード値を返すことがあります。

次のメッセージグループについて説明します。

SAF インターフェイスメッセージ (SEFM001~SEFM014)

SEFM001

***ssssssss : user : resource**

説明：

セキュリティシステムは、user が resource に対する権限を持っていないと判断しました。システムのリターンコードおよび理由コードが 16 進数の文字列 ssssssss で返されます。このメッセージは、アクセスが特定のリソースに拒否されたときに表示されます。

SEFM008

***ADABAS SECURITY (Vv.r) STARTED**

説明：

ADASAF 起動が完了しました。

SEFM009

***MODULE module-name NOT LOADED**

説明：

ADASAF は指定されたモジュールをロードすることができませんでした。

対処：

モジュールが STEPLIB の中であって、リージョンサイズが十分であることを確認してください。

SEFM013

***LESS STORAGE ACQUIRED THAN SPECIFIED**

説明：

ADASAF は、そのパラメータに指定されたバッファサイズを満足させるように要求されたすべてのストレージを GETMAIN することができませんでした。

オペレーションは継続します。

対処：

リージョンサイズが十分で、パラメータが適切であることを確認してください。

SEFM014

***NO STORAGE COULD BE ACQUIRED**

説明：

ADASAF はシステム起動時にストレージを取得することができませんでした。

オペレーションは終了しました。

対処：

リージョンサイズが十分で、システムパラメータが適切であることを確認してください。

オペレータコマンドメッセージ (SEFM900～SEFM914)

次のメッセージはオペレータコマンドに応答して表示されます。

SEFM900

*** OPERATOR ISSUED COMMAND : command**

説明：

ADASAF は指定されたオペレータコマンドを受け取りました。

SEFM901

*** SAF SERVER - GENERAL STATISTICS (at 034A5000)**

説明：

全体的な統計値のためのオペレータコマンドが発行されました。

```
SEFM901 * SAF SERVER - GENERAL STATISTICS (AT 034A5000)
SEFM902 * RESOURCE      CHECK(+VE)  CHECH(-VE)  CHECK  SAVED  OVERWRITES  LEN
SEFM903 * APPLICATION    1           0           0      0      0          8
SEFM903 * ADABAS         0           0           0      0      0         32
SEFM903 * SYSMAIN       0           0           0      0      0         13
SEFM903 * SYSTEM FILE   2           0           0      0      0         24
SEFM903 * PROGRAM       0           0           0      0      0         17
SEFM903 * BROKER        0           0           0      0      0         32
SEFM903 * NET-WORK      0           0           0      0      0          0
SEFM903 * SQL SERVER    0           0           0      0      0          0
SEFM904 * USERS - ACTIVE: 1 FREE: 55 OVEWRITES: 0
```

SEFM910

***SAF SERVER - LIST ALL ACTIVE USERS**

説明：

オペレータは現在アクティブなユーザーのリストを表示するコマンドを発行しました。

```
SEFM910 * SAF SERVER - LIST ALL ACTIVE USERS
```

SEFM* - ADASAF SAF インターフェイスメッセージ

SEFM911	* USERID	CHECK (+VE)	CHECH (-VE)	CHECK	SAVED	OVERWRITES	BUFF
SEFM912	* K11079	3	0		0	0	0

SEFM911

***userid...**

説明：

オペレータは現在アクティブなユーザーを対象とした統計値を表示するコマンドを発行しました。

SEFM911	* NXB	CHECK (+VE)	CHECH (-VE)	CHECK	SAVED	OVERWRITES	BUFF
SEFM912	* APPLICATION	1	0		0	0	0
SEFM912	* DBMS CHECK	0	0		0	0	0
SEFM912	* SYSMAIN	0	0		0	0	0
SEFM912	* SYSTEM FILE	2	0		0	0	0
SEFM912	* PROGRAM	0	0		0	0	0
SEFM912	* BROKER	0	0		0	0	0
SEFM912	* NET-WORK	0	0		0	0	0
SEFM912	* SQL SERVER	0	0		0	0	0

SEFM913

*** NO ACTIVE USERS FOUND IN SAF SERVER**

説明：

ADASAF でアクティブなユーザーは見つかりませんでした。

SEFM914

*** REQUESTED USER user-id NOT FOUND IN SAF SERVER**

説明：

要求されたユーザーは ADASAF で見つかりませんでした。

31 SM-PIN* - PIN ルーチンメッセージ

このセクションでは、エラー処理およびメッセージバッファリング機能のプラグイン (PIN) モジュールに作成されるメッセージについて説明します。

SM-PINTAUTOR1

FILE NUMBER NOT FOUND IN THREAD

説明：

自動再起動エラーが発生し、PINAUTOR は自動再起動からファイルを除外しようとしていました。スレッド内にファイル番号が含まれていないので、ファイルを除外できず、ニュークリアスは終了します。

対処：

パラメータエラー 31 メッセージに対する通常の手順に従ってください。

SM-PINAUTOR2

WILL EXCLUDE FILE file-number FROM AUTORESTART

説明：

パラメータエラー 31 メッセージは、メッセージに示されるファイル番号と関連しています。ファイルは現在処理から排除され、ファイルなしで自動再起動の実行が試みられます。

対処：

排除されたファイルには矛盾点が生じる可能性があり、ADASAV RESTORE を使用してバックアップからリストアされる必要があります。

SM-PINAUTOR3

MAXIMUM NUMBER OF FILES EXCLUDED FROM AUTORSTRT

説明：

排除可能なファイル数が最大数を超過しました。

対処：

ADASMXITで排除可能なファイル数を調整して自動再スタートを再試行するか、データベースをリストアおよび再生成してください。

SM-PINAUTOR4

FILE OR RESPONSE CODE INVALID FOR EXCLUSION

説明：

ファイルまたはレスポンスコードが、ADASMXIT内の排除に正しく指定されていません。

対処：

ADASMXIT テーブルを修正してレスポンスコードまたはファイルを許可し、自動再スタートを再試行するか、パラメータエラー 31 と同様のリカバリガイドラインに従ってください。

SM-PINAUTOR5

NOT POSSIBLE TO EXCLUDE RSP response-code

説明：

発生したレスポンスコードは排除できません。

対処：

パラメータエラー 31 で指定されるリカバリガイドラインに従ってください。

SM-PINAUTOR6

CANNOT EXCLUDE SYSTEM FILE

説明：

エラーはチェックポイントまたはセキュリティファイルに関連します。これらのファイルはどちらも排除できません。

対処：

パラメータエラー 31 について記載されているリカバリガイドラインに従ってください。

32 ニュークリアスエラーメッセージおよびレスポンスコード

メッセージドキュメントのこの部分では、Adabas ニュークリアスで発行されるエラーメッセージおよびレスポンスコードについて説明します。これらのエラーメッセージおよびレスポンスコードは、ニュークリアスを開始するとき、またはAdabas ニュークリアスコマンドを発行するときに発生する正常／異常状態によって出力されます。

メッセージは次のグループに分けることができます。

- ニュークリアス開始時のエラーメッセージ
- ニュークリアスレスポンスコード

33 ニュークリアス開始時のエラーメッセージ

ここでは、Adabas ニュークリアスによって発行されるエラーメッセージおよびレスポンスコードについて説明します。通常、これらのエラーはニュークリアスの開始中に ADARUN パラメータエラーの結果として発生します。ニュークリアスでエラーメッセージが出力され、異常終了（アベンド）コード 20 で終了します（[アベンドコードの説明](#)を参照）。

ADARUN パラメータの説明は『Adabas オペレーションマニュアル』を参照してください。

エラーメッセージの形式は次のとおりです。

```
PARM-ERROR nnn [DETECTED DURING SYSTEM OPEN]
```

ここで、nnnはいずれかの開始エラーであり、対応する意味についてはここで示します。エラーメッセージの後に、エラーの簡単な説明が続く場合もあります。

PARM ERROR 1

説明：

アソシエータデータセット（複数可）がオープンできなかったか、または GCB 処理時に次のエラーが発生しました。

- DEVICE パラメータが無効か、正しくありません。
- DD/ASSOR1~5 の JCL またはデータセットが存在しないか無効です。
- データベース ID が一致しません。
- チェックポイントファイルがありません。

このエラーは、データセットがシリンダ境界線上に配置されていないことが原因で発生する可能性があります。

対処：

シングルユーザーモードの場合、適切な Adabas ジョブ制御ステートメントを指定しなければなりません。

PARM ERROR 2

説明：

データストレージデータセット（複数可）をオープンできませんでした。このことは、DD/DATAR1～5 の JCL またはデータセットが無効であるか、またはデータセットがシリンダ境界線上に配置されていない可能性があることを示します。

対処：

シングルユーザーモードの場合、適切な Adabas ジョブ制御ステートメントを指定しなければなりません。

PARM ERROR 3

説明：

WORK データセットをオープンできなかったか、または最後のワークブロックが読み込み可能ではありませんでした。このことは、DD/WORKR1 の JCL またはデータセットが無効であるか、またはデータセットがシリンダ境界線上に配置されていない可能性があることを示します。

対処：

シングルユーザーモードの場合、適切な Adabas ジョブ制御ステートメントを指定しなければなりません。

PARM ERROR 4

説明：

ADARUN ステートメントのスレッド数 (NT) パラメータの値が無効です。指定可能な範囲は 3～250 です。

PARM ERROR 5

説明：

ADARUN ステートメントのホールドキューエレメント数 (NH) パラメータの値が無効です。指定可能な範囲は 20～16,777,215 です。

PARM ERROR 6

説明：

ADARUN ステートメントのユーザーキューエレメントカウント (NU) パラメータの値が無効です。指定可能な範囲は 20～16,777,215 です。

PARM ERROR 7

説明：

ADARUN ステートメントのユーザー ISN ホールドキューカウント (NISNHQ) パラメータの値が無効です。指定可能な最大値は、NH パラメータ値/4 または 65535 のいずれか小さい方です。

PARM ERROR 8

説明：

ADARUN ステートメントのコマンドキューエレメントカウント (NC) パラメータの値が無効です。指定可能な範囲は 20 ~32767 です。

PARM ERROR 9

説明：

ADARUN ステートメントの Adabas クラスタニュークリアス ID (NUCID) パラメータの値が無効です。最大値は 65000 です。

PARM ERROR 10

説明：

ADARUN ステートメントの ISN リストテーブル長 (LI) パラメータの値が無効です。最小値は 2000 です。

PARM ERROR 11

説明：

ADARUN ステートメントのシーケンシャルコマンドテーブル (LQ) パラメータの値が無効です。最小値は 2000 です。

PARM ERROR 12

説明：

ADARUN ステートメントのバッファプール長 (LBP) パラメータの値が無効です。最小値は 80,000 です。

PARM ERROR 13

説明：

ADARUN ステートメントの内部フォーマットプール (LFP) パラメータの値が無効です。最小値は 6000 です。

PARM ERROR 14

説明：

ADARUN ステートメントのワークプール長 (LWP) パラメータの値が無効です。最小値は 80,000 です。

PARM ERROR 15

説明：

ADARUN ステートメントのソートエリア長サイズ (LS) パラメータの値が無効です。指定可能な範囲は 19968～ (LWP/2) - 19968 です。

PARM ERROR 16

説明：

ADARUN ステートメントのセキュリティプール長 (LCP) パラメータの値が無効です。指定可能な範囲は 2000～ 16777215 です。

PARM ERROR 17

説明：

バージョン7.4以前の Adabas Transaction Manager がインストールされている場合は、WORK パート 1 のサイズ (ADARUN ステートメントの LP パラメータの値) が 200 ブロック未満であるか、または WORK パート 2 (LWKP2 パラメータ)、WORK パート 3 (最小 50 ブロック)、使用されている場合は WORK パート 4 (LDTP パラメータ) に必要なスペースの合計を WORK データセットサイズから引いた値を超えています。

バージョン7.5以降の Adabas Transaction Manager がインストールされている場合は、WORK パート 1 のサイズ (ADARUN ステートメントの LP パラメータの値) が 200 ブロック未満であるか、または WORK パート 2 (LWKP2 パラメータ) および WORK パート 3 (最小 50 ブロック) に必要なスペースの合計を WORK データセットサイズから引いた値を超えています。

PARM ERROR 18

説明：

WORK パート 3 に使用できるのは 50 ブロック未満です。自動再スタートが実行されました。

PARM ERROR 19

説明：

ジェネラルコントロールブロック（GCB）の DBID と、WORK データセットに格納されている DBID が一致しません。WORK データセットに、異なるデータベース（DBID）の自動再スタート情報が含まれています。

PARM ERROR 20

説明：

16MB 境界より下の GETMAIN に失敗しました。

PARM ERROR 21

説明：

ジェネラルコントロールブロック（GCB）に無効なデバイスタイプが含まれています。GCB が上書き、損傷、または破壊されている可能性があります。

PARM ERROR 22

説明：

ASSO 書き込み時に I/O エラーが発生しました。リージョンが小さすぎます。書き込もうとした RABN が出力されます。

PARM ERROR 23

説明：

次のいずれかの理由により、ニュークリアスエントリはデータ保全ブロック（DIB）にすでに存在します。

- 別の更新ニュークリアスがアクティブであるときにニュークリアスを開始しようとした。
- 前回のニュークリアスセッションは異常終了しましたが、そのニュークリアスの DIB エントリが削除されていません。

対処：

異常終了の後に DIB エントリが残っている場合は、ADARUNIGNDIB=YES パラメータを指定してジョブを再実行します。

PARM ERROR 24

説明：

ASSO 読み込み時に I/O エラーが発生しました。読み込もうとした RABN が出力されます。

PARM ERROR 25

説明：

矛盾するユーティリティの DIB エントリが検出されたため、Adabas ニュークリアスを開始できませんでした。排他的なデータベース制御を行うユーティリティまたは ADASAV (SAVE FILE または SAVE データベース) ジョブが実行中です。

対処：

ADASAV SAVE FILE または ADASAV SAVE (データベース) が異常終了した場合、ADARUN IGNDIB=YES パラメータを指定してニュークリアスを再スタートすることはできますが、セーブテープは今後の RESTORE 操作には使用できません。

PARM ERROR 26

説明：

リージョン間コミュニケーションを確立できませんでした。

対処：

ADARUN パラメータの FORCE=YES を指定してニュークリアスを再スタートします。



Note: 現在アクティブなニュークリアスの DBID を使用して FORCE=YES を指定すると、そのニュークリアスの操作が中断されます。また、FORCE=YES オプションで上書きされた ID を持つ旧データベースのユーザーは、データベースにアクセスできなくなります。したがって、FORCE=YES は絶対に必要な場合にのみ使用してください。詳細は、『Adabas オペレーションマニュアル』の FORCE パラメータの説明を参照してください。

PARM ERROR 27

説明：

ADARUN ステートメントの PLOGRQ パラメータは、YES、FORCE、または SEL にデフォルトとして指定されていますが、プロテクションログおよび関連パラメータが指定されていません。

PARM ERROR 28

説明：

プロテクションログ (PLOG) データセット (複数可) をオープンできなかったか、または最後のデュアルまたはマルチ PLOG ブロックが読み込み可能ではありませんでした。PLOG データセットの定義、指定、またはジョブ制御ステートメントに誤りがある可能性があります。

PARM ERROR 29

説明：
コマンドログ (CLOG) デバイス定義が無効です。

PARM ERROR 30

説明：
FREEMAIN エラー。

PARM ERROR 31

説明：
システム自動再スタートエラー (ニュークリアスレスポンスコードを参照)。

PARM ERROR 32

説明：
バッファフラッシュ時にエラーが発生しました。

PARM ERROR 33

説明：
WORK の初期化エラー。

PARM ERROR 34

説明：
自動再スタートが保留になっていると、READONLY=YESを指定してニュークリアスを開始できません。

PARM ERROR 35

説明：
ファイルコントロールブロック (FCB) のチェックに失敗しました。FCB が上書きされたか、または破壊された可能性があります。

PARM ERROR 36

説明：
タイマの初期化に失敗したか、またはオペレータコミュニケーションが確立できませんでした。

PARM ERROR 37

説明：

共通ストレージ（CSA）でGETMAINに失敗し、リージョン間コミュニケーションを確立できませんでした。原因は、ADAMnn メッセージに詳しく表示されます。

PARM ERROR 38

説明：

DIB オーバーフロー。

PARM ERROR 39

説明：

スレッド数に対してワークプールが小さすぎます。

対処：

LWP パラメータ値を 25 KB x スレッド数以上に増やします。

PARM ERROR 40

説明：

データベースバージョンの不一致：データベースがバージョン *version revision-level* ではありません。

対処：

ADACNV ユーティリティを実行し、データベースを正しいバージョンにします。

PARM ERROR 41

説明：

Parallel Participant Table (PPT) 初期化エラー。

- PPT ブロック (RABN) の読み込みまたは書き込み時に I/O エラーが発生しました。
- PPT の長さエラーが発生し、無効な PPT ブロックが検出されました。

1	最後のデータベースセッションから PLOG エントリを決定するため、PPT ブロック (RABN) を読み込んでいるときにエラーが発生しました。
2	PPT の定数セットを取得しようとしているとき、エラーが発生しました。
3	PPT 検証ルーチンでエラーが発生しました。
4	PPT エリアがいっぱいです。つまり、アクティブな PPT エントリがすでに 32 個存在します。
5	アクティブな PPT ブロックをチェックしようとしているとき、エラーが発生しました。
6	PPT ブロックを更新する前の読み込み時にエラーが発生しました。
7	WORK データセットの PPT で無効なファイル名が検出されました。
8	WORK データセットを初めて PPT に記録するため、PPT の定数セットを取得しようとしているとき、エラーが発生しました (WORK データセットの PPT には以前のエンタリはありません)。

9	PPT エントリを初めて記録しているとき、WORK データセットの PPT で無効なファイル名が検出されました (WORK データセットには以前のエンタリはありません)。
10	以前の PPT エントリを上書きするため、PPT エントリの定数セットを取得しようとしているとき、エラーが発生しました。
11	PLOGR1 データセットを PPT に記録しようとしているとき、無効なファイル名が検出されました。
12	新しい PLOGR1 データセットを古いものと比較しようとしているとき、無効なファイル長が検出されました。
13	PLOGR2 データセットを PPT に記録しようとしているとき、無効なファイル名が検出されました。
14	新しい PLOGR2 データセットを古いものと比較しようとしているとき、無効なファイル長が検出されました。
15	PPT を更新する前に、PPT の定数セットの取得でエラーが発生しました。異なる PLOG データセットが検出されたか、または PLOG が使用されていません。
16	PPT に書き込む前に、PPT の定数セットの取得でエラーが発生しました。
15	他のニュークリアスで同じ PLOG を使用していないことを確認するため、PPT ブロックを読み込もうとしたときにエラーが発生しました。
18	現在のエンタリとクラスタ内の他のアクティブなエンタリとを比較しようとしているとき、PLOG データセット名でエラーが検出されました。
20	PPT の初期化しようとしているとき、内部エラーが発生しました。DDPRINT および現在のセッションのダンプ、PPTPRINT、前のセッションの DDPRINT を用意して、Adabas サポートに連絡してください。

PARM ERROR 42

説明：

システムオープン中にエラーが検出されました。

- PPT RABN 書き込みエラー。
- WORK データセットは別のニュークリアスですすでに使用中です。

PARM ERROR 43

説明：

システムオープン中にエラーが検出されました。

- 前のセッションで使用したものと異なる PLOG が指定されたか、または PLOG が指定されませんでした。前のセッションの PLOG がまだコピーされていません。
- PLOGRQ=FORCE が指定され、前のセッションの PLOG がまだコピーされていないか、または UEX2 または UEX12 が指定されていません。

PARM ERROR 44

説明：

クラスタ障害の後で非クラスタニュークリアスを開始しようとした。または、最初のクラスタニュークリアスを開始していますが、アクティブなブロックがPPTにすでに存在します。ニュークリアスは開始できません。セッションの異常終了の後で、シングルニュークリアスモードからマルチニュークリアスクラスタモードへの切り替え、またはマルチニュークリアスクラスタモードからシングルニュークリアスモードへの切り替えを行うことはできません。

PARM ERROR 45

説明：

16MB境界より上のGETMAINに失敗しました。メモリ関連のパラメータが大きすぎる可能性があります。

PARM ERROR 46

説明：

UQE を生成できませんでした。

対処：

NU パラメータを増やします。

PARM ERROR 47

説明：

WORK の読み込みまたは書き込み時に I/O エラーが発生しました。読み込みまたは書き込みもうとされた RABN は出力されます。

PARM ERROR 48

説明：

チェックポイントの生成時にエラーが発生しました。

- オフラインユーティリティで生成されたチェックポイントの引き継ぎに失敗しました。
- セッション開始チェックポイントの作成に失敗しました。

PARM ERROR 49

説明：

デュアルまたはマルチ PLOG の読み込みまたは書き込み時に I/O エラーが発生しました。読み込みまたは書き込みもうとされた RABN は出力されます。

PARM ERROR 50

説明：

デュアルまたはマルチ PLOG に、別のデータベースのデータが含まれています。

PARM ERROR 51

説明：

パラメータの矛盾：READONLY=YES と UTIONLY=YES は併用できません。

PARM ERROR 52

説明：

プロテクションロギングには、デュアルまたはマルチ PLOG を使用できません。PLOG はすべてコピーされます。

PARM ERROR 53

説明：

指定された PLOG データセットのうち少なくとも1つが、クラスタ内の別のニュークリアスですすでに使用中です。

PARM ERROR 54

説明：

IGNDIB=YES が指定されましたが、DIB ブロックに、矛盾するニュークリアスまたはユーティリティエントリが含まれていません。

対処：

IGNDIB パラメータを削除します。

PARM ERROR 55

説明：

グローバルリソースをロックまたはロック解除しようとしたときに I/O エラーが発生しました。このパラメータエラーの前に表示される ADAN54 メッセージに、ロック/ロック解除できなかったグローバルリソースが示されます。

PARM ERROR 56

説明：

グループ名が矛盾する DIB エントリが見つかりました。関連するニュークリアスが、アクティブのままになっている可能性があります。DIB エントリは、タイプが同じ（シングル、クラスタ）で DIB エントリのオーナーと同じ CLUGROUPNAME のニュークリアスによってのみ削除できます。

PARM ERROR 57

説明：

DIB エントリがありません。別のクラスタニュークリアスはこのデータベースですでにアクティブになっていますが、その DIB エントリが存在しません。

PARM ERROR 58

説明：

WORK ブロックサイズが小さすぎるため、MAXRECL 定義に基づいてこのデータベースで許可されている最大圧縮データレコードを格納できません。

対処：

WORK ブロック長を増やします。

PARM ERROR 59

説明：

このデータベースに存在する最大のアソシエータブロックサイズに対して、WORK ブロックサイズが小さすぎます。

PARM ERROR 60

説明：

PLOG ブロックサイズが小さすぎるため、MAXRECL 定義に基づいてこのデータベースで許可されている最大圧縮データレコードを格納できません。

PARM ERROR 61

説明：

このニュークリアスの開始時に、GCB の重要なフィールドが変更されました。ニュークリアスではこの状況に対応できません。

対処：

ニュークリアスを再スタートします。

PARM ERROR 62

説明：

CPU タイマの初期化に失敗しました。

PARM ERROR 63

説明：

RRDF=YES は無効です。シャドーデータベースを保守するための RRDF/ENET オプションは、現時点ではクラスタニュークリアスに使用できません。

PARM ERROR 64

説明：

最初にプロテクションログ (PLOG) をフォーマットせずに、バージョン 7.2 以上のニュークリアスを開始しようとした。バージョン 7.2 以上に変換する場合は、PLOG をフォーマットする必要があります。

PARM ERROR 65

説明：

ADARUN ステートメントの NSISN パラメータ値が、最大許容値 ((WORK ブロックサイズ - 6) / 4) を超えています。

PARM ERROR 66

説明：

ADARUN ステートメントの LU パラメータの値が、NAB (アタッチドバッファ数) パラメータで暗示されるバイトカウントを超えています。オープン操作時にエラーが検出されました。

PARM ERROR 67

説明：

DTP=RM または DTP=TM に対して初期化に失敗しました。

対処：

このパラメータエラーの前のメッセージを参照してください。

PARM ERROR 68

説明：

バージョン 7.4 以前の Adabas Transaction Manager がインストールされている場合に、DTP=TM で無効なパラメータが指定されました。

- シングルユーザーモード (MODE=SINGLE) は指定できません。
- LOCAL=YES は指定できません。
- READONLY=YES は指定できません。
- ゼロ以外の値を指定した LDTP (WORK パート 4) は無効です。

何らかの理由により、不完全なトランザクションに関するデータをTMに保持する必要がある場合は、ゼロ以外の値のLDTPを指定できますが、IGNDTP=YESを指定する必要もあります。IGNDTPパラメータは緊急時にのみ使用するものです。使用する場合は、必ずSoftware AG 技術サポートにお問い合わせ下さい。



Caution: WORKパート4のデータが無視されると、そのデータに関連する不完全なグローバルトランザクションの整合性を保証できなくなります。

バージョン7.5以降のAdabas Transaction Managerがインストールされている場合に、DTP=TMで無効なパラメータが指定されました。

- シングルユーザーモード (MODE=SINGLE) は指定できません。
- LOCAL=YES は指定できません。
- READONLY=YES は指定できません。

PARM ERROR 69

説明:

DTPパラメータに指定されたvValueが無効です。

対処:

"RM"、"TM"、"NO"のいずれかを指定します。

PARM ERROR 70

説明:

定義済みのフォーマットの生成時に、次のエラーが発生しました。

- システムファイルのFCBまたはFDTの読み込みに失敗しました。
- 内部フォーマットの変換に失敗しました。
- システム内部フォーマット用のプールが小さすぎます。

PARM ERROR 71

説明:

バージョン7.4以前のAdabas Transaction Managerがインストールされている場合に、NUCIDで無効なパラメータが指定されました。

- MODE=SINGLE は指定できません。
- READONLY=YES は指定できません。
- LFIOP は0以外の値でなければなりません。
- プロテクションログを使用する場合は、デュアルまたはマルチPLOGを指定しなければなりません。
- MXMSG は1~32767の間でなければなりません。

- NUCID は UBID と等しくしてはなりません。

バージョン 7.5 以降の Adabas Transaction Manager がインストールされている場合に、NUCID で無効なパラメータが指定されました。

- MODE=SINGLE は指定できません。
- READONLY=YES は指定できません。
- LFIOP は 0 以外の値でなければなりません。
- プロテクションログを使用する場合は、デュアルまたはマルチ PLOG を指定しなければなりません。
- MXMSG は 1~32767 の間でなければなりません。
- NUCID は UBID と等しくしてはなりません。

PARM ERROR 72

説明：

リカバリロギングの初期化に失敗しました。

PARM ERROR 73

説明：

チェックポイントファイルがいっぱいなため、レスポンスコード 75 または 77 を受け取りました。オフラインユーティリティからのチェックポイントが失われた可能性があります。

対処：

UTIONLY=YES を指定してニュークリアスを開始し、チェックポイントファイルをリオーダ／増加します。

PARM ERROR 74

説明：

PLOG データセットのコピーまたは再フォーマットが完了するまで、データベースは起動しません。おそらく、データベースはリストアされ、PLOG データセットがまだコピーされていません。再生成機能のため、コピーが必要となる場合があります。

対処：

PLOG データセットの内容が今後の再生成機能に必要な場合は、ADARES PLCOPY を実行してコピーします。PLOG が必要でない場合は、ADAFRM PLOGFRM 機能を使用して再フォーマットします。いずれの場合も、PLOG データセットを解放した後でニュークリアスを開始します。

PARM ERROR 75

説明：

ニュークリアスがPLOGなしで実行されるか、またはPLOGRQ=SELが指定されている場合は、リカバリログ（RLOG）機能を使用してニュークリアスを実行できなくなります。プロテクションログ（PLOG）データセットは使用できません。つまり、PLOGRQ=SELまたはPLOGRQ=NOが指定されています。

PARM ERROR 76

説明：

DTP=TMまたはDTP=NOを指定してニュークリアスが開始されましたが、疑わしいトランザクションに関するデータがWORKパート4に含まれています。

対処：

DTP=RMを指定してニュークリアスを開始します。

PARM ERROR 77

説明：

マシンクロック（STCK）の問題です。クロックが設定されずに稼動しているか、または無効な日付に設定されたシステムでIPLが行われました。

対処：

日付（タイムスタンプ）を修正し、ニュークリアスを再スタートします。

PARM ERROR 78

説明：

保持する必要がある2フェーズコミットデータがWORKパート4に含まれているため、WORKパート2が小さくなりすぎました。

PARM ERROR 79

説明：

ENET ユーザー出口 10 が欠落しています。

PARM ERROR 80

説明：

ADACLUの初期化に失敗し、SUBCODEパラメータに示される次のいずれかの理由により、ニュークリアスが終了しました。

50	ADACOMが見つかりません。
51	ニュークリアスが最大数を超えました。
53	IDTH 接頭辞が無効です。
54	ニュークリアステーブルが無効です。
55	ユーザーテーブルが無効です。
56	GETMAIN に失敗しました。

対処：

特定のサブコードに対応するユーザーの対処は、次のとおりです。

50	ADACOMを開始します。
51	ADACOMパラメータのNUで指定されるニュークリアスの数を増やします。
56	リージョンサイズを増やします。問題が持続する場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

他のサブコードの場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 81

説明：

DTP=RMが指定されている場合は、読み取り専用 (READONLY=YES) またはシングルユーザー (MODE=SINGLE) のニュークリアスを開始できません。

PARM ERROR 82

説明：

セッションのオープン時に、DSFロギング (DLOG) エリアがインストール済みであることが判明しましたが、DSFパラメータはYESに設定されていません。Delta Save Facility を使用して実行するには、DSF=YESを指定する必要があります。

対処：

パラメータ DSF=YES を指定してニュークリアスを再スタートします。

あるいは、パラメータ DSF=NO を指定してニュークリアスを再スタートします。これにより、ニュークリアスで DLOG エリアが削除され、非 Delta Save モードで実行されます。



Caution: 非 Delta Save モードに切り替えると、デルタセーブ操作を実行できなくなります。

PARM ERROR 83

説明：

Delta Save Facility の初期化に失敗しました。失敗の原因は、前に表示された Delta Save オペレータメッセージに示されます。

対処：

ADADSF からのメッセージをチェックします。

PARM ERROR 84

説明：

DSF ロギングエリアを削除できませんでした。Delta Save Facility がアクティブな状態で、別の Adabas クラスタニュークリアスがすでに稼動しています。

対処：

DSF=YES を指定してニュークリアスを開始します。

PARM ERROR 85

説明：

前のニュークリアスセッションは、ワークのオーバーフローで終了しました。セッションの自動再スタート時に作成されるプロテクション情報のための空き領域が、ニュークリアスの WORK パート 1 に存在しません。

対処：

クラスタ環境（Adabas Cluster Services または Parallel Services）では、WORK パート 1 に十分な空き領域を持つ異なるクラスタニュークリアス（可能な場合は、新しいもの）を開始します。非クラスタ環境（ベース Adabas）では、データベースを復元および再生成します。

PARM ERROR 86

説明：

VOL-SERVolser テーブルを確立できませんでした。

PARM ERROR 87

説明：

Entire Conversion Services（ECS）の初期化に失敗しました。

PARM ERROR 88

説明：

ユニバーサルエンコーディングサポート（UES）を使用するデータベースには、バージョン7以上のAdabas ルーターが必要です。データベースでUES機能を使用する場合、バージョン6.2以下のAdabas ルーター（ADASVC）では動作しません。

対処：

バージョン7.1以上のルーター（ADASVC）をインストールします。

PARM ERROR 90

説明：

無効な ADATCP 設定または UES=NO です。TCPIP=YES を指定した実行ではユニバーサルエンコーディングサポートが必要です。

対処：

必要に応じて、TCPURL パラメータをチェックおよび修正します。UESをインストールし、UES=YES を指定します。

PARM ERROR 91

説明：

Adabas クラスタの初期化に失敗しました。プログラムが認可されずに実行されているか、または GETMAIN に失敗しました。

対処：

プログラムが APF 認可であることを確認します。システムのスペース要件を見直します。問題を確定できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 92

説明：

セッションをオープンしているとき、Adabas クラスタのコミュニケーショングループに参加しようとしたが、失敗しました。Adabas クラスタメッセージングサービスを初期化するときに発生するこのエラーの前に、特定のエラーを説明する他のメッセージが表示されます。

PARM ERROR 93

説明：

ロック構造への接続に失敗しました。

対処：

ロック構造の定義要件を見直します。問題を確定できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 94

説明：

キャッシュ構造への接続に失敗しました。

対処：

キャッシュ構造の定義要件を見直します。問題を確定できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 95

説明：

他のアクティブな Adabas クラスタニュークリアスとのコミュニケーションに失敗しました。

対処：

同じオペレーティングシステムイメージで稼動しているクラスタニュークリアス間のコミュニケーション要件、およびクラスタのメンバが稼動しているオペレーティングシステムイメージ間のコミュニケーション要件を見直します。問題を確定できない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 96

説明：

構造名が矛盾しています。異なる CLUCACHENAME または CLULOCKNAME パラメータを指定して、別の Adabas クラスタニュークリアスがすでに稼動しています。

対処：

シスプレックスクラスタのすべてのニュークリアスによって使用される、カップリング機能のキャッシュ構造とロック構造の名前が同じであることを確認します。

PARM ERROR 97

説明：

グローバルパラメータに互換性がありません。オンライン修正が不可能で互換性のないグローバルパラメータを使用して、別の Adabas クラスタニュークリアスがすでに稼動しています。

対処：

修正不可能なグローバル ADARUN パラメータを、すべてのクラスタニュークリアスで同じになるようにリセットします。ニュークリアスを停止し、パラメータ設定を変更し、再スタートする必要がある場合があります。

PARM ERROR 98

説明：

Adabas クラスタリソースのロック／ロック解除に失敗しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 99

説明：

内部エラーです。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 100

説明：

Adabas Parallel Services クラスタに 31 個を超えるニュークリアスが存在しますが、このことは許可されません。

対処：

構成する Adabas ニュークリアスが 31 個以下になるように、Adabas Parallel Services クラスタを再設定します。

PARM ERROR 101

説明：

CLOGMRG=YES で無効なパラメータが指定されました。LOGGING=YES は必須です。デュアルまたはマルチ CLOG が必要です。

対処：

正しい ADARUN パラメータを指定し、セッションを再スタートします。

PARM ERROR 102

説明：

異常終了の後、異なる WORK データセットを指定してクラスタニュークリアスが開始されました。前に使用された WORK データセットにデータがまだ含まれていることが PPT に示されていますが、この Cluster Service または Parallel Service のニュークリアスは異なる WORK データセットで開始されました。

対処：

前に使用された WORK データセットを使用して、クラスタニュークリアスを再スタートします。正常終了の後にのみ、WORK データセットを変更します。

PARM ERROR 103

説明：

デュアル PLOG データセットの使用に互換性がありません。

最初のアクティブなニュークリアスで PLOG データセットを使用する場合は、後続のすべてのニュークリアスでも PLOG データセットを使用する必要があります。最初のアクティブなニュークリアスで PLOG データセットを使用しない場合は、後続のすべてのニュークリアスでも PLOG データセットを使用できません。

PARM ERROR 104

説明：

UEX2 または UEX12 の使用に互換性がありません。

最初のアクティブなニュークリアスで UEX2 または UEX12 を使用する場合は、後続のすべてのニュークリアスでも UEX2 または UEX12 を使用する必要があります。最初のアクティブなニュークリアスで UEX2 または UEX12 を使用しない場合は、後続のすべてのニュークリアスでも UEX2 または UEX12 を使用できません。

PARM ERROR 105

説明：

グローバルリソースシリアライゼーション (GRS) の設定が不適切です。このニュークリアスで取得されたリソースロックは、ピアニュークリアスに対しては効力がありません。

対処：

Cluster Services ニュークリアス実行を意図するすべてのシステムで GRS リソースロックが相互に有効であるように GRS が構成されているかどうかをシステムプログラマに問い合わせてください。

PARM ERROR 106

説明：

LOCAL=YES が指定されている場合は、データベースのすべてクラスタニュークリアスを同じシステムで開始する必要があります。

対処：

LOCAL=YES が意図するパラメータ設定であれば、データベースのすべてクラスタニュークリアスを同じシステムで開始します。これ以外の場合は、パラメータ設定を LOCAL=NO に変更します。

PARM ERROR 109

説明：

Adabasニュークリアスで有効なライセンスモジュール（ロードモジュールADALIC）をロードしようとしたが、エラーが発生しました。このニュークリアス起動エラーの詳細は、他のエラーメッセージを参照してください。

対処：

（インストールテープまたは電子メールで）有効な Adabas ライセンスを取得したことを確認し、お使いの操作環境に固有の Adabas データベースインストール手順に従って正しくインストールされたことを確認します。問題が解決しない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

PARM ERROR 110

説明：

初期化を行うため Adabas ニュークリアスでハイパー出口を呼び出したときに、エラーが発生しました。

対処：

レスポンスコードおよびサブコードを調べ、エラーの理由を調べます。

PARM ERROR 111

説明：

クラスタニュークリアスのパラメータ値が無効です。

- MXCANCEL には、15～2,147,483,647 秒の値を指定する必要があります。
- MXCANCELWARN には、ゼロ (0) または 4～ (MXCANCEL-1) 秒の値を指定する必要があります。
- MXMSG には、15～32,767 秒の値を指定する必要があります。
- MXMSGWARN には、ゼロ (0) または 4～ (MXMSG-1) 秒の値を指定する必要があります。
- MXSTATUS には、ゼロ (0) または 15～21,474,836 秒の値を指定する必要があります。
- MXWTOR には、ゼロ (0) または 15～64,800 秒の値を指定する必要があります。

対処：

無効なパラメータ値を、上記のいずれかの有効な値に修正します。

34 ニュークリアスレスポンスコード

Adabas コマンドを処理すると、ACB の 11 バイト目から 12 バイト目、または ACBX にレスポンスコードが返されます。一部のレスポンスコードでは、ACB のアディション 2 フィールド（オフセット 45～48）の右端 2 バイト、または ACBX のエラーサブコード（ACBXERRC）フィールド（オフセット 115～116）にサブコードが返されます。ここでは、レスポンスコードとサブコードについて説明します。



Note: Adabas 専有の機能は、ここでは説明しないレスポンスコードやサブコードも返すことがあります。詳細は、それぞれの機能について解説しているマニュアルを参照してください。

レスポンスコードが 0 の場合は、Adabas コマンドが正常に処理されたことを意味します。コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、これ以外のレスポンスコードが返されます。

Adabas コマンドのレスポンスコードが 0、1、145 以外の場合には、レスポンスコードフィールド（『Adabas コマンドリファレンスマニュアル』を参照）を除くすべての Adabas コントロールブロックフィールドが、コマンドの実行開始時に保存されていた内容に戻されます。

内部エラーの場合は、Adabas 技術サポートに連絡してください。

Response 0

説明：

このレスポンスコードはコマンドが正常に実行されたことを示します。

Response 1

説明：

ACB のアディション 2 フィールドの右端 2 バイト、または ACBX のエラーサブコード (ACBXERRC) フィールドのサブコードに応じて、次のいずれかが発生しています。

1	オンライン SAVE 操作は、ニュークリアスの PLOG がなければ実行できません。
2	選択されたレコードは許可されません。
3	S2 コマンドには十分なスペースがありませんでした。
4	S2/S9 内部プログラムエラー。
5	オンライン ADASAV の終わりに、システムはセーブステータスではありませんでした。

 **Note:** サブコード 2~4 のいずれかが表示された場合、セキュリティバイバリューを使用する x コマンドが少なくとも 1 つの ISN で検出されたことが原因となっている可能性があります。

対処：

ADARUN LS パラメータ値を増加します。

Response 2

説明：

このレスポンスコードは BT または ET コマンドに対してのみ返されます。BT または ET コマンドは正常に実行されました。次のいずれかが発生しました。

1	Adabas は、他のユーザーにすでにホールドされている ISN をホールドしようとしてしました。
2	ISN バッファに指定された ISN の数が ISN バッファ長に対して大きすぎます (M オプション付き ET または BT コマンド)。
4	マルチフェッチ ET/BT の実行中ですが、ISN はホールド状態ではありません。これまでに解放された ISN では ET/BT が正常に実行されました。それ以外の ISN はホールド状態のままです。

Response 3

説明：

次のいずれかが発生しました。

- エンドオブファイルまたはエンドオブリスト条件が検出されました。
- 空白または長さの正しくないオーナー ID、またはレコードに許可されていないオーナー ID を使用してマルチクライアントファイルのレコードを読み込み/変更しようとしてしました。

Response 7

説明：

最大検索時間 (TLSCMD) を超過することが推定されたため、複合検索コマンドが拒否されました。

Response 8

説明：

保留中のバックアウト操作が原因で、ワークでのオーバーフローを防ぐために現在のユーザーによるコマンドが中断されました。

対処：

LP パラメータに指定された値を増加する必要がある可能性があります。

Response 9

説明：

このレスポンスコードの原因と対処を示すサブコードは、ACBのアディクション2フィールドの下位 (右端) 2 バイトまたは ACBX のエラーサブコード (ACBXERRC) フィールドに表示されます。以下にサブコードとその意味を示します。

1	<p>ホールドキューがいっぱいだったため、ユーザーはバックアウトされました。</p> <p>対処：ホールドキューエレメント (ADARUNNH パラメータ) の数を増やすか、ET コマンドの発行間隔が短くなるようにアプリケーションを調整します。</p>
2	<p>トランザクションタイムリミット (TT) を超えたので、トランザクションはバックアウトされました。</p> <p>対処：タイムアウトの原因を修正して、トランザクションを再スタートします。</p>
3	<p>次のどれかに該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ トランザクションの非アクティビティタイムリミット (TNAE、TNAX、TNAА) を超えました。 ■ ユーザーは、STOPF オペレータコマンド、STOPI オペレータコマンド、または Adabas Online System コマンドによって停止されました。 ■ ET ロジックユーザーに対してセキュリティ違反のレスポンスコードが返されました。セキュリティ違反のレスポンスコードについては『Adabas Security Manual』を参照してください。 ■ 新規ユーザーが OP コマンドを発行する際に、既存ユーザーが発行したときと同じユーザー ID (ADD1 内) を指定し、その既存ユーザーがアクティブでない時間が 60 秒を超えた場合、新規ユーザーは、2 回目の OP コマンド (最初の OP コマンドのレスポンスコードは 9、サブコードは 64) を発行することで、既存ユーザーのユーザー ID を引き継ぐことができます。既存ユーザーが再びアクティブになると、このサブコードが返されます。 <p>対処：タイムアウトの原因を修正して、トランザクションを再スタートします。</p>

15	<p>ワークエリアのオーバーフローが発生したため、ユーザーはバックアウトされました。</p> <p>対処：データプロテクションエリアの要求を削減するためにトランザクションの長さを縮小するか、またはワーク上のプロテクションエリアを拡張します。</p>
17	<p>Adabas クラスタのピアニュークリアシが失敗した後、オンラインリカバリプロセスが開始されました。このプロセスの終了時、アディション1フィールドにユーザーが指定した OP コマンドの ETID をニュークリアシが再取得できませんでした。</p> <p>対処：（アプリケーションプログラムで）ユーザー ID を再取得するためにアディション1フィールドに指定した ETID で OP コマンドを再度実行してください。Software AG 技術サポートに連絡してください。</p>
18	<p>Adabas クラスタのピアニュークリアシが異常終了したため、ユーザーのアクティブなトランザクションが中断され、バックアウトされました。</p> <p>対処：（アプリケーションプログラムで）トランザクションを再度実行してください。</p>
19	<p>Adabas クラスタのピアニュークリアシが異常終了したため、ユーザーのアクティブなコマンドが中断され、停止しました。中断されたコマンドがコマンド ID (CID) を使用していた場合、そのコマンド ID は削除されます。</p> <p>対処：（アプリケーションプログラムで）Adabas コマンド ID に属している現在のコンテキストをクリーンアップして、再取得してください。トランザクションを再度実行してください。</p>
20	<p>ユーザーがオープントランザクションを保持している状態で、ユーザーに割り当てられた Adabas クラスタニュークリアシが終了しました。トランザクションは、すでにバックアウトされたか、これからバックアウトされます。</p> <p>対処：（アプリケーションプログラムで）OP コマンドのアディション1フィールドにユーザー ID (ETID) 付きでユーザーが定義された場合、ETID を再取得するために OP コマンドを再度実行してください。Adabas コマンド ID に属している現在のコンテキストをクリーンアップして、再取得してください。トランザクションを再度実行してください。</p>
62	<p>ユーザー ID/ET ID が指定されずに、OP（オープン）コマンドが発行されました。この種類のアプリケーションまたは環境には、ユーザーID/ET ID は必須です。</p> <p>対処：OP コマンドにユーザー ID/ET ID を指定して再実行します。</p>
63	<p>ET ステータスではない ET ユーザーに対して、OP コマンドが発行されました。Adabas が生成した BT コマンドによりユーザーはバックアウトされ、操作は終了します。</p> <p>対処：再度 OP コマンドを実行します。</p>
64	<p>8 バイトの ET ID 付きの OP コマンドが発行しましたが、この ET ID はすでに存在します。</p>
66	<p>OPENRQ=YES を指定した Adabas セッションがアクティブでしたが、ユーザーは OP コマンドを発行せずに Adabas コマンドを発行しました。</p> <p>対処：全ユーザーが最初の Adabas コマンドとして OP コマンドを発行することを確認します。</p>
67	<p>ユーザープロファイルの読み込み中、ETID が定義されたオープンコマンドに対して WORK パート 1 のスペースが足りませんでした。</p>
70~73	<p>Adabas System Coordinator が使用中のときにだけこれらのサブコードは出力されます。詳細については、Adabas System Coordinator のドキュメントを参照してください。</p>

74~78	Adabas Transaction Manager が使用中のときにだけこれらのサブコードは出力されます。詳細については、Adabas Transaction Manager のドキュメントを参照してください。
79	(オプションの) 端末のタイムアウトを示すために Adabas System Coordinator によって使用されます。詳細については、Adabas System Coordinator のドキュメントを参照してください。
80~99	Adabas Transaction Manager が使用中のときにだけこれらのサブコードは出力されます。詳細については、Adabas Transaction Manager のドキュメントを参照してください。
130	ユーザーのコマンドがクラスタ内のニュークリアスに発行されてから、このニュークリアスで処理用のコマンドが選択されるまでに、クラスタでユーザーの UQE が削除されました。
249	Adabas Vista が使用中のときにだけこのサブコードは出力されます。詳細については、Adabas Vista のドキュメントを参照してください。

Response 10

説明：

ピリオディックグループのオカレンス数が多すぎます。

Response 17

説明：

このレスポンスコードの原因と対処を示すサブコードは、ACBのアディション2フィールドの下位 (右端) 2 バイトまたは ACBX のエラーサブコード (ACBXERRC) フィールドに表示されます。以下にサブコードとその意味を示します。

1	システムファイル 1 または 2 にアクセスしようとしたが、OP コマンドが発行されませんでした。 対処：OP コマンドで開始するようにプログラムを作成し直します。
2	システムファイル 1 または 2 にアクセスしようとしたが、ユーザーに権限がありません。 対処：アクセスを回避するようにプログラムを修正します。
4	次のいずれかが発生しました：指定したファイル番号が無効です。ADARUNDTP= {RM/TM} を実行中に、非 ATM ユーザーが ATM システムファイルへのアクセス/更新を試行しました。
5	ファイルがロードされていないか、または別のユーザーが特権を使用しているためにロックされています。ADAORD または ADAINV ユーティリティ処理の場合、書き込みフェーズが開始され、要求した処理タイプに対してファイルが使用できなくなりました。
6	E1 (レコード削除) コマンドが発行されましたが、正しいファイル番号が指定されていません。
7	システムファイル 1 または 2 に対して LF コマンドを実行しようとした。
8	R オプション付きで実行された OPEN (OP) のファイルリストにないファイルにアクセスしようとした。

9	プログラムがアクセスしようとしたファイルは、完全にロックされています。これは通常、FCBに格納する可能性がある、論理ファイルエクステンツの最大番号が使用されたことが原因です。 対応：ファイルをリオーダーし、ロックを解除してください。操作を続行します。
10	EXU 排他ステータスでロックされたファイルにアクセスしようとしてしました。
11	ロードされていないファイルに対して LF コマンド (FDT 読み込み) が実行されました。FCB も FDT も存在しません。
12	ファイルは LOCKF でロックされています。
13	ファイルはパスワードで保護されており、パスワードが指定されていますが、該当するセキュリティファイルがありません (ロードされていません)。
14	LOB ファイルに対してコマンドが発行されました。LB フィールドに関連するコマンドの発行先は、LOB ファイルではなく基本ファイルにする必要があります。
16	属性 RPLUPDATEONLY=YES を指定してロードしたファイルに対して更新処理 (A1、E1、N1/2 など) を実行しようとしてしました。
18	ファイルは ALOCKF でロックされています。
21	エンコードエレメント (ECSE) 用のスペースが十分ではありません。
22	ユーザーおよびシステムデータ表現間の変換に必要な ECS オブジェクトをロードできませんでした。
23	ECS オブジェクトがありませんでした。次のオブジェクトがエンコードオブジェクトライブラリに存在している必要があります：File Alpha、File Wide EDD、User Alpha、User Wide EDD、およびファイル/ユーザー、アルファ/ワイドエンコード間の組み合わせ用の PTO 対応：必要な EDD および PTO オブジェクトが存在することを確認してください。
24	ECS 機能 get_attribute() が失敗しました。 対応：この機能のリターンコードは、ニュークリアスメッセージ ADAN7A で記録されます。
25	次のいずれかが発生しました：ECS オブジェクトに、必要なエンコード属性がありません (エンコードタイプ、クラス、およびフラグ)。デフォルトスペース文字長が、4 よりも大きい長さでした。デフォルトスペーステーブルの割り当てに失敗しました。DBCS オンリー水準が存在し、ワイドスペース文字が未定義、または 4 よりも大きい長さだったか、ワイドスペーステーブルの割り当てに失敗しました。
249	Adabas Vista が使用中のときにだけこのサブコードは出力されます。詳細については、Adabas Vista のドキュメントを参照してください。

Response 18

説明：

ファイル番号の使用方法が正しくありません。連続した L2/L5 コール間でファイル番号が変更されました。

Response 19

説明：

アクセスオンリーで開かれたファイルを更新しようとした。ACB のアディション 2 フィールドの左端 2 バイトまたは ACBX のファイル番号 (ACBXFNR) フィールドに、ファイル番号が格納されている可能性があります。

Response 20

説明：

コマンド ID 値として、次のような無効な値が指定されました。

- X'00000000'
- X'40404040'
- X'FFxxxxxx'

対処：

上記の値をコマンド ID 値として使用しないようにします。

Response 21

説明：

無効なコマンド ID 値が検出されました。次の説明またはサブコードのいずれかが発生したことを表します。

- L1/L4 コマンドの GET NEXT オプション付きで指定されたコマンド ID 値が見つかりませんでした。
- コマンド ID 値が見つからず、L3/L6 コールがイニシャルコールではありませんでした。
- L3/L6 コマンドで指定されたコマンド ID 値は、他の L2/L5 または L9 コマンドに割り当てられています。
- L9 コマンドで指定されたコマンド ID 値は、他の L2/L5、L3/L6 または L9 コマンドに割り当てられています。
- 指定されたグローバルフォーマット ID が無効です。
- コマンド ID 値は、フォーマットプールですでに別のファイルに対して存在しています。

1：コマンド ID 値は、シーケンシャルコマンドテーブルにありませんでした。これは、イニシャルコールではないのに前のイニシャルコールがなかったか、またはイニシャルコールが別ファイルに発行されていたことを示します。

6：S8 コマンドに指定されたコマンド ID 値が見つかりません。

7：指定されたコマンド ID 値は別のファイルの内部フォーマットバッファに割り当てられていました。

8：S8 コマンドに指定されたコマンド ID 値は、未ソートの ISN リストに対するものです。

9：PREFETCH=YES または PREFETCH=OLD で実行しているアプリケーションが L3/L6/L9 コマンドの読み込み方向をダイナミックに逆転させようとした。これは許可されません。

Response 22

説明：

コマンドが正しくありません。このレスポンスコードの原因と対処を示すサブコードは、ACB のアディション2フィールドの下位（右端）2バイトまたは ACBX のエラーサブコード（ACBXERRC）フィールドに表示されます。

LNCSTUB モジュールを使用している場合、このレスポンスコードは、Adabas CICS コマンドレベルリンクコンポーネントに対するイニシャルコール（IC）に問題が発生した可能性があることを示します。Adabas コントロールブロックに IC というコマンドコードが存在する場合は、使用されているリンクルーチンが適切なリリースレベルにないか、またはコマンドレベルバージョンではない可能性があります。

以下にサブコードとその意味を示します。

1	ニュークリアスは無効なコマンドコードを検出しました。 対処：コマンドコードを修正してプログラムを再実行します。
2	ACC（アクセスオンリー）ユーザーはこのコマンドを発行できません。
3	読み取り専用のニュークリアスではこのコマンドを実行できません。
4	OP（オープン）コマンドを事前に発行しないで特権コマンドが発行されました。
5	非特権ユーザーはこのコマンドを発行できません。
6	このコマンドはユーザー出口1によって拒否されました。
7	特権コマンドに対して、無効なコマンドオプションが指定されました。
8	予備的なETステータスにあるETユーザーに対しては、このコマンドは無効です。まず、Adabas Transaction Manager を使用してトランザクションを完了します。
9	現在のユーザーは ET/BT コマンドを発行する権限がありません。
10	C2 コマンドは使用できません。
11	C3 コマンドは EXU ユーザーのみが発行可能です。
12	拡張ファイルに対しては、オプション F を指定した L1/4 コマンドは無効です。
13	データベースが中断状態の場合、コールを発行することはできません。
14	無効な特権コマンドです。
15	マルチフェッチオプション M または O を指定した L1 コマンドは、I または N オプションとともに使用します。
16	ユーザーは特権コマンド権限を持っていません。
17	オンラインセーブ中には許可されません。
18	ADALNKX'48 コールロジックを使用するアプリケーションは、ロジックが抑制されたときにこのレスポンスを受け取ります。

21	ET コマンドは、Adabas Transaction Manager によって管理される分散トランザクションには無効です。
22	現在のトランザクションは、すでにヒューリスティックに終了しています。
23	BT コマンドは、Adabas Transaction Manager によって管理される分散トランザクションには無効です。
24	Adabas Transaction Manager によって管理される、ユーザーのトランザクションが進行中であるため、CL は無効です。
25	Event Replicator Server から Adabas ニュークリアスにコマンドが送信されましたが、ADARUN REPLICATION=YES を指定して Adabas ニュークリアスが稼動していません。
26	メッセージのターゲットが、実際には Event Replicator Server ではなく別の Adabas ニュークリアスであるにもかかわらず、Adabas ニュークリアスから Event Replicator Server に接続しようとした。
29	Event Replicator Server データベースから接続しようとしたときに、エラーが発生しました。接続先が Event Replicator Server ではなく別の Adabas ニュークリアスであることを確認し、再試行してください。
32	シングルユーザーモードでレプリケートされたファイルを更新しようとした。レプリケートされたファイルはマルチモードでのみ更新することができます。レプリケーションはシングルモードではサポートされていません。レプリケーションに対応したニュークリアスをメンテナンスする場合は、シングルモードで開始することができます。
50	ルーター (LCC) が無効なコマンドコードを検出しました。新しい ACBX タイプのコールがバックレベルルーターに送信されるときに、このエラーが発生することがあります。

Response 23

説明：

L2/L5 コマンドシーケンスに対して、無効な開始 ISN が指定されました。

- この ISN は、ファイル内のレコードに割り当てられていません。
- この ISN は、ファイルに指定された MAXISN よりも大きい値です。

Response 24

説明：

S9 コマンド

- ISN バッファ内の ISN リストは、すでにソートされていました。
- ISN バッファ内の ISN リストに無効な ISN が含まれていました。
- ISN リストを ISN 順にソートしようとしたのですが、D オプションが指定されていました。

Response 25

説明：

S1/S4 または S2/S9 コマンドの ISN 下限フィールドに指定された ISN が見つかりませんでした。

Response 26

説明：

S9 コマンドに無効な ISN バッファ長が検出されました。ISN の数の指定に従うと、ソート対象の ISN の数が 0 になります。

2	ISN バッファを指定した S9 コマンドに、ファイルの TOP-ISN よりも大きな ISN が含まれていません。
---	------------------------------------------------------------

Response 27

説明：

サーチバッファ長フィールドとバリュースearchバッファ長フィールドに示されたサーチバッファとバリュースearchバッファの合計サイズに対して、ワークスペースが不足しています。

1	フォーマット変換の生成に必要なワークスペースがありません。
---	-------------------------------

Response 28

説明：

L3/L6 または S2/S9 コマンドで、アディクション 1 フィールドの最初の 2 バイトに指定されたディスクリプタが正しくありません。

- アディクション 1 フィールドに指定されたディスクリプタは、サーチバッファに指定されたディスクリプタと異なります。
- 指定されたフィールドはディスクリプタではありません。
- 一連のコール間でディスクリプタが変更されました。
- 指定されたディスクリプタは、ピリオディックグループに含まれています。

Response 29

説明：

L3/L6 コマンドで、バリューによる再位置決めが試行されましたが（アディション1フィールドの3~4バイトは空白）、コマンドオプション2のフィールドには、Vが指定されていません。コマンドIDは解放されます。

Response 34

説明：

無効なコマンドオプションが指定されています。

対処：

無効なコマンドオプションを削除するか、または正しいコマンドオプションを指定します。

Response 35

説明：

ユーザー/DBA は、Adabas クラスターデータベースにのみ有効な非クラスター Adabas ニュークリアスに対する機能を実行しようとしていました。

Response 40

説明：

次の構文エラーのいずれかが、フォーマットバッファに検出されました。

- 終了のピリオドがありません。
- 先頭にピリオドが指定されています。
- 長さ/フォーマットに範囲定義が指定されています。
- 無効な要素が検出されました。
- サーチバッファに指定された L9 ディスクリプタ名がフォーマットバッファに指定された名前と一致しません。
- 更新コマンドにフォーマット C. が指定されました。
- サブコード9：バッファが複数あるフォーマットを選択することはできません。

Response 41

説明：

フォーマットバッファに1つ以上の指定エラーが存在します。エラーが発生したフィールドのショートネームは、ACBのアディクション2フィールドのオフセット2またはACBXのエラー文字フィールド（ACBXERRB）に格納されます。次の指定エラーが存在する可能性があります。

1	フォネティックディスクリプタまたはハイパーディスクリプタが指定されました。
2.	次のフィールド指定エラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 指定されたフィールド名は、編集マスク用に予約されています。 ■ 選択されたファイルにこのフィールドがありません。
3	次のインデックスエラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ピリオディックグループ名またはフィールドに、インデックスが指定されていません。 ■ 上限を超えるグループまたはマルチプルバリューフィールドインデックスが指定されました。バージョン8より前のAdabasバージョンでは上限が"191"、バージョン8以降では上限が"65,534"です。 ■ 指定されたインデックスはゼロ（0）です。 ■ インデックスの範囲指定が降順になっています。 ■ マルチプルバリューフィールドの一部にインデックスが指定されていません。 ■ マルチプルバリューフィールドカウントの参照に、インデックスが指定されていません。
4	次のピリオディックグループエラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ピリオディックグループ参照に、インデックスが指定されていません。 ■ マルチプルバリューフィールドを含むグループ名が指定されています。 ■ ピリオディックグループ参照に、長さ/フォーマットが指定されています。 ■ ピリオディックグループ参照に、インデックスが指定されていません。
5	グループエラーが発生しました。グループ参照に長さ/フォーマットが指定されています。
6	次のマルチバリューフィールドのエラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ■ マルチプルバリューフィールドでないフィールドにカウントが指定されています。 ■ マルチプルバリューフィールドのインデックスの付け方が混在しています。フォーマットバッファでは、1種類の方法しか使用できません。
7	FDT/SDT 内にディスクリプタ名がありません。
8	長さインジケータ (<i>f1dL</i>) またはアスタリスク表記 (<i>f1d,*</i>) をフィールド <i>f1d</i> に指定することはできません (例えば <i>f1d</i> がスーパーディスクリプタまたはサブディスクリプタフィールドの場合)。
9	ピリオディックグループのエレメンタリラージオブジェクト (LB) フィールドに 1-N または x-N 範囲表記を指定することはできません。
10	L9 コマンドに LB フィールドを指定することはできません。
11	長さインジケータ (<i>f1dL</i>) またはアスタリスク表記 (<i>f1d,*</i>) をフィールド <i>f1d</i> に指定することはできません (例えば <i>f1d</i> に LA または LB オプションがない場合)。

12	LB フィールドで旧式の MU 構文を使用することはできません。
13	長さインジケータ ($f1dL$) またはアスタリスク表記 ($f1d,*$) は、カウントインジケータ ($f1dC$) またはフィールド範囲 (例えば AA-ZZ) と組み合わせて指定することはできません。
14	長さインジケータ ($f1dL$) とアスタリスク表記 ($f1d,*$) を組み合わせて指定することはできません (例えば $f1dL,*$)。
15	長さインジケータ ($f1dL$) またはアスタリスク表記 ($f1d,*$) と有意性演算子を組み合わせて指定することはできません (例えば $f1dS$)。

対処:

指定エラーを修正し、コマンドを再発行するか、ジョブを再実行します。マルチプルフィールドおよびピリオディックグループにインデックスをつける際の構文の詳細については、『Adabas コマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

Response 42

説明:

スペースの問題が発生しました。以下にサブコードとその意味を示します。

1	ワークプールが小さすぎるため、ユーザーフォーマットを格納できません。 対処: LWP 指定値を大きくし、再試行してください。
2	内部フォーマットバッファが小さすぎるため、内部的な構造に変換されたユーザーフォーマットを格納することができません。 対処: LFP 指定値を大きくし、再試行してください。

Response 43

説明:

L9 コマンドに誤りがあります。フォーマットバッファに指定されたディスクリプタ値が、サーチバッファに指定されたディスクリプタ値と一致しません。

Response 44

説明：

次のフォーマットバッファエラーが発生しました（サブコードは左端の列に表示）。

1,3	フォーマットバッファ指定に誤りがあります（条件フォーマットバッファは更新処理に使用できません）。
2,4	L9 コマンドのフォーマットバッファ形式は他のコマンドに使用できません。
5	L9 コマンドにより、フォーマットバッファの条件フォーマットが指定されました。
6	浮動小数点フィールドが 4 または 8 以外の長さで指定されました。または、固定小数点フィールドが 4 以外の長さで指定されました。
7	条件フォーマットと複数のフォーマットバッファが指定されています。
8	現在の Adabas コールは、フォーマットバッファの番号が CID によるフォーマット参照とは異なります。

Response 45

説明：

内部フォーマットバッファは 64K 以上を必要としています。

Response 46

説明：

NQCID パラメータの最大値を超えました。TBI 要素と TBQ 要素のいずれかの数、または両方の数が NQCID を超えています。

Response 47

説明：

NISNHQ パラメータの最大値を超えました。この値は ADARUN NH パラメータ値の 1/4 から 65535 までの間です。

Response 48

説明：

OP、N1 などのコマンドの処理中にエラーが発生しました。ACB のアディション 2 フィールドの下位（右端）2 バイトまたは ACBX のエラーサブコード（ACBXERRC）フィールドの 16 進サブコードを参照してください。

1	指定されたファイルは、要求された使用方法に対してロックされています。
2	指定されたファイルは他のユーザーが使用しています。
3	オンラインセーブ操作の実行中のため、ユーティリティを開始できません。
5	オンラインセーブ操作の実行中のため、データベースの排他制御を必要とするユーティリティは開始できません。
6	ユーザーキューが空でないので、データベースの排他制御を必要とするユーティリティは開始できません。
8	OP コマンドに指定されたユーザー ID は、すでに他のユーザーが使用しています。
9	オープンコマンドで EXU/EXF/UTI ロックが要求されましたが、ファイルは現在 UPD/EXU/EXF/UTI ステータスのユーザーのファイルリストにあります。
10	オープンコマンドで EXF/UTI ロックが要求されましたが、ファイルは現在 ACC ステータスのユーザーのファイルリストにあります。
11	特権を持たないユーザーが、UTIONLY ステータスのニュークリアスにオープンコマンドを発行しました。
13	アドバンスロックファイルに対してオンラインファイルセーブが試行されました。
14	アドバンスロックファイルに対して UPD/ACC のオープンが試行されました。
15	オンラインユーティリティ（Adabas Online System または ADADBS）または E1 プログラムリフレッシュに要求されたファイルは、現在使用中です。
16	コマンドのレコードバッファに ACODE または WCODE が指定されましたが、ニュークリアスで UES サポートがアクティブになっていません。
17	指定されたファイルは、要求された使用方法に対してロックされたアドバンスロックファイルです。
18	2 フェーズコミット（予備的に ET が完了し、最終の ET が未解決）に参加しているか、またはトランザクションがヒューリスティックに終了されたユーザーによって、2 番目のコマンドが発行されました。
20	未確定のトランザクションまたはヒューリスティックに終了されたトランザクションが WORK パート 4 にあるので、データベースの排他制御を使用した再生成/バックアウトが拒否されました。
21	ユーティリティによる使用のため、ファイルがロックされています。
25 - 30	Adabas Transaction Manager 用に予約済みです。Adabas Transaction Manager が使用中のときにだけこれらのサブコードは出力されます。詳細は <i>Adabas Transaction Manager</i> のドキュメントを参照してください。
31	通常の使用により、ファイルがロックされています。
32	排他更新（EXU）ユーザーがファイルを使用中です。別のユーザーからの更新要求は許可されません。

33	ファイルの排他制御（EXF）またはユーティリティ更新（UTI）で使用されるため、ファイルがロックされています。別のタイプのユーザーからの要求は許可されません。
----	---------------------------------------------------------------------------------

Response 49

説明：

圧縮レコードが長すぎます。ファイルに許可された最大圧縮レコード長を超過しました。次のサブコードが示される可能性があります。

1	マルチプルバリュー（MU）フィールド
2	ピリオディック（PE）グループフィールド
3	MU フィールド
4	PE グループ
5	PE グループレベル
6	その他のフィールド
7	プロテクションロギングに対してレコードが長すぎます（内部エラー）。
8	圧縮レコードが長さの制限を超えています。マルチプルフィールドの更新中にエラーが検出されました。
10	ロングアルファまたはワイドフィールド

Response 50

説明：

OP コマンドの処理中、レコードバッファに構文エラーが検出されました。

Response 51

説明：

OP コマンドの処理中、レコードバッファにエラーが検出されました。

Response 52

説明：

レコードバッファ、バリューバッファ、またはサーチバッファの処理中に、次のいずれかのエラーが発生しました。ACB のアディション 2 フィールドの右端 2 バイトにサブコードが格納されます。また、サブコードが 1~5 の場合は、エラーが発生した Adabas フィールド名が左端 2 バイトに格納されます。ACBX のエラーサブコード（ACBXERRC）フィールドにサブコードが格納されます。サブコードが 1~5 の場合は、エラーが発生した Adabas フィールド名がエラー文字フィールド（ACBXERRB）に格納されます。

1	レコードバッファのパックまたはアンパック 10 進値が無効です。
2	レコードバッファに指定された可変長フィールドの長さが無効です。
3	NN オプションのフィールドに無効な NULL 値が指定されたか、値が指定されませんでした。
4	レコードバッファの S 要素の値が正しくありません。
5	バリュースタックの S 要素の値が正しくありません。
6	照合ディスクリプタのエンコードが失敗しました。照合ディスクリプタ出口がリターンコードを返しました。
7	照合ディスクリプタのデコーディングが失敗しました。照合ディスクリプタ出口がリターンコードを返しました。

Response 53

説明：

次のいずれかのエラーが発生しました（サブコードは左端の列に表示）。

0	レコードバッファが小さすぎます。 対処：レコードバッファサイズの状態によって、次のようになります。 ■ レコードバッファサイズがフォーマットバッファに指定された長さと一致しない場合、レコードバッファサイズまたはフォーマットバッファ指定を変更して、矛盾点を解決してください。 ■ レコードバッファサイズが、設定されたグローバルフォーマットID (GFID) と一致しない場合、GFID を解放するか、レコードバッファサイズを変更して GFID と一致させてください。 ■ レコードバッファサイズのデフォルト値が小さすぎて、ADAULD ユーティリティの実行中、DVT を含むファイルにレコードを保持できない場合、ADAULD LRECL パラメータを設定して、レコードバッファのサイズを増やしてください。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。
2	ISN バッファが小さすぎます。 対処：バッファサイズを増やします。
7	対応するフォーマットバッファに定義されたデータに対して、1つ以上のレコードバッファが小さすぎます。EDEERE のバッファ番号にエラーがあります。
8	参照先の既存のフォーマットバッファでは、レコードバッファに指定されたスペースよりも大きなスペースが必要です。 ADACMPDECOMPRESS の使用時にこのサブコードが発生した場合は、出力レコードの LRECL が小さすぎることを示します。
249	Adabas Vista が使用中のときにだけこのサブコードは出力されます。詳細については、Adabas Vista のドキュメントを参照してください。

Response 54

説明：

C3、C5、または ET コマンドに対するレコードバッファが長すぎます。最大長は 2048 バイトです。次のサブコード（16 進）が示される可能性があります。

1	C3 コマンドのレコードバッファが長すぎます。
2	C5 コマンドのレコードバッファが長すぎます。
3	ET コマンドのレコードバッファが長すぎます。

対処：

レコードバッファの指定値を修正し、C3、C5、または ET コマンドを再発行します。

Response 55

説明：

次のいずれかが発生しました。

- 読み込み操作を実行中、SQL NULL (NC) オプションで定義されたフィールドに NULL 値が見つかりましたが、フォーマットバッファはこのフィールドに対して S (有意性 NULL) インジケータを保持していませんでした。

ACB のアディション 2 の左端 2 バイトにフィールド名が返され、右端 2 バイトにレコードバッファ内へのオフセットが返される場合があります。ACBX のエラー文字フィールド (ACBXERRB) にフィールド名が返され、バッファ内のエラーオフセット (ACBXERRA または ACBXERRG) フィールドにレコードバッファ内のオフセットが返される場合があります。

- 互換性のないデータフォーマットまたはその他の互換性の問題が原因で、フォーマット変換が実行できませんでした。

ACB のアディション 2 の左端 2 バイトにフィールド名が返され、右端 2 バイトにレコードバッファ内へのオフセットが返されます。ACBX のエラー文字フィールド (ACBXERRB) にフィールド名が返され、エラーサブコード (ACBXERRC) フィールドにサブコードが返されます。

0	レコードの圧縮解除での変換エラーです。
1	フォーマット間の変換が無効です。
2	無効な固定エンコード長です。例えば、コードポイントサイズが 2 バイトのユーザーエンコード Unicode に、偶数以外の長さが指定されている場合です。
4	非 IBM 浮動小数点フォーマット変換時の浮動小数点フィールドの変換エラー (アンダーフロー) です。
5	NV オプションを使用したフィールドのフォーマット変換は許可されません。

6	無効な長さが指定されました（例えば、Unicode エンコードのワイド文字フィールドの長さは偶数である必要があります）。
7	フォーマット間の変換が無効です（サブコード 1 とは別の状況）。
8	非 IBM 浮動小数点フォーマット変換時の浮動小数点フィールドの変換エラー（オーバーフロー）です。
n	ユーザーおよびシステムデータ表現間のデータ変換でエラーが発生しました。ECS からの 2 バイトエラーコードはありません。
255	変数フィールド用のフィールド長が最大長を超えました。

Response 56

説明：

次のいずれかが発生しました。

	ディスクリプタ値が長すぎます。
n	照合値が最大値の 253 バイトを超えました。サブコード n は、照合ディスクリプタ出口番号です。

Response 57

説明：

L9 コマンドに誤りがあります。サーチバッファまたはアディション 1 フィールドに指定されたディスクリプタが正しくないか、ディスクリプタが指定されていません。

Response 58

説明：

フォーマット選択条件に該当するフォーマットが見つかりませんでした。

Response 59

説明：

サブフィールドのフォーマット変換が実行できません。ソースフィールドは F または G フォーマットです。

Response 60

説明：

フォーマットバッファまたはサーチバッファで構文エラーが検出されました。通常 ACB では、アディション 2 フィールドの最初の 2 バイトには、エラーが検出されたときに調査中だった 2 文字が返され、このフィールドの右端の 2 バイトには、次のいずれかのサブコードが返されます。ACBX のエラー文字フィールド (ACBXERRB) にはエラーが検出されたときに調査中だった 2 文字が返され、エラーサブコード (ACBXERRC) フィールドには次のいずれかのサブコードが返されます。

1	フォーマットバッファ長が正しくありません。
2	サーチバッファの構文要素が正しくありません。
3	リテラル値に対する開始/終了の引用符がありません。
4	リテラル値が 0 バイトです。
5	デリミタが正しくないか、ピリオドがありません。
6	閉じカッコ ")" がありません。
7	ソフトカップリングまたは条件フォーマットが空です。
8	FN 定義の 2 番目の文字が正しくありません。
9	編集マスク番号に 15 より大きい値が指定されています。
10	フィールド名指定の後に無効な文字があります。
11	ABN (xxx) / AB3 (xxx) / AB3-6 (1-4) の形式が正しくありません。
12	8 桁を超える数値は許可されません。
14	L 要素の定義が無効です。

Response 61

説明：

サーチバッファでエラーが検出されました。このレスポンスコードには、次のいずれかのサブコードが含まれる場合があります。

サブコード	説明
3	S8 コマンドのコマンドオプション 2 に無効な論理演算子が指定されました。
7	このサブコードは、次のいずれかのエラーが発生したことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ディスクリプタ値の長さが 253 バイトを超えています。 ■ ファイル番号の指定が正しくありません。 ■ Event Replicator の初期状態定義で選択条件が無効です。 ■ S または N 演算子の使用方法が正しくありません。

サブ コード	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 要素の順序が正しくありません。 ■ 指定フィールドはディスクリプタではありません。 ■ 指定されたフィールドに、アクティブな LA オプションがあります。 ■ ピリオディックグループ内のディスクリプタがインデックスなしで指定されました。 ■ ピリオディックグループ内のディスクリプタに対して部分条件が正しくないか、異なるインデックスが使用されました。 ■ ピリオディックグループのインデックスが正しくありません。 ■ フォネティックディスクリプタの使用方法が正しくありません。 ■ ピリオディックグループから派生したディスクリプタ、またはピリオディックグループ内のディスクリプタは使用できません。 ■ フォネティックディスクリプタの指定に FROM-TO 演算子が使われています。 ■ FROM-TO の範囲指定が正しくないか、FROM に、TO より大きい値が指定されています。 ■ BUT-NOT に指定された値が、先に指定された FROM-TO の範囲外です。 ■ ISN リスト処理に無効なオプションが指定されています (S8 コマンド)。 ■ サーチバッファの S 有意性空値インジケータが、EQ (等しい) 以外の値演算子に指定されましたが、これは許可されていません。
8	指定された FROM-TO の範囲は無効です。 BUT-NOT に指定された値が、先に指定された FROM-TO の値の範囲外です。
9	無効な検索条件が指定されました。

Response 62

説明：

次のいずれかが発生しました。

- サーチバッファ長フィールドおよびバリュースearchバッファ長フィールドに指定されたサーチバッファ/バリュースearchバッファの長さが、指定された検索条件に対して不足しています。
- サーチバッファの最初の文字がピリオド (.) です。
- サーチバッファ内にピリオド (.) がありません。

Response 63

説明：

サーチバッファに指定された コマンド ID 値が見つかりませんでした。

Response 64

説明：

このレスポンスコードは、Adabas ユーティリティおよび Adabas Online System (AOS) とのコミュニケーションに使用されます。このレスポンスが返された理由は、次のいずれかです。

- 要求した機能は、Adabas システムファイル（チェックポイントおよびセキュリティファイルを含む）に対して実行できません。ADAREP 出力レポートでシステムファイルのリストを参照するか、ジョブ出力のサブコードで詳細な情報を確認してください。
- AOS または ユーティリティ機能でエラーが発生しました。AOS については、AOS モジュール番号に続いて、エラーメッセージにサブコードが表示されます。ユーティリティ機能については、メッセージテキスト内にサブコードが示されます。

対処：

レスポンスコード 64 / サブコードの対処方法が不明な場合は、サブコードに加え、レスポンスコードの原因となった機能を記録して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 65

説明：

内部エラーが発生しました。ニュークリアスは、スペース計算エラーを検出しました。

Response 66

説明：

マルチクライアントファイルでの更新処理中に変換できないオーナー ID が検出されました。オーナー ID が空白か、長すぎます。

Response 67

説明：

次のエラーのいずれかが発生しました。

	Sx コマンドの実行中に内部エラーが発生しました。
2	スーパーフィールド生成中にエラーが発生しました。

対処：

すべての関連情報を取得して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 68

説明：

検索条件に非ディスクリプタフィールドが使用されましたが、非ディスクリプタ検索機能はオフに設定されています（デフォルトはオン）。

対処：

ADARUN パラメータ NONDES は、非ディスクリプタ検索を拒否するように設定されています。NONDES パラメータをデフォルト値にリセットするか、アプリケーションから非ディスクリプタ検索を削除してください。Natural には、このような Natural アプリケーションの定義を確認するためのトレース機能が備わっています。詳しくは Software AG にお問い合わせください。

Response 70

説明：

シーケンシャルコマンドテーブルがオーバーフローしました。

対処：

DBA は、LQ パラメータに指定している値を大きくするか、RC コマンドを使用します。

Response 71

説明：

ISN 結果リストテーブルがオーバーフローしました。

対処：

DBA は LI パラメータに指定している値を大きくするか、RC コマンドを使用します。

Response 72

説明：

次のエラーのいずれかが発生しました。

7	ユーザーキューでオーバーフローが発生しました。
8,9	ユーザーキューファイルリストプールでオーバーフローが発生しました。

対処：

DBA は、NU パラメータに指定している値を大きくします。

Response 73

説明：

ISN 結果リストを格納する WORK データセットのセクションでオーバーフローが発生しました。

対処：

DBA は、WORK データセットのサイズを大きくするか、Adabas セッション中に保存される ISN リストの数を少なくします。

Response 74

説明：

複合 FIND コマンドを処理するためのスペースが WORK データセットにありません。

対処：

この問題は、WORK データセットのサイズを大きくするだけでは解決しません。代わりに、LWKP2 (WORK パート 2) の値を (任意の) 計算値よりも大きく設定します。その後、WORK パート 3 に十分なスペースが得られるように、WORK データセットのサイズを大きくします。

Response 75

説明：

追加の論理ファイルエクステント割り当てが発行されましたが、FCB で処理できる最大値がすでに割り当てられています。エクステントのスペースが不適切だと、BT または自動再スタート処理によって、ファイルがロックされることがあります (レスポンスコード 48 参照)。

対処：

DBA に連絡してください。アソシエータまたはデータストレージエクステントの再割り当てが必要な場合があります。

Response 76

説明：

インバーテッドリストインデックスでオーバーフローが発生しました (最大値は 15 レベル)。

Response 77

説明：

要求されたアソシエータまたはデータストレージエクステントに十分なスペースがありません。次のサブコードでエラーの詳細が特定されます。

1	FST が空です。
2	AC START RABN が利用可能ではありません。
3	AC END RABN が利用可能ではありません。
4	FST が 5 つの ASSO ブロックに適合しません。
5	AC エクステントの割り当てで FST の残量がなくなりました。
6	ASSO スペース割り当て RABN がデバイス上にありません。
7	必須デバイスの ASSO スペースが利用可能ではありません。
8	FROM RABN は利用可能ですが、連続したスペースが不足しています。
9	要求されたデータストレージスペースが確保できません。
10	前のエクステントと同じデバイス上のデータストレージスペースが確保できません。
11	FST が空か、現在の MAXRECL 値のためのデータストレージがありません。
12	FST が空です。

Response 78

説明：

このレスポンスの原因は、次のいずれかのサブコードで示されます。

1	AC ファイルは拡張できません。許可されるのは、1 つのファイルエクステントだけです。
2	ファイルに 40 億個または 16 MB (ISN 長による) を超える ISN が存在します。

対処：

ファイルが 16 MB の制限に達した場合、4 バイト ISN オプションのファイルまたは拡張ファイルに変換します。

Response 79

説明：

ADARUN に、照合ディスクリプタ出口 (サブコード CDXn : n は 1 バイトのバイナリ照合ディスクリプタ出口番号) またはハイパーディスクリプタ出口 (hyperexit) が指定されていません。

対処：

CDXnn または HEXnn パラメータを指定して、ADARUN を再発行します。ADARUN パラメータについての詳細は、『Adabas オペレーションマニュアル』を、ユーザー出口の詳細については『Adabas DBA リファレンスマニュアル』を、それぞれ参照してください。

Response 82

説明：

ハイパー出口ルーチンが無効な ISN を返しました。

Response 83

説明：

ハイパーテーブルでオーバーフローが発生しました。

Response 84

説明：

サブディスクリプタまたはスーパーディスクリプタの値が多すぎます。

Response 85

説明：

レコードの更新/追加コマンドで、ディスクリプタ値が多すぎます。

Response 86

説明：

ハイパーディスクリプタ出口で次の原因によるエラーが発生しました。

- パック 10 進のディスクリプタ値に対して、無効な符号が作成されました。
- 無効な長さバイトの値が返されました。
- 更新コマンドによって ISN が変更されました。

Response 87

説明：

Adabas バッファプールがロックされています。Adabas バッファプールが小さすぎるため、コマンド実行（パラレル）に必要なすべてのブロックを格納できません。

対処：

次の方法でバッファプール（LBP）の大きさを確認します。

1	DPARM を指定して LBP 値を調べます。
2	ADARUN LBP パラメータ値を大きくします。
3	操作を再試行します。エラーが繰り返し発生する場合は、Software AG サポートに連絡してください。

Response 88

説明：

このレスポンスコードは、通常ワークプール（LWP）不足になったときに返されます。このレスポンスコードが返された場合は、ACB のアディション 2 フィールドの下位（右端）2 バイト、または ACBX のエラーサブコード（ACBXERRC）フィールドの 16 進サブコードを参照してください。次にサブコードとその意味を示します。

1	十分な LWP ワークプールスペースがありません。
2	コマンドを実行するために必要なスペースまたはホールドキューのリソースを取得できませんでした。これは、ニュークリアスがシングルユーザーモード（MODE=SINGLE）の場合、またはニュークリアスがマルチユーザーモードでコマンドがスペースを取得しようとしたときに 1 つのスレッドだけが使用されている場合に発生します。
4	ワークプールの更新中にスペースの問題が発生しました。更新される DVT（32K に制限）のワークプール（LWP）に十分なフリースペースがない場合、または更新コマンドで LWP の 8 分の 1 を超えるスペースを必要としている場合に、この問題が発生することがあります。

対処：

次の表に示すサブコード固有の対処の他に、すべてのサブコードについて、LWP ADARUN パラメータ値を大きくして操作を再試行することが可能です。

1	ワークプールの上限設定を確認してください。 LWP ADARUN パラメータの値を大きくして、操作を再試行してください。 セッションの自動再スタート中にサブコード 1 が発生するときは、NU パラメータの値が小さすぎる可能性があります。再発生する場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Response 89

説明：

UQE はすでに使用されていますが、同一ユーザーに対して同時に 2 つのコマンドを実行しようとした。

Response 94

説明：

DDWORKR4 で I/O エラーが発生しました。

Response 95

説明：

ワーク LP エリアで I/O エラーが発生しました。

Response 96

説明：

ADARES REPAIR ユーティリティの実行中にエラーが発生しました。

2	ニュークリアス終了時に I/O エラーが発生しました。アディション 2 に RABN が含まれている可能性があります。
---	-------------------------------------------------------------

Response 97

説明：

バッファフラッシュ時に I/O エラーが発生しました。アディション 2 に RABN が含まれている可能性があります。

Response 99

説明：

I/O エラーが発生しました。

Response 101

説明：

Adabas System Coordinator、Adabas Fastpath、Adabas Vista、Adabas Transaction Manager、Adabas SAF Security などの、クライアントベースのいずれかの Adabas アドオン製品を使用しているとき、エラーが発生しました。

- サブコード 1~20 は Adabas Fastpath で生成されます。
- サブコード 21~69、32766 および 32767 は Adabas System Coordinator で生成されます。

エラーの解決に役立つサブコードおよびコンソールメッセージの詳細については、適切なアドオン製品のマニュアルを参照してください。

Response 102

説明：

スペース計算エラーです。

対処：

オープン操作を再試行してください。

Response 106

説明：

UCB に指定されたプリフェッチテーブルレコードバッファが小さすぎます。

Response 107

説明：

プリフェッチ実行中に、GETMAIN エラーが発生したか、十分なスペースを確保できませんでした。プリフェッチ機能を無効にします。

Response 109

説明：

指定されたコマンド ID は、このユーザーに対して別のデータベース上ですでにアクティブになっています。

Response 110

説明：

コマンド ID プールがいっぱいです。

対処：

ADARUN NQCID または NU パラメータのいずれかまたは両方のサイズを増やしてください。

Response 113

説明：

次のいずれかが発生したため、指定された ISN が無効になりました。

- HI コマンドの発行時に MINISN より小さい ISN が指定されました。
- N2 コマンドの発行時に、ISN が 0 か、ファイルに指定された MAXISN よりも大きい値に指定されました。

- N2 コマンドは発行されましたが、指定された ISN はファイルの他のレコードに割り当てられました。
- 存在しない ISN に対して、A1、L1/L4、E1、または S1/S2/S4 (FB) のいずれかのコマンドが発行されました。
- N1/N2 コマンドは、セキュリティバイバリューによって保護されたファイルにアクセスしようとしたが、コマンドユーザーはファイルのアクセス権を持っていません。
- 読み込みまたは更新コマンドが、空白または無効な長さのオーナー ID、またはレコードに該当しないオーナー ID を使用して、マルチクライアントファイルのレコードにアクセスしようとした。
- サブコード 249 は、Adabas Vista が使用中の場合にのみ出力されます。詳細については、Adabas Vista のドキュメントを参照してください。

Response 114

説明：

ファイルのリフレッシュエラーが発生しました。次のサブコードのいずれかが示されることがあります。

サブコード	説明
1	ファイル (PGMREFRESH=NO) に対してファイルのリフレッシュが許可されていないか、またはコマンド ID フィールド (ACBCID または ACBXCID) が完全に空白ではありません。
2	ユーザーは、ファイルに対するトランザクションを完了していません。更新が実行されたか、レコードがホールド状態ですが、ユーザーは更新をコミットまたはバックアウトするための ET または BT コマンドを発行していません。
3	他のユーザーがファイルにアクセス中か、ファイルを更新中です。これは、Adabas 内部で利用できるユーザーのアクセス数または更新数によって特定されます。
4	このファイルはマルチクライアントファイルであり、ユーザーはスーパーユーザーではありません。

Response 123

説明：

送信側の Adabas クラスタメッセージングサービスによってエラーが報告されました。メッセージが送信されませんでした。次のサブコードのいずれかが示されることがあります。

サブコード	説明
4	有効な宛先（複数可）がありません。
8	宛先が多すぎます。
12	メッセージタイプが無効です。
16	環境が無効です。
20	送信バッファ長を超過しました。
24	受信バッファ長を超過しました。
28	返信または承認（複数可）がありません。
32	AXMCB を割り当てることができません。
36	送信元のシステムでタイムアウトになりました。
40	宛先のシステムでタイムアウトになりました。
44	宛先のシステムでキャンセルされました。
48	宛先のシステムでエラーを受け取ります。
52	バッファを割り当てることができません。
80	メッセージングはアクティブではありません。
96	メンバの終了が失敗しました。
128	他のトランスポートサービスエラー

対処：

問題が解決されない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 124

説明：

受信側の Adabas クラスタメッセージングサービスによってエラーが報告されました。メッセージが送信されました。レスポンスコード 123 で説明されているサブコードのいずれかが示されることがあります。

対処：

問題が解決されない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 125

説明：

1つのクラスタニュークリアスがニュークリアス間コマンドを他の1つ以上のクラスタニュークリアスに発行しようとしたとき、内部エラーが発生しました。通常この状態は異常終了を引き起こします。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 126

説明：

ニュークリアス間コミュニケーションでメッセージングエラーが発生しました。

- ニュークリアスは割り当てられた時間内（ADARUN MXMSG パラメータ参照）に応答しませんでした。
- ブロードキャスト（複数ターゲットとの通信）で1つ以上の問題が発生しました。この場合、各 ACB にレスポンスコード 0 か、123 または 124 が含まれています。

対処：

問題が解決されない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 129

説明：

Adabas クラスタ環境で、ユーザーは、Adabas クラスタニュークリアスによってサポートされていない Adabas 機能を実行しようとしてしました。

Response 130

説明：

次のサブコードのいずれかによって識別されるエラーが Adabas シスプレックスクラスタ環境で発生しました。

サブコード	説明
1	MPM 8 コールでユーザーテーブルエントリ（UTE/PLXUSER）が見つかりませんでした。DBID ではなく、Adabas Cluster Services または Adabas Parallel Services ニュークリアス ID（NUCID）にコマンドが送られたことを示す場合があります。
2	MPM 12 コールでユーザーテーブルエントリ（UTE/PLXUSER）が見つかりませんでした。
3	MPM 8 コールでコマンドキューエントリ（CQE）が見つかりませんでした。
4	MPM 8 コールで中間ユーザーバッファ（IUB）が見つかりませんでした。
5	MPM 8 コールで Adabas コントロールブロックが見つかりませんでした。
6	ニュークリアスチェーンで無効な UTE/PLXUSER が見つかりました。

サブコード	説明
7	ユーザーチェーンの追加で無効な UTE/PLXUSER が見つかりました。
8	"lura" チェーン（リモートに割り当てられたローカルユーザーを表す UTE のリンクリスト）の削除で無効な UTE/PLXUSER が見つかりました。
23	無効な CQE が見つかりました。

対処：

サブコード 1 の場合は、NUCID を使用してコマンドを発行しようとするアプリケーションプログラムを修正してください。これに該当しない場合、または別のサブコードの場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 131

ほとんどの場合、このレスポンスコードは、URBR ブロックの URBRRSP フィールドに出力されます。また、URBRSUB フィールドのサブコードも同時に出力されます。サブコードは、アディクション 2 フィールドの下位（右端）2 バイト、または URBRSUB フィールドに出力されます。サブコードは、このレスポンスコードに特有の原因および対処を示します。以下にサブコードとその意味を示します。

サブコード	説明
1	URBD とペイロードデータの組み合わせが、出力バッファに収まりません。 対処：サブスクリプション定義を変更して、レコードを短くします。
2	サブスクリプションユーザー出口が URBERRRC に値を設定しました。 対処：URBERRRC フィールドを調べて、必要に応じてエラーを修正します。
3	ニュークリアスのレプリケーションプールに十分なスペースがありません。すなわち、LRPL により指定された値を超過しています。 対処：ニュークリアスの LRPL サイズを大きくしてやり直します。
4	Event Replicator Server のレプリケーションプールに十分なスペースがありません。すなわち、LRPL により指定された値を超過しています。 対処：LRPL パラメータのサイズを大きくしてやり直します。
5	サブスクリプションユーザー出口は、データ長（URBDLEND）を無効な値に変更しました。 対処：サブスクリプションユーザー出口をチェックします。
6	ステータス要求で指定される応答先（URBIRNAM）が未定義か、応答の送信に使用できません。 対処：ステータス要求を修正して、既存の応答先を指定します。

サブコード	説明
7	ステータス要求で指定されるサブスクリプション (URBISNAM) および応答先 (URBIDNAM) が見つかりません。少なくともどちらか1つを指定する必要があります。 対処：ステータス要求を修正します。
8	ステータス要求で指定されるサブスクリプション (URBISNAM) が未定義です。 対処：ステータス要求を修正します。
9	指定された初期状態名が見つかりません。 対処：初期状態要求を修正します。
10	URBI 1 に続く URBI の応答先が URBI 1 と異なります。 対処：初期状態要求を修正します。
11	URBI 1 に続く URBI の初期状態名が、URBI 1 と異なります。 対処：初期状態要求を修正します。
12	DBID と初期状態要求で指定されるファイルの組み合わせが、初期状態定義で見つかりません。 対処：初期状態要求を修正します。
14	一部の DBID とファイルの組み合わせが初期状態要求で定義されていません。URBI は、初期状態要求で指定される DBID とファイルの各組み合わせに対して送信される必要があります。 対処：初期状態要求を修正します。
15	URBILEND フィールドが正しくありません。 対処：初期状態要求を修正します。
16	指定された ISNLIST が正しくありません。 対処：初期状態要求を修正します。
17	初期状態処理が、オペレータの要求により終了しました。 対処：対処は不要です。
18	異なる要求トークンが同一のメッセージ内の異なる URBI 要素で指定されています。 対処：初期状態要求を修正します。
19	すべてのレコードに対する初期状態定義において、データの選択が許可されていません。 対処：初期状態要求を修正します。
20	サブスクリプションフェーズにおいて、圧縮解除する無効な入力データが見つかりました。 対処：レプリケートされたファイルのインデックスをチェックします。

サブコード	説明
22	<p>初期状態処理用に提供されたファイルおよび DBID はレプリケーションが無効化されました。</p> <p>対処：無効化の原因をチェックして、再度アクティブにしてから要求を繰り返します。</p>
23	<p>URBI内のUESパラメータが正しくありません。URBIARC、URBIACOD および URBIWCOD は、正しくない値を持つ必要があり、また完全に空白にすることはできません。</p> <p>対処：URBIARC、URBIACOD および URBIWCOD 要素が完全に空白ではないことを確認します。</p>
24	<p>URBI内のUESパラメータが正しくありません。</p> <p>URBIARC、URBIACOD および URBIWCOD は、エンコードおよびアーキテクチャが評価されていない入力要求（ステータス要求、"初期状態のすべてのレコード要求" または "初期状態 ISN リスト要求"）に対してゼロである必要があります。</p> <p>対処：URBIARC、URBIACOD および URBIWCOD 要素は、"初期状態のすべてのレコード要求"、"初期状態 ISN リスト要求"、またはステータス要求に対してゼロである必要があります。上記のようになっていることを確認します。</p>
25	<p>未使用の URBIRES1 および URBIRES2 フィールドは、すべての要求に対してバイナリの 0 を含む必要があります。</p> <p>対処：これらのフィールドがバイナリの 0 を含んでいることを確認します。</p>
26	<p>ステータス要求で指定される応答先（URBIDNAM）が未定義か、応答の送信に使用できません。</p> <p>対処：ステータス要求を修正します。</p>
27	<p>ステータス要求に対するアクティブな応答先がありません。</p> <p>対処：対処は不要です。</p>
28	<p>初期状態要求が、ADAEND または HALT コマンドにより終了した Event Replicator Server アドレススペースに発行されました。初期状態要求は、Event Replicator Server がアクティブなときのみ発行できます。</p> <p>対処：Event Replicator Server が再起動されてから、初期状態要求を再発行します。</p>
30	<p>先行トランザクション要求に対する URBIRNAM 内の未知の応答先名です。</p> <p>対処：先行トランザクション要求を修正します。</p>
31	<p>先行トランザクション要求に対する URBIDNAM 内の未知の応答先名です。</p> <p>対処：先行トランザクション要求を修正します。</p>
32	<p>先行トランザクション要求に対する、URBISNAM 内の未知または省略されたサブスクリプション名です。</p> <p>対処：先行トランザクション要求を修正します。</p>

サブコード	説明
33	URBIDNAM 内の応答先が、先行トランザクション要求に対する URBISNAM 内のサブスクリプションと関連がありません。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
34	URBISNAM 内のサブスクリプションに、先行トランザクション要求に対して定義される再送バッファがありません。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
35	サブスクリプション URBISNAM に対するトランザクション URBITSNR が再送バッファ内に見つかりませんでした。トランザクションは、循環再送バッファ内で上書きされた可能性があります。 対処：このトランザクション番号のリソースをチェックします。
36	URBISNAM 内のサブスクリプションがアクティブではありません。 対処：対処は不要です。
37	再送バッファ内に無効なトランザクションが見つかりました。これは内部エラーです。 対処：Software AG 技術サポートにお問い合わせください。
38	先行トランザクション要求に対するアクティブな応答先がありません。 対処：対処は不要です。
39	先行トランザクション要求に対して、URBILEND はゼロである必要があります。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
40	先行トランザクション要求に対して URBIDBID および URBIFNR が指定されていない可能性があります。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
41	先行トランザクション要求に対して URBIINAM が指定されていない可能性があります。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
42	先行トランザクション要求に対して、UES パラメータ URBIARC、URBIACOD および URBIWCOD が指定されていない可能性があります。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
43	先行トランザクション要求に対して、予約フィールド URBIRES1 および URBIRES2 はゼロである必要があります。 対処：先行トランザクション要求を修正します。
44	同時にアクティブな初期状態要求が IMAXREQ を超えました。 対処：IMAXREQ 設定を大きくするか、同時にアクティブな初期状態要求を減らします。

サブ コード	説明
45	<p>入力要求 URBH アイキャッチャが正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
46	<p>入力要求 URBHLEN が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
47	<p>入力要求 URBHBORD が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
48	<p>入力要求 URBHVERS が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
49	<p>入力要求メッセージが切り捨てられました。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
50	<p>入力要求 URBHLENT が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
51	<p>入力要求 URBILENH が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
52	<p>入力要求 URBILEND が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
53	<p>入力要求 URBILEN が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
54	<p>入力要求予約エリアがゼロではありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
55	<p>複数のステータスの入力要求を受信しました。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>

サブコード	説明
56	<p>無効な URBI 要求の入力要求を受信しました。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
57	<p>異なる入力要求を交互に受信しました。</p> <p>対処：1種類の要求のみを Event Replicator Server に送信していることを確認します。同時に1種類の要求のみを送信できます。例えば、同一のメッセージで初期状態処理とトランザクションステータス情報を要求することはできません。</p> <p>入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
58	<p>応答先が正しくありません。</p> <p>対処：入力情報を修正してやり直します。詳細は、『<i>Event Replicator for Adabas Application Programmer's Reference Guide</i>』の「<i>Event Replicator Client Requests</i>」を参照してください。</p>
59	<p>Event Replicator Server に定義されていないデータベースに対して再生要求が発行されました。</p> <p>対処：再生要求の DBID を修正します。または、データベースを Event Replicator Server に定義します。</p>
60	<p>再生トークンが正しくありません。再生トークンが定義されていないか期限切れです。</p> <p>対処：有効な再生トークンを指定します。</p>
61	<p>無効な要求が Event Replicator Server に送信されました。RBL が不十分です。初期ハンドシェイクで提供される FB が存在しないか、類似のエラーです。</p> <p>対処：Software AG 技術サポートにお問い合わせください。</p>
62	<p>Adabas に障害が発生しセッションが自動再スタートした後に、レプリケーションデータが回復されましたが、そのデータに対応する FDT はもう存在しません。FDT は変更されたか、ユーティリティ操作により削除されました。対応する FDT が存在しないと Event Replicator Server はレプリケートされたレコードのイメージを処理できないため、Adabas はこのイメージを削除しました。</p> <p>対処：アプリケーション固有の手法を使用して、必要に応じてレプリケートされたデータを同期状態に戻します。</p>
63	<p>C5 コマンドで R オプションとともに指定されたファイルがレプリケートされません。</p> <p>対処：レプリケートされるファイルのファイル番号を指定します。</p>
64	<p>フィルタに比較が無効な2つのフィールドタイプの比較が定義されています。</p> <p>対処：フィルタ定義を修正します。</p>
65	<p>フィルタで参照されているフィールドが内部フォーマットバッファに定義されていません。</p> <p>対処：フィルタ定義を修正するか、フィールドをデータベースに定義します。</p>

サブ コード	説明
66	<p>タイプなしとして選択することのできないフィールド（スーパーディスクリプタなど）に対する比較がフィルタに定義されています。</p> <p>対処：フィルタ定義を修正します。</p>
67	<p>無効または範囲外の FLIST 指定の値がフィルタで使用されています。</p> <p>対処：フィルタ定義を修正します。</p>
69	<p>同一の DBID/FNR の再生がすでに実行されています。</p>
71	<p>日付／時刻の形式または値が誤っているため再生できません。</p> <p>対処：指定した日付と時刻の値の構文をチェックします。未来の日時を指定しないでください。</p>
72	<p>再生パラメータが正しくありません。</p> <p>対処：指定した再生パラメータをチェックして修正します。</p>
73	<p>再生に関連するサブスクリプションが再生処理の開始時に非アクティブであったか、再生実行中に非アクティブ化されました。</p> <p>対処：非アクティブ化されたサブスクリプションを再アクティブ化し、サブスクリプションの再生処理を再実行します。</p>
74	<p>再生に関連する宛先が再生処理の開始時に非アクティブであったか、再生実行中に非アクティブ化されました。</p> <p>対処：非アクティブ化された宛先を再アクティブ化し、宛先の再生処理を再実行します。</p>
75	<p>SLOG なしで定義された再生の宛先が、再生処理の開始時または再生実行中にクローズされました。</p> <p>対処：クローズされた宛先を再オープンし、宛先の再生処理を再実行します。</p>
76	<p>ADARPL が異常終了しました。</p> <p>対処：エラーの原因を調査して修正し、新しい再生ジョブを実行します。</p>
77	<p>再生ステータスの遷移が無効です。再生処理のステータスの変化が予期しない順序で発生しました。</p> <p>対処：Software AG 技術サポートにお問い合わせください。</p>
78	<p>同期モードで再生中、Adabas からの新しいトランザクションのホールドを維持できませんでした。</p> <p>対処：前の再生処理と同じサブスクリプションと宛先に関連する新しい再生処理を実行し、最初の再生実行中に Adabas が生成したレプリケーションデータを復元します。</p>
79	<p>再生処理はユーザーによってキャンセルされました（RPLCLEANUP オペレータコマンド）。</p> <p>対処：修正したパラメータで新しい再生ジョブを実行します（該当する場合）。</p>

サブコード	説明
80	<p>Adabas のファイルのレプリケーションを再アクティブ化した後、Event Replicator Server が同期処理の終了を待機しているときにタイムアウトが発生しました。同期処理は、再アクティブ化前にファイルを更新したすべてのトランザクションが完了した後に終了します。</p> <p>対処：Event Replicator Server がファイルのアクティブ化を報告するまで（ADAF2L メッセージ）待機します。その後、新しい再生ジョブを実行します。</p>
81	<p>Event Replicator Server に接続するときに、ADARPL 以外のユーティリティによって再生トークンが指定されました。</p> <p>対処：Software AG 技術サポートにお問い合わせください。</p>
82	<p>TOKEN パラメータを使用して再生処理を開始したときに、Event Replicator Server が Adabas に接続されていません。</p> <p>対処：Adabas を開始し、Event Replicator Server に接続させます。TOKEN パラメータを使用して再生を実行する場合は、Adabas がアクティブになっている必要があります。</p>
83	<p>再生要求にサブスクリプションも宛先も指定されませんでした。</p> <p>対処：少なくとも 1 つのサブスクリプションまたは宛先を指定します。</p>
84	<p>再生のみモードでの再生が要求されましたが、Adabas からのレプリケーションデータが、再生に関連するアクティブなサブスクリプション／宛先のペアに流れています。再生モードで再生する場合、Adabas からのデータが ADARPL からの再生データと同じサブスクリプション／宛先のペアに流れないように、一部のサブスクリプションと宛先を非アクティブにする必要があります。</p> <p>対処：再生パラメータを変更するか、再生に関連するサブスクリプションまたは宛先のアクティブ化ステータスを変更します。</p>
85	<p>再生に関連するファイルが再生開始時に非アクティブであったか、再生実行中に非アクティブ化されました。</p> <p>対処：非アクティブ化したファイルを再アクティブ化し、そのファイルからデータを取得する再生に関連するサブスクリプションの再生処理を再実行します。</p>
86	<p>宛先タイプの Adabas 更新コマンドに対して無効なフォーマットバッファが指定されました。</p> <p>対処：フォーマットバッファを修正します。</p>
87	<p>予期しないメッセージシーケンス番号が検出されました。</p> <p>対処：Software AG サポートに連絡してください。</p>
88	<p>URBH の次のコントロールブロックで認識されていないアイキャッチャーが検出されました。</p> <p>対処：Software AG サポートに連絡してください。</p>

サブコード	説明
89	Adabas自動再生に対して、同一のサブスクリプション名が複数回指定されました（Adabas Event Replicator Subsystem または Event Replicator Administration を使用して定義）。 対処：自動再生でサブスクリプションが1回だけ指定されていることを確認して、再試行してください。
90	Adabas 自動再生に対して、同一の宛先名が複数回指定されました（Adabas Event Replicator Subsystem または Event Replicator Administration を使用して定義）。 対処：自動再生で宛先が1回だけ指定されていることを確認してから再試行します。
91	自動再生の再生開始日時が指定されませんでした（Adabas Event Replicator Subsystem または Event Replicator Administration を使用して定義）。 対処：Software AG サポートに連絡してください。
92	自動再生に対して指定されたタイムアウトパラメータが大き過ぎます。 対処：タイムアウトパラメータ値を小さくして再試行します。
93	Event Replicator Server システムファイルに PLOG 情報が記録されませんでした。 対処：Software AG サポートに連絡してください。
94	AI/BI フォーマットバッファがキーに対しても使用されました。キー値を圧縮解除する試みが実行されましたが、関連フォーマットバッファはデータストレージ用であり、キー用ではありません。 対処：Software AG サポートに連絡してください。
95	ユーザー／Event Replicator Server エンコード 01-RPEQU* を設定する試みが失敗しました。このエラーは、拡張フィルタロジックを使用し、サブスクリプションに UES SACODE/SWCODE/SARC 値が設定されている場合に発生することがあります。 対処：Software AG サポートに連絡してください。
96	初期状態要求のターゲットの Adabas ニュークリアスがレスポンスコード 148 を返しました。これはその Adabas ニュークリアスを利用できないことを示します。 対処：ターゲットの Adabas ニュークリアスを開始し、初期状態要求を再試行します。

Response 132

説明：

このレスポンスコードは、Adabas が LOB ファイルを読み込んだり更新したりしていたときにエラーが発生したことを示します。サブコードは、エラーの種類を表します。

サブコードが 256 より小さい場合は、ファイルの処理中に発生した元のレスポンスコードと同じことを示します。一般的なサブコードを次の表に示します。表にないサブコードについては、同じ値の Adabas レスポンスコードの説明を参照してください。

サブコードが256より大きい場合は、LOB ファイルの処理に特有のエラー状況であることを意味します。このようなサブコードを次の表に示します。

サブコード	説明
8	ユーザーのコマンドまたはトランザクションの未解決のバックアウトが原因で、LOB ファイル操作が中止されました。このバックアウトの原因の一つに、WORK データセットのプロテクションエリアでユーザーのトランザクションの占めるスペースが多すぎることが考えられます（レスポンスコード9のサブコード15を参照）。
17	LOB ファイルがロードされていません。
48	LOB ファイルは、他のユーザーによる排他的な読み込みまたは更新のためにロックされています。
65	LOB ファイルの処理中に、ワークプールスペースの計算で内部エラーが発生しました。
113	LOB ファイルインデックスによって参照されているアドレスコンバータエレメントで、LOB ファイルセグメントレコードが見つかりませんでした。LOB ファイルに物理的な不一致があるか、LOB ファイル読み込み操作時に LOB ファイルの無効な同時更新が発生しました。
145	LOB ファイルセグメントレコードをホールド状態に設定できません。他のユーザーによってすでにホールドされています。このサブコードは、同一のラージオブジェクトフィールド値に対して無効な更新の競合が発生したことを意味します。対の基本ファイルと LOB ファイルに不一致が生じている可能性があります。
165	LOB ファイルのディスクリプタがインデックスに見つかりません。LOB ファイルインデックスが正しくありません。
172	LOB ファイルインデックスの ISN が正しくありません。LOB ファイルが物理的に不一致である可能性があります。
175	LOB ファイルセグメントレコードのディスクリプタ値が、LOB ファイルインデックスのディスクリプタ値と異なります。LOB ファイルに物理的な不一致があるか、LOB ファイル読み込み操作時に LOB ファイルの無効な同時更新が発生しました。
177	アドレスコンバータで参照されるデータストレージブロックで、LOB ファイルセグメントレコードが見つかりませんでした。LOB ファイルが物理的に不一致になっているか、LOB ファイル読み込み操作時に LOB の無効な同時更新が発生しました。
257	基本ファイルと LOB ファイルのリンクにエラーがあります。LB フィールドが設定されたファイルは、実際の LOB グループの基本ファイルではありません。
258	基本ファイルと LOB ファイルのリンクにエラーがあります。LOB グループの基本ファイルにリンクされたファイルは、実際の LOB ファイルではありません。
259	基本ファイルと LOB ファイルのリンクにエラーがあります。LOB グループの基本ファイルにリンクされた LOB ファイルは、別の基本ファイルを参照しています（または何も参照していません）。
260	基本ファイルと LOB ファイルのリンクにエラーがあります。基本ファイルにリンクされた LOB ファイルが存在しないか、LOB ファイルの番号が無効です。
261	ユーティリティの実行が中断されたため、LOB ファイルの状態に不一致が残っています。
262	フォーマットバッファで LB フィールドの長さ要素の指定エラーが発生しました（xxL, 4, B が予期されていました）。

サブコード	説明
263	無効なLOBファイルセグメントディスクリプタが検出されました。LBフィールド値に関連するLOBファイルセグメントレコードセットに矛盾があります。LOBファイルが正しくないか、LOBファイル読み込み操作時にLOBファイルの無効な同時更新が発生しました。
264	無効なLOBファイルセグメントレコードが検出されました。LOBファイルレコードの内容に矛盾があります。LOBファイルが正しくありません。
265	LOBファイルのLBフィールド値の長さが、関連する基本ファイルレコードに保存されている長さとは異なります。基本ファイルまたはLOBファイルが同期していないか、LOBファイル読み込み操作時にLOBファイルの無効な同時更新が発生しました。
266	基本ファイルレコードで、無効なLBフィールド値参照が検出されました。基本ファイルが正しくありません。
297	ラージオブジェクト (LB) フィールドで予定されている機能 (フィールド値の文字コード変換など) は、まだサポートされていません。
298	フォーマットバッファで指定されたLBフィールドのオカレンス数が多すぎます (32,767を超過)。
299	LOBファイルの処理によって内部エラーが発生しました。

Response 144

説明：

次のいずれかが発生しました。

- 更新コマンド (A1) で指定された ISN は、ユーザーに対してホールド状態に設定されていません (コマンドオプションに H が指定されていません)。
- M (マルチフェッチ) オプションを指定する ET または BT コマンドが、ユーザーに対してホールド状態ではない ISN バッファに ISN を指定しました。現在ホールドされている ISN は、すべてホールド状態から解放されます。

対処：

Adabas Transaction Manager を使用中の場合は、実行中のプログラムに対してトランザクションモデルパラメータの設定が適切であり、使用中のランタイム環境に対しても適切であることを確認します。

Response 145

説明：

次のいずれかが発生しました。

- N1/N2 コマンドが発行されましたが、ホールドキューエントリがありませんでした。
- RETURN オプションが指定されたコマンドが発行され、ISN をホールド状態に設定しようとしたのですが、この ISN はすでに別のユーザーのホールドキューに含まれています。コマンドは WAIT 状態にはなりません。

このレスポンスコードに関連するサブコードを参照して、レスポンスの原因を確認してください。

サブコード	説明
0	既存の ISN に対して N2 コマンドが発行されました。
1	ホールドキューのスペースに関する問題が検出されました。このユーザーは、アクティブな唯一のユーザーであり、-R オプションを実行しています。
2	ISN は他のユーザーによってホールドされています。読み込み要求は、-R オプションを指定して実行されています。
9	ISN のホールド中に別の ISN をホールド状態にしようとしたとき、2 人以上のユーザーにデッドロックが発生しました。

Response 146

説明：

Adabas インターフェイスルーチンによって、無効なバッファ長が検出されました。コマンドで従来の ACB を使用している場合、バッファは 32,767 より大きくなります。コマンドで ACBX を使用している場合、バッファが 2,147,483,647 より大きくなるか、ABD 内の送信長がバッファ長より長くなります。サブコードは、バッファタイプを表します。

サブコード	バッファタイプ
1	フォーマットバッファ
2	レコードバッファ
3	サーチバッファ
4	バリューバッファ
5	ISN バッファ
6	ユーザー情報バッファ
7	パフォーマンスバッファ
8	マルチフェッチバッファ

Response 147

説明：

ISN が正しくありません。ISN 変換によって、ISN がマイナスになったか、ファイルで使用可能な最大 ISN を超過しました。

Response 148

説明：

Adabas ニュークリアスがアクティブではないか、アクセスできません。

ACB の場合は、アディション 2 フィールドの下位（右端）2 バイトに示された 16 進のサブコードを参照してください。ACBX の場合は、エラーサブコード（ACBXERRC）フィールドに示された 2 進のサブコードを参照してください。



Note: Entire Net-Work で実行している場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトに、このレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノードの ID が含まれることがあります。

サブコード	説明
1	データベースの排他制御が要求されましたが、ニュークリアスが読み取り専用ステータスです。
2	ユーティリティ専用（UTI）モードのニュークリアスに対して、非特権コールが行われました。
3	ニュークリアスが ADAEND オペレーションを実行しているときに、新しいユーザーが操作を開始しようとしているか、ET ステータスの既存ユーザーが操作を続行しようとしています。
4	排他データベース制御を伴ったユーティリティが実行中です。
5	修正できないエラーのため、シングルユーザーニュークリアスはオペレーションを開始できませんでした。
50	MPM ルーチンの MPM12 が設定されます。
51	SVCCLU を呼び出した後に SVC ルーチンの L04 が設定されます。
52	SVCCLU を呼び出さずに SVC ルーチンの L04 が設定されます。
53	SVC ルーチンの PCR04 が設定されます。
54	SVC ルーチンの L16 が設定されます。
55	SVC ルーチンの PCR16 が設定されます。

Response 151

説明：

コマンドキューでオーバーフローが発生しました。



Note: Entire Net-Work で実行している場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトに、このレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノードの ID が含まれることがあります。

対処：

DBA が NC パラメータの値を大きくするか、コマンド処理レベルの低いときにコマンドを発行します。

Response 152

説明：

内部ユーザーバッファが、ユーザーバッファエリアを格納するのに、十分な大きさではありません。

対処：

DBA は LU パラメータの値を大きくします。

Response 153

説明：

ユーザーが直前に出したコールの処理が終了する前に、同じユーザーによってCALLADABASが発行されました。

Response 154

説明：

コマンドによってトリガが起動されましたが、その時点でキューがいっぱいだったので、そのコマンドは拒否されました。

対処：

コマンドを再実行してください。

Response 155

説明：

コマンドによってプレコマンドトリガが起動されました。トリガされたプロシージャが0以外のコマンドを返したため、コマンドは実行されませんでした。

対処：

アディション4フィールドで、プロシージャから返されたエラーを確認してください。

Response 156

説明：

コマンドによってポストコマンドトリガが起動されました。トリガされたプロシージャは、プロシージャが正常に実行されなかったことを示す、ゼロ以外のコマンドを返しました。

対処：

アディション4フィールドで、プロシージャから返されたエラーを確認してください。

Response 157

説明：

コマンドによってプレコマンドトリガまたはポストコマンドトリガが起動されましたが、トリガを起動するすべてのコマンドが拒否される状態で Adabas トリガがシャットダウンされています。

対処：

シャットダウンの原因を調べ、問題を解決してください。このような状況でコマンドを拒否する必要がない場合、Adabas トリガプロファイルのエラーアクションフィールドに HALT または IGNORE を設定します。

Response 159

説明：

Adabas リンクモジュールがないか、無効です。次のいずれかが発生しました。

- Adabas リンクモジュールが Natural ニュークリアスにリンクされていないので、Natural プロファイルパラメータ ADANAME に指定されている Adabas リンクモジュールをロードできませんでした。
- CICS のみ。コマンドレベル専用環境にあるマクロレベルの Adabas リンクモジュールがロードされました。

対処：

Natural プロファイルパラメータ ADANAME の設定を確認し、現在の STEPLIB のいずれかに正しいバージョンの Adabas リンクモジュールを指定してください。

Response 160

説明：

1つのコマンドに対して、バッファプール内でアクティブだとマークされるアソシエータおよびデータストレージのブロックが多すぎます。

Response 161

説明：

Adabas バッファプールのヘッダーリストにある RABN チェーンが正しくありません。

Response 162

説明：

Adabas バッファプールのヘッダーブロックに、追加用のスペースがありません。

Response 163

説明：

RABNヘッダーチェーンにリンクしようとしたRABNは、すでにチェーン内に存在します。

Response 164

説明：

コマンドに対して割り当てられているワークエリアが多すぎます。

Response 165

説明：

ディスクリプタ名が無効か、ディスクリプタバリュートーブル (DVT) 内に存在しません。拡張ファイルの場合：すべてのコンポーネントファイルでディスクリプタが存在しません。ACBでは、アディクション2の左端2バイトにディスクリプタ名が返されます。ACBXでは、エラー文字フィールド (ACBXERRB) にディスクリプタ名が返されます。拡張ファイルの場合、ファイルのコンポーネント間に FDT 不一致がないかどうかを確認してください。

Response 166

説明：

インバーテッドリストインデックスでエラーが検出されました。原因として、アソシエータ内の損傷が考えられます。

Response 167

説明：

カップリングされたファイル内のフィールドが存在しないか、カップリングリストが正しくありません。

Response 168

説明：

カップリング処理に必要な内部コマンド ID が見つかりませんでした。

Response 170

説明：

次のいずれかの原因により、コマンド処理に必要な Adabas RABN が見つかりませんでした。

- バッファセグメントが RABN 0 でコールされました。
- 指定された RABN が現在のデータベースに存在しないか、正しくありません。

Response 171

説明：

Adabas で使用される定数セットが見つかりませんでした。

Response 172

説明：

ISN がファイルに対して有効な MINISN 設定に満たないか、MAXISN 設定を超過しています。

Response 173

説明：

無効なデータストレージ RABN が検出されました。

Response 174

説明：

開始 ISN が指定された L2/L5 コマンドに対して、ファイルのアドレスコンバータに保存されたデータストレージ RABN が無効です。

Response 175

説明：

インデックスとデータストレージの間で矛盾が検出されました。

対処：

該当のファイルに対してチェックユーティリティ（特に ADAICK と ADAVAL）を実行し、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 176

説明：

インバーテッドリストで矛盾が検出されたか、インバーテッドリストの処理中に内部エラーが発生しました。このレスポンスコードには、次のサブコードが関連付けられている場合があります。

サブコード	説明
2	不良インデックス
3	無効な検索要求
4	フォーマットインジケータが無効か、FDT/SDT でフィールドが見つかりません
11	無効な検索要求
12	不良インデックスブロック

サブコード	説明
13	不良 UI ブロック
14	ブロック長の不一致
15	不良 MI ブロック
16	ブロック長の不一致
17	不良 NI ブロック
18	不良 ISN カウント
21	不良インデックスブロック
22	ブロック長の不一致
23	無効な ISN カウント
29	非アクティブのインデックスブロック
31	不良インデックスブロック
32	ブロック長の不一致
33	無効な ISN カウント
39	非アクティブのインデックスブロック
41	不良インデックスブロック
42	ブロック長の不一致
43	不良 MI ブロック
44	不良 NI ブロック
81	無効なレベルインジケータ
82	ブロック内での無効な要素位置
83	ブロック内の位置と要素の長さとの不一致
84	不良 MI ブロック
85	不良 NI ブロック
86	不良 NI ブロック
87	無効な ISN カウント
88	ブロック内の位置と要素の長さとの不一致
89	非アクティブのインデックスブロック
91	レベルの誤り
92	ブロック長の不一致

対処：

ADAICK を実行して、インバーテッドリストに矛盾がないかどうか確認します。矛盾が見つからない場合は、担当地域の Software AG 技術サポートに連絡してください。ご連絡の際は、必ずサブコードをお知らせください。

Response 177

説明：

アドレスコンバータによって示されたレコードが、データストレージブロックに見つかりませんでした。このレスポンスコードが、SORTSEQパラメータを指定したADAULDUNLOADユーティリティ機能に対して返された場合、ファイルに矛盾が発生し、データが失われている可能性があります。

対処：

このファイルに対してチェックユーティリティ（特に ADAACK）を実行し、Software AG 技術サポートに連絡してください。

Response 178

説明：

マルチプルバリューフィールドの更新時に、内部エラーが発生しました。

1	ディスクリプタバリューテーブル（DVT）に矛盾があります。
2	フィールド定義テーブル（FDT）と内部フォーマットバッファとの間に矛盾が見つかりました。
3	フォネティックディスクリプタの更新時に矛盾が見つかりました。

Response 179

説明：

内部エラーです。WORK パート 3 で ID が見つかりませんでした。

Response 181

説明：

AUTOBACKOUT を実行しようとしたますが、トランザクション開始位置が見つかりませんでした。

Response 182

説明：

必要な ET データが、適切な WORK ブロックに見つかりませんでした。

Response 183

説明：

データベース I/O オペレーション用に内部的に割り当てられた番号が正しくありません。

Response 184

説明：

フォネティックフィールド名が見つかりませんでした。

Response 185

説明：

ADAM フィールドが圧縮レコードに見つかりませんでした。

Response 197

説明：

DEUQ プールが小さすぎます。

対処：

ADARUN LDEUQP パラメータを大きくします。

Response 198

説明：

ユニークディスクリプタのディスクリプタ値を複製しようとした。ACB では、アディクション2フィールドの左端2バイトにディスクリプタ名が返されます。ACBX では、エラー文字フィールド (ACBXERRB) にディスクリプタ名が返されます。

Response 199

説明：

更新処理中に、インバーテッドリストインデックスで矛盾が見つかりました。ACB では、アディクション2の左端2バイトにディスクリプタ名が返されます。ACBX では、エラー文字フィールド (ACBXERRB) にディスクリプタ名が返されます。このレスポンスコードは、シーケンシャル (SIBA) ログを使用する ADARESBACKOUT オペレーションに、UTYPE=EXU が指定された場合にも発生する場合があります。

Response 200

説明：

サイファコードが無効であるか、または Adabas あるいは Adabas SAF Security のセキュリティ違反が検出されました。

Adabas SAF Security 処理から、必要なセキュリティチェックをコマンドでは満たすことができないため、次のようなサブコードを伴う場合があります。

0	標準ユーザーチェックが失敗しました。
1	ワークステーションユーザーのためのフリーユーザーファイルキャッシュエントリはありません。
2	クロスレベルのセキュリティチェックが失敗しました。
3	このコマンドにセキュリティ情報は使用できません。
4	ワークステーションログオン中にタイムアウトが発生しました。

Adabas SAF Security の詳細は、Adabas SAF Security のドキュメントを参照してください。

Response 201

説明：

指定されたパスワードが見つかりませんでした。

Response 202

説明：

ユーザーが権限のないファイルを使用しようとしたか、ファイルのパスワードが変更されています。

対処：

権限を修正するか、新しいパスワードを指定して操作をやり直してください。

Response 203

説明：

ユーザーが権限のないファイルのレコードを削除しようとした。

Response 204

説明：

パスワードプールにオーバーフローが発生しました。

Response 207

説明：

Adabas SAF Security はログオンのフェーズ 1 を完了し、フェーズ 2 を要求しました。これは、リモートワークステーションログオンに対する内部的な Adabas SAF Security および ADALNK の 2 フェーズレスポンスコードです。通常このコードは表示されません。

詳細については、Adabas SAF Security のドキュメントを参照してください。

対処：

フェーズ 2 ログオン要求を Adabas SAF Security に送ります。

Response 208

説明：

Adabas SAF Security リモートユーザーは、フェーズ 1 ログオンを実行する必要があります。ログオン ID およびパスワードが Adabas SAF Security に送られました。このレスポンスは、2 フェーズログオンが続行できることを示します。

詳細については、Adabas SAF Security のドキュメントを参照してください。

対処：

このレスポンスがユーザーアプリケーションに返された場合、ワークステーションプラットフォームに適切な Adabas リンクルーチンがインストールされていないことを示します。このレスポンスコードは、ワークステーションの Adabas リンクルーチンによってインターセプトされました。フェーズ 1 ログオンが実行されます。

Response 209

説明：

Adabas SAF Security により、期限切れのパスワードがサーバーで検出されました。

対処：

ACF2、RACF、または TOP SECRET のサーバーに有効なパスワードを作成します。Entire Net-Work ユーザーは Adabas SAF Security 機能を使用できます。

Response 210

説明：

論理 ID が 255 を超過しています（内部エラー）。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

Response 211

説明：

UB 内の ID テーブルインデックスが無効です（内部エラー）。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

Response 212

説明：

内部コマンドに使用される入力／出力バッファが無効です。

Response 213

説明：

ID テーブルが見つかりません（SVC が正しくインストールされていません）。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

次の表で、Adabas DBID/SVC ルーティングテーブルエラーが発生した場合に表示される可能性のあるサブコードを説明します。

サブコード	説明
16	指定された SVC 番号は、z/OS または VSE システムに現在インストールされている SVC と一致しません。指定された SVC 番号が正しいことを確認し、正しい場合は、その SVC 番号を使用して Adabas SVC がインストールされていることを確認します。
20	指定された SVC 番号は、z/OS または VSE システムにインストールされている SVC と一致しますが、SVC が Adabas SVC ではありません。指定された SVC 番号が正しいことを確認し、正しい場合は、その番号でインストールされた SVC が z/OS または VSE では Adabas SVC でない理由を調べます。

対処：

DBA に連絡します。Adabas のインストール手順が正しく行われていません。

Response 214

説明：

内部コマンドが、Adabas バージョン 4 の ADALINK から発行されました。

Response 215

説明：

Adabas バージョン 5/6/7 の UB または AMODE=31 属性をもつ Adabas バージョン 4 の ADALINK から、SVC04/16 コールを受け取りました。

Response 216

説明：

ユーザー出口により、コマンドが拒否されました。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

Response 217

説明：

ユーザー出口により、コマンドが拒否されました。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

Response 218

説明：

次の表で、このレスポンスコードのサブコードを説明し、そのレスポンスの原因を示します。

サブコード	説明
X'00' (00)	UB (TP モニタユーザーブロック) プールが小さすぎます。各同時ユーザーに対して 1 つ以上のユーザーブロックが必要です。これは TP モニタリンクルーチンによって制御されます。UB に対する GETMAIN が失敗しました。
X'48' (72)	IPC メッセージ呼び出しパラメータエラーが発生しました。これは、内部的な製品エラーまたは TP モニタのストレージオーバーレイを示している場合があります。Software AG 技術サポートに連絡してください。
X'49' (73)	IPC メッセージ呼び出し元が拡張ユーザー ID ブロックへのポインタを渡していません。これは内部的な製品エラーの可能性があり、Software AG 技術サポートに連絡してください。
X'4C' (76)	IPC メッセージ呼び出しに渡される拡張ユーザー ID データはバイナリの 0 か空白です。これは内部的な製品エラーの可能性があり、Software AG 技術サポートに連絡してください。
X'4D' (77)	IPC メッセージ呼び出しで使用されるワークエリアで GETMAIN が失敗しました。TP モニタがストレージ不足になっている原因を特定します。ストレージは、呼び出し側プログラムの AMODE で取得されます。Natural トランザクションの場合は通常 31 ビットです。

対処：

リンクルーチンの NUBS パラメータを再指定して UB プールを拡張します。ADAGSET マクロについては、『Adabas インストールマニュアル』を参照してください。

Response 219

説明：

このレスポンスコードは、Adabas Transaction Manager を使用中の場合にのみ発生します。

2	グローバルトランザクションはコール可能な状態ではありません。
3	トランザクション ID (XID) のエントリが 2 つ存在します。
4	R および J オプションがサポートされていないか、グローバルトランザクションではありません。トランザクション ID (XID) が存在しないか、見つかりませんでした (指定された XID が、この UQE に属していない場合など)。
5	レコードまたはバリュースタック定義が無効である可能性があります (長さサイズが無効 (144 バイト以下) など)。または、バリュースタックの内容が無効である可能性があります (トランザクション ID (XID) が無効など)。
6	ユーザーが、更新ユーザーまたは ET ユーザーではないか、グローバルトランザクションに関連しているか、またはすでに PET (予備的なトランザクション終了) ステータスにあります。
7	プロトコルエラーが発生しました。ユーザーがワーク 4 にコピーされたか、トランザクションがバックアウトしました。
8	プロトコルエラーが発生しました。トランザクションが終了したか、ユーザーにトランザクション ID (XID) が設定されていないか、またはアクティブユーザーの回復コールが許可されていません。
9	ワークエリア 4 または DDWORKR4 のオーバーフローが未解決のため、現在システムがロックされています。
10	このコールは許可されていません。ニュークリアスに対して ADAEND または ET 同期地点の処理中です。ATM ニュークリアスでトランザクションのバックアウト (BT) が強制されました。
11	このユーザーは更新を行っていません。そのため、予備的な ET コマンドは許可されていません。
12	論理エラーが発生しました。
20	トランザクション ID (XID) が不明です。このエラーは、クラスタ環境でのみ発生します。

Response 220-227

説明：

レスポンスコードは Entire Net-Work 用に予約されています。

対処：

レスポンスコードの意味および使用の詳細については、適切な Software AG Entire Net-Work のドキュメントを参照してください。

Response 228

説明：

このレスポンスは Adabas リンクルーチンによって発行されます。これは、ASCII 形式のユーザー要求が、変換処理用に正しく構成されていない EBCDIC 形式のデータベースに対して発行されたことを示します。

1	SVC は、Adabas バージョン7の有効な SVC ではありません。
2	データベースは UES 有効データベースではありません。

対処：

お使いの Adabas で UES が有効であることを確認してください。UES 情報を参照してください。

Response 229

説明：

レスポンスコードは Entire Net-Work 用に予約されています。

対処：

レスポンスコードの意味および使用の詳細については、適切な Software AG Entire Net-Work のドキュメントを参照してください。

Response 231-239

説明：

これらのレスポンスコードは、Adabas ユーザー出口に割り当てられ、それぞれ、ユーザーが定義した意味を示します。例として、ユーザー出口4で発行される ADALOG ログデータフィールドのレスポンスコードがあります。

対処：

ユーザー出口の詳細については、Adabas ユーザー出口のドキュメント参照してください。

Response 240-244

説明：

レスポンスコードは Adabas Transaction Manager から返されます。詳細は、Adabas Transaction Manager のドキュメントを参照してください。

Response 245

説明：

このレスポンスコードは、Adabas への System Coordinator (COR) インターフェイスを使用するアドオン製品 (Adabas Fastpath、Adabas Vista、Adabas SAF Security、Adabas Transaction Manager など) 間でコミュニケーションの問題が発生した場合に発行されます。

サブコード	説明
1	内部エラーです。
2	必要なモジュールをロードできませんでした。これはインストールエラーの可能性が あります。

対処：

サブコード 1 については、Software AG 技術サポートに連絡してください。サブコード 2 については、アドオン製品のインストール指示を確認してください。

Response 249

説明：

このレスポンスコードは、Adabas Vista が使用中の場合にのみ出力されます。詳細については、Adabas Vista のドキュメントを参照してください。

Response 250

説明：

ACBX (ACBX) は検証に失敗しました。予期されるサブコードは次のとおりです。

サブコード	説明
1	サポートされていない ACBX バージョンです
2	UBE なしで ADACBX が指定されました
3	ACBX ファイル番号 > 65,535
4	予約されたフィールドが 0 ではありません
5	ACBX 長が正しくありません

対処：

サブコード 3 が発生した場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。これ以外のサブコードが発生した場合は、ACBX の指定を修正して再実行します。

Response 251

説明：

Adabas クラスタ処理でエラーが発生しました。

特定の条件下で、ADASVC の Adabas クラスタ SVC (SVCCLU) コンポーネントは、ACB のレスポンスコードフィールドにレスポンスコード 251 を返します。これに加えて、アディクション 2 フィールドの下位 (右端) 2 バイトに 16 進数のサブコード (下記リストの 10 進数を参照) も返します。ACBX の場合、ADASVC は ACBX のレスポンスコード (ACBXRSP) フィールドにレスポンスコード 251 を、エラーサブコード (ACBXERRC) フィールドにサブコードを返します。

- ローカル SVCCLU が条件を検出すると、2~30 の範囲でサブコードが返されます。
- リモート SVCCLU の場合は、102~130 の範囲になります。



Note: Entire Net-Work を使用して実行している場合、アディクション 2 フィールドの左端 2 バイトには、このレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノードの ID が含まれることもあります。

サブコード	説明
2	ユーザーが割り当てられるリモートクラスタニュークリアスにアクセスできません。
4	使用可能なユーザーテーブルエントリ (UTE) がありません。
5	内部エラーです。内部コマンドによって指定されたニュークリアスが見つかりませんでした。
7	内部エラーです。ユーザーはローカルシステムによってリモートニュークリアスに割り当てられましたが、リモートシステムはニュークリアスがアクティブでないことを検出しました。
9	内部エラーです。28 バイトのユーザー ID がすべて 0 です。
17	Entire Net-Work はアクティブではありません。
19	内部エラーです。内部コマンドコードが無効です。
20	リモートニュークリアスがアクティブです。コマンドはリモートに割り当てられる必要がありますが、リモートニュークリアスがコマンドを受け入れていません。
21	ユーザーが割り当てられるリモートイメージに使用可能なニュークリアスがありません。
22	ユーザーをリモートに割り当てようとしたのですが、Entire Net-Work がアクティブではありません。
27	内部エラーです。
28	PLXCB と ADASVC の SVCCLU 部分とのバージョンが一致しません。
29	制限された範囲の NUCID 値が使用された可能性があります。それ以外の場合は、内部エラーです。 対処：NUCID 割り当てが有効であることを確認してください。
30	32 個を超える NUCID が同じ SVC/DBID の組み合わせに対して検出されました。 対処：SVC/DBID の NUCID の数を 32 個に減らしてください。

対処：

内部エラーの場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。その他のエラーについては、システム管理者にお問い合わせください。

Response 252

説明：

Adabas SVC 処理中にエラーが発生しました（ポストエラー）。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション 2 フィールドの左端 2 バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

Response 253

説明：

バッファの処理中にエラーが発生しました。予期されるサブコードは次のとおりです。

サブコード	説明
0	バッファ長が 0 です (ACB ユーザーのみ)
1	フォーマットバッファアドレスが 0 です
2	レコードバッファアドレスが 0 です
3	サーチバッファアドレスが 0 です
4	バリューバッファアドレスが 0 です
5	ISN バッファアドレスが 0 です
6	ユーザー情報バッファアドレスが 0 です
7	パフォーマンスバッファアドレスが 0 です
8	マルチフェッチバッファアドレスが 0 です
9	サポートされていない ABD バッファタイプです
10	アタッチドバッファのオーバーランが発生しました
11	サポートされていない ABD バージョンです
12	ターゲットで ACBX を受け入れられません
13	ACBX を ACB に変換できません
14	許可されていない ALET 値です
15	64 ビットバッファアドレスを処理できません
16	無効なバッファロケーションインジケータです
17	ABD 検索の論理エラー
18	ABD が 32,767 を超過しています
19	予約されたフィールドが 0 ではありません
20	ADABDX 長が正しくありません

対処：

サブコード 10 および 17 は、内部論理エラーです。Software AG サポートに連絡してください。その他のサブコードの場合は、バッファ指定エラーを修正し、再実行します。

Response 254

説明：

呼び出し元に結果を返そうとしたときに、コマンド完了処理で整合性エラーが発生しました。

CTパラメータリミットを超過した場合、ニュークリアスは、ユーザーを終了させ、BT コマンドに相当するコマンドを内部的に生成します。次にCQEおよびアタッチドバッファスペースを解放し、ADAM93（または同様のメッセージ）を発行します。

ユーザーが終了されなかった場合、ACBのアディション2フィールドの右端2バイト、またはACBXのエラーサブコード（ACBXERRC）フィールドのサブコードに、失敗した整合性チェックが示されます。

サブコード	説明
1	UBCQEX が 0 以下です
2	UBCQEX が CQHNCQES の値を超えています
3	CQEFLAG が CQEFAB と CQEFW16 の合計に等しくありません
4	CQEAUB が A'UB に等しくありません
5	CQEAUPL が A'APL に等しくありません
6	CQECKSUM の下位 6 バイトが UBCKSUM に等しくありません
7	CQE がタイムアウトしました
8	CQE に次のような矛盾があります：CQE が別のコールによって予期されずに取得されました。ユーザーバッファ（UB）が予期されたユーザー情報を受け取っていません。ターゲットの移動データ長が矛盾しています。
9	レコードバッファのオーバーフロー
10	ISN バッファのオーバーフロー
11	フォーマットバッファ長の不一致
12	サーチバッファ長の不一致
13	バリューバッファ長の不一致
14	ユーザーバッファ長の不一致
15	アタッチドバッファの無効な ABD インデックス（内部論理エラー）
16	バッファオーバーフロー（ACBXERRD および ACBXERRE を参照）

対処：

コマンドの処理中は、呼び出し元の制御構造およびパラメータが変更されないようにしてください。エラーを解決できない場合は、Software AG サポートに連絡してください。

Response 255

説明：

コマンド処理時に、全アタッチドバッファが割り当て済みでした。バッファ割り当てが実行されていない場合、バッファ割り当て（NAB）の最大数には、この状態が反映されていない可能性があります。

Entire Net-Work で実行していた場合、アディション2フィールドの左端2バイトにこのレスポンスコードを発行した Entire Net-Work ノード ID が含まれます。

35 ユーティリティメッセージおよびコード

- ユーティリティエラーメッセージ 442
- ユーティリティリターンコード 442

Adabas ユーティリティでは、リターン/コンディションコードを発行します。また、このとき、エラーメッセージを表示することもあります。このchapterでは、エラーメッセージをユーティリティのアルファベット順に示し、ユーティリティのゼロ以外のリターンコードについて説明します。

ユーティリティエラーメッセージ

ユーティリティメッセージは、ユーティリティ名を示すタイトル行の後に表示されます。メッセージ行の後に、この章で示すのと同じ説明や対処情報が英語で出力されます。

メッセージ行内または実際のメッセージに続くテキスト内には、ジョブ名、データセット名、リターンコード、アベンドコード、ニュークリアスレスポンスコードなどの可変情報が表示されます。このような可変情報（変数）は、xxx...xxx、reason、nucleus-response、job-name、ret-codeなどの小文字で表されています。実際のメッセージでは、変数は実際の値に置き換えられます。一般的に、かっこ付きの変数は16進であり、かっこ付きでない変数は10進数です。

メッセージにニュークリアスレスポンスまたはアベンドコードが含まれている場合は、そのコードの詳細な説明を調べると、原因を突き止めることができます。 [ニュークリアスレスポンスコード](#)および[アベンドコード](#)の説明を参照してください。

ユーティリティリターンコード

Adabas ユーティリティでは、オペレーティングシステムに制御を返すとき、異常終了が発生していない場合は、汎用レジスタ 15 の右端に次のようなリターンコードを書き込みます。

コード	ユーティリティの処理結果
0	正常終了しました。
4	正常終了しましたが、警告状態になりました。
8	エラー状態になりましたが、処理は継続されました。
16	メイン機能は正常終了しましたが、エラー状態になりました。
20	完了できませんでした。処理はエラー状態になりましたが、NOUSERABENDが指定されていたので、異常終了はしませんでした。



Note: ユーティリティがリターンコード 4 で終了する場合は、最終メッセージとして ...terminated with warning（警告で終了しました）と書き込みます。このことは、ユーティリティ機能は完了したものの、機能の結果が预期されていたものとは異なる状況になったことを示しています。ジョブプロトコルには、1つ以上の関連する警告またはエラーメッセージが含まれています。

次の表は、オペレーティングシステムによってどのようにリターンコードがサポートされているかを示しています。

オペレーティングシステム	リターンコードのサポート
z/OS	ジョブステップコンディションコード情報については、ジョブ制御言語のリファレンスマニュアルを参照してください。
z/VM	コマンド言語によってリターンコードが追跡されます。
VSE	リターンコードがサポートされています。
BS2000	ジョブ変数を使用することによって、リターンコードがサポートされています。詳細については、『Adabas インストールマニュアル』の環境でのジョブ変数の使用方法に関する説明を参照してください。

オペレーティングシステムやユーティリティによっては、ユーティリティジョブ状況がリターンコードから判断できます。

- リターンコード 0 は、常に、ユーティリティが正常に完了したことを示します。
- リターンコード 4 または 8 は、実行されていたユーティリティによって意味が異なります。

以下に、正常に終了しなかったリターンコード (RC) の意味について、Adabas ユーティリティのアルファベット順に説明します。

ADAACK リターンコード

Return Code 4 or 8

説明：

データベースに不整合が発生しています。

ADACMP リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- 処理中にレコードが 1 つ以上拒否されました。
- ユーティリティは、関連付けられた LOB ファイルなしで LOB グループ (基本ファイルとその関連付けられた LOB ファイル) の基本ファイルのみを処理しました。

Return Code 8

説明：

ユーティリティによって、LOB グループ（基本ファイルとその関連付けられた LOB ファイル）のファイル間の矛盾が検出されました。

ADADBS リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- CHANGE、NEWFIELD、または RELEASE：処理が、拡張ファイルのコンポーネントファイルで行われました。他のコンポーネントファイルは明示的に処理する必要があります。
- MODFCB DATAPFAC：ファイルにスパンドレコードが含まれている場合、データストレージパディングファクタ（DATAPFAC）設定は無視されます。データストレージパディングが有効になっているファイルに DATAPFAC が指定されている場合は、次の警告が表示されます。

```
*****DATAPFAC is ignored for files with spanned data storage enabled*****
```

- MODFCB MAXRECL：MAXRECL は、すべてのコンポーネントファイルに対して同一である必要があります。
- OPERCOM ADAEND/CANCEL：Adabas ニュークリアスがアクティブではありませんでした。
- OPERCOM CLUFREEUSER：UTE がレスポンスコード 9、サブコード 20 となる予定であり、また、FORCE が指定されていないため、これらのこと以外は適格である 1 つ以上の UTE が削除されませんでした。
- OPERCOM DUQE：特定ユーザー ID のユーザーキューエレメント（UQE）が見つかりませんでした。
- RESETDIB：IDENT ジョブ名が存在しません。

Return Code 8

説明：

次のいずれかが発生しました。

- DELETE：削除するファイルが存在しません。
- OPERCOM STOPU：機能が Adabas レスポンスコードを受け取りました。

- RELEASE：無効なディスクリプタ名が指定されたか、または機能が Adabas レスポンスコードを受け取りました。

ADADEF リターンコード

Return Code 4

説明：

NEWWORK：RLOG 情報の書き込みまたは RLOG データセットのクローズに失敗しました。

ADADCK リターンコード

Return Code 4 or 8

説明：

データベースに不整合が発生しています。

ADAICK リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- GETMAIN が失敗しました。
- ICHECK によって WARNING-163（使用不可能なインデックスブロック）が検出されました。

Return Code 8

説明：

データベースに不整合が発生しています。

ADAINV リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- ADAINV 処理中に他のユーザーがユーティリティの DIB エントリを削除しました。
- （全機能）RLOG 情報の書き込みまたは RLOG データベースのクローズに失敗しました。

- ADAINV は再開されましたが、インデックスの中に、インバートするディスクリプタがすでに少なくとも1つ存在します。インデックスは正常です。
- ADAINV INVERT は、拡張ファイルのコンポーネントファイル上で実行されました。他のコンポーネントファイルは、明示的にインバートする必要があります。

ADALOD リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- NUMREC パラメータによって指定された以外の DDEBAND レコードが存在しました。
- DDEBAND レコードが ISN よりも多く存在しました。
- ADALOD 処理中に他のユーザーがユーティリティの DIB エントリを削除しました。
- ロードするファイルは拡張ファイルチェーンに追加できません。
- (全機能) RLOG 情報の書き込みまたは RLOG データセットのクローズに失敗しました。
- UPDATE 機能で、ファイル固有の DLOG 拡張を割り当てることができませんでした。ADALOD は UPDATE 機能を完了しましたが、ファイル全体が変更されるとマークしたため、実際に変更されたブロックのデータストレージおよびアドレスコンバータ RABN がログに記録されませんでした。
- ユーティリティにより、無効な相互リンクが設定されているか同期していないファイルとしてマークされた LOB グループ (基本ファイルとそれに対応する LOB ファイル) のファイルが処理されました。
- ユーティリティでは LOB グループの基本ファイルと LOB ファイルとのリンクを確立するか、または検証しようとしたますが、いずれかのファイルがロックされているか、または他の理由によって利用できなかったため、失敗しました。
- ユーティリティは LOB グループで基本ファイルと LOB ファイルの整合性をチェックできませんでした。これは、SKIPREC/NUMREC パラメータが使用されていたことによって、一部の入力レコードがロードされなかったためです。
- ユーティリティにより、Adabas でグループ内の2つのファイルが同期したままになっていたかどうかを追跡できなかった LOB グループ (基本ファイルとそれに対応する LOB ファイル) のファイルが処理されました。

Return Code 8

説明：

次のいずれかが発生しました。

- LOB グループ（基本ファイルとその関連する LOB ファイル）のファイルにロードされた入力レコードが、他のファイルと同期していないとマークされていたファイルからアンロードされました。
- ロードまたは更新された LOB グループ（基本ファイルとその関連する LOB ファイル）のファイルが、LOB グループ内の他のファイルと LOB 更新ステータスが異なっていました。
- LOB 値を削除する対象の LOB ファイル内に矛盾が検出されました。

ADAORD リターンコード**Return Code 4**

説明：

次のいずれかが発生しました。

- ADAORD 処理中に、他のユーザーがユーティリティの DIB エントリを削除しました。
- （全機能）RLOG 情報の書き込みまたは RLOG データセットのクローズに失敗しました。
- RESTRUCTURE 機能：RLOG 処理の初期化に失敗しました。
- RESTRUCTUREDB：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。
- RESTRUCTUREF：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。
- システムファイルは ADAORD STORE 処理から除外されました。
- 拡張ファイルのコンポーネントに対して MAXRECL を指定しました。すべてのコンポーネントに同じ MAXRECL を指定していることを確認してください。
- DLOG 拡張の割り当てに失敗しました。
- ADARAC から 0 以外のリターンコードを受け取りました。
- ユーティリティにより、無効な相互リンクが設定されているか同期していないファイルとしてマークされた LOB グループ（基本ファイルとそれに対応する LOB ファイル）のファイルが処理されました。

ADARAI リターンコード

Return Code 4

説明：

ADARAI RECOVER では、ユーティリティの実行時に使用するシーケンシャルファイルに必要なジョブ制御ステートメントを作成できません。 [unknown file element] メッセージが返され、RECOVER 機能がリターンコード 4 で完了します。この場合、生成したジョブ制御を編集する必要があります。ADAR78 メッセージを参照してください。

ADAREP リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- ファイルエクステントのオーバーラップまたはファイルエクステントおよびフリースペースエクステントのオーバーラップが検出されました。
- ファイルエクステント間またはファイルエクステントとフリースペースエクステントの間にギャップが検出されました。
- チェックポイントに、認識されないチェックポイントタイプまたはフォーマットが含まれています。
- 既存のファイルコントロールブロック (FCB) に対するフィールド定義テーブル (FDT) が存在しません。
- FCB に無効なファイル番号が含まれています。
- FCB で無効な ISN/RABN の長さインジケータが検出されました。
- FDT 内の少なくとも 1 つの親フィールドに、対応する特殊ディスクリプタテーブル (SDT) フィールドがありません。
- 無効な FDT/SDT 長が検出されました。
- カップリングファイル数が 18 を超えています。
- 拡張ファイルチェーンに矛盾があります。
- ボリュームシリアル番号を識別できませんでした。
- オンラインセーブテープからのレポートに対して、プロテクションログを指定されていなかったか、無効なプロテクションログが指定されていたか、またはプロテクションログの処理中にエラーが検出されました。
- SAVETAPE とともに CPLIST または CPEXLIST が指定されました。
- FROMDATE、TODATE、FROMSESSION、または TOSESSION とともに、CPLIST や CPEXLIST が指定されていませんでした。
- SAVETAPE とともに NOCOUNT が指定されていませんでした。

- ミラーテーブルをバージョン7形式に変換中に、エラーが発生しました。
- 拡張ファイルのコンポーネントの中に MAXRECL が異なるものがありました。
- ユーティリティにより、無効な相互リンクが設定されているか同期していないファイルとしてマークされた LOB グループ（基本ファイルとそれに対応する LOB ファイル）のファイルが処理されました。

ADARES リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- （全機能）RLOG 情報の書き込みまたは RLOG データセットのクローズに失敗しました。
- COPY：ブロックカウントの不一致が発生しました。
- PLCOPY：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。
- PLCOPY：Adabas ニュークリアスのオープンが、0 または 148 以外のレスポンスコードで失敗しました。
- PLCOPY：プロテクションログデータセットはまだ完了していません。現時点では、データがコピーされることもマージされることもありません。
- PLCOPY：警告！ 指定された入力中間データセットは空です。このことは、ADARES を初めて実行したときにのみ発生します。処理は継続します。
- COPY/CLCOPY/PLCOPY：コピー対象のレコードがありません。
- COPY/PLCOPY/CLCOPY：アソシエータデータセットをオープンできなかったため、チェックポイントが書き込まれませんでした。
- TOPLOG/TOBLK/TOCP で示されたポイントが見つかりませんでした。
- BACKOUT および REGENERATE：処理対象のレコードが見つかりませんでした。
- REGENERATE は、まず実行すべきバッチユーティリティを検出したため、まだ完了できません。
- Parallel Participant Table (PPT) は、このクラスタデータベースにはコピー対象の PLOG がないことを示しています。
- Parallel Participant Table (PPT) は、このクラスタデータベースにはコピー対象の CLOG がないことを示しています。
- ユーティリティにより、Adabas でグループ内の 2 つのファイルが同期したままになっていたかどうかを追跡できなかった LOB グループ（基本ファイルとそれに対応する LOB ファイル）のファイルが処理されました。

Return Code 8

説明：

次のいずれかが発生しました。

- (Adabas Delta Save Facility) デルタセーブイメージ (DSIM) データセットを処理しているとき、PLCOPY 機能または COPY 機能でエラーが発生しました。DSIM データセットの構築が中断しました。PLCOPY 機能または COPY 機能は正常に続きます。また、RC 8は、DSIM データセットが必要であるものの、DSIM データセットがないか、または使用できない状態である場合に発生します。
- REGENERATE 機能または BACKOUT 機能は、ファイルリスト内の1つ以上のファイルが矛盾した状態にあると判断しました。つまり、ロード、リオーダ、リフレッシュ、リストアのいずれかのステータスになっていました。ファイルリスト内のそれ以外のファイルに対しては処理が続行されます。

Return Code 16

説明：

PLCOPY/CLCOPY 機能が DD/SIAUS1 または DD/SIAUS2 データセットを正常にクローズした後エラーが発生しました。エラーメッセージは DD/DRUCK に出力されます。

ADASAV リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- (全機能) RLOG 情報の書き込みまたは RLOG データセットのクローズに失敗しました。
- (Adabas Delta Save Facility) オンラインセーブ処理の終了時に ET 同期を取った後、ニュークリアスがレスポンスコードを返したにもかかわらず、オンラインセーブ処理が正常に終了しました。ADASAV はレスポンスコードを無視しました。
- ADASAV 処理中に、他のユーザーがユーティリティの DIB エントリを削除しました。
- MERGE：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。
- RESTORE (データベース) または RESTORE GCB：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。
- 指定したファイルはすでに存在しますが、OVERWRITE の指定がないため、RESTORE 機能を実行できません。
- RESTONL (データベース) または RESTONL GCB：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。
- ファイルにアクセスできないため、SAVE 機能を実行できません。このファイルは、ロード、リフレッシュ、リオーダ、リストアのいずれかのステータスになっています。
- SAVE FILE：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。

- ユーティリティにより、無効な相互リンクが設定されているか同期していないファイルとしてマークされた LOB グループ（基本ファイルとそれに対応する LOB ファイル）のファイルが処理されました。

Return Code 16

説明：

（Adabas Delta Save Facility）フルまたはデルタセーブ操作が正常に完了した後にエラーが発生しました。

ADASEL リターンコード

Return Code 4

説明：

選択条件に一致するレコードが見つかりませんでした。

ADAULD リターンコード

Return Code 4

説明：

次のいずれかが発生しました。

- ADAULD 選択条件／値を使用してレコードを見つけることができませんでした。
- UNLOAD：RLOG アクセスの初期化に失敗しました。

Return Code 8

説明：

ニュークリアスが0以外のレスポンスコードを返しました。ADAULD UNLOAD の ERRLIM パラメータによっては、機能を続行できます。アンロードされたデータを使用できますが、返された特定のレスポンスコードによっては、レコードが欠如している可能性があります。

ADAVAL リターンコード

Return Code 4

説明：

全ファイルはチェックされませんでした。

Return Code 8

説明：

データベースに不整合が発生しています。

ADAWRK リターンコード

Return Code 4

説明：

WORK パート 1 には自動再スタート情報がありません。

Return Code 8

説明：

自動再スタートは正常に完了しません。

Return Code 20

説明：

NOUSERABEND パラメータを指定すると、異常終了するのではなく、このリターンコードが返されます。

36 全ユーティリティに共通するエラー

ERROR-001

ERROR OCCURRED DURING OPENING INPUT FILE DDKARTE : reason

説明：

原因としては、キーワードのスペルミスが考えられます。

対処：

JCL をチェックします。エラーを修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-002

I/O ERROR OCCURRED DURING READ ON FILE DDKARTE : reason

説明：

原因としては、キーワードのスペルミスが考えられます。

対処：

JCL をチェックします。エラーを修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-003

PARAMETER ERROR, INVALID UTILITY NAME

説明：

原因としては、キーワードのスペルミスが考えられます。

対処：

パラメータ入力をチェックします。エラーを修正してジョブを再実行します。

ERROR-004

PARAMETER ERROR, MISSING SEPARATOR

対処：

パラメータエラーを修正するか、または必要なセパレータを指定します。ジョブを再実行します。

ERROR-005

PARAMETER ERROR, INVALID SYNTAX

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-006

PARAMETER ERROR, KEYWORD NOT UNIQUE

対処：

入力パラメータをチェックします。正しいキーワードを完全な長さで指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-007

PARAMETER ERROR, UNKNOWN PARAMETER

説明：

原因としては、キーワードのスペルミスが考えられます。

対処：

パラメータ入力をチェックします。エラーを修正してジョブを再実行します。

ERROR-008

PARAMETER ERROR, UNKNOWN FUNCTION

説明：

原因としては、キーワードのスペルミスが考えられます。

対処：

パラメータ入力をチェックします。エラーを修正してジョブを再実行します。

ERROR-009

PARAMETER ERROR, TOO MANY VALUES IN A LIST

対処：

パラメータ入力をチェックします。そのパラメータに指定できるパラメータ値の最大数を超えないようにパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-010

INVALID OR MISSING LEVEL NUMBER

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-011

INVALID OR MISSING FIELD LENGTH

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-012

MISSING '=' (EQUAL SIGN)

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-013

INVALID OR MISSING FIELD OPTION

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-014

MISSING '(' (LEFT PARENTHESIS)

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-015

MISSING ')' (RIGHT PARENTHESIS)

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-016

INVALID OR MISSING START POSITION

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-017

INVALID OR MISSING END POSITION

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-018

MORE THAN ONE PARENT FOR SUB-FIELD/DESCRIPTOR

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-019

MORE THAN 20 PARENTS FOR SUPER-FIELD/DESCRIPTOR

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-020

ONLY ONE PARENT FOR SUPER-FIELD/DESCRIPTOR

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-021

SYNTAX ERROR, INVALID CHARACTER FOUND

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-022

INVALID OR MISSING HYPEREXIT NUMBER OR COLLATING EXIT NUMBER

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-023

NO OR MORE THAN 20 PARENTS FOR A HYPERDESCRIPTOR

対処：

フィールド定義構文の詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』のADACMPに関する説明を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-024

INVALID FIELD NAME

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-025

RESERVED FIELD NAME USED

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-026

INVALID FIELD FORMAT SPECIFICATION

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-027

INVALID OR CONFLICTING FIELD OPTIONS USED

対処：

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-028

INVALID MU/PE REPEAT FACTOR

対処:

フィールド定義構文についての詳細は、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-029

MULTIPLE FUNCTION KEYWORDS DETECTED

説明:

このユーティリティでは1回に1つの機能のみを実行します。

対処:

パラメータ入力をチェックします。エラーを修正してジョブを再実行します。

ERROR-030

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN ASSO : reason

説明:

JCL が正しく指定してされていない (DDASSOR1、...、DDASSOR5) か、またはデータベースが矛盾している可能性があります。

対処:

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-031

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ ASSO : reason RABN : nnnn (xxxxxxx)

対処:

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-032

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE ASSO : reason RABN : nnnn (xxxxxxx)

対処:

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-033

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE ASSO : reason

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-034

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN DATA : reason

説明：

JCL が正しく指定していきされていない (DDDATAR1、...、DDDATAR5) か、またはデータベースが矛盾している可能性があります。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-035

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ DATA : reason RABN : nnnn (xxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-036

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE DATA : reason RABN : nnnn (xxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-037

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE DATA : reason

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-038

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN WORK : reason

説明：

JCL が正しく指定されていない (DDWORKR1) か、またはデータベースが矛盾している可能性があります。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-039

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ WORK : reason RABN : nnnn (xxxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-040

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE WORK : reason RABN : nnnn (xxxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-041

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE WORK : reason

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-042

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN TEMP : reason

説明：

JCL が正しく指定されていない (DD/TEMPR1) 可能性があります。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-043

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ TEMP : reason RABN : nnnn (xxxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-044

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE TEMP : reason RABN : nnnn (xxxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-045

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE TEMP : reason

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-046

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN SORT : reason

説明：

JCL が正しく指定されていない (DD/SORTR1 または DD/SORTR2) 可能性があります。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-047

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ SORT : reason RABN : nnnn (xxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-048

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE SORT : reason RABN : nnnn (xxxxxxx)

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-049

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE SORT : reason

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-051

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF OPEN data set/file : reason

説明：

JCL が正しく指定されていない可能性があります。

対処：

PLCOPY 機能または CLCOPY 機能に正しい JCL を指定する必要があります。コピーされる PLOG がクラスタデータベースのものである場合は、NOPPT パラメータを指定する必要があります。

JCL を指定しなかったり、オープンが失敗したりすると、"The Associator data set(s) could not be openednnreturn codeexplanation" (Associator データセット (複数可) はオープンできませんでした) というメッセージが表示されます。- 処理は続きます。

ERROR-052

**ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF READ dataset/file : reason RABN : nnnn
(xxxxxxxx)**

対処:

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-053

**ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE dataset/file : reason RABN : nnnn
(xxxxxxxx)**

対処:

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-054

ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF CLOSE dataset/file : reason

対処:

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-055

ENCODING KEY VALUE EXCEEDS MAXIMUM OF 4095

説明:

有効なエンコードキーは 1~4095 の範囲内です。

対処:

有効なエンコードキーのリストについては『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-058

RECOVERY LOG NOT AVAILABLE

説明:

Adabas Recovery Aid はアクティブですが、ユーティリティが RLOG のデータセット処理を初期化しようとしたときにエラーが発生しました。

対処:

ADARAC は理由コード rr (理由テキスト) を返します。付加される ADARxx メッセージも参照してください。

ERROR-059**ERROR DURING RECOVERY LOGGING**

説明：

ユーティリティは、その処理をリカバリログに記録できませんでした。ユーティリティは続行し、リターンコード 4 で終了します。

対処：

ADARAC は理由コード rr (理由テキスト) を返します。付加される ADARxx メッセージも参照してください。

ERROR-060**blocks-EXTENT SPACE ALLOCATION FAILED FOR FILE file-number(s)**

説明：

指定したファイルにサイズ blocks の AC エクステントを割り当てようとしたのですが、失敗しました。このエラーは、次のことによって発生した可能性があります。

- 使用可能なフリースペースが不足していました。
- XXRABN パラメータが矛盾しています。
- 十分なフリースペースを使用できますが、このファイルの MAXRECL を満たすデバイスにはありませんでした。
- AC エクステントは 1 つのみ許可されます。
- ISNSIZE=3 の場合、16,777,215 (X'FF FF FF) を超える ISN がありました。ISNSIZE=4 の場合、4,294,967,294 (X'FF FF FF FE) を超える ISN がありました。
- エクステントが 5 を超えました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-062

**For file {filename} the sum of
numbers of DATA extents, AC extents, UI extents,
and NI extents is too big
or DATA extent or AC extent is zero.
Check ASSO RABN {rabn}**

説明：

データベースに関する問題が発生しています。データストレージ、アドレスコンバータ (AC)、およびインバーテッドリスト (UI および NI) のエクステントの合計が大きすぎるか、またはデータストレージまたはアドレスコンバータエクステントがゼロになっています。

対処：

Software AG 技術サポートにお問い合わせください。

ERROR-064

ERROR WRITING DSST : response-code

説明：

DSSTをデータベースに書き込んでいるときに、ニュークリアスはレスポンスコード **nn** を返しました。アクセスしようとしているファイル（複数可）は、アクセス不可能な状態です。

対処：

問題の原因を調べ、エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-065

DATA BASE ID MISMATCH : THE ADARUN DBID IS dbid-a BUT THE GCB CONTAINS DBID dbid-b

説明：

次のいずれかが発生しました。

- 正しくないデータベースにアクセスしました。
- 入力パラメータに正しくないデータベース ID を指定しました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-066

FILE file-number IS PASSWORD PROTECTED

説明：

パスワードで保護されたファイル **file-number** は、ニュークリアスが起動していない場合は、処理できません。これは、ニュークリアスが Adabas セキュリティファイルにアクセスし、指定したパスワードが妥当かどうかチェックする必要があるためです。

対処：

Adabas ニュークリアスを開始してから、ジョブを再実行します。

ERROR-067

INVALID OR MISSING PASSWORD FOR FILE file-number

説明：

要求したファイル **file-number** は、パスワードで保護されています。

対処：

正しいパスワードを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-068

UTILITY COMMUNICATION BLOCK OVERFLOW

説明：

平行して実行されているユーティリティが多すぎます。

対処：

データベース管理者に連絡してください。

ERROR-069

CHECKPOINT BLOCK OVERFLOW

説明：

オフラインでチェックポイントに関するデータを書き込んだアソシエータブロックが一杯になりました。

対処：

ニュークリアスを開始して、オフラインチェックポイントエリアに現在保存されている情報を取得し、ジョブを再実行します。

ERROR-070

ERROR WRITING CHECKPOINT : response-code

説明：

チェックポイントの書き込み中に、ニュークリアスが指定のレスポンスコードを返しました。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-071

INVALID VALUE FOR PARAMETER {parm}. ONLY VALUES "YES" OR "NO" ARE ALLOWED.

説明：

メッセージ (*parm*) に記載されているパラメータに無効なパラメータ値を指定しました。正しいパラメータ値は "YES" と "NO" のみです。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-072

UNEXPECTED NUCLEUS RESPONSE nucleus-response-code

説明：

追加情報はありません。

対処：

関連するエラー情報や出力をすべて記録します。担当の DBA に連絡してください。必要な場合は、Software AG 技術サポートにお問い合わせください。

ERROR-073

RECORD TOO LONG FOR OUTPUT DATASET

説明：

シーケンシャル出力データセットにレコードを書き込もうとしました。このレコード長は、I/O システムで許可されている最大レコード長を超えています。

対処：

データベース管理者に連絡してください。

ERROR-074

file-number IS AN INVALID FILENUMBER

説明：

指定したファイル番号が次のいずれかです。

- 0 です。
- このデータベースに定義されている MAXFILES よりも大きくなっています。
- 指定したファイルリストで重複しています。
- システムファイルを表し、5000 を超えています。

対処：

正しいファイル番号を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-075

THE PARAMETER parameter IS MUTUALLY EXCLUSIVE TO ONE OR MORE OTHER PARAMETERS SUPPLIED IN THE INPUT

説明：

指定したパラメータ設定が、関連するユーティリティジョブの他の1つ以上のパラメータと矛盾しています。詳細については、『Adabasユーティリティマニュアル』のユーティリティ構文に関する説明を参照してください。

対処：

相互に排他的な関係にあるパラメータ設定のいずれかを変更または削除し、ジョブを再実行します。

ERROR-076

MANDATORY PARAMETER parameter MISSING

対処：

このパラメータを追加し、ジョブを再実行します。

ERROR-077

I/O ERROR DURING EXECUTION OF A SEQUENTIAL READ ON FILE ddname : reason

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-078

ERROR OCCURRED DURING OPENING OF FILE ddname FOR OUTPUT : reason

説明：

おそらく DDNAME のスペルミスか、その他の JCL 指定の誤りです。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-079

ERROR OCCURRED DURING CLOSING OF OUTPUT FILE ddname : reason

説明：

おそらく DDNAME のスペルミスか、その他の JCL 指定の誤りです。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-080

**ERROR OCCURRED DURING EXECUTION OF WRITE COMMAND TO FILE ddname :
reason**

説明：

おそらく DD/NAME のスペルミスか、その他の JCL 指定の誤りです。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-081

ERROR OCCURRED DURING OPENING/CLOSING OF INPUT FILE ddname : reason

説明：

おそらくは DD/NAME のスペルミスか、その他の JCL 指定の誤りです。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-084

**GETMAIN ERROR - NOT ENOUGH VIRTUAL MEMORY REQUESTED LENGTH = count
(hex-count) BYTES MEMORY GOTTEN = count (hex-count) BYTES**

対処：

パーティション/リージョンサイズを大きくして、ジョブを再実行します。

ERROR-086

INVALID { ASSO | DATA } RABN nnnn : reason

説明：

この RABN は、データベースに定義されていません。

対処：

入力パラメータをチェックし、エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-087

device IS AN UNKNOWN DISK DEVICE TYPE

説明：

処理中に、無効または Adabas によって認識されないデバイスタイプが検出されました。

対処：

入力パラメータをチェックし、エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-088

ADALNK AND/OR ADANUC NOT PRESENT

説明：

Adabas のインストール手順が正しく行われていません。

対処：

データベース管理者に連絡してください。

ERROR-089**UTILITY NOT PERMITTED TO RUN**

説明：

他のユーティリティがデータベースを排他的に制御しています。端末の画面に表示されたメッセージの下の表を見ると、ユーティリティコミュニケーションブロックの現在の内容がわかります。表示されているジョブのいずれかが、データベースを排他的に制御しています。

対処：

そのジョブが終了するのを待ってから、この機能を再試行します。

ERROR-090**UTILITY NOT PERMITTED TO RUN; FILE NUMBER file-number IS LOCKED BY ANOTHER UTILITY**

説明：

端末の画面に表示されたメッセージの下の表を見ると、ユーティリティコミュニケーションブロックの現在の内容がわかります。表示されるジョブのいずれかによって、このファイルが排他的に制御されています。

対処：

ジョブが終了するのを待ってから、この機能を再試行します。

ERROR-091**UTILITY NOT PERMITTED TO RUN**

説明：

同じデータベースに対して複数のジョブを同時に実行することはできません。この場合、次のような原因が考えられます。

- ニュークリアス/他のユーティリティがアクティブです。
- ニュークリアスを ADARUN READONLY=YES で開始しました。

対処：

ユーティリティ/ニュークリアスがすでにアクティブになっているかどうか調べます。そのユーティリティ/ニュークリアスが終了するのを待ってから、この機能を再試行します。ニュークリアスを READONLY=YES で開始していた場合は、一度ニュークリアスをシャットダウンし、その後、READONLY=NO で再開します。

ERROR-092**UTILITY NOT PERMITTED TO RUN**

説明：

Adabas ニュークリアスが "nn -xxx ニュークリアスレスポンス -xxx" を返しました。ニュークリアスは、要求されたファイルへのアクセスを許可できません。

対処：

ニュークリアスレスポンスコードを分析します。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-093

UTILITY NOT PERMITTED TO RUN

説明：

保留中の自動再スタートが検出されました。

対処：

ニュークリアスを再開して、自動再スタート機能を実行します。必要に応じて、ニュークリアスが正常に開始したことを確認した後、ニュークリアスをシャットダウンします。ジョブを再実行します。

ERROR-094

UTILITY NOT PERMITTED TO RUN

説明：

アクセスしたデータベースのバージョンとアクティブなユーティリティのバージョンが矛盾しています。GCBのバージョンインジケータ、またはAdabasニュークリアスが返すバージョンインジケータが間違っています。検出されたバージョンインジケータはversionです（メッセージテキストには実際のバージョンインジケータ値が示されます）。

対処：

データベースを修正するか、またはロードライブラリ指定を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-098

FILE file-number CANNOT BE PROCESSED

説明：

このファイルは上位バージョン番号を持つデータベースのファイルであり、現在のニュークリアスバージョンではサポートされていない機能を使用します。

対処：

このファイルを現バージョンのAdabasニュークリアスまたはユーティリティで処理することはできません。

ERROR-099

INTERNAL ERROR AT xxxxxx+yyyyyy

説明：

エラー発生時のレジスタの内容が表示されます。

R0-R3	XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX
R4-R7	XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX
R8-R11	XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX
R12-R15	XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX

対処：

データベース管理者に連絡してください。

ERROR-101

VALUE FOR UNIQUE DESCRIPTOR xx IN FILE yy ALREADY PRESENT

説明：

入力データが正しくありません。指定したファイル yy は処理できません。ISN=nnnn、DE-VALUE：llvvvvvvvv。ディスクリプタ値 (DE-VALUE) は、ディスクリプタ値の長さ (ll) と実際の値 (vvvvvvvv) で構成されます。

対処：

ユニークな入力データでユーティリティを再実行します。

ERROR-102

AN ATTEMPT WAS MADE TO CREATE A 16TH INDEX LEVEL FOR FILE xxx

説明：

アソシエータのインデックスレベルは、15 を超えることはできません。

対処：

アソシエータパディングファクタ ASSOPFAC の値を小さくしてこの機能を再実行します。

ERROR-103

FILE NUMBER file-number IS NOT ACCESSIBLE

説明：

次のいずれかが発生しました。

- ファイルのLOAD、REFRESH、REORDER、またはRESTORE 処理の前の機能が中断しました。ファイルが矛盾しています。
- パラメータ ALLOCATION=NOFORCE を指定した RESTONL FMOVE 機能または RESTONL FILE 機能が中断しました。RESTPLOG で機能を続行することはできません。

対処：

ファイルを削除するか、ADAORD STORE または ADASAV RESTORE/RESTONL を使用してファイルを上書きします。

ERROR-104

FILE NUMBER file-number IS ALREADY LOADED

説明：

アクセスしようとしているファイルは、そのデータベース内にすでに存在しています。

対処：

データベースレポートを参照してください。このファイルを削除するか、または他のファイル番号を選択してから、ジョブを再実行します。

ERROR-105

FILE NUMBER file-number IS NOT LOADED

説明：

アクセスしようとしているファイルが、データベース内に存在しません。

対処：

ファイル番号をチェックし、修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-106

COMPRESSED RECORD TOO LONG

説明：

レコードの ISN = nnnn、レコード長 = nnn バイト、最大レコード長 = nnn バイトが表示されます。

データストレージデバイスの性質上、このようなレコードを格納することはできません。

ERROR-107

THE VALUE OF THE 'SORTSIZE' PARAMETER AND THE SIZE OF THE SORT DATASET DO NOT MATCH.

説明：

実際のデータセットが、パラメータで指定された値より小さくなっています。

対処：

正しい大きさを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-108

THE VALUE OF THE 'TEMPSIZE' PARAMETER AND THE SIZE OF THE TEMP DATASET DO NOT MATCH.

説明：

実際のデータセットが、パラメータで指定された値より小さくなっています。

対処：

正しい大きさを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-109**WORKPOOL (LWP) TOO SMALL**

説明：

少なくとも nnnn KB のスペースが必要です。値を大きくすると、パフォーマンスが向上します。

対処：

ADARUN LWP パラメータ値を大きくし、ジョブを再実行します。

ERROR-110**SORT DATASET TOO SMALL**

説明：

ソートするには、SORTRn/DDSORTRn データセットのサイズを大きくするか、または SORTSIZE が 2 つのデータセットを結合したサイズに等しい 2 つのソートデータセットを指定します。

対処：

より大きいソートデータセットを指定し、適切な SORTSIZE=パラメータの値を増やします。また、ジョブに指定した LWP パラメータ値を小さくすることも役立つ場合があります。必要な SORT データセットスペースの計算方法については、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。RESTART パラメータを使用して、ジョブを再実行します。

ERROR-111**INVALID VALUE FOR THE PARAMETERS MINISN AND/OR MAXISN**

説明：

MINISN パラメータと MAXISN パラメータの値は、次の式を満たす必要があります。

- ISNSIZE=3 の場合は、 $0 < \text{MINISN} \leq \text{MAXISN} < (\text{MINISN} + 16,777,215)$
- ISNSIZE=4 の場合は、 $0 < \text{MINISN} \leq \text{MAXISN} < (\text{MINISN} + 4,294,967,294)$

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-112**FUNCTION NOT PERMITTED**

説明：

Adabas システムファイルにアクセスしようとしてしました。この操作は許可されていません。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-113

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER parameter

説明：

パラメータ値として指定できるのは、YES と NO のみです。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-114

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER ASSOPFAC OR DATAPFAC

説明：

パディングファクタの値は、1～90 % でなければなりません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-115

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER MAXRECL

説明：

MAXRECL パラメータの値は、次の全条件を満たしている必要があります。

- 4 より大きい。
- ワークブロックサイズ - 94 以下
- データストレージワークブロックサイズ - 4 以下
- アンカーファイル（拡張ファイルのコンポーネント）の MAXRECL と等しい

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-116

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER MAXFILES

説明：

MAXFILES パラメータの値は、次の全条件を満たしている必要があります。

- パラメータ値は 3～アソシエータブロックサイズ - 1 の範囲で指定する必要があります。
- 先頭の (MAXFILES * 5) + 30 ブロックは、アソシエータの第一物理エクステン트에収まる必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-117

PARALLEL USAGE OF dataset-name DATASET

説明：

data-set-name の RABN 番号 rabn-number (値) が、他のユーティリティによって上書きされました。

対処：

ジョブを再実行します。data-set-name データセットは同時使用しないようにします。

ERROR-120

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER 'ISNSIZE'

説明：

このパラメータには、3 または 4 を指定します。

対処：

パラメータ入力をチェックし、エラーがあれば修正し、ジョブを再実行します。

37 ADAACK エラーメッセージ

ERROR-121
ERROR COUNTER REACHED MAXIMUM (ERRLIM)

ERROR-122
INVALID VALUE FOR PARAMETER FILE

説明：
ファイル番号の範囲は、昇順で指定する必要があります。

対処：
正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-123
INVALID OR MISSING FROMISN/TOISN PARAMETER

ERROR-125
INVALID BLOCK LENGTH FOR DS BLOCK xxxxxxxx (nnnn)

ERROR-126
AC ELEMENT CONTAINS DS RABN xxxxxxxx (nnnn) (DUPLICATE ISN)

ERROR-127
AC ELEMENT CONTAINS DS RABN xxxxxxxx (nnnn)

ERROR-128

ISN xxxxxxxx (nnnn) NOT FOUND AC ELEMENT CONTAINS DS RABN xxxxxxxx (nnnn)

ERROR-129

WRONG VALUE FOR FIRST UNUSED ISN FOUND IN FCB

説明：

ISN 値 xxxxxxxx (nnnn) が FCB+ISNU (オフセット ×'44') にありますが、実際の最初の未使用 ISN は xxxxxxxx (nnnn) です。

ERROR-130

INVALID DATASTORAGE BLOCK/RECORD LENGTH. DS RABN = xxxxxxxx (nnnn)

説明：

ブロック内の全レコード長の合計は、ブロック長 - 4 と等しくする必要があります。

対処：

ADADCK を実行して詳細情報を取得してください。

ERROR-131

ISN FOUND IN DS RECORD IS GREATER OR EQUAL TO THE FIRST UNUSED ISN IN THE FILE.

説明：

データストレージレコードの ISN が、アドレスコンバータの最初の未使用 ISN 以上の値になっています。

ERROR-132

INVALID SECONDARY ISN VALUES IN FCB

説明：

スパンドレコードが有効な場合、（セカンダリレコードの RABN にセカンダリ ISN をマッピングするのに使用される）セカンダリアドレスコンバータの最初の未使用セカンダリ ISN は、セカンダリアドレスコンバータに含まれる最大 ISN に 1 を加算した値よりも大きくしないでください。また、セカンダリアドレスコンバータに含まれる最大 ISN は、セカンダリアドレスコンバータの最大割り当て ISN と同じ値にする必要もあります。

ERROR-133

AC2-ELEMENT CONTAINS DS-RABN {xxxxxxx} ({nnnn}) (DUPLICATE ISN)

説明：

スパンドレコードを有効にした場合、セカンダリアドレスコンバータ要素では ISN が重複します。

ERROR-134**AC2-ELEMENT CONTAINS DS-RABN {xxxxxxxx} ({nnnn})**

説明：

スパンドレコードが有効な場合、セカンダリアドレスコンバータエレメントとデータストレージとの間に不一致が存在します。

ERROR-135**WRONG VALUE FOR FIRST UNUSED AC2ISN FOUND IN FCB**

説明：

スパンドレコードが有効な場合、セカンダリアドレスコンバータに割り当てられる最初の未使用 ISN とセカンダリアドレスコンバータの最初の未使用 ISN とが一致しません。

ERROR-136**AC2 ISN FOUND IN DS-RECORD IS GREATER OR EQUAL TO THE FIRST UNUSED AC2 ISN IN THE FILE**

説明：

スパンドレコードが有効な場合、データストレージレコードのセカンダリ ISN は、セカンダリアドレスコンバータの最初の未使用 ISN 以上になります。

ERROR-137**SPANNED DATA STORAGE RECORD IS INVALID
DS-RABN = {xxxxxxxx} ({nnnn})**

説明：

スパンドレコードが有効な場合、メッセージに記載されているデータストレージ RABN は無効です。

対処：

詳細については、ADADCK ユーティリティを実行してください。

ERROR-138**INVALID ROTATING ISN {isn-num}**

説明：

この ISN は正しい範囲内にありません。

対処：

問題を調査して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-139

CANNOT KEEP MORE THAN 500 MILLION ISNS IN CORE

説明：

ADAACK ユーティリティに要求した ISN の数が、要求できる制限を超えました。

対処：

ISN 範囲を制限し、ADAACK ジョブを再実行します。

ERROR-140

INVALID ISN VALUES IN FCB

説明：

最初の未使用 ISN は、最大 ISN (MAXISN) に 1 を加えた値よりも大きくしないでください。最大 ISN は、最大割り当て ISN に一致する必要があります。

ERROR-141

AC2 TABLE OVERFLOW

説明：

スパンドレコードを有効にしたとき、セカンダリアドレスコンバータのテーブルがオーバーフローしました。

ERROR-142

ISN {xxxxxxx} ({nnnn}) NOT FOUND

AC2 ELEMENT CONTAINS DS RABN {xxxxxxx} ({nnnn})

説明：

スパンドレコードを有効にしたとき、データストレージ RABN がデータストレージではなくセカンダリアドレスコンバータにありました。

ERROR-143

INVALID ROTATING AC2 ISN {isn-num}

説明：

このセカンダリアドレスコンバータ ISN は有効な範囲内にありません。

対処：

問題を調査して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-144**AC2 RABN {nnnnnnnn} ({nnnnnnnn}) IS INVALID**

説明：

メッセージに記載されているセカンダリアドレスコンバータ RABN は無効です。

対処：

ADAPRI ASSOPRI ユーティリティ機能を使用して、アソシエータブロックの内容を出力します。Software AG 技術サポートに連絡してください。

38

ADACDC エラーメッセージおよび警告メッセージ

ERROR-121

OPEN FAILED FOR filename FILE

説明：

ADACDCがファイル filename をオープンしようとしたますが、失敗しました。このファイルで処理を続行できないため、ユーティリティの実行が終了します。

対処：

ADACDC ジョブに欠けているファイルを指定してください。

ERROR-122

READ ERROR FOR filename FILE

説明：

ファイル filename の読み込み中にエラーが発生しました。ユーティリティの実行が終了します。このエラーは、通常、指示されたファイルのフォーマットが無効な場合に発生します。

対処：

問題のファイルが、ADACDC の説明に指定されているように、有効なフォーマットであることを確認してください。さらに、ユーティリティが実行されるオペレーティングシステムへの特別な考慮もチェックしてください。

ERROR-123

WRITE ERROR FOR filename FILE

説明：

ファイル filename への書き込み中にエラーが発生しました。ユーティリティの実行が終了します。このエラーは通常、出力ファイルがいっぱいである場合に発生しますが、指示されたファイルのフォーマットが無効な場合にも、発生することがあります。

対処：

ファイルがいっぱいである場合は、ファイルのサイズを大きくしてから、ジョブを再実行します。これ以外の場合、そのファイルが、ADACDC 文書に指定できる有効なフォーマット

であることを確認してください。さらに、ユーティリティが実行されるオペレーティングシステムへの特別な考慮もチェックしてください。

ERROR-124

UNABLE TO WRITE DATA TO filename FILE

説明：

ADACDC ユーティリティは、書き込まれるデータ量がこのファイルへの最大書き込み可能データ数を超えたため、ファイル filename にデータを書き込むことができませんでした。メッセージ内の追加入力は、書き込まれる予定だったデータ長と、ファイルに書き込み可能な最大データを示します。

対処：

ファイルに書き込まれる最大レコードに合わせてファイル上のブロックサイズを大きくしてください。

ERROR-125

INVALID TRANSACTION FILE `CDCTXI`

説明：

ADACDC ユーティリティは CDCTXI ファイルをオープンし、第1レコードの読み込みは正常に行われましたが、第1レコードは ADACDC ユーティリティが作成したトランザクションファイルレコードではありません。

対処：

有効な入力トランザクションファイルをユーティリティに指定するか、または、ファイル名が正しい場合は CDCTXI 指定が無視されるように、RESETXF を指定してください。

ERROR-126

INCONSISTENT PLOG INPUT PROVIDED: CURRENT DBID=olddbID PLOG=oldplog BLOCK=oldblock RECEIVED DBID=newdbID PLOG=newplog BLOCK=newblock PLOGS PROVIDED TO ADACDC MUST BE IN SEQUENCE

説明：

入力 PLOG データの処理中に、ADACDC ユーティリティに矛盾する入力がありました。次のブロックは値 olddbID、oldplog、および oldblock であることを予測していましたが、次に処理されるブロックは newdbID、newplog、および newblock でした。これは、次の場合に起こることがあります。

- 異なるデータベース ID で作成された PLOG が使用されました。
- newplog および oldplog は同一ですが、newblock が oldblock よりも 1 つ大きくないか、または newplog が oldplog よりも小さくなっています。

対処：

PLOG は、作成順に ADACDC ユーティリティに指定する必要があります。PLOG 入力を正しい年代順で指定してください。このエラーが入力トランザクションファイル上の情報が原

困で発生した場合でもなお、指定したPLOGを処理するには、RESETTXFオプションを指定してください。

WARNING-127

**LENGTH ERROR DECOMPRESSING FIELD FILE=FILE ISN=ISN FIELDNAME=NAME
PE-INDEX=PEINDEX**

説明：

レコードをプライマリ出力ファイルに書き込む前に、レコードの圧縮解除中にエラーが発生しました (ISN 番号 isn、フィールド名 name、および PE インデックス peindex のファイル file)。レコードは圧縮解除できません。これは、次の場合に起こることがあります。

- ファイルの FDT が変わりました。
- FDTのフィールドに、デフォルトよりも長いデータエリアが書き込まれました。このことが発生しても、必ずしもエラーではありません。

圧縮解除が失敗したことを示すレコードが書き込まれます。

対処：

FDTが変わった場合、FDT変更が元に戻されない限り、レコードを圧縮することはできません。書き込まれるレコードが FDT のフィールドのデフォルト値よりも長い場合、大きなフィールドサイズに合わせてデフォルト値を増やすか、またはデフォルト値よりも長いフィールドを書き込まないようにします。

WARNING-128

INPUT TRANSACTION FILE IS EMPTY

説明：

CDCTXIファイルのオープンは正常に行われましたが、空でした。トランザクション情報がありません。

対処：

入力トランザクションファイルが空であることがわかっている場合、この警告は無視できます。しかし、入力トランザクションファイルにいくつかのデータがあることを予測していた場合、ADACDC が空のファイルを参照している原因を究明する必要があります。

ERROR-129

value INVALID FOR PHASE PARAMETER

説明：

PHASE パラメータに指定した値 value が無効です。

対処：

1、2、または BOTH を適切に指定してください。

WARNING-130

FDT FOR FILE FILE NOT FOUND

説明：

データレコードが、プライマリ出力ファイルに書き込む前に圧縮解除されています。レコードを圧縮解除する前に、ファイル file への FDT がデータベースに存在する必要があります。このケースでは、FDT が見つからなかったため、レコードを圧縮解除できませんでした。このメッセージが発行された後、ファイルの処理は使用不可になります。

対処：

FDT をデータベース内で再び使用可能にし、FILE=file でジョブを再実行して問題のファイルのレコードを処理してください。

ERROR-131

DATABASE ID MISMATCH ADARUN DBID=rundbid, EXTRACT FILE DBID=extdbid

説明：

ADACDC ユーティリティのフェーズ 2 の実行に指定した抽出ファイルから、第 1 レコードが読み込まれました。このレコードは、抽出ファイルが extdbid データベースのために生成されたことを示しています。しかし、ADARUN DBID は rundbid です。

対処：

正しいデータベースを使用してフェーズ 2 ジョブを実行します。

WARNING-132

INCONSISTENT NOET SPECIFICATION TRANSACTION DATA ON CDCTXI IGNORED

説明：

ADACDC は、前回の ADACDC 実行で NOET を指定したにもかかわらず、この実行では指定していないことを検出しました（またはその逆）。2つの実行の間で NOET パラメータを変更すると、トランザクションファイルのデータが余分になります。したがって、このデータは無視されます。

対処：

この結果が予期したとおりである場合、メッセージは無視しても問題ありません。予期したとおりでない場合は、ADACDC ユーティリティが異なるオプションで実行されている原因を究明する必要があります。

WARNING-133

LENGTH ERROR DECOMPRESSING ENTIRE RECORD FILE=FILE ISN=ISN

説明：

ファイル file の ISN をプライマリ出力データセットに書き込む前に、データの圧縮解除が試みられました。ただし、プライマリ出力データセットに書き込み可能な出力の最大長が、非圧縮レコードを収容できるほど大きくないため、圧縮解除は失敗しました。レコードはプライマリ出力データセットに書き込まれ、CDCO のインジケータが、レコードがまだ圧縮形式であることを示します。

対処：

プライマリ出力データセットのブロックサイズを大きくしてください。データレコードを圧縮解除すると 32K よりも大きなサイズが必要となる場合、ADACDC ユーティリティでは対応できません。

ERROR-134

UNKNOWN ERROR OCCURRED DECOMPRESSING DATA FILE=file ISN=isn RC=rc

説明：

プライマリ出力データセットへの出力前に、ファイル file 上の ISN のデータレコードの圧縮解除中、不明なエラーが発生しました。リターンコードは rc でした。レコードはプライマリ出力データセットに書き込まれ、CDCO のインジケータが、レコードがまだ圧縮形式であることを示します。

対処：

DBA にエラーを報告してください。

ERROR-135

ERROR LIMIT EXCEEDED

説明：

WARNING-127、WARNING-133、または WARNING-134 メッセージを合わせた数が 99 を超えると、エラーの制限を超えます。このエラーは、通常、FDT 定義（複数）に基本的な問題があり、修正が必要であることを示しています。

対処：

警告メッセージの一部または全部の問題を修正し、ジョブを再実行します。

WARNING-136

PLOG(S) MAY BE MISSING CURRENT=CURRPLOG NEXT=NEXTPLOG

説明：

入力 PLOG の読み込み中に、ADACDC は PLOG 番号が currplog から nextplog に飛んだことを検出しました。これは、その間にある PLOG 番号がスキップされた可能性があることを示しています。

このことは、PLOG 番号を変更しないでセッション番号を増やすと、オンラインセーブ中に発生することがあります（エラーではありません）。この場合、次に開始される PLOG では、直前の PLOG より 1 つ大きな番号を使用します。

相違点が発生した原因がこのことではない場合、適切な PLOG がすべてデータベースに順番に指定されていることを確認してください。

ERROR-137

PLOG plognumber NOT OF CURRENT VERSION

説明：

ADACDC は前のバージョンからのプロテクションログ (PLOG) を処理することはできません。

対処：

適切なバージョンのロードライブラリの ADACDC を使用します。

ERROR-138

PLOG plognumber WAS PRODUCED BY A CLUSTER NUCLEUS SESSION AND HAS NOT BEEN MERGED YET

説明：

プロテクションログ (PLOG) は Adabas クラスタニュークリアスによって作成され、ADARES PLCOPY プロシージャを使用して他の PLOG とまだマージされていません。

対処：

ADACDC を使用してデータを検索する前に ADARES PLCOPY 機能を使用します。

39 ADACMP エラーメッセージ

ERROR-121 **INVALID VALUE FOR PARAMETER RECFM**

説明：

このパラメータは VSE 環境でのみ必須です。正しい値は次のとおりです。

RECFM=F	固定小数点
RECFM=FB	固定長ブロック
RECFM=V	可変長
RECFM=VB	可変長ブロック
RECFM=U	不定長

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-122 **MISSING FUNCTION CODE**

説明：

キーワード COMPRESS または DECOMPRESS のどちらかを指定する必要があります。

対処：

必要な正しい機能キーワードを入力に指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-123

MISSING FIELD DEFINITION TABLE (FDT)

説明：

入力パラメータには、フィールド定義テーブルまたは（パラメータ FDT=file-number）が含まれている必要があります。

対処：

正しい FDT パラメータを追加し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

ERROR READING FIELD DEFINITION TABLE (FDT)

説明：

ニュークリアスが、フィールド定義テーブル（FDT）読み込み中にレスポンスコード nn を返しました。response はニュークリアスレスポンスです。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-125

INVALID VALUE FOR PARAMETER `UTYPE'

説明：

正しい値は UTYPE=EXU または UTYPE=EXF です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-126

INVALID INPUT DATASET

説明：

入力データセット（EBAND/DDEBAND）は、可変長または可変長ブロックのレコードフォーマットである必要があります。

対処：

正しい入力データセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

SYNTAX / SEMANTIC ERROR FOUND DURING FIELD DEFINITION TABLE (FDT) COMPILATION

説明：

該当エラーの説明または理由が表示されます。

次のような原因が考えられます。

- NU (空値省略) オプションまたは固定小数点 (FI) フィールドタイプに SQL 空値フィールド (NC) を指定しました。
- SQL 空値 (NC オプション) フィールドとして、ピリオディック (PE) グループのマルチプルバリュー (MU) フィールドまたはオカレンスを指定しました。
- 指定した ('xx') ピリオディック (PE) グループに 254 を超える基本フィールドを定義しました。

対処:

フィールド定義テーブル (FDT) 定義を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-128

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER 'CODE'

説明:

この場合、CODE パラメータに指定した値が正しくないか、または CODE パラメータが有効ではありません。

対処:

CODE パラメータを除去するか、最大 8 桁の数字か空白を指定します。ジョブを再実行します。詳細については『Adabas Security Manual』を参照してください。

ERROR-129

THE SUPPLIED FORMAT BUFFER IS WRONG

説明:

FORMAT=xxxxxxxx または FORMAT=** が正しくありません。

対処:

FORMAT パラメータに正しい値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-130

HYPEREXIT NOT LOADED

説明:

ハイパー出口番号 nnnn を ADACMP に定義しませんでした。

対処:

ADARUN 入力に HEXnn パラメータを追加し、ジョブを再実行します。HEX パラメータ nn では、ADACMP へのハイパー出口を定義します。

ERROR-131**INVALID VALUE FOR THE `SORTSEQ' PARAMETER**

説明：

指定可能な値は次のとおりです。

SORTSEQ=ISN	ISN 順に処理します。
SORTSEQ=DE	DE は親フィールドが MU フィールド、ピリオディックグループ内のフィールドまたはフォネティックディスクリプタではない任意のディスクリプタです。また、ハイパーディスクリプタであってはなりません。NU オプションを持ちません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADACMP ジョブを再実行します。

ERROR-132**DESCRIPTOR desc-name FOR FILE file-number HAS THE `NU' OPTION**

対処：

別のディスクリプタを選択するか、またはユーティリティ入力に対して NU パラメータを追加します。この場合、ディスクリプタ値が空値の場合はレコードは失われます。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADACMP ユーティリティに関する説明を参照してください。

ERROR-133**PARAMETER ETID NOT ALLOWED**

説明：

INFILE パラメータを指定していない限り、ADACMP ユーティリティの ETID パラメータは指定しないでください。

対処：

パラメータ入力をチェックし、不一致またはエラーを修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-135**INCORRECT FDT FOUND IN INPUT DATASET**

説明：

次のどれかに該当します。

- 最初のレコード内に予期されたフィールド定義テーブル (FDT) がありません。
- 入力データセットから読み込まれた FDT 構造は規則に従っていません。

対処：

入力データセットが正しいかどうかチェックします。正しい入力データセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-136**PARAMETER ERROR**

説明：

パラメータ UACODE、UWCODE、FACODE、FWCODE、または FWUCODE に、最低でも 1 つの無効な値があります。有効なエンコードの値は 0~4095 です。

対処：

エンコードキーの値を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-137**PARAMETER ERROR**

説明：

アーキテクチャキーパラメータ UARC に無効な値があります。有効な値は 0~11 です。

対処：

アーキテクチャキーの値を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-138**UES OBJECT object FAILED TO LOAD**

説明：

指定した必須 UES オブジェクトがロードされませんでした。オブジェクトが UES データセットに存在しない可能性があります。

対処：

必要なオブジェクトを配置し、ロードします。

ERROR-139**UES INTERNAL ERROR**

説明：

このエラーは、通常、必須 UES オブジェクトが 1 つでも欠けている場合に発生します。

対処：

どのオブジェクト（複数）が欠けているのかを判断し、再ロードします。

ERROR-140**UES INITIALIZATION FAILED**

説明：

追加のエラーメッセージが後に続き、エラーの原因を示します。

対処：

問題を修正し、ジョブを再実行してください。

ERROR-141

UACODE/UWCODE/UARC SPECIFIED, BUT NO FACODE/FWCODE SPECIFIED OR IMPLIED

説明：

ユーティリティは、ファイルに関するニュークリアス情報にアクセスできません。すべての値を指定する必要があります。

対処：

ユーザーエンコード値 (UACODE/UWCODE/UARC) を削除するか、ファイルエンコード値 (FACODE/FWCODE) も指定します。

ERROR-142

WIDE FIELD DETECTED BUT LENGTH UNEVEN

説明：

長さは、すべての文字が収まるようにワイドキャラクタサイズの倍数 (余りなし) にする必要があります。例えば、3 バイトのキャラクタサイズを使用する場合、長さはちょうど3で割り切れる必要があります。4 バイトのキャラクタサイズの場合は、長さはちょうど4で割り切れる必要があります。

対処：

問題を修正し、ジョブを再実行してください。

ERROR-143

WIDE FIELD DETECTED BUT FUCODE NOT SPECIFIED

説明：

ワイドフィールドはコードページ情報、つまり、FWCODE=4095 (Unicode) などのワイド文字フィールドエンコードを指定する必要があります。

対処：

問題を修正し、ジョブを再実行してください。

ERROR-144

INVALID ET-ID

説明：

マルチクライアントファイルで DECOMPRESS を実行するとき、Adabas は次のどちらかを処理します。

- ET-ID が指定されていない場合はファイル全体
- ET-ID により識別されるクライアントに対して許可されたレコードの選択

ETID パラメータによって参照されるユーザー ID が定義されていないか、またはオーナー ID が割り当てられませんでした。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-145

**INVALID SPANNED RECORD ENCOUNTERED
INPUT RECORD COUNT = {count}**

説明：

ADACMPDECOMPRESSの実行で、入力として無効なスパン圧縮レコードを指定しました。

対処：

詳細は、Software AG サポートにお問い合わせください。

ERROR-148

**DDFEHL RECORD LENGTH TOO SMALL
MUST BE AT LEAST 500 BYTES**

説明：

DDFEHL エラーデータセットには、ADAF ヘッダーと最初の論理レコードセグメントを格納できるように最低でも 500 バイトのレコード長が必要です。

対処：

DDFEHL データセットに割り当てるシーケンシャルレコード長を大きくしてから、再試行します。

ERROR-149

**MAXLOGRECLN LESS THAN MINIMUM
MUST BE AT LEAST 32768 BYTES**

説明：

MAXLOGRECLN パラメータに指定した値が小さすぎます。最低でも 32768 バイト必要です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-150

HEADER=YES BUT FIRST INPUT RECORD DOES NOT HAVE A VALID ADAH HEADER

説明：

ADACMP COMPRESS の実行で HEADER パラメータを "YES" に設定しましたが、最初の非圧縮入力レコードには有効な ADAH ヘッダーがありません。

対処：

入力レコードを見直し、入力レコードに誤りがないか調査し、HEADER パラメータを "NO" に設定する必要があるかどうか検討してください。問題が解決しない場合は、Software AG サポートにお問い合わせください。

ERROR-151

**DDAUSBA RECORD LENGTH TOO SMALL
MUST BE AT LEAST {number} BYTES**

説明：

DDAUSBA のデータセットレコード長が、ADACMP DECOMPRESS 処理には小さすぎます。HEADER パラメータを "NO" に設定した場合、最小長はレコードディスクリプタワード (RDW) の長さに1バイト加算した値となります。HEADER パラメータを "YES" に設定した場合、最小長は RDW の長さに ADAH ヘッダーか ADAC ヘッダーの長さを足し、さらに1バイト加えた値となります。

対処：

DDAUSBA に割り当てるシーケンシャルレコード長を大きくしてから、再試行します。

ERROR-152

**DDAUSB1 RECORD LENGTH TOO SMALL.
MUST BE AT LEAST {nnn} BYTES.**

説明：

DDAUSB1 のデータセットレコード長が、LOBVALUES=YES とした COMPRESS には小さすぎます。レコード長は、LOBDEVICE パラメータと制御情報から求めた圧縮レコード長が収まるように十分に大きな値である必要があります。

対処：

DDAUSB1 に割り当てるシーケンシャルレコード長を大きくするか、または LOBDEVICE パラメータ設定を再評価します。再試行してください。

ERROR-153

CODE SPECIFIED BUT LOB FIELDS EXIST FOR FILE

説明：

CODE パラメータは、ラージオブジェクト (LB オプション) フィールドが含まれているファイルではサポートされません。

対処：

別のファイルを指定するか、または CODE パラメータを削除してから、再試行します。

ERROR-154

LOBVALUES=YES BUT NO LOB FIELDS EXIST FOR FILE.

説明：

LOBVALUES パラメータは、ラージオブジェクト (LB) フィールドがある入力ファイルに対してのみ、YES に設定してください。

対処：

エラーの原因を調べてから、再試行します。

ERROR-155**LOBVALUES=YES WITH DECOMPRESS REQUIRES INFILE.**

説明：

ADACMP DECOMPRESS 機能で LOBVALUES=YES を指定する場合は、INFILE パラメータを LOB ファイルグループの基本ファイルに設定して、非圧縮レコードに LOB 値を代入する必要があります。

対処：

INFILE パラメータを指定し、再試行します。

ERROR-156**DECOMPRESS OF A LOB FILE IS NOT PERMITTED.**

説明：

LOB ファイルに対して ADACMP DECOMPRESS 機能を実行することはできません。LOB ファイルグループの基本ファイルにのみ指定できます。

対処：

入力ファイルが正しく指定され、LOB ファイルではないことを確認してから、再試行します。

ERROR-157**INVALID LOB INFORMATION DETECTED FOR FILE {filenum}**

説明：

LOBVALUES=YES とした ADACMP DECOMPRESS INFILE は、有効な LOB ファイルを検出できませんでした。メッセージ (*filenum*) で参照されている基本ファイルに LOB ファイルが関連付けられていないか、または基本ファイルの LOB ファイル情報が無効になっています。

対処：

指定した基本ファイルが LOB ファイルに正しく関連付けられていることを確認し、再試行します。

ERROR-158**ERROR DURING HYPEREXIT CALL A CALL TO HYPEREXIT NUMBER {nn} RESULTED IN A RESPONSE 79 WITH SUBCODE {code}**

説明：

ハイパー出口コールが、レスポンスコード 79 およびメッセージに記載されたサブコードで失敗しました。

対処：

サブコードを調査して、エラーの原因を特定してください。

40 ADACNV エラーメッセージ

次のメッセージグループについて説明します。

変換エラー (ERROR-121～ERROR-144)

ERROR-121

VERSION to-version NOT SUPPORTED

説明：

パラメータ TOVERS で指定したバージョン番号は、ADACNV でサポートされていません。

対処：

パラメータをサポートしているバージョンに変更し、ユーティリティを再実行します。

ERROR-122

CONVERSION NOT PERMITTED FOR VERSION 5.1 AND BELOW

説明：

現在のデータベースのバージョンは 5.1 以下です。変換は、バージョン 5.2 以上のみで実行できます。

対処：

バージョン 5.2 の Adabas ニュークリアスを開始および停止してデータベースをバージョン 5.2 に変換し、ADACNV を再実行します。

ERROR-123

CONVERSION NOT POSSIBLE BECAUSE THE DIB BLOCK IS NOT EMPTY

説明：

DIB ブロックが空ではありません。変換は不可能です。

対処：

Adabas ニュークリアスをシャットダウンし、すべてのユーティリティが完了するのを待ってから、ADACNV を再実行します。

ERROR-124

CONVERSION NOT POSSIBLE BECAUSE THE CHECKPOINT BLOCK EXTENSION IS NOT EMPTY

説明：

CP ブロックエクステンション (RABN 20~24) が空ではありません。バージョン 5.2 への変換は不可能です。

対処：

CP ブロックエクステンションをクリアするため、ニュークリアスを再開してから、ニュークリアスを正常に終了します。

ERROR-125

CONVERSION NOT POSSIBLE BECAUSE OF PENDING AUTORESTART

説明：

Work データセットが空ではありません。変換は不可能です。

対処：

ペンディング自動再スタートを削除するため、ニュークリアスを再開してから、正常に終了します。

ERROR-126

DDFILEA BLOCK SIZE TOO SMALL

説明：

DDFILEA ブロックサイズ (blocksize バイト) が小さすぎて、length バイト長のレコードを書き込むことができません。

対処：

シーケンシャルブロックサイズが大きいデバイスタイプに DDFILEA を割り当てます。

ERROR-127

SECURITY FILE BLOCK TOO LARGE

説明：

セキュリティバイバリュー変換によってデータレコードが拡大され、データブロックに収まりません。

対処：

パディングファクタが大きいセキュリティファイルで ADAORD REORDATA を実行してから、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-128**VERSION 6 FEATURE IS USED, BACKWARD CONVERSION IMPOSSIBLE**

説明：

次のバージョン 6 の特性のいずれかが使用されました。

- 4 バイト RABN
- 255 を超える DBID
- 255 を超えるデータベースの最大ファイル数

バージョン 5 への変換は不可能です。

対処：

バージョン 6 の特性を削除し、ADACNV ジョブを再実行してください。

ERROR-129**FILE file-number HAS VERSION 6 FEATURE ON, BACKWARD CONVERSION IMPOSSIBLE**

説明：

バージョン 6 の特性である、4 バイトの ISN が使用されました。バージョン 5 への変換は不可能です。

対処：

バージョン 6 の特性を削除し、ADACNV ジョブを再実行してください。

ERROR-130**DLOG AREA IS NOT EMPTY. ADADSF HAS BEEN USED, CONVERSION TO VERSION 5.2 NOT POSSIBLE**

説明：

Adabas Delta Save Facility が使用されました。ADADSF はバージョン 5.2 では実行できません。

対処：

ADADSF をオフにし、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-131**FILE file-number HAS VERSION 5.3 FEATURE ON, BACKWARD CONVERSION IMPOSSIBLE**

説明：

バージョン 5.3 の特性が使用されました。バージョン 5.2 への変換は不可能です。

対処：

バージョン 5.3 の特性を削除し、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-132

DDFILEA (FILEA) STRUCTURE MISMATCH

説明：

DDFILEA (FILEA) に無効な構造があります。ジョブ制御文 (JCL) にエラーがある可能性があります。

対処：

すべてのエラーを修正し、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-133

FILE file-number HAS VERSION 7.1 FEATURE ON, BACKWARD CONVERSION IMPOSSIBLE

説明：

バージョン 7.1 の特性が使用されました。バージョン 6 への変換は不可能です。

対処：

バージョン 7.1 の機能を削除し、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-134

CONVERSION NOT POSSIBLE BECAUSE PROTECTION LOG HAS NOT BEEN COPIED

説明：

PLOGRn データセットが解放されていません。変換できません。

対処：

ADARESPLCOPY を実行して、PLOG データセットを解放します。その後、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-135

CONVERSION NOT POSSIBLE BECAUSE ALTERNATE RABNS ARE ASSIGNED

説明：

代替 RABN は Adabas バージョン 7.2 以上ではサポートされません。

対処：

Adabas バージョン 7.1 以下から Adabas バージョン 7.2 以上に変換する前に ADAORD を使用してデータベースをリオーダします。

ERROR-136

OPEN PLOGR n ERROR FOR NUCID= nucid, DSNAME= plog-name

説明：

Parallel Participant Table (PPT) エントリには、指定した番号と名前のプロテクションログ (PLOG) データセットが含まれています。ADACNV はデータセットをオープンできませんでした。データセットは削除されているか、カタログされていないか、またはまだコピーされていない PLOG データを含んでいる可能性があります。

対処：

指定したデータセットにアクセスできるようにするか、または IGNPPT パラメータを使用し、ジョブを再実行します。

ERROR-137

I/O ERROR READING PLOGRn FOR NUCID= nucid , DSNAME= plog-name

説明：

Parallel Participant Table (PPT) エントリには、指定した名前と番号のプロテクションログ (PLOG) データセットが含まれています。ADACNV はこのデータセットの最初のブロックを読み込むことができませんでした。データセットが破壊されている可能性があります。

対処：

エラーの原因を特定し、修正したうえで、ジョブを再実行します。

ERROR-140

PPT-AREA ALLOCATION FAILED

説明：

PPT エリアを割り当てられませんでした。32 ASSO ブロックの割り当てを行おうとしました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-141

CONVERSION BACK TO V74 NOT POSSIBLE

説明：

データベースには、物理的な ASSO または DATA エクステンツが5つ以上あります。Adabas 7 データベースに逆変換することはできません。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-142

CONVERSION BACK TO V74 NOT POSSIBLE

説明：

1つ以上のシステムファイル番号が255を超えています。

対処：

システムファイル番号が255未満になるように調整してから、再試行します。

ERROR-143

FILE {filename} HAS VERSION 8.1 FEATURE ON

説明：

メッセージに記載されているファイルは Adabas 8 機能を使用しており、データベースを以前の Adabas リリースに逆変換することはできません。

対処：

Adabas 8 機能を削除し、ADACNV ジョブを再実行します。

ERROR-144

CONVERSION NOT REQUIRED

説明：

データベースの Adabas バージョンは、ADACNV 実行で要求したバージョンと同じです。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

ERROR-145

CONVERSION BACK TO V74 NOT POSSIBLE. MORE THAN 6 USER SYSTEM FILES EXIST.

説明：

Adabas 7 では、最大 6 つのユーザーシステムファイル (SYSFILE オプションでロードされるファイル) が認められています。現時点で 6 つ以上のユーザーシステムファイルが存在します。

対処：

SYSFILE オプションなしでその余分なユーザーシステムファイルをアンロード、削除、および再ロードします。このユーティリティを再実行します。

ERROR-146

CONVERSION BACK TO V74 NOT POSSIBLE. UNKNOWN SYSTEM FILE {nnnnn} EXISTS.

説明：

メッセージ (nnnnn) に記載されているユーザーシステムファイルが、GCB の予約エリアに存在します。

対処：

SYSFILE オプションでユーザーシステムファイルをアンロード、削除、および再ロードして、GCB の正しいエリアにファイル番号を配置します。このユーティリティを再実行します。

その他の変換メッセージ

CONVERSION TO VERSION yy FEASIBLE

説明：

このメッセージは変換の第1フェーズで出力され、データベースの変換が可能であることを示します。

POINT OF NO RETURN REACHED

説明：

ADACNV ユーティリティが最終パスを開始しました。この地点以降の ABEND には、RESTART パラメータによるユーティリティの新しい実行が必要です。

CONVERSION FROM VERSION xx TO VERSION yy STARTED

説明：

変換の第1フェーズで、変換段階が開始しました。

CONVERSION IS COMPLETED

説明：

変換段階の完了に成功しました。

THE MIRROR TABLE (ASSO RABN 7) HAS BEEN CLEARED

説明：

Adabas リフレクティブデータベースは Adabas バージョン7以上ではサポートされません。

THE BUB (ASSO RABN 2) HAS BEEN CLEARED ALTERNATE RABN DEFINITIONS WERE FOUND BUT NO ALTERNATE RABNS WERE ASSIGNED

説明：

代替 RABN は Adabas バージョン 7.2 以上ではサポートされません。

SECURITY BY VALUE CONVERTED NORMALLY

説明：

セキュリティバイバリュ変換が正常に完了しました。

SOME FST ENTRIES ARE DELETED

説明：

FST 構造の変更が原因で、少なくとも1つの FST エントリが FST ブロックに適合しません。最小 RABN 範囲（複数）でエントリ（複数）が削除されています。

ADACNV は警告およびレスポンスコード 4 で終了します。

対処：

変換後に ADAORD REORDB を実行します。

COX01I

ADACOX EXIT Vv.r.1 date ACTIVE

説明：

ADACOX モジュールのバージョンとアセンブリ日付を示す通知メッセージ。

COX02I

ADACOX CONVERTING source TO target

説明：

ソースからターゲットへの変換が ADACOX によって行われることを示す通知メッセージ。

COX03I

ADACOX source TO target COUNT number AVG time (usec)

説明：

セッション終了時の通知メッセージ。このメッセージは、ADACOX がソースとターゲットエンコードの間の変換を実行した場合にのみ出力されます。 *number* は、変換数およびマイクロ秒単位の変換の平均時間を示します。

41 ADADBS エラーメッセージ

ERROR-114

INVALID VALUE FOR PARAMETER ASSOPFAC OR DATAPFAC

説明：

パディングファクタの値は、1～90 % でなければなりません。

対処：

パラメータ値を修正してジョブを再実行します。

ERROR-121

INVALID ENCODING VALUE (1-4095)

説明：

有効なエンコード値は、1～4095 の範囲です。

対処：

パラメータに有効なエンコード値を指定してジョブを再実行します。

ERROR-122

INVALID FILE NUMBER SPECIFICATION

説明：

実行する機能によっては、1つまたは複数のファイル番号を指定する必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-123

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER MODE

説明：

DS または ISN を再利用するかどうかを新たに指定するには、ON か OFF のどちらかが必要です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER PRTY

説明：

有効な値は 1～255 までです。

ERROR-125

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER ASSOSIZE/DATASIZE

説明：

ASSOSIZE と DATASIZE のどちらかのパラメータを指定する必要があります。両方を使用することはできません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-126

INVALID VALUE FOR A SIZE PARAMETER

説明：

xxSIZE パラメータに指定した値が正しくないか、または複数の xxSIZE パラメータを指定しました。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。SIZE パラメータは 1 つのみ指定できます。値はブロック単位で指定します。次のいずれかを指定します。

- ACSIZE
- DSSIZE
- NISIZE
- UISIZE

ERROR-127**INVALID VALUE FOR PARAMETER LENGTH, OPTION, OR FORMAT**

説明：

次の規則が適用されます。

- LENGTH、OPTION、FORMAT の各パラメータのうち、1つのみを指定できます。
- いずれかのパラメータを指定した場合、LENGTH パラメータの値は要求したフィールドのフォーマットに従ってゼロより大きく、かつ最大値以下にする必要があります。
- いずれかのパラメータを指定した場合、唯一許可される OPTION パラメータ値は LA です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-128**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER TODATE**

説明：

TODATE パラメータは、次の形式で指定する必要があります。

TODATE=YYYYMMDD

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-129**MANDATORY PARAMETER USER ID MISSING**

説明：

プライオリティは、ユーザー ID で一意に識別される特定のユーザーに割り当てられます。ユーザー ID パラメータがありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-130**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER DESCRIPTOR**

説明：

指定値が次のいずれかです。

- 指定されていません。
- FDT 内にそのフィールドがありません。
- FDT 内にありますが、ディスクリプタではありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-131

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER NAME

説明：

NAME パラメータに有効な値が必要です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-132

JOBNAME OR IDENT PARAMETER MISSING

説明：

これらのパラメータのうち、少なくとも1つを指定します。全 DIB ブロックがリセットされてしまうと、データ保全性が失われてしまうため、DDIB オペレータコマンドを使用して現在の DIB 内の内容に関する情報を取得します。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-133

INVALID OR MISSING FIELD NAME

説明：

次の原因が考えられます。

- フィールド名の指定がありません。
- 指定したフィールド名が FDT 内にありません。
- 指定したフィールド名は、グループフィールド名またはサブディスクリプタ名です。
- このフィールドには、FI オプションが定義されています。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-134

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER `parameter`

説明：

有効な値は YES と NO のみです。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-135**MISSING PARAMETER FOR OPERCOM FUNCTION**

説明：

有効なオペレータコマンドを最低 1 つ指定する必要があります。

対処：

正しいオペレータコマンドを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-136**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER AALT/DALT**

説明：

AALT または DALT パラメータのうち、いずれか一方だけが必須です。両方を使用することはできません。

対処：

パラメータ値のいずれかを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-137**SIZE MUST BE SPECIFIED IN CYLINDERS**

説明：

ASSOSIZE や DATASIZE は、ブロック単位で指定できません。

対処：

正しいパラメータ値をシリンダ数で指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-138**SIZE MUST BE SPECIFIED IN BLOCKS**

説明：

ASSOSIZE や DATASIZE は、ブロック単位で指定できません。

対処：

正しいパラメータ値をブロック数で指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-139**INVALID DATASET NUMBER**

説明：

データセット番号についての詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-140

INVALID VALUE FOR MAXDS, MAXNI OR MAXUI

説明：

これらのパラメータの値はブロック単位で指定し、65,535 以下とする必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-141

MISSING FUNCTION PARAMETER

説明：

ADADBS ジョブに特定の AdaDBS 機能を指定しませんでした。

対処：

適切な機能パラメータを指定して ADADBS ジョブを再実行します。ADADBS 機能パラメータについては、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-142

INVALID RABN RANGE FOR NEWALTS

説明：

ジェネラルコントロールブロック (GCB) に定義されている単一の既存エクステント内の RABN を指定する必要があります。ADAREP ユーティリティで作成したレポートリストを参照してください。

対処：

正しい範囲を再指定し、ADADBS ジョブを再実行します。

ERROR-143

INVALID VALUE FOR PGMREFRESH

説明：

YES または NO のみをパラメータ値として指定できます。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-144

INVALID VALUE FOR PARAMETER REVIEW

許可されている値は、NO、LOCAL、またはハブです。

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-145**INVALID ADABAS STATE FOR "TRAN SUSPEND/RESUME"**

説明：

オンラインのデータベースまたはファイルの保存が実行中であるか、または Adabas がまだ最後の TRAN SUSPEND および TRAN RESUME 機能进行处理しています。

ERROR-146**TRESUME TIMER EXPIRED BEFORE RESUME OCCURRED**

説明：

TRAN RESUME ジョブを実行しましたが、TRESUME によって設定されたタイマ (JCL に設定されない限りデフォルトの 120 秒) はすでに期限切れです。タイマが期限切れになると、Adabas は直ちに normal status (正常なステータス) に戻り始めます。

ERROR-147**"TRAN SUSPEND" ALREADY IN PROGRESS**

説明：

TRAN SUSPEND が実行中です。タイマが期限切れになるか、または TRAN RESUME ジョブを正常に実行しない限り、別の TRAN SUSPEND ジョブを開始することはできません。

ERROR-148**NO PREVIOUS "TRAN SUSPEND" TO RESUME**

説明：

TRAN SUSPEND ジョブは開始されませんでした。

ERROR-149**INVALID WHEN ADABAS IS "MODE=SINGLE"**

説明：

Adabas はシングルユーザーモードで実行しています。MODE=MULTI が必要です。

ERROR-150**ET-SYNC FAILED**

説明：

ET-SYNC は成功しませんでした。データベースは静止することができません。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-182

NO FILE NUMBER GIVEN

説明：

MUPEX 機能または RECORDSPANNING 機能に必須のオペランド FILE を指定しませんでした。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADADBS ユーティリティの MUPEX 機能と RECORDSPANNING 機能の説明を参照してください。

ERROR-183

INVALID MUPECOUNT OPTION (1/2)

説明：

ADADBS MUPEX 機能の実行で MUPECOUNT パラメータに "1" と "2" 以外の値を指定しました。MUPECOUNT の有効な値は "1" または "2" です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』に記載されている ADADBS ユーティリティの MUPEX 機能に関する説明を参照してください。

ERROR-184

MUPECOUNT SPECIFICATION IS INVALID. THE FILE CONTAINS A PE AND HAS RECORDS.

説明：

MUPECOUNT パラメータに "1" を設定するには、ファイルが空であるか、PE フィールドが設定されていない必要があります。MUPECOUNT を "2" に設定するには、ファイルが空でない場合は、DE フィールドの一部である PE フィールドをファイルに含めることができません。

対処：

正しいパラメータ値を指定するか、またはディスクリプタをリリースしてから、ジョブを再実行します。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』に記載されている ADADBS ユーティリティの MUPEX 機能に関する説明を参照してください。

ERROR-186

CONFLICTING FILE OPTIONS

説明：

次のいずれかの状況が発生しました。

- 指定したファイルはシステムファイルです。
- 指定したファイルはカップリングされたファイルです。

- 指定したファイルは ADAM ファイルです。
- 指定したファイルはレプリケートされたファイルです。
- このファイルには特権コマンドのみが許可されています。
- 指定したファイルは、ステータスがロード中になっています。
- MIXDSDEV は、スパンデータストレージファイルには認められていません。

対処：

ファイルまたはパラメータを修正し、ADADBS ジョブを再実行します。

ERROR-187

TIMELIMIT EXCEEDED

説明：

TIMELIMIT パラメータで設定した RECORDSPANNING 機能または SPANCOUNT 機能のタイムリミットを超えました。

対処：

TIMELIMIT パラメータ値を変更し、ジョブを再実行します。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADADBS ユーティリティの RECORDSPANNING および SPANCOUNT 機能の説明を参照してください。

ERROR-188

INVALID RECORDSPANNING REQUEST

説明：

スパンデータストレージレコードがすでに含まれているファイルに RECORDSPANNING 機能の MODE=OFF パラメータを指定することはできません。

対処：

指定したファイルにスパンデータストレージレコードが含まれていないことを確認してから、ADADBS ジョブを再実行します。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADADBS ユーティリティの RECORDSPANNING 機能の説明を参照してください。

ERROR-189

AN I/O ERROR OCCURRED

説明：

指定した機能の実行中に I/O エラーが発生しました。

対処：

エラーの原因を調べ、修正したうえで、ADADBS ジョブを再実行します。

ERROR-190

FILE SPECIFIED IS NOT SPANNED

説明：

指定したファイルには、有効なスパンデータストレージレコードがありません。

対処：

スパンデータストレージレコードが有効になっているファイルを指定し、ADADBS ジョブを再実行します。

ERROR 191

REPLICATION MAY NOT BE TURNED ON FOR A FILE WITH SPANNED DATA STORAGE RECORDS

説明：

スパンデータストレージレコードがあるファイルでは、レプリケーションが無効になっていることがあります。

対処：

ADADBS実行に指定したパラメータを調べて修正し、スパンドレコードが含まれているファイルをレプリケートしようとしていないことを確認します。ジョブを再度実行してください。

42 ADADCK エラーメッセージ

ERROR-121

INVALID RECORD LENGTH FOUND

説明：

レコード長が、負かゼロ、または最大値（MAXRECL 値）よりも大きくなっています。

`DSRABN=xxxxxxxx (nnnn), OFFSET=xxxxxx (nnn)`

ERROR-123

DUPLICATE ISN FOUND

説明：

同じ DS ブロック内に同一 ISN が 2 つ見つかりました。

`DSRABN=xxxxxxxx (nnnn), OFFSET=xxxxxx (nnn)`

ERROR-124

INVALID DSST ENTRY FOUND

説明：

次の情報でエラーを特定できます。

DSRABN=xxxxxxxx (nnnn)、REQUIRED % x、PRESENT % x、 DSSTRABN=xxxxxxxx (nnnn)、OFFSET=xxxxxx (nnn)

ブロックサイズ - パディング = xxxxx (nnn) 使用中のブロックのサイズ = xxxxx (nnn)

ERROR-125
INVALID RECORD LENGTH

説明：

DSCHECK 機能によって、このデータストレージブロック内の全レコード長の合計が（ブロック長 - 4）と等しくないか、またはレコード長が 0 であることが検出されました。

DSRABN=xxxxxxxx (nnnn)、OFFSET=xxxxxx (nnn)

ERROR-127
INVALID BLOCK LENGTH

説明：

ブロック長フィールドに次のいずれかの値があります。

- 負数値
- 物理ブロックサイズより大きい値

DSRABN=xxxxxxxx (nnnn)、OFFSET=xxxxxx (nnn)

ERROR-128
INVALID ISN FOUND

説明：

ゼロまたは許容最大値（TOPISN）よりも大きい ISN が見つかりました。

ERROR-130
SPANNED RECORD WITH
ISN {isnumber}
DS RABN {ravn}
ONE OF THE FOLLOWING ERRORS OCCURRED:
NEITHER PRIMARY SPANNED RECORD BIT NOR
SECONDARY SPANNED RECORD BIT IS SWITCHED ON.

説明：

メッセージ (*isnnumber*) に記載されている ISN 番号を持つスパンドレコードのヘッダーには誤りがあります。

対処：

この ISN または次のスパンドレコードの ISN を修正するか、またはプライマリスパンドレコードビットまたはセカンダリスパンドレコードビットのいずれか一方をオンにします。スパンドレコードのヘッダーを修正する場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-131

**SPANNED DATA STORAGE RECORD WITH
ISN {isnnumber} DS RABN {rabn}
CONTAINS INCONSISTENCIES.
ONE OF THE FOLLOWING ERRORS OCCURRED:
ISN OF NEXT SECONDARY SPANNED RECORD IS ZERO.
BITS OF SECONDARY SPANNED RECORD AND PRIMARY RECORD ARE BOTH
SWITCHED ON.**

説明：

メッセージ (*isnnumber*) に記載されている ISN 番号を持つプライマリスパンドレコードのヘッダーには誤りがあります。

対処：

プライマリスパンドレコードの ISN を修正するか、次のセカンダリスパンドレコードの ISN を修正するか、またはセカンダリスパンドレコードビットをオフにします。スパンドレコードのヘッダーを修正する場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-132

**SECONDARY SPANNED RECORD WITH ISN {isnnumber}
NOT FOUND.**

説明：

メッセージ (*isnnumber*) に記載されている ISN 番号を持つセカンダリスパンドレコードのヘッダーが、データストレージにありません。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-133

**DUPLICATE PRIMARY SPANNED DS
ISN {isnnumber} FOUND - DS RABN {rabn}**

説明：

メッセージ (*isnnumber*) に記載されている ISN 番号が、データストレージの 2 つのプライマリスパンドレコードに表示されます。ISN はユニークでなければなりません。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-134

**DUPLICATE SECONDARY SPANNED DS
ISN {isnnumber} FOUND - DS RABN {rabn}**

説明：

メッセージ (*isnnumber*) に記載されている ISN 番号が、データストレージの 2 つのセカンダリスパンドレコードに表示されます。ISN はユニークでなければなりません。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-135

**SECONDARY SPANNED RECORD WITH ISN {isnnumber1} NOT FOUND.
SECONDARY ISN {isnnumber2} DSRABN {rabn} POINTS TO SECONDARY ISN
WHICH WAS NOT FOUND IN DATA STORAGE**

説明：

メッセージ (*isnnumber1*) に記載されているセカンダリスパンドレコードの ISN がデータストレージにありませんでした。この ISN を指すセカンダリスパンドレコードの ISN も、メッセージ (*isnnumber2*) に記載されています。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-136

**SECONDARY ISN {isnnumber} FOUND IN DATA
STORAGE RABN {rabn} BUT NOT REFERENCED BY A PRIMARY ISN.**

説明：

データストレージにあったセカンダリスパンドレコードが、プライマリ ISN から参照されていません。セカンダリスパンドレコードの ISN がメッセージ (*isnnumber*) に記載されています。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-137

**PRIMARY ISN {isnnumber1} NOT FOUND. PRIMARY ISN WAS REFERENCED IN
SECONDARY ISN {isnnumber2} DS RABN {rabn} - REMOVING FROM THE
FROMRABN/TORABN WILL MOST LIKELY RESOLVE THE WARNING.**

説明：

セカンダリスパンドレコードから参照されたプライマリスパンドレコードの ISN が、ADADCK の実行時にデータストレージで見つかりませんでした。プライマリスパンドレコード

(*isnumber1*) とセカンダリスパンドレコード (*isnumber2*) のどちらの ISN 番号も、メッセージに記載されています。

このエラーの原因として最も考えられるのは、ADADCK 実行に FROMRABN パラメータおよび TORABN パラメータを指定し、その FROMRABN パラメータがプライマリ RABN ではなくセカンダリ RABN を参照していることです。FROMRABN パラメータではプライマリ RABN を参照することをお勧めします。

対処：

FROMRABN パラメータを使用していた場合は、このパラメータがセカンダリ RABN ではなくプライマリ RABN を参照することを確認します。次に、ジョブを再実行します。また、実行から FROMRABN パラメータと TORABN パラメータを除外することも検討してみてください。

問題が解決しない場合は、Software AG 技術サポートに連絡してください。

43 ADADEF エラーメッセージ

ERROR-121

MISSING FUNCTION PARAMETER

対処：

次のパラメータのいずれかを追加し、ジョブを再実行します。

- ADADEF DEFINE 新規データベースの定義
- ADADEF NEWWORK 新 WORK の定義

ERROR-122

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER DBID

説明：

データベース ID の値は、1～65,535 の範囲でなければなりません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-123

CHECKPOINT-FILE DEFINITION MISSING IN PARAMETER-LIST

説明：

Adabas データベースごとに、1つのチェックポイントファイルが必要です。

対処：

次のパラメータを追加し、ジョブを再実行します。

```
ADADEF FILE=XX,CHECKPOINT,...
```

ERROR-124

MULTIPLE SYSTEM FILE DEFINITION NOT PERMITTED

説明：

Adabas チェックポイントファイルおよびセキュリティファイルは、データベースごとに一度のみ定義できます。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-125

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER WORKSIZE

説明：

WORKSIZE パラメータの値は、少なくとも 300+WALT+トラックごとのブロック数である必要があります。

対処：

WORKSIZE 値を拡張し、ジョブを再実行します。

ERROR-126

ADADEF NOT PERMITTED TO RUN

説明：

アクティブなニュークリアスと平行して、ADADEFを実行しようとしてしました。Adabasニュークリアスがレスポンスコード response-code を返しました（短い説明がここに示されます）。

対処：

許容されるレスポンスコードは148のみです。ニュークリアスをシャットダウンし、ジョブを再実行します。

ERROR-127

INCONSISTENT PARAMETER LIST

説明：

対応するエクステントパラメータには、次のパラメータが必要です。

ASSOSIZE/ASSODEV/AALT および DATASIZE/DATADEV/DALT

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-128**FILE TYPE MISSING OR INVALID**

説明：

ファイル番号の後には、ロードされるシステムファイルのタイプを定義するキーワードが必要です。

対処：

詳しくは、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-129**DSST-EXTENT SPACE ALLOCATION FAILED**

説明：

DSST エクステントを割り当てるのに十分なアソシエータスペースがありませんでした。

対処：

アソシエータエクステントを大きくしてから、ジョブを再実行します。

ERROR-130**INVALID VALUE FOR MAXDS/MAXNI/MAXUI**

説明：

上記のパラメータの値は、ブロック単位で指定する必要があります。また、1～65535B の範囲内である必要もあります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-132**DATABASE NOT FORMATTED**

説明：

指定した ASSO には有効な GCB が含まれています。

対処：

ADADEF を実行する前に ADAFRM を実行するか、または AdaDEF ジョブに OVERWRITE パラメータを指定します。

ERROR-133**INVALID SIZE SPECIFICATION**

説明：

(DDASSO/ASSOR1/2、DDDATA/DATAR_n、DDWORK/WORKR1) に対して指定した (ASSOSIZE/DATASIZE/WORKSIZE) パラメータ値は物理的に確保できるスペースよりも大きくなっています (実際のパラメータジョブ制御値はメッセージテキストと一緒に出力されます)。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-134

NO DATABASE TO BE OVERWRITTEN

説明：

OVERWRITE パラメータを指定しましたが、割り当てられたデータセットにはデータベースが含まれていません。

対処：

OVERWRITE パラメータを削除し、ADADEF ジョブを再実行します。

ERROR-135

VALUE OF PARAMETER MAXRECL TOO LARGE

説明：

MAXRECL 値が次のいずれかです。

- デフォルト値よりも大きくなっています。
- 7 よりも小さくなっています。

対処：

正しい MAXRECL パラメータ値を指定し、ADADEF ジョブを再実行します。

ERROR-136

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER RABNSIZE

説明：

RABNSIZE パラメータには、3 または 4 を指定できます。

対処：

RABNSIZE パラメータの値を修正して、ADADEF ジョブを再実行します。

ERROR-137

dataset SIZE TOO LARGE

説明：

DATA/ASSO/WORK データセットの SIZE パラメータ値は、最大ブロック数 nnnn を超えています。

対処：

データセット SIZE パラメータの値を修正して ADADEF ジョブを再実行します。

ERROR-138**CANNOT SET UES=NO WHILE FILE file-number LOADED**

説明：

指定したファイルに、ワイド文字フォーマットフィールドのような要素が最低1つあり、データベースのユニバーサルエンコードを使用する必要があります。つまり、UES=YESが必要です。

対処：

UES=NOを設定する必要があるかどうかもう一度検討し、その結果に応じてファイルを調整します。

ERROR-139**SPECIFY UES=NO TO DISABLE UES**

説明：

すべてのxxCODEパラメータを0に設定してUESをOFFにすることはできません。ADADEFは、0に設定したパラメータと指定しなかったパラメータとを区別しません。

対処：

UESを無効にするには、UESパラメータをNOに設定してください。

44 ADAFRM エラーメッセージ

ERROR-121

MISSING FUNCTION

説明：

ASSOFRM、DATAFRM、WORKFRM、CLOGFRM、PLOGFRM、RLOGFRM、TEMPFRM、SORTFRM、DSIMFRM、ASSORESET、DATARESET、WORKRESET、DSIMRESETの機能うち、少なくとも1つを指定する必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAFRM ジョブを再実行します。

ERROR-122

INVALID DATASET NUMBER

説明：

データセット番号についての詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAFRM ジョブを再実行します。

ERROR-123

REQUESTED DATASET CANNOT BE MIRRORED

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

WILL NOT RESET ASSO CONTROL BLOCKS

説明：

1～30 のアソシエータブロックのリセットは拒否されます。

ERROR-125

MISSING ASSO DATASETS

説明：

FROMRABN パラメータが指定されているとき、および ASSORESET、DATARESET、WORKRESET の AdaFRM 機能を実行するとき、ASSOFRM、DATAFRM、TEMPFRM、WORKFRM に対する 2 つの ADAFRM ユーティリティジョブには、アソシエータを定義するジョブ制御ステートメントが含まれている必要があります。

対処：

必要な JCL/JCS ジョブ制御を指定し、ADAFRM ジョブを再実行します。

ERROR-126

INVALID SIZE VALUE SPECIFIED

説明：

FROMRABN=NEXT で指定した SIZE 値が無効です。フォーマット対象のブロックの範囲が、リースペーステーブルにありません。

対処：

有効な SIZE パラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

INVALID FROMRABN VALUE SPECIFIED

説明：

ASSOFRM および DATAFRM 機能の場合、有効な FROMRABN 値には数値の開始 RABN 値または FROMRABN=NEXT が含まれています。

対処：

有効な FROMRABN パラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

45 ADAICK エラーメッセージ

ERROR-121

{block-number} BLOCK CONTAINS INVALID PACKED VALUE

説明：

U3 エlement 内のフォーマットインジケータがアンパックまたはパックになっているのに、表示されているブロック内の値が有効なパック 10 進数ではありません（アンパックの場合はパックに変換して格納します）。

ERROR-122

{value1} {value2} VALUES DO NOT AGREE

説明：

各 U3 エlement には、値と MI RABN が含まれています。（U3 エlement がポイントする MI ブロック内の）最初の MI エlement には、U3 エlement と同じ値が含まれている必要があります。違う場合、このメッセージが出力されます。

このメッセージは、MI エlement が（MI エlement がポイントするブロック内の）最初の NI エlement 内の値と一致しない値を含んでいる場合にも表示されます。

ERROR-123

{block-number} BLOCK CONTAINS INCORRECT BLOCK/VALUE LENGTH

説明：

各インデックスブロックの先頭2バイトには、ブロックの論理的な終わりを定義します。各ブロックには可変長Element が含まれています。各Element の長さは、Element 内の値の長さによって異なります（NI ブロックは ISN カウントによって異なります）。

インデックスブロックの処理（左から右へ）では、各Element の終わりがブロックの論理終了（論理ブロック長として定義）と比較されます。Element の終了がブロックの論理終了より小さい場合、後続のものが次のElement とみなされ、処理は続行します。ブロックとElement の終了が等しい場合、ブロックは正しいものとみなされます。Element 終了がブロック終了よりも大きい場合、このメッセージが出力されます。

ERROR-124**MI ISN SHOULD BE ZERO**

説明：

各MIエレメントはNIブロックをポイントしています。最初のNIエレメントに対するISNリスト内の最初のISN（そのNIブロック内のもの）がその値に対して下限のISNである場合、（MIエレメント内の）MI ISNはゼロである必要があります。このMIエレメントがゼロでない場合、このメッセージが出力されます。

ERROR-125**MI/NI ISNS DO NOT AGREE**

説明：

各MIエレメントはNIブロックをポイントしています。最初のNIエレメントに対するISNリスト内の最初のISN（そのNIブロック内のもの）がその値に対して下限のISNでない場合、そのNIエレメントはMI ISNと一致している必要があります。一致していない場合、このメッセージが出力されます。

ERROR-126**NI/MI/UI VALUES NOT INCREASING**

説明：

（L9シーケンス内の）いずれかのディスクリプタのインデックスを処理する場合、NIブロック値は昇順である必要があります。次のいずれかが発生した場合、このメッセージが出力されます。

- 1ブロック内の値が昇順になっていません（等値もエラーと見なします）。
- NI、MI、UIブロック内の最初の値がその前のブロックの最後の値よりも小さくなっています（等値はエラーではありません）。

ERROR-127**NI BLOCK CONTAINS ZERO ISN COUNT**

説明：

NIエレメント内のISNカウントはゼロであってははいけません。

ERROR-128**NI BLOCK CONTAINS INVALID ISN**

説明：

NIブロック内の1つの値に対するISNリストは昇順になっている必要があります。違う場合、このメッセージが出力されます。ISNがファイルコントロールブロック（FCB）に指定した"最初の未使用のISN"より小さくない場合にもこのメッセージが発生します。

ERROR-129**{block-number} BLOCK CONTAINS INCORRECT LEVEL INDICATOR**

説明：

表示されている block-number ブロックの 3 バイト目は、次の値である必要があります。

ブロックタイプ	値
U13	0D
U12	0C
U11	0B
U10	0A
U9	09
U8	08
U7	07
U6	06
U5	05
U4	04
U3	03
M1	02
N1	01

3 バイト目が正しい値でないと、このメッセージが出力されます。

ERROR-130**RABN OUTSIDE ASSO EXTENTS**

説明：

ジェネラルコントロールブロック (GCB) アソシエータエクステントで指定された RABN リミット外のブロックを読み込もうとしました。

ERROR-131**{block-number} RABN OUTSIDE EXTENTS**

説明：

block-number の RABN がファイルコントロールブロック (FCB) UI エクステントで定義された RABN リミット外であるか、または NI RABN が NI エクステントで定義されたリミット外です。

ERROR-132**[AC2] DS RABN {ravn} OUTSIDE EXTENTS**

説明：

メッセージ (*ravn*) に記載されているデータストレージ (DS) RABNが、アドレスコンバータ (DSRABN) またはセカンダリアドレスコンバータ (AC2DSRABN) ブロックに表示されており、ファイルコントロールブロック (FCB) DSエクステントで定義されているリミット内にありません。

ERROR-133**{AC|AC2} MAX ISN SHOULD BE {value}**

説明：

このメッセージは、ファイルコントロールブロック (FCB) のTOPISNの値が正しくない場合に発生します。

FCB には、アドレスコンバータ (AC) またはセカンダリアドレスコンバータ (AC2) エクステントごとにTOPISNが含まれています。これは、そのエクステントに対する最終ブロック内の最終RABNに対応するISNです。このISNは、その前のエクステントのTOPISN、そのエクステントのブロック数、およびブロックごとのISN数に依存します。

ERROR-134**ISN {isn-number} NOT LT FCB+44 {value} (1ST UNUSED ISN)**

or

AC2 ISN {isn-number} NOT LT FCB+38 {value} (1ST UNUSED AC2 ISN)

説明：

アドレスコンバータまたはセカンダリアドレスコンバータ (AC2) エレメントのうち、FCB内に指定されている最初の未使用ISN以上のISNに対応するものには、すべて00000000またはFFFFFFFEが含まれている必要があります。含まれていない場合、このメッセージが出力されます。メッセージにISN (*isn-number*) とその値 (*value*) が記載されています。

ERROR-135**FCB FILE NUMBER INCORRECT**

説明：

要求したファイル番号に、GCB内の一番ファイルのFCBのRABN (ブロック番号) から1引いた数を加えると、その要求ファイルに対するFCBのRABNになります。ブロック内に指定されたファイル番号と要求したファイル番号が一致しません。

ERROR-136**FCB HIGHEST INDEX LEVEL NOT 3 THROUGH 15**

説明：

ファイルコントロールブロック (FCB) 内の最高インデックスレベルが 3~15 になっていません。

ERROR-137**FCB HIGHEST INDEX RABN OUTSIDE UI EXTENTS**

説明：

ファイルコントロールブロック (FCB) 内の最高インデックス RABN は、アップパーインデックスのエクステント内にある必要があります。

ERROR-138**FIRST RABN GREATER THAN LAST RABN**

説明：

最初の RABN の方が最後の RABN より大きくなっているため、出力されたエクステントは無効です。

ERROR-139**{block-number} EXTENT OVERLAPS FST EXTENT {value1} THROUGH {value2}**

説明：

ファイルコントロールブロック (FCB) で指定されているエクステントとフリースペーステーブル (FST) で指定されている未使用域のエクステントがオーバーラップしています。

ERROR-140**ADAIOR RETURN CODE {rc reason}**

説明：

ADAICK がアソシエータをオープンするか、または指定されたアソシエータブロックを読み込もうとしましたが、ADAIOR から 16 進数のリターンコードおよび理由コード (*rc* および *reason*) が返されました。

ERROR-141**FCB {MAXISN|MAX AC2 ISN} EXPECTED SHOULD BE {allocated-maxisn}**

説明：

ファイルの MAXISN 設定が、MAXISN に一致しません。MAXISN は、割り当て済みアドレスコンバータ (MAXISN) またはセカンダリアドレスコンバータ (MAX AC2 ISN) エクステントに基づく MAXISN 値 (*allocated-maxisn*) から求められます。

ERROR-142**NR {ix-block-number} BLOCKS PROCESSED GREATER THAN NR BLOCKS USED**

説明：

インデックスチェックを行うとき、UIブロックの読み込み回数を数えます。number of blocks used（使用しているブロック数）は、各 UI エクステントで実際に使用しているブロック数の合計であり、各エクステントの最初の RABN および最初の未使用 RABN に依存します。処理ブロック数が使用ブロック数を超えると、同一インデックスタイプのいくつかのエクステントの使用部分内にあることを確認するために処理された各インデックスブロックの RABN がチェックされます。

ERROR-143**FIELD NAMES NOT IN ASCENDING SEQUENCE - {field-name}**

説明：

U3要素には、ディスクリプタフィールド名が昇順になるように格納されます。フィールド名は、昇順になっている必要があります。表示されているフィールド名は、昇順になっていないフィールド名です。

ERROR-144**{block-number} FIELD NAMES DO NOT AGREE**

説明：

各アップパーレベルインデックスにはディスクリプタに対するフィールド名が格納されており、また下位レベルブロックをポイントします。下位レベルブロックの最初の要素内のフィールド名は上位レベル要素内のフィールド名と一致している必要があります。

ERROR-145**RABN IS OUTSIDE USED RANGES**

説明：

空の NI/UI ブロックチェーンの要素の前方ポインタが無効な RABN を含んでいます。この前方ポインタには、別の空の NI/UI ブロックの RABN が含まれているか、またはそのチェーンの終了を示すゼロが含まれている必要があります。

ERROR-146**LOGICAL BLOCK LENGTH SHOULD BE 0005**

説明：

空ブロックチェーンで結ばれた空 NI/UI ブロックの論理ブロックサイズはすべて X'0005' である必要があります。このサイズには、長さフィールド自体（2 バイト）およびチェーン内の次のブロックの論理前方ポインタ（3 バイト）が含まれています。

ERROR-147**EMPTY BLOCK CHAIN LOOPS BACK ON ITSELF**

説明：

空の NI/UI ブロックチェーンのエLEMENTの前方ポインタが無効な RABN を含んでいます。この前方ポインタには、別の空の NI/UI ブロックの RABN が含まれているか、またはそのチェーンの終了を示すゼロが含まれている必要があります。ただし、無効な前方ポインタ値によりチェーンは自分自身に戻ります。

ERROR-148**DESCRIPTOR {desc-name} NOT FOUND IN FDT**

説明：

表示されている U3 ブロック内のディスクリプタがフィールド定義テーブル (FDT) に存在しません。インデックス内のどのフィールド名も、そのファイルのディスクリプタ、サブ/スーパー/ハイパー/フォネティックディスクリプタであるか、ファイルがカップリングされている場合にはカップリングディスクリプタのいずれかである必要があります。

ERROR-149**DESCRIPTOR {desc-name} FOUND IN FDT BUT NOT IN U3**

説明：

ディスクリプタ、サブ/スーパー/ハイパー/フォネティックディスクリプタ、カップリングディスクリプタは、U3 ブロックに 1 つ以上のエントリが必要です。ディスクリプタに値がない場合、空エLEMENT (値の長さ=0、ISN=0、RABN=0) が格納されます。

ERROR-150**{ISN|AC2 ISN} NOT FOUND IN DS BLOCK SPECIFIED BY {AC|AC2} ELEMENT**

説明：

アドレスコンバータ (AC) またはセカンダリアドレスコンバータ (AC2) とデータストレージとの間で ISN が異なっています。さらに詳しく問題を分析するには、ADAACK ユーティリティを実行します。

ERROR-151**{ISN|AC2 ISN} {isn-number} IS INVALID**

説明：

データストレージレコードの物理 ISN はゼロであるか、またはファイルに認められた最大値を超えています。最大値は、アドレスコンバータ (ISN) またはセカンダリアドレスコンバータ (AC2 ISN) に記載されている ISN に基づく値です。

ERROR-152

FDT END REACHED BEFORE RECORD END

説明：

データストレージレコードの圧縮解除中、エンドオブファイルを検出する前に、フィールド定義テーブル (FDT) の終わりに到達しました。このことは、圧縮レコードの構造が正しくないことを示しています。

ERROR-153

RECORD LENGTH IS INCORRECT

説明：

データストレージブロックのブロック長、またはこのブロック内に格納されているレコードの長さが無効です。全レコード長の合計に4を加えた値とデータストレージブロックの論理ブロックサイズは等しくする必要があります。

ERROR-154

INVALID PE COUNT

説明：

圧縮されたデータストレージレコード内のピリオディックグループの繰り返し数が0または許可された最大数を超過しています。

ERROR-155

INVALID MU COUNT

説明：

圧縮されたデータストレージレコード内のマルチプルバリューフィールドの数が0または許可された最大数を超過しています。

ERROR-156

INVALID CX BYTE

説明：

空フィールドカウンタの値は、X'C0' が含まれている圧縮データストレージレコードです。X'C1'~X'FF' の値が許可されています。

ERROR-157

INVALID VALUE LENGTH

説明：

圧縮データストレージレコード内の値の長さが正しくありません。有効な長さは、X'01'~X'7F' または X'8001'~X'80FF' です。

ERROR-158**INVALID PACKED DECIMAL NUMBER**

説明：

圧縮データストレージレコード内の桁が無効です。

ERROR-159**ISN/RABN NOT ZERO FOR EMPTY DESCRIPTOR**

説明：

ディスクリプタが値/ISNを持たない場合、空のディスクリプタを示す X'00' が U3 ブロックに格納されます。MIRABN および ISN に続く値はそれぞれ 0 である必要があります。

ERROR-160**INVALID VALUE FOR ROTATING ISN IN FCB**

説明：

ROTATING ISN の値は、最大 ISN に 1 を加えた値よりも小さい値である必要があります。

ERROR-161**DUPLICATE ELEMENT FOR EMPTY DESCRIPTOR**

説明：

1 つの空ディスクリプタに対して最低 2 つの U3 エントリが存在します。各ディスクリプタは、U3 レベルに最低 1 つのエントリを持ちます。ディスクリプタが複数の MI ブロックに渡るとき、1 つのディスクリプタに対して複数のエントリが存在することがあります。これは、各 MI ブロックが U3 レベル上にエントリを持つためです。空ディスクリプタに対する MI ブロックが存在しない場合でも、1 つ (1 つのみ) の U3 エントリが必要です。

ERROR-162**WRONG POINTER TO LAST PARENT OF SUPER/ HYPERDESCRIPTOR**

説明：

フィールドディスクリプタテーブル (FDT) には、スーパー/ハイパーディスクリプタの最後の親フィールドに対するエントリポイントが含まれています。このポインタの値が正しくありません。

WARNING-163**UNREACHABLE INDEX BLOCKS**

説明：

未使用の RABN チェーンに存在しない未使用のインデックスブロックが見つかりました。

対処：

早急の対処は必要ありません。ただし、アソシエータをリオーダするか、または UNLOAD/LOAD シーケンスを実行するまで、RABN ブロックを使用することはできません。

ERROR-164

ERROR INITIALIZING COLLATING USER EXIT - RETURN CODE=return-code

説明：

照合ディスクリプタユーザー出口の初期化中に、エラーが発生しました。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-165

COLLATING USER EXIT NOT LOADED

説明：

要求された照合ディスクリプタユーザー出口がロードされていません。

対処：

出口をロードし、ジョブを再実行します。

ERROR-166

INVALID VALUE FOR NUMBER OF ISN PER {AC|AC2} BLOCK IN FCB

説明：

アドレスコンバータ (AC) ブロックまたはセカンダリアドレスコンバータ (AC2) ブロックごとの ISN 数の値は、対応するアドレスコンバータのブロックサイズを ISN のサイズで割ったバイト単位の値である必要があります (3 バイトまたは 4 バイト)。

対処：

ファイルコントロールブロック (FCB) に指定した値を修正します。

ERROR-167

FIRST ELEMENT WITHOUT FE BIT

説明：

アップパーインデックスブロックには、1つ以上のディスクリプタのインデックスエントリが含まれています。ディスクリプタによっては、最初の元素に最初の元素ビットまたは FE ビットが含まれています。FE ビットがないと、インデックス位置または Adabas レスポンスコードが正しくなくなることがあります。

対処：

エラーを文書化します。エラー発生場所でディスクリプタをインバートし直すなど、早急にエラーを修正します。

ERROR-168**FDT AND INDEX CONTROL BYTE MISMATCH, DE = {dd}**

説明：

メッセージに記載されている記述 (*dd*) で、FDTのコントロールバイトとインデックスのコントロールバイトが一致しません。この両者の比較では、インデックスのコントロールバイト IXUCTL と FDT のコントロールバイト FDTF とが比較されます。

対処：

このエラーが発生したときは、ADAICK FDTPRINT ユーティリティを使用して FDT をダンプし、出力します。Software AG サポートに連絡してください。

ERROR-169**FDT LENGTH IN FCB DOES NOT MATCH WITH THE FDT, FNR={nnnnn}**

説明：

FDTHLL と YFDTL にあるそれぞれの長さフィールドが等しくありません。メッセージにファイル番号が記載されています。

対処：

このエラーが発生したときは、メッセージに記載されているファイルに ADAICKFCBPRINT ユーティリティを実行して FCB をダンプし、出力します。Software AG サポートに連絡してください。

ERROR-170**{RABN errmsgstxt}**

説明：

このエラーには、次の表に示すように、2 種類のメッセージがあります。

メッセージテキスト	説明
RABN <i>rabn</i> NOT IN EXTENT	メッセージに名前が記載された RABN が、GCB のエクステン ト記述に存在しません。
RABN <i>rabn</i> NOT IN EXTENT, FILE <i>file</i>	メッセージに名前が記載された RABN が、ファイルのエクステ ント記述に存在しません。

これらのメッセージは、ADAICK DATAPRINT または ADAICK DSCHECK の実行後に表示されることがあります。

対処：

どちらのエラーメッセージが表示された場合でも、ADAICK GCBPRINT を実行します。2 番目のメッセージ ([RABN*rabn* NOT IN EXTENT, FILE *file*]) が表示された場合は、メッセージに名前が記載されたファイルに ADAICK FCBPRINT を実行します。

その後、Software AG サポートに連絡し、必要に応じてその実行結果の出力を送付してください。

ERROR-172

INVALID SEGMENT COUNT FOR SPANNED DS RECORD

説明：

スパンドレコードセグメントの数が、最大値 5 を超えました。

対処：

ファイルを再作成します。Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-173

NEXT ISN IS ZERO FOR MASTER ISN

説明：

プライマリスパンドレコードのヘッダーには、スパンドレコードの次のセカンダリレコードの ISN としてゼロが記載されています。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-174

OFFSET BIGGER THAN ASSO BLOCK SIZE

説明：

ASSO ブロックをフォーマットして出力しているときに、ADAICK が ASSO ブロックの後ろにデータを出力しようとしました。

対処：

問題の ASSO ブロックを調べます。このエラーは、誤ってエクステントの数を大きくしすぎた場合に発生することがあります。

46 ADAINV エラーメッセージ

ERROR-121

INVALID DESCRIPTOR FIELD LIST FOR INVERT

説明：

フィールド名 xx が次のいずれかです。

- FDT 内にそのフィールドがありません。
- 指定したフィールドはすでにディスクリプタになっています。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-122

TEMP DATASET TOO SMALL; INPUT RECORD COUNT= count

対処：

大きい TEMP データセット／ファイルを指定します。TEMP スペースの見積りについては『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-123

INVALID OR MISSING COUPLE DESCRIPTOR

説明：

指定したディスクリプタ名が、次のいずれかでした。

- 指定されていません。
- FDT 内にありません。
- ディスクリプタではありません。
- ピリオディックグループ内のディスクリプタです。
- カップリングの両ディスクリプタどうしの、フォーマット／長さが一致しません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

COUPLE INDEX OVERFLOW FOR FILE file-number

説明：

このファイルは、他の 18 ファイルとすでにカップリング済みです。

ERROR-125

FILES ALREADY COUPLED

説明：

このユーティリティ機能は、処理されません。

ERROR-126

COUPLING NOT POSSIBLE

説明：

次の理由でこのエラーが発生しました。

- ファイルをそのファイル自体とカップリングすることはできません。
- 拡張ファイルはカップリングできません。
- マルチクライアントファイルはカップリングできません。
- ファイル番号 255 以上はカップリングできません。

ADAINV 機能は処理されません。

ERROR-127

MISSING UTILITY FUNCTION

説明：

INVERT または COUPLE を指定する必要があります。入力後、ADAINV を再実行します。

ERROR-128

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER `CODE'

説明：

この場合、CODE パラメータに指定した値が正しくないか、または CODE パラメータが有効ではありません。

対処：

CODE パラメータを除去するか、最大 8 桁の数字か空白を指定します。ジョブを再実行します。詳細については『Adabas Security Manual』を参照してください。

ERROR-129**AN ATTEMPT WAS MADE TO CREATE A 16TH INDEX LEVEL**

説明：

インデックスレベルは 15 以下のみ可能です。

対処：

ASSOPFAC の値を小さくし、この機能を再試行します。

ERROR-130**ERROR INITIALIZING COLLATING USER EXIT - RETURN CODE=return-code**

説明：

照合ディスクリプタユーザー出口の初期化中に、エラーが発生しました。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-131**COLLATING USER EXIT NOT LOADED**

説明：

要求された照合ディスクリプタユーザー出口がロードされていません。

対処：

出口をロードし、ジョブを再実行します。

ERROR-132**COUPLE INDEX NOT ALLOCATED FOR FILE {file}
THE FCB DOES NOT HAVE AVAILABLE SPACE FOR A COUPLE INDEX.**

説明：

ADAINV は、FCB にはカップリング情報を割り当てることができるだけの空きがないことを検出しました。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-133**INVALID FILE REQUESTED (FILE NUMBER = {nnn})**

説明：

ADAINV INVERT および ADAINV COUPLE 機能を LOB ファイルに実行することはできません。許可されていない操作です。

対処：

FILES パラメータに正しいファイル番号を指定し、ジョブを再実行します。

47 ADALOD エラーメッセージ

ERROR-121

REQUESTED RESTART NOT POSSIBLE

説明：

次のいずれかの理由によります。

- 再開するジョブがありません。
- 基本的なパラメータ値が変更されました。
- 前のジョブが、最初の再開位置に達する前に異常終了しました（ファイルはロード状態ではありません）。
- 前のジョブは、再開できない状態（ファイルのステータスがロード中）で異常終了しました。

対処：

エラーの原因を修正し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-122

TEMP DATASET TOO SMALL; INPUT RECORD COUNT= count

対処：

大きい TEMP データセット／ファイルを指定します。TEMP スペースの見積りについては『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-123

MISSING UTILITY FUNCTION

対処：

パラメータ入力の中に ADALOD 機能として LOAD または UPDATE を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-124

MULTIPLE UTILITY FUNCTIONS SUPPLIED

対処：

パラメータ入力の中に ADALOD 機能として LOAD または UPDATE を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-125

PARAMETER `ADAMPARM' FOR NON-ADAM-FILE NOT PERMITTED

対処：

ADAMFILE パラメータを追加するか、ADAMPARM パラメータを削除し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-126

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER `ADAMPARM'

説明：

このパラメータ値は 1～255 の範囲で指定する必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-128

PARAMETER `ADAMDE' FOR NON-ADAM-FILE NOT PERMITTED

対処：

ADAMFILE パラメータも同様に指定するか、ADAMDE パラメータを削除し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-129

PARAMETER `ADAMDE' MANDATORY FOR ADAM FILE

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-130

PARAMETER `ADAMOFLOW' FOR NON-ADAM FILE NOT PERMITTED

対処：

ADAMFILE パラメータも同様に指定するか、`ADAMOFLOW' パラメータを削除し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-131

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER 'UQDE': field-name IS NOT A VALID DESCRIPTOR NAME

説明：

ユニークディスクリプタとして定義したフィールド名が正しくありません。このフィールドは、ディスクリプタでないか、存在しないフィールド名またはピリオディックグループのディスクリプタです。考えられる原因は、ディスクリプタ名のスペルミスです。

対処：

正しい UQDE パラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-132

INVALID 'ADAMDE' FIELD: field-name ; CONFLICTING FIELD ATTRIBUTES OR UNKNOWN DESCRIPTOR NAME

説明：

ADAM ディスクリプタは、次の条件を満たしている必要があります。

- MU オプション付きでない、単一フィールドであること
- ユニークディスクリプタであること
- ピリオディックグループ内のフィールドでないこと
- NU オプション付きでないこと
- 標準長があり、可変長でないこと

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-133

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER 'ADAMOFLOW'

説明：

この値は DSSIZE よりも小さくする必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-134

INCORRECT FDT FOUND IN INPUT DATASET

説明：

次のどれかに該当します。

- 最初のレコードに予期されたフィールド定義テーブル (FDT) がないか、
- 入力データセットから読み込まれた FDT 構造が規則に従っていません。

対処：

入力データセットが正しいかどうかチェックします。正しい入力データセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-135

FDT STRUCTURE MISMATCH

説明：

入力データセットのフィールド定義テーブル（FDT）およびファイル file-number の FDT が同じではありません（表示されたメッセージテキストには実際のファイル番号が記載されています）。

次のいずれかが発生しました。

- ファイルは更新されますが、入力データセットの FDT がそのファイルの FDT と一致しません。
- ファイルは KEEPFD T で削除されましたが、入力データセットの FDT が旧 FDT と一致しません。
- 入力データセットの FDT が拡張ファイルのアンカーの FDT と一致しません。

対処：

入力データセット、FILE パラメータ、および ANCHOR パラメータをチェックします。ADALOD LOAD 機能が実行中であった場合は、IGNFDT パラメータの使用を検討してください（詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』参照）。

ERROR-136

FDT LARGER THAN 4 ASSO BLOCKS

説明：

システム制限：使用中のデバイスタイプには、FDT が大きすぎます。ロードすることはできません。

ERROR-137

THE INPUT DATASET/FILE DDEBAND OR DDISN DOES NOT HAVE THE RECORD FORMAT VARIABLE OR VARIABLE BLOCKED (V OR VB)

対処：

正しい入力を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-138**INVALID USERISN isn-number FOUND INPUT RECORD COUNT = count**

説明：

USERISN isn-number が次のいずれかです。

- MAXISN より大きいか、または MINISN よりも小さくなっています。
- 拡張ファイルのどの ISN 範囲にも属していません。

入力レコード数は表示されているとおりです（表示されたメッセージテキストには実際の ISN と件数が記載されています）。

ERROR-139**ISNPOOL OVERFLOW ('LIP' PARAMETER VALUE TOO SMALL) count RECORDS
ALREADY READ FROM DDISN**

説明：

各シングル ISN は 4 バイトを必要とし、各 ISN 範囲は 8 バイトのストレージを必要とします。

対処：

ISN プールのサイズ (LIP) を増やします。正しいパラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-140**INVALID VALUE FOR MAXDS/MAXNI/MAXUI**

説明：

ADALOD は上記の値をブロック単位で必要とします。値は 1 バイト～65535 バイトの範囲で指定する必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-142**DUPLICATE USERISN isn-number FOUND**

説明：

次のいずれかが発生しました。

- 指定した USERISN は更新中のファイル中にすでに存在しています。
- 入力データセットにその ISN が 2 度現れました。

レコードを追加することができません。

ERROR-143

file-type FILE ALREADY PRESENT

説明：

要求したシステムファイルはすでに存在しています。そのファイルはロードされません。

対処：

現在割り当てられているシステムファイルを ADAREP レポートでチェックします。

ERROR-144

ALREADY 10 ADABAS SYSTEM FILES DEFINED

説明：

最大10個の Adabas システムファイル (SYSFILE ファイルタイプでロードされたファイル) がすでに存在しています。そのファイルはロードされません。

対処：

現在割り当てられているシステムファイルを ADAREP レポートでチェックします。

ERROR-145

INVALID FDT FORMAT

説明：

入力 FDT の構造が無効です。

対処：

入力データセットが、ADACMP または ADAULD ユーティリティを使用して作成されたことを確認します。

ERROR-146

INVALID LIST OF DELISNS

説明：

DELISN パラメータリストに誤りがあるか、DDISN ファイルからの入力に正しくないデータがあります。

対処：

下記の事項をチェックします。

- 降順に ISN を指定しているか、または ISN の範囲指定が重複しています。
- 同じ ISN を複数回指定しています。
- レコード長が無効です (4 または 8 の倍数ではありません)。

アクセスした ISN は isn-number です (表示されたメッセージテキストに実際の ISN 値が記載されています)。入力パラメータをチェックし、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-147**INVALID ISN RANGE**

説明：

MINISN および MAXISN で指定した ISN 範囲が正しくありません。拡張ファイルの他の ISN 範囲と矛盾しています。

対処：

パラメータ値をチェックし、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-148**FILE file-number IS NOT/CANNOT BE ANCHOR OF AN EXPANDED FILE**

説明：

指定されたファイルが、次のいずれかに当てはまります。

- ファイルは既存の拡張ファイルの一部ですが、アンカーファイルではありません。
- ファイルはカップリングされているか、またはマルチクライアントファイルであるため、アンカーファイルにすることはできません。

ERROR-149**COMPRESSED RECORD TOO LONG**

説明：

入力レコードカウント = count-a レコードの長さ = count-b バイト 最大レコード長 = count-c バイト

レコードが MAXRECL パラメータ、またはデータストレージデバイスの属性で許可される最大長よりも長くなっています。

ERROR-150**INVALID ISN TO BE DELETED (WAS) FOUND**

説明：

表示された範囲の 1 つ以上の ISN が無効です。

- MAXISN より大きいか、または MINISN よりも小さくなっています。
- 拡張ファイルのどの ISN 範囲にも属していません。

ERROR-151**INCREASING MAXISN NOT ALLOWED**

説明：

ファイルは NOACEXTENSION パラメータ付きでロードされたため、MAXISN を拡張することはできません。

対処：

MAXISN パラメータを削除してから、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-152

CONFLICTING USERISN OPTIONS

説明：

考えられる状況が2つあります。

1. 既存のファイルは USERISN オプションで定義されていますが、入力ファイルからのレコードが USERISN オプションで定義されていません。
2. ロードするファイルの USERISN オプションと拡張ファイルの ANCHOR の USERISN オプションが一致しません。

対処：

それぞれ次のようになります。

1. 入力ファイルからのレコードに USERISN オプションを使用することを検討し、ファイルを修正し、ADALOD ジョブを再実行します。
2. 入力ファイルおよび USERISN をチェックします。エラーを修正し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-153

INVALID ISN FOR HYPERDESCRIPTOR desc-name

説明：

ハイパー出口から返された ISN は次の理由により無効です。

- MINISN より小さいか、または MAXISN より大きくなっています。
- 拡張ファイルの別の部分に属します。

元の ISN : (isn-number) 修正された ISN : (isn-number) レコード数 : (count)

ERROR-155

ADABAS NUCLEUS REQUIRED

説明：

フィールド選択条件付きでファイルをロードするには、次の場合に ADAbas ニュークリアスがアクティブである必要があります。

- ファイル選択条件（拡張ファイルコンポーネント）を持つファイルがロードされます。
- レコードが新規のオーナー ID でロードされます。

対処：

ニュークリアスを開始し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-156**CONFLICTING OWNER-ID LENGTH**

説明：

次のいずれかが原因でメッセージが表示されました。

- LOWNERID パラメータ値が 0~8 の範囲内にありません。
- ETID オーナー ID が LOWNERID よりも長い、または更新するファイルのオーナー ID 長よりも長くなっています。

対処：

正しい LOWNERID パラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-157**CONFLICTING USAGE OF 'LOWNERID' AND 'ETID'**

説明：

ファイルはロードまたは追加されましたが、次のことが当てはまります。

- 入力ファイルはオーナー ID 付きでロード／追加されていますが、オーナー ID が存在せず、ETID パラメータがありません。
- 入力ファイルはオーナー ID なしでロード／追加されていますが、ETID パラメータを指定しています。

対処：

いずれかまたは両方のパラメータに正しいパラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-158**INVALID OWNER-ID IN INPUT RECORD**

説明：

オーナー ID が長すぎて、ロードまたは追加するファイルのレコードに収まりません。

入力レコードカウント = count

対処：

適切なオーナー ID を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-159**UNDEFINED ETID**

説明：

次のどれかに該当します。

- ETID パラメータが参照するユーザー ID が定義されていません。
- ユーザーにオーナー ID が割り当てられていません。

対処：

パラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-160

DESCRIPTOR VALUE TOO LONG

説明：

オーナー ID を伴ったディスクリプタ値が 253 バイトよりも長くなっています。

入力レコードカウント = count ディスクリプタ名 = desc-name

対処：

適切なオーナーIDとディスクリプタ値の組み合わせを指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-161

CONFLICTING parameter PARAMETER

説明：

指定したパラメータ parameter が正しくありません。拡張ファイルのアンカーと同じである必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADALOD ジョブを再実行します。

ERROR-162

HYPERDESCRIPTOR ISN CHANGED IN NON-USERISN FILE

説明：

ディスクリプタ値に割り当てられたISNがハイパー出口によって変更されたものの、ファイルがUSERISNファイルではありません。ハイパーディスクリプタISNの変更は、USERISNファイルにのみ許可されています。

対処：

ファイルの USERISN 設定を修正します。

ERROR-163

INVALID VALUE FOR PARAMETER 'ALLOCATION'

説明：

有効な値は ALLOCATION={FORCE | NOFORCE} です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-164**TEMP BLOCK SIZE TOO SMALL**

説明：

保存データを保持できるほど中間ブロックサイズが大きくないため、中間ブロックにデータを保存できませんでした。

対処：

アソシエータブロックサイズ+16以上のブロックサイズを持つ中間デバイスタイプを選択します。次にジョブを再実行します。

ERROR-165**CONFLICTING FILE ENCODINGS**

説明：

入力テープのファイルエンコードが既存ファイルと一致しません。既存ファイルと同一のファイルエンコードである必要があります。

対処：

ファイルエンコードを調整し、ジョブを再実行します。

ERROR-166**WIDE FIELDS EXIST, BUT THE DATABASE IS NOT UES-ENABLED**

説明：

データベースがUES対応になるまで、ワイド文字 (W) フォーマットフィールドがあるファイルはロードできません。

対処：

データベースをユニバーサルエンコードに対応させてから、ジョブを再実行します。

ERROR-167**ERROR INITIALIZING COLLATING USER EXIT - RETURN CODE=return-code**

説明：

照合ディスクリプタユーザー出口の初期化中に、エラーが発生しました。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-168**COLLATING USER EXIT NOT LOADED**

説明：

要求された照合ディスクリプタユーザー出口がロードされていません。

対処：

出口をロードし、ジョブを再実行します。

ERROR 169

CONFLICTING 'RPLKEY' PARAMETER

説明：

'RPLKEY' パラメータが正しくありません。RPLTARGETID が指定されているときだけ有効です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR 169

CONFLICTING 'RPLDSBI' PARAMETER.

説明：

'RPLDSBI' パラメータが正しくありません。RPLTARGETID が指定されているときだけ有効です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR 170

INVALID 'RPLKEY'-FIELD: {field-name }

説明：

レプリケーションキーとして定義したフィールド名が正しくありません。フィールド名を定義していないか、またはフィールド名がディスクリプタではありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR 171

RPLTARGETID IS SPECIFIED BUT THE DATABASE IS NOT ENABLED FOR REPLICATION.

説明：

RPLTARGETID は、レプリケーションがアクティブでない限り有効ではありません。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。

ERROR 172

RPLTARGETID = DBID OR GREATER THAN 65535 IS NOT ALLOWED.

説明：

RPLTARGETID = DBID としたファイルのロードは許可されていません。RPLTARGETID の有効な範囲は 1~65535 です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR 173**RPLTARGETID IS NOT ALLOWED FOR CIPHERED FILES.**

説明：

サイファファイルはレプリケートされないことがあります。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。

ERROR 174**A {REPLICATOR | SLOG} FILE MAY ONLY BE LOADED ON AN Event Replicator DATABASE.**

説明：

Replicator または SLOG システムファイルのみが、Event Replicator データベースとして定義されたデータベースでロードできます。

対処：

エラーの原因を調査してください。

ERROR 175**ERROR LOADING MODULE ADARPU: {reason}**

説明：

ADALOD は、メッセージに記載されている理由でモジュール ADARPU をロードできませんでした。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。

ERROR 176**LOAD OF A NEW FILE WITH RPLLOAD=YES REQUIRES A NON-ZERO RPLTARGETID**

説明：

RPLLOAD=YES パラメータを使用してレプリケーションをアクティブにしたときに新しいファイルをロードする場合は、ターゲットの Event Replicator サーバーを RPLTARGETID パラメータに指定する必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR 177

ADALOD TERMINATED DUE TO THE ABOVE REPLICATION RELATED ERRORS

説明：

レプリケーションエラーのため ADALOD が終了しました。これより前のエラーメッセージにエラーの詳細な原因が説明されています。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。

ERROR 178

UPDATE WITH RPLLOAD=YES MAY ONLY BE EXECUTED WITH A REPLICATED FILE

説明：

RPLLOAD=YES パラメータを指定してレプリケーションをアクティブにしたファイルを更新する場合、そのファイルはレプリケート済みとしてすでに定義されている必要があります。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR 179

AN EVENT REPLICATOR DATABASE MAY ONLY CONTAIN THE FILES CHECKPOINT, SECURITY, REPLICATOR, AND SLOG

説明：

Event Replicator サーバーとして定義されるデータベース（ADADEF DEFINE REPTOR=YES で作成したデータベース）には、レプリケーションと関係がないユーザーファイルやシステムファイルを含めないでください。

対処：

CHECKPOINT、SECURITY、REPLICATOR、または SLOG ファイル以外のファイルをロードしようとししないでください。

ERROR-180

MU/PE INDEX SIZE MISMATCH DURING UPDATE.

FILE INDEX SIZE = {n} BYTE(S).

DDEBAND INDEX SIZE = {n} BYTE(S).

説明：

ターゲット Adabas ファイルの MU/PE インデックスのサイズが、入力データのインデックスのサイズと一致しません。ADALOD 処理が停止しました。

Adabas 8 では、MU/PE インデックスは 1 バイトまたは 2 バイトになります。ADACMP または ADAULD の実行に圧縮入力を指定して既存のファイルを更新した場合、既存の Adabas ファイルの MU/PE インデックスのサイズが、ADACMP 入力または ADAULD 入力のインデックスのサイズと一致しなくなることがあります。ファイルに使用されているインデックスのサイズを調べるには、ADAREP レポートを実行します。

対処：

ADACMP MUPEX パラメータおよび MUPECOUNT パラメータを適宜使用して圧縮 MU/PE サイズの設定を修正し、再試行します。必要な場合は、Software AG サポートにお問い合わせください。

ERROR-182

RPLTARGETID IS NOT ALLOWED FOR FILES WITH SPANNED DATA STORAGE RECORDS

説明：

スパンドレコードが含まれているファイルに ADALOD RPLTARGETID パラメータを指定しようとした。スパンドレコードが含まれているファイルのレプリケーションは許可されていません。

対処：

ADALOD 実行に指定されたパラメータを調査して修正し、スパンドレコードが含まれているファイルをレプリケートしようとしていないことを確認します。ジョブを再度実行してください。

ERROR-183

BASE FILE {base-fnr} DOES NOT FIT TO LOB FILE {lob-fnr}

説明：

ADALOD は、LOB ファイルをロードするように指示されたものの、次のいずれかの理由により、BASEFILE パラメータに指定されているファイルはこの LOB ファイルの基本ファイルに適さないと判断しました。

- 基本ファイルにしようとしたファイルには、ラージオブジェクト (LB) フィールドがありません。
- ファイルの LOB 情報が、指定した LOB ファイルを参照していません。
- ファイルの UES エンコード情報が、LOB ファイルの UES エンコード情報と一致しません。

対処：

正しい FILE パラメータおよび BASEFILE パラメータを指定し、再試行します。

ERROR-184

LOB FILE {lob-fnr} DOES NOT FIT TO THE BASE FILE {base-fnr}

説明：

ADALOD は、基本ファイルをロードするように指示されたものの、次のいずれかの理由により、LOBFILE パラメータに指定されているファイルはこの基本ファイルの LOB ファイルに適さないと判断しました。

- LOB ファイルにしようとしたファイルは LOB ファイルではありません。
- ファイルの LOB 情報が、指定した基本ファイルを参照していません。

- ファイルの UES エンコード情報が、基本ファイルの UES エンコード情報と一致しません。

対処：

正しい FILE パラメータおよび LOBFILE パラメータを指定し、再試行します。

ERROR-185

PARAMETER {parm-name} NOT ALLOWED FOR LOB FILE

説明：

メッセージ (*parm-name*) に記載されているパラメータは、LOB ファイルに使用できません。

対処：

このパラメータを指定しないで LOB ファイルをロードします。

ERROR-186

DDISN/DELISN DELETE OF AN ISN WITH A LOB REFERENCE IS NOT ALLOWED. ISN = {nnnnnn}

説明：

ラージオブジェクト (LOB) 基本ファイルに ADALODUPDATE 操作を実行しているとき、ISN を削除できない場合があります。ISN に、関連する LOB ファイルでアウトソースされる LOB 値への参照が含まれている場合です。削除対象の ISN を DELISN キーワードで指定しているか、DDISN データセットで指定しているかに関係なく、このような ISN は削除できません。

問題のファイルはこの時点でアクセスできない状態になっています。

対処：

バックアップからファイルをリストアするか、またはファイルを再ロードします。次に、LOB への参照が含まれている ISN を DDISN/DELISN で削除するという処理を削除します。その後、ADALOD UPDATE ジョブを再度サブミットします。

ERROR-187

ANCHOR PARAMETER NOT ALLOWED FOR A FILE WITH LOB FIELDS

説明：

ラージオブジェクト (LB) フィールドがあるファイルを拡張ファイルにすることはできません。

対処：

ファイルを単純な (拡張されない) ファイルとしてロードします。ISNSIZE=4 パラメータ設定の使用も検討してみてください。

48 ADAMER エラーメッセージ

ERROR-122

INCORRECT FDT FOUND IN INPUT DATASET

説明：

入力データセットから読み込まれた FDT 構造が規則に従っていません。

対処：

入力データセットが正しいかどうかチェックします。正しい入力データセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER ADAMDE

説明：

ADAM ディスクリプタ名が、FDT 中に見つかりません。

対処：

ADAMDE=ISN または ADAMDE=xx (xx には正しいディスクリプタ名を指定する) を指定します。次にジョブを再実行します。

ERROR-125

INVALID ADAMDE FIELD: xx

説明：

フィールド属性が矛盾しているか、そのディスクリプタ名がありません。ADAM ディスクリプタは次のとおりである必要があります。

- MU オプション付きでない、単一フィールドである必要があります。
- ユニークディスクリプタである必要があります。
- ピリオディックグループ内のフィールドでない必要があります。
- NU オプション付きでない必要があります。
- 標準長があり、可変長でないこと

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-126

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER BITPARM

説明：

詳しくは、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

DATASTORAGE SIZE TOO SMALL

説明：

レコード群を格納するのに必要なデータストレージの容量が、データサイズパラメータで指定したよりも多すぎます。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-130

INPUT DATASET HAS SPANNED RECORDS. ADAM FILES MAY NOT BE SPANNED.

説明：

入力データセットでは、スパンドレコードのサポートがアクティブになっています。スパンドレコードオプションは、ADAM ファイルには許可されていません。

対処：

入力データセットが正しいかどうかチェックします。正しい入力データセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-131

INPUT DATASET IS A LOB FILE. ADAMER IS NOT ALLOWED FOR LOB FILES.

説明：

入力データセットはラージオブジェクト (LOB) ファイルです。LOB ファイルを ADAMER の入力にすることはできません。

対処：

入力データセットが正しいかどうかチェックします。正しい入力データセットを指定し、ジョブを再実行します。

49 ADAORD エラーメッセージ

ERROR-121

DDFILEA BLOCK SIZE TOO SMALL

説明：

DDFILEA ブロックサイズ (count-a バイト) が長さ count-b バイトの record-type レコードを格納するには小さすぎます (ファイル file-number)。実際の値はメッセージテキストに表示されています。

対処：

シーケンシャルブロックサイズが大きなデバイスタイプに DDFILEA を割り当てます。

ERROR-122

DDFILEA STRUCTURE MISMATCH

説明：

DDFILEA の構造が正しくありません (ジョブ制御ステートメントに誤りがある可能性があります)。

対処：

エラーを修正し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-123

NO UTILITY FUNCTION GIVEN

対処：

次のキーワードのいずれかを指定し、ジョブを再実行します。

REORDB、REORASSO、REORDATA、REORFILE、REORFASSO、REORFDATA、
RESTRUCTUREF、RESTRUCTUREDB、STORE。

詳しくは、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-124

AT LEAST ONE FILE REQUIRED

説明：

REORFILE、REORFASSO、REORFDATA、RESTRUCTUREF、STORE の各機能では、空のファイルリストが許可されていません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-125

THE VALUE FOR THE MAXFILES PARAMETER IS LESS THAN THE HIGHEST LOADED FILE NUMBER (MAXFILES=count, HIGHEST LOADED FILENUMBER=file-number)

対処：

MAXFILES の値を大きくしてから、ジョブを再実行します。

ERROR-126

DATASTORAGE RECORD TOO LONG

説明：

ファイル file-number の ISN isn-number のレコードの長さは count バイトです。最大レコード長は maxcount バイトです（実際の値はメッセージテキストに記載されています）。ADAORD はこのファイルを処理できません。

ERROR-127

INPUT DATASET DOES NOT CONTAIN DATA FOR FILE file-number

説明：

誤った入力 (DDFILEA) を指定しているか、誤ったファイルを要求しています。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-128

I/O COUNT MISMATCH

説明：

DDFILEA から読み込まれたレコード数と、DDFILEA に書き出されたレコード数とが異なります。

DDFILEA : count-a WRITES DDFILEA : count-b READS

処理中、対象となっていたファイルは、現在アクセス不可能です。

対処：

マルチボリュームの問題がないか、ジョブ制御をチェックします。セーブテープをリストアし、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-129**INVALID VALUE FOR THE 'SORTSEQ' PARAMETER FOR FILE file-number**

説明：

正しい値は次のいずれかです。

- SORTSEQ=ISN。ISN 順に処理するには、この値を指定します。
- SORTSEQ=DE。DEにはディスクリプタ名を指定します。このディスクリプタは、その親が MU フィールドでなく、ピリオディックグループに属していない必要があります。また、このディスクリプタはサブ/スーパー/ハイパーディスクリプタのいずれでもなく、空値省略 (NU) オプションを指定しないで定義されている必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-130**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER 'NEWDBID'**

説明：

データベース ID の値は、1~65,535 の範囲でなければなりません。

対処：

正しい NEWDBID パラメータ値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-131**THE DESCRIPTOR xx FOR FILE file-number HAS THE 'NU' OPTION**

説明：

NU オプションが指定したディスクリプタを使用して、リオーダのソート順を制御しないでください。データベースに物理的な矛盾が発生することがあります。

対処：

ソート順に他のディスクリプタを選択します。その後、ADAORD を再実行します。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-132**DSST-SPACE ALLOCATION FAILED**

説明：

アソシエータ内に、DSST を割り当てるだけの十分なスペースが残っていません。

対処：

MAXFILES パラメータ値を減らし、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-133

THE MAXISN VALUE SPECIFIED FOR FILE {file-number} IS LESS THAN THE CURRENT TOPISN

説明：

MAXISN パラメータ設定は、ADAREP レポートに記載されている TOPISN 値よりも大きくする必要があります。TOPISN は、指定したファイル（メッセージテキストにファイル番号が記載されています）のレコードに割り当てられている現在最も大きな ISN であり、定義することはできません。

対処：

正しい MAXISN 値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-134

FST (FREE SPACE TABLE) NOT AVAILABLE

説明：

フリースペーステーブルがニュークリアスまたは他のユーティリティによってロックされています。

対処：

ADAORD ジョブの再実行を後で試みます。

ERROR-135

MAXISN PARAMETER CONFLICTS WITH NOACEXTENSION

説明：

ファイル (file-number) に対して、NOACEXTENSION オプションが有効ですが、指定した MAXISN 値 (new-value) が旧 MAXISN (old-value) の値を超過しています。（実際のファイルおよび MAXISN 値はメッセージテキストに記載されています。）

対処：

正しい MAXISN 値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-137

ALTERNATE RABNS CANNOT BE ALLOCATED

説明：

RABN start-rabn から開始する count ASSO/DATA 代替 RABN を割り当てようとした。

対処：

エラーの原因を調べて、ジョブを再実行します。

ERROR-138
INCONSISTENT FILE LIST

説明：

ファイル file-number はカップリングファイルまたは拡張ファイルの一部ですが、対応する全ファイルがファイルリストに含まれていません。

対処：

正しいファイルリストを指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-139
OVERWRITE SYSTEM FILE NOT POSSIBLE

説明：

別のファイル番号を持つシステムによってチェックポイントまたはセキュリティファイルの上書きが試みられました。

対処：

システムファイル番号を本来の番号に修正し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-141
INVALID ISN DETECTED

説明：

ファイル (file-number) で正しくない ISN (isn-number) が検出されました。ISN は次のどれかに該当します。

- ゼロです。
- MAXISN (max-isn-val) よりも大きくなっています。

対処：

ファイルを修正して ADAORD を再実行します。

ERROR-142
DUPLICATE ISN DETECTED

説明：

ISN (isn-number) がファイル (file-number) 内に 2 つ含まれています。

対処：

ファイルを修正し、ADAORD を再実行します。

ERROR-143

DLOG AREA ALLOCATION FAILED

説明：

DSF ログインエリアを割り当てることができませんでした。アソシエータ RABN (rabin-number) から (count) ブロックの割り当てを試みました。

対処：

RABN 割り当てを修正し、ADAORD を再実行します。

ERROR-144

ERROR ON DDFILEA

説明：

DDFILEA を入力用に再オープンした後、最初に読み込まれたレコードはレコード番号 1 ではありませんでした。現在、処理に含まれている全ファイルにアクセスできません。

対処：

マルチボリュームの問題がないか、JCL を調べます。セーブテープをリストアし、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-145

STORING { CHECKPOINT | SECURITY } FILE NOT ALLOWED

説明：

バージョン 5.2 以下のチェックポイントファイルは、ADAORD STORE によってバージョン 5.3 以上に変換できません。バージョン 5.3 以下のセキュリティファイルは、ADAORD STORE によってバージョン 6.1 以上に変換できません。

対処：

ファイルリストからチェックポイントまたはセキュリティファイルを削除し、ADAORD を再実行します。

ERROR-146

DESCRIPTOR NOT FOUND

説明：

ニュークリアスからレスポンスコード 57 が返されました。ファイル file-number のディスクリプタ xx が見つかりませんでした。ADAORD は、このファイルのインデックスをアンロードできません。

対処：

このファイルに ADAICK ICHECK を実行します。エラーを削除して ADAORD を再実行します。

ERROR-147**DUPLICATE FILE NUMBER DETECTED**

説明：

ファイル file-number を 2 回指定しました（実際のファイルの値はメッセージテキストに記載されています）。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-148**PARTIAL OVERWRITE OF COUPLED / EXPANDED FILES**

説明：

ファイル file-number-a または拡張ファイルが、STORE 処理に含まれていないファイル file-number-b にカップリングまたはリンクされています（実際のファイルの値はメッセージテキストに記載されています）。この STORE 操作は、論理データの不一致が発生するため、実行できません。

対処：

STORE 機能のパラメータ入力をチェックします。エラーを修正し、STORE ジョブを再実行します。

ERROR-149**INVALID VALUE FOR PARAMETER 'ALLOCATION'**

説明：

有効な値は、ALLOCATION=FORCE | NOFORCE です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-150**INVALID EXCLUDE PARAMETER**

説明：

メッセージに記載されているファイル番号を、REORDER/STORE にまったく指定していないか、EXCLUDE パラメータに 2 回指定しています。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-151

FILE file-number IS A PHYSICALLY COUPLED FILE THE ISNSIZE CANNOT BE MODIFIED

説明：

カップリングされたインデックスに、カップリング先のファイルの ISN があります。これらの ISN のサイズは、他のファイルの ISNSIZE で指定したバイトサイズです。ADAORD で他のファイルも修正した場合でも、カップリングされたインデックスを使用して ISNSIZE を修正することはできません。

対処：

ISNSIZE パラメータを削除するか、ファイルリストを修正します。

ERROR-155

THE MAXISN2 VALUE SPECIFIED FOR FILE {file-number} IS LESS THAN THE CURRENT TOP AC2 ISN

説明：

MAXISN2 パラメータ設定は、ADAREP レポートに記載されている TOP AC2 ISN 値よりも大きくする必要があります。TOP AC2 ISN は、指定したファイル（メッセージテキストにファイル番号が記載されています）のセカンダリスパンドレコードに割り当てられている現在最も大きなセカンダリ ISN であり、定義することはできません。

対処：

正しい MAXISN2 値を指定し、ADAORD ジョブを再実行します。

ERROR-156

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER MAXISN2

説明：

MAXISN2 パラメータ値は、次の式を満たす必要があります。

- ISNSIZE が 3 である場合、MAXISN2 の値はゼロより大きく、かつ 16,777,215 未満である必要があります ($0 < \text{MAXISN2} \leq 16,777,215$)。
- ISNSIZE が 4 である場合、MAXISN2 の値はゼロより大きく、かつ 4,294,967,294 以下である必要があります ($0 < \text{MAXISN2} \leq 4,294,967,294$)。

対処：

正しい MAXISN2 パラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-157

**MAXIMUM NUMBER OF USER SYSTEM FILES DEFINED
FILE nnnnn WAS ORIGINALLY LOADED WITH THE SYSFILE OPTION, BUT THE
MAXIMUM NUMBER OF USER SYSTEM FILES ALREADY EXISTS.**

説明：

ユーザーシステムファイルは 10 個までという制限にすでに達しています。

対処：

SYSFILE オプションなしでユーザーシステムファイルのいずれかをアンロード、削除、および再ロードします。このユーティリティを再実行します。

50 ADAPLP エラーメッセージ

ERROR-121

MISSING FUNCTION

説明：

次の機能コードのいずれかが必要です。

- PLOGPRI
- SPLOGPRI
- WORKPRI

対処：

正しい機能コードを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-122

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER `TYPE`

説明：

正しい値は次のとおりです。

- TYPE=ALL
- TYPE=ASSO
- TYPE=DATA
- TYPE=REPR
- TYPE=SAVO
- TYPE=ET
- TYPE=C1
- TYPE=C5
- TYPE=VEKZ
- TYPE=EEKZ

対処：

詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』のADAPLP ユーティリティの説明を参照してください。

ERROR-123

MISSING ASSO DATASETS

説明：

WORKPRI 機能には、アソシエータデータセットが必要です。

対処：

必要な ASSO データセットを指定するジョブ制御ステートメントを修正し、ADAPLP ジョブを再実行します。

51 ADAPRI エラーメッセージ

ERROR-121 MISSING FUNCTION

説明：

有効なオペレータコマンドを少なくとも 1 つ指定する必要があります。

ASSOPRI、DATAPRI、WORKPRI、TEMPPRI、SORTPRI、CLOGPRI、PLOGPRI、
RLOGPRI、DSIMPRI

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAPRI ジョブを再実行します。

ERROR-122 MISSING ASSO DATASETS

説明：

次の機能を実行するには、アソシエータデータセットが必要です。

ASSOPRI、DATAPRI、WORKPRI

対処：

適切なデータセットをジョブ制御 JCL/JCS に追加し、ADAPRI ジョブを再実行します。

ERROR-123 INVALID RABN RANGE

説明：

TORABN に指定した値が、FROMRABN に指定した値よりも小さくなっています。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAPRI ジョブを再実行します。

ERROR-124

INVALID 'NUMBER' PARAMETER

説明：

NUMBER は 1～8 の範囲で指定する必要があります。このパラメータは CLOGPRI および PLOGPRI 機能にのみ有効です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAPRI ジョブを再実行します。

52 ADARAI エラーメッセージ

次のメッセージグループについて説明します。

ADARAI エラー (ERROR-117~ERROR-159)

ERROR-117

DSIMSIZE/DSIMDEV PARAMETERS REQUIRED

説明：

Delta Save Facility が、アクティブなデータベースに対して ADARAI RECOVER を呼び出しました。正しく実行するには、ADARAI が DSIM データセットの DSIM デバイスタイプとサイズを認識する必要があります。RLOG を使用してこの情報を ADARAI に認識させることができず、パラメータが ADARAI に渡されませんでした。このため、ADARAI オペレーションは続行できません。

対処：

ADARAI に DSIMDEV パラメータおよび DSIMSIZE パラメータを指定します。

ERROR-118

SKELETON FOR job-control CONTAINS A keyword PLACEHOLDER. THIS IS NOT PERMITTED FOR THIS SKELETON

説明：

指定したスケルトンジョブ制御では、job-control ステップのスケルトンジョブ制御に keyword プレースホルダが含まれていました。このプレースホルダは、job-control ステップには許可されていません。

対処：

スケルトンの job-control ステップから keyword プレースホルダの指定を削除します。

ERROR-119

SKELETON FOR job-control CONTAINED TWO OR MORE keyword PLACEHOLDER DEFINITIONS

説明：

指定したスケルトンジョブ制御では、job-control ステップのスケルトンジョブ制御に複数の keyword プレースホルダが含まれており、その後に次のステップが続いていました。各プレースホルダは、スケルトンのジョブ制御ステップごとに一度だけ指定します。そうしないと、ADARAI はどのプレースホルダを使用すればよいか判断できません。

対処：

keyword プレースホルダを一度だけ指定するように、スケルトンの job-control ステップを修正します。

ERROR-120

SKELETON FOR job-control DID NOT CONTAIN REQUIRED keyword PLACEHOLDER

説明：

指定したスケルトンジョブ制御では、job-control ステップのスケルトンジョブ制御に keyword プレースホルダが含まれないまま、次のステップが続いていました。スケルトンの適切な位置に正しい置換データを挿入するには、job-control スケルトン内の任意の位置に keyword プレースホルダを指定する必要があります。

対処：

keyword プレースホルダの指定を含めるように、スケルトンの job-control ステップを修正します。

ERROR-121

INVALID FILENUMBER file IS AN INVALID FILENUMBER

説明：

ファイル番号 file は、データベースに許可された最大値を超えています。

対処：

正しいファイル番号を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-122

SPECIFIED DRIVES PARAMETER drives LARGER THAN ORIGINAL DRIVES PARAMETER original

説明：

ADARAI RECOVER DRIVES パラメータを drives に設定しましたが、元のセーブジョブは DRIVES='original' で実行されました。ADARAI RECOVER に指定した DRIVES パラメータは、元の DRIVES パラメータの値以下である必要があります。ADARAI はその指定を無視し、元の DRIVES パラメータを使用します。

対処：

有効な値を使用するように DRIVES パラメータを修正します。

ERROR-124

INVALID FILE NUMBER REQUESTED. THERE IS NO RECOVERY LOG INFORMATION FOR THE FOLLOWING FILE NUMBER(S): FILE=nn

説明：

ファイルが、リカバリログ (RLOG) に認識されていません。ファイルが ADADBS 操作によって作成されたものである場合は、必要なチェックポイントがチェックポイントファイルにありませんでした。このため、RLOG にその変更のレコードがありません。

対処：

正しいファイル番号を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

RLOG IS INCORRECT VERSION. EXECUTE PREPARE FUNCTION AND RERUN THE JOB

説明：

この RLOG は Recovery Aid バージョン 7.1 以前のものですが、これより新しい Adabas Recovery Aid では最新の ADARAI PREPARE 機能で作成した RLOG が必要です。

対処：

ADARAI PREPARE 機能を実行して RLOG を変換します。

ERROR-130

PARAMETER RLOGSIZE MISSING OR INVALID. A MINIMUM OF nn BLOCKS IS REQUIRED

対処：

有効な RLOGSIZE パラメータを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-131

INVALID VALUE FOR PARAMETER MINGENS. THE VALUE FOR THIS PARAMETER MUST BE IN THE RANGE 4 THROUGH 32

対処：

有効な MINGENS パラメータを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-133

MISSING OR INVALID JCL PATTERN

説明：

入力パラメータリストには、JCL を生成するのに有効なパターン文字列がありません。

対処：

正しい JCL/JCS パターンを指定し、ジョブを再実行します。構文の説明については、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-136

INVALID VALUE FOR THE RELGEN PARAMETER

説明：

値が、MINGENS - 1 よりも大きいか、または Recovery 操作の場合は存在しない世代を指しています。

対処：

有効な RELGEN パラメータを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-138

ADARES PLCOPY NOT ACKNOWLEDGED

説明：

Adabas ニュークリアスは動作していません。ADARAI は、ユーザー出口 2 (デュアルログ処理) またはユーザー出口 12 (マルチログ処理) を呼び出して、プロテクションログから保留中のデータをコピーするジョブをサブミットしました。ADARAI はコピーが完了するのを待ちましたが、コピーはその待機期間中に完了しませんでした。

ERROR-139

ADARES PLCOPY NOT ACKNOWLEDGED

説明：

Adabas ニュークリアスを FEOFPL コマンドとともに呼び出して、現在のデュアルまたはマルチプロテクションログをクローズまたはコピーしようとしていました。ADARAI はこのコマンドの結果コピーがサブミットされ、完了するのを待ちましたが、コピーはその待機期間中に完了しませんでした。

ERROR-140

ADARAI NOT PERMITTED TO RUN. THE ADABAS NUCLEUS RETURNED RESPONSE nnn.

説明：

許容されるレスポンスコードは 148 のみです。

対処：

ニュークリアスをシャットダウンし、ジョブを再実行します。

ERROR-141

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: GETVIS FAILURE OCCURRED FOR PUTSPOOL BUFFER

対処：

パーティション GETVIS のサイズを増やし、ジョブを再実行します。

ERROR-142

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: PUTSPOOL JOB SUBMISSION ERROR. INTERNAL RETURN CODE IS X`nnn'

対処：

正しい対処については、*IBM POWER* のインストールおよびオペレーションに関するドキュメントを参照してください。次にジョブを再実行します。

ERROR-143

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: INVALID CALLING FUNCTION DETERMINED

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-144

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: CDLOAD FAILURE FOR ADAIOI

対処：

CDLOAD のリターンコードをチェックして、対処を確認しジョブを再実行します。

ERROR-145

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: CDLOAD FAILURE FOR ADAOPTD

対処：

CDLOAD のリターンコードをチェックして、対処を確認しジョブを再実行します。

ERROR-146

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: SUBSID ERROR

対処：

SUBSID のリターンコードをチェックして対処を確認し、ジョブを再実行します。

ERROR-147

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: GETVIS ERROR

対処：

GETVIS のリターンコードをチェックして対処を確認し、ジョブを再実行します。

ERROR-148

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: DLBL RECORD LENGTH LIMIT

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-149

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: JCL BUFFER EXCEEDED

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-150

INTERNAL ERROR OCCURRED IN MODULE RAGDOS: LUB TABLE EXCEEDED

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-156

INVALID JCL CONTROL KEYWORD

対処：

正しい JCL/JCS 入力を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-157

GENERATION nn IS xxxxxxxx

説明：

ADARAI は、世代が間違っているか、または制限されているため、世代に対する LIST または RECOVER 処理が実行できませんでした。

対処：

問題の原因を特定して修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-158

ADARAI NOT PERMITTED TO RUN. THE ADABAS NUCLEUS RETURNED RESPONSE resp-code, SUBCODE subcode

説明：

Adabas ニュークリアスレスポンスコード resp-code で示された問題とサブコード subcode がある場合はそのサブコードで示された問題のため、ADARAI を実行できませんでした。

対処：

[Adabas レスポンスコード/サブコードの説明](#)を参照してください。

ERROR-159**ADARAI PREPARE NOT PERMITTED TO RUN**

説明：

RLOG は PREPARE が無効な状態になっています。RLOG が使用中の場合は、RLOG に対して ADARAI REMOVE を発行します。RLOG が新しいものである場合は、ADARAI PREPARE を実行する前に、その RLOG をフォーマットする必要があります。ADARAI PREPARE を使用して定義した RLOGSIZE は、ADAFRM RLOGFRM 機能の SIZE パラメータで以前に定義した値と同じである必要があります。

対処：

ADARAI PREPARE を実行する前に、ADARAI REMOVE を使用して RLOG を非アクティブ化するか、または ADAFRM RLOGFRM を使用して RLOG を再フォーマットします。

出力リカバリジョブに書き込まれる ADARAI エラーメッセージ (ERROR-160～ERROR-169)

出力リカバリジョブに直接書き込まれるエラーを次に示します。

- その目的は、修正を加えなければジョブを実行できないことを示すことと、
- ジョブ生成のどこでエラーが発生したかを特定することです。

ERROR-160**THE GENERATION USED TO CREATE THE FOLLOWING JOB WAS status**

説明：

ジョブの生成に使用された世代は、ステータスが [normal] 以外になっていました。これは、ADARAI が世代作成中のある時点で、生成しようとしているジョブはユーザーが変更を加えなければ実行できないと判断したことを示しています。

対処：

ステータスの理由を確認し、必要に応じて変更を加えます。世代が制限されている場合、後のメッセージで、世代が実際に制限されている場所が示されます。一般に、このようなジョブはユーザーが介入すれば正常に実行されます。世代が間違っている場合、リカバリフェーズでその原因を把握することはできません。このため、リカバリジョブが可能であれば、リカバリジョブで問題の原因を特定し、修正する必要があります。

ERROR-161**NO FULL SAVE DATASET AVAILABLE IN GENERATION**

説明：

リカバリする世代には、フルセーブデータセットが関連付けられていません。この状態は、RLOG の作成後デフォルトで割り当てられる最初の世代でのみ発生します。

対処：

その世代より前の最後のフルセーブデータセットを特定し、生成したリカバリジョブを使用する前にそのデータセットをリストアするステップを挿入します。リカバリジョブを実行し

て有効なデータを作成するには、フルセーブを取得してから RLOG が使用可能になるまでの時間に行われたステップも残らずここに挿入する必要があります。

ERROR-162

MISSING PLOG DATASET INFORMATION PLOG NUMBER = plog LOW PLOG BLOCK = lowblk [NUCID nucid] HIGH PLOG BLOCK = highblk [NUCID nucid]

説明：

リカバリジョブの生成中、ADARAI はメッセージに記載されている範囲の PLOG ブロックが必要であると判断しました。しかし、その PLOG ブロックはリカバリしようとしている世代には記録されませんでした。これは、世代が制限されていた場合や、PLOG をコピーする PLCOPY ステップがその実行を RLOG データセットに記録できなかった場合に発生することがあります。この値がゼロ以外の場合には、クラスタニュークリアス ID が PLOG ブロックの最大番号および最小番号の次に表示されます。

対処：

そのブロック範囲がある PLOG を特定し、メッセージに記載されている適切な位置でこのデータセットをジョブに追加します。

ERROR-163

GENERATION BECAME RESTRICTED FOLLOWING THIS STEP

説明：

これは、世代がリカバリジョブのどの位置でなぜ制限されるようになったかを示しています。ユーザーが介入すると、世代が制限される原因に対処し、リカバリジョブでデータベースを正常にリカバリできるようになります。

対処：

制限理由に対処するための措置を講じます。

ERROR-164

NO SESSION END RECORD FOUND INSURE ALL PLOGS ARE INCLUDED PRIOR TO NEXT UTILITY RUN

対処：

ADARAI はセッション開始レコードが見つかった位置でオフラインユーティリティの実行を検出したものの、セッション終了レコードが見つかりませんでした。つまり、オフラインユーティリティが実行される前にニュークリアスセッションが異常終了したことになります。このため、ADARAI はそのセッションの最後の PLOG ブロックを正確には特定できず、そのセッションに関して認識している PLOG ブロックをすべて含めることしかできません。

対処：

実行しようとしていたユーティリティステップより前に、そのセッションに関する PLOG をすべて REGENERATE に指定します。セッションの PLOG のうち ADARAI に認識されていない PLOG は、DD/SIIN ステートメントの末尾に追加できます。

ERROR-165**NO RESTPLOG ENTRY FOUND**

説明：

RESTONL 要求が発生しました。通常、この後に RESTPLOG エントリが続くため、正常に完了するように PLOG を RESTONL に指定する必要があります。この場合、発生した RESTONL 機能に関して RESTPLOG エントリは見つかりません。通常、このエントリが見つかるのは、RESTONL 機能が PLOG 処理ステージで失敗し、RESTPLOG が繰り返しのスタンドアロンではない場合のみです。

対処：

RESTPLOG が実際に正常に発行されたのに RLOG に記録されなかったのかどうか確認します。その場合は、RESTPLOG ジョブ自体の情報に基づいて適切な PLOG を RESTONL ステップに追加できます。

ERROR-166**NO STARTING PLOG INFORMATION FOUND**

説明：

リカバリジョブを作成しているときに、ADARAIはオンラインで実行されたユーティリティ操作を検出しました。しかし、それに先立つニュークリアスのセッション開始レコードがありませんでした。これは、世代が制限されているか、またはセッションの開始を RLOG に記録できなかった場合にのみ発生します。

対処：

このことがなぜ発生した理由の合理的な説明がない場合には、Software AG 技術サポートにお問い合わせください。

ERROR-167**RESTPLOG ENCOUNTERED OUT OF SEQUENCE SYN1 PLOG BLOCK =plogblk [NUCID nucid] SYN2 PLOG BLOCK =plogblk [NUCID nucid]**

説明：

通常、RESTPLOG 要求は RESTONL ユーティリティ操作に関してのみ発生します。このケースでは、RESTONL 要求がないまま PLOG ブロックに対する RESTPLOG が発生しました。この値がゼロ以外の場合、ブロック番号の後にクラスタニュークリアスIDが表示されます。

対処：

その時点で RESTPLOG エントリがどのように発生したかを特定し、そのステップがなくてもリカバリジョブが正常に実行されるかどうか確認します。

ERROR-168

JOB CONTAINS ONE OR MORE ERRORS

説明：

リカバリジョブを作成しているときに、ADARAIがエラーを検出したため、生成したリカバリジョブを実行できませんでした。

対処：

発生したエラーに基づいてジョブを正常に修復できる場合は、ジョブの早い段階で特定されたこのようなエラーを修正し、ジョブを実行します。

ERROR-169

THE PREVIOUS STEP WAS INCOMPLETE

説明：

このメッセージの前のステップは処理完了の準備ができていると、ADARAIデータ収集メカニズムから通知されたものの、ユーティリティ実行のコミットレコードが書き込まれませんでした。つまり、ユーティリティ実行が完了しなかったか、またはコミットレコードを書き込むことができなかったこととなります。

対処：

RLOG で情報を完了できなかった理由を特定します。問題のステップがなくてもリカバリジョブを正常に実行できる場合は、そのステップをリカバリジョブから完全に削除します。必要に応じて、ジョブステップを適切に修正します。

ADARAI 情報メッセージ

INFO-001

THE FOLLOWING PLOG NUMBERS WERE NOT USED: LOW PLOG NUMBER lowplog [NUCID nucid] HIGH PLOG NUMBER highplog [NUCID nucid]

説明：

ADARAIは、PLOG 検証処理中、PLOGセッション番号が昇順に連続して並んでいるかどうかチェックします（例えば、PLOG 8 は PLOG 7 の後、PLOG 7 は PLOG 6 の後という具合です）。このように並んでいない場合、PLOG の欠けている部分を示すため、このメッセージが発行されます。オンラインセーブを使用しているときに、このような状態になることがあります。この値がゼロ以外の場合、セッション番号の後にクラスタニュークリアス ID が表示されます。

INFO-002

FILE NUMBER file DELETED

説明：

最適化された ADARAIRECOVERY の処理中、リカバリジョブ自体には削除したファイルが示されません。このメッセージは、世代のリカバリ時にファイル番号 file が削除されたという事実を登録するために発行されます。

53 ADAREP エラーメッセージ

ERROR-121

NUCLEUS RETURNED RESPONSE resp-code WHILE READING/OPENING THE CHECKPOINT FILE. (nucleus-response)

説明：

resp-code の意味については、第 3 章を参照してください。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。

ERROR-122

INCONSISTENCY DETECTED BETWEEN FST AND GCB (INTERNAL ERROR)

説明：

FST に、データベースに属さない RABN があります。

対処：

Adabas 基本システムまたは ADADBS リカバーを使用して、FST を修復します。

ERROR-123

INCONSISTENCY BETWEEN DSST AND FCB FILE EXTENT (INTERNAL ERROR)

説明：

A(DSST-EXTENT-ENTRY) = xxxxxxxx A(FCB-EXTENT-ENTRY) = xxxxxxxx

対処：

このエラーについて、データベース管理者 (DBA) に連絡してください。

ERROR-124

INCONSISTENCY BETWEEN FILE file-name AND GCB (INTERNAL ERROR)

説明：

ファイルエクステンツに、データベースに属さない RABN が含まれています。

対処：

RESTORE および REGENERATE を使用して、ファイルを修復します。

ERROR-125

INCONSISTENCY IN MIRROR BLOCK (INTERNAL ERROR)

説明：

ミラーテーブルに無効な構造があります。この構造を変換することはできません。

対処：

ADAREF を使用してミラーテーブルを修復し、ご使用のデータベースを再度ミラー化します。

ERROR-126

INVALID PARAMETER VALUE FOR PARAMETERS FROMDATE/TODATE OR FROMSESSION/TOSESSION

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

INVALID FROMDATE / TODATE PARAMETER

説明：

FROMDATE/TODATE パラメータは、フォーマットが `yyyymmdd` である必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-128

INVALID SAVE TAPE SUPPLIED

説明：

DD/SAVE 入力データセットとして指定されたデータセットは、セーブテープではありません。

対処：

有効なセーブテープを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-129**SAVETAPE MUST BE FROM V51 OR HIGHER**

説明：

指定したセーブテープは、Adabas バージョン 5.1 以上で作成されていません。

対処：

Adabas バージョン 5.1 以上で作成されたセーブテープを指定し、ジョブを再実行します。

54 ADARES エラーおよび警告メッセージ

次のメッセージグループについて説明します。

ADARES エラー (ERROR-121～ERROR-172)

ERROR-121

PROTECTION LOG NUMBER MISMATCH

説明：

PLOGNUM/FROMPLOG パラメータで指定したプロテクションログ番号が入力ログテープで見つかりませんでした。

対処：

正しいプロテクションログデータセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-122

FROMMCP/FROMBLK NOT FOUND

説明：

FROMMCP/FROMBLK パラメータで指定した開始チェックポイント/ブロック番号がプロテクションログ番号 log-number 上に見つかりませんでした (実際のログ番号はメッセージテキストに記載されています)。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-123

ENDING BLOCK NUMBER NOT FOUND

説明：

TOBLK パラメータで指定したブロック番号が、プロテクションログ入力にありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

INVALID LOG NUMBER SPECIFICATION

説明：

ニュークリアスは、要求されたセッション session-id で、シーケンシャルプロテクションログデータセットに書き込まれた最後のブロックの番号を取得することができません。

対処：

問題の入力データセットに正しく EOF マークが書かれている場合には、NONUC パラメータを追加し、ジョブを再実行します。

ERROR-125

DUAL LOG MODIFIED DURING COPY RUN

説明：

コピー処理がニュークリアスのユーザー出口 2 の使用により、次のどちらかです。

- 使用時出口を使用して、コピー実行が 2 回開始されました。
- 未使用時コピー実行が完了する前に、ニュークリアスがコピー中のデュアルログの一部に書き込みを開始しました。

対処：

ADARES 出力を保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-126

INVALID FROMBLK/FROMCP/TOBLK/TOCP VALUES

説明：

FROMCP または TOCP を指定していないか、正しく指定していません。

対処：

詳しくは、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-127

DATABASE ID MISMATCH

説明：

ADARUN DBID は dbid-a ですが、DDSIIN 入力データセット内に、DBID dbid-b、ブロック block-number、セッション session-id のデータが含まれています。誤ったデータベースにアクセスしているか、このユーティリティの入力パラメータに間違ったデータベース ID を指定しています。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-128
INCONSISTENT FILE LIST

説明：

ファイル file-number はカップリングされたファイル、または拡張ファイルの一部ですが、対応する全ファイルがファイルリストに含まれていませんでした。

対処：

正しいファイルリストを指定するか、IGNORECOUPLE/IGNOREEXP パラメータを指定して、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-129
EMPTY PLOG DATASET FOR BACKOUT

説明：

PLOGR1/R2 が空であるため、ディスクからのバックアウトは不可能です。

対処：

ADARES 出力を保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-130
PLOG DATASET NOT YET COPIED

説明：

データセット (name) から読み込もうとしましたが、このデータセットはまだコピーされていません。

対処：

まず、ADARES の PLCOPY 機能を実行し、デュアルまたはマルチプロテクションログデータセットの内容を保存した後、このジョブを再実行します。

ERROR-131
TOCP/TOBLK NOT FOUND ON DUAL PROTECTION LOG

説明：

バックアウト DPLOG 用に要求されたチェックポイントは、データセット (name) にありません。

対処：

正しいプロテクションログを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-132

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER `DSRABN'

説明：

次のいずれかが必要です。

- 単一の RABN
- 昇順に範囲指定してある RABN

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-133

CONFLICTING FROMPLOG/TOPLOG PARAMETERS

説明：

REGENERATE 機能の場合、TOPLOG の値を FROMPLOG に指定した値よりも小さい値にしないでください。BACKOUT 機能の場合は逆に、FROMPLOG 値を TOPLOG 値よりも小さい値にしないでください。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-134

PROTECTION LOG NUMBER MISMATCH

説明：

プロテクションログデータセットが正しい順序で指定されていません。現在のプロテクションログ番号は log-number-a であり、その前の番号は log-number-b でした。

対処：

プロテクションログの正しい順番を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-135

TOBLK/TOCP NOT FOUND ON SEQUENTIAL PROTECTION LOG

説明：

指定した TOBLK に TOCP が含まれていません。TOBLK で指定したブロックを含む入力は処理されました。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-136**INVALID BLOCK NUMBER FOUND**

説明：

現在の PLOG のブロックが正しい順で指定されていないか、または PLOG の先頭ブロックが番号 1 ではありません。最後に読み込んだブロックは、プロテクションログ番号 (log-number) の番号 (block-number) のブロックです (実際のブロック番号およびログ番号はメッセージテキストに記載されています)。

対処：

プロテクションログの正しい順番を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-137**MISSING FUNCTION PARAMETER**

説明：

ADARES ステートメントに ADARES 機能を指定していませんでした。

対処：

ADARES 機能 (BACKOUT、CLCOPY、COPY、MERGE、PLCOPY、REGENERATE、REPAIR) を指定し、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-138**DBID MISMATCH**

説明：

PLOG 番号 log-number、ブロック番号 block-number 上で、DBID dbid-a が見つかりましたが、PLOG DBID パラメータ値は dbid-b です。

対処：

正しい PLOG テープを指定し、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-139**DDSIIN INPUT ERROR**

説明：

コピーするセッションの範囲が PLOG および SAVE セッションの両方から成ります。

対処：

正しい入力テープを指定し、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-140

DDSIIN INPUT ERROR

説明：

タイムスタンプがセッション番号 session-id 内で昇順ではありません。エラー内のブロックは、番号が block-number です。

対処：

正しい入力テープを指定し、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-141

PARAMETER parameter NOT ALLOWED IN MODE=SINGLE

説明：

パラメータ parameter をシングルユーザーモードで指定することはできません。

対処：

ADARUN パラメータ MODE=MULTI でジョブを再実行します。

ERROR-142

PARAMETER parameter NOT ALLOWED WITHOUT DSF

説明：

指定したパラメータは、Delta Save Facility がインストールされている場合にのみ使用可能です。

システム対処：

ADARES は異常終了します。

対処：

Delta Save Facility がインストールされている場合は、ADARUN DSF=YES を指定してジョブを再実行します。

ERROR-143

ERROR DURING DSIM DATASET PROCESSING

説明：

Delta Save Facility がデルタセーブイメージ (DSIM) データセットを処理 (作成) しているときにエラーが発生しました。DSIM データセットが正しく作成されていません。エラーの理由は、直前の DSF エラーメッセージに示されています。この ADARES エラーメッセージは、シーケンシャル出力データセットなしに COPY 機能を実行した場合にのみ発行されます。

システム対処：

ADARES は異常終了します。

対処：

エラーの原因を特定し、解決してから、ジョブを再実行します。

ERROR-144**PARAMETER AUTOBACKOUT NOT ALLOWED**

説明：

AUTOBACKOUT パラメータは、TOCP パラメータ値を指定しているときにのみ指定できません。

対処：

パラメータ指定をチェックし、ADARES ジョブを再実行します。

ERROR-145**INVALID EXCLUDE PARAMETER**

説明：

メッセージに表示されたファイル番号を REGENERATE/BACKOUT に対して全く指定していないか、EXCLUDE パラメータに 2 回指定しています。

対処：

エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-146**FILE EXCLUDED FROM REGENERATE**

説明：

REGENERATE 機能が、1 つ以上のファイルを再生成から除外しました。考えられる原因は次のとおりです。

- ニュークリアスがファイルに対してレスポンスコードを返しました。
- ADARES が、ファイルに付属した PLOG 上にユーティリティチェックポイントを検出しました。つまり、ジョブの設定に問題があります（例えば、無効な RAID パラメータ、PLOG）。

Adabas Recovery Aid で作成したジョブの再生成からファイルが除外された場合は、内部エラーが発生したことになります。

対処：

エラーの原因を特定し、ジョブを修正します。必要であれば、リカバリ処理の再開について技術サポートにお問い合わせください。

ERROR-147**INVALID VALUE FOR PARAMETER 'ALLOCATION'**

説明：

有効な値は ALLOCATION={FORCE | NOFORCE} です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-148

NUCLEUS 'NU' PARAMETER VALUE TOO SMALL

説明：

現在、NU よりも多い数のユーザーがオープントランザクションを持っています。

対処：

ニュークリアス NU 値を大きくし、ジョブを再実行します。

ERROR-149

MISSING OR MISMATCHING RLOGDEV PARAMETER

説明：

明示的または暗黙的に指定された RLOGDEV パラメータが、GCB に保存されている RLOG デバイスタイプと一致しません。

RLOGDEV パラメータ	= デバイスタイプ
RLOG デバイスタイプ	= デバイスタイプ

GCB が壊れた場合でも ADARES COPY/PLCOPY 実行をリカバリログに記録できるように、RLOGDEV パラメータを正しく指定する必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-150

ERROR OCCURRED DURING CLCOPY, PLCOPY, or PPT DEQ

説明：

ニュークリアス クラスタ環境でコピー処理中、マルチプロテクションログまたはコマンドログをデキューイングしているときにエラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-151

ERROR OCCURRED DURING CLCOPY, PLCOPY, or PPT ENQ

説明：

ニュークリアス クラスタ環境でコピー処理中、マルチプロテクションログまたはコマンドログをデキューイングしているときにエラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-152**ADARES BACKOUT DPLOG NOT ALLOWED FOR A CLUSTER DATABASE.**

説明：

Adabas クラスタデータベースに ADARES 機能 BACKOUT DPLOG を使用することはできません。ADARES BACKOUT は使用できますが、入力としてマージされたプロテクションログが必要です。

対処：

PLCOPY 機能を使用してプロテクションログをマージし、シーケンシャルデータセットを指定します。

ERROR-153**INVALID NUMLOG PARAMETER SPECIFIED THE VALUE SPECIFIED WAS nn**

説明：

Adabas クラスタ環境で手動でコマンドログをマージするとき、NUMLOG の最大数は 32 です。

対処：

マージするクラスタコマンドログの正しい数を指定します。

ERROR-154**{ OPEN | CLOSE } ERROR ON { MERGIN1 | MERGIN2 } FILE**

説明：

Adabas クラスタ環境でのプロテクションまたはコマンドログのマージプロセスに供給された中間データセットをオープンまたはクローズしているときにエラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-155**READ ERROR ON { MERGIN1 | MERGIN2 } FILE. SYSTEM ERROR=nnnnnnnn**

説明：

Adabas クラスタ環境でのプロテクションまたはコマンドログのマージプロセスに入力された中間データセットをオープンまたはクローズしているときにエラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-156

WRITE ERROR { MERGIN1 | MERGIN2 } FILE. SYSTEM ERROR=nnnnnnnn

説明：

Adabas クラスタ環境でのプロテクションまたはコマンドログのマージプロセスに入力された中間データセットをオープンまたはクローズしているときにエラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-157

INCORRECT { MERGIN1 | MERGIN2 } FILE SUPPLIED

説明：

Adabas クラスタ環境でのプロテクションまたはコマンドログのマージプロセスに無効な中間データセットが供給されました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-158

INCONSISTENCY DETECTED WITH HEADER FLAG PARTIAL MERGE INDICATOR IS NOT SET CORRECTLY

説明：

Adabas クラスタ環境でのプロテクションまたはコマンドログのマージプロセス中に、ログのマージステータスに対して矛盾したインジケータが検出されました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-159

INVALID { READ | WRITE } CONTAINER FUNCTION REQUESTED FOR MERGE PROCESS

説明：

PLOG または CLOG データセットを読み書きしようとしたときにエラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-160**INTERNAL PROCESSING ERROR ENCOUNTERED WITH THE MERGE PROCESS -
SUBCODE n**

説明：

内部的なプロテクションまたはコマンドログ処理エラーが次のサブコードの1つで検出されました。

1	何度もログをオープンしようとしてしました。
2	ログ I/O テーブルはいっぱいです。
3	Parallel Participant Table (PPT) で PLOGR1 または CLOGR1 データセットの読み込みでエラーが発生しました。
4	Parallel Participant Table (PPT) で PLOGR2 または CLOGR2 データセットを読み込んでいるとき、エラーが発生しました。
5	どちらのログもマージプロセスに選択されませんでした。
6	ログバッファリングでエラーが発生しました。
7	ログバッファリングフラグが無効です。
8	ログレコードの処理中に内部エラーが発生しました。エンドオブファイルを過ぎて読み込みを行おうとしました。
9	マージプロセスの終了時に、ログステータスを更新しようとしたときに内部エラーが発生しました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-161**INVALID PPT DETECTED**

説明：

Adabas クラスタ環境で、無効の Parallel Participant Table (PPT) が検出されました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-162**THE PLOG MERGE PROCESS ENCOUNTERED AN INVALID PROTECTION RECORD**

説明：

プロテクションレコードを処理しているときにエラーが発生しました。

対処：

ADARES 出力を保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-163

THE PLOG MERGE DETECTED AN INTERNAL ERROR WRITING THE MERGED RECORDS

説明：

ブロック番号は連続的に増加するわけではありません。

対処：

ADARES 出力を保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-164

THE INTERMEDIATE DATASET DID NOT CONTAIN AS MANY RECORDS AS EXPECTED

説明：

入力には xxx 件のレコードが含まれていますが、推定していたレコード数は yyy 件でした。

対処：

正しい中間データセットを指定します。

ERROR-165

THE JCL SUPPLIED FOR THE ADARES PLCOPY NOPPT PRODUCED AN ERROR

説明：

ADARES は、DD ステートメントを指定しなかったか、または PLCOPY NOPPT 機能に対して DD ステートメントがエラーになりました。

対処：

JCL を修正して、ジョブを再度サブミットしてください。

ERROR-166

INVALID INPUT WAS SUPPLIED TO THE MERGE CLOG FUNCTION

説明：

ADARES MERGE CLOG 機能に指定したデータセットの 1 つ以上がエラーになりました。入力はシーケンシャルデータセットであるものと想定されており、オリジナルの CLOG を作成するには CLOGLAYOUT=5 を使用する必要があります。

対処：

入力を修正し、MERGE CLOG ジョブを再度サブミットします。

ERROR-167

THE JCL SUPPLIED FOR THE ADARES MERGE CLOG FUNCTION PRODUCED AN ERROR

説明：

MERGE CLOG 機能に対して、DD ステートメントが指定されていなかったか、または DD ステートメントがエラーになったことが ADARES によって検出されました。

対処：

JCL を修正して、ジョブを再度サブミットしてください。

ERROR-168

THE NUMLOG PARAMETER SPECIFIED WAS xx BUT yy DATASETS WERE SUPPLIED

説明：

ADARES MERGE CLOG 機能パラメータ NUMLOG に、入力として実際に機能に指定された数 (yy) とは異なる数のデータセット (xx) を指定しました。

対処：

NUMLOG パラメータの指定を変更するか、2つの値 (xx と yy) が一致するように入力データセットを変更します。次にジョブを再実行してください。

ERROR-169

AN EMPTY DATASET WAS SUPPLIED AS INPUT TO THE MERGE CLOG FUNCTION

説明：

ADARES は空の入力データセットを検出しました。

対処：

データセットを削除し、NUMLOG 値を調節するか、または有効なデータセットを指定します。次にジョブを再実行してください。

ERROR-170

PARAMETER SBLKNUM IS ONLY ALLOWED IF NOPPT

説明：

SBLKNUM パラメータは、NOPPT パラメータを指定している場合にのみ使用できます。

ERROR-171

THE PPT IS REQUIRED FOR A PLCOPY FROM A CLUSTER DATABASE. THIS IS NOT POSSIBLE BECAUSE THE OPEN OF THE ASSO FAILED. PLEASE RERUN PLCOPY WITH NOPPT SPECIFIED AND THE PLOG DD-STATEMENTS SUPPLIED IN THE JCL.

説明：

ERROR-171 より前に、"The Associator data set(s) could not be opened. *nn - return code explanation*" (Associator データセット (複数可) はオープンできませんでした) というメッセージが表示され、処理は継続します。

ASSOのオープンが失敗しました。PLOGをチェックしたところ、コピー対象のPLOGはクラスタデータベースから取得したものであることが明らかになりました。ASSOをリストアするか、またはPLCOPYNOPPT機能を実行してPLOGのcopy offを行う必要があります。クラスタからの適切なPLOG DD ステートメントはすべて、NOPPT 機能への入力として指定する必要があります。

ERROR-172

INCORRECT PLOGS SUPPLIED

説明：

このエラーは、Adabas 7.2 や 7.4 (またはそれ以降) のレベルでない PLOG を使用して再生成を実行しようとするると発生します。ADARES では、旧バージョンの PLOG を使用できません。

対処：

複数の Adabas バージョンにまたがる ADARES ジョブを実行する必要がある場合は、ADACNVユーティリティをリカバリ処理に含める必要があります。リカバリステップの例を次に示します。

1. 旧バージョンのデータベースに対して ADASAV RESTORE ジョブを実行します。
2. 旧バージョンのデータベースのニュークリアスを開始します。
3. ADARES REGENERATE PLOGNUM=*old-plognr* を使用して ADARES ジョブを実行します。ここで、*old-plognr* には旧バージョンのデータベースの PLOG 番号を指定します。
4. 旧バージョンのデータベースのニュークリアスをシャットダウンします。
5. 旧バージョンのデータベースに対して ADACNV CONVERT ジョブを実行して、新バージョンのデータベースを作成します。
6. 新バージョンのデータベースのニュークリアスを開始します。
7. ADARES REGENERATE PLOGNUM=*new-plognr* を使用して ADARES ジョブを実行します。ここで、*old-plognr* には新バージョンのデータベースの PLOG 番号を指定します。

ADARES 警告メッセージ

WARNING - INPUT INTERMEDIATE DATASET IS INVALID

説明：

NOPPT が指定され、無効な中間データセットが使用されました。プロテクションレコードのいくつかは、マージされた出力から失われている可能性があります。

システム対処：

NOPPT を指定したため、処理は続行し、コンディションコード 4 が返されます。

WARNING - THE PPT HAS BEEN CLEARED

説明：

Parallel Participant Table (PPT) は最後のマージ以後クリアされています。プロテクションログデータは失われている可能性があります。

システム対処：

処理はデータベースがリストアされたものとして続行します。

対処：

PPT のクリアは意図したものであることを確認してください。

THE PPT INDICATES THAT THERE ARE CURRENTLY NO PLOGS TO BE COPIED FOR THIS DATABASE

説明：

コピー対象の PLOG がありません。

対処：

エラーの原因を特定します。必要な場合は、Software AG 技術サポートにお問い合わせください。

WARNING - CLOG IS FROM A CLUSTER DATABASE. A NORMAL CLCOPY WILL RUN, SINCE THE PPT IS NOT ACCESSIBLE. A SUBSEQUENT CLOG MERGE MUST BE RUN TO MERGE THE CLOG DATASETS.

説明：

この警告の前に、"The Associator data set(s) could not be opened. *nn - return code explanation*" (Associator データセット (複数可) はオープンできませんでした) というメッセージが表示され、処理は続行します。

ASSO のオープンが失敗しました。CLOG をチェックしたところ、コピー対象の CLOG はクラスタデータベースのものであることが明らかになりました。正常な CLCOPY (非マージ) が実行されます。CLOG データセットをマージするには、続いて CLOG を実行する必要があります。

55

ADASAV エラーメッセージ

ERROR-95

DIB DISAPPEARED

説明：

ユーティリティが処理の始めにユーティリティコミュニケーションブロック (UCB) に作成した DIB エントリが、処理終了時に存在しません。別のユーティリティが、ロックすることになっていたファイルに変更を加えた可能性があります。このユーティリティを実行すると、整合性が失われることがあります。

対処：

DIB エントリに起きた現象を確認します。次に、ユーティリティを再実行して、ユーティリティの実行が全ファイルで整合性が取れていることを確認します。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-121

WRONG PROTECTION LOG TAPE

説明：

違うプロテクションログテープがマウントされました。要求されたプロテクションログは、DBID dbid-a、セッション番号 session-id です。

指定したプロテクションログは、DBID dbid-b、セッション番号 sess-num-b です。

対処：

正しいテープを用意し、RESTPLOG 機能を使用して ADASAV ジョブを開始します。

ERROR-122

chkpt-CHECKPOINT NOT FOUND

説明：

次のいずれかが発生しました。

1. SYN1/SYN4 チェックポイントがプロテクションログブロック block-number にありません。
2. SYN2/SYN5 チェックポイントがプロテクションログのどこにもありません。
3. 別の SYN1/SYN4 チェックポイントが、予測される SYN2～SYN5 チェックポイントよりも前に検出されました。

無効なプロテクションログがマウントされたか、または無効な SYN1-SYN4 チェックポイントが指定されました。

対処：

正しいプロテクションログとパラメータを指定します。ケース1またはケース2の場合は、RESTPLOG 機能で続行します。ケース3の場合は、RESTONL 機能を繰り返します。

ERROR-123

THE INPUT TAPES OF A MULTIVOLUME SAVE SET ARE MOUNTED IN WRONG ORDER. ADASAV IS NOT ABLE TO CONTINUE

説明：

RESTORE 機能は、RESTn/DDRESTn データセットが作成順に指定されているものと見なします。

対処：

入力テープが正しい順序でマウントされていることを確認し、ジョブを再実行します。

ERROR-124

INVALID FILE LIST PARAMETER

説明：

次のいずれかが発生しました。

- ファイル番号が見つからなかったか、無効なファイル番号を指定したか、またはファイル番号を FILES、FMOVE、NEWFILES、EXCLUDE のいずれかのパラメータに重複して指定しました。
- NEWFILES パラメータに FILES/FMOVE パラメータよりも多くのファイル番号を指定しました。
- EXCLUDE パラメータに指定したファイルを FILES、FMOVE、NEWFILES のどのパラメータにも指定しませんでした。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-125**MISSING FUNCTION CODE**

説明：

SAVE または RESTORE が必要です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-126**ONLY ONE FUNCTION AT A TIME ALLOWED**

説明：

SAVE または RESTORE のどちらか一方のみを指定します。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER DRIVES**

説明：

このパラメータに対する値は、1 以上 8 以下の範囲で指定する必要があります。デフォルト値は 1 です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-128**ALL PARTS OF AN EXPANDED FILE MUST BE RESTORED TOGETHER. AT LEAST THE PARAMETER FILE= file-number IS MISSING**

対処：

この拡張ファイルの全ファイルをファイルリストに含め、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-129**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER NEWDBID**

説明：

正しい値は 1~65,535 です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-130

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER PERDRIVE

説明：

PERDRIVE に対するパラメータリスト内の値の数は、DRIVES パラメータの値と等しくする必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-131

INPUT SAVE TAPE CREATED { ONLINE | OFFLINE }

説明：

直前の ADASAV SAVE 操作で作成した出力セーブテープのタイプに誤ったタイプの ADASAV リストア機能を使用しました。

対処：

RESTONL 機能を使用してオンラインのニュークリアスで保存したテープをリストアし、関連するプロテクションログを指定します。オフラインのニュークリアスで保存したテープをリストアするには、RESTORE 機能を使用します。

ERROR-132

FIRST BLOCK ON RESTORE TAPE IS NOT A GCB

説明：

RESTORE に無効な入力を指定しました。

RESTORE 機能の入力は、前もって ADASAV ユーティリティの SAVE 機能で作成したものである必要があります。

対処：

正しい入力を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-133

RESTORE TAPE DOES NOT HAVE THE CORRECT VERSION

説明：

RESTORE FILES 機能の場合、リストアテープはバージョン 5.1 以上の ADASAV SAVE 機能で作成したものである必要があります。

RESTORE (データベース) または RESTORE GCB 機能の場合、リストアテープは同じバージョンの ADASAV SAVE 機能で作成したものである必要があります。

対処：

正しい入力を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-134**DIFFERENT DEVICE TYPES FOR RESTORE**

説明：

ADASAV リストアソースと、宛先のデバイスタイプが違います。ADASAV リストア機能では、ソースのデバイスタイプ/エクステントと出力先のデバイスタイプ/エクステントが違うものは受け付けません。

対処：

出力先のデバイスタイプまたはエクステントが、リストア機能のソースと同じになるように指定し直し、ジョブを再度サブミットします。詳細については、『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-135**SAVE TAPE DOES NOT CONTAIN A WHOLE DATABASE**

説明：

次の理由により、セーブデータセットをリストアできません。

- セーブデータセットが、RESTORE/RESTONL FILE/FMOVE でのみリストアできるファイルセーブデータセットです。
- セーブデータセットが、フルデータベースセーブデータセット（RESTORE DELTA を使用）との組み合わせでのみリストアできるデルタセーブデータセットです。

システム対処：

RESTORE データベースまたは RESTORE GCB 機能は異常終了します。

対処：

正しいセーブデータセットを指定するか、正しいリストア機能を指定します。

ERROR-136**RESTORE DATABASE ONLINE NOT PERMITTED**

説明：

ADASAV RESTORE OPEN コマンドが、ニュークリアスレスポンスコード（resp-code - 説明）を受け取りました。ニュークリアスはアクティブですが、RESTORE データベースの操作中には許可されません。

対処：

正しいデータベースにアクセスしたかどうかチェックします。正しいデータベースである場合は、ニュークリアスをシャットダウンし、ADASAV RESTORE ジョブを再実行します。

ERROR-137

AN ATTEMPT WAS MADE TO RESTORE FILE NO. file-number INTO A DATABASE WITH A MAXFILE-VALUE OF count

対処：

ファイル番号を修正するか、またはデータベース中の MAXFILE 値を変更します。

ERROR-138

FILE file-number NOT FOUND ON SAVE TAPE

対処：

必要なファイルを含む正しい入力データセットを指定するか、またはパラメータリストからファイル番号を削除します。

ERROR-139

COUPLED FILES MUST ALL BE RESTORED TOGETHER. FILE file-number-a IS COUPLED TO FILE file-number-b

対処：

カップリングされている全ファイルをファイルリストに指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-140

NO FILES SELECTED FOR SAVE/RESTORE

対処：

FILE パラメータまたは FMOVE パラメータで正しいファイルリストを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-141

SUPPLIED value IS SMALLER THAN CURRENTLY USED

対処：

メッセージの中の value に示されているパラメータにより大きな値を指定し、ジョブを再実行します。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-142

INVALID VALUE FOR PARAMETER parameter

説明：

次のどちらかが原因です。

- MAXISN を増加しようとしたが、ファイルが NOACEXTENSION とともに定義されていました。
- 指定したサイズ（シリンダ単位）が大きすぎます。

ERROR-143**RESTORE DATABASE NOT PERMITTED. ANOTHER UTILITY HAS EXCLUSIVE CONTROL OF THE DATABASE**

説明：

ADASAV RESTORE は、データベースが停止していることを示すレスポンスコードが返されるものと想定しています。しかし、ADASAV RESTORE は、現在別のユーティリティがデータベースの排他制御を行っていることを示すサブコードを受け取りました。

対処：

アクセスしたニュークリアスが正しいかどうか確認します。正しければ、別のユーティリティが実行されるのを待ってから、ADASAV RESTORE を実行します。

ERROR-144**FILE NUMBER file-number IS ALREADY PRESENT AND CANNOT BE OVERWRITTEN**

システム対処：

ファイルリストからこのファイルを削除します。ADASAV 機能を続行します。

ERROR-145**AN EXISTING DATABASE CANNOT BE OVERWRITTEN**

説明：

出力用アソシエータ中に、すでにデータベースが存在します。

対処：

OVERWRITE パラメータを使用すると、既存のデータベースを上書きできます。

ERROR-146**ADASAV NOT PERMITTED TO RUN**

説明：

次のどれかに該当します。

- Adabas ニュークリアスがアクティブですが、プロテクションログがありません。
- セーブ操作がすでにアクティブです。

対処：

問題の原因を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-148**INVALID VALUE FOR THE 'PERDRIVE' PARAMETER**

説明：

このパラメータに指定したすべての値の総計は、このメッセージとともに表示される VOLSER テーブルのエントリ数に等しくする必要があります。

対処：

PERDRIVE パラメータを指定し直し、ジョブを再実行します。

ERROR-150

NUCLEUS RESPONSE resp-code AT THE END OF THE ONLINE SAVE OPERATION

説明：

ニュークリアスレスポンスコードの説明については、第2章を参照してください。

ニュークリアスプロテクションログ (PLOG) を正しく同期し、SAVE 実行を出力することはできません。

対処：

ADASAV SAVE ジョブを再実行します。それでも同じエラーが発生する場合は、Software AG 技術サポートにお問い合わせください。

ERROR-151

INVALID VALUE FOR THE 'BUFNO' PARAMETER

説明：

BUFNO に指定可能な最大値は 255 です。

対処：

BUFNO 値を指定し直し、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-152

PARTIAL OVERWRITE OF COUPLED FILES

説明：

ファイル file-number-a は、RESTORE 処理に選択していないファイル file-number-b とカップリングされています (実際のファイルの値はメッセージテキストに記載されています)。論理データが矛盾するので、RESTORE は実行できません。

対処：

RESTORE 機能のパラメータ入力をチェックし、エラーを修正して RESTORE ジョブを再実行します。

ERROR-153

PARTIAL OVERWRITE OF EXPANDED FILE

説明：

ファイル file-number-a は拡張ファイルの一部です。このファイルは、RESTORE 処理に選択していないファイル file-number-b にリンクされます (実際のファイルの値はメッセージテキストに記載されています)。論理データが矛盾するので、RESTORE は実行できません。

対処：

RESTORE 機能のパラメータ入力をチェックし、エラーを修正して RESTORE ジョブを再実行します。

ERROR-155

INVALID RESTORE OPERATION

説明：

次のいずれかを行おうとしました。

- 異なるシステムファイルまたは非システムファイルで Adabas システムファイルを上書きしようとした。
- 対応するシステムファイルがすでに存在するデータベースに2つ目のシステムファイルを導入しようとした。
- GCB システムファイルリストがいっぱいになったデータベースにユーザー定義システムファイルをリストアしようとした。
- チェックポイントまたはセキュリティファイルを Adabas バージョン 5 からリストアしようとした。

対処：

ファイル指定を修正し、必要に応じて、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-156

ACTIVE NUCLEUS REQUIRED

説明：

次の操作を実行するには、Adabas ニュークリアスをアクティブにする必要があります。

- セーブするファイルの複製ログ情報をチェックします。
- リストアするファイルの複製ログを消去します。

対処：

Adabas ニュークリアスを開始し、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-157

PART OF THE DATABASE NOT PHYSICALLY ALLOCATED

説明：

セーブ／リストアするブロックの一部が、物理的に割り当てられていないデータベースストレージ内に存在します。関連する物理ストレージを指定しないまま、ADADBS または Adabas Online System の increase を実行した可能性があります。

対処：

物理ストレージを割り当て、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-158

INCOMPLETE RESTORE TAPE

説明：

リストアテープ上に associator\data RABN rabn-number がありません。エンドオブファイル (EOF) が発生したか、または ADASAV が count RABN rabn-number を見つけました。必要なテープボリュームが不足しているか、またはテープが間違った順番でマウントされています。

対処：

正しいリストアテープを指定し、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-159

INCONSISTENT RESTORE TAPE

説明：

リストアテープには、要求されたデータが入っていません。テープ上のどのレコードにも、DBID dbid、セッション番号 session-id、およびタイムスタンプ ttt への参照が含まれている必要があります。DBID dbid-x、セッション番号 session-id-x、およびタイムスタンプ ttt を誤って参照するレコードが見つかりました。

対処：

正しくない参照の原因を修正し、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-160

INCONSISTENT PROTECTION LOG

説明：

Adabas プロテクションログには、予期したとおりのデータが入っていません。最後に読み込んだレコードには、DBID dbid、シリアル番号 number、およびタイムスタンプ >=ttt が含まれている必要がありました。ただし、実際は、DBID dbid-x、シリアル番号 number-x、およびタイムスタンプ ttt-x が含まれていました。

対処：

正しくない参照の原因を修正し、ADASAV ジョブを再実行します。

ERROR-161

ERROR DURING DSF PROCESSING

説明：

このメッセージは、DSF エラーメッセージの後に発行される一般的なエラーメッセージです。要求した機能を Delta Save Facility が処理しているときに、エラーが発生しました。デルタセーブによる内部レスポンスコードが表示されます。

システム対処：

機能は異常終了します。

対処：

詳細については、このメッセージに先行する DSF エラーメッセージを参照してください。

ERROR-162**PARAMETER /FUNCTION function NOT ALLOWED WITHOUT DSF**

説明：

指定したパラメータまたは機能は、Delta Save Facility がインストールされているときのみ使用できます。

システム対処：

ADASAV は、異常終了します。

対処：

DSF がインストールされている場合は、ADARUN パラメータ DSF=YES を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-163**DSF LOGGING AREA IS INSTALLED**

説明：

データベースに DSF ロギング (DLOG) エリアがインストールされていますが、ADASAV は Delta Save Facility を伴わずに起動されました。

システム対処：

ADASAV は、異常終了します。

対処：

ADARUN パラメータ DSF=YES を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-164**DRIVES > 1 NOT ALLOWED FOR DELTA MERGE**

説明：

MERGE 機能へのフルセーブ入力がないため、マージされた出力のセーブデータセットはデルタセーブまたはアンロードされた DSIM データセットになります。DRIVES パラメータは、フルセーブデータセットのマージのときにのみ許可されます。

システム対処：

マージ機能は、異常終了します。

対処：

DRIVES パラメータを削除し、ジョブを再実行します。

ERROR-165**INCOMPLETE INPUT FOR MERGING ASSO/DATA RABN num WAS NOT FOUND ON THE INPUT TAPES; END-OF-FILE OCCURRED INSTEAD**

説明：

マージ機能のセーブデータセット入力不完全です。アソシエータまたはデータストレージ RABN num を要求していましたが、エンドオブファイルが発生しました。必要なテープポ

リユームがないか、または入力テープボリュームが連結されて最終テープの前でエンドオブファイルマークに到達してしまいます。

システム対処：

マージ機能は、異常終了します。

対処：

完全な入力データセットを指定してジョブを再実行します。

ERROR-165

INCOMPLETE INPUT FOR MERGING ASSO/DATA RABN num1 WAS NOT FOUND ON THE INPUT TAPES; ADASAV FOUND ASSO/DATA RABN num2 INSTEAD.

説明：

マージ機能のセーブデータセット入力が不完全です。RABN num1 を予期していましたが、アソシエータまたはデータストレージRABN num2 が見つかりました。必要テープボリュームがないか、または入力テープのマウントの順番が間違っています。

システム対処：

マージ機能は、異常終了します。

対処：

完全な入力データセットを指定してジョブを再実行します。

ERROR-166

CONFLICTING PARAMETERS FOR RESTORE DELTA

説明：

パラメータと入力セーブデータセットの組み合わせが正しくありません。

- DELTA を伴った RESTORE GCB、RESTORE FILE、または RESTORE FMOVE に対して、DRIVES>1 を指定しないでください。
- DELTA を伴った RESTORE GCB、RESTORE FILE、または RESTORE FMOVE に対して、デルタセーブ入力データセットの連結は許可されません。

システム対処：

RESTORE DELTA 機能は異常終了します。

対処：

入力セーブデータセットの配置を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-167

RESTORE DELTA WITHOUT FULL SAVE NOT POSSIBLE

説明：

デルタリストア操作でフルセーブデータセットを省略していますが、現在のステータスのデータベースでは許可されません。次のいずれかが検出されました。

- RESTORE データベース機能ではありません。

- アソシエータをオープンできませんでした。直前の実行でフルセーブデータセットが正常にリストアされなかった可能性があります。ADAIOR エラーテキストが表示されます。
- DSF ロギング (DLOG) エリアがデータベースにインストールされていません。
- DSF ロギングが使用可能な状態にないため、操作が無効になります。
- 最後のリストア以後に、データベースが変更されています。Adabas ニュークリアスがアクティブであり、DLOG エリアが空ではありません。
- 最後のリストア以後に、データベースが変更されています。いずれかのユーティリティがメッセージに示されたファイルを変更しました。
- 最後のリストア以後に、データベースが変更されています。DLOG ヘッダーブロックが変更されています。
- 直前のリストアから除外されたファイルが、現在も除外されている必要がありますが、除外されていません。
- 除外済みと指定されたファイルが、直前のリストアから除外されませんでした。

システム対処：

DSF リストア機能は異常終了します。

対処：

デルタリストア操作にフルセーブデータセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-168

GCB EXTENTS CHANGED BETWEEN DELTA SAVES

説明：

ADADBS ADD、INCREASE、または DECREASE 機能（または Adabas Online System の同様の機能）によって、データベースレイアウトが変更されました。その後、デルタセーブデータセットが作成され、そのデータセットが現在のリストア機能への入力として使用されています。ADASAV は、デルタリストア処理の第 2 フェーズで変更された GCB を処理できません。

システム対処：

変更後の GCB をデータベースに書き込みます。次に、デルタリストア機能が異常終了します。

対処：

この問題を修正するには 2 つの方法があります。

- 入力セーブデータセットをすべてマージし、マージしたフルセーブデータセットをリストアします。
- まだリストアしていない最初のデルタセーブデータセットから開始して、フルセーブデータセットなしでデルタリストア機能を再実行します。これにより、ADASAV は以前の古い GCB イメージを避けることができます。

ERROR-169

INCOMPATIBLE RABN SIZES

説明：

x- バイトの RABN のデータベースから、y- バイトの RABN のデータベースに、1 つ以上のファイルをリストアしようとしてしました。

システム対処：

要求した機能は実行できません。

ERROR-170

MAXIMUM RECORD LENGTH TOO BIG FOR THIS DATABASE

説明：

ファイル file-number に定義した最大圧縮レコード長が大きすぎるため、WORK ブロックサイズと一致しません。

最大レコード長	=length
必要な WORK ブロックサイズ	block-size
現在の WORK ブロックサイズ	=blocksize

WORK ブロックサイズが大きいデータベースにしかファイルをリストアできません。

対処：

ファイルをリストアできるように、ADADEFNEWWORK 機能を使用してブロックサイズが大きい WORK データセットを新規に定義します。

ERROR-171

CONFLICTING ADDRESS CONVERTER DEVICE TYPES FOR FILE file-number

説明：

オンラインセーブ中にニュークリアスが割り当てたセカンダリアドレスコンバータエクステンションが、デバイスタイプの不一致のために現在のアドレスコンバータにリストアできませんでした。

対処：

このファイルに対する MAXISN パラメータを削除して RESTONL FMOVE 機能を再実行します。

ERROR-172**NEWFILES PARAMETER NOT ALLOWED FOR FILE file-number**

説明：

拡張ファイルまたは物理的にカップリングされているファイルに対してNEWFILESパラメータを指定することはできません。

対処：

NEWFILES リストから対応するファイル番号割り当てを削除し、ADASAV を再実行します。

ERROR-173**INCOMPLETE FILELIST FOR ONLINE SAVE FILES**

説明：

オンライン SAVE FILE 処理または SAVE FILE (UTYPE=EXU を使用) では、拡張ファイルチェーンの全コンポーネントファイルおよびカップリングされているファイルをすべてFILESパラメータに指定する必要があります (このメッセージの上のAdaU15メッセージを参照)。

対処：

FILES パラメータを修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-174**FILE NOT ELIGIBLE FOR RESTPLOG FUNCTION FILE file-number IS NOT IN RESTORE STATUS**

説明：

指定したファイルは、中断された RESTONL 操作にリストアされていなかったため、RESTPLOG 機能に選択することはできません。

対処：

RESTPLOG パラメータ入力を修正し、ジョブを再実行します。

ERROR-175**INVALID VALUE FOR PARAMETER 'ALLOCATION'**

説明：

有効な値は、ALLOCATION=FORCE | NOFORCE です。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-179

ADASAV DIB ENTRY LOST

説明：

SAVE 操作の始めに ADASAV が書き込んだ DIB エントリは、終了時には存在しませんでした。パラメータ IGNDIB=YES で誤って開始したニュークリアスが削除した可能性があります。ADASAV の実行中に、パラレルニュークリアスまたはユーティリティがデータベースを更新した可能性があります。セーブデータセットは矛盾している可能性があります。

対処：

エラーの原因を調査してください。修正を行ってから、ジョブを再実行します。セーブデータセットは使用しないでください。

56 ADASEL エラーメッセージ

SEL-001

UNEXPECTED END-OF-FILE ON DDKARTE

説明：

DD/KARTE データセットがエンドオブファイルに到達しましたが、まだ ADASEL はエンドオブファイルを予期していませんでした。指定した入力ステートメントが不完全である可能性があります。

対処：

『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADASEL 構文を参照してください。入力ステートメントを修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-002

SYNTAX - UNDEFINED, ILLEGAL OR INCORRECT SYNTAX POSITIONING OF A PARAMETER OR SYMBOL

説明：

<---- でマークされた入力文字列が、ADASEL 構文と一致しません。

対処：

『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADASEL 構文を参照してください。入力ステートメントを修正した後、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-003

STATEMENT TABLE OVERFLOW - INCREASE LST

説明：

SET GLOBALS パラメータ LST が指定した値は、SELECT 引数と一致する全ステートメントを格納できるだけの大きさの ADASEL 変換テーブルを定義できません。

対処：

LST 値を現在値またはデフォルト値よりも大きくした SET GLOBALS ステートメントを指定します。SET GLOBALS ステートメントは、他の ADASEL 入力ステートメントよりも先に

指定しなければなりません。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-004

SYNTAX - VALUE LENGTH EXCEEDS THE MAXIMUM FIELD DEFINITION LIMIT

説明：

<---- でマークされた入力文字列が、253 バイトを超えています。

対処：

文字列長を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-005

SYNTAX - UNEXPECTED OR MISSING QUOTE

説明：

ADASEL は、半端な単一引用符 (') を検出しました。英数字と 16 進値は、一对の単一引用符で囲む必要があります。英数字文字列内の単一引用符は、二重にする必要があります（例えば、'...don't forget...')。

対処：

すべての単一引用符が対になって指定されていることを確認し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-006

SYNTAX - A NUMERIC VALUE SPECIFIED FOR A BINARY FIELD MUST BE -2 147 483 648 < VAL < 2 147 483 647

説明：

ADASEL 検索条件中のバイナリ値は、フルワード内に収容できる 2 の補数の範囲内で指定する必要があります。指定した値はこの範囲にありません。

対処：

指定値を修正して ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-007

SYNTAX - UNEXPECTED OR MISSING TRAILING BLANK

説明：

ADASEL 構文要素間は、空白で埋める必要があります。

対処：

『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADASEL 構文を参照してください。入力ステートメントを修正した後、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-008**SYNTAX - ILLEGAL HEX DIGIT OR AN ODD NUMBER OF HEX DIGITS WERE SPECIFIED**

説明：

16 進値の桁数は偶数かつ正しい値である必要があります。

対処：

『Adabas ユーティリティマニュアル』の ADASEL 構文を参照してください。入力ステートメントを修正した後、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-009**SYNTAX - NUMERIC VALUE CONTAINED MORE THAN 29 DIGITS**

説明：

Adabas は通常、29 バイトを超えるアンパック 10 進値を許可しません。

対処：

29 以下のパック形式の数値を正しく指定し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-010**SYNTAX - ILLEGAL NUMERIC VALUE**

説明：

ADASEL 条件に指定した数値が正しくありません。

対処：

条件の指定をチェックし、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-011**VALUE TABLE OVERFLOW - INCREASE NV**

説明：

フィールド値の評価のために割り当てられた ADASEL テーブルは、十分な大きさではありません。

対処：

SET GLOBALS ステートメントパラメータ NV を使用して、より大きいテーブル値を指定します。SET GLOBALS ステートメントは、他の ADASEL 入力ステートメントよりも先に指定しなければなりません。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-012

INTERNAL LOGIC FAILURE - CONTACT YOUR LOCAL ADABAS SUPPORT REPRESENTATIVE

説明：

ADASELが入力ステートメント構文をチェックしているときに内部エラーが発生しました。

対処：

ジョブの全出力、入力ステートメントおよびダンプを記録するか保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

SEL-013

INVALID FILE NUMBER. FILE NUMBER MUST BE 0<FNR<=MAXFILES (AS SPECIFIED FOR THE DATABASE)

説明：

FILE に指定するファイル番号は、ゼロより大きく、かつ ADADEF DEFINE ユーティリティの MAXFILES パラメータに指定した値以下である必要があります。

対処：

定義したファイルが MAXFILE パラメータに従っていること、指定したファイルが存在すること、およびファイルが削除されていないことを確認します。

SEL-014

FILE TABLE OVERFLOW - INCREASE NF

説明：

ADASEL 処理で許可されているファイル数を超過しました。

対処：

SET GLOBALS ステートメントパラメータ NF を使用して、より大きいファイルテーブル値を指定します。SET GLOBALS ステートメントは、他の ADASEL 入力ステートメントよりも先に指定しなければなりません。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-015

NO FDT READ DUE TO UNAVAILABILITY VIA AN ADABAS NUCLEUS OR BECAUSE THE FILE IS NOT LOADED

説明：

ADASEL 処理では使用できないファイルを1つ以上指定しています。使用できないファイルは、Adabas ニュークリアスによってロックされているか、またはデータベースにロードされていません。

対処：

ADASEL FILE 指定を修正して問題のファイルを削除するか、または後でファイルが使用可能になったときにジョブを再実行します。

SEL-016**SYNTAX - INVALID DATE/TIME VALUE SPECIFIED**

説明：

日付／時刻の開始値および終了値の指定が正しくありません。次のフォーマットで指定する必要があります。

```
yyyymmdd/hhmmss J(yyyyddd hhmmss) X' xxxx xxxx '
```

対処：

日付／時刻の指定を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-018**SYNTAX - UNDEFINED OR ILLEGAL FIELD NAME**

説明：

指定した ADASEL フィールド名が正しくないか、または存在しません。

対処：

正しいフィールド名を指定し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-019**SYNTAX - FIELD NAME SPECIFIED IS NOT AN ELEMENTARY (name) A GROUP OR PE (periodic) - GROUP NAME IS NOT PERMITTED**

説明：

ADASEL に指定したフィールドは、エレメンタリフィールドでないか、またはピリオディックグループのインデックス値が欠如しています。マルチプルバリューグループ名、ピリオディックグループ名、スーパー、サブ、ハイパー、およびフォネティックディスクリプタフィールドは指定できません。

対処：

フィールドを正しく指定し直してから、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-020**SYNTAX - INVALID PERIODIC INDEX SPECIFIED (MUST BE 0 < PE <= 191)**

説明：

ADASEL に指定したピリオディックグループフィールドのインデックス値が正しくありません。

対処：

正しいインデックス値を指定し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-021

SYNTAX - ILLEGAL HYPHEN SPECIFIED IN AN INDEX

説明：

ピリオディックグループのフィールドまたはマルチプルバリューフィールドのオカレンスには、インデックス部分に無効なハイフンが含まれています。

対処：

指定を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-022

SYNTAX - AN INDEX IS SPECIFIED FOR A NON1-INDEXABLE FIELD NAME; I.E., NOT AN MU- OR PE-FIELD

説明：

ピリオディックグループのフィールドでもマルチプルバリューフィールドのオカレンスでもないインデックス値またはインデックス範囲を指定しました。

対処：

フィールド指定からインデックス値を削除するか、またはフィールド名を修正して、ピリオディックグループまたはマルチプルバリューのフィールドを表示します。

SEL-023

SYNTAX - MISSING OR ILLEGAL MU-INDEX

説明：

ADASEL に指定したマルチバリューフィールドのインデックス値が正しくありません。

対処：

正しいインデックス値を指定し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-024

SYNTAX - 'FROM' INDEX VALUE IS > 'TO' INDEX VALUE

説明：

ADASEL ジョブのマルチプルバリュー (MU) またはピリオディックグループ (PE) フィールドの FROM インデックス指定が TO インデックス指定よりも大きくなっています。

対処：

正しいインデックス値を指定し、ジョブを再実行します。

SEL-025**SYNTAX - FIELDS DEFINED WITH A FORMAT OF FLOAT ARE NOT PERMITTED TO BE SPECIFIED**

説明：

浮動小数点フォーマットのフィールドが ADASEL に定義されました。ADASEL 検索指数に浮動小数点フィールドを指定することはできません。

対処：

浮動小数点以外のフィールド名を使用して ADASEL 検索指数を指定し直します。

SEL-026**SYNTAX - MISSING QUOTE(S) FOR AN ALPHAMERIC VALUE**

説明：

単一引用符 ([X]'...') で囲まらずに英数字値を指定しています。

対処：

指定値を修正して ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-029**SYNTAX - ILLEGAL FROM/THRU/BUT NOT VALUE SPECIFIED; I.E., EQUAL > THRU OR BUT NOT > THRU, ETC**

説明：

指定した ADASEL 条件値範囲は正しくありません。

対処：

EQUAL、THRU、および（または）BUT NOT 値を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-030**SYNTAX - VALUE LENGTH EXCEEDS THE FIXED LENGTH DEFINED FOR THIS FIELD**

説明：

ADASEL 条件によって選択されたフィールドは固定長 (FI) オプションで定義されていますが、指定した値は FDT 定義によって許可された長さを超えています。

対処：

日付/時刻を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-031

SYNTAX - MAXIMUM NUMBER OF IF - LEVELS EXCEEDED. INCREASE NIF

説明：

ADASEL IF/THEN [ELSE] ステートメントの IF レベルのネストが許容回数を超えています。IF レベル数は、ADASEL SET GLOBALS/NIF パラメータによって制御されます。

対処：

SET GLOBALS ステートメントパラメータ NIF を使用して、より大きい IF... カウントを指定します。SET GLOBALS ステートメントは、他の ADASEL 入力ステートメントよりも先に指定しなければなりません。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-032

SYNTAX - UNMATCHED IF/ELSE STATEMENTS

説明：

ADASEL は ELSE のない IF (あるいはその逆) を検出しました。IF と ELSE 条件付きパラメータは、対で指定する必要があります。

対処：

ADASEL IF/ELSE 構文を修正して対の条件パラメータを作成し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-033

SYNTAX - UNMATCHED DO/DOEND STATEMENTS

説明：

ADASEL は対応する DOEND がない DO ステートメント (あるいはその逆) を検出しました。

対処：

ADASEL DO...DOEND 構文を修正して DO...DOEND のペアを作成し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-034

SYNTAX - DDEXPA DATASET NUMBER SPECIFIED - MUST BE 1 - 20 INCLUSIVE

説明：

ADASEL 出力データセット DD/EXPAn は、まったく番号付けされていないか、または正しく番号付けされていません。1~20 個の出力データセット (DD/EXPA1) が昇順に番号付けされて並んでいる必要があります (DD/EXPA1、DDEXPA2、...DD/EXPA20)。

対処：

DD/EXPAn ジョブ制御ステートメントを修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-035**SYNTAX - THE YEAR SPECIFIED IN THE DATE MUST BE 1980 OR LATER**

説明：

ADASEL 入力ステートメントで指定した日付の yyyy 部分は 1980 以上である必要があります。

対処：

日付/時刻を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-036**FIELD DESCRIPTION TABLE OVERFLOW - INCREASE NV**

説明：

ADASEL のフィールド評価テーブルが小さすぎます。各フィールド評価は 1 個のテーブルエントリを必要とします。これは、同じフィールドが何回評価される場合でも、多数のフィールドが評価される場合でも、各評価につき 1 個のエントリが必要です。

対処：

SET GLOBALS ステートメントパラメータ NV を使用して、より大きいフィールド評価テーブル値を指定します。SET GLOBALS ステートメントは、他の ADASEL 入力ステートメントよりも先に指定しなければなりません。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-037**AN UNDEFINED ASSO DEVICE TYPE WAS SPECIFIED. CHECK THE ADARUN DEVICE PARAMETER**

説明：

ADASEL ジョブの DD/ASSORn ジョブ制御ステートメントに正しくないか、または定義されていないアソシエータデバイスタイプを指定しています。デフォルトデバイスタイプは、ADARUN DEVICE パラメータに指定したタイプですが、アソシエータにそれ以外のデバイスタイプを指定している可能性があります。アソシエータのデバイスは、ADAREP ユーティリティレポートまたは Adabas Online System のデータベースレポートに表示されます。

対処：

DD/ASSORn ジョブ制御ステートメントを修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-038**INVALID TYPE VALUE SPECIFIED, MUST BE AI/BI/ALL**

説明：

ADASEL SELECT 指定が正しくありません。BEFORE IMAGE (BI)、AFTER IMAGE (AI)、ALL のいずれかを選択する必要があります。

対処：

SELECT 指定を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-039

INVALID FILE NUMBER SPECIFIED

説明：

ADASEL の FILE 指定に無効なファイル番号を指定しています。指定した番号のファイルには FDT がありません。

対処：

SELECT 指定を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-040

INVALID OR ILLEGAL FROM/THRU ISN VALUES SPECIFIED

説明：

ADASEL 条件に無効な EQUAL、THRU、ISN 値を指定しました。

対処：

SELECT 指定を修正し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-041

I/O ERROR ON DDKARTE

説明：

ADASEL が DD/KARTE 入力ステートメントを読み込んでいるときに I/O エラーが発生しました。

対処：

ジョブの全出力、入力ステートメントおよびダンプを記録するか保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

SEL-043

TABLE OVERFLOW - TOO MANY VALUES SPECIFIED

説明：

圧縮解除できないレコードが検出されました。

対処：

ジョブの全出力、入力ステートメントおよびダンプを記録するか保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

SEL-044

SYNTAX - INVALID OR ILLEGAL GLOBAL PARAMETER

説明：

無効な SET GLOBALS ステートメント値が検出されました。SET GLOBALS ステートメントは、ADASEL パラメータ値よりも先に指定する必要があり、ADASEL パラメータのデフォルト値に優先します。

対処：

ADASEL DD/KARTE ジョブ制御セグメントの SET GLOBALS ステートメントを修正し、ADASEL ジョブを再実行します。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-045

UNABLE TO OBTAIN SUFFICIENT MEMORY FOR PROCESSING- RERUN IN A LARGER PARTITION OR ADDRESS SPACE

説明：

ADASEL ジョブを既存のスペース内で実行できませんでした。

対処：

このニュークリアスに割り当てるスペースを大きくしてから、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-046

UNABLE TO PROCESS A DATA STORAGE RECORD DUE TO AN INVALID MU/PE - COUNT OR FIELD VALUE LENGTH

説明：

無効なマルチプルバリューフィールドカウントまたはピリオディックグループオカレンス、または定義フィールドの実際の長さとは一致しないフィールド値が検出されました。ADASEL は処理を続行できませんでした。

対処：

不一致を修正した後、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-047

PE-VALUE TABLE OVERFLOW - INCREASE LPV

説明：

ADASEL のピリオディックグループ (PE) 評価テーブルが小さすぎます。通常は、ADASEL が自動的にサイズを計算しますが、通常よりも検索条件と一致するオカレンスが多くなっている可能性があります。

対処：

SET GLOBALS ステートメントパラメータ LPV を使用して、より大きい PE フィールド評価テーブル値を指定します。SET GLOBALS ステートメントは、他の ADASEL 入力ステートメントよりも先に指定しなければなりません。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-048**DDKARTE OPEN FAILED**

説明：

ADASEL は DD/KARTE 入力ステートメントデータセットをオープンできませんでした。

対処：

DD/KARTE ステートメントが正しいこと、および使用可能な ADASEL ジョブセットアップを指定していることを確認します。次に ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-049**I/O ERROR ON DDDRUCK**

説明：

ADASEL の出力データセットを指定する DD/DRUCK ジョブ制御ステートメントが正しくないか、または使用可能でないデータセットやデバイスを指定しています。

対処：

問題を修正して ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-051**SYNTAX - IF STATEMENT NOT PERMITTED WITHIN A DO-GROUP**

説明：

DO...DOEND ストリーム内に ADASEL IF...ステートメントを指定しないでください。

対処：

IF...ステートメントを DO...DOEND ストリームの外に移動するか、どちらかを削除します。次に ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-052**SYNTAX - GLOBAL PARAMETER EXCEEDS THE MINIMUM/MAXIMUM VALUES**

説明：

無効な SET GLOBALS パラメータ値が検出されました。パラメータの許容範囲外の値である可能性があります。次に、いくつかの SET GLOBALS パラメータと許容範囲を示します。

LS :	1~132
NF :	1~20
NIF :	0~20
PS :	2~999

対処：

ADASEL DD/KARTE ジョブ制御セグメントの SET GLOBALS ステートメントを修正し、ADASEL ジョブを再実行します。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-053**I/O ERROR ENCOUNTERED ON DDSIIN**

説明：

ADASEL のシーケンシャル入力 (SIBA) ログデータセットを指定する DD/SIIN ジョブ制御ステートメントが正しくないか、または使用可能でないデータセットやデバイスを指定しています。別の原因として、ADASEL による要求とは異なり、DD/SIIN データセットが ADARESCOPY/PLCOPY 操作からのシーケンシャル出力ファイルでない可能性があります。

対処：

問題を修正して ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-054**I/O ERROR ENCOUNTERED ON DDEXPA**

説明：

ADASEL の出力データセットを指定する DD/EXPA ジョブ制御ステートメントが正しくないか、または使用可能でないデータセットやデバイスを指定しています。

対処：

問題を修正して ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-057**DECOMPRESS ERROR - PROCESSING ABORTED**

説明：

ファイルの圧縮解除中に圧縮解除できないレコードが検出されました。

対処：

ジョブの全出力、入力ステートメントおよびダンプを記録するか保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

SEL-058**FILE IS CIPHERED AND CANNOT BE AUDITED**

説明：

ADASEL はサイファファイル上で実行できません。

対処：

ファイル指定を変更して全サイファファイルを除外し、ADASEL ジョブを再実行します。

SEL-059

SYNTAX - CHANGES OPTION NOT PERMITTED WITH SELECTION OF NEW OR DELETED RECORDS

説明：

CHANGES オプションを指定する場合は、更新 (A1/4) コマンド後に比較を行うため、ビフォーイメージ (BI) とアフターイメージ (AI) の両方が必要です。BI も AI も使用可能ではありませんでした。

対処：

ADASEL 構文から CHANGES パラメータを削除します。

SEL-060

CHANGE POOL IS TOO SMALL - INCREASE NCFLD OR NCUPD AND RERUN

説明：

ADASEL ジョブの NCFLD および NCUPD SET GLOBALS パラメータのデフォルト値 10 (field-name CHANGES... ステートメント数) では小さすぎます。この2つの数を乗算すると正しい値を算出できます。

対処：

ADASEL DD/KARTE ジョブの SET GLOBALS ステートメントの NCFLD および NCUPD パラメータのどちらか一方または両方とも増加し、ADASEL ジョブを再実行します。詳細は『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

SEL-061

SYNTAX - PE/MU INDEX INCORRECTLY SPECIFIED FOR CHANGES OPTION

説明：

ADASEL ジョブの IF フィールド名 CHANGES... 条件付きステートメントに、存在しないか、または BI イメージと AI イメージのないマルチプルバリュー (MU) フィールド値またはピリオディックグループ (PE) オカレンスインデックス値を指定しています。フィールド値またはグループオカレンスが追加または削除されたために、必要なイメージが欠如した可能性があります。

対処：

この場合、IF...CHANGES... 条件付きステートメントは指定できません。ADASEL ステートメントを再定義します。

SEL-062

ERROR DURING DECOMPRESSION, INTERNAL RESPONSE= reason-code

説明：

ファイルの圧縮解除中に圧縮解除できないレコードが検出されました。reason-code が理由を示します。

4	圧縮解除された数値フィールドの値が、FDT のフィールド定義で認められている値よりも大きくなっています。この値は、圧縮解除中に切り捨てられません。
8	非圧縮レコードの長さが、出力データセットのシーケンシャルブロックサイズに対して長すぎます。

対処：

ジョブの全出力、入力ステートメントおよびダンプを記録するか保存して、Software AG 技術サポートに連絡してください。

SEL-079

WARNING SKIPPING SPANNED RECORDS

説明：

スパンドレコードが含まれているファイルに対して ADASEL ユーティリティを使用しようとした。ADASEL ユーティリティは、スパンドレコードを特定することはできないものの、処理することはできません。このため、処理の段階になるとスパンドレコードをスキップします。

ADASEL はスパンドレコードがないファイルにのみ使用してください。

SEL-133

WARNING. PLOG HAS NOT BEEN MERGED

説明：

PLOG は Adabas クラスタニュークリアスによって作成されましたが、まだ ADARESPLCOPY プロシージャでマージされていません。

対処：

ADACDC を使用してデータを抽出する前に ADARES PLCOPY 機能で PLOG をマージします。

57 ADAULD エラーメッセージ

次のメッセージグループについて説明します。

ADAULD エラー (ERROR-121～ERROR-148)

ERROR-121

CIPHER-CODE MISSING

説明：

ファイルはサイファ化されていますが、サイファコードを指定していません。

対処：

正しいサイファコードを指定し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-122

CIPHER CODE SUPPLIED, BUT FILE IS NOT CIPHERED

対処：

指定したサイファコードを削除し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-123

NO RECORDS SELECTED

説明：

指定した検索条件では、レコードが見つかりませんでした。作成されたアンロードファイルには、フィールド定義テーブル (FDT) のみが含まれています。

ERROR-124

ERROR LIMIT REACHED

説明：

error-count 個のエラーが発生しました（実際のカウントはメッセージに記載されています）。
ADAULD 実行は終了します。

ERROR-125

INVALID VALUE FOR PARAMETER 'NUMOUT'

説明：

NUMOUT には 1 または 2 を指定する必要があります。NUMOUT=2 の場合、ユーザー出口
9 をロードする必要があります。

対処：

正しいパラメータまたはユーザー出口を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-126

'SELVAL' PARAMETER MISSING

対処：

正しい選択条件を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

INVALID VALUE FOR THE PARAMETER 'LRECL' OR 'LPB'

説明：

LRECL および LPB パラメータは、32,768 より短くする必要があります。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-128

DIFFERENT RECORD LENGTHS FOR DDOUT1 AND DDOUT2

説明：

出力データセットの最大レコード長は等しくする必要があります。

対処：

正しい出力データセットを指定し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-129**INVALID 'SORTSEQ' PARAMETER parameter**

説明：

このフィールドを使用してアンロード順序を決定することはできません。これは、次のいずれかの理由によります。

- フィールドが定義されていません。
- ディスクリプタではありません。
- フィールドがフォネティックディスクリプタです。
- フィールド（またはフィールドの一部）がピリオディック（PE）グループ内のフィールドです。

対処：

別のディスクリプタを指定し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-130**DESCRIPTOR desc-name HAS option OPTION**

説明：

ディスクリプタ desc-name の順にファイルをアンロードすると、レコードが欠落する可能性があります。

対処：

それでもこのアンロード順を実行する場合には、option パラメータを指定します。それ以外の場合は、別のアンロード順序を選択します。ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-131**INVALID ETID PARAMETER**

説明：

アンロードするファイルが、マルチクライアントオプションで定義されていません。

対処：

ETID パラメータを削除し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-132**MISSING ETID PARAMETER**

説明：

アンロードするファイルが、マルチクライアントオプションで定義されています。検索条件に応じてレコードを選択するには、1つの ETID 指定が必要です。

対処：

ETID パラメータを指定し、ADAULD ジョブを再実行します。

ERROR-133

THE FILE NUMBER SUPPLIED IS A CHECKPOINT OR SECURITY FILE

説明：

チェックポイントファイルおよびセキュリティファイルをアンロードすることはできません。

対処：

正しい入力ファイルを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-134

INVALID SAVE TAPE SUPPLIED

説明：

DD/SAVE 入力データセットとして指定されたデータセットは、セーブテープではありません。

対処：

有効なセーブテープを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-135

INVALID PROTECTION LOG SUPPLIED

説明：

次のいずれかが発生しました。

- 要求されたプロテクションログは、DBID dbid1、セッション番号 plognum1 ですが、指定したプロテクションログは DBID dbid2、セッション番号 plognum2 です。
- プロテクションログブロック blocknumber に、SYN1/SYN4 チェックポイントがありません。
- プロテクションログに、SYN2/SYN5 チェックポイントがありません。
- 予期していた SYN2/SYN5 チェックポイントよりも前に、別の SYN1/SYN4 チェックポイントが検出されました。
- 指定した入力テープがプロテクションログではありません。

対処：

正しいプロテクションログおよびパラメータを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-136

TEMP DATASET TOO SMALL

説明：

中間データセットが、プロテクションログ上のファイル *file-number* に対して見つかったデータストレージブロックをすべて保持できるほど大きくありません。

対処：

サイズがより大きい中間データセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-137**THE INPUT TAPES OF A MULTIVOLUME SAVE DATASET ARE MOUNTED IN THE WRONG ORDER**

説明：

マルチボリュームデータセットのテープが、無効な順番でマウントされています。ADAULD は終了します。

対処：

テープを正しい順番で指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-138**ERROR DURING DSF PROCESSING**

説明：

Adabas Delta Save Facility がデルタセーブデータセットに対して要求された機能処理中に、エラーが発生しました。Delta Save Facility は、メッセージに表示されるレスポンスコードを返しました。

対処：

指定したレスポンスコードの情報を参照してください。エラーを修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-139**UNLOAD WITHOUT FULL SAVE NOT POSSIBLE**

説明：

デルタセーブデータセットからアンロードするのに必要なフルセーブテープを指定していません。

対処：

フルセーブデータセットを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-140**INVALID VALUE FOR THE PARAMETER CODE**

説明：

有効な値は、8桁までの数字または空白で構成されます。

対処：

有効なパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-141

NO PROTECTION LOG SUPPLIED

説明：

アンロードされたファイルはオンラインセーブ操作中に変更されましたが、プロテクションログを指定していません。アンロードされたデータは、矛盾している可能性があります。

ERROR-142

INVALID DDISN PARAMETER

説明：

SORTSEQ=ディスクリプタで、MU も指定されている場合、または SORTSEQ で指定したディスクリプタがハイパーディスクリプタの場合、DDISN パラメータを指定しないでください。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-143

THE INPUT DATASET/FILE DDEBAND OR DDISN DOES NOT HAVE THE RECORD FORMAT VARIABLE OR VARIABLE BLOCKED (V OR VB)

説明：

DD/EBAND および DD/ISN のレコードフォーマットは、V または VB である必要があります。

対処：

正しい入力を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-144

INVALID ET-ID

説明：

マルチクライアントファイルで DECOMPRESS を実行するとき、Adabas は次のどちらかを処理します。

- ET-ID が指定されていない場合はファイル全体
- ET-ID により識別されるクライアントに対して許可されたレコードの選択

ETID パラメータによって参照されるユーザー ID が定義されていないか、またはオーナー ID が割り当てられませんでした。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-145**HYPERDESCRIPTOR EXIT WAS NOT SPECIFIED IN ADARUN**

説明：

SAVETAPE からファイルをアンロードしているときに、ディスクリプタバリューテーブル (DVT) を作成できませんでした。このファイルにはハイパーディスクリプタが含まれていますが、データベースの ADARUN パラメータにハイパーディスクリプタ出口が指定されていません。

対処：

データベースに対する ADARUN パラメータに ADARUNHEXnn パラメータを指定し、ジョブを再実行します。HEXnn パラメータの詳細については、「*HEXnn* ハイパーディスクリプタユーザー出口」を参照してください。

ERROR-146**HYPERDESCRIPTOR EXIT WAS NOT SPECIFIED IN ADARUN**

説明：

SAVETAPE からのファイルのアンロード中、ディスクリプタバリューテーブル (DVT) を生成しているときにエラーが発生しました。レスポンスコードが返されます。詳細については、「*ニュークリアスレスポンスコード*」を参照してください。

対処：

エラー原因を調査し、修正した後、ジョブを再実行します。

ERROR-147**FDT PLUS IT PREFIX DO NOT FIT INOT THE OUTPUT RECORD**

説明：

出力データセットの最大レコード長が小さすぎます。

対処：

正しい出力データセットか、または最大レコード長が正しいデータセットを指定してから、ジョブを再実行します。

ERROR-148**ERROR DURING HYPEREXIT CALL A CALL TO HYPEREXIT NUMBER {nn} RESULTED IN A RESPONSE 79 WITH SUBCODE {code}**

説明：

SAVETAPE 処理中に、ハイパー出口コールがレスポンスコード 79 およびメッセージに記載されているサブコードで失敗しました。

対処：

サブコードを調査して、エラーの原因を特定してください。

ADAULD 情報メッセージ

MODE=SHORT WILL BE FORCED FOUND FIELD(S) DEFINED WITH COLDE OPTION

説明：

定義した照合ディスクリプタオプションで1つのフィールドが見つかりました。この場合、MODE=SHORT が必要です。Adabas は強制的にこのパラメータを設定しました。

対処：

対処は必要ありません。これは情報メッセージです。

58

ADAVAL エラーメッセージ

ERROR-121

INVALID DESCRIPTOR FIELD LIST FOR VALIDATE

説明：

フィールド名が次のいずれかです。

- フィールド定義テーブル (FDT) 内に存在しません。
- ディスクリプタではありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAVAL ジョブを再実行します。

ERROR-122

TEMP DATASET TOO SMALL; INPUT RECORD COUNT= count

対処：

大きい TEMP データセット／ファイルを指定します。TEMP スペースの見積りについては『Adabas ユーティリティマニュアル』を参照してください。

ERROR-124

INVALID FILE REQUESTED: FNR=file-number

説明：

Adabas チェックポイント／セキュリティファイルは ADAVAL でチェックできません。

対処：

正しいファイルリストを指定し、ADAVAL ジョブを再実行します。

ERROR-130

ERROR INITIALIZING COLLATING USER EXIT - RETURN CODE=return-code

説明：

照合ディスクリプタユーザー出口の初期化中に、エラーが発生しました。

対処：

エラー原因を調査し、修正してからジョブを再実行します。

ERROR-131

COLLATING USER EXIT NOT LOADED

説明：

要求された照合ディスクリプタユーザー出口がロードされていません。

対処：

出口をロードし、ジョブを再実行します。

59

ADAWRK エラーメッセージ

ERROR-121

INVALID VALUE FOR PARAMETER TIMEZONE. TIMEZONE MUST BE SET TO MACHINE, LOCAL, OR AN INTEGER VALUE IN THE RANGE -23 TO +23. WHEN ENTERING + OR -, ENCLOSE THE NUMBER IN SINGLE QUOTES. E.G. TIMEZONE='+5'

説明：

TIMEZONE パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-122

INVALID VALUE FOR PARAMETER CHECKPOINT. MUST BE SET TO YES, OR NO.

説明：

CHECKPOINT パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-123

INVALID VALUE FOR PARAMETER DTP. MUST BE SET TO YES, NO OR DETAIL.

説明：

DTP パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-124

INVALID VALUE FOR PARAMETER FORCE. MUST BE SET TO YES, OR NO.

説明：

FORCE パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-125

**INVALID VALUE FOR PARAMETER REPLICATION. MUST BE SET TO YES, NO OR
DETAIL.**

説明：

REPLICATION パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-126

INVALID VALUE FOR PARAMETER REPORTFILE. MUST BE SET TO YES, OR NO.

説明：

REPORTFILE パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-127

INVALID VALUE FOR PARAMETER SUMMARY. MUST BE SET TO YES, OR NO.

説明：

SUMMARY パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-128

**INVALID VALUE FOR PARAMETER TRANSACTIONS. MUST BE SET TO YES, NO OR
FULL.**

説明：

TRANSACTIONS パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しいパラメータ値を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-129

**INVALID VALUE FOR PARAMETER FILES. FILE NUMBER PROVIDED MUST BE > 0
AND < 65536.**

説明：

FILES パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

正しい範囲のファイル番号を指定し、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-130

**INVALID RANGE FOR PARAMETER FILES. WHEN FILE RANGE PROVIDED, VALUE1
< VALUE2.**

説明：

FILES パラメータに指定した値が正しくありません。

対処：

広範囲のファイル番号を指定した場合、最初の値 (VALUE1) が 2 番目の値 (VALUE2) よりも小さいことを確認してから、ADAWRK ジョブを再実行します。

ERROR-131

IOR {cccc} CALL FAILED RETURN CODE {rc}

説明：

内部コールが失敗しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-132

**CANNOT IDENTIFY WORK DATASETS AS NO WORK DATASETS WERE PROVIDED
IN THE JCL AND NOPPT WAS SPECIFIED**

説明：

ADAWRK は WORK データセットを見つけることができませんでした。

対処：

WORK データセット用のステートメントを JCL に含めるか、または NOPPT パラメータを削除します。

ERROR-133

TIMESTAMP MISMATCH ON WORK DATASET

説明：

ADAWRK は、提供された WORK データセットで矛盾したタイムスタンプを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-134

WORK DATASET {dsn} HAS WRAPPED

説明：

ADAWRK は、WORK データセットがラップされ、古いプロテクションデータが上書きされていることを検出しました。WORK データセット名 (*dsn*) がメッセージに記載されています。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-135

WHILE PROCESSING A NON CLUSTER WORK, A CLUSTER NUCLEUS WORK BLOCK WAS FOUND

説明：

非クラスタニュークリアスから WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はクラスタニュークリアスから作成された WORK ブロックを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-136

WHILE PROCESSING A CLUSTER WORK DATASET, A NON CLUSTER NUCLEUS WORK BLOCK WAS FOUND

説明：

クラスタニュークリアスから WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK は非クラスタニュークリアスから作成された WORK ブロックを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-137**WORK BLOCK SIZE VALUE LONGER THAN WORK BLOCK SIZE**

説明：

WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はサイズインジケータがブロックサイズよりも大きい WORK ブロックを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-138**INVALID VERSION IN WORK BLOCK**

説明：

WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はバージョン番号がサポートされていない WORK ブロックを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-139**INVALID DATABASE ID IN WORK BLOCK**

説明：

WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はデータベース ID が異なる WORK ブロックを検出しました。

対処：

ADAWRK に渡すワークファイルが混在していないことを確認してください。

ERROR-140**INVALID TIMESTAMP IN WORK BLOCK**

説明：

WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はタイムスタンプが正しくない WORK ブロックを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-141**INVALID HSI RECORD IN WORK BLOCK**

説明：

WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK は HSI レコードが正しくない WORK ブロックを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-142

CLUSTER NUCLEUS WORK DATASET TIME STAMPS DID NOT OCCUR IN CHRONOLOGICAL ORDER

説明：

クラスタ WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK は正しい順序で指定されていないタイムスタンプを検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-143

RECOVERY DATA FOUND ON PROVIDED WORK DATASETS

説明：

指定された WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はリカバリデータを検出できませんでした。

対処：

ADAWRK に渡すワークファイルが混在していないことを確認してください。

ERROR-144

PARAMETER DTP IS NOT CURRENTLY SUPPORTED

説明：

DTP パラメータはまだサポートされていません。

対処：

パラメータを削除し、ジョブを再実行します。

ERROR-145

PARAMETER REPLICATION IS NOT CURRENTLY SUPPORTED

説明：

REPLICATION パラメータはまだサポートされていません。

対処：

パラメータを削除し、ジョブを再実行します。

ERROR-146

INVALID NUCLEUS ID IN WORK BLOCK

説明：

WORK データセットを処理しているときに、無効なニュークリアス ID が検出されました。

対処：

ADAWRK に渡すワークファイルが混在していないことを確認してください。

ERROR-147**USERID CANNOT EXCEED 8 BYTES**

説明：

トランザクションの選択に使用するユーザーIDを指定したとき、8バイトを超えるユーザーIDを指定しました。

対処：

ユーザーIDを修正し、ジョブを再度サブミットします。

ERROR-148**MISSING WORK DATASET ENTRY IN PPT BLOCK**

説明：

指定したアソシエータデータセットのPPTブロックを処理しているときに、エントリの欠如が検出されました。

対処：

Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-149**DYNAMIC ALLOCATION/OPEN WORK FAILED**

説明：

WORK データセットを動的に割り当てるか、またはオープンしようとしたときに、エラーが発生しました。

対処：

エラーの原因を調査してください。Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-150**INSUFFICIENT WORKPOOL SPACE FOR BUFFERS**

説明：

ADAWRK の実行中、ワークプールのスペースが不足しました。

対処：

JCLをチェックし、リージョンサイズを増やし、ジョブを再度サブミットします。問題が持続する場合は Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-151**I/O ERROR READING A WORK DATASET**

説明：

ADAWRK が WORK データセットを読み込んでいるときに I/O エラーが発生しました。

対処：

このメッセージに付加されている追加のエラーメッセージを確認し、問題を解消してください。次にジョブを再実行してください。

ERROR-152

I/O ERROR READING PPT

説明：

ADAWRK が PPT を読み込んでいるときに I/O エラーが発生しました。

対処：

このメッセージに付加されている追加のエラーメッセージを確認し、問題を解消してください。次にジョブを再実行してください。

ERROR-153

INCONSISTENT WORK DATASETS PROVIDED

説明：

ADAWRK は、提供された WORK データセットで矛盾を検出しました。

対処：

このメッセージの詳細については、Software AG 技術サポートに連絡してください。

ERROR-154

PARAMETER LWP MUST BE SPECIFIED IN KB, E.G LWP=512K

説明：

LWP パラメータに指定する値は、KB 単位で指定する必要があります。

対処：

LWP の値を KB 単位で指定し、再試行します。

ERROR-155

PARAMETER LWP ERROR : MUST BE BETWEEN 100K AND 1048576K

説明：

LWP パラメータに指定した値は正しい範囲にありません。

対処：

正しい範囲で LWP の値を指定し、再試行します。

ERROR-156

PARAMETER ERROR(S) DETECTED

説明：

このメッセージは、パラメータ処理でエラーが検出されると表示されます。

対処：

これに先立って、どのパラメータでエラーが発生しているかを示すメッセージが発行されています。問題を解決するには、これらのエラーメッセージを参照してください。再試行してください。

ERROR-157

**NO SPACE IN WORK POOL TO SATISFY REQUEST
PLEASE REVIEW THE SETTING OF THE LWP PARAMETER.**

説明：

内部 ADAWRK ストレージ要求が失敗しました。

対処：

ADAWRKLWP（ワークプールの長さ）パラメータの設定値を増やすことを検討してください。それでも問題が解決しない場合は、Software AG 技術サポートにお問い合わせください。

ERROR-158

**ALL WORK DATASETS FOR NUCLEI REFERRED TO IN WORK-PART-1 DATA NOT
PROVIDED.**

説明：

クラスタニュークリアスを参照している WORK パート 1 データでレコードが検出されましたが、JCL には ADAWRK への入力として他のニュークリアスの WORK データセットが指定されていません。矛盾した ADAWRK 出力が発生する可能性があります

対処：

クラスタを構成する各ニュークリアスの WORK データセットをすべて ADAWRK への入力として含めます。再試行してください。

ERROR-159

**INVALID VALUE FOR PARAMETER FILES. FILE NUMBER SPECIFIED MORE THAN
ONCE.**

説明：

ADAWRK FILES パラメータに同じファイル番号が複数回指定されています。これは無効です。

対処：

パラメータを修正し、再試行します。

WARN-001

**A TIMESTAMP WAS ENCOUNTERED READING THE WORK DATASETS INDICATING
THAT ADAWRK IS RUNNING AGAINST A RUNNING ADABAS NUCLEUS. ADAWRK
WILL CONTINUE.**

説明：

ADAWRK は、読み込み中の WORK データセットがアクティブなデータベースで使用されていることを検出しました。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

WARN-002

FLUSH POINT VALUES NOT ESTABLISHED

説明：

指定された WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はフラッシュ位置を特定できませんでした。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

WARN-003

END OF BUFFER FLUSH VALUES NOT ESTABLISHED

説明：

指定された WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はバッファフラッシュ終了位置を特定できませんでした。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

WARN-004

START OF BUFFER FLUSH VALUES NOT ESTABLISHED

説明：

指定された WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK はバッファフラッシュ開始位置を特定できませんでした。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

WARN-005

BACKWARD REPAIR POINT VALUES NOT ESTABLISHED

説明：

指定された WORK データセットを処理しているときに、ADAWRK は逆方向修復位置を特定できませんでした。

対処：

この情報メッセージに対処は必要ありません。

WARN-006

WORK DATASET {dsn} FOUND IN PPT BUT NOT PROVIDED TO ADAWRK.

説明：

PPT は、JCL に ADAWRK への入力として指定されていない WORK データセットを参照しています。データセットを誤って省略した可能性があります。矛盾した ADAWRK 出力が発生する可能性があります

対処：

データセットが意図的に実行から除外されていない場合、関連するデータセットを ADAWRK の入力として組み込んでください。再試行してください。

WARN-007

WORK DATASET {dsn} NOT FOUND IN PPT BUT PROVIDED TO ADAWRK

説明：

PPT は、JCL に ADAWRK への入力として指定された WORK データセットを参照していません。データセットを誤って含めた可能性があります。矛盾した ADAWRK 出力が発生する可能性があります

対処：

実行したときにデータセットを意図的に除外した場合は、ADAWRK への入力として関連するデータセットを削除します。再試行してください。

WARN-008

WORK DATASET FOR NUCLEUS THAT TRIGGERED THE LAST BUFFER FLUSH NOT PROVIDED

説明：

最後のバッファフラッシュをトリガしたニュークリアスの WORK データセットが、JCL に ADAWRK への入力として指定されていません。矛盾した ADAWRK 出力が発生する可能性があります

対処：

データセットが意図的に実行から除外されていない場合、関連するデータセットを ADAWRK の入力として組み込んでください。再試行してください。

60 ADAZAP エラーメッセージ

ERROR-121 INCORRECT MASTERCODE SUPPLIED

説明：

MCODE パラメータに指定した 8 バイトのマスタコードが正しくありません。

対処：

正しいマスタコードを指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-122 ADABAS ACTIVE, ADAZAP NOT PERMITTED TO RUN

説明：

ADAZAP は、関連する Adabas ニュークリアスが停止している場合にのみ動作します。

対処：

ニュークリアスをシャットダウンし、ジョブを再実行します。

ERROR-123 VER-STRING IS SHORTER THAN REP-STRING

説明：

VER で指定した文字列の長さが、REP で指定した文字列よりも短くなっています。

対処：

VER の長さを最低でも REP と同じ長さに指定します。

ERROR-124

VER AND LENGTH ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明：

VER パラメータと LENGTH パラメータを同時に指定することはできません。

対処：

VER と LENGTH のどちらか一方のみを指定し、両方は指定しないでください。

ERROR-125

OFFSET IS BIGGER THAN BLOCKLENGTH

説明：

指定した OFFSET 値がブロック長を超えています。

対処：

ブロック内に収まるように、OFFSET 値を小さくします。

ERROR-126

VERIFY NOT MATCHED, STRING WAS: {string}

説明：

指定した VER 値が一致しませんでした。

対処：

正しい VER 値を指定し、ジョブを再実行します。

ERROR-127

{offset} PLUS {length-of-verification} EXCEEDS BLOCK LENGTH

説明：

offset と *length-of-verification* 文字列を加算した値が、変更対象の RABN の最大ブロックサイズを超えています。

対処：

VER 値をチェックし、ブロック内に完全に収まるオフセットと文字列を指定します。

WARNING-128

END OF BLOCK REACHED

説明：

リスト機能の実行中、指定したオフセットと長さの合計がブロックサイズを超えました。

対処：

この警告メッセージに対処する必要はありません。

61 ユーザーアベンドコード

このchapterで述べられているアベンド 10 進コード（異常終了コード）は、ADAIInn や ADARUN、またユーティリティメッセージのいくつかで出力されます。ADAM99 のメッセージでは、システムおよびニュークリアス STAE アベンドコードを 16 進で表示しています。ユーザーアベンドの場合はニュークリアスアベンドコードを 10 進に変換してから、メッセージの記述内容を確認する必要があります。

ほとんどのアベンドコード（20を除く）は、通常、Adabas技術サポートの援助を必要とするエラーです。アベンドコード 23 または 24 が発生した場合は、WORK データセットを保存してください。すべてのアベンドコードについて、出力されたダンプをすべて保存し、システムから発行されたメッセージなどの情報などを記録しておきます。、Adabas技術サポートにエラーについて問い合わせます。

コード	モジュール	説明
15	(ニュークリアス)	ワークプールが小さすぎてセッション自動再スタートを実行できません。
16	(ニュークリアス)	DTP=RM：2 フェーズコミット論理エラー。
17	(ニュークリアス)	DTP=RM：WORK パート 4 のオーバーフロー。
19	(ニュークリアス)	DTP=RM：2 フェーズコミット論理エラー。
20	(ニュークリアス)	システム起動時のエラー。（第 2 章「ニュークリアス開始時のエラーメッセージ」を参照）。
21	(ニュークリアス)	非同期バッファフラッシュ中の I/O エラー（ASSO/DATA/WORK/PLOG）。
22	(ニュークリアス)	シーケンシャル PLOG 上での I/O エラー、PLOGRQ=YES が指定されています。
23	(ニュークリアス)	ワークオーバーフロー。
24	(ニュークリアス)	自動再スタートがキャンセルされました。プロテクションエリアが矛盾しています。

ユーザーアベンドコード

コード	モジュール	説明
25	(ニュークリアス)	論理 I/O エラー：Adabas は 1 つ以上の I/O オペレーションを追跡できませんでした。
26	(ニュークリアス)	Adabas セッションがオペレータコマンドによりキャンセルされました。
27	(ニュークリアス)	ワークプールスペースの問題によりセッションが終了しました。
28	(ニュークリアス)	非同期のバッファフラッシュ中のニュークリアスの問題。
29	(ニュークリアス)	Adabas Transaction Manager (ATM) インターフェイスエラー。
30	(ニュークリアス)	Adabas Transaction Manager (ATM) インターフェイスエラー。
31	(ニュークリアス)	アクティブなコマンドのためだけのワークプールスペース不足。
33	(ニュークリアス)	ファイル番号の妥当性検査中の論理エラー。
33	ADARAC	リカバリエイドの論理エラー
34	ユーティリティ	異常終了。ダンプが出力されます。
35	ユーティリティ	異常終了。ダンプは出力されません。
36	ユーティリティ	DDDRUCK または DDPRINT への書き込み中に I/O エラーが発生しました。JCL をチェックします。
37	(ニュークリアス)	ET ポスト論理エラー。
38	(ニュークリアス)	内部コマンドに対する予期しないレスポンスコード。
39	(ニュークリアス)	非同期のバッファフラッシュ時に致命的な内部レスポンスコードが発生しました。
40	(ニュークリアス)	前のセッション開始時の GETMAIN 障害。
40	ADACOM	ADACOM 処理中の致命的なエラー (クラスタ環境)。
41	ADADSFN	Delta Save Facility 処理中の致命的なエラー。
42	(ニュークリアス)	開始時に ADAESI またはセキュリティ違反が発生しました。
43	(ニュークリアス)	コマンド選択の論理エラー (フリーズテーブル)。
44	(ニュークリアス)	FST 書き込みまたはオンラインプロセスの論理エラー。
45	(ニュークリアス)	ボリューム単位の非同期バッファフラッシュの論理エラー (ASYTVS=YES)。
46	(ニュークリアス)	バッファプールマネージャの論理エラー。
47	(ニュークリアス)	スレッド管理の論理エラー。
48	(ニュークリアス)	ADANCX の論理エラー (クラスタ環境)。
49	(ニュークリアス)	一般的な内部エラー (各種の原因)。
50	(ニュークリアス)	SRB コードの論理エラー (Adabas Cluster Services)。
51	(ニュークリアス)	ダイナミック WORK アクセスの論理エラー。
52	(ニュークリアス)	STCK クロックが実行していません。
53	(ニュークリアス)	グローバル HQE ロック処理の論理エラー。
54	(ニュークリアス)	グローバルファイルのロック処理の論理エラー。
55	ADACLU	ADACLU 処理中に致命的なエラー (クラスタ環境)。

コード	モジュール	説明
56	(ニュークリアス)	ET 同期処理の論理エラー。
57	(ニュークリアス)	オンラインリカバリ中の予期しないエラー。
58	(ニュークリアス)	プロテクションレコード記帳のエラー。
59	(ニュークリアス)	ラージオブジェクト (LB) の処理中の論理エラー。
70	(ニュークリアス)	Parallel Services ニュークリアスがピアニュークリアスによってキャンセルされました。
82	(ニュークリアス)	ファイルアクティビティ記帳の論理エラー。
83	(ニュークリアス)	拡張 MU/PE 処理中の論理エラー。
84	(ニュークリアス)	スパンドレコード処理中の論理エラー。
85	(ニュークリアス)	スパンドレコードの読み取りロック処理中の論理エラー。
86	(ニュークリアス)	Adabas Fastpath のマルチフェッチ処理中の論理エラー。
87	(ニュークリアス)	複数バッファの論理エラー
89	(ニュークリアス)	グローバル更新コマンド同期中の論理エラー。
108	ADATRA	トレースモジュールのロードおよびインストールの失敗。
221	MPMVSE	オペレーティングシステムが無効です。
222	MPMVSE	機能が正しくありません。
223	MPMCMS	STAE が正しく実行されませんでした。
225	MPMCMS	機能が正しくありません。
226	MPMCMS	FORCE またはアクティブターゲットが無効です。
227	MPMBS2	誤った ADARER モジュールが見つかりました。
228	MPMBS2	STXIT が正常にインストールされていません。
229	MPMBS2	機能が正しくありません。
230	MPMBS2	ルーター 40 コール元が無効です。ルーター 40 コールは、共通のメモリで ID テーブルのエントリを変更するために使用されます。変更が行われる前にコール元の権限がチェックされます。別の Entire Net-Work が FORCE=YES オプション指定で開始された場合、このタスクは、ルーター 40 コールの発行先ではなくなり、アベンドした可能性があります。
231	MPMBS2	コール元が正しいターゲットではありません。
232	MPMBS2	IDT が無効です。
233	MPMBS2	Adabas は BOURSE WAIT でキャンセルされました (ADAM82 メッセージの説明 を参照)。
234	MPMBS2	IDT のエンキューに失敗しました (BS2000)。
235	ADAMP2	MPM クライアントテーブル UTAB のメモリを取得できません (BS2000)。
247	MPMMVS	STAE が正しく実行されませんでした。
248	MPMMVS または MPMF4	無効なオペレーティングシステムまたは RMODE。MPMF4 の場合、無効なオペレーティングシステムまたは RMODE、または CID GETMAIN が失敗しました。オペレーティングシステムチェックは、

ユーザーアベンドコード

コード	モジュール	説明
		既知のオペレーティングシステムを認識できませんでした。既知のシステムは z/OS です。 z/OS の場合：ニュークリアスが AMODE 31 を実行している場合は、ADALNK 以外の、最小限 1 つの Adabas モジュールに対して、RMODE 24 がセットされていません。
249	MPMMVS	機能が正しくありません。
252	IORSUB	Adabas サブタスクのアベンド。 ADAM90 メッセージの説明 を参照してください。
253	MPMIND	回復不能なアベンド (STAE/STXIT 処理プログラムチェックまたはニュークリアスアベンドによる)。 ADAM99 メッセージの説明 を参照してください。
255	MPMIND	機能が正しくありません。
257	MPMVSE	FREEVIS からの 24 コールのリターンコード
435	ADASIP	指定されたサブシステム名はすでに別の Adabas SVC によって使われています。別のサブシステム名を選んで、ジョブを再実行してください。
436	ADASIP	オプションテーブルの置き換えに対する IDT が正しくありません。
437	ADASIP	オプションテーブルの置き換えに対する SSCT がありません。
438	ADASIP	ADAESI オプションテーブルに誤りがあります。
439	ADASIP	ADAESI オプションテーブルのロードエラー。
440	IORCMS	16MB を超えてプログラムをロードしました (RMODE=ANY) 。
441	IORCMS	オペレーティングシステムのバージョンが正しくありません。 z/VM ではありません。
457	LDICMS	内部コントロールブロックが見つかりません。
458	LNKCMS	この機能はサポートされていません。
459	LNKCMS	UB が正しくありません。
460	LNKCMS	ユーザー情報の長さが正しくありません。ゼロより小さいか、ZAP で変更されています。
461	LNKCMS	コール前にユーザー出口がユーザー情報の長さを拡張しました。
462	LDICMS	ラインドライバにエラーが発生しました。
463	LDICMS	IDT 管理マシンがログオフされました。
464	LDICMS	40 コール元が正しくありません。
465	LDICMS	00 コールパラメータが正しくありません。
466	LDICMS	機能が正しくありません。
468	IORCMS	出力テープファイルはプロテクトされています。
469	SIPMVS	ADASIP CDE が見つかりません。
470	SIPMVS	SVCMVS ロードエラー。
471	SIPMVS	SVCMVS が正しくありません。
472	SIPMVS	SSCT が消えました。
473	SIPMVS	ADASIR でゼロ以外のリターンコードが返りました。

コード	モジュール	説明
474	SIPMVS	SVC テーブルエントリが変更されました。
475	SIPMVS	SSCT がすでに存在します。
476	SIPMVS	GETMAIN エラー。
477	SIPMVS	ADASIR が正しくありません。
478	SIPMVS	ADASIR ロードエラー。
479	SIPMVS	ADASIR または ADASVC が ADASIP ジョブで指定されたロードライブラリにありませんでした。
480	SIPMVS	オープンエラー。
481	SIPMVS	EXEC PARM エラー。
482	SIPMVS	SIPMVS が認可されていません。
483	SIPMVS	RMODE または AMODE が 24 ではありません。
484	SIPMVS	オペレーティングシステムが無効です。
485	LNKBTO	この機能はサポートされていません。
486	SVCMVS	PCR04 コールが正しくありません。
487	SVCMVS	コール元は不明または無効なターゲットを指定しました。これは、すでにアクティブになっているターゲットを FORCE=YES を使用して再スタートしたことにより発生した可能性があります。
488	SVCMVS	PCR16 コールが正しくありません。
489	SVCMVS	48 コールパラメータが正しくありません。
490	SVCMVS	40 コール元が正しくありません。
491	SVCMVS	SVC 16 コールではなく SVC 12 コールが必要です。
493	SVCMVS	00 コールパラメータが正しくありません。
494	SVCMVS	コール元が認可されていません。
496	SVCMVS	IDT がありません。
497	SVCMVS	機能が正しくありません。
498	LNKBTO	UB が正しくありません。
499	LNKBTO	USER INFO の長さが 0 未満です。
500	LNKBTO	リンク初期化ルーチン内でエラーが起きました。
501	LNKBTO	ルーターバージョンが正しくありません。
502	LNKBTO	コール前にユーザー出口がユーザー情報の長さを拡張しました。
503	IORCMS	EVENTS エラー。
509	IOROS	DEB エラー。
510	SSFENV	SSF 初期化エラー。
515	IORIND	GTALNK エラー。
516	IORIND	RWINT エラー。
539	IORSUB	FVSE エラー。
540	IORSUB	FVST エラー。

ユーザーアベンドコード

コード	モジュール	説明
545	IOROS	BCP ストレージエラー。
546	IORCMS	ADECB エラー。
547	IOROS	z/OS のシステムではありません。または、z/OS で RMODE が 24 ではありません。または、z/OS で AMODE 31 が使用できません。
548	IOROS	BCP エラー。
549	IOROS	DLECB エラー。
550	IOROS	QEDIT (ブロック) エラー。
551	IOROS	CHKIO エラー。
553	IORCMS	要求されたファイルがテープ上にありません。
554	IORCMS	EOF/EOV ラベル中にあるブロックカウントが I/O カウントと一致しません。
555	IORCMS	マウント中、またはラベル処理中に、テープの I/O エラーが発生しました。
556	IORCMS	仮想コンソールではありません。
557	IORCMS	DLECB エラー。
558	IORCMS	CHKIO エラー。
559	IOROS	SVC のバージョンが正しくありません。
560	IOROS	最大ブロック数/トラックが定義された最小値より大きい。I/O エラー。グローバルシーケンシャルブロックサイズが大きすぎます。ECBS の数が正しくありません。
561	IOROS	EVENTS エラー。
563	IORBS2	ADAIOR 初期化中に無効な TDCE が検出されました。
564	IORBS2	EVENT NAME を有効にしようとしたが、ADAIOR または AT のロードが失敗しました。
565	IORBS2	ECB リストがオーバーフローしました。
566	IORBS2	無効な SOLSIG リターンコード。
567	IORBS2	DDSCAN エラー。
568	IORBS2	BCP エラー。
569	IORBS2	WTOR エラー。
570	IORBS2	CHKIO エラー。
571	IORBS2	ECB タイプが正しくありません。
573	ADAIOS	オペレータコマンドインターフェイスを設定するときに致命的なエラーが発生しました (BS2000)
575	USRCMS	ADARUN ニュークリアス拡張が検出されませんでした。
576	USRCMS	データエリアのストレージが十分ではありません。
577	LNKCX	コール前にユーザー出口がユーザー情報の長さを拡張しました。
578	IORVSE	CHKIO エラー。
579	LNKCX	リンク初期化ルーチン内でエラーが起きました。

コード	モジュール	説明
580	LNKCX	ユーザー情報の長さが0未満です。
581	LNKCX	ルーターバージョンが正しくありません。
582	LNKCX	UB が正しくありません。
583	IOROS	QEDIT (CIBCTR) エラー。
584	LNKCX	この機能はサポートされていません。
586	MGACX	ADAMAI エラー。
587	MGABTO	LOAD エラー。
588	MGABTO	ADAMAI エラー。
589	MGACX	LOAD エラー。
590	IORCMS	最大ブロック/トラックが最小値より大きい、I/O エラー。
591	IORVSE	EVENTS エラー。
592	IORVSE	GETDVS エラー。
593	IORVSE	IVST エラー。
594	USRBTO	RMODE が正しくありません。
595	IORVSE	EXTRACT エラー。
596	IORVSE	GETLBL エラー。
597	IORVSE	TOPMSG エラー。
598	IOROS	ADECB エラー。
599	IORVSE	ADECB エラー。
600	IORVSE	DLECB エラー。
601	IORVSE	SUBSID エラー、バージョンが正しくないか、または ADAIOI がロードできません。
602	IORVSE	CKTDC エラー。
604	IORVSE	GETTVS エラー。
605	IORVSE	プリンタデバイスが正しくありません。
606	LNKBS2	この機能はサポートされていません。
607	LNKBS2	UB が正しくありません。
608	LNKBS2	ユーザー情報の長さが0より短いです。
609	LNKBS2	ルーターバージョンが正しくありません。
610	LNKBS2	コール前にユーザー出口がユーザー情報の長さを拡張しました。
611	LNKBS2	WAIT エラー。
612	RERBS2	IDT (ID テーブル) がありません。
613	RERBS2	機能が正しくありません。
614	SVCVSE	コール元からコールされた機能が正しくありません。
615	SVCVSE	IDT (ID テーブル) がありません。
616	SVCVSE	00 コールパラメータが正しくありません。

ユーザーアベンドコード

コード	モジュール	説明
617	SVCVSE	40 コール元が正しくありません。
618	SVCVSE	コール元は不明または無効なターゲットを指定しました。これは、すでにアクティブになっているターゲットを FORCE=YES を使用して再スタートしたことにより発生した可能性があります。
619	IORMVS	VSAMファイルのオープン中にエラーが発生しました。第1章の z/OS の ADAI68 メッセージの説明を参照してください。
620	IORIND	IOR の致命的なエラー。
621	IORIND	PLOG サイズオルタネーションエラー。最後の起動で PLOG サイズ (DUALPLS または PLOGSIZE) が変更されましたが、PLOG データはまだ PLOG 内に存在します。ADARES の PLCOPY 機能を実行して、データを保存してからニュークリアスを再スタートします。
622	LNKxx	UB 内の SAVE エリアが正しくありません (UEXITB または LUEXIT1)。Adabas リンクルーチン内の SAVE エリア (USERSAV) は、72 バイト未満でした。その後ユーザー出口 1/2 (Adabas 7 では A/B) が発行されました。
628	ADAIOS	GETMAIN エラー。
629	IORVSE	ADAOPTDが見つかりませんでした。または、ストレージ内にロードできませんでした。
630	IORVSE	ADAOPTD をロードできません。
631	IORVSE	シーケンシャルファイルテーブル用の GETVIS が失敗しました。
632	IORVSE	シーケンシャルファイルテーブル内に余分なスロットがありません。
633	IORVSE	内部エラーファイル名が検出されませんでした。
636	LNCSTUB	タスクに対して TWA が有効ではありません。または TWA の長さが 24 バイト未満です。ADDRESS TWA または ASSIGN TWALENG コマンドが有効な TWA アドレスおよび長さを指定しているかを確認するために CEDF でタスクの実行をチェックしてください。
637	LNCSTUB	CICS GETMAIN に失敗しました。CEDF を使用して、失敗している要求および失敗の性質を特定します。必要に応じて Software AG 技術サポートに連絡してください。
639	LNKOLSC	CICS GETMAIN に失敗しました。CEDF を使用して、失敗している要求および失敗の性質を特定します。必要に応じて Software AG 技術サポートに連絡してください。
640	LNKBS2	ルーター (ADARER) は、UB アドレスが XS だったとき、Adabas 5.2.5 レベル以下の Adabas ニュークリアスにコールを発行した Adabas 5.2.6 レベル以上の ADALINK を検出しました。ADALINK モジュールは 16 メガバイト制限より下に固定すべきです。
640	ADALINK	LNK アンカーブロックのメモリが不足しています (BS2000)
641	LNKBS2	SM6 ADALINK は 5.2.5 レベル以下のルーターを検出しました。ID テーブルは、レベル 5.2.6 以上の Adabas ニュークリアスで初期化しなければなりません。

コード	モジュール	説明
642	LNKBS2	ADALINK はパラメータファイルを読みませんでした。ファイルが空か、または ISAM ファイルの可能性があります。EDT で作成した SAM/V データセットを使用してください。
643	LNKBS2	ADALINKはそのパラメータに構文エラーを検出しました。構文を修正して、再実行してください。
645	ADALNC	CICSマクロレベルインターフェイスは、CICS/ESA 3.2以上ではサポートされていません。
646	ADAIOR	BS2000：SYSDTA データセットを読み取れません。ADAI56 メッセージの説明を参照してください。
650	SVCMVS	SVC は IDT (ID テーブル) と一致しません。
654	ADALINK	ADALNK：サポートされていないオペレーティングシステムのバージョン、またはサポートされていない HSI。Adabasバージョン 6.1以上は、BS2000バージョン 10以上およびXS31ハードウェアを必要とします。
655	ADALINK	ADALNKおよびADAL2Pの非互換バージョン。ライブラリ割り当てをチェックしてください。また、TSOSLNK/BINDER プロトコルもチェックしてください。 ADAK09 メッセージ を参照してください。
657	ADALINK	DBID/SVC ルーティングテーブルをロードできませんでした。このテーブルはデータベースIDによるAdabasSVCルーティングのサポートに必要です。LGBLSET マクロのDBSVCTN キーワード（リンクルーチンのリンクグローバルテーブルの準備に使用されます）で正しいDBID/SVCルーティングテーブルロードモジュール名が指定されていることを確認してください。また、DBID/SVCルーティングテーブルロードモジュールが、ライブラリの検索チェーンに連結されたライブラリに存在し、リンクルーチンを実行したときに見つかることを確認してください。
658	ADALINK	LNKUES モジュールは ADALNK に有効ではありません。
659	SVCMVS	PC ルーチンが無効なコール元からコールされました。
660	ATMCXRMI	CICSは単一フェーズコミットを実行するようにATMに指示しましたが、試行されたコミットの結果を確定できませんでした。Adabas Transaction Manager のオンラインサービスを使用して、トランザクションのステータスをチェックしてください。
661	SVCMVS	名前/トークンサービスのエラー。
664	SVCMVS	SVC はインストールプログラムと互換性がありません。
665	SVCMVS	SVC コール元が無効です。
666	SVCMVS	AllocAB 割り当て解除の長さが無効です。
667	SVCMVS	必要な CPU 命令セットの機能が見つかりません。IBM ArchLvl 1 命令セットが必要です。
668	ATMCXRMI	同期地点オペレーションがAdabasコマンドにより実行されましたが、ユーザーのコミュニケーションIDが認識されませんでした。
669	SVCMVS	S64 リカバリルーチンマネージャのエラー。

ユーザーアベンドコード

コード	モジュール	説明
670	リンクルーチン	Adabas タスク関連ユーザー出口 (TRUE) グローバルワークエリアを取得するために使用した CICS EXTRACT コマンドに失敗しました。Adabas 8 または拡張 Adabas 7 CICS 環境が正しく設定されていません。 原因を特定するには、Adabas 7 を実行している場合は ADAENAB から、Adabas 8 を実行している場合は ADACIC0 から発行される Adabas TRUE の起動に関連するメッセージを調べてください。
672	SVCMVS	IDT 拡張が指定されていません。正しくない可能性があるバージョンの ADASIR が表示されています。
673	SVCMVS	PCRCLU コール元が無効です。
674	リンクルーチン	ACBXを使用したバージョン8のコールが行われましたが、リンクルーチンは Adabas 8 パラメータリストのダイレクトコール (APLXRTOK フィールド) に有効なリエントランシートークンを検できませんでした。
676	リンクルーチン	ダイレクトコール (APLXの APLXRTOK フィールド) の Adabas 8 リンクルーチンに渡されたワークエリアが無効だったか、ワークエリアのストレージの取得に失敗しました。
678	リンクルーチン	Adabas 8 リンクルーチンは、リンクグローバルテーブルのアドレスを検出できませんでした。これは、Adabas 8 リンクルーチンにリンクされていなかったか、リンクグローバルテーブルのロードに失敗したためです。

索引

A

- ADAACK ユーティリティ
メッセージ, 477
リターンコード, 443
- Adabas Caching Facility
メッセージ, 261
- Adabas Delta Save Facility
メッセージ, 265
- Adabas Review
ハブから受け取るメッセージ, 153
- ADACDC ユーティリティ
メッセージ, 483
- ADACLU
メッセージ, 323
- ADACM*
メッセージ, 77
- ADACMP ユーティリティ
メッセージ, 489
リターンコード, 443
- ADACNV ユーティリティ
メッセージ, 499
- ADACOM
メッセージ, 303
- ADADBS ユーティリティ
メッセージ, 507
リターンコード, 444
- ADADCK ユーティリティ
メッセージ, 517
リターンコード, 445
- ADADEF ユーティリティ
メッセージ, 523
リターンコード, 445
- ADADnn メッセージ, 89
- ADADSP
メッセージ, 297
- ADAE* メッセージ, 91
- ADA ECS
変換 (APSPSX*) メッセージ, 259
- ADAESI メッセージ, 91
- ADAFRM ユーティリティ
メッセージ, 529
- ADAH* メッセージ, 95
- ADAI* メッセージ, 97
- ADAICK ユーティリティ
メッセージ, 531
リターンコード, 445
- ADAINV ユーティリティ
メッセージ, 543
- リターンコード, 445
- ADAJ* メッセージ, 111
- ADAK メッセージ, 115
- ADAL* メッセージ, 129
- ADALINK
BS2000
メッセージ, 115
- ADALOD ユーティリティ
メッセージ, 547
リターンコード, 446
- ADAM* メッセージ, 133
- ADAMER ユーティリティ
メッセージ, 563
- ADANnn
メッセージ, 11
- ADAORD ユーティリティ
メッセージ, 565
リターンコード, 447
- ADAPLP ユーティリティ
メッセージ, 575
- ADAPRI ユーティリティ
メッセージ, 577
- ADAQ* メッセージ, 153
- ADAR* メッセージ, 157
- ADARAI ユーティリティ
メッセージ, 579
リターンコード, 448
- ADAREP ユーティリティ
メッセージ, 589
リターンコード, 448
- ADARES ユーティリティ
メッセージ, 593
リターンコード, 449
- ADARUN
メッセージ, 5
- ADAS* メッセージ, 165
- ADASAV ユーティリティ
メッセージ, 609
リターンコード, 450
- ADASEL ユーティリティ
メッセージ, 625
リターンコード, 451
- ADASIP
メッセージ
VSE SVC, 173
- ADASMM
メッセージ, 215
- ADASNAP データセット, 72
- ADASVC メッセージ, 165
- ADATCP

メッセージ, 77
 ADATCP メッセージ, 259
 ADAU* メッセージ, 185
 ADAULD ユーティリティ
 メッセージ, 641
 リターンコード, 451
 ADAVAL ユーティリティ
 メッセージ, 649
 リターンコード, 451
 ADAWRK ユーティリティ
 メッセージ, 651
 リターンコード, 452
 ADAX* メッセージ, 205
 ADAZAP ユーティリティ
 メッセージ, 663
 AITM* メッセージ, 253
 APSPSX* メッセージ, 259

C

CWARN* メッセージ, 261

D

DSF* メッセージ, 265
 DSP* メッセージ, 297
 DSTAT オペレータコマンド
 メッセージ, 185

L

LNKENAB モジュール
 メッセージ, 115

P

PIN ルーチンメッセージ, 349
 PINAUTOR メッセージ, 349
 PL6* メッセージ, 337
 PLI* メッセージ, 303
 PLX* メッセージ, 323
 PRILOG6
 メッセージ, 337

S

SAF
 リターンコード, 345
 SAGE* メッセージ, 339
 SAGI* メッセージ, 341
 SAGUSER コントロールステートメント
 バッチ
 メッセージの上書き, 339
 SEFM* メッセージ, 345

V

VSE
 ジョブ出口ユーティリティ
 メッセージ, 339

Z

z/VM トランザクションモニタインターフェイス
 メッセージ, 253

あ

アベンドコード
 ユーザー, 665

え

エラーメッセージ
 SAF インターフェイス, 345
 オペレータコマンド, 346

き

キャッシュサービス
 メッセージ, 261
 キャッシュスペース
 概要, 40
 統計, 39

<

クラスタデータスペース
 メッセージ, 297
 クラスタニュークリアス
 メッセージ, 205

こ

コマンドログ
 メッセージ, 129
 コンソール
 メッセージ, 11
 コード
 ニュークリアスレスポンス, 377
 ユーザーアベンド, 665
 ユーティリティリターン, 442

し

システム
 メッセージ, 87
 省略形, 4
 ジョブ出口ユーティリティ
 メッセージ, 339

た

ダンプフォーマットステータス
 メッセージ, 95

な

内部機能コード, 345

に

ニュークリアス
 開始パラメータエラーメッセージ, 353

レスポンスコード, 377

は

バッチ

初期化

メッセージ, 341, 345

ジョブ出口ユーティリティ

メッセージ, 339

パラメータエラー, 353

へ

変換メッセージ

APSPSX*

ADA ECS 用, 259

ま

マルチプロセッシング

ADACLU メッセージ, 323

ADACOM メッセージ, 303

め

メッセージ

コンソール上, 11

ゆ

ユーザー

アベンドコード, 665

ユーティリティ

エラーメッセージとエラーコード

全ユーティリティに共通, 453

エラーメッセージ/コード, 441

メッセージ

ステータス, 185

リターンコード, 442

り

リターンコード

ADAESI, 345

構造, 345

内部機能コード, 345

ユーティリティ, 442

れ

レスポンスコード

ニュークリアス, 377

